

# Oracle® Fusion Cloud EPM

## Tax Reporting の操作



F26044-24



Oracle Fusion Cloud EPM Tax Reporting の操作、

F26044-24

Copyright © 2019, 2025, Oracle and/or its affiliates.

著者: EPM Information Development Team

This software and related documentation are provided under a license agreement containing restrictions on use and disclosure and are protected by intellectual property laws. Except as expressly permitted in your license agreement or allowed by law, you may not use, copy, reproduce, translate, broadcast, modify, license, transmit, distribute, exhibit, perform, publish, or display any part, in any form, or by any means. Reverse engineering, disassembly, or decompilation of this software, unless required by law for interoperability, is prohibited.

The information contained herein is subject to change without notice and is not warranted to be error-free. If you find any errors, please report them to us in writing.

If this is software, software documentation, data (as defined in the Federal Acquisition Regulation), or related documentation that is delivered to the U.S. Government or anyone licensing it on behalf of the U.S. Government, then the following notice is applicable:

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs (including any operating system, integrated software, any programs embedded, installed, or activated on delivered hardware, and modifications of such programs) and Oracle computer documentation or other Oracle data delivered to or accessed by U.S. Government end users are "commercial computer software," "commercial computer software documentation," or "limited rights data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, reproduction, duplication, release, display, disclosure, modification, preparation of derivative works, and/or adaptation of i) Oracle programs (including any operating system, integrated software, any programs embedded, installed, or activated on delivered hardware, and modifications of such programs), ii) Oracle computer documentation and/or iii) other Oracle data, is subject to the rights and limitations specified in the license contained in the applicable contract. The terms governing the U.S. Government's use of Oracle cloud services are defined by the applicable contract for such services. No other rights are granted to the U.S. Government.

This software or hardware is developed for general use in a variety of information management applications. It is not developed or intended for use in any inherently dangerous applications, including applications that may create a risk of personal injury. If you use this software or hardware in dangerous applications, then you shall be responsible to take all appropriate fail-safe, backup, redundancy, and other measures to ensure its safe use. Oracle Corporation and its affiliates disclaim any liability for any damages caused by use of this software or hardware in dangerous applications.

Oracle®, Java, MySQL, and NetSuite are registered trademarks of Oracle and/or its affiliates. Other names may be trademarks of their respective owners.

Intel and Intel Inside are trademarks or registered trademarks of Intel Corporation. All SPARC trademarks are used under license and are trademarks or registered trademarks of SPARC International, Inc. AMD, Epyc, and the AMD logo are trademarks or registered trademarks of Advanced Micro Devices. UNIX is a registered trademark of The Open Group.

This software or hardware and documentation may provide access to or information about content, products, and services from third parties. Oracle Corporation and its affiliates are not responsible for and expressly disclaim all warranties of any kind with respect to third-party content, products, and services unless otherwise set forth in an applicable agreement between you and Oracle. Oracle Corporation and its affiliates will not be responsible for any loss, costs, or damages incurred due to your access to or use of third-party content, products, or services, except as set forth in an applicable agreement between you and Oracle.

# 目次

## ドキュメントのアクセシビリティについて

---

## ドキュメントのフィードバック

---

### 1 EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行

---

### 2 Tax Reporting へようこそ

---

税引当プロセス	2-2
最初に行うタスク	2-3
事前定義されたユーザーの役割	2-4
ホーム・ページについて	2-6
「設定およびアクション」メニュー	2-12
アカデミ	2-14
ナビゲータ	2-15
「ようこそ」パネル	2-16
ユーザー支援	2-17
Cloud EPM プロセス間のナビゲート	2-19
フォーム、ダッシュボードおよびインフォレットの検索	2-20

### 3 プリファレンスの設定

---

プリファレンスの設定	3-1
一般プリファレンスの設定	3-2
プロファイル・ピクチャの設定	3-3
メンバー名または別名の表示の設定	3-3
承認オプションの設定	3-3
表示プリファレンスの設定	3-4
通知用電子メールの設定	3-6
アド・ホック・オプションの設定	3-8
ユーザー変数の設定	3-10

レポート・プリファレンスの設定	3-11
印刷プリファレンスの設定	3-14

## 4 業務の操作

---

業務の概要の表示	4-1
すべてのタスクの表示	4-1
タスクの表示	4-2
補足データ・タスクの表示	4-4
連結プロセス	4-6
外貨換算	4-7

## 5 フォームの操作

---

フォームの概要	5-1
フォームへのデータの入力	5-5
フォーム・バージョンについて	5-6
データ入力フォームへのアクセス	5-8
データ入力フォームへのアクセス権の割当て	5-9
フォームのカスタマイズ	5-10
視点の選択	5-10
フォーマットによるデータの強調	5-12
データのフォーマット	5-12
増減ディメンション階層のカスタマイズ	5-14
Microsoft Excel へのデータのエクスポート	5-16
アーティファクトのダイレクト URL のコピー	5-17
フォーム 2.0 での操作	5-18
フォーム 2.0 でのグローバル・ツールバーの操作	5-18
フォーム 2.0 でのクイック・ツールバーの操作	5-20
フォーム 2.0 での POV の操作	5-22
フォーム 2.0 でメンバー・セレクトタを開く	5-24
変更を送信せずに計算を実行(オンザフライの計算)	5-26
フォーム 2.0 でのデータの印刷	5-29

## 6 ダッシュボードを使用したデータの操作

---

ダッシュボードの理解	6-1
ダッシュボード・バージョンについて	6-2
ダッシュボードの表示	6-4
ダッシュボード 1.0 のダッシュボードの操作	6-6

ダッシュボード 2.0 のダッシュボードの操作	6-8
ダッシュボード 2.0 のグローバル・ツールバーの操作	6-8
ダッシュボード 2.0 のコンポーネントの操作	6-9
ダッシュボード 2.0 でのフォーム 2.0 のグリッドの操作	6-11
チャートおよび凡例でのドリルスルー	6-14
ダッシュボード 2.0 での POV の操作	6-14
ダッシュボード 2.0 でメンバー・セレクタを開く	6-16
ナビゲーション・フローでのダッシュボード 2.0 のダッシュボードの操作	6-17
ダッシュボード 2.0 のコンポーネントでのマスター・フォームおよび詳細の操作	6-17
ダッシュボード 2.0 のダッシュボードでの有効な交差のサポート	6-18
クイック分析について	6-18
ダッシュボード 2.0 のチャートからアド・ホックへのドリルダウン	6-20
税金合計ダッシュボードの確認	6-22
エンティティ別税金合計連結 ETR の確認	6-23
管轄別連結 ETR の確認	6-24
エンティティ別支払税金の確認	6-24
管轄別支払税金の確認	6-25

## 7 データ入力および分析のためのアド・ホックの使用

---

アド・ホックの実行の開始	7-1
アド・ホック・グリッドの作成	7-2
アド・ホック・データの送信およびグリッド定義の保存	7-4
変更を送信せずに計算を実行(オンザフライの計算)	7-4
アド・ホック・グリッドへのアクセス	7-7
アド・ホック・グリッドの設計	7-8
アド・ホック・グリッドのメンバー・セレクタを開く	7-8
期間累計メンバーの選択	7-9
列メンバーのフィルタ	7-11
ディメンションのピボット	7-12
共有メンバーについて	7-13
共有メンバーへのズーム・イン	7-13
アド・ホック・グリッドのプロパティの設定	7-15
アド・ホック・グリッドのキーボード・ショートカットおよびクイック・データ入力コマンド	7-18
アド・ホック・グリッドへのルールの適用	7-19
コメントおよび添付の追加	7-19
値の調整	7-20
アド・ホックの「アクション」メニューの使用	7-20
ライン・アイテムの詳細の使用について	7-21
ライン・アイテムの詳細の追加	7-22

ライン・アイテムの詳細の構造の操作	7-23
ライン・アイテムの詳細の順序	7-23
ライン・アイテムの詳細の間違った入力	7-24
ライン・アイテムの詳細の正しい入力	7-24
ライン・アイテムの詳細のセルが空白の場合の合計	7-24
アド・ホック・グリッドの印刷	7-25
フリーフォーム・アド・ホックの使用	7-25

## 8 メンバー・セレクトタの使用

---

メンバーの選択について	8-1
ディメンションの選択	8-1
メンバー表示オプションの定義	8-2
メンバーの検索	8-5
表示されるメンバーのフィルタ	8-7
属性によるフィルタ	8-8
レベルによるフィルタ	8-9
世代によるフィルタ	8-10
メンバー関係によるフィルタ	8-11
メンバーの関係	8-13
メンバーの選択	8-14

## 9 IPM インサイトを使用した意志決定への情報提供

---

IPM インサイトについて	9-1
インサイトの分析	9-3
生成 AI によるインサイトのサマリー	9-7
「インサイト」ダッシュボードの検索と表示のフィルタ	9-9
タグを使用したインサイトでのコラボレーション	9-10

## 10 ビジネス・ルールの操作

---

使用可能なビジネス・ルールのリスト	10-2
-------------------	------

## 11 インフォレットでの主な情報の表示

---

インフォレット・ビューについて	11-2
インフォレット・ドットについて	11-3
デフォルト・インフォレットの設定	11-3

## 12 国税プロセスの操作

---

国の当期引当金	12-1
国の税引当の概要ダッシュボードの確認	12-1
国の当期引当金フォームの操作	12-2
税引前純利益	12-4
控除可能な地域税およびその他税	12-4
国の課税損失および税額控除の詳細	12-4
追加の当期引当金の合計	12-11
当期引当金(国)の税金自動化の使用	12-11
永久差異と一時差異の操作	12-12
永久差異	12-13
一時差異の操作	12-14
国の一時差異の入力	12-15
例: 一時差異の期首残高の入力	12-18
取得の操作: 国	12-19
「取得」カードへのアクセス	12-20
取得(国)フォームの使用	12-20
国の繰延税金の操作	12-25
国の繰延税金の行見出し	12-31
繰延税金資産および負債の分類	12-33
ユース・ケース例: 繰延税金資産から繰延税金負債への再分類	12-35
IFRS の未認識繰延税金(DTNR)の操作	12-36
IFRS の繰延税金転記 DTNR の操作	12-37
Tax Reporting での貸借対照表および損益計算書(P&L)方式の操作	12-40
レポートの基礎および方式の要約	12-40
固定資産に対する貸借対照表方式の操作	12-40
損益計算書方式の操作	12-47
繰延税金証明の操作	12-49
構成可能な遅延増減メンバーの操作	12-50
ユーザー構成の遅延増減の税金自動化のサポート	12-60
ユース・ケース例	12-60
税率の操作	12-64
税率の入力	12-65
国および地域の親の税金の計算	12-67
シナリオ例: 親の税金の計算	12-71
国の FX レートの操作	12-72
FX レート単一期間	12-72
FX レート全年	12-73
FX レートの確認	12-74

NIBT FX オーバーライド・レートの入力	12-76
加重平均の有効化	12-79
加重平均集計金額オーバーライドのサポート	12-80
NIBT 勘定科目に対する加重平均 FX レート・オーバーライドの計算	12-82
その他税金および帳簿勘定科目に対する加重平均 FX レート・オーバーライドの計算	12-86
取得時換算勘定の外国為替レートおよび金額のオーバーライドの入力	12-88
税金勘定科目の金額オーバーライドおよびレート・オーバーライドの操作	12-92
金額オーバーライドおよびレート・オーバーライドの有効化	12-92
オーバーライド・フォームへのアクセス	12-94
帳簿または税金勘定科目への FX レート勘定科目の適用	12-95
税金勘定科目への金額またはレートのオーバーライド	12-98
金額とレートの FX オーバーライド移行の後の、ユーザーがカスタマイズしたアーティファクトの更新	12-106
RTA (申告額の未払処理調整)の操作	12-112
RTA 自動化ルールの定義	12-114
RTA 金額への前年度レートの適用	12-116
RTA 実績地域控除の使用	12-117
RTA 実績地域控除の使用例の設定	12-117
RTA 実績地域控除の使用例	12-117
RTA 繰延税金の計算	12-121
カスタム属性の追加	12-121
RTA 繰延計算のユース・ケース例の設定	12-122
RTA 繰延計算のユース・ケース例	12-122
税金勘定ロールフォワード(TAR)の操作	12-124
税金勘定ロールフォワード(TAR)の操作	12-124
現在の未払税フォームの操作	12-126
税金勘定科目ロールフォワード(TAR)のカスタマイズ	12-132
法定および連結有効税率の操作	12-132
連結有効税率の入力	12-134
IFRS レポートを使用した法定および連結有効税率の操作	12-135
連結 ETR IFRS の概要ダッシュボード	12-135
IFRS レポートを使用した連結有効税率の操作	12-136
連結税率 IFRS の入力	12-138
エンティティ別連結 ETR IFRS 税率の上書き	12-138
データ・ステータスおよび検証	12-140
計算ステータスの確認	12-140
ハイブリッドおよび非ハイブリッド・アプリケーションのデータ・ステータス間の差異	12-141
国の ETR の検証	12-142
地域の ETR 計算の検証	12-144
税金合計(連結)の検証	12-145

## 13 地域税プロセスの操作

当期引当金(地域)の税金自動化の使用	13-1
地域の当期引当金の操作	13-2
地域の概要ダッシュボードの確認	13-2
地域の当期引当金フォームの操作	13-3
税引前純利益	13-5
永久差異と一時差異	13-5
控除可能な地域税、その他税および逆仕訳	13-5
地域の課税損失および税額控除の詳細	13-6
地域の一時差異の入力	13-14
地域の繰延税金の操作	13-18
株主資本に対する合計繰延税金費用(地域)の再分類	13-24
地域の税率の操作	13-30
地域の FX レートの操作	13-32
地域の単一期間 FX レートの入力	13-32
地域の全年 FX レートの入力	13-33
地域の FX レートの確認	13-34
地域の RTA (申告額の未払処理調整)の操作	13-36
取得の操作: 地域	13-37
取得(地域)カードへのアクセス	13-38
取得(地域)フォームの使用	13-38
地域の税金勘定ロールフォワード(TAR)の操作	13-42
現在の未払税(地域)フォームの操作	13-44
現在の未払税(地域)フォームの入力	13-44
現在の未払税(地域)自動および詳細フォームの管理	13-45
地域の税金勘定科目ロールフォワード(TAR)のカスタマイズ	13-49
地域の法定有効税率の操作	13-50

## 14 期限切れの年別課税損失/税額控除の管理

課税損失/税額控除の期限切れフォームへのアクセス	14-1
期限切れの課税損失/税額控除フォームの操作	14-2
ユース・ケース例	14-4
ユース・ケース 1: 期限切れの年が期限切れなし	14-4
ユース・ケース 2: 期限切れの年で年 < (アプリケーションの開始年 + 20 年)	14-5
ユース・ケース 3: 期限切れの年で年 > (アプリケーションの開始年 + 20 年)	14-6
ユース・ケース 4: 親勘定科目の期限切れの年	14-6

## 15 ファイリング・グループの操作

---

単一、結合、連結、および個別の米国連邦と州規定構成の操作	15-1
------------------------------	------

## 16 中間税引当の操作

---

中間税引当の概要	16-1
年間推定有効税率(AEETR)の計算	16-3
AEETR の管理	16-3
中間シナリオの識別	16-3
グローバル AEETR エンティティの識別	16-4
ユース・ケース例	16-5
中間税引当の生成	16-6
中間引当からの損失エンティティの除外	16-7
TAR 自動化仕訳入力の設定	16-8
ユース・ケースの構成	16-8
予測された AEETR の中間引当での適用	16-10

## 17 税金分析の構成

---

恒常通貨の分析	17-1
---------	------

## 18 国別レポート(CbCR)の操作

---

CbCR 親エンティティの設定	18-2
CbC レポートのデータ入力表	18-3
表 1 のデータ入力の準備	18-4
CbC レポートの自動入力での作業	18-5
CbCR FX オーバーライド・レートの入力	18-5
CbCR 表 1 のカスタマイズ	18-8
表 2 のデータ入力の準備	18-11
詳細の入力	18-12
構成エンティティ情報の準備	18-13
CbC レポートのサマリー	18-14
表 1 のサマリーの生成	18-14
表 1 管轄別詳細のサマリーの準備	18-15
表 2 のサマリーの準備	18-16
CbC レポートの提出	18-17
メッセージ仕様の準備	18-18

レポート・エンティティ情報の準備	18-20
管轄ドキュメント仕様の準備	18-21
提出のための表 3 の準備	18-22
CbCR リスク評価ダッシュボード	18-24
リスク評価ダッシュボードの使用	18-24
リスク評価比率の確認	18-26
使用可能なリスク評価比率	18-28
CbCR データ・ステータスの確認	18-30
CbC レポートの検証と送信	18-31

## 19 エンティティ分類の操作

---

エンティティ分類の概要	19-1
「Pillar 2 エンティティ分類」フォームの操作	19-2
「Pillar 2 エンティティ分類」フォームの検証	19-3
エンティティ・ルールの操作	19-4

## 20 データの確認および承認

---

承認について	20-1
承認ユニットの表示	20-2
テンプレート別承認ユニット・アクション	20-2
承認ユーザーおよび使用可能なアクション	20-3
承認ユニット・ステータス	20-4
承認ユニットの検証	20-5
承認ユニットのステータスの変更	20-6
承認ユニットの所有権	20-7
承認ユニットの注釈の追加または表示	20-9
承認通知用電子メールの設定	20-10
代替承認者の選択	20-10

## 21 ライブラリの操作

---

ライブラリの使用	21-1
フォームへのアクセス	21-1
ダッシュボードへのアクセス	21-2
フォームとダッシュボードへの権限の割当て	21-3
レポートの操作	21-4
Reports ソリューションの操作	21-4
フォルダおよびレポートの管理	21-5

Cloud EPM でのフォルダまたは Reports の検索	21-7
Financial Reporting からのレポートの移行	21-7
財務レポートの表示	21-8
レポートの POV メンバー・セレクトアの表示	21-9
タスク・マネージャ・レポートの生成	21-10
補足データ・レポートの作成	21-11
会社間レポートの管理	21-12
会社間レポートの設定	21-12
会社間レポートの作成	21-15

## 22 タスク・マネージャの操作

---

タスク・マネージャの概要	22-1
タスクの操作	22-1
タスクへのアクセス	22-2
ホーム・ページからのタスクの表示	22-2
タスク・マネージャおよび補足データ・マネージャのワークリストの表示	22-2
「スケジュール・タスク」ページからのタスクの表示	22-4
タスク情報の更新	22-5
タスク・プロパティの表示	22-5
指示の表示	22-6
タスク・アラートの表示	22-7
タスクのチーム・ワークフローの表示	22-7
タスクの属性の表示	22-8
タスクの質問の表示	22-9
タスクに対するコメントの追加	22-10
関連タスクの表示	22-12
パラメータの表示	22-13
タスク履歴の表示	22-13
タスクの管理	22-14
タスクの送信	22-14
タスクの承認または却下	22-15
タスクの請求またはリリース	22-15
タスクの再割当て	22-16
タスクを再度開く	22-17
タスクの取消し	22-19
タスクの「クローズ」ステータスへの強制設定	22-19
Smart View でのタスクの操作	22-19
Smart View 拡張機能への接続の作成	22-19

## 23 補足データの操作

---

補足データ・プロセスの概要	23-1
補足データ・フォームの操作	23-1
補足データ・フォームへのアクセス	23-2
ホーム・ページからの補足データ・フォームの表示	23-2
タスク・マネージャおよび補足データ・マネージャのワークリストの表示	23-2
補足データ・タスクからのフォームの表示	23-4
補足データ・フォームの更新	23-5
フォーム・プロパティの表示	23-5
指示の表示	23-6
アラートの表示	23-6
ワークフローの表示	23-7
フォームの質問の表示	23-7
コメントの表示およびフォームへのコメントの追加	23-8
フォーム履歴の表示	23-10
補足データ・フォームの管理	23-10
補足データ・アドホック・フォームの作成	23-10
補足データ・フォームの送信、承認、却下、または転記	23-11
補足データ・フォームの表示	23-12
補足データ・ビューの保存	23-13
補足データ・フォームへのデータの入力	23-13
補足データ・フォーム内のレコードの検索	23-15
詳細セクション内のすべてのレコードの削除	23-15
Smart View での補足データ・フォームの操作	23-15
Smart View 拡張機能への接続の作成	23-15
Smart View での補足データ・フォームの更新	23-16
「補足データ分析」ダッシュボードでのデータの表示	23-18
収集へのデータのバルク・ロード	23-19

## 24 アラートの操作

---

アラートの作成	24-1
アラートの更新	24-3
スケジュールでのアラートの作成	24-5
補足データ・フォームでのアラートの作成	24-5
アラート・アクション	24-6
アラート・リストからのアラートの表示	24-7

## 25 ビューおよびフィルタの操作

---

フィルタの操作	25-1
フィルタについて	25-1
既存の保存済フィルタの表示	25-2
新規フィルタの作成	25-2
フィルタ・バーを使用した表示の調整	25-3
フィルタ条件のクリア	25-4
フィルタの削除	25-4
フィルタの編集	25-4
フィルタの複製	25-5
フィルタの保存	25-5
保存済フィルタの適用	25-6
フィルタの削除	25-6
フィルタの列の表示	25-6
フィルタの列の順序変更	25-6
ビューの操作	25-7
ビューについて	25-7
ビューでのデータのフィルタリングについて	25-8
リスト・ビューの操作	25-8
リスト・ビューについて	25-9
リスト・ビューのカスタマイズ	25-9
タスク・マネージャの例: スケジュール・タスクのリスト・ビューのカスタマイズ	25-9
補足データ・マネージャの例: 補足データ・タスクのリスト・ビューのカスタマイズ	25-10
ピボット・ビューの操作	25-10
ピボット・ビューについて	25-11
ピボット・ビューのカスタマイズ	25-11
例: タスク・ステータスに基づいた組織単位の表示	25-13
例: ステータスに基づいて補足データ・フォームを表示するためのテンプレートのグループ化	25-14
チャート・ビューの操作	25-15
チャート・ビューの概要	25-16
チャート・ビューの作成	25-18
例: タスク・ステータスを月別に表示するチャートの作成	25-21
例: プランと実際の終了日に対比して表示するチャートの作成	25-22
例: タスク実行を組織単位別に表示するチャートの作成	25-24
例: フォームとそのステータスを表示するチャートの作成	25-26

例: フォーム・テンプレートの期間とステータス(および説明)を表示するチャートの作成	25-28
ガント・チャート・ビューの操作	25-29
カレンダー・ビューの操作	25-30
ビューの保存	25-31
保存済ビューの編集	25-31
デフォルト・ビューの設定	25-31

## 26 ダッシュボードの操作

---

ダッシュボードの概要	26-1
「タスクの概要」ダッシュボード	26-1
「コンプライアンス」ダッシュボード	26-3
財務ダッシュボード	26-5
操作ダッシュボードの操作	26-6
操作ダッシュボードの概要	26-6
操作ダッシュボードの表示および開く手順	26-7

## A IPM インサイトのメトリック

---

IQR (四分位範囲)	A-1
MAD (平均絶対偏差)	A-2
MAPE (平均絶対パーセンテージ誤差)	A-3
ME (平均誤差)	A-3
変更された Z スコア	A-4
MPE (平均パーセンテージ誤差)	A-4
RMSE (2 乗平均平方根誤差)	A-5
RPD (相対パーセンテージ差異)	A-6
TOTD (合計偏差)	A-7
TOTPD (合計パーセンテージ差異)	A-7
Z スコア	A-8
影響の重大さのしきい値	A-9

# ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

## Oracle サポートへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> か、聴覚に障害のあるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

# ドキュメントのフィードバック

このドキュメントに対するフィードバックを送るには、Oracle Help Center トピックのページの下部にあるフィードバック・ボタンをクリックします。電子メールで [epmdoc\\_ww@oracle.com](mailto:epmdoc_ww@oracle.com) 宛てに送信していただくことも可能です。

# 1

## EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行

EPM のベスト・プラクティスは、CoE (センター・オブ・エクセレンス)を作成することです。

**EPM CoE** は、導入およびベスト・プラクティスを確実にするための統合された取り組みです。パフォーマンス管理およびテクノロジー対応ソリューションの使用に関連するビジネス・プロセスの変革を促進します。

クラウドの導入により、組織がビジネス・アジリティを改善し、革新的なソリューションを促進することが可能になります。**EPM CoE** はクラウド・イニシアチブを監督し、投資を保護および維持し、効果的な使用を促進するのに役立ちます。

EPM CoE チーム:

- クラウドの導入を確実にし、組織が **Oracle Fusion Cloud EPM** の投資を最大限に活用することを支援します
- ベスト・プラクティスの運営委員会として機能します
- EPM 関連の変更管理イニシアチブをリードし、変革を促進します

すでに EPM を実装済の顧客を含めて、すべての顧客が EPM CoE からメリットを得られます。

### 使用を開始する方法

クリックして、EPM CoE のベスト・プラクティス、ガイダンスおよび戦略を取得します: [EPM センター・オブ・エクセレンスの概要](#)。

### さらに学習

- クラウド・カスタマ・コネクト Web セミナーを見る: [Cloud EPM のセンター・オブ・エクセレンス\(CoE\)の作成および実行](#)
- ビデオを見る: [概要: EPM センター・オブ・エクセレンスおよびセンター・オブ・エクセレンスの作成](#)。
- [EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行の EPM CoE のビジネス上のメリットおよび価値提案の確認](#)。



## 2

# Tax Reporting へようこそ

Tax Reporting は、包括的な税務ソリューションで、財務データを使用した連邦および地方レベルでの当期税金と繰延税金の計算、レポートおよび承認を行い、US GAAP や IFRS レポートなどの会計基準に準拠することができます。

Tax Reporting には、税引当を特定、計算、管理および承認し、CbCR (国別)レポートを準備するための即時利用可能なフォーム、ロジック、引当パッケージ、ワークフローおよび分析のダッシュボードが用意されています。

すべての納税準備アクティビティ (永久調整、一時差異および有効税率の確認など)に対して、論理的にグループ化された順次タスクを定義できます。

- **国の税引当**パッケージを使用して、次の操作を実行します。
  - ダッシュボードを使用してエンティティの今年度および前年度の税金費用を確認し、法定および有効税率を確認します。
  - エンティティ固有の引当パッケージを使用して、現在および将来の税金費用と負債を特定します。
- 国または地域の引当パッケージの**法定有効税率**分析を使用して、税引前利益に対する支払済税金の有効レートを特定します。
- **地域の引当金**は、米国の特定の州(地域)における既存および繰延の課税要件を特定して分析するために使用されます。
- **繰延税金**を使用して将来の費用および負債を表示します。期末残高でドリル・ダウンし、今年度の増減、申告額の未払処理調整などの追加詳細にアクセスできます。
- **タスク**を参照して、優先度と負荷を確認します。
- ビジネス法的エンティティ階層を反映した**承認ユニット**によって、税金監査役および企業の財務部門のメンバーは、法的エンティティおよび連結レベルで送信された税引当パッケージを確認し、承認できます。多国籍ビジネスでは、一部の管轄において合算レベルでの納税申告となることがあり、集約レベルでの確認と承認が要求されます。
- **CbCR レポート**を使用して、株主資本利益率や従業員別収益などの要因を含め、各管轄にわたる税金費用を分析します。

Tax Reporting のツアーは、次のビデオを参照してください:  : [概要: Tax Reporting Cloud のツアー](#)。

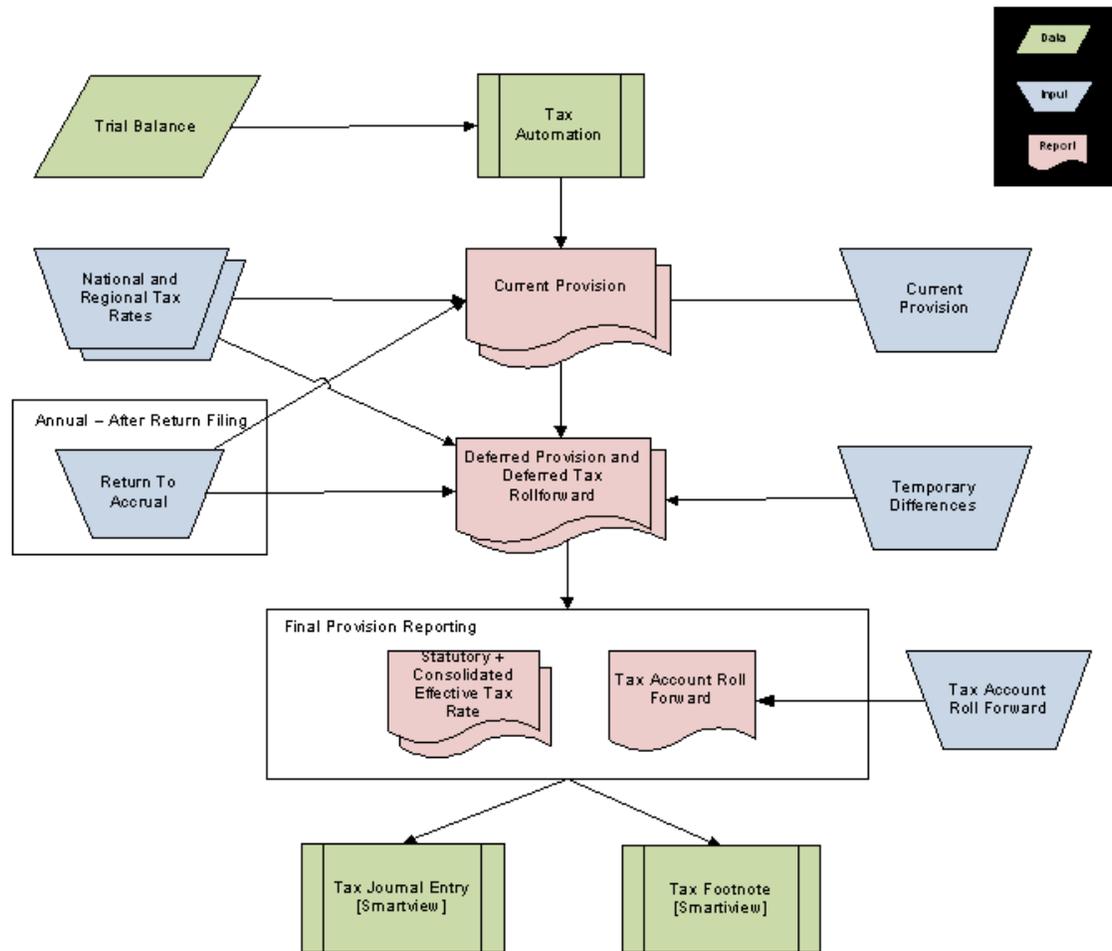
### ノート:

アプリケーションは、その他のクラウド・ビジネス・プロセスからの接続や機能を含め、各社の管理者がカスタマイズできますので、実際の機能はこのガイドに記載されているものと異なる可能性があります。[Cloud EPM プロセス間のナビゲート](#)を参照してください。

## 税引当プロセス

Tax Reporting プロセスでは、当会計年度の初めから今日までの数字に基づいて完全な税引当の準備を行います。グローバル引当金プロセスは、適切なレポート標準(US GAAP や IFRS など)および現地通貨を使用して法的エンティティ・レベルで開始します。

次のフローチャートは、Tax Reporting の税金プロセスの詳細を示しています。



- Tax Reporting に**法的エンティティ別の試算表データをインポート**します
- **連結を実行**して引当金明細表をロードし、試算表のデータを移入します(税引前純利益や、選択した永久差異と一時差異など)。このステップによって、当期引当金の開始点が法的エンティティの財務諸表の税引前利益に等しいことを確認します。
- 事前作成されたデータ・フォームを使用して、または Oracle Smart View for Office からの送信を通じて、**残りのデータを入力**します。このデータには次のようなものがあります。
  - 国および地域の税率
  - 税引前利益調整または組替えの非自動化金額
  - 永久差異および一時差異の非自動化金額
  - その他の引当項目

- 申告額の未払処理調整金額
- 税金勘定科目ロールフォワードの手動アクティビティ (たとえば、支払、払戻、組替えなど)
- 試算表内にある可能性のある差異(たとえば、食事接待費に含まれる出張費用)を除去するための自動化金額に対する調整
- 次の結果が**システムによって計算**されます。
  - 当期引当
  - 繰延引当
  - 繰延税金ロールフォワード
  - レポート通貨と現地通貨での法定および連結有効税率
  - 税金勘定科目ロールフォワード
- 税引当(国)クラスターで次のフォームを**確認**します。
  - 当期引当
  - 一時差異
  - 繰延税金
  - 連結 ETR
  - 国の ETR
  - TAR
- Smart View を使用して**次の入力および注記を作成**します
  - 税金仕訳入力(税金勘定ロールフォワードに基づく)
  - 税金の注記(当期引当金および繰延税金ロールフォワードに基づく)

## 最初に行うタスク

すべてのユーザーは、**Tax Reporting** を使用してタスクを実行する前に、このトピックを熟読する必要があります。

- *ユーザー用*スタート・ガイドの内容を理解します。
- *管理者用*スタート・ガイドのブラウザ、**Smart View** および **Excel** の使用状況の情報に記載されているブラウザ要件とその他の要件を満たします。
- 「アカデミ」にアクセスして次のようなビデオを視聴し、**Tax Reporting** の知識を得ます。
  - [概要: Tax Reporting Cloud スタート・ガイド](#)
  - [概要: Tax Reporting Cloud のツアー](#)
  - [Oracle Tax Reporting Cloud での税レポート・アプリケーションの作成](#)
  - [概要: 税レポート・アプリケーションの構成](#)
  - [概要: Tax Reporting Cloud でのセキュリティの理解](#)
  - [概要: Tax Reporting Cloud でのメタデータの処理](#)
  - [概要: Tax Reporting Cloud でのデータのロード](#)
  - [Tax Reporting Cloud でのエンティティおよび管轄の構成](#)

- Tax Reporting Cloud での永久差異の構成
- Tax Reporting Cloud での一時差異の構成
- 概要: Tax Reporting Cloud の補足データ
- 概要: Oracle Cloud EPM での国別レポート.

## 事前定義されたユーザーの役割

役割によってユーザーは、Tax Reporting 内での実行を許可されているビジネス・アクティビティと、そのユーザーがアクセスできるデータにリンクされます。

Tax Reporting インスタンスへのアクセス権は、ユーザーを役割に割り当てることによって付与されます。たとえば、アプリケーションに属するレポートの表示をユーザーに許可する場合は、そのインスタンスの参照者の役割に割り当てる必要があります。

アイデンティティ・ドメイン管理者の役割を除き、Tax Reporting の役割は階層的です。アイデンティティ・ドメイン管理者は、ユーザーを作成し、ビジネス機能および関連データへのアクセス権を付与する事前定義済の役割にユーザーを割り当てます。下位レベルの役割を介して付与されたアクセス権は、上位レベルの役割によって継承されます。たとえば、サービス管理者は、パワー・ユーザーと参照者の役割を介して付与されたアクセス権も継承します。

### ノート:

アプリケーションに対する別のアクセス権または追加のアクセス権が必要な場合、サービス管理者に連絡してください。

あらかじめ定義された次の役割を使用できます。

表 2-1 Tax Reporting

役割	説明
アイデンティティ・ドメイン管理者	<p>マイ・サービスの「セキュリティ」ページを使用して、ユーザーの作成およびその役割への割当てを含む、すべてのアイデンティティ・ドメイン管理タスクを実行します。</p> <p>アイデンティティ・ドメイン管理者は機能役割ではなく、機能役割を介して付与されたアクセス権を継承しません。サービス機能にアクセスするには、アイデンティティ・ドメイン管理者は Tax Reporting の 4 つの機能役割のいずれかを付与されている必要があります。</p> <p>この役割の詳細は、<i>管理者用スタート・ガイド</i>の「事前定義済役割の理解」を参照してください。</p>
サービス管理者	<p>すべてのエンティティまたはエンティティの特定のグループを対象に、メタデータやデータなど、アプリケーション内のすべての項目の読取り、書込みおよび更新を行います。サービス管理者には、承認カードへのアクセス権が自動的に割り当てられています。税金自動化も行います。</p>

表 2-1 (続き) Tax Reporting

役割	説明
パワー・ユーザー	<p>データを表示して対話します。この役割では、いくつかの <b>Tax Reporting</b> 機能領域への上位アクセスが付与されます。パワー・ユーザーには、承認カードへのアクセス権が自動的に割り当てられています。税金自動化も行います。</p>
ユーザー	<p>アクセス権が割り当てられた税金関連フォームの読取り、書込みおよび更新のみを行います。次のタスクを含みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>承認用のデータを入力および送信します。ユーザーには、承認カードへのアクセス権が自動的に割り当てられています。</li> <li>アド・ホック機能を使用してフォームを分析します。</li> <li>アクセス権を持っているエンティティのデータを必要に応じて連結します。</li> </ul> <p>税金自動化も行います。</p>

 ノート:

パワー・ユーザー役割とユーザー役割を持つユーザーは、税金自動化で**グローバル・ルール**と**法定住所ルール**を保存できませんが、**エンティティ・ルール**は保存できます。ただし、サービス管理者はルール・カードからユーザーまたはグループに**税金自動化グローバル保存ルール**の権限を与えることができます。これにより、ユーザーまたはグループは**グローバル・ルール**と**法定住所ルール**を保存できるようになります。

表 2-1 (続き) Tax Reporting

役割	説明
参照者	指定されたフォームに読取り専用アクセスし、フォームや任意のデータ・アクセス・ツールを使用してデータを表示および分析します。データ・アクセス・ツールには、レポートおよびアド・ホック・グリッドなどがあります。

 ノート:

参照者の役割を持つユーザーに、書込みアクセス権が付与されることはありません。

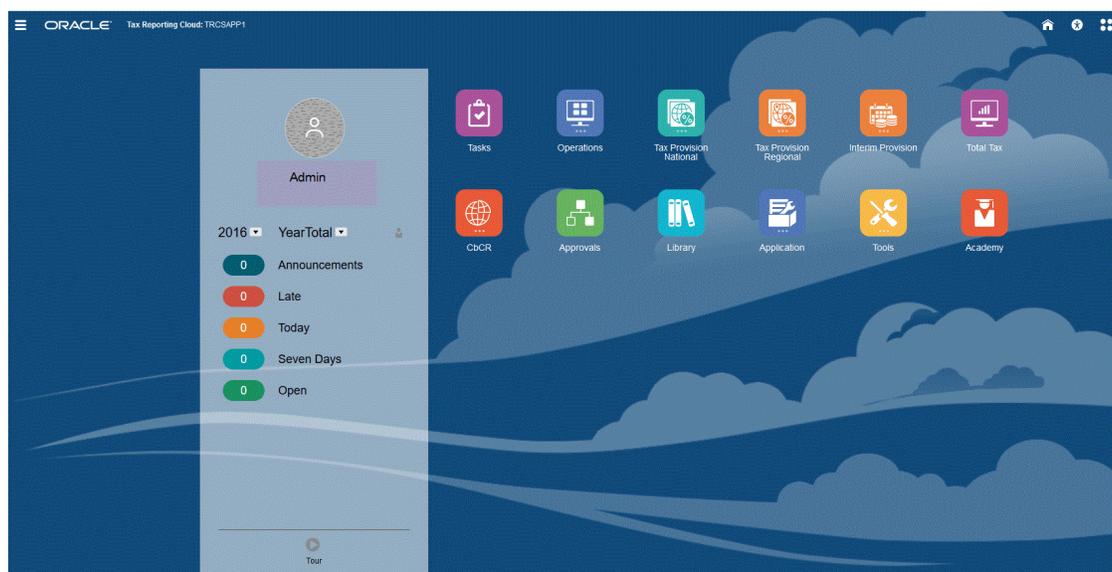
## ホーム・ページについて

ビジネス・プロセスを作成した後は、ホーム・ページがビジネス・プロセス・タスクにアクセスするための起動ポイントとなります。

インタフェースにより、直感的なユーザー操作と、よく使用される機能へのクイック・アクセスの概要が提供されます。たとえば、ユーザーは、タスクへのアクセス、データの操作、予算の承認、レポートの表示および設定の制御を行うことができます。サービス管理者は、ビジネス・プロセスの管理とカスタマイズ、フォームやダッシュボード、インフォレットの作成、データおよびメタデータのインポートとエクスポート、ジョブのスケジュール、有効な交差の定義、通知の作成、環境間接続の作成などを行うことができます。

Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management 環境の全般的なルック・アンド・フィールは、**外観**ページで変更できます。

### デフォルトのレッドウッド・テーマを表示するホーム・ページの例



関連項目: [管理者用スタート・ガイドのレッドウッド・エクスペリエンスについて](#)

## グローバル・ヘッダー

グローバル・ヘッダーは、ユーザー・インタフェース最上部に広がる領域です。ナビゲーション・アイコンに加えて、アクセシビリティ設定および「**設定およびアクション**」メニューへのアクセスが含まれています。グローバル・ヘッダーからナビゲーション・フローを切り替えることもできます。

グローバル・ヘッダーの左から右までの部分には次のものがあります:

グローバル・ヘッダーの部分	説明
	「ナビゲータ」アイコンで、「 <b>ナビゲータ</b> 」メニューを開きます。このメニューは、ビジネス・プロセスのサイトマップとして機能し、アクセスできるすべてのビジネス・プロセス・ページへのリンクが表示されます。
	ビジネス・プロセスの他の場所で作業しているときに、Oracle ロゴをクリックしてホーム・ページに戻ります。 <b>外観</b> ページで「 <b>ロゴ・イメージ</b> 」を選択して、Oracle ロゴのかわりにカスタム・ロゴを表示できます。
ビジネス・プロセス名	現在のビジネス・プロセスの名前。 <b>外観</b> ページで「 <b>ビジネス・プロセス名の表示</b> 」オプションに対して「 <b>いいえ</b> 」を選択すると、ビジネス・プロセス名を非表示にできます。
	ホーム・アイコンで、ホーム・ページを更新したり、ビジネス・プロセスの他の場所で作業しているときにホーム・ページに戻ります。
	「アクセシビリティ設定」アイコンをクリックして、アクセシビリティ機能を有効にします。
	複数のグループに属している場合、またはナビゲーション・フローが役割に割り当てられている場合は、ナビゲーション・フロー・アイコンをクリックして実行時にナビゲーション・フローを切り替えます。
Administrator ▾	ユーザー名をクリックして「 <b>設定およびアクション</b> 」メニューにアクセスします。

### ノート:

「**ナビゲータ**」メニューの一部のリンクは、デスクトップからビジネス・プロセスにアクセスしている場合にのみ使用可能です。

## 作業領域

ホーム・ページの作業領域には、アクセスできるビジネス・プロセスの各機能領域(例: **「財務」**、**「ダッシュボード」**、**「データ」**、**「承認」**)にリンクするアイコンが表示されます。アイコン・ラベルの上にある3つのドットは、アイコンによってクラスタと呼ばれるサブ・アイコンのグループが開くことを示します。

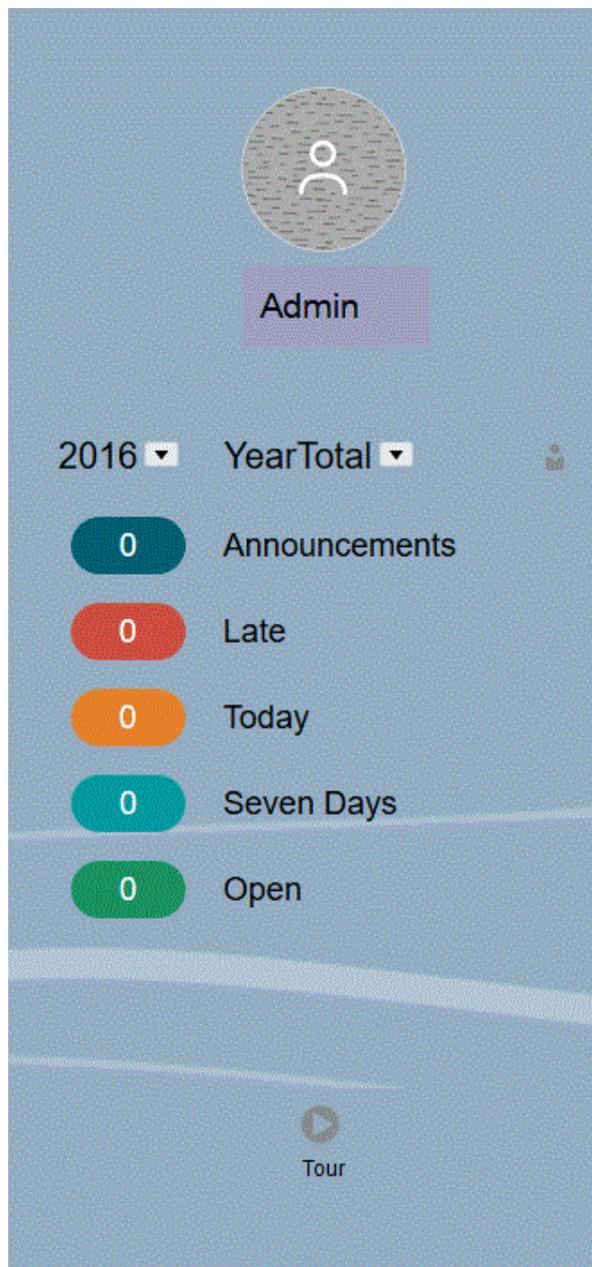
**「アカデミ」** アイコンは、ビジネス・プロセスの使用に関する様々なリソースにリンクしていません。

## インフォレットのナビゲーション

ビジネス・プロセスでインフォレットを使用して概要レベルの必須情報を示す場合は、グローバル・ヘッダーの下に表示されるドットをクリックして調べることができます。ホーム・ページの側面にも矢印があり、ホーム・ページとインフォレット・ダッシュボード・ページとの間を簡単に移動できます。

## 「お知らせ」パネル

「お知らせ」パネルには、ユーザー名とプロフィール・ピクチャ(設定されている場合)、サービス管理者によって入力されたシステムに関するお知らせが表示され、自分のアクティビティを追跡できます。



- ホーム・ページの「お知らせ」パネル上部に表示されるプロフィール・ピクチャを設定できます。プロフィール・ピクチャを設定するには、「ツール」、「ユーザー・プリファレンス」の順にクリックします。詳細は、[プロフィール・ピクチャの設定](#)を参照してください。
- **アクティビティ** - システムのお知らせが要約され(発効日でソートした最新のお知らせが一番上に表示されます)、オープン・タスクがリストされます。「**外観**」をクリックすると、お知らせの全文が表示されます。任意のタスク・メトリックをクリックすると、それらのタスクを含むワークリストが表示されます。
-  - 「**ツアー**」アイコンをクリックして、ビジネス・プロセスの主要機能に関するビデオを起動します。

表 2-2 ホームのカード

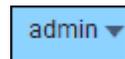
カード名	説明
タスク	<p>ホーム・ページの「タスク」から、次のタスクとその詳細を表示できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「<b>ワークリスト</b>」には、指定した POV のタスクのうち、自分に表示権限があるすべてのタスクが表示されます。</li> <li>「<b>タスク</b>」には、タスク・マネージャのタスクが表示されます</li> <li>「<b>補足データ・タスク</b>」には、補足データ・マネージャ用のタスクが表示されます。</li> <li>「<b>補足データ分析</b>」には、補足データ・マネージャ用のデータ・セットのうち、選択したフィルタに当てはまるデータ・セットが表示されます</li> </ul> <p>タスクの操作を参照してください</p>
業務	<p>業務の概要ダッシュボードでは、すべてのタスクのステータスとデプロイされた補足データ・フォームに関するメトリックが提供され、予定どおり完了したタスクと遅延しているタスクが区別され、それらのタスクの数が表示されます。</p>
税引当(国)	<p>国の管轄では、連邦または国レベルで法人税の引当が分類されます。</p> <p><a href="#">国税プロセスの操作</a>を参照してください。</p>
税引当(地域)	<p>地域の管轄は、州、県、地域やその他の区域を表せます。控除のため、地域税額が国税の計算に自動的に引き継がれるよう設定できます。</p> <p><a href="#">地域税プロセスの操作</a>を参照してください。</p>
税引当(中間)	<p>税率は、四半期、年などのサマリー期間について年初に生成されます。管理者またはパワー・ユーザーは、月次や非年末などの中間税期間を作成し、年間推定有効税率(AEETR)に基づいて中間期間の当期税金および繰延税金を見積もることもできます。</p> <p><a href="#">中間税引当の概要</a>を参照してください。</p>
税金合計	<p>税金合計ダッシュボードでは、エンティティ別と管轄別の連結有効税率および支払税金に関する分析が提供されます。各エンティティまたは管轄の詳細にドリルダウンすることもできます。</p> <p><a href="#">税金合計ダッシュボードの確認</a>を参照してください。</p>
CbCR	<p>国別レポートにより、大規模多国籍企業は、管轄別財務諸表の年次報告書の詳細なキー要素を提供できます。このレポートによって、各地の税務当局は、収益、利益、支払済と未払の税金、雇用、資本、利益剰余金、有形資産およびアクティビティを確認できます。</p> <p><a href="#">国別レポート(CbCR)の操作</a>を参照してください。</p>

表 2-2 (続き) ホームのカード

カード名	説明
承認	<p>管理者は、承認プロセスを設定して、データの所有権を移動したり、確認制御を実現したり、データ・プライバシーを保証したりできます。サービス管理者、パワー・ユーザーおよびユーザーには、承認カードへのアクセス権が自動的に割り当てられています。</p> <p><a href="#">データの確認および承認</a>を参照してください。</p>
ライブラリ	<p>ライブラリは、<b>Tax Reporting</b> 内の様々なフォームおよびレポートに直接アクセスできる集中管理用の場所です。ライブラリから、フォームとダッシュボードへの権限の割当て、レポートの編集と生成など、複数のタスクを実行できます。</p> <p><a href="#">ライブラリの操作</a>を参照してください。</p>
アプリケーション	<p>「アプリケーション」では、連結、ルール、構成、設定の設定、タスク・マネージャと補足データの操作、有効な交差の設定、ジョブの実行、サービスのモニター、レポートの実行を行うことができます。</p> <p><b>Tax Reporting</b> の管理ガイドの次のセクションを参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アプリケーションおよびシステムの設定の管理</li> <li>アプリケーションの管理</li> </ul>
ツール	<p>「ツール」は <b>Tax Reporting</b> をサポートします。外観、変数、お知らせ、アーティファクト・ラベル、アクセス制御、日次メンテナンス、ナビゲーション・フロー、ユーザー・プリファレンス、接続、監査および移行を設定できます。<b>Tax Reporting</b> の管理ガイドを参照してください。</p>
アカデミ	<p>「アカデミ」はトレーニングの概要ビデオおよびチュートリアルにリンクしています。アカデミにアクセスするには、ホーム・ページで「アカデミ」アイコンを選択します。すべてのユーザーが使用できます。</p>
ビデオ	
目的	参照するビデオ
デフォルトのレッドウッド・テーマを調べます。	 <p>概要: <a href="#">Oracle Cloud EPM - 新しいレッドウッド・テーマのお知らせ</a></p>
インタフェースをカスタマイズしてワークフローを合理化する方法を学習します。	 <p>概要: <a href="#">Enterprise Performance Management Cloud のワークフローのカスタマイズ</a></p>

## 「設定およびアクション」メニュー

「設定およびアクション」メニューから作業を行えます。ユーザー名の横にあるキャレットを選択して、メニューを表示します。オプションは、割り当てられた役割によって異なる場合があります。



### ナビゲーション・フローのリロード

ナビゲーション・フローによって、ホーム・ページでユーザーに表示するタスクを制御します。使用可能なタスクは、個別のカード(特定のタスクを表す)、またはアプリケーションや税引当(国)などのクラスタ(開くと、グループ内の追加タスクが表示される)で示されます。システム管理者は、デフォルト設定を変更して代替ナビゲーション・フローを作成できます。このオプションを使用して、アクティブなナビゲーション・フローをリロードします。

### ダウンロード

クラウドで使用可能な次のようなユーティリティをダウンロードする場合、このオプションを選択します。

- **「EPM 自動化」** ユーティリティでは、管理者は、アプリケーション・インスタンス内のタスクをリモートで実行し、多くの反復可能なタスク(メタデータとデータのインポートおよびエクスポートなど)を自動化できます。
- **Smart View** では、Oracle の Enterprise Performance Management (EPM) および Business Intelligence 専用に設計された共通の Microsoft Office インタフェースが提供されます。「Smart View」で、「Oracle Technology Network からダウンロード」、「今すぐダウンロード」の順にクリックします。
- **管理者用 Smart View アドオン**では、アプリケーション管理アクティビティ(ディメンション管理など)を Excel インタフェース内から実行できます。
- **決算および補足データ管理の Smart View 拡張機能**では、Excel インタフェースからアプリケーションおよび補足データの管理を実行できます。

### ヘルプ

製品のドキュメントとビデオ、およびその他のタスク関連のトピックにアクセスできる、Tax Reporting の「スタート・ガイド」ページを表示する場合、このオプションを選択します。

### ヘルプ

このオプションは、現在のトピック(使用可能な場合)のオンライン・ヘルプを表示します。

### クラウド・カスタマ・コネクト

クラウド・カスタマ・コネクトは、メンバーが他のメンバーと結び付き、問題を話し合ったり、アイデアを共有するための専用のコミュニティです。クラウド・カスタマ・コネクトへの直接リンクでアクセスするには、このオプションを選択します。

- ディスカッション・フォーラムでは、質問の投稿、アイデアの検索および Oracle Applications に関するディスカッションへの参加を行います。

- 今後のイベントに関するニュースでは、新規リリースの機能、業界のベスト・プラクティスなどを紹介します。
- ドキュメンテーションおよびビデオは、最新リリースへスムーズに移行するための準備に役立ちます。
- アイデア・ラボでは、製品の拡張機能、投票、お気に入りへのコメントに関するアイデアを共有できます。

サインイン後、「**Enterprise Performance Management**」を選択すると、Cloud 製品に直接移動して、リリース情報、ヒントや秘訣、およびその他の投稿を表示できます。

### フィードバックの提供

アプリケーションの使用中に問題が発生した場合、「フィードバックの送信」オプションを使用して、問題および再現するステップを記述します。アプリケーションで見つかった問題の解決を容易にするため、フィードバックの送信に複数のスクリーンショットを追加することをお勧めします。タスク全体の進行状況を示した一連のスクリーンショットを追加することで、オラクル社がユーザーの問題を再現する方法を示したストーリーボードを作成できます。

ユーザーがオラクル社にフィードバックを送信するたびに、フィードバック通知、または「フィードバックの提供」機能を使用してユーザーが送信した情報のサブセットがサービス管理者およびフィードバックを送信したユーザーに送信されます。これらの通知を使用すると、サービス管理者は送信された問題を確認し、修正アクションを提案できます。フィードバック通知は、デフォルトで有効になっています。各サービス管理者は、電子メールに含まれている「サブスクリプション解除」リンクをクリックして、通知をオフにできます。フィードバック通知の無効化を参照してください。サブスクリプション・ステータスに関係なく、通知は常にフィードバックを送信したユーザーに送信されます。フィードバックを提供する前に、問題が検出されたときのプロセスの段階にあることを確認します。

 ノート:

このオプションを使用してフィードバックを提供するとオラクルに送信されますが、サービス・リクエストは作成されません。サービス管理者が問題を解決できない場合、送信した情報を使用してサービス・リクエストを作成できます。

1. 任意のページで「**フィードバックの提供**」を選択します。
2. 「**フィードバック**」で、発生した問題を記述します。
3. **オプション:** 次の2つのステップで画面の領域を強調表示または暗くするオプションを選択します。
  - a. 「**強調表示**」を選択して、画面上をクリック・アンド・ドラッグして画面の一部を強調表示します。たとえば、エラーや問題を強調表示します。
  - b. 「**暗くする**」を選択し、画面上をクリック・アンド・ドラッグして画面の一部を非表示にします。スクリーンショットで機密データを非表示にする場合、このオプションを使用します。
4.  をクリックしてスクリーンショットを取得します。
5. 別のページに移動し、 を選択して別の画面を取得します。取得されたイメージは、スクリーンショットごとに増分されます。
6. 追加の取得を行う場合、前述のステップを繰り返します。
7. すべての画面キャプチャを追加したら、「**送信**」をクリックします。
8. ブラウザ、環境およびプラグイン情報を確認します。右矢印をクリックしてスクリーンショットを確認します。
9. 「**送信**」をクリックします。
10. 「**閉じる**」をクリックします。

### Oracle サポート

ソリューションを検索し、パッチおよび更新をダウンロードし、サービス・リクエストを作成する場合、このオプションを選択して **My Oracle Support** サイトに直接移動します。

### 情報

Tax Reporting の告知およびバージョン情報が含まれています。

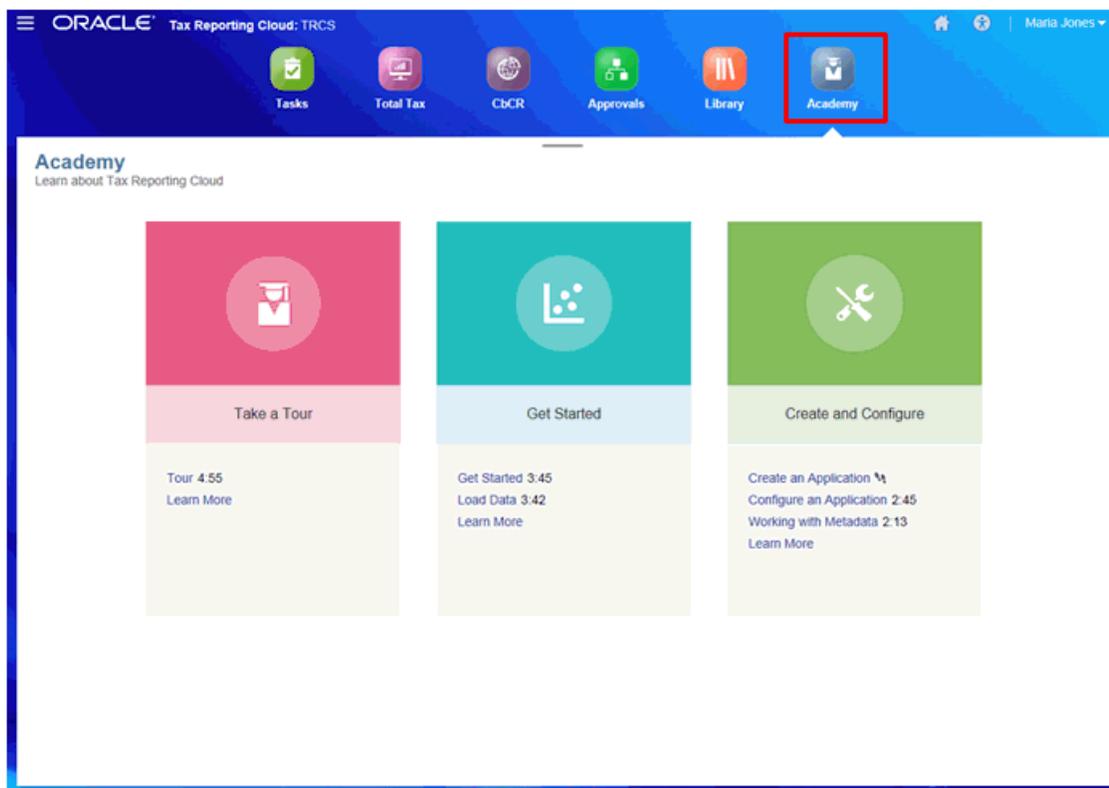
### サインアウト

Tax Reporting を終了します。

## アカデミ

「アカデミ」はトレーニングの概要ビデオおよびチュートリアルにリンクしています。

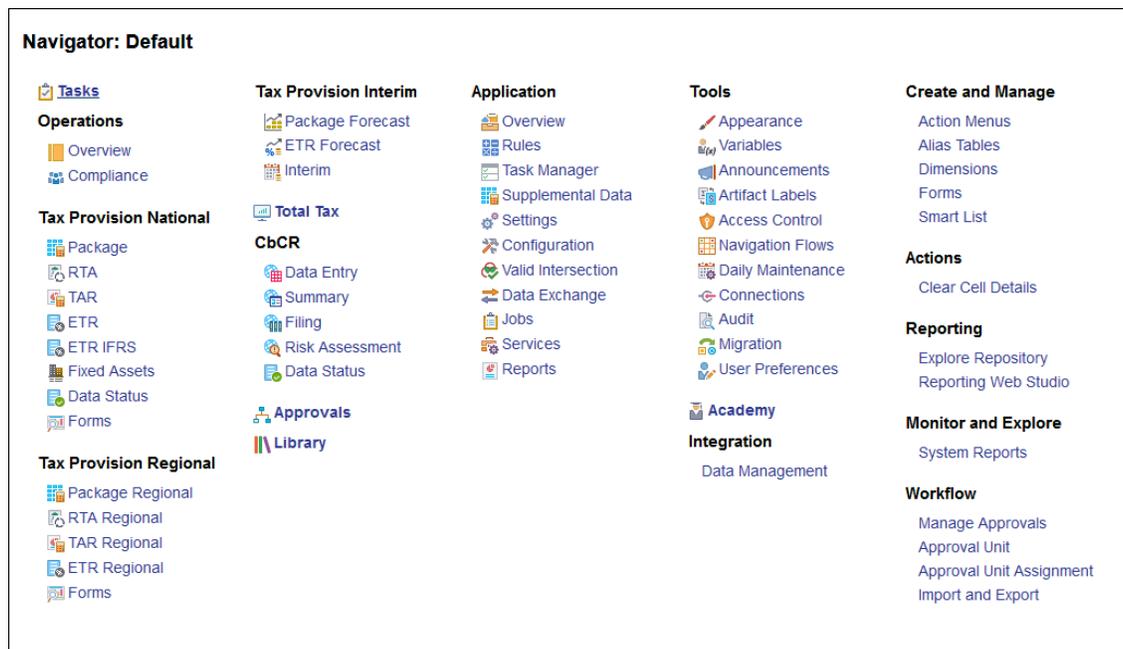
アカデミにアクセスするには、ホーム・ページで「アカデミ」アイコンを選択します。



## ナビゲータ

「ナビゲータ」メニューには、詳細設定と管理タスクへのリンク(別名表、ディメンション、アプリケーション・タスク、補足データの管理やデータ管理を含む)があります。

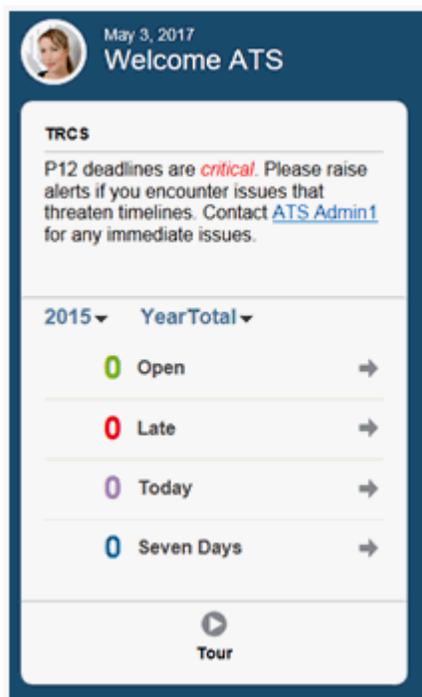
ナビゲータにアクセスするには、ホーム・ページの製品名の横にある「ナビゲータ」アイコンを選択します。



## 「ようこそ」パネル

ホーム・ページには、「ようこそ」パネルがあり、自分に割り当てられたタスクのステータスを確認できる「タスク」ページに迅速にアクセスできます。

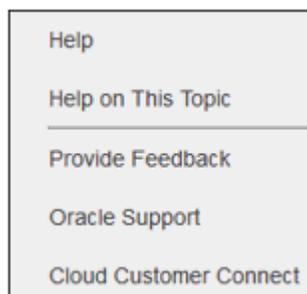
- オープン
- 遅延
- (期限)今日
- 7日間(遅滞)



 「ツアー」をクリックして、「ようこそ」パネルからアプリケーションのツアーを実行できます。

## ユーザー支援

「ユーザー支援」アイコン  は特定のフォームに用意されています。アイコンをクリックして使用可能なオプションを表示します。



### ヘルプ

製品のドキュメントとビデオ、およびその他のタスク関連のトピックにアクセスできる、Tax Reporting の「スタート・ガイド」ページを表示する場合、このオプションを選択します。

### ヘルプ

このオプションは、現在のトピック(使用可能な場合)のオンライン・ヘルプを表示します。

## フィードバックの提供

アプリケーションの使用中に問題が発生した場合、「フィードバックの送信」オプションを使用して、問題および再現するステップを記述します。アプリケーションで見つかった問題の解決を容易にするため、フィードバックの送信に複数のスクリーンショットを追加することをお勧めします。タスク全体の進行状況を示した一連のスクリーンショットを追加することで、オラクル社がユーザーの問題を再現する方法を示したストーリーボードを作成できます。

ユーザーがオラクル社にフィードバックを送信するたびに、フィードバック通知、または「フィードバックの提供」機能を使用してユーザーが送信した情報のサブセットがサービス管理者およびフィードバックを送信したユーザーに送信されます。これらの通知を使用すると、サービス管理者は送信された問題を確認し、修正アクションを提案できます。フィードバック通知は、デフォルトで有効になっています。各サービス管理者は、電子メールに含まれている「サブスクリプション解除」リンクをクリックして、通知をオフにできます。フィードバック通知の無効化を参照してください。サブスクリプション・ステータスに関係なく、通知は常にフィードバックを送信したユーザーに送信されます。フィードバックを提供する前に、問題が検出されたときのプロセスの段階にあることを確認します。

### ノート:

このオプションを使用してフィードバックを提供するとオラクルに送信されますが、サービス・リクエストは作成されません。サービス管理者が問題を解決できない場合、送信した情報を使用してサービス・リクエストを作成できます。

1. 任意のページで「**フィードバックの提供**」を選択します。
2. 「**フィードバック**」で、発生した問題を記述します。
3. **オプション:** 次の2つのステップで画面の領域を強調表示または暗くするオプションを選択します。
  - a. 「**強調表示**」を選択して、画面上をクリック・アンド・ドラッグして画面の一部を強調表示します。たとえば、エラーや問題を強調表示します。
  - b. 「**暗くする**」を選択し、画面上をクリック・アンド・ドラッグして画面の一部を非表示にします。スクリーンショットで機密データを非表示にする場合、このオプションを使用します。
4.  をクリックしてスクリーンショットを取得します。
5. 別のページに移動し、 を選択して別の画面を取得します。取得されたイメージは、スクリーンショットごとに増分されます。
6. 追加の取得を行う場合、前述のステップを繰り返します。
7. すべての画面キャプチャを追加したら、「**送信**」をクリックします。
8. ブラウザ、環境およびプラグイン情報を確認します。右矢印をクリックしてスクリーンショットを確認します。
9. 「**送信**」をクリックします。
10. 「**閉じる**」をクリックします。

## Oracle サポート

ソリューションを検索し、パッチおよび更新をダウンロードし、サービス・リクエストを作成する場合、このオプションを選択して **My Oracle Support** サイトに直接移動します。

## クラウド・カスタマ・コネクト

クラウド・カスタマ・コネクトは、メンバーが他のメンバーと結び付き、問題を話し合ったり、アイデアを共有するための専用のコミュニティです。クラウド・カスタマ・コネクトへの直接リンクでアクセスするには、このオプションを選択します。

- ディスカッション・フォーラムでは、質問の投稿、アイデアの検索および **Oracle Applications** に関するディスカッションへの参加を行います。
- 今後のイベントに関するニュースでは、新規リリースの機能、業界のベスト・プラクティスなどを紹介します。
- ドキュメンテーションおよびビデオは、最新リリースへスムーズに移行するための準備に役立ちます。
- アイデア・ラボでは、製品の拡張機能、投票、お気に入りへのコメントに関するアイデアを共有できます。

サインイン後、「**Enterprise Performance Management**」を選択すると、Cloud 製品に直接移動して、リリース情報、ヒントや秘訣、およびその他の投稿を表示できます。

# Cloud EPM プロセス間のナビゲート

管理者が他の Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ビジネス・プロセスへの接続を作成すると、「ナビゲータ」の「**自分の接続**」ペインにそれらの接続がリストされます。

この場所からビジネス・プロセスを切り替えることができます。他のビジネス・プロセスを開くには、これらのビジネス・プロセスに対するアクセス権が必要です。アーティファクトは、役割に応じてアクセス可能です。

別の Cloud EPM ビジネス・プロセスを開くには:

1. ホーム・ページで、**ナビゲータ**  をクリックします。
2. ビジネス・プロセスが接続されており、それらのビジネス・プロセスにアクセスできる場合は、接続されているビジネス・プロセスのリストが「**自分の接続**」ペインに表示されます。ビジネス・プロセスをクリックして開きます。

### ノート:

ビジネス・プロセスを新しいウィンドウで開くには、ビジネス・プロセス名の右側にあるアイコンをクリックします。

# フォーム、ダッシュボードおよびインフォレットの検索

リスト・ページから特定のフォーム、ダッシュボードおよびインフォレットを簡単に検索できます。

リスト・ページの「検索」アイコン  では、フラット・ビューまたはツリー・ビューのオプションを使用してこれらのアーティファクトの検索を切り替えることができます。

- フラット・ビュー  - フラット・ビューでは、検索条件を満たすアーティファクトのみが表示され、それらを含むフォルダは表示されません。
- ツリー・ビュー  - ツリー(または階層)・ビューでは、アーティファクトがそれらを含むフォルダのコンテキストで表示されます。

別のキーワードで検索するには、「検索」ボックスの「X」をクリックして検索条件をクリアします。

# 3

## プリファレンスの設定

### 関連リンク:

- [プリファレンスの設定](#)
- [一般プリファレンスの設定](#)
- [表示プリファレンスの設定](#)
- [通知用電子メールの設定](#)
- [アド・ホック・オプションの設定](#)
- [ユーザー変数の設定](#)
- [レポート・プリファレンスの設定](#)
- [印刷プリファレンスの設定](#)

## プリファレンスの設定

プリファレンスを設定し、プロフィール写真やアプリケーションでの数値の表示方法など、アプリケーションの様々な側面を制御できます。

### ノート:

設定したプリファレンスは、管理者が設定したプリファレンスより優先されます。「**管理者の設定を使用**」をクリックすると、管理者が設定したシステム設定を適用できます。

プリファレンスを設定するには:

1. ホーム・ページで、**ツール**、**ユーザー・プリファレンス** の順にクリックします。
2. 左側のタブをクリックしてアプリケーションのプリファレンスを設定します。
  - **一般**: プロフィール写真に加え、タイム・ゾーン、言語、使用する別名表、メンバー名と別名の表示といったプリファレンス、および不在メッセージなどの承認オプションを設定します。[一般プリファレンスの設定](#)を参照してください
  - **表示**: 数値のフォーマット方法、「ページ」ドロップダウン・リストでのメンバーの表示方法、集計演算子を表示するかどうか、および日付フォーマットのプリファレンスを設定します。[表示プリファレンスの設定](#)を参照してください
  - **通知**: 電子メール・アドレスを設定し、通知を受けるアクティビティ (**「タスク・リスト**」、**承認**、**「ジョブ・コンソール**」) を選択します。[通知用電子メールの設定](#)を参照してください。
  - **アド・ホック・オプション**: アド・ホック・グリッドの操作に関するオプションを設定します。[アド・ホック・オプションの設定](#)を参照してください。

- **ユーザー変数:** 管理者が設定したユーザー変数のメンバーを選択します。[ユーザー変数の設定](#)を参照してください。
- **レポート:** レポートの表示に関するプリファレンスを設定します。[レポート・プリファレンスの設定](#)を参照してください。
- **フォームの印刷:** フォームのデータを PDF ファイルとして出力する方法に関するプリファレンスを設定します。[印刷プリファレンスの設定](#)を参照してください

## 一般プリファレンスの設定

「一般」タブで、優先タイムゾーン、言語、プロフィール写真、不在アシスタントなどを設定できます。

全般プリファレンスを設定するには:

1. ホーム・ページで、「ツール」、「ユーザー・プリファレンス」の順にクリックします。
2. 「一般」をクリックします。

The screenshot shows the 'Preferences' dialog box with the 'General' tab selected. The 'Profile' section includes a profile picture (a circle with the letter 'A'), a 'Time Zone' dropdown menu set to '(UTC-04:00) Halifax - Atlantic Time', and a 'Language' dropdown menu set to 'English'. Below these is a 'Profile Image' field with a 'Browse...' button and a note 'Supported formats: .jpg, .png, and .gif'. The 'Alias Setting' section has an 'Alias Table' dropdown menu set to 'Default' and a 'Display Member Label as' dropdown menu set to 'Alias'. There are checkboxes for 'Use Administrator's Settings' in both sections. The 'Approvals' section has checkboxes for 'Display Aliases', 'Show Not Started Approval Units', 'Show Approval Units as Aliases in Approvals Notification', and 'I am currently out of the office'. An 'Action' dropdown menu is set to 'Reject'. A 'Save' button is in the top right corner.

3. 次のプリファレンスを設定します。
  - タイム・ゾーン。頭文字を入力できます。たとえば、太平洋標準時(Pacific Time)の場合は「PT」と入力します。指定した時間書式は、アプリケーション全体で使用されます。新規ユーザーのデフォルトのタイム・ゾーンは、**(UTC)レイキャビク - グリニッジ標準時間**です。
  - 言語。サインアウトしてからサインインしなおすと、選択した言語でユーザー・インタフェースが表示されます。言語を選択しなかった場合は、ブラウザのロケールが使用されます。
  - プロファイル写真。[プロフィール・ピクチャの設定](#)を参照してください。
  - 使用する別名表およびメンバーまたはその別名の表示方法。[メンバー名または別名の表示の設定](#)を参照してください。
  - 承認のプリファレンス(別名を表示するかどうか、まだ開始されていない承認ユニットを表示するかどうかなど)不在アシスタントを設定し、不在時に有効になる承認アクションを設定することもできます。[承認オプションの設定](#)を参照してください。

4. 「保存」をクリックします。

## プロフィール・ピクチャの設定

ホーム・ページの「お知らせ」パネルに表示するプロフィール写真を設定できます。

ホーム・ページのプロフィール写真のイメージを追加するには:

1. ホーム・ページで、「ツール」、「ユーザー・プリファレンス」の順にクリックします。
2. 「プロフィール・イメージ」の近くにある「参照」をクリックし、イメージ・ファイルを参照して開きます。  
イメージのタイプは、.png、.jpg、.jpeg または.gif です。
3. 「保存」をクリックします。  
アプリケーションからサイン・アウトした後で再びサイン・インすると、プロフィール写真が表示されます。アップロードした写真が 100 x 100 ピクセルを超えている場合は、自動的にサイズが変更されます。

### ノート:

自動サイズ変更の影響を受けるのは、「ユーザー・プリファレンス」でアップロードされた新しいプロフィール画像のみです。既存のプロフィール写真のサイズが変更されることはありません。

## メンバー名または別名の表示の設定

「一般」ページで、使用する別名表とメンバー名または別名の表示方法を設定できます。

別名は、多くの場合、より説明的なもう 1 つのメンバー名です。別名のセットは、管理者が作成した別名表に格納されます。たとえばアプリケーションで英語のメンバー名の別名表を持ち、それとは別にドイツ語のメンバー名の別名表を持つ、といったことができます。

1. ホーム・ページで、「ツール」、「ユーザー・プリファレンス」の順にクリックします。
2. 「一般」タブをクリックし、「別名表」で別名表を選択します。
3. 「メンバーのラベルの表示形式」で、アプリケーションでのメンバー名の表示方法を選択します。
  - メンバー名
  - 別名
  - メンバー名:別名
  - 別名:メンバー名
  - デフォルト。「デフォルト」を選択すると、フォーム、グリッドまたはディメンションの設定でメンバー名の表示方法が決まります。
4. 「保存」をクリックします。

## 承認オプションの設定

不在時の承認ユニットに対するアクションなど、承認のプリファレンスを設定します。代替確認者を委任することもできます。

承認オプションを設定するには:

1. ホーム・ページで、「ツール」、「ユーザー・プリファレンス」の順にクリックします。
2. 「一般」タブの「承認」でプリファレンスを選択します。
  - **別名の表示:** 別名を表示する場合に選択します。このオプションは、メンバー名がわかりにくい場合に有用です。
  - **未開始承認ユニットの表示:** 開始されている承認ユニットとともに、開始されていない承認ユニットを表示する場合に選択します。
  - **承認通知に承認ユニットを別名として表示:** 「通知」で「承認」が有効な場合に、承認ユニットを別名として表示する場合に選択します。
3. **オプション:** 不在にする場合、「現在不在です」を選択して不在中の承認ユニットに対するアクションを設定します。そうすることで、不在中もビジネス・プロセスが進められます。「不在」オプションを選択したり、選択解除すると、オープンしているタスク・マネージャ・タスクや補足データ・フォーム・エントリのプライマリおよびバックアップ担当者が影響を受けます。タスクに担当者とバックアップ担当者がある場合、担当者が不在オプションを選択すると、バックアップ担当者がタスクの責任者になります。バックアップ担当者は、タスクの発行などの通常は担当者用である機能をすべて実行できます。

不在中のアクションを設定します。

  - **上位へ移動:** 承認ユニットを次の段階に進めます。
  - **却下:** 承認ユニットを却下します。
  - **送信:** 承認ユニットを送信します。
  - **委任:** 不在中にレビューの職務を行う代替確認者を指定する場合に選択します。「メッセージ」テキスト・ボックスに確認者向けのメッセージを含めることもできます。

## 表示プリファレンスの設定

数値のフォーマット、「ページ」ドロップダウン・リストに表示するメンバーの数、メンバーのインデント、日付のフォーマットおよび集計演算子を表示するかどうかを設定できます。

表示プリファレンスを設定するには:

1. ホーム・ページで、「ツール」、「ユーザー・プリファレンス」の順にクリックします。
2. 「表示」をクリックします。

3. プリファレンスを設定します。

- 「数値のフォーマット」で、数値のフォーマット方法を設定します。選択は、アクセス権のあるすべてのフォームのすべての通貨に適用されます。「3桁ごとの区切り文字」と「小数点」に同じオプションは選択できません。

表 3-1 数値のフォーマット・オプション

オプション	例
3桁ごとの区切り文字	なし: 1000 カンマ: 1,000 ドット: 1.000 スペース: 1 000 入力値には、3桁ごとの区切り文字を付けることも省略することもできます。
小数点	ドット: 1000.00 カンマ: 1000,00 入力値には小数点を付けることも省略することもできます。
負数の符号	先頭のマイナス: -1000 末尾のマイナス: 1000- 括弧: (1000)
負数の色	黒: 負数は黒く表示されます 赤: 負数は赤で表示されます

- 「ページ・オプション」の「メンバーのインデント」で、ページでのメンバーのインデントおよび「ページ」ドロップダウン・リストに表示されるアイテム数を設定します。「インデントしない」を選択すると、メンバーはフラットな順次リストとして表示されます。「ページ」ドロップダウン・リストに表示される項目数が多く、リストをスクロールする必要がある場合、「「ページ」ドロップダウンの項目数」で表示される項目数を少なく設定できます。
- 「その他オプション」で、集計演算子を表示するかどうかを設定します(「はい」、「いいえ」、「フォーム設定」など)。「日付フォーマット」(dd/MM/yyyy など)も設定します。「自動検出」を選択すると、ブラウザのロケールに基づいて日付フォーマットが設定さ

れます。選択したフォーマットは、レポートを含め、ユーザー・インタフェース全体で使用されます。

また、「**アド・ホックのユーザー式の有効化**」のオプションを選択します。「はい」を選択すると、変更をデータベースに送信しなくても、オンザフライの計算を実行できます。

4. 「**保存**」をクリックします。

## 通知用電子メールの設定

管理者が電子メール通知設定のカスタマイズを許可している場合は、タスク・リスト、承認、およびジョブ・コンソールに変更があったときに、アプリケーションのアクティビティについて通知する電子メールを設定できます。

次のタイプの電子メール通知を構成できます:

- **遅延通知**(タスク・マネージャおよび補足データ・マネージャの場合)
- **ステータス変更通知**(アラート、タスク・マネージャ、補足データ・マネージャおよび連結仕訳の場合)
- **期限日リマインダ通知**(タスク・マネージャおよび補足データ・マネージャの場合)

通知は、通知を起動するイベントの発生した翌日に、まとめてユーザーに送信されます。*Financial Consolidation and Close* の管理の「通知の有効化」も参照してください。

新規ユーザーには、サービス管理者が定義したデフォルトの電子メール通知設定が継承されます。これには、遅延通知、ステータス変更通知、期限日リマインダ通知の設定が含まれます。サービス管理者がユーザーに独自の電子メール通知設定の定義を許可した場合、ユーザーは次のいずれかを実行できます:

- サービス管理者によって定義されたデフォルト設定を引き続き使用します。その後、サービス管理者が電子メール通知設定に加えた更新は、ユーザーの設定に反映されます。
- 1つ以上の電子メール通知設定をカスタマイズします。特定のプリファレンスに値が設定されていない場合は、サービス管理者によって設定されたデフォルト値が引き続き使用されます。

通知は、次の場合に送信されます:

電子メール通知を設定して使用可能にするには:

- **遅延通知**: 遅延通知は、タスクの期限日の翌日にユーザーに送信されます。
- **ステータス変更通知**: タスクの作業準備が完了したという通知が、タスク・ステータスの変更時に送信されます。
- **期限日リマインダ**: リマインダは、タスクの期限日の指定した日数前にユーザーに送信されます。

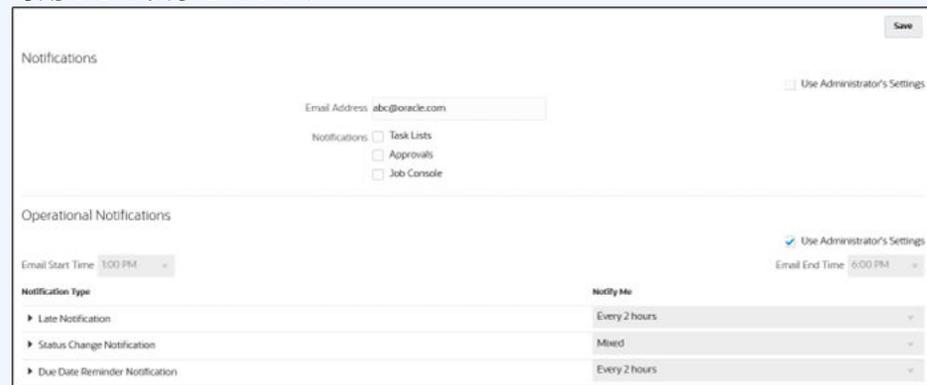
電子メール通知を設定して使用可能にするには:

1. ホーム・ページで、「**ツール**」をクリックした後、「**ユーザー・プリファレンス**」をクリックします。
2. 「**通知**」をクリックします。
3. **電子メール・アドレス**に、電子メール・アドレスを入力します。
4. 「**通知**」で、通知を受け取るアプリケーション更新を選択します:
  - **タスク・リスト**

- 承認
  - ジョブ・コンソール
5. 「操作通知」では、次の詳細を指定できます。

 ノート:

管理者がユーザー電子メール通知プリファレンスのカスタマイズを許可していない場合、すべての設定は無効になります。必要に応じて、「**管理者の設定を使用**」を選択して、電子メール設定に対するユーザー・カスタマイズを防止できます。どちらの場合も、ユーザーは管理者によって設定されたプリファレンスを継承し、次のスクリーンショットに示されているように、「**操作通知**」セクションは読取り専用として表示されます。



- a. 「**電子メール開始時間**」および「**電子メール終了時間**」を選択します。
- b. 「**通知タイプ**」で、通知のタイプを展開し、コンポーネントを展開して、通知を受信するユーザーのオプションを選択します。例: 「あなたはタスク承認者です。タスク承認者が遅延しています」
- c. 「**通知する**」で、ドロップダウン・リストから通知を送信する必要がある頻度を選択します:
  - **即時**: 電子メール通知は、ユーザーの電子メール開始/終了時間外であっても、即時に送信されます。
  - **1日に1回**
  - **2時間ごと**
  - **3時間ごと**
  - **4時間ごと**
  - **6時間ごと**
  - **混在**
  - **なし**: 通知を非アクティブにするには、このオプションを選択します。「**通知**」チェック・ボックスの選択を解除し、「**通知する**」に「**なし**」を選択します。

Notification Type	Notify Me
Late Notification	Mixed
Task Manager	Mixed
You are the task approver and task approver is late	Every 3 hours
You are the task assignee and task assignee is late	Every 2 hours
You are the task owner and task assignee is late	Every 2 hours
You are the task owner and task approver is late	Every 2 hours
Supplemental Data	Every 2 hours
Enterprise Journals	Every 2 hours
Status Change Notification	Mixed
Due Date Reminder Notification	Every 2 hours

6. 「保存」をクリックします。ユーザー・プリファレンスが設定されたという通知を受け取ります。

## アド・ホック・オプションの設定

アド・ホック・グリッドの表示および動作は、プリファレンスを設定して制御します。

アド・ホック・オプションを設定するには:

1. ホーム・ページで、「ツール」、「ユーザー・プリファレンス」の順にクリックします。
2. 「アド・ホック・オプション」をクリックします。

3. 「アド・ホック・オプション」セクションで、メンバーの表示方法を設定します。

- 含めるメンバー:

- **選択を含める:** 選択したメンバーと操作の結果として取得されたメンバーの両方を表示する場合に選択します。たとえば、選択したメンバー Qtr1 にズーム・インすると、Qtr1 (1月、2月、3月)のデータが表示されます。
  - **選択されたグループ内:** 選択したメンバー・グループのみを対象としてズームなどの操作を実行し、選択しなかったセルはそのままにする場合に選択します。この設定が有意義なのは、グリッドの下位の行として、またはグリッド全体にわたる列として2つ以上のディメンションがある場合です。このオプションは、「**ズーム**」、「**選択項目のみ保持**」および「**選択項目のみ削除**」に適用されます。
  - **ズーム・イン:** ズーム・インするレベルを選択します。
    - **次のレベル:** 選択したメンバーの子のデータを取得する場合に選択します。
    - **すべてのレベル:** 選択したメンバーのすべての子孫のデータを取得する場合に選択します。
    - **最下位レベル:** ディメンションの最下位レベルのメンバーのデータを取得する場合に選択します。  
*Oracle Smart View for Office の操作の Cloud EPM の共有メンバーのズーム・インも参照してください。*
  - **祖先の位置:** 階層での祖先の表示方法を設定します。
    - **最上位:** メンバー階層を最上位レベルから最下位レベルに向かって表示する場合に選択します。
    - **最下位:** メンバー階層を最下位レベルから最上位レベルに向かって表示する場合に選択します。
  - **メンバーのラベルの表示形式:** メンバー名、別名、またはその両方のいずれを表示するかを設定します。
  - **別名表:** 使用する別名表を選択します。
  - **インデント:** メンバー階層レベルのインデント方法を設定します。
    - **なし:** インデントを使用しない場合に選択します。
    - **サブアイテム:** 子孫をインデントする場合に選択します。祖先は列で左揃えになります。
    - **合計:** 祖先をインデントする場合に選択します。子孫は列で左揃えになります。
  - **データをリフレッシュせずにナビゲート:** このオプションを選択すると、グリッドをナビゲートする際のパフォーマンスが向上します。(データはデフォルトではリフレッシュされます。)
4. データの表示を簡潔にするには、「**抑制**」にあるオプションを選択して、グリッドの要素を抑制にします。たとえば、ゼロを含む行または列を非表示にできます。
- **ゼロ:**
    - **行:** ゼロのみを含む行を非表示にする場合に選択します。
    - **列:** ゼロのみを含む列を非表示にする場合に選択します。
  - **抑制:**
    - **繰返しのメンバー:** グリッドの方向に関係なく、繰返しのメンバー名を含む行を非表示にする場合に選択します。
    - **行で欠落しているブロック:** データが欠落している行のセル・ブロックを非表示にする場合に選択します。

- **欠落データ:** ゼロを含むか、データが欠落している行または列を非表示にする場合に選択します。
- **アクセス権なし:** 自分にアクセス権がない行または列を非表示にする場合に選択します。

#### ノート:

アド・ホック・グリッドを開こうとしたときに、「有効なデータ行がないため、アド・ホック・グリッドを開けません。」というエラーが表示された場合は、前述の「抑制」のオプションをクリアしてください。

5. 「精度」で、次のように設定します。
  - **通貨メンバーの設定の使用:** 通貨メンバーの精度設定を適用する場合に選択します。
  - 通貨の値、通貨以外の値およびパーセンテージ値について、セルに表示される小数部の最小桁数と最大桁数を設定します。  
たとえば、セルの値が 100 で、「最小」精度"2"を選択した場合、値は"100.00"と表示されます。
6. 「置換」で、データが欠落しているセル、自分に表示アクセス権がないセルまたは無効なデータを含むセルに表示するラベルを設定します。
  - **データなし:** 「#Missing」または「#NoData」という値を含むセルに表示するテキストを入力します。
  - **アクセス権なし:** 自分に表示アクセス権がないセルに表示するテキストを入力します。
  - **ゼロを送信:** 「データなし」または「アクセス権なし」置換オプションでテキストとして「#NumericZero」を指定したときに、ゼロをアプリケーションに送信する場合に選択します。

関連項目: [データ入力および分析に対するアド・ホックの使用](#)

## ユーザー変数の設定

ユーザー変数はフォームでフィルタとして機能し、ユーザーは部署、特定の時間枠、勘定科目などの特定のメンバーのみに集中できます。許可されたユーザーであれば、デフォルト変数を必要なメンバーに再設定できます。

フォームを開く前に、管理者が設定したユーザー変数のプリファレンスを設定する必要があります。たとえば、CbCR 親エンティティの場合、デフォルトの FCCS\_Total\_Geography メンバーを United States などの特定のメンバーに変更できます。新しいメンバーは、すべてのダッシュボードとフォームに適用され、選択したユーザー変数のメンバーに基づいてデータが移入されます。

ユーザー変数のメンバーを設定するには:

1. ホーム・ページで、「ツール」、「ユーザー・プリファレンス」の順にクリックします。「プリファレンス」ページに、管理者がディメンションごとに設定したユーザー変数がリストされます。「メンバー」に、各変数で現在選択されているメンバーが表示されます。

Dimension	User Variable	Member
Entity	CbCR Parent Entity	Total Geography
Currency	Currency	Entity Currency
Years	Current Year	FY19
Account	Fixed Assets/Liabilities	Total Fixed Assets
Entity	Loss Entities	Total Geography
Multi-GAAP	Multi-GAAP	Local GAAP
Years	PMYear	FY19
Account	Tax Automation Target Account	Current Provision
Account	Tax Automation Target Account Regional	Regional Current Provision
Currency	Tax Losses/Credits Currency	Entity Currency

2. 変更する変数の横にある「メンバー・セクタ」 をクリックします。ディメンションの「メンバー」列にメンバー名を直接入力することもできます。
3. メンバーまたはメンバーの先頭にあるチェックマークをクリックして、新しいメンバー値を選択します。
4. 「保存」をクリックします。

## レポート・プリファレンスの設定

レポートを表示および操作するためのユーザー・プリファレンスを設定できます。

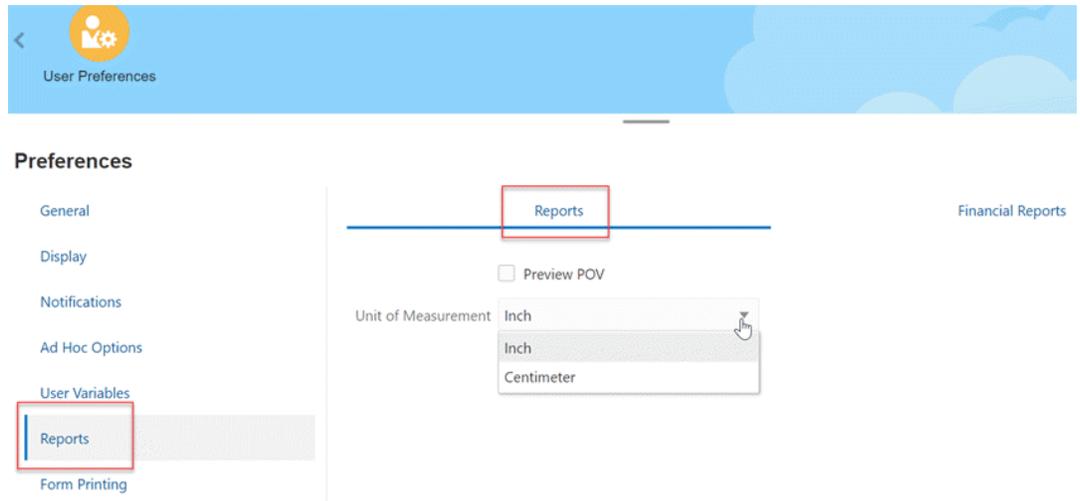
Reports および Financial Reporting のレポートをプレビュー、表示および操作するためのプリファレンスを設定できます。

詳細は、*レポートでの設計* および *Financial Reporting の管理* を参照してください。

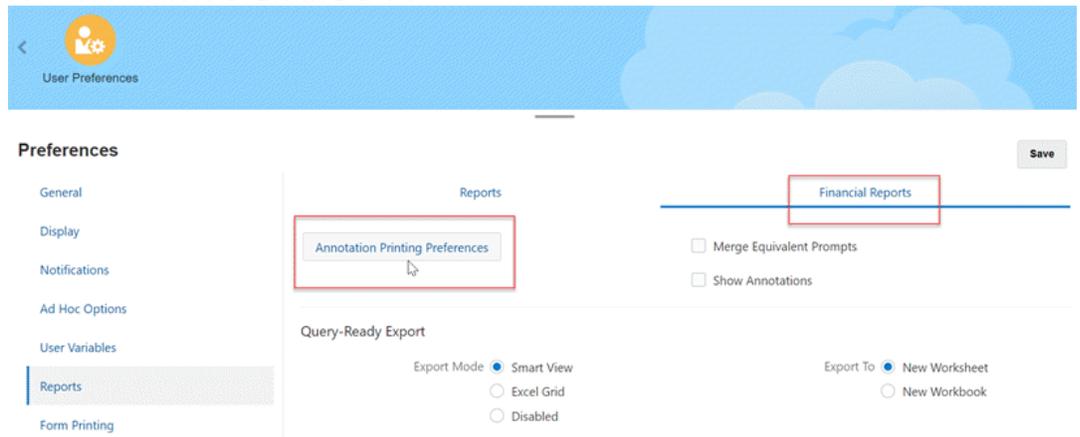
レポート・プリファレンスを設定するには:

1. ホーム・ページで、**ツール**、「**ユーザー・プリファレンス**」の順にクリックします。
2. 「**レポート**」をクリックします。

3. レポートを操作するためのプリファレンスを設定するには、ページ上部の「**レポート**」タブをクリックし、プリファレンスを設定します:



- POVのプレビュー - レポートのPOVで使用されるディメンション・メンバーをプレビューするには、このオプションを選択します。
  - 単位 - ドロップダウン・リストから、ページのマージン・サイズを「インチ」または「センチメートル」で表示するように選択します。デフォルトの単位は「インチ」です。
4. ページ上部の「レポート」の下の「注釈印刷のプリファレンス」をクリックし、レポートでの注釈の出力方法を定義します。



- 「注釈印刷のプリファレンス」の隣で、「詳細」を選択し、「脚注の詳細を使用」でシステム定義の脚注を作成するためのオプションを選択します。汎用フォーマットが適用され、システム定義のサイズとフォントが使用されます。たとえば、「タイトル」、「説明」、「カテゴリ」、「日付」、「作成者」、「添付」および「返答を含める」を選択します。

ノート:

「返答を含める」を選択した場合、すべての返答を含めるか、「上」で指定した数(最初の返答から数えた数)の返答を含めるか、「下」で指定した数の返答(最初の注釈および最後の返答から数えた数の返答)を含めるかを選択します。所定の領域に印刷する返答の数を入力します。

- 「注釈印刷のプリファレンス」の隣で「テキスト・オブジェクト」を選択し、Financial Reporting のテキスト関数 *Footnote* が含まれる、リポトリに保存されたテキスト・ボックスを選択します。「脚注のテキスト・オブジェクトを使用」のテキスト・ボックスに、レポートのテキスト・オブジェクトの脚注機能で注釈を印刷するために使用するテキストを入力します。脚注機能は、レポート・デザイナーが作成します。このオプションは、注釈のフォーマットおよび印刷に関してより柔軟性に富んでいます。たとえば、脚注機能を指定して見出しとコンテンツに異なるサイズ、フォント、および色を適用したグリッド注釈のみを印刷できます。
  - 「注釈印刷のプリファレンス」の隣で「なし」を選択し、注釈を出力しません。
- 5. 「OK」をクリックして、ダイアログ・ボックスを閉じます。
- 6. 「同じタイプのプロンプトをマージする」を選択し、1 回のみ返答するか、複数回繰り返されるプロンプトおよび変数に続けて返答します。
- 7. 「注釈の表示」を選択し、レポートに注釈を含めます。
- 8. 「問合せ対応エクスポート」で、レポートの Excel へのエクスポート方法に関するプリファレンスを設定します。
  - 「Smart View」: レポートを Oracle Smart View for Office ファイルとしてエクスポートします。
  - Excel グリッド: エクスポートされたレポートを Microsoft Excel で開きます。「エクスポート先」で次のいずれかを選択します。
    - 新規ワークシート: エクスポートされたレポートを既存の Excel ワークブック内の新しいシートとして開きます。

- **新規ワークブック**: エクスポートされたレポートを新しい Excel ワークブック内のシート 1 として開きます。
  - 「**使用不可**」:では、レポートが HTML プレビューを使用して表示されている場合に問合せ対応リンクを非表示にします。
9. 「**エクスポート先**」で、次のいずれかを選択します。
- **新規ワークシート**: エクスポートされたレポートを既存の Excel ワークブック内の新しいシートとして開きます。
  - **新規ワークブック**: エクスポートされたレポートを新しい Excel ワークブック内のシート 1 として開きます。
10. 「**保存**」をクリックします。

## 印刷プリファレンスの設定

フォームとそのデータの PDF ファイルとしての出力方法に関するプリファレンスを設定できます。

フォームの設計時、管理者はフォームの印刷オプションを設定します。PDF ファイルに出力する場合、このデフォルト設定をそのまま使用することも、独自のプリファレンスを設定することもできます。

### ノート:

- PDF ファイルに出力するには、Adobe Acrobat Reader がインストールされている必要があります。
- フォーム 2.0 を使用している場合は、印刷が必要なときにブラウザの印刷機能または Oracle Smart View for Office の Excel 印刷機能を使用できます。

1. ホーム・ページで、「**ツール**」、「**ユーザー・プリファレンス**」の順にクリックします。
2. 「**フォームの印刷**」をクリックします。

**Preferences** Save

**Form Printing**

**Page Settings**

Paper Size: A4

Black & White

Layout:  Landscape  Portrait

Fit To:  None  Page  Width

Flow:  Down Then Across  Across Then Down

**Options**

Format Data  Show Currency Codes

Apply Precision  Print Form Name

Include Supporting Detail  Repeat Column Headers

Normal Order

Show Comments  Repeat Row Headers

Show attribute members  Print POV/Page

Print Grid Lines

Print Footer

3. **ページ設定**で、用紙サイズ、レイアウト、サイズ合せおよびフローを設定します。白黒で印刷するかどうかを選択できます。
4. **「オプション」**で、次の項目を適用するかどうかを設定します。
  - フォーマット
  - コメント(セルに関連付けられたテキスト・ノート)
  - 属性メンバー(フォームで選択されている場合)
  - 通貨コード(フォームで各エンティティに対して複数通貨がサポートされている場合)
  - フォーム名
  - ページ間で繰り返される行および列ヘッダー
  - POV/ページ
  - グリッド線
  - フッター
5. **「保存」**をクリックします。

# 4

## 業務の操作

関連リンク:

- [業務の概要の表示](#)
- [連結プロセス](#)
- [外貨換算](#)

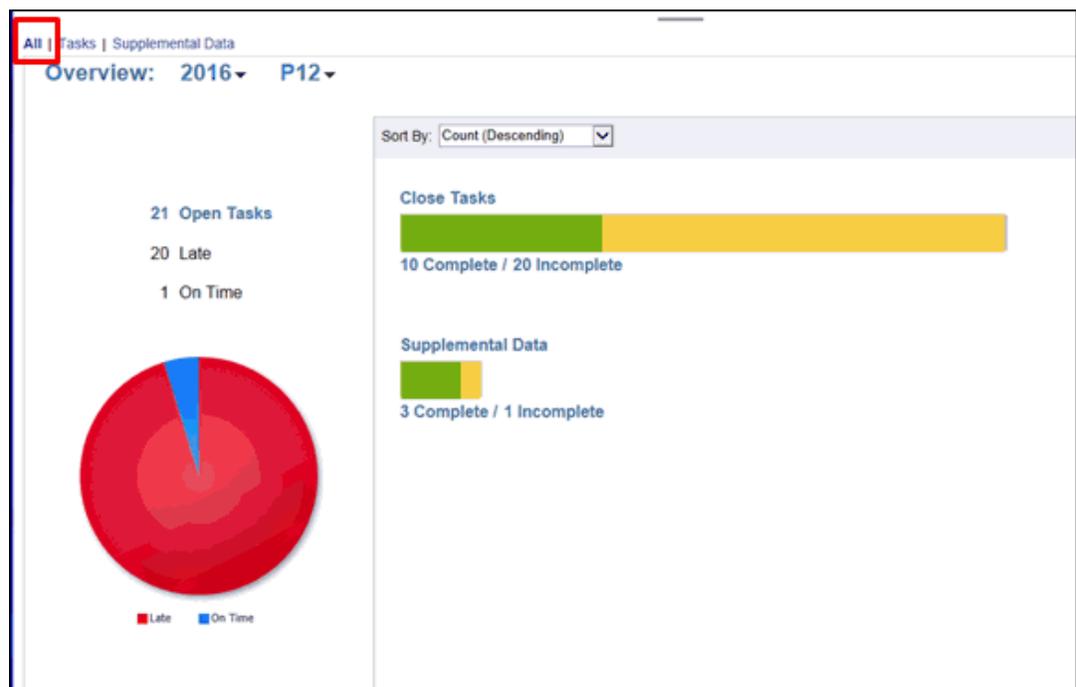
### 業務の概要の表示

業務の概要ダッシュボードでは、すべてのタスクのステータスとデプロイされた補足データ・フォームに関するメトリックが提供され、予定どおり完了したタスクと遅延しているタスクが区別され、それらのタスクの数が表示されます。優先度、スケジュール、タスク・タイプまたは組織単位別にタスクを表示できます。

### すべてのタスクの表示

すべてのタスクを表示するには:

1. ホーム・ページで、「**業務**」をクリックし、次に「**概要**」をクリックします。
2. 「**すべて**」タブを選択してすべてのタスクを表示します。



3. POV を選択します。

4. ステータスを表示するタスクのグループをクリックします。
  - オープン・タスク
  - 遅延
  - 予定どおり
5. 「**ソート基準**」を選択してタスクをフィルタし、オプションを選択します。
  - 件数(降順)
  - 件数(昇順)
  - アルファベット(昇順)
  - アルファベット(降順)
  - 属性順序(昇順)
  - 属性順序(降順)

## タスクの表示

### ホーム・ページからのタスクの表示

Oracle Tax Reporting Cloud を起動すると、ホーム・ページに、自分に割り当てられているタスクとそのステータス(オープン、遅延、今日が期限、または7日で期限)のサマリーが表示されます。ステータスの左側の数は、そのステータスのタスクの数を示します。年や期間でタスクのリストをフィルタできます。「タスクのサマリー」パネルのリンクをクリックすると、「タスク」ページが開き、そこでタスクのリストをさらにフィルタできます。

### 「スケジュール・タスク」ページからのタスクの表示

「タスク」タブで、タスクの検索やタスクのリストのフィルタ、リストの保存を行えます。ビューを変更して、表示する列数または行数を増やすことができます。

「タスク」ページにタスクを表示するには:

1. ホームページで「**タスク**」をクリックします。
  2. 左側の「**スケジュール・タスク**」タブをクリックします。
  3. ページの右側のビュー・セレクタを使用して、ビュー間を移動します。
- **リスト・ビュー**  
リスト・ビューには、スケジュールまたはテンプレート内のすべてのタスクがリストされます。タスクの階層(親子)ビューが提供されます。タスクのリストをフィルタ処理して、関心のあるタスクのみを表示できます。  
デフォルトでは、リストは「開始日」列でソートされます。列見出しをクリックすると、その列でソートできます。親タスクは矢印で示され、この矢印をクリックして子の表示を展開または縮小できます。
  - **「ガント」ビュー**  
タスクの期間とそれらの依存関係をグラフィカルに表す、スケジュールまたはテンプレートの時系列が表示されます。棒は期間を表し、矢印は依存関係を表します。タスク A がタスク B より前に完了する必要がある場合などにタスク間の先行関係を表示したり、先行タスクのステータスを表示したりできます。タスク A はタスク B およびタスク C という 2 つのサブタスクから構成されるなど、親子タスク関係(集約)も階層で参照できます。

テンプレートを作成する際に「ガント」ビューを使用することを選択し、タスク間の先行関係を表示したり、スケジュールにタスクを追加した後で優先順序を確認したりできます。「ガント」ビューを使用して、他のタスクの先行タスクのステータスを参照したり、他のグループ・メンバーのタスクに先行するタスクのステータスを参照したりできます。

#### ノート:

「ガント・チャート」ビューで、多数のタスクを含むスケジュールまたはテンプレートを表示すると、ビューの表示に時間がかかります。これらのビューでスケジュールまたはテンプレートを確認する場合は、タスクの数が少なくなるようにビューにフィルタをかけることをお勧めします。

「ガント」ビューに新しいタスクをドラッグしたり、ダブルクリックまたはメニュー・オプションを使用してタスクを更新したりできます。タスクを新しい開始日にドラッグしたり、タスク期間を延長したりできます。タスク階層をフィルタ処理してフラット化したり、タスク・ステータスでソートしたりできます。子タスクがあるタスクは矢印で示され、この矢印をクリックしてタスク階層を展開または縮小できます。

- **グループ・ビュー**  
数値属性データの属性値ごとのサマリーを作成できます。
- **コンパクト**  
オン/オフの切替えスイッチとして機能します。「コンパクト・ビュー」には、「リスト・ビュー」や「グループ・ビュー」より、表示される情報の行が増えます。

#### 「ワークリスト」ページからのタスクの表示

「ワークリスト」には、作業中のタスクのリストおよびステータスが表示されます。ワークリストから、タスクの検索やタスクのリストのフィルタを行えます。

管理者が今後のタスク・オプションを有効にしている場合、現在使用可能なアイテムだけでなく、今後のワークフローのアイテムも表示できます。

進行中のタスクに関する情報を簡単に取得する方法は次のとおりです。

- 「すべて」、「遅延」、**「本日期限」**、**「7日後に期限」**のステータスのサマリーが表示されます。
- 「**フィルタ**」バーを使用して、名前やタイプ、ステータスなどの属性でフィルタできます。

その後、タスクの横にある「**アクション**」アイコンをクリックしてリストにあるタスクを**開く**ことができます。

「タスク」ページからタスクを表示するには:

1. ホームページで「**タスク**」をクリックします。
2. 左側の「**タスク**」タブをクリックしてワークリストを表示します。
3. 自分のタスクのみを表示するには、自分のタスクの表示  をクリックします。

目的のタスクに簡単にアクセスする方法は、「**検索**」フィールドを使用することです。**ワークリスト**の日付以外の任意のフィールド(テキストまたは数値)で検索できます。たとえば、「Accounts」という語で検索すると、名前に Accounts が含まれるすべてのタスク (Accounts Payable、Accounts Receivable など)が表示されます。フィルタ機能を使用して特定のタスクのリストにアクセスすることもできます。「検索」フィールドの隣にある「**フィルタ**」アイコンをクリックしてフィルタを設定します。

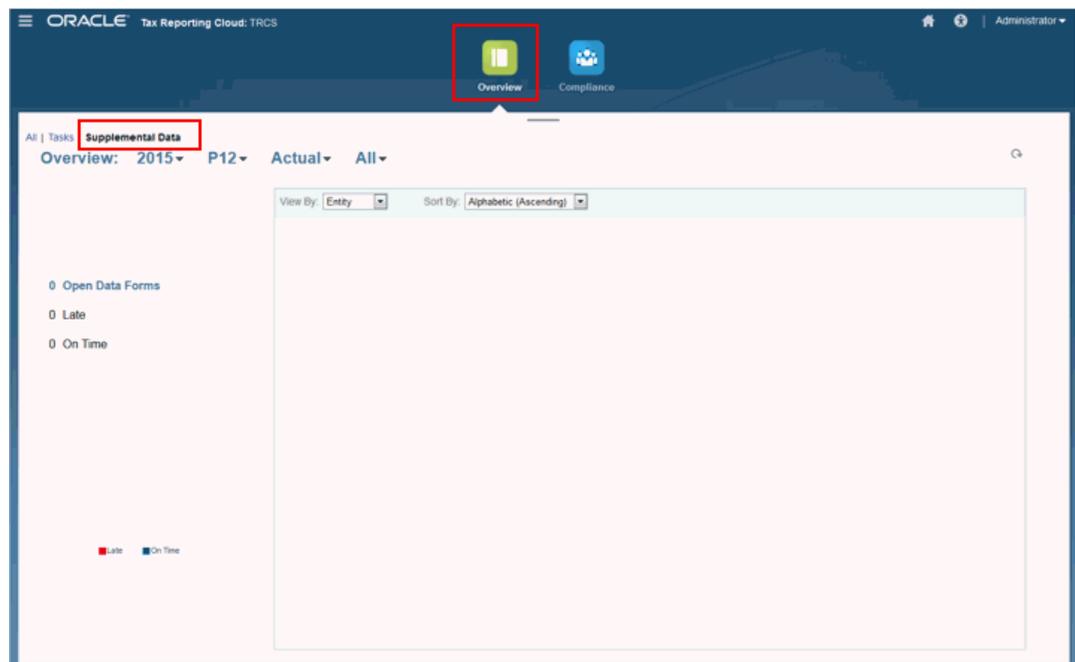
## 「タスク・アクション」ページからのタスクの表示

電子メール通知のリンクから起動できる「タスク・アクション」ページから、タスクを表示および更新できます。

## 補足データ・タスクの表示

補足データ・タスクを表示するには:

1. ホーム・ページで、「**業務**」をクリックします。
2. 「**概要**」をクリックします。
3. 「**補足データ**」タブを選択してすべてのタスクを表示します。



4. 視点で、年、期間およびシナリオを選択します。
5. 円グラフで、タスクの異なるステータス・スライスをクリックします。円グラフに、タスクの次のステータスが表示されます。
  - 完了したタスクの数
  - 予定どおり準備済のタスクのパーセンテージ
  - 予定どおり承認済のタスクのパーセンテージ
  - 却下されたタスク
  - アラート
6. 「**表示基準**」を選択してエンティティのタイプをフィルタし、オプションを選択します。
  - エンティティ
  - フォーム
  - データセット

- 頻度
7. 「**ソート基準**」を選択してタスクをフィルタし、オプションを選択します。
    - 件数(昇順)
    - 件数(降順)
    - アルファベット(昇順)
    - アルファベット(降順)
  8. ステータスを表示するタスクのグループをクリックします。
    - オープン・タスク
    - 遅延
    - 予定どおり

「タスク」ダイアログ・ボックスが表示されます。

Tasks			
Name	Task Code	Schedule	Description
Consolidate Data	ConsolDataNA	Year End Provision	<a href="#">i</a>
Lock Data	Consol03	Year End Provision	<a href="#">i</a>
Perform Property Tax Reconciliations	ARCSPROPERTY	Year End Provision	<a href="#">i</a>
Perform Sales & Use Tax Reconciliations	ARCSSales	Year End Provision	<a href="#">i</a>
Prepare Tax Account Reconciliations	ARCSTaxReview	Year End Provision	<a href="#">i</a>
Review Cash Taxes	Report01	Year End Provision	<a href="#">i</a>
Review Country by Country Dashboard	CBC	Year End Provision	<a href="#">i</a>
Review Country by Country Detail	CBCDetail	Year End Provision	<a href="#">i</a>
Review Financial Reports	Reports01	Year End Provision	<a href="#">i</a>

Export Help Close

9. 各タスクの情報を確認します。
  - 名前
  - タスク・コード
  - スケジュール
  - 説明
10. **オプション: 「エクスポート」** をクリックしてファイルを Excel にエクスポートします。

11. 「閉じる」をクリックします。

## 連結プロセス

連結は、複数の子孫エンティティのデータを、親エンティティの単一で一貫した全体に結合するプロセスです。

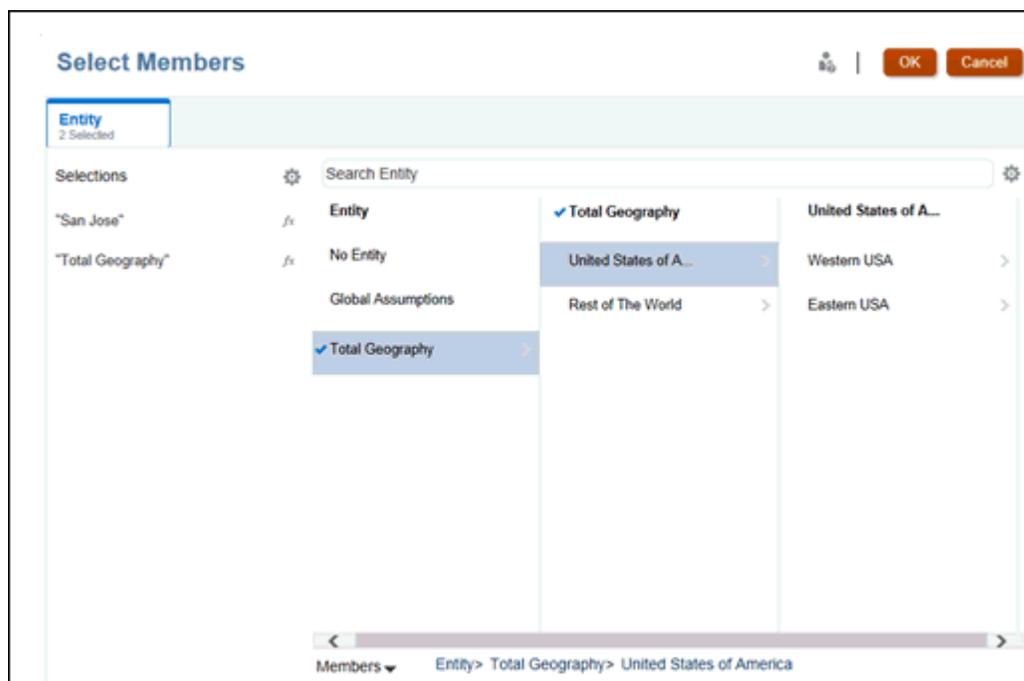
連結は、次のような多くのフォームから実行できます。

- CbCR サマリー
- CbCR 詳細
- 当期引当金(国と地域)
- 一時差異(国と地域)
- 繰延税金(国と地域)
- RTA (国と地域)
- TAR (国と地域)

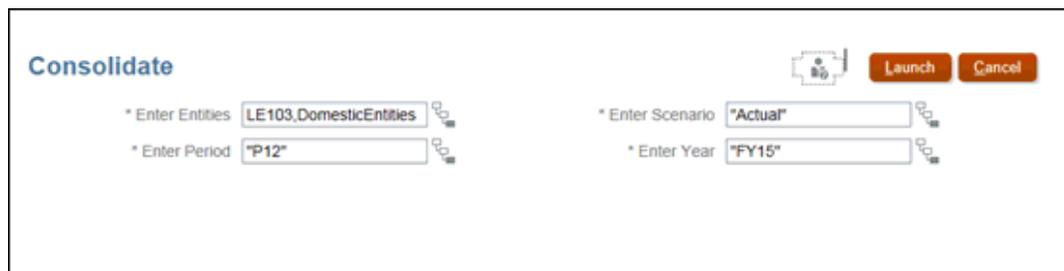
連結を実行するには:

1. 連結を必要とするレポートを選択します。
2. 「アクション」で、「連結」を選択します。

3. エンティティの入力の横にあるメンバー・セレクタ  をクリックします。現在の選択が「選択」の下に表示されます。



4. **エンティティの検索**で、使用する連結のレベルをクリックします。
5. 作成する連結に達するまでメンバーの選択を続け、「**OK**」をクリックします。



6. 「**起動**」をクリックします。  
確認メッセージで、連結が成功したことを確認します。

## 外貨換算

多国籍グループの一員である企業は、通常、現地通貨で事業を行います。すべての子会社の財務諸表が親会社の財務諸表に連結される場合、これらの複数の通貨は、親のレポート通貨に換算される必要があります。

複数通貨のアプリケーションが有効な場合、そのアプリケーションで有効な任意のレポート通貨に換算できます。この通貨換算は、指定した為替レートを使用して実行されます。

親エンティティがまだ連結されていないか、ステータスが「影響」の場合、システムでは常に先に親の連結が実行されるため、レポート通貨に換算を適用する前にデータの正確性が保証されます。税金勘定科目の期首残高は、前年度の P12 の期末レートを使用して変換される必要があります。

換算は、次のような多くのフォームから実行できます。

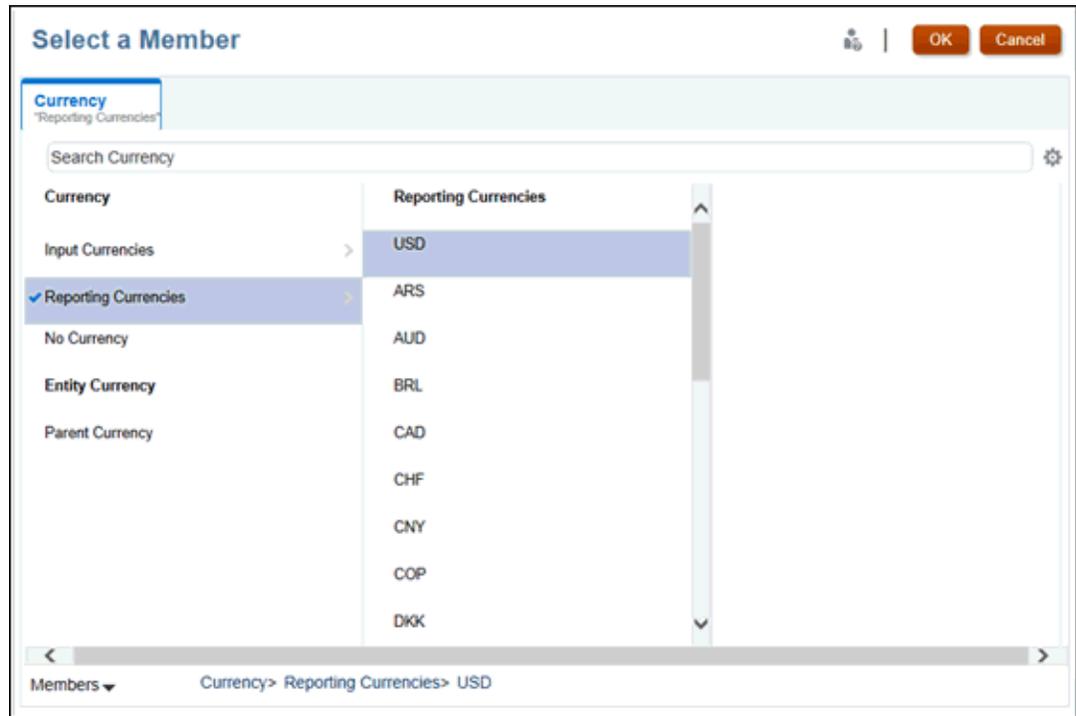
- CbCR サマリー
- CbCR 詳細
- 当期引当金(国と地域)
- 一時差異(国と地域)
- 繰延税金(国と地域)
- RTA (国と地域)
- TAR (国と地域)

詳細は、次のビデオを参照してください:  [Tax Reporting Cloud での外貨換算の実行](#)

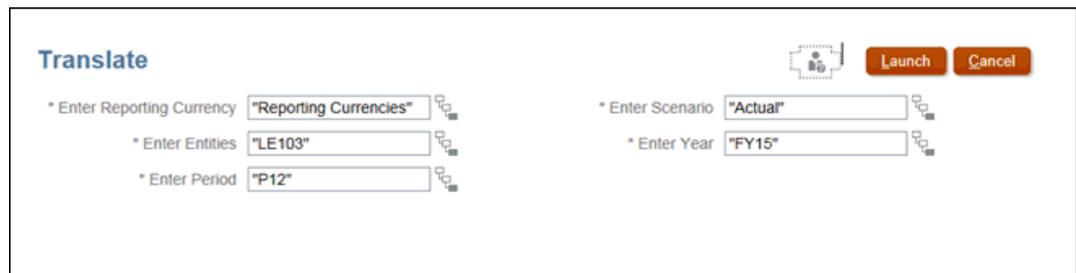
レポート通貨に換算するには:

1. 換算を必要とするフォームを選択します。
2. 「アクション」で、「換算」を選択します。

3. レポート通貨の入力の横にあるメンバー・セレクトア  をクリックします。



4. 「レポート通貨」で、換算するレポート通貨を選択してから「OK」をクリックします。



5. 「起動」をクリックします。  
確認メッセージで、換算が成功したことを確認します。通貨の値は、選択したレポート通貨に換算されます。

# 5

## フォームの操作

### 関連リンク:

- [フォームの概要](#)
- [フォームへのデータの入力](#)
- [フォーム・バージョンについて](#)
- [データ入力フォームへのアクセス](#)
- [データ入力フォームへのアクセス権の割当て](#)
- [フォームのカスタマイズ](#)
- [Microsoft Excel へのデータのエクスポート](#)
- [アーティファクトのダイレクト URL のコピー](#)
- [フォーム 2.0 での操作](#)

## フォームの概要

Tax Reporting では、すぐに使用可能な各種のフォームが提供されており、計算、調整の入力、財務データを使用した連邦および地方レベルでの当期税金と繰延税金の承認に必要なタスクを迅速かつ容易に実行し、US GAAP や IFRS レポートなどの会計基準に準拠することができます。

「税引当(国)」と「税引当(地域)」の両方のクラスターで、「**フォーム**」カードを使用してフォームのリストにアクセスし、リストから必要なフォームを直接開くことができます。

許可されたユーザーおよびグループに、選択されたフォームにアクセスする権限を割り当てることができます。手順については、[データ入力フォームへのアクセス権の割当て](#)を参照してください。

### ノート:

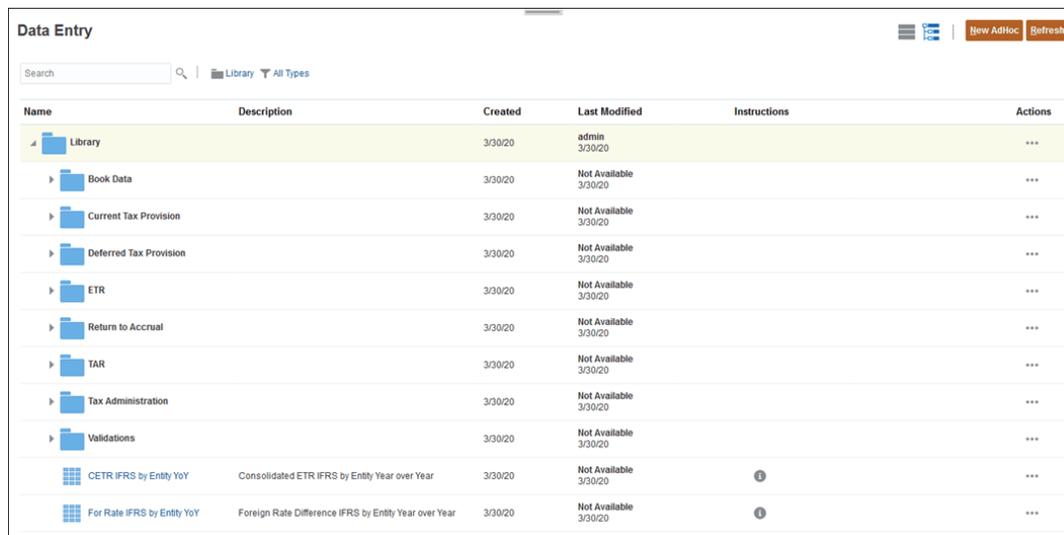
書込みアクセス権のあるセル(白の背景のセル)でのみデータを入力したり、変更できます。サービス管理者は、どのユーザーがどのデータを表示したり、変更できるかを設定します。

フォームのリストにアクセスするには:

1. ホーム・ページで、「**ライブラリ**」を選択します。
2. 「**フォーム**」タブを選択すると、使用可能なフォームが表示されます。フォームはフォルダに編成されています。

 ノート:

管理者でないかぎり、最上位フォルダにファイルを追加することはできません。



Name	Description	Created	Last Modified	Instructions	Actions
Library		3/30/20	admin 3/30/20		...
Book Data		3/30/20	Not Available 3/30/20		...
Current Tax Provision		3/30/20	Not Available 3/30/20		...
Deferred Tax Provision		3/30/20	Not Available 3/30/20		...
ETR		3/30/20	Not Available 3/30/20		...
Return to Accrual		3/30/20	Not Available 3/30/20		...
TAR		3/30/20	Not Available 3/30/20		...
Tax Administration		3/30/20	Not Available 3/30/20		...
Validations		3/30/20	Not Available 3/30/20		...
CETR IFRS by Entity YoY	Consolidated ETR IFRS by Entity Year over Year	3/30/20	Not Available 3/30/20		...
For Rate IFRS by Entity YoY	Foreign Rate Difference IFRS by Entity Year over Year	3/30/20	Not Available 3/30/20		...

3. フォームを展開するとその内容が表示されます。

次のフォームを使用できます。

表 5-1 使用可能なフォーム

フォーム・フォルダ	タブ
帳簿データ	<p>貸借対照表 データは、「データ入力」データ・ソースから表示されます。</p> <p>ソース別貸借対照表 管理対象データ、補足データ、データ入力を含むデータ・ソース合計を提供します。データはロードまたは手動で入力できます。</p> <p>損益計算書 データは、「データ入力」データ・ソースから表示されます。</p> <p>ソース別損益計算書 管理対象データ、補足データ、データ入力を含むデータ・ソース合計を提供します。データはロードまたは手動で入力できます。</p>
CbCR(国別)	<p>ファイリング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>表 3 の情報</li> <li>構成エンティティ情報</li> <li>管轄ドキュメント仕様</li> <li>メッセージ仕様</li> <li>レポート・エンティティ情報</li> </ul>

表 5-1 (続き) 使用可能なフォーム

フォーム・フォルダ	タブ
	<b>リスク評価</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 資産比率 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 管轄別資産比率 YoY</li> <li>- 資産比率 YoY</li> </ul> </li> <li>• 従業員比率 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 管轄別従業員比率 YoY</li> <li>- 従業員比率 YoY</li> </ul> </li> <li>• 株主資本比率 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 管轄別株主資本比率 YoY</li> <li>- 株主資本比率 YoY</li> </ul> </li> <li>• 未払所得税比率 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 管轄別未払所得税比率 YoY</li> <li>- 未払所得税比率 YoY</li> </ul> </li> <li>• 支払済所得税比率 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 管轄別支払済所得税比率 YoY</li> <li>- 支払済所得税比率 YoY</li> </ul> </li> <li>• 利益率 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 管轄別利益率 YoY</li> <li>- 利益率 YoY</li> </ul> </li> <li>• 収益率 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 管轄別収益率 YoY</li> <li>- 収益率 YoY</li> </ul> </li> </ul>
	<b>表 1</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 表 1</li> <li>• 表 1 管轄別</li> <li>• 表 1 のデータ入力</li> </ul>
	<b>表 2</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 表 2</li> <li>• 表 2 のデータ入力</li> </ul>
	<b>表 3</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 表 3</li> <li>• 詳細</li> </ul>
当期税引当	<b>- 現在の引当金</b> 当期引当 現在の引当金(地域) 税額控除 税額控除(地域) 課税損失 課税損失(地域)
繰延税引当	<b>- 貸借対照表方式</b> - 固定資産 <b>- 繰延引当</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 繰延税金</li> <li>• 繰延税金(地域)</li> </ul>

表 5-1 (続き) 使用可能なフォーム

フォーム・フォルダ	タブ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 繰延引当 IFRS               <ul style="list-style-type: none"> <li>• 繰延税金転記 DTNR</li> <li>• DTNR</li> </ul> </li> </ul>
- 一時差異	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 一時差異               <ul style="list-style-type: none"> <li>• 一時差異(国)</li> <li>• 一時差異(地域)</li> </ul> </li> </ul>
ETR	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 支払税金 ETR               <ul style="list-style-type: none"> <li>• エンティティ 別支払税金前年同期比%</li> <li>• エンティティ 別支払税金前年同期比金額</li> <li>• 管轄別支払税金前年同期比%</li> <li>• 管轄別支払税金前年同期比金額</li> </ul> </li> <li>- 連結 ETR               <ul style="list-style-type: none"> <li>• エンティティ 別 CETR 前年同期比</li> <li>• エンティティ 別 CETR 前年同期比金額</li> <li>• 管轄別 CETR 前年同期比</li> <li>• 管轄別 CETR 前年同期比金額</li> <li>• 連結 ETR</li> <li>• エンティティ 別外国レート 差異前年同期比</li> <li>• エンティティ 別外国レート 差異前年同期比金額</li> <li>• 管轄別外国レート 差異前年同期比</li> <li>• 管轄別外国レート 差異前年同期比金額</li> </ul> </li> <li>- 連結 ETR IFRS               <ul style="list-style-type: none"> <li>• エンティティ 別 CETR IFRS 前年同期比</li> <li>• 連結 ETR IFRS</li> <li>• エンティティ 別外国レート IFRS 前年同期比</li> </ul> </li> <li>- 国の ETR               <ul style="list-style-type: none"> <li>• 法定 ETR(国)前年同期比</li> <li>• 法定税率 vs 法定 ETR (国)</li> <li>• 法定 ETR(国)</li> </ul> </li> <li>- 地域の ETR               <ul style="list-style-type: none"> <li>• 法定 ETR(地域)前年同期比</li> <li>• 法定税率 vs 法定 ETR(地域)</li> <li>• 法定 ETR(地域)</li> </ul> </li> </ul>
申告額の未払処理調整	<ul style="list-style-type: none"> <li>• RTA (申告額の未払処理調整(国))</li> <li>• RTA (地域) (申告額の未払処理調整(地域))</li> </ul>
TAR	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 現在の未払税</li> <li>• 現在の未払税(地域)</li> <li>• TAR の繰延税金</li> <li>• TAR(地域)の繰延税金</li> <li>• TAR (税金勘定科目ロールフォワード(国))</li> <li>• TAR (地域) (税金勘定科目ロールフォワード(地域))</li> </ul>

表 5-1 (続き) 使用可能なフォーム

フォーム・フォルダ	タブ
税金管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CbCR 自動化</li> <li>• 連結税率</li> <li>• 連結税率 IFRS</li> <li>• データ・ステータス</li> <li>• データ・ステータス CbCR</li> <li>• FX レート全年</li> <li>• FX レート・オーバーライド</li> <li>• FX レート確認</li> <li>• FX レート単一期間</li> <li>• NIBT FX レート・オーバーライド</li> <li>• パーセンテージ集計</li> <li>• RTA 自動化</li> <li>• 税金自動化(法定住所)</li> <li>• 税金自動化(法定住所地域)</li> <li>• 税金自動化エンティティ</li> <li>• 税金自動化エンティティ(全地域)</li> <li>• 税金自動化エンティティ(地域)</li> <li>• 税金自動化(グローバル)</li> <li>• 税金自動化(グローバル地域)</li> <li>• 税率</li> <li>• TRCS_Opening Balance Override 構成フォーム</li> <li>• TRCS_Ownership Detail</li> <li>• CbCR FX レート・オーバーライド</li> <li>• 損失エンティティ</li> <li>• TRCS_NIBT FX Rates Override - WAR</li> <li>• TRCS 期首残高オーバーライド</li> <li>• TAR 自動化</li> <li>• FX レート計算済加重平均</li> </ul>
検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 税金合計の検証</li> <li>• 税金合計(国)の検証</li> <li>• 税金合計(地域)の検証</li> </ul>

関連項目: [Oracle Smart View for Office \(Mac and Browser\) の使用のフレックス・フォーム](#)

## フォームへのデータの入力

管理者は、データの入力、更新、分析、出力およびレポートを行うコンテナとしてフォームを設計します。

データを構造化されたフォームのセルに入力します。各フォームには特定の用途があります。たとえば、管理者は製品ラインの収益の計画の作成または今年度の費用予測に対する前年の費用実績の比較専用のフォームを設計します。

管理者は、フォームの目的を念頭に、特定のディメンションおよびメンバーでフォームを設定し、これが行および列の見出しに反映されます。ディメンションの一例は年で、そのメンバーには FY21、FY22、FY23 などがあります。セルには選択したメンバーのデータが表示されません。

## フォーム 2.0 の Tax Reporting の例

次に示すのは、2.0 バージョンの Tax Reporting のフォームの例です:

Scenario	Years	Currency	P1		P2		P3		P4		P5		P6		P7
			Approval Status	Calculation Status											
Operations(USD)			Impacted	No Data	No Data	No Data	No Data								
Distributions(USD)			Impacted	No Data	No Data	No Data	No Data								
Vision MRC(USD)			Impacted	No Data	No Data	No Data	No Data								
Education L&L(USD)			Impacted	No Data	No Data	No Data	No Data								
Vision Consulting(USD)			Impacted	No Data	No Data	No Data	No Data								
Vision US Branch(USD)			Impacted	No Data	No Data	No Data	No Data								
Vision Canada(CAD)			Impacted	No Data	No Data	No Data	No Data								
North American(USD)			Impacted	No Data	No Data	No Data	No Data								
Vision Argentina(ARS)			Impacted	No Data	No Data	No Data	No Data								
Vision Brazil(BRL)			Impacted	No Data	No Data	No Data	No Data								
South American(USD)			Impacted	No Data	No Data	No Data	No Data								
Vision Ukraine(UAH)			Impacted	No Data	No Data	No Data	No Data								
Vision Netherlands(EUR)			Impacted	No Data	No Data	No Data	No Data								
Vision Germany(EUR)			Impacted	No Data	No Data	No Data	No Data								
Vision UK 1(GBP)			Impacted	Impacted	Impacted										
Vision UK 2(GBP)			Impacted	Impacted	Impacted										
Vision UK 3(GBP)			Impacted	Impacted	Impacted										
Vision Spain(EUR)			Impacted	No Data	No Data	No Data	No Data								
Vision France(EUR)			Impacted	No Data	No Data	No Data	No Data								
Vision CFC(CFH)			Impacted	Impacted	Impacted										
Vision Italy(EUR)			Impacted	No Data	No Data	No Data	No Data								
EMEA(EUR)			Impacted	Impacted	Impacted										
Vision Thailand(THB)			Impacted	No Data	No Data	No Data	No Data								

## フォーム・バージョンについて

フォームは現在、2つのバージョンで使用可能です:

- **フォーム 1.0:** Oracle ADF Fuse コンポーネントを使用する Slick Grid を使用しています
- **フォーム 2.0:** Oracle JET コンポーネントを使用する Slick Grid を使用しています

現在、両方のフォーム・バージョンが同時に同じビジネス・プロセスに共存します。既存のアプリケーションについては、「フォーム 1.0」がデフォルトのバージョンです。フォーム 1.0 の動作に変更はありません。引き続き、これらのフォームを以前と同様にビジネス・プロセスで作成および更新できます。新規作成または再作成されたアプリケーションについてはすべて、デフォルトは「フォーム 2.0」になります。

### フォーム 2.0 の機能

フォーム 2.0 では、既存のフォーム 1.0 ランタイムの機能を使用し、Oracle JET コンポーネントで Slick Grid を使用してそれを拡張することで、レンダリングの高速化、洗練性、使いやすさおよび一貫性を実現します。

フォーム 2.0 の機能は次のとおりです:

- ユーザビリティと使いやすさの大幅な向上
- スケーラビリティの向上とパフォーマンスの強化
- ランタイムの更新のみ。ランタイム・フォームでのみ、新しいテクノロジーおよびユーザー・インタフェースが採用されています
- フォーム・アクションのための標準化された「アクション」メニュー
- 新しい「POV 設定」メニュー
- 特定の共通フォーム・グリッド・アクションを実行するための新しいクイック・ツールバー

- グリッドのパフォーマンスの向上
- 複数セルの選択およびコメント入力を含む、コメントの更新の強化
- 単一のオプションを使用してコメントと添付を追加可能
- シームレスな垂直または水平方向のスクロール
- 画面スペースのより効果的な利用
- セルからセルへのナビゲーションの高速化
- データ・グリッド間の迅速なスクロール
- フォームおよび POV のドロップダウンで、検索機能を備えた新しい洗練された階層型メニュー・セレクタを使用
- ポップアップの削減
- わかりやすい新しいアイコンおよびダイアログ
- 組み込みの洗練されたライン・アイテムの詳細(サポート詳細に代わるもの)
- ウィザードベースのビジネス・ルールの実行時プロンプト。実行時プロンプトは、右側からドロワーとして表示されます
- グリッド上でのオンザフライ計算
- データ取得のためのステートレス・プロトコル
- 大きなグリッドにおけるリフレッシュ時間の短縮
- Web フォームと Oracle Smart View for Office の間の一貫性の向上
- Web アド・ホックにおける改善
- 新しいフォーム名を指定して「名前を付けて保存」を実行する機能
- 「編集」によりフォーム・デザイナを新しい動的タブで開く

### フォーム・バージョンの設定

フォーム 1.0 を使用していた場合、フォーム 2.0 を使用するために必要な移行はありません。アプリケーション設定を使用して、2 つのバージョンを容易に切り替えることができます。フォームは、指定したバージョンに対するランタイム環境にレンダリングされます。フォームの再設計は必要ありません。

フォーム・バージョンを指定するには:

1. 「アプリケーション」、「設定」の順にクリックします。
2. 「その他オプション」で、「フォーム・バージョン」設定を探します。
3. フォーム・バージョンを選択します。既存のアプリケーションのデフォルトの「フォーム・バージョン」は、「フォーム 1.0」です。新規作成または再作成されたアプリケーションについてはすべて、デフォルトは「フォーム 2.0」になります。

### フォーム 2.0 に関する考慮事項

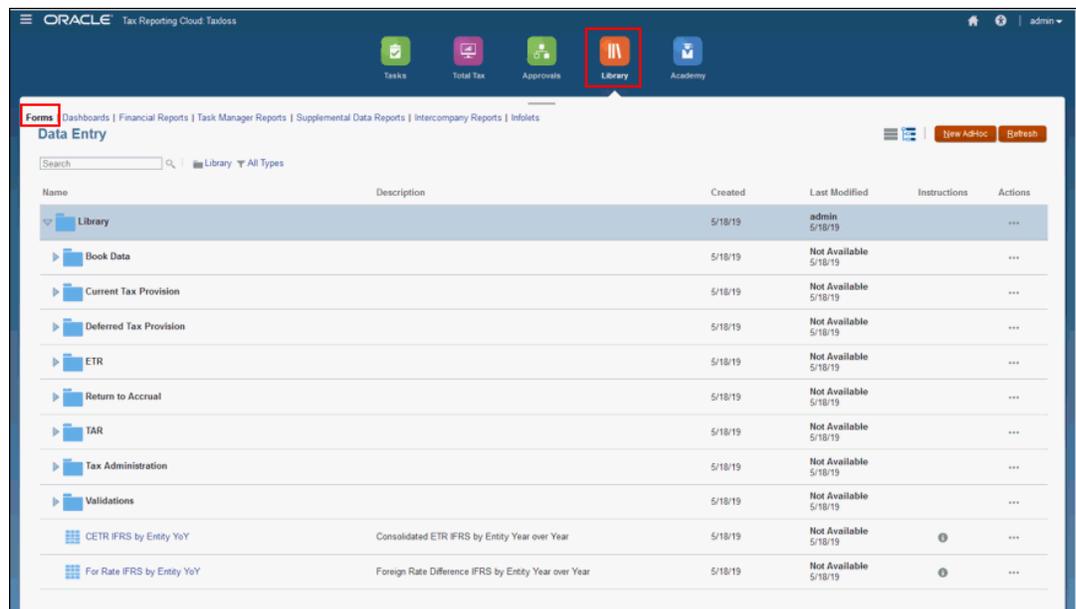
- フォーム 2.0 をタスク・マネージャで使用することはできません。「フォーム・バージョン」アプリケーション設定が「フォーム 2.0」に設定されている場合でも、タスク・マネージャのデフォルトは「フォーム 1.0」になります。
- 自動保存オプションは、フォーム 2.0 ではサポートされていません。かわりに、オンザフライ計算を実行して、変更をデータベースに送信してリフレッシュすることなく変更を表示します。

- フォーム 2.0 の実行時フィルタリングでは列のフィルタリングがサポートされています。行に対する実行時フィルタリングは、フォーム 2.0 の将来の更新でサポートされる予定です。
- サービス管理者は設計時にフォームのフォーマット・ルールを定義し、ユーザーは実行時にスタイルを使用してそのフォーマット・ルールをフォーム 2.0 のフォームに適用できません。ビジネス・プロセスの管理ガイドの「実行時のフォームへのフォーマット・ルールの適用」を参照してください。
- Planning モジュール構成ウィザードは、フォーム 2.0 ではサポートされていません。
- 将来の Web フォームの拡張はすべて、フォーム 2.0 で行われる予定です。

## データ入力フォームへのアクセス

データ入力フォームにアクセスするには:

1. ホーム・ページから、次のいずれかのオプションを使用してフォームにアクセスします。
  - 「ライブラリ」、「フォーム」の順に選択します
  - 「税引当(国)」、「フォーム」の順に選択します。
  - 「税引当(地域)」、「フォーム」の順に選択します。



2. リストを展開して、開くフォームを選択します。フォームが直接開かれ、入力または確認のために使用可能になります。
3. 「OK」をクリックして、「閉じる」をクリックします。

 ノート:

デスクトップでレッドウッド・エクスペリエンス以外のテーマを使用している場合、行、列、POV またはセルを右クリックすると、「アクション」メニューと同じオプションが表示されます。レッドウッド・エクスペリエンスが有効になっている場合、フォームを右クリックすると、「アクション」メニューではなくフォーム固有のオプションが表示されます。

## データ入力フォームへのアクセス権の割当て

データ入力フォームにアクセス権を割り当てるには:

1. ホーム・ページで、「ライブラリ」を選択し、次に「フォーム」を選択します。
2. アクセス権を割り当てるフォームを強調表示して、「アクション」  をクリックし、「権限の割当て」を選択します。

▼	Current Tax Provision		12/19/16	Not Available 12/19/16	
▼	Current Provision		12/19/16	Not Available 12/19/16	
	Current Provision	Current Provision National	12/19/16	Not Available 12/19/16	 
	Current Provision Regional	Current Provision Regional	12/19/16	Not Available 12/19/16	
	Current Provision Regional DEV	Current Provision Regional	12/19/16	Administrator	

3. 「権限」 タブをクリックします。

 **Assign Permission**  | Add User/Group OK Close

General | **Permissions**



Image	Name	Permission	Delete
	Default Access	<input type="radio"/> Read <input checked="" type="radio"/> Write <input type="radio"/> None	

4. **オプション:** 既存のユーザーまたはグループに対して、適切な権限を選択します。
  - 読取り
  - 書込み
  - なし
5. **オプション:** ユーザーまたはグループを追加するには、次のステップを実行して「OK」をクリックします。

- a. 「ユーザー/グループの追加」をクリックします。
- b. 「ユーザー」または「グループ」タブを選択します。
- c. アクセス権を割り当てるユーザーまたはグループを選択します。
- d. 「OK」をクリックして、「閉じる」をクリックします。
- e. 選択したユーザーまたはグループに適切な権限を選択します。

Image	Name
	William Radcliff
	Barry Mills
	Jacques Picard
	Frank Taylor
	Carol Judd

6. 「OK」をクリックして、「閉じる」をクリックします。

## フォームのカスタマイズ

### 視点の選択

Tax Reporting アプリケーションでは、データ入力フォームおよび財務レポートは、税金勘定科目ごとに有効な視点(POV)を持つように構成されます。ただし、追加の分析が必要な場合は、ナビゲーション用にカスタマイズされたグリッドを定義できます。また、Oracle Smart View for Office を使用してデータにアクセスする場合、カスタマイズされたグリッドを定義できません。

視点には次のメンバーが含まれます。

- シナリオ
- 年

- 期間
- エンティティ
- 連結
- 管轄
- 複数 GAAP
- 通貨

視点を変更する場合、次の2つのオプションを使用できます。

- POV オプションを個別に変更
- 複数の POV オプションを一度に変更

POV オプションを個別に変更するには:

1. データ入力フォームまたは財務レポートを選択します。
2. 表示されている POV で、シナリオや期間などの選択済オプションをクリックします。

Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency
Actual	FY16	P12	Operations(USD)	Entity Input	All National	Local GAAP	Entity Currency

3. メンバー・セレクタで、異なる年などの POV の新しいメンバーを選択してから、「OK」をクリックします。

4. 「実行」  をクリックして POV を再設定します。

複数の POV オプションを一度に変更するには:

1. データ入力フォームまたは財務レポートを選択します。

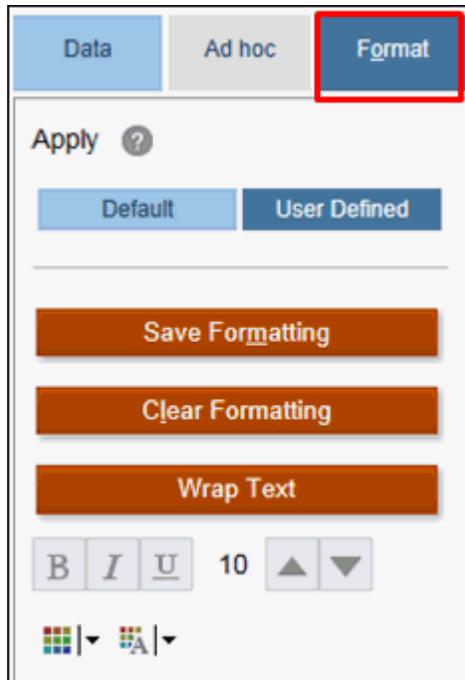
2. 「メンバーの編集」  をクリックします。

Scenario	Actual		
Years	FY16		
Period	P12		
Entity	Total Geography		
Consolidation	Entity Total		
Jurisdiction	United States		
Multi-GAAP	Local GAAP		
Currency	Entity Currency		

- 異なる年などの POV で変更するメンバーを選択してから、「適用」をクリックして POV を再設定します。

## フォーマットによるデータの強調

単一のフォームとアド・ホック・グリッドでは、様々なフォーマット・オプションによって特定のデータを強調できます。たとえば、フォント・サイズを増減したり、フォントの色および背景を設定できます。顧客の色を選択したり、設定したフォーマットを保存またはクリアすることもできます。また、テキスト・セルでテキストをラップできます。



フォーマット用に次のオプションを選択できます。

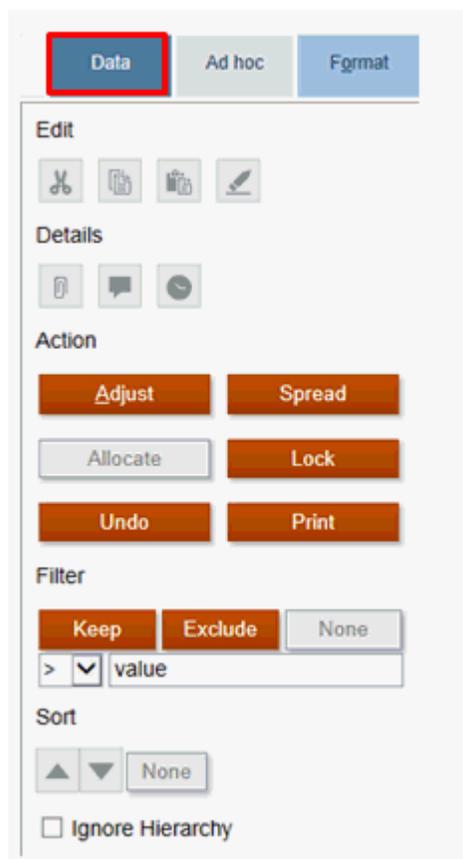
- **デフォルト** - アプリケーションで適用されるフォーマットで、状態が示されます(セルに「サポート詳細」があるなど)。
- **ユーザー定義** - ユーザーが適用したフォーマット。

### ノート:

フォーマット・スタイルが競合する場合、デフォルト・フォーマットが優先されません。たとえば、セルをフォーマットした後、その値を変更するとします。変更したが、まだ保存していない値のデフォルト・フォーマットが、そのセルに適用したフォーマットより優先されます。

## データのフォーマット

「データ」ダイアログ・ボックスのオプションを使用して、データ入力フォームまたは財務レポートのデータをフォーマットできます。アド・ホック・グリッドの「データ」タブをクリックして、データの操作、注釈付けおよびフィルタを行います。



たとえば、表示するデータをフィルタするには、行または列を選択します。次に、「フィルタ」で演算子を選択して値を入力し、「保持」または「除外」をクリックします。

次のオプションから選択します。

- 「編集」で、エントリの切取り、コピー、貼付けまたはクリアを行うことができます。
- 「詳細」で、添付の追加、コメントの作成、または変更履歴の表示を行うことができます。
- 「アクション」で、次の変更を行うことができます。
  - パーcentageまたはプラス/マイナス値による値の調整
  - グリッド分散の設定による特定のセル値の調整または新しい値の入力。
  - 配賦
  - セルのロックまたはロック解除
  - エントリを元に戻す
  - フォームまたはレポートの印刷
- 「フィルタ」で、保持または除外するセルを制御できます。フィルタのフィルタ比較値も設定できます。
- 「ソート」で、昇順または降順ソートを選択できます。
- ソートの「階層無視」を選択できます。

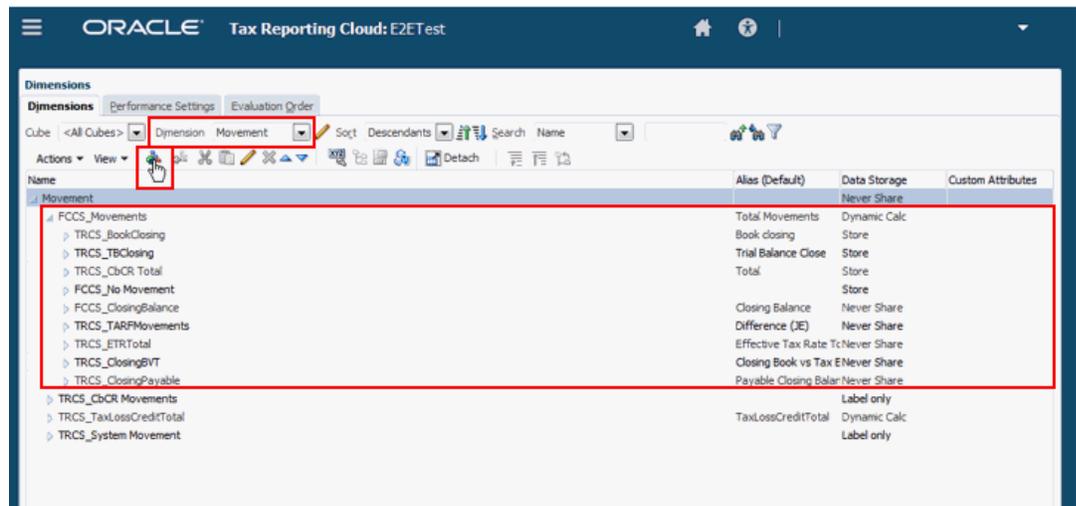
## 増減ディメンション階層のカスタマイズ

増減ディメンション下に追加のユーザー定義メンバーを作成し、これらのメンバーに対して連結や換算を行えます。

開始時の期首残高の増減や CTA (通貨換算調整)の計算は提供されていません。

カスタマイズした増減ディメンション・メンバーを作成するには:

1. ホーム・ページで「ナビゲータ」を選択し、「作成および管理」で「ディメンション」を選択します。
2. 「ディメンション」で「増減」を選択します。



3. 「FCCS\_Movements」を展開し、「子の追加」をクリックします。
4. 「子の追加」画面で、新しい増減メンバーの名前(たとえば、IncomeSegmentsTotal)を入力します。

5. 「子の追加」画面で、次の制限に基づき、新しいカスタム増減メンバーのフィールドに入力します。

表 5-2 増減メンバーのプロパティの制限

プロパティ	基本メンバー	親メンバー	コメント
名前	名前は次の文字で始まりません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>"TRCS_"</li> <li>"FCCS_"</li> <li>"PBCS_"</li> </ul>	名前は次の文字で始まりません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>"TRCS_"</li> <li>"FCCS_"</li> <li>"PBCS_"</li> </ul>	予約語: <ul style="list-style-type: none"> <li>"TRCS_"</li> <li>"FCCS_"</li> <li>"PBCS_"</li> </ul>
別名	別名はディメンション・メンバー間で一意です	別名はディメンション・メンバー間で一意です	別名が一意でない場合、レポートまたは Smart View で別名を使用すると、エラーになります。
データ・ストレージ	保管	次のいずれかを使用します <ul style="list-style-type: none"> <li>保管</li> <li>共有しない</li> </ul>	動的計算を使用しません
2パス計算	選択解除	選択解除	
プラン・タイプ	連結	連結	他のプラン・タイプを選択解除します
データ型	未指定	未指定	

6. 「保存」をクリックし、「データベースのリフレッシュ」をクリックします

- ステップ 4 から 6 までを繰り返してすべてのメンバーを追加し、FCCS\_Movements の下の増減階層を完成させます。例:

表 5-3 増減階層の例

FCCS_Movements	親エンティティ	子エンティティ
	IncomeSegmentsTotal - Income Segments - Total	<ul style="list-style-type: none"> <li>TBClosing (共有)</li> <li>RecExp - Recovered Expenses</li> <li>UnExp - Unusual Income and Expenses</li> <li>ProfitBrands - Profit on Local Brands</li> <li>ProfitRelParties - Profit from Related Parties</li> </ul>

- 「勘定科目」をディメンションとして選択し、「FCCS\_Income Statement」を展開して「子の追加」をクリックします。勘定科目階層に必要な子を追加します。
- ホーム・ページで「ナビゲータ」を選択し、「作成および管理」で「フォーム」を選択します。
- 作成したメンバーを使用してカスタム・フォームを作成し、**連結**します。
  - 「フォーム」で、「追加」をクリックし、新規カスタム・レポートの名前を入力します。
  - 「プロパティ」タブで、レポートの名前を入力します。
  - 「レイアウト」タブで、レポートの「POV」、「行」および「列」を選択します。
  - 「ビジネス・ルール」タブで次のルールを追加します。
    - Consol - Rule - Consolidate
    - Consol - Rule - Translate
- 新しいレポートに対して「保存」をクリックします。
- ホーム・ページで「ライブラリ」をクリックし、新しいフォームを選択します。
- データを入力し、「保存」をクリックします。
- 「連結」をクリックします。親エンティティでデータを確認します。
- オプション:** 異なる通貨を使用する場合、「換算」をクリックします。親エンティティでデータを確認します。

## Microsoft Excel へのデータのエクспорт

フォームから Microsoft Excel にデータをエクспортすることにより、値をコピーしてビジネス・プロセスに貼り付ける前に、Excel で“what-if”シナリオを確認できます。

データのエクспортについて:

- ビジネス・プロセスは、サポート詳細、セル・コメント、数値のフォーマット、アプリケーション名、ユーザー、フォーム・フォルダ、属性、通貨タグまたはパーセンテージの詳細を Excel にエクスポートしません。
- 小数点以下の完全な桁数は数値としてエクスポートされますが、精度を維持するためにスケールリングは適用されません。エクスポートされたデータを Oracle Smart View for Office で表示すると、データはビジネス・プロセス・フォームの場合と同様に表示されます。
- メンバーの別名は、管理者がこれを表示するようにフォームを設定している場合に表示されます。
- Excel からビジネス・プロセスに貼付けで戻される値は、フォーマットされていないデータである必要があります。

フォームから Microsoft Excel にデータをエクスポートするには:

1. フォームを開きます。
2. 「アクション」、「スプレッドシートのエクスポート」、「エクスポート」の順にクリックします。
3. ファイルを開くか保存します。  
標準的な Excel の手順を使い、変更を行い保存します。

## アーティファクトのダイレクト URL のコピー

アーティファクトのリスト・ページの「URL のコピー」オプションを使用して、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ビジネス・プロセスのアーティファクト(ダッシュボード、フォーム、インフォレットおよびレポート)の一意の URL をコピーします。

### Note:

「URL のコピー」はすべてのユーザーが使用できるため、アーティファクトへのダイレクト URL を共有できます。ただし、ターゲットのアーティファクトへのアクセス権を持つユーザーのみが、そのアーティファクトに対してアクションを実行できます。

アーティファクトの一意の URL をコピーするには:

1. ホーム・ページから、アーティファクトのリスト・ページを開きます。  
たとえば、「ダッシュボード」、「データ」、「インフォレット」または「レポート」をクリックします。
2. リスト・ページから、アーティファクトの横にある **...** (「アクション」) をクリックし、「URL のコピー」を選択します。
3. 「URL のコピー」ダイアログに、アーティファクトの一意の URL が表示されます。URL をコピーします。

コピーされた URL は無効になる場合があります。無効な URL には次の理由が考えられます:

- アーティファクトが削除されています。
- アーティファクトに対するユーザー・アクセス権が取り消されています。
- アーティファクト名が変更され、URL が壊れています。

- アーティファクトが新しいフォルダに移動され、その結果、新しい URL が作成されて URL が壊れています。

## フォーム 2.0 での操作

### Note:

フォーム 2.0 での作業を行うには、アプリケーション設定の中の「**フォーム・バージョン**」設定が「**フォーム 2.0**」に設定されている必要があります。

フォームを「**データの入力**」ページから開くと、そのフォームはランタイム環境内で開きます。

管理者は、誰がどのデータを見ることができ、誰が変更できるかを設定します。書込み権限のあるセル(白の背景のセル)でのみデータを入力したり、変更できます。

次に示すトピックには、ランタイム環境内で 2.0 のフォームの作業を行うときに役立つ情報が含まれています:

- [フォーム 2.0 でのグローバル・ツールバーの操作](#)
- [フォーム 2.0 でのクイック・ツールバーの操作](#)
- [フォーム 2.0 での POV の操作](#)
- [フォーム 2.0 でメンバー・セレクタを開く](#)
- [変更を送信せずに計算を実行\(オンザフライの計算\)](#)
- [フォーム 2.0 でのデータの印刷](#)

### ビデオ

目的	視聴するビデオ
フォーム 2.0 の中のデータの操作について学習する。	 <a href="#">概要: Cloud EPM でのフォーム 2.0 の概要</a>

## フォーム 2.0 でのグローバル・ツールバーの操作

各フォームの上部にあるアイコンおよびメニューを使用すると、指示を表示することや、次のアクションをそのフォームに対して実行することができます:

Table 5-4 フォームのグローバル・ツールバー

オブジェクト	説明
	<b>指示:</b> フォームに指示が追加されている場合に、その指示が表示されます。
	<b>リフレッシュ:</b> フォーム上のデータを更新します。
	<b>検索:</b> キーワードを「 <b>検索</b> 」ボックスに入力してから「 <b>前</b> 」または「 <b>次</b> 」の矢印をクリックして、そのフォーム内のデータを見つけます。

Table 5-4 (Cont.) フォームのグローバル・ツールバー

オブジェクト	説明
	<p><b>プロパティ・パネル:</b> フォームに対する特定の情報、たとえばデータ検証のメッセージが表示されます。</p> <p>アド・ホック・フォームの場合は、「<b>プロパティ・パネル</b>」を選択すると「<b>一般</b>」、「<b>アドホック・ユーザー・オプション</b>」および「<b>レイアウト</b>」のプロパティが表示されます。</p> <div data-bbox="1122 533 1464 821" style="border: 1px solid #0070C0; padding: 10px; background-color: #E6F2FF;"> <p> <b>Note:</b></p> <p>将来は、「<b>プロパティ・パネル</b>」がその他の詳細情報、たとえばセルの書式設定などの表示に使用される予定です。</p> </div>

Table 5-4 (Cont.) フォームのグローバル・ツールバー

オブジェクト	説明
「アクション」メニュー	<p>次のフォーム・アクションが表示されます:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> <b>編集:</b> フォームがフォーム・デザイナーで開きます。このフォーム・デザイナーは、現在のタブの横の動的タブで開きます。フォームを編集するには、適切な許可が付与されている必要があります。レイアウトに対する変更は、フォーム・デザイナーで保存した後に視覚化できます。フォームを編集するときに、「名前を付けて保存」を選択することもでき、選択するとフォームが新しいフォーム名で保存されます。         </li> <li> <b>ルールおよびスマート・プッシュ:</b> フォーム内で使用されているルールが表示され、これらを起動できます。            様々なキューブからのデータを分析します。            フォーム 2.0 では、ルールに関して次のように使いやすさが向上しています:           <ul style="list-style-type: none"> <li>検索機能が含まれています。</li> <li>ルールが実行されるときに、右側のドロワーでプロンプトに入力できます。</li> <li>複数のルールのプロンプトをステーションに入力して一度に起動できます。</li> </ul> </li> <li> <b>分析:</b> フォームでアド・ホック分析を実行します。         </li> <li> <b>読取り専用セルの理由の表示:</b> セル内のデータを変更できない理由を知ることができます。         </li> <li> <b>Smart View で開く:</b> Oracle Smart View for Office でフォームを操作します。Smart View for Office ユーザーズ・ガイド 23.100 の Web アプリケーションからフォームおよびアド・ホック・グリッドを開く方法を参照してください。         </li> <li> <b>新規アド・ホック・グリッド:</b> アド・ホック・グリッドを作成します。         </li> <li> <b>ツールバーの表示/非表示:</b> フォームのタイトルの下に表示されるクイック・ツールバーの表示と非表示を切り替えます。         </li> </ul> <p>保存</p> <p>フォーム内のデータを保存します。</p>

## フォーム 2.0 でのクイック・ツールバーの操作

フォーム 2.0 では、コンテキスト(右クリック)メニューを使用するかわりに、よく使用される特定のアクションがクイック・ツールバーに配置されており、アクセスしやすくなっています。



クイック・ツールバーを使用して次のアクションを実行できます:

Table 5-5 クイック・ツールバー

アイコン	説明
	<b>調整:</b> 選択されているセルのデータを、正または負の値の分またはパーセンテージ値の分、増減します。
	<b>グリッド分散:</b> 複数のディメンションにわたり、ターゲット・セル内の既存の値に基づいてどれだけ値を増減するかを量またはパーセンテージで指定します。「 <b>比例</b> 」、「 <b>均等</b> 」または「 <b>入力</b> 」の分散パターンを選択できます。グリッド分散を使用するには、管理者がフォーム・プロパティとして「グリッド分散」を有効にする必要があります。
	<b>コメント:</b> データを説明するか背景を提供し、外部ファイルを添付します。コメントおよび添付ファイルを 1 つのセルに追加することも、複数のディメンションにわたるセル範囲に追加することもできます。複数のコメントを同じセルに対して投稿できます。コメントのポップアップを使用して添付ファイルをアップロードできます。投稿されたコメントおよび添付ファイルの削除もできます。
<div style="display: flex; align-items: center;">  <p><b>Note:</b></p> <p>フォーム 2.0 では、最大 20 MB までのサイズのファイルを式セルに添付できます。</p> </div>	
	<p><b>ライン・アイテムの詳細:</b> セル値を計算する方法にロジックを組み込みます。ライン・アイテムの詳細は、詳細をサポートするためのアップグレードされた(代替の)機能です:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ライン・アイテムの詳細はコンテキスト(右クリック)メニューまたはクイック・ツールバーから起動できます</li> <li>• 子または兄弟をプロビジョニングとともに追加して算術計算(加算、減算、乗算など)を行います</li> <li>• 行に対してのみサポートされます(列に対してはサポートされません)</li> </ul>
	<b>変更履歴:</b> セルのデータに対して行われた変更の履歴が表示されます。
	<b>元に戻す:</b> 最後に行った変更を取り消します。
	<b>グリッド線:</b> クリックして、フォーム内のグリッド線の表示を切り替えます。

Table 5-5 (Cont.) クイック・ツールバー

アイコン	説明
 (このアイコンは、以前に選択されたスタイル・オプションに応じて変わります。デフォルトのオプションは「 <b>カスタム・スタイルおよびセル・スタイル</b> 」です。)	<p> <b>セル・スタイル:</b> Web フォーム・スタイル(読み取り専用セル、ロックされたセル、サポート詳細など)、Oracle Smart View for Office セル・スタイル(Smart View 24.200 で定義)、データ検証ルールおよび Groovy ルールをフォームに適用します。カスタム(フォーマットのみ)スタイルは適用されません。</p> <p> <b>カスタム・スタイル:</b> 設計時にルール・ビルダーで定義されたフォーマットのみルール、および Smart View で管理者およびユーザーによって追加された Excel カスタム・フォーマットを適用します。セル・スタイルは適用されません。</p> <p> <b>カスタム・スタイルおよびセル・スタイル:</b> すべてのセル・スタイルおよびカスタム・スタイルをフォームに適用します。これがデフォルトのスタイル・オプションです。</p> <div data-bbox="899 758 1468 1115" style="border: 1px solid #ccc; background-color: #e6f2ff; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p> <b>Note:</b></p> <p>フォーマット・ルールには、フォーム上の同じ場所に複数のルールが定義されている場合の優先順位があります。優先順位は、実行時フォームでのフォーマットの表示方法に影響する可能性があります。詳細は、ビジネス・プロセスの管理ガイドの「フォーマット・ルールの優先順位」を参照してください。</p> </div>

## フォーム 2.0 での POV の操作

### POV について

クイック・ツールバーのすぐ下にある情報を利用すると、操作対象の様々なデータを選択できます。これは、フォームの視点(POV)と呼ばれています。

フォームの中に POV がある場合は、その POV に対する変更が自動的に適用されます。変更が自動的に適用されないようにする場合は、フォームの「**POV 設定**」メニューで POV バーの自動適用の選択を解除できます。また、POV バー上のディメンション・ラベルを非表示にすることもや、POV の選択をクリアすることもできます。

### POV 設定の変更

POV の設定にアクセスするには:

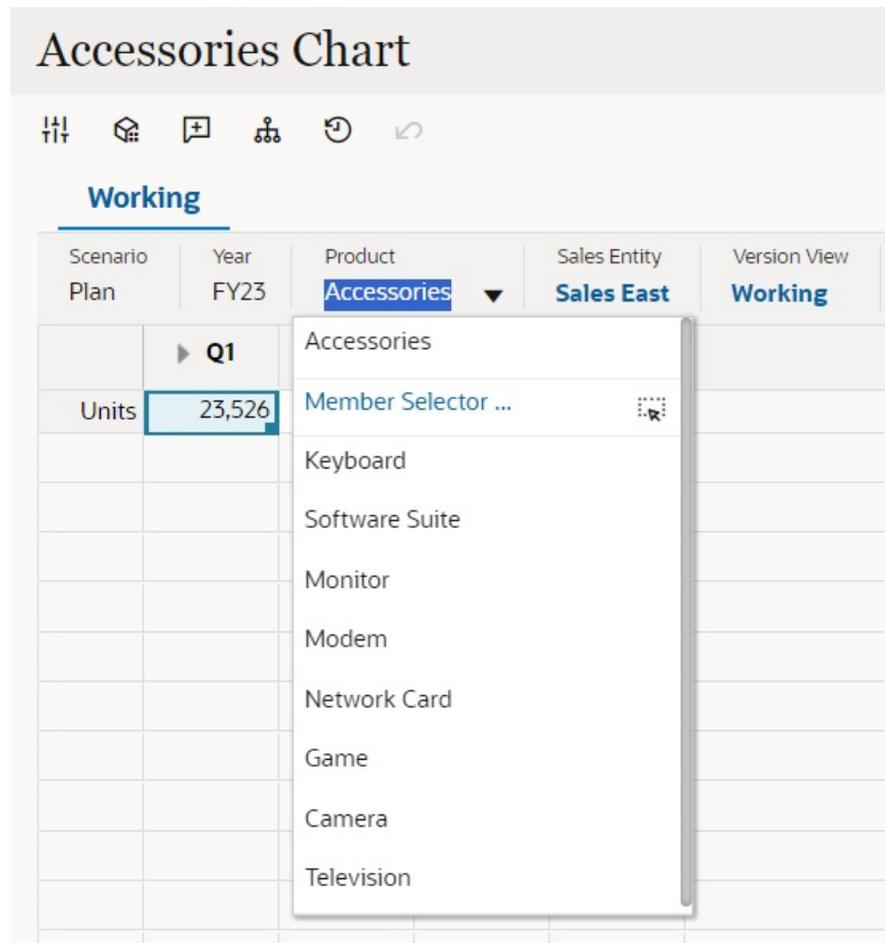
1.  (「POV 設定」)をクリックします。
2. 次のオプションから選択します。
  - **ディメンション・ラベルの非表示:** フォームがさらにコンパクトに見えるようにします
  - **自動適用:** POV の値が変更されるたびにデータ・グリッドを自動的にリフレッシュします

- 選択項目のクリア

### フォーム 2.0 での POV メンバーの検索

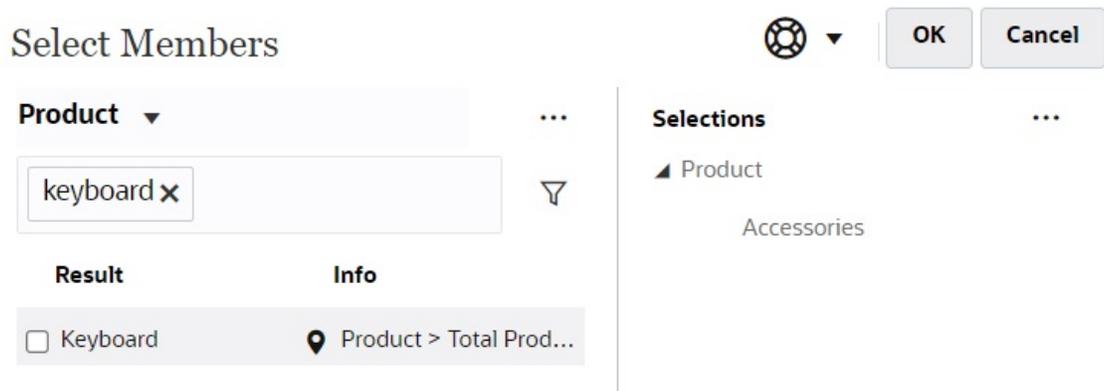
フォーム 2.0 で作業するときは、新しい POV メンバーを簡単に見つけることができます。検索するには、POV リンクをクリックします。検索インターフェースには、最後に使用したメンバーのリストが表示され、そこから選択できます。

Figure 5-1 フォーム 2.0 POV の最近使用されたメンバーのリスト



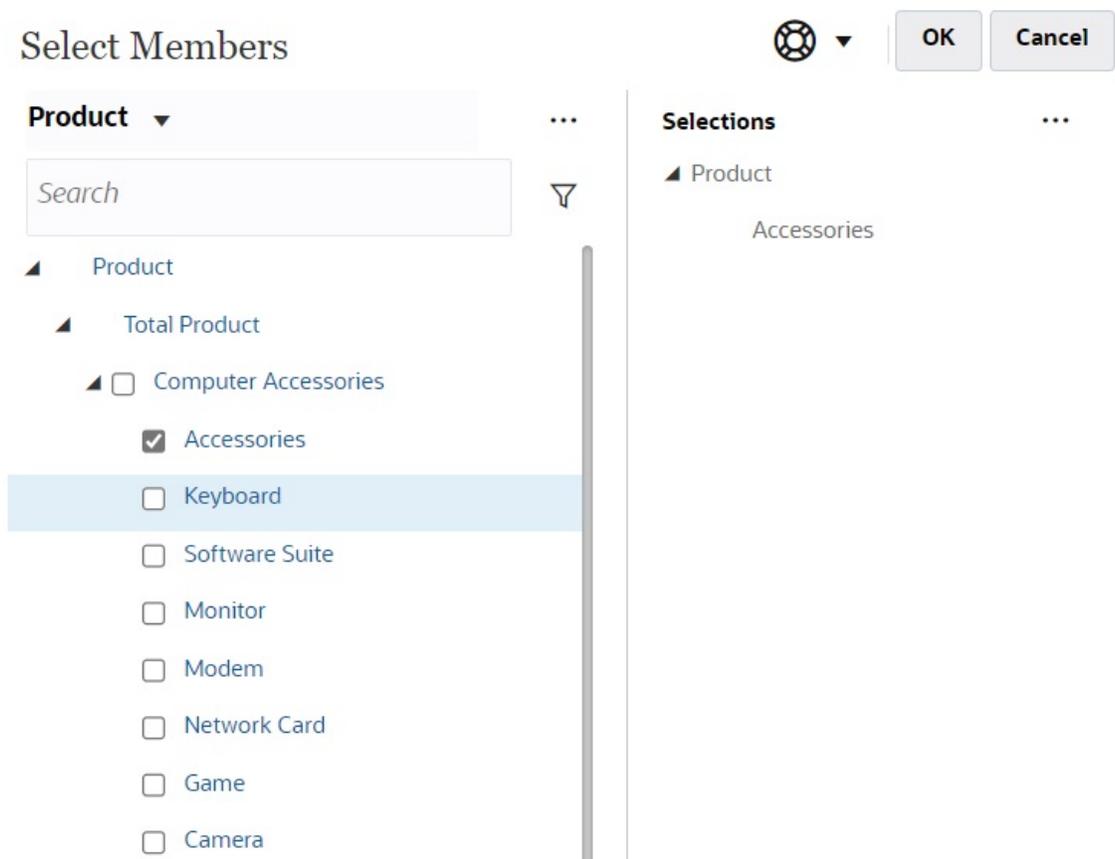
メンバー・セレクタを使用して検索することもできます。POV リンクをクリックし、「メンバー・セレクタ」アイコン  をクリックしてメンバー・セレクタを起動します。メンバー・セレクタのメンバーは階層として表示されますが、「検索」ボックスにメンバー名を入力することもできます。「検索」ボックスを使用してメンバーが見つかった場合は、「検索」ボックスの下に結果が表示されます。

Figure 5-2 フォーム 2.0 の「メンバーの選択」の検索結果



メンバーが見つかった階層内の場所を確認するには、結果の「情報」列の上にカーソルを置いて (「メンバーの特定」) をクリックします。

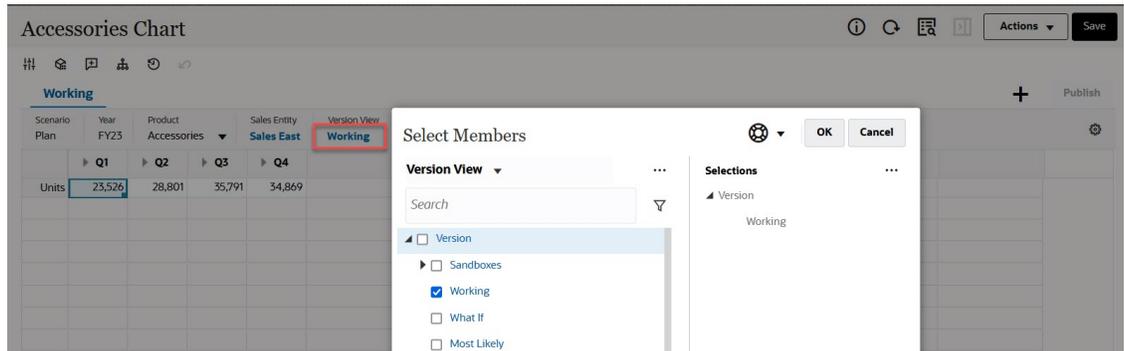
Figure 5-3 フォーム 2.0 の「メンバーの選択」の検索結果の階層表示



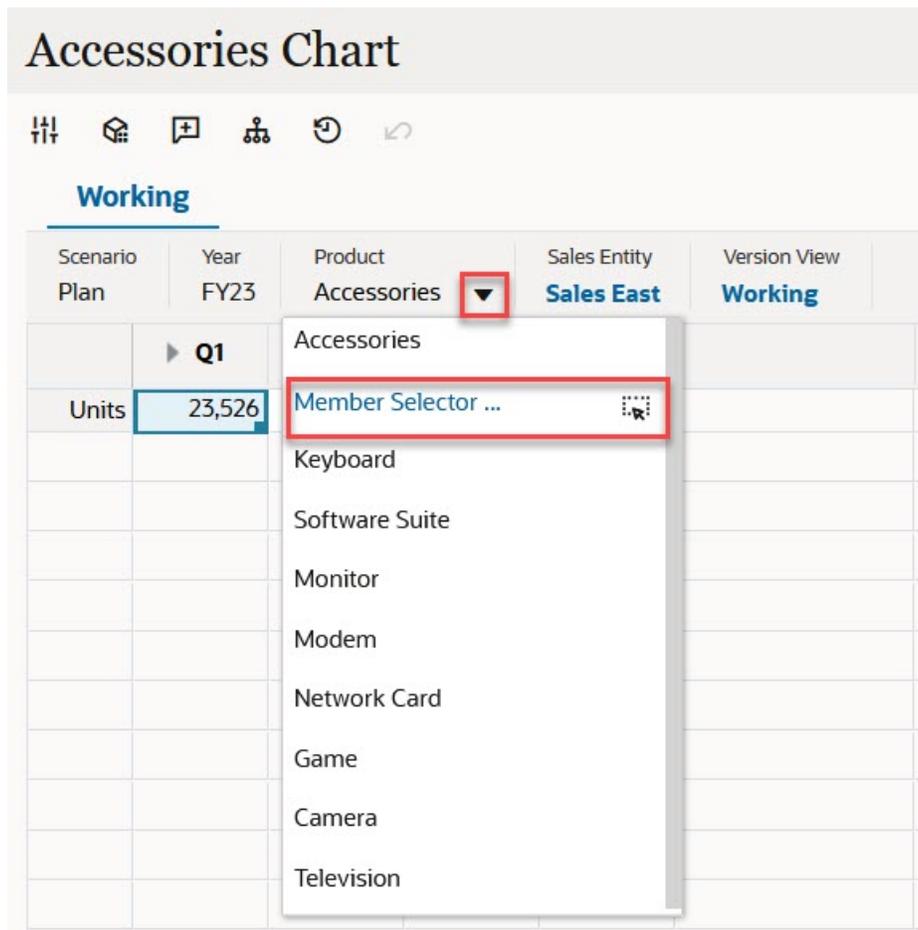
## フォーム 2.0 でメンバー・セレクタを開く

フォーム 2.0 でメンバーを選択するには、メンバー・セレクタを使用します。

フォーム 2.0 のフォームからメンバー・セレクタを開くには:  
次のように、POV バー上のメンバーの 1 つをクリックします:



次のように、「ページ」ドロップダウン・リストをクリックしてから「メンバー・セレクタ」を選択することもできます:



次のように、ビジネス・ルール実行時プロンプトの中で、そのプロンプトがメンバーに対するものであるときに、「メンバー・セレクタ」アイコンをクリックします:

select scenarios \*



 **Note:**

Oracle Smart View for Office または Web のフォーム 2.0 でフォームを操作するとき、フォームの最初のデータ行にメンバー式が含まれており、その他の 1 つ以上の行がドロップダウン・メンバー・セレクトタに対して使用可能になっている場合は、データを送信できません。メンバー式行とドロップダウン・メンバー・セレクトタの両方が含まれるフォームを操作するには、メンバー式行を最初のデータ行以外の位置に移動する必要があります。

メンバー・セレクトタの使用に関する詳細は、[メンバー・セレクトタの使用](#)を参照してください。

## 変更を送信せずに計算を実行(オンザフライの計算)

オンザフライの計算を使用すると、データの値を変更して計算後の変化を即座に知ることができ、更新後の値を送信する必要はありません。

フォーム 2.0 で作業するとき、またはアド・ホック分析中は、変更をデータベースに送信してリフレッシュする必要なく、オンザフライの計算を実行できます。この機能により、時間を節約し、グリッドに一度に複数の変更を加えられます。

フォーム 2.0 の場合は、このオプションは管理者がこの機能をフォームに対して有効化している場合に使用できます。この機能が有効化されているときは、2.0 バージョンのフォームで、メンバー式が添付されたセルにカーソルを置くと、セルに関連付けられているメンバー式が表示され、オンザフライの計算を実行できます。

アド・ホック分析用に、管理者がこの機能を有効化している可能性があります。または、「**ユーザー・プリファレンス**」の「**表示**」タブの「**アド・ホックのユーザー式の有効化**」で「**はい**」を選択して、オンザフライでの計算の表示プリファレンスを設定できます。この設定が有効になっている場合、アド・ホック・グリッドでメンバー式が添付されているセルにカーソルを置くと、セルに関連付けられているメンバー式が表示され、オンザフライの計算を実行できます。

オンザフライの計算を実行するには:

1. 2.0 バージョンのフォームまたはアド・ホック・グリッドを開き、セルにカーソルを置いて、式が添付されたメンバーについて、メンバー式と集計演算子の両方を表示します。この例では、**Jan** の **Sales** に対する式が確認できます。

	Trips	Trips	Trips	Trips
	Jan	Feb	Mar	Q1
International Sales	20	20	20	60
Sales East	30	30	30	90
Sales NorthEast	25	25	25	75
Sales Mid-Atlantic	20	20	20	60
Sales SouthEast	15	15	15	45
Sales South	12	12	12	36
Sales Central	10	10	10	30
Sales West	12	12	12	36
Sales	144	144	144	432

Row Sales Column BaseData Trips Jan member( 403 ):  
410 +420 +421 +422 +423 +430 +440 +450 +66  
grid math:  
= EssSum( essMissing(1/0) , B4, B5, B6, B7, B8, B9, B10, B11 )

式が表示されるようにするには、フォームまたはアド・ホック・グリッドの中に入力可能なセル(レベル・ゼロ・メンバー)があることが必要です。

2. 必要に応じて計算を実行して、セルからカーソルを移動させます:

- 計算後のセルに寄与する値を変更します。計算後のセルの値が更新されます。
- 計算された値を変更します。そのフォームまたはアド・ホック・グリッド上のセルのうち、計算されたセルに寄与するものが更新されます。  
式スプレッドを正しく機能させるには、計算値のすべてのソース・セルがフォームまたはアド・ホック・グリッドに表示されている必要があります。

色の変化は、セルの値が変更されたことを示します。セルはすぐにリフレッシュされて、変更をデータベースに送信しなくても、新しく計算された値が表示されます。

 **Note:**

「オンザフライ計算の使用可能」を選択した場合でも、データ検証およびデータ値に基づくフォーマットのみルールを使用したセルのフォーマット(色の変更を含む)は、フォームのクライアントで計算されるセルには適用されません。

この、計算済セルに寄与する値を変更する例では、**Jan** の **Sales West** の値を変更します:

	Trips	Trips	Trips	Trips
	Jan	Feb	Mar	Q1
International Sales	20	20	20	60
Sales East	30	30	30	90
Sales NorthEast	25	25	25	75
Sales Mid-Atlantic	20	20	20	60
Sales SouthEast	15	15	15	45
Sales South	12	12	12	36
Sales Central	10	10	10	30
Sales West	15	12	12	36
Sales	144	144	144	432

[Tab]を押すと、オンザフライの計算によって、**Jan** の **Sales**、**Sales West** の **Q1**、**Sales** の **Q1** の更新値が計算されます。新しく計算された値では色が変わることに注意します。

	Trips		Trips	
	Jan	Feb	Mar	Q1
International Sales	20	20	20	60
Sales East	30	30	30	90
Sales NorthEast	25	25	25	75
Sales Mid-Atlantic	20	20	20	60
Sales SouthEast	15	15	15	45
Sales South	12	12	12	36
Sales Central	10	10	10	30
Sales West	15	12	12	39
Sales	147	144	144	435

この、計算後の値を変更する例では、**Feb** の **Sales** の計算後の値を変更します:

	Trips		Trips	
	Jan	Feb	Mar	Q1
International Sales	20	20	20	60
Sales East	30	30	30	90
Sales NorthEast	25	25	25	75
Sales Mid-Atlantic	20	20	20	60
Sales SouthEast	15	15	15	45
Sales South	12	12	12	36
Sales Central	10	10	10	30
Sales West	12	12	12	36
Sales	144	288	144	432

[Tab]を押すと、計算後のセルに寄与する値が更新されます。新しく計算された値では色が変わることには注意します。

	Trips		Trips	
	Jan	Feb	Mar	Q1
International Sales	20	40	20	80
Sales East	30	60	30	120
Sales NorthEast	25	50	25	100
Sales Mid-Atlantic	20	40	20	80
Sales SouthEast	15	30	15	60
Sales South	12	24	12	48
Sales Central	10	20	10	40
Sales West	12	24	12	48
Sales	144	288	144	576

- すべての変更が完了し、計算に満足した場合は、変更後の値をサーバーに送信するか、送信せずに変更を破棄できます。

オンザフライの計算は **Oracle Smart View for Office** で 2.0 バージョンのフォームまたはアド・ホック・グリッドで実行することもできます。**Oracle Smart View for Office** の操作の変更を送信せずに計算を実行を参照してください。

サポートされる式関数および演算子を確認してください。**Oracle Smart View for Office** の操作のオンザフライ計算でサポートされる関数と演算子を参照してください。

オンザフライの計算では、サポートされない式の関数があります。**Oracle Smart View for Office** の操作のオンザフライの計算でサポートされない関数および式を参照してください。

オンザフライの計算を実行するときの追加の考慮事項は、**Oracle Smart View for Office** の操作のガイドラインおよび考慮事項を参照してください。

## チュートリアル

チュートリアルには、トピックを学習するのに役立つ一連のビデオおよびドキュメントを使用した説明が用意されています。

目的	方法の学習
このチュートリアルでは、メンバー式を使用するアド・ホック分析でオンザフライ計算を実行する方法を学習します。オンザフライの計算の作業は、Web でも <b>Smart View</b> でも行うことができます。	 <b>Cloud EPM</b> でのオンザフライ計算の実行

## フォーム 2.0 でのデータの印刷

印刷が必要な場合に、フォーム 2.0 ではブラウザの印刷機能または Oracle Smart View for Office の Excel 印刷機能を使用してデータを印刷できます。

Smart View でフォームでの作業を行うには、フォームを開き、「**アクション**」をクリックしてから「**Smart View で開く**」を選択します。

*Smart View for Office ユーザーズ・ガイド*の Web アプリケーションからフォームおよびアド・ホック・グリッドを開く方法を参照してください。

# 6

## ダッシュボードを使用したデータの操作

### 関連トピック:

- [ダッシュボードの理解](#)
- [ダッシュボード・バージョンについて](#)
- [ダッシュボードの表示](#)
- [ダッシュボード 1.0 のダッシュボードの操作](#)
- [ダッシュボード 2.0 のダッシュボードの操作](#)
- [税金合計ダッシュボードの確認](#)

## ダッシュボードの理解

ダッシュボードでは、重要な情報の概要を参照するとともにデータを入力、変更および保存できます。

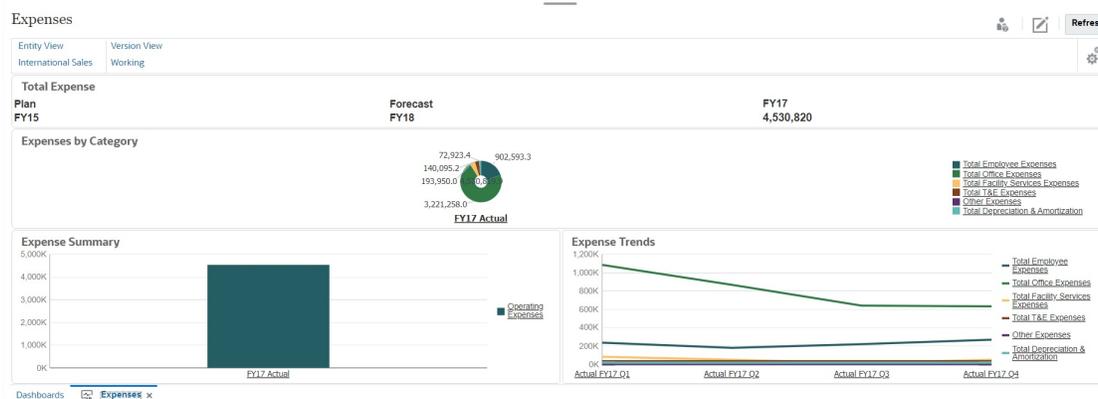
ダッシュボードでは、複数のフォームやチャート进行操作し、いずれかでデータを入力したり、データを変更して、その効果を他のフォーム、チャートおよびタイトルで即座に確認できます。グリッドでドライバを変更すると、その影響が即座にチャートに示されます。

データを保存すると、ダッシュボード内のすべてのオブジェクトに保存されます。フォームの設計に応じて、より詳細な情報にドリルダウンすることもできます。たとえば、チャート・タイプを操作および変更するメンバーを選択できます。チャート要素にマウスを置くと、その要素がハイライトされ、データ・ラベルが表示されます。ダッシュボードを作成するのは管理者ですが、これらを使用する際には高い柔軟性がユーザーに提供されます。たとえば、多くのチャート・タイプで、データを表す色をカスタマイズできます。

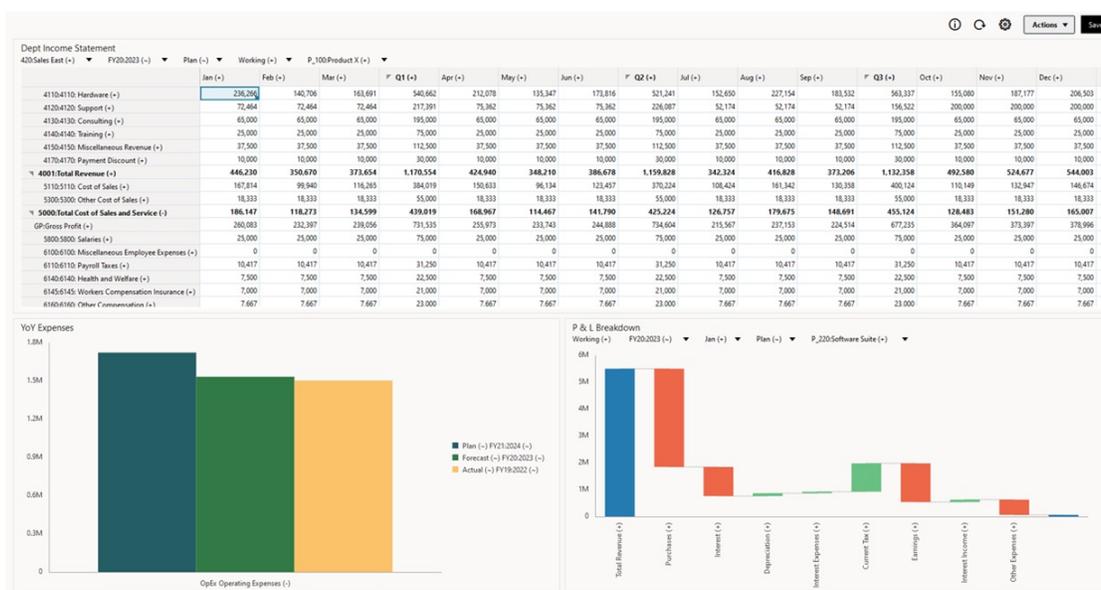
### Note:

ダッシュボード・ページをデフォルトとしてマークできなくなりました。

### ダッシュボード 1.0 の例



## ダッシュボード 2.0 の例



## ダッシュボード・バージョンについて

ダッシュボードは現在、ダッシュボード 1.0 とダッシュボード 2.0 の 2 つのバージョンで使用可能です。「**ダッシュボード**」リスト・ページでダッシュボード・バージョンを区別しやすいように、それぞれのダッシュボードの前にアイコンが表示されるようになりました:

- 
  
: ダッシュボード 1.0
- 
  
: ダッシュボード 2.0

現在、両方のダッシュボード・バージョンが同時に同じビジネス・プロセスに共存します。表示するバージョンに応じて、ダッシュボードは多少異なって見え、ユーザー・インターフェースも少し異なります。

## ダッシュボード 2.0 ランタイムの機能

ダッシュボード 2.0 ランタイムでは次のことがサポートされています:

- ダッシュボード 1.0 よりも多くのチャート・タイプ。「ウォーターフォール」、「ピラミッド」および「ジオマップ」に加えて、「レーダー」、「組合せ」および「ゲージ」チャートのサブチャート・タイプはすべて、ダッシュボード 2.0 の機能です
- スパーク・チャートと呼ばれるデータのビジュアル・インライン・ビューを使用してダッシュボードで表を作成すること
- 事前作成されたフォームがなくてもダッシュボードにコンポーネントを追加できるクイック分析
 

「検索」バーにメンバー名を入力するか、「メンバー・セレクタ」を使用してアドホック問合せを作成した後、「プロパティ」パネルの「レイアウト」タブで問合せのレイアウトを制御します。
- 基礎となるフォームがフォーム 2.0 のフォームである場合、フォーム・グリッド内のデータを直接操作すること
- フォーム 2.0 のフォーム・グリッドを操作する場合:
  - グローバルなライトバック・オプション: 「保存時に実行」ルールを使用するグローバルな「保存」ボタン
  - 個々のフォームのライトバック・オプション: 「保存時に実行」ルールを使用するローカルの「保存」
  - 表チャートで、親メンバーを強調表示してリーフレベルのメンバーと区別すること
- Oracle JET メンバー・セレクタを使用するように更新されたグローバルとローカルの POV バー
- 更新されて相互に一致するようになった、チャートとグリッドの「最大化」モード
- 任意のグリッドからコンテキストを適用できるように強化されたマスター・フォームおよび詳細
- すべてのダッシュボードにとって柔軟なレイアウト
- グローバルとローカルの POV バーでの有効な交差のサポート
- 「ダッシュボード」リスト・ページの外部でカスタム・メニューから「編集」および「データなし編集」を実行する機能
- ランタイム・ダッシュボードおよびフォームの「情報」アイコン
- ランタイム・ダッシュボード内からフォームを開いて編集すること
- ランタイム・ダッシュボードのコンポーネントで様々なチャート・タイプをビジュアル化する機能
- 単一および複数の円グラフとドーナツ・チャートでのドリルスルー
- 合理化された「アクション」、「POV 設定」および「コンポーネント」メニュー
- すべてのデータ操作(開く、編集、作成、リフレッシュ、データの送信、ページ/POV の変更など)について Oracle Smart View for Office に切り替える機能
- ダッシュボード 1.0 からダッシュボード 2.0 に変換する変換ユーティリティ。バッチ変換(フォルダ・レベル)と個々のダッシュボードの変換の両方がサポートされています
- リスト・ページでダッシュボード 1.0 とダッシュボード 2.0 のダッシュボードをフィルタする機能

- 「ダッシュボード」のリスト・ページおよび実行時ページからのみでなく、ダッシュボードが埋め込まれているカスタム・ナビゲーション・メニューからもダッシュボードを編集する機能。

### ダッシュボード 2.0 の考慮事項

- 3D ビジュアライゼーションは、ダッシュボード 2.0 ではサポートされていません。これは、ダッシュボード 2.0 の次のチャート・タイプに影響します:
    - 面
    - 棒
    - バブル
    - 列
    - 組合せ
    - ドーナツ
    - ゲージ
    - 折れ線
    - レーダー
    - 散布
- ダッシュボード 1.0 では、これらのチャート・タイプについて 3D ビジュアライゼーションが引き続きサポートされています。
- 今後の更新で、ダッシュボード 2.0 ではスマート・プッシュがサポートされる予定です。

## ダッシュボードの表示

- [「ダッシュボード」ページの表示](#)
- [ダッシュボード・ページの機能](#)
- [「ダッシュボード」ページの「アクション」](#)

### 「ダッシュボード」ページの表示

ダッシュボード・ページを表示するには:

1. ホーム・ページで「ライブラリ」をクリックし、ページ下部にある「ダッシュボード」タブをクリックします。
  2. ダッシュボードを開くには、ダッシュボードの名前をクリックします。
- これにより、ダッシュボードがランタイム環境で開きます。

 **Note:**

ダッシュボード 2.0 のダッシュボードを選択し、ダッシュボード 2.0 コンポーネントの初期化中にエラーが発生しましたというメッセージが表示された場合は、ダッシュボードにフォーム 2.0 のフォームが関連付けられています。ダッシュボードを表示する前に、サービス管理者がフォーム 2.0 を有効にしていることを確認する必要があります。

フォーム 2.0 を有効にするには、サービス管理者が「アプリケーション」、「設定」の順にクリックし、「**その他オプション**」で「**フォーム・バージョン**」を探し、「**フォーム 2.0**」を選択して、「**保存**」をクリックする必要があります。

## ダッシュボード・ページの機能

ダッシュボード・ページでは:

- フォルダがサポートされています。**ダッシュボード・ページ**では、インフォレットやデータ入力フォームと同じフォルダ階層が使用され、すべてのアーティファクトとフォルダが「**ライブラリ**」と呼ばれるルート・フォルダの下にあります。

 **Note:**

管理者のみが、ファイル(ダッシュボード、インフォレット、フォーム、レポートなど)を「**ライブラリ**」ルート・フォルダに追加できます。

- 利用できるダッシュボードのバージョンは 2 つあります。**ダッシュボード・ページ**でダッシュボード・バージョンを区別しやすくするために、それぞれのダッシュボードの前にアイコンが表示されるようになりました:
  - : ダッシュボード 1.0
  - : ダッシュボード 2.0
- ダッシュボード・ページ**をタイプに基づいてフィルタできます。「**検索**」ボックスの「**タイプ**」フィルタ・チップをクリックし、「**ダッシュボード 1.0**」または「**ダッシュボード 2.0**」、あるいはその両方を選択します。
- 特定のダッシュボードを検索するには、一連の文字(文字列とも呼ばれる)を入力すると、「**検索**」ボックスの下のドロップダウンに検索結果が表示されます。**[Enter]**をクリックすると、リスト領域に検索結果が表示されます。検索結果には、検索文字列が含まれているダッシュボードのすべてのインスタンスがリストされます(フォルダ名を含む)。各検索結果には完全なフォルダ・パスが表示されます。フォルダ内を検索すると、検索がそのフォルダとそのサブフォルダに絞り込まれます。

## 「ダッシュボード」ページの「アクション」

**ダッシュボード・ページ**の右側には、「**アクション**」列があります。ダッシュボードまたはフォルダの横にある **...** («**アクション**»)をクリックすると、次のアクションが表示されます:

- フォルダに対するアクション:
  - 権限の割当:** フォルダに対するアクセス権限を割り当てます。フォルダ権限はそのフォルダ内のすべてのアイテムに適用され、リストに表示されていないアイテムにも適用されます。

- **ダッシュボードの作成:** ダッシュボード 1.0 のダッシュボードをこのフォルダ内に作成します。
- **ダッシュボード 2.0 の作成:** ダッシュボード 2.0 のダッシュボードをこのフォルダ内に作成します。
- **フォルダの作成:** 新しいフォルダを作成します。
- **削除:** フォルダを削除します。フォルダを削除するには、空である必要があります。
- **名前変更:** フォルダの名前を変更します。他のフォルダが含まれている場合、フォルダの名前を変更することはできません。
- **移動先:** フォルダをフォルダ階層内の別の場所に移動します。
- **すべてのダッシュボードを 2.0 に変換:** フォルダ階層内でダッシュボード 1.0 のダッシュボードを検出し、それらをダッシュボード 2.0 のダッシュボードに変換します。
- 個々のダッシュボードに対するアクション:
  - **編集:** 基礎となるフォームのデータを取得してダッシュボード・デザイナーでダッシュボードを開きます。ダッシュボードは動的タブで開きます。
  - **データなし編集**(「ダッシュボード 2.0」 オプションのみ): ダッシュボード・コンポーネントおよびタイルの再配置のようなアクションをより簡単に実行できるように、基礎となるフォームのデータを取得せずにダッシュボード・デザイナーでダッシュボードを開きます。ダッシュボードは動的タブで開きます。
  - **名前変更:** ダッシュボードの名前を変更します。
  - **別名コピー:** 新しい名前を付けてダッシュボードをコピーします。ダッシュボードは、リスト内で元のダッシュボードの直下にコピーされます。
  - **削除:** ダッシュボードを削除します。
  - **移動先:** ダッシュボードを別のフォルダに移動します。
  - **権限の割当:** ダッシュボードに対するアクセス権限を割り当てます。
  - **ダッシュボード 2.0 に変換** (ダッシュボード 1.0 のみのオプション): ダッシュボード 1.0 のダッシュボードをダッシュボード 2.0 のダッシュボードに変換します。
  - **URL のコピー:** ダッシュボードのダイレクト URL をコピーして共有できます。

## ダッシュボード 1.0 のダッシュボードの操作

前述したように、リスト・ページのダッシュボード 1.0 のダッシュボードは次のアイコンによって識別されます:  (「ダッシュボード 1.0」)

ダッシュボード上のオブジェクトにカーソルを移動すると、ホバー・ツールバー

 が表示されます。

ダッシュボード 1.0 のホバー・アイコンでは、オブジェクトのタイプに応じて、「指示」、「アクション」、「保存」、「リフレッシュ」、「設定」、「最大化」などのオプションが提供されます。

ホバー・ツールバーからダッシュボード 1.0 のダッシュボード内のオブジェクトを操作するには:

- 「指示」



をクリックして、フォームの指示を表示します(フォームに指示が構成されている場合のみ使用可能)。

- 「**アクション**」  をクリックして、「**スプレッドシートのエクスポート**」や**サポート詳細**などのフォーム・オプションにアクセスします。
- フォームに関連付けられたチャート・タイプやその高さのパーセンテージを変更するには、「**設定**」  をクリックします。

ダッシュボード内のチャートをカスタマイズします。各チャート・タイプには固有のオプションがあります。たとえば、棒グラフでは、次の項目を設定できます。

- 棒の幅の割合
- 表示されるチャートのタイプ(面グラフ、バブル・チャート、縦棒グラフ、ドーナツ・グラフ、ファネル・チャート、ゲージ・チャート、散布図、レーダー・チャートなど)
- 3D で表示するチャート
- 水平または垂直方向の配置
- 背景
- 凡例およびラベルの位置

また、1.0 ダッシュボードにゲージ・チャート・タイプが含まれている場合は、ダイヤルに表示される「**最大値**」を設定できます。

1.0 ダッシュボードの使用について理解しておく必要があるその他の点は次のとおりです。

- チャート・タイプ・オプションに対する変更は、次のセッション用に保存されません。「**保存**」をクリックすると、入力または変更したデータは保存されますが、ダッシュボード定義は保存されません。
- ダッシュボードで「ページ」ドロップダウンから新しい値を選択すると、POV バーに「実行」ボタン(右矢印)が表示されます。



「実行」ボタンをクリックすると、選択内容が表示されます。

- 基礎となるフォームの交差が書込み可能である場合にのみ、フォームのセルでデータの入力や変更を行うことができます。
- スマート・フォーム(フォーム設計オプション**自動保存**が有効になっている)でデータを入力し、セルからタブ移動すると、別のオブジェクトがリフレッシュされ、新たなデータが表示されます。
- デフォルトでは、欠落データまたは抑制データは、グラフでゼロとしてプロットされます。「**プロットにゼロの値なし**」設定をクリアして、特定のチャート・タイプの欠落データまたは抑制データを無視し、ゼロとしてプロットされなくなるようにできます。この設定が適用されるチャート・タイプは、「面」、「バブル」、「組合せ」、「折れ線」、「レーダー」および「散布」です。
- 「**フレキシブル**」レイアウトを使用するダッシュボードの場合、オブジェクトの枠線をドラッグしてサイズを変更できます。オブジェクトのハンドルをクリックして拡張し、ハンドルを再びクリックしてオブジェクトを元のサイズに戻すこともできます。

## ダッシュボード 2.0 のダッシュボードの操作

ランタイム環境でダッシュボード 2.0 のダッシュボードでの作業を行うことについての有益な情報です。

前述したように、「**ダッシュボード**」ページのダッシュボード 2.0 のダッシュボードは次のアイコンによって識別されます:  («ダッシュボード 2.0」)

ダッシュボードを「**ダッシュボード**」ページから開くと、そのダッシュボードはランタイム環境内で開きます。

### Note:

ダッシュボード 2.0 でダッシュボードを表示すると、フォームごとにフォームの 1 行目の最初のセルのデータ型に基づいてデータが可視化されます。たとえば、あるフォームで 1 行目の最初のセルのデータ型にパーセンテージが使用されている場合、ダッシュボード 2.0 でそのフォームに対して表示されるデータはパーセンテージで可視化されます。同じダッシュボードの別のフォームで 1 行目の最初のセルのデータ型に数値が使用されている場合、データは小数で表示されます。

### ビデオ

目的	視聴するビデオ
Cloud EPM のランタイム・ダッシュボード 2.0 の新機能について学習する。	 概要: Cloud EPM のダッシュボード 2.0 の新機能(2023 年 11 月)

### 関連リンク:

- [ダッシュボード 2.0 のグローバル・ツールバーの操作](#)
- [ダッシュボード 2.0 のコンポーネントの操作](#)
- [チャートおよび凡例でのドリルスルー](#)
- [ダッシュボード 2.0 での POV の操作](#)
- [ダッシュボード 2.0 でメンバー・セレクトを開く](#)
- [ナビゲーション・フローでのダッシュボード 2.0 のダッシュボードの操作](#)
- [ダッシュボード 2.0 のコンポーネントでのマスター・フォームおよび詳細の操作](#)
- [ダッシュボード 2.0 のダッシュボードでの有効な交差のサポート](#)
- [クイック分析について](#)
- [ダッシュボード 2.0 のチャートからアド・ホックへのドリルダウン](#)

## ダッシュボード 2.0 のグローバル・ツールバーの操作

各ダッシュボードの上部にあるアイコンおよびメニューを使用すると、次のアクションをダッシュボード 2.0 のダッシュボード全体に対して実行できます:



Table 6-1 ダッシュボード・ヘッダー・ツールバー

オブジェクト	説明
	<p><b>情報:</b> ダッシュボードの名前、Library 階層内でのそのダッシュボードの位置までのパスおよび説明情報(ある場合)が表示されます。例:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>名前:</b> 営業費用 - 実績 vs 計画</li> <li>• <b>パス:</b> /Library</li> <li>• <b>説明 (オプション):</b> ダッシュボードの説明を入力します。</li> </ul>
	<p><b>データのリフレッシュ:</b> ダッシュボード全体のデータをリフレッシュします。</p>
	<p><b>POV 設定:</b> 次のメニュー・オプションのある「POV 設定」メニューが表示されます:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>POV : ディメンション・ラベルの非表示:</b> グローバル POV 内のディメンション・ラベルを非表示にします。</li> <li>• <b>POV : 自動適用:</b> 変更をダッシュボード全体に自動的に適用する機能を有効または無効にします。グローバル POV バー内のページを変更したときに「POV : 自動適用」が有効化されている場合は、そのダッシュボード内のコンポーネントのうち、フォームに基づくものすべてに対してそのページが変更されます。</li> <li>• <b>POV : すべてのページ選択のクリア</b></li> </ul>
「アクション」メニュー	<p>「アクション」メニューには、次のダッシュボード・アクションが表示されます(ダッシュボードを編集するには適切な許可が付与されている必要があります):</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>編集:</b> 基礎となるフォームのデータを取得してダッシュボード・デザイナーでダッシュボードを開きます。ダッシュボードが現在のタブの横の動的タブで開きます。</li> <li>• <b>データなし編集:</b> ダッシュボードが、基になるフォーム・データなしでダッシュボード・デザイナーで開くので、ダッシュボードのコンポーネントやタイトルの再配置などのレイアウト変更やフォームのプロパティの更新を、より簡単に実行できます。ダッシュボードが現在のタブの横の動的タブで開きます。</li> </ul>
保存	<p>「保存」をクリックすると、ダッシュボードのグリッドでのすべての変更が書き戻され、ダッシュボードに関連付けられたルールがある場合はそのルールが実行され、これには実行時プロンプトも含まれます。</p> <p>ノート:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 実行時プロンプトありかなしかを問わず、複数のルールをグローバルの「保存」に関連付けることができます。</li> <li>• 実行時プロンプトは、使いやすいように右側から"ドロワー"として開きます。</li> </ul> <p>「保存」をクリックすると、すべてのダッシュボード・コンポーネントについて、入力または変更したデータが保存されますが、ダッシュボード定義の変更は保存されません。</p>

## ダッシュボード 2.0 のコンポーネントの操作

ダッシュボードはコンポーネントで構成されています。各コンポーネントの中に 1 つのダッシュボード・オブジェクト、たとえばフォーム、キューブまたはその他のビジュアルイゼーション(チャート、タイトルなど)があります。

## ダッシュボード・コンポーネントのツールバー

ダッシュボード上のコンポーネントにカーソルを移動すると、コンポーネント・ツールバー

が表示されます。ホバー・ツールバーを使用すると、アクションをそのコンポーネントに対してのみ実行できます。

Table 6-2 ダッシュボード・コンポーネントのホバー・ツールバー

オブジェクト	説明
	<b>情報:</b> 基になるフォームの名前、フォームのパスおよびコンポーネントのキューブが表示されます。
	<b>保存:</b> 変更されたデータを保存し、そのコンポーネントに関連付けられたルールを実行します。
	<b>リフレッシュ:</b> ダッシュボード・コンポーネントに関連付けられているデータをリフレッシュします。
	<b>チャート・タイプ:</b> そのコンポーネントのビジュアライゼーションを変更します。
	次の「 <b>アクション</b> 」をそのコンポーネントに対して実行します: <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>最大化:</b> ダッシュボード・コンポーネントを拡大します。最大化した後、「<b>復元</b>」をクリックすると、ダッシュボード・コンポーネントは元のサイズに戻ります。</li> <li>• <b>フォームを開く:</b> 現在のタブの横に、コンポーネントに関連付けられているランタイム・フォームを動的タブで開きます。</li> <li>• <b>フォームの編集:</b> 適切な権限を持っている場合は、コンポーネントに関連付けられているフォームがフォーム・エディタで開きます。フォーム・エディタは、現在のタブの横に動的タブで開きます。</li> </ul>

## ランタイム環境でのコンポーネント・オブジェクトの操作

- ランタイム環境内でダッシュボード・コンポーネントに対して加えた変更は、次のセッション用に保存されることはありません。また、「表示/非表示」バーをクリックしてページの先頭にあるアイコン・リボンを非表示にした場合も、変更は保存されません。ページがリフレッシュされ、それまでに行われた変更は保存されません。
- デフォルトでは、欠落データまたは抑制データは、グラフでゼロとしてプロットされます。「**プロットにゼロの値なし**」設定を「**いいえ**」に設定すると、特定のチャート・タイプ内の欠落または抑制されたデータは無視されるため、これらがゼロとしてプロットされることはなくなります。この設定が適用されるチャート・タイプは、「面」、「バブル」、「組合せ」、「折れ線」、「レーダー」および「散布」です。プロパティ・パネル内の「**プロットにゼロの値なし**」設定をリセットするには、そのチャートのタイプのタブ(「面」、「バブル」、「組合せ」、「折れ線」、「レーダー」または「散布」)をクリックし、「**はい**」をクリックして設定を「**いいえ**」に切り替えます。
- コンポーネントのデフォルトでフォーム・グリッドが表示されて、その表示されたグリッドが書き込み可能になるのは関連付けられたフォームがフォーム 2.0 のフォームの場合です。グリッドをチャートで置き換えるには、グリッドにカーソルを置いてコンポーネントの右上隅にホバー・アイコンを表示します。 (「チャート・タイプ」)をクリックすると、チャートのメニューが表示されて、ここから選択できます。ランタイム中に選択されたチャートは、ランタイム・ダッシュボードが閉じた後も永続化されることはありません。
- ダッシュボードに追加された URL がランタイム環境内で機能しない場合は、その URL を右クリックしてリンクを新しいブラウザ・タブで開いてください。

- ダッシュボード内では、グリッドの内側を右クリックしてそのグリッドのコンテキスト・メニューを表示できます:
  - 「編集」のオプション: 「切り取り」、「コピー」、「貼付け」、「クリア」
  - 「調整」のオプション:
    - \* **データの調整:** 選択されているセルのデータを、正または負の値の分またはパーセンテージ値の分、増減します。
    - \* **グリッド分散:** 複数のディメンションにわたり、ターゲット・セル内の既存の値に基づいてどれだけ値を増減するかを量またはパーセンテージで指定します。「**比**例」、「**均等**」または「**入力**」の分散パターンを選択できます。「分散」を使用するには、管理者がフォーム・プロパティとして「グリッド分散」を有効にする必要があります。
  - **コメント:** データを説明するか背景を提供し、外部ファイルを添付します。コメントおよび添付ファイルを 1 つのセルに追加することも、複数のディメンションにわたるセル範囲に追加することもできます。
  - **変更履歴:** セルのデータに対して行われた変更の履歴が表示されます。
  - **セルのロック/ロック解除:** 他の値を計算して入力する間、一時的にセルをロックします。ロックされているセルには錠のアイコンが表示されます。セルのロックを解除するには、「セルのロック/ロック解除」をもう一度クリックします。
  - **セルで分析:** アド・ホックを動的タブ内で開きます。
  - **コンテキストの適用:** マスター・フォーム内のデータに関係するターゲット・フォームまたはチャート内のデータをフィルタリングします。
- ダッシュボード 2.0 のダッシュボードでは、チャート要素を右クリックして「分析」コンテキスト・メニュー・オプションを表示できます。たとえば、棒グラフの棒をクリックします。「分析」を選択して、そのグラフの交差を動的タブのアド・ホックで起動します。チャート・タイプ別の分析動作を理解するには、[ダッシュボード 2.0 のチャートからアド・ホックへのドリルダウン](#)を参照してください。
- ライン・アイテムの詳細がサポートされるのは、コンポーネントが最大化されている場合のみです。コンポーネントを最大化するには、そのコンポーネントにカーソルを置いてコンポーネントの右上隅にホバー・アイコンを表示します。\*\*\* (「アクション」)をクリックしてから、「最大化」を選択してダッシュボード・コンポーネントを拡大します。そのコンポーネントでの作業が完了したら、「復元」をクリックしてダッシュボード・コンポーネントを最小化し、元のサイズに戻します。
- 「**データのリフレッシュ**」をタイルに対してクリックするか、グローバルの「**データのリフレッシュ**」オプションをクリックすると、そのタイルのデータは"ブリンク"の後に表示されます。この"ブリンク"は、リフレッシュされたデータが移入されていることを示します。
- 表が表示されているときは、親メンバーがハイライトされるので、リーフレベルのメンバーと区別できます。

## ダッシュボード 2.0 でのフォーム 2.0 のグリッドの操作

ダッシュボード 2.0 では、基になるフォームがフォーム 2.0 のフォームの場合にフォーム・グリッド内のデータを直接操作できます。

ダッシュボード 2.0 に新しく追加されたコンポーネントにはデフォルトでフォーム・グリッドが表示され、関連付けられているフォームがフォーム 2.0 のフォームである場合、グリッドは書込み可能です。

グリッド内では、セル値の更新、ルールの実行および変更の保存を行うことができるので、ダッシュボードからの書戻しが容易になります。

## グリッドのあるダッシュボード 2.0 のダッシュボードの例



## ダッシュボード 2.0 のグリッドへの更新の保存

ダッシュボード 2.0 の中でグリッドを更新した後で、グローバルの「保存」ボタンをクリックすると、ダッシュボードのグリッドでのすべての変更が書き戻され、ダッシュボードに関連付けられたルールがある場合はそのルールが実行され、これには実行時プロンプトも含まれます。

ダッシュボード内の個々のグリッド・コンポーネントの中の「保存」(「保存」)をクリックすると、そのグリッドの変更が書き戻されて、そのグリッドに関連付けられたルールのみが実行されます。

## ルール

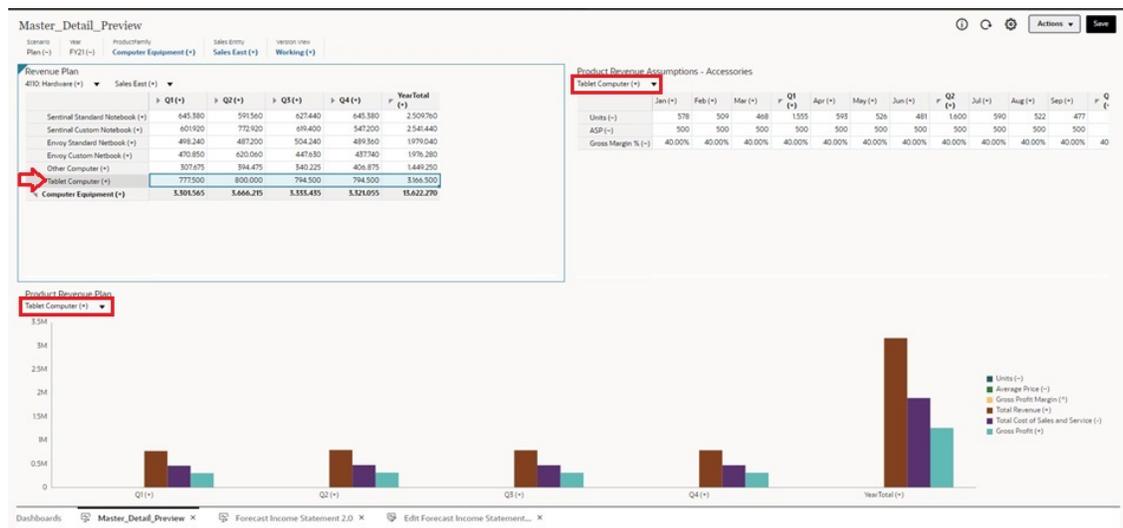
ダッシュボード・デザイナーでは「関連付け」タブがプロパティ・パネルの中にあり、ルールをダッシュボードに関連付けることができます。

ダッシュボード、またはダッシュボード内のグリッド・コンポーネントを保存すると、ダッシュボード・グリッドが保存されたときにそのグリッドに関連付けられているルールが起動し、これには実行時プロンプトも含まれます。実行時プロンプトは右側から「ドロワー」として開きます。

## マスター詳細ダッシュボード内のグリッド

ダッシュボード 2.0 では、マスター詳細付きのダッシュボードを設計するときにグリッドをマスター・コンポーネントとして指定することがサポートされています。

グリッド内のデータに関連するターゲット・フォームまたはチャートの中のデータをフィルタ処理するには、マスター・グリッド内の関連するデータの行を右クリックし、「コンテキストの適用」を選択します。



## ダッシュボード・グリッド内のコンテキスト・メニュー

ダッシュボード内では、グリッドの内側を右クリックしてそのグリッドのコンテキスト・メニューを表示できます:

- 「編集」のオプション: 「切り取り」、「コピー」、「貼付け」、「クリア」
- 「調整」のオプション:
  - **データの調整:** 選択されているセルのデータを、正または負の値の分またはパーセンテージ値の分、増減します。
  - **グリッド分散:** 複数のディメンションにわたり、ターゲット・セル内の既存の値に基づいてどれだけ値を増減するかを量またはパーセンテージで指定します。「比例」、「均等」または「入力」の分散パターンを選択できます。「分散」を使用するには、管理者がフォーム・プロパティとして「グリッド分散」を有効にする必要があります。
- **コメント:** データを説明するか背景を提供し、外部ファイルを添付します。コメントおよび添付ファイルを 1 つのセルに追加することも、複数のディメンションにわたるセル範囲に追加することもできます。
- **変更履歴:** セルのデータに対して行われた変更の履歴が表示されます。
- **セルのロック/ロック解除:** 他の値を計算して入力する間、一時的にセルをロックします。ロックされているセルには錠のアイコンが表示されます。セルのロックを解除するには、「セルのロック/ロック解除」をもう一度クリックします。
- **セルで分析:** アド・ホックを動的タブ内で開きます。
- **補足データ:** Web フォーム内で補足データの POV を表示すると、アプリケーションに転記された残高のみが表示されます。Web フォームに表示されている値にドリルする詳細があることを示すインジケータがあります。これらの詳細にアクセスするには、セルを右クリックし、「補足データ」を選択して、この残高が転記された「補足データ」フォームのある動的タブを開きます。このフォームでは、合計すると残高になるトランザクションを表示できます。
- **コンテキストの適用:** マスター・フォーム内のデータに関するターゲット・フォームまたはチャート内のデータをフィルタリングします。

### ダッシュボード 2.0 でのグリッドの操作に関する考慮事項

- ダッシュボード 2.0 のダッシュボードの中にグリッドがある場合に、「フォーム・バージョン」というアプリケーション設定が「フォーム 1.0」が設定されているときは、そのダッシュボードは開きません。
- 「グリッド」ビジュアライゼーション・オプションは、「フォーム・バージョン」というアプリケーション設定が「フォーム 1.0」に設定されていて、かつダッシュボード 2.0 のアーティファクトが作成されている場合は使用できません。

## チャートおよび凡例でのドリルスルー

ドリルスルーを親メンバーに対して実行すると、子メンバーの値を表示できます。

チャートおよびその凡例の中のデータについて、さらに詳しい情報を掘り下げることができます。円グラフなどのチャートでドリルスルーの詳細を表示するには、円の中の色をダブルクリックします。ドリルスルーは、単一のドーナツ・グラフや円グラフを持つコンポーネントに対して機能するほか、複数のドーナツ・グラフや円グラフを持つコンポーネントに対しても機能します。

ドリルスルーは、チャートの凡例から行うこともできます。凡例ラベルをダブルクリックすると、その凡例アイテムのドリルスルーの詳細を表示するようにチャートが変わります。

#### Note:

複数の円グラフやドーナツ・グラフでのドリルスルーを凡例から行うことはサポートされていません。

ドリルスルーの詳細を見た後で元のチャートに戻るには、ウィンドウの右上隅に表示されている親リンクをクリックします。

#### Note:

「表」、「タイル」および「ゲージ」のチャートでは、ドリルはサポートされていません。円グラフなどのタイプのチャートにドリルした後で「表」、「タイル」または「ゲージ」のチャートに切り替えた場合は、元のチャートに戻るための親リンクが表示されなくなります。このことが発生した場合は、切り替えて円グラフに戻すと親リンクが再び表示されます。

## ダッシュボード 2.0 での POV の操作

### POV 設定

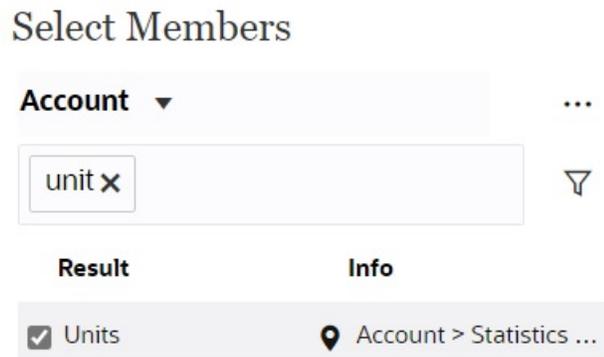
ダッシュボード 2.0 のダッシュボードの中にグローバルまたはローカルの POV がある場合は、その POV に対する変更が自動的に適用されます。変更が自動的に適用されないよう場合は、ダッシュボードの「POV 設定」メニューで POV バーの自動適用の選択を解除できます。



(「POV 設定」)をクリックし、「POV : 自動適用」をクリックして選択を解除します。

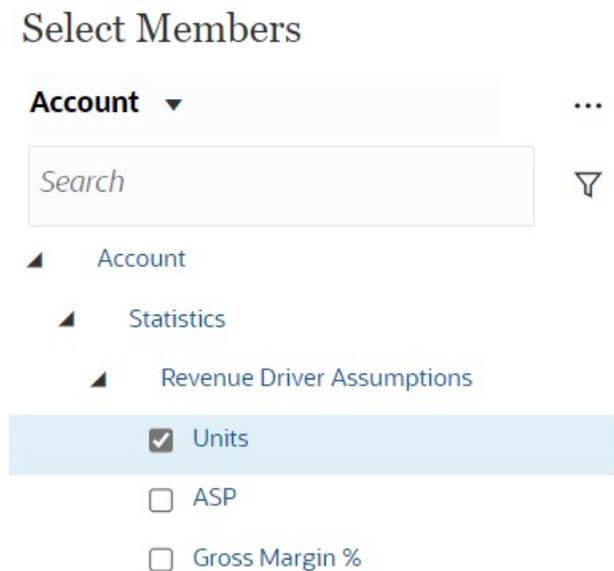


Figure 6-2 「メンバーの選択」での検索



メンバーが見つかった階層内の場所を確認するには、結果の「情報」列の上にカーソルを置いて📍(「メンバーの特定」)をクリックします。

Figure 6-3 「メンバーの選択」の検索結果の階層

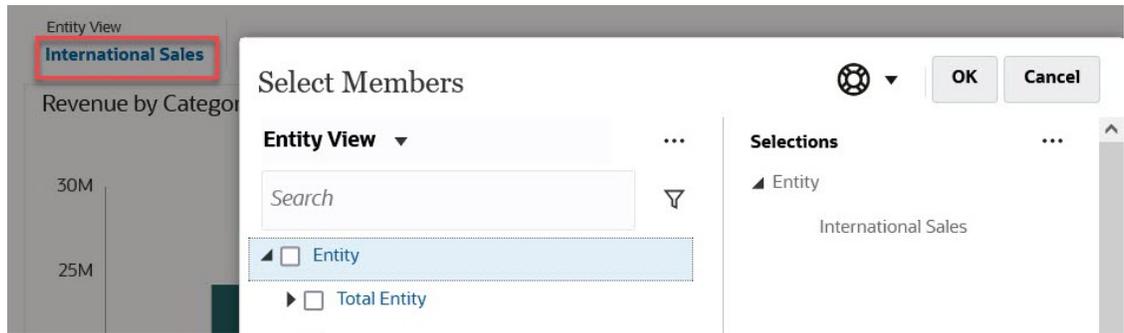


## ダッシュボード 2.0 でメンバー・セレクトタを開く

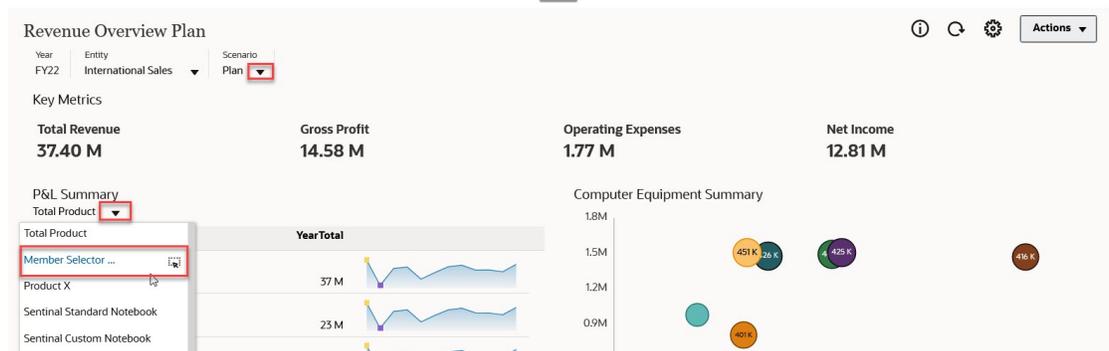
ダッシュボード 2.0 でメンバーを選択するには、メンバー・セレクトタを使用します。

ダッシュボード 2.0 のダッシュボードからメンバー・セレクトタを開くには:

次のように、グローバル POV バー上のメンバーの 1 つをクリックします:



次のように、グローバルまたはローカル POV 内の「ページ」ドロップダウン・リストをクリックしてから「メンバー・セレクタ」を選択することもできます：



次のように、ビジネス・ルール実行時プロンプトの中で、そのプロンプトがメンバーに対するものであるときに、「メンバー・セレクタ」アイコンをクリックします：



メンバー・セレクタの使用に関する詳細は、[メンバー・セレクタの使用](#)を参照してください。

## ナビゲーション・フローでのダッシュボード 2.0 のダッシュボードの操作

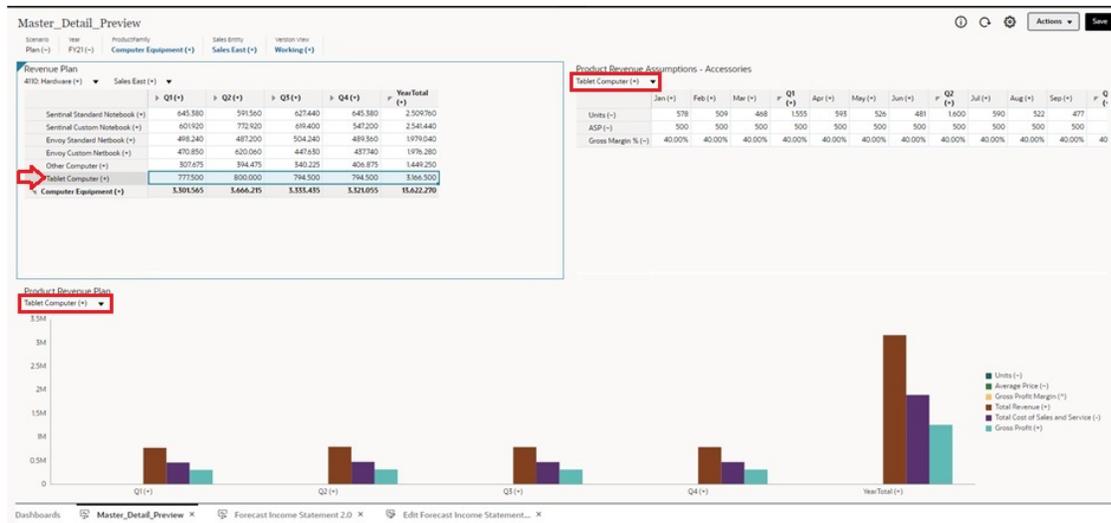
ダッシュボード 2.0 およびフォーム 2.0 がビジネス・プロセスの中で有効化されている場合は、ダッシュボード 2.0 およびフォーム 2.0 に含まれている機能がナビゲーション・フローでサポートされます。これには、ランタイム・ダッシュボードの中からフォームを編集する機能や、データありまたはデータなしでフォームを編集できる機能も含まれます。ダッシュボード 2.0 のコンポーネント・アクション、たとえば「最大化」や「フォームを開く」も、ナビゲーション・フローの中で直接機能します。

## ダッシュボード 2.0 のコンポーネントでのマスター・フォームおよび詳細の操作

管理者は、1つのマスター・フォームと複数の詳細つまりターゲット・コンポーネント(フォームまたはチャート)を持つダッシュボードを設計できます。このようにダッシュボードが構成

されているときは、マスター・フォームで選択可能なメンバーは自動的にフィルタされてターゲット・コンポーネント内のメンバーのみとなり、ターゲット・コンポーネントには、マスター・フォームでハイライトされたメンバーに関連する詳細のみが表示されます。

ターゲット・フォームまたはチャート内のデータをフィルタ処理してマスター・フォーム内のデータに関連するもののみとするには、マスター・フォーム内の関連するデータ行を右クリックし、「**コンテキストの適用**」を選択します。



## ダッシュボード 2.0 のダッシュボードでの有効な交差のサポート

管理者は、フォーム内の特定のセル交差の中でのデータ入力を許可するルールを作成できます。このような交差は、有効な交差と呼ばれます。

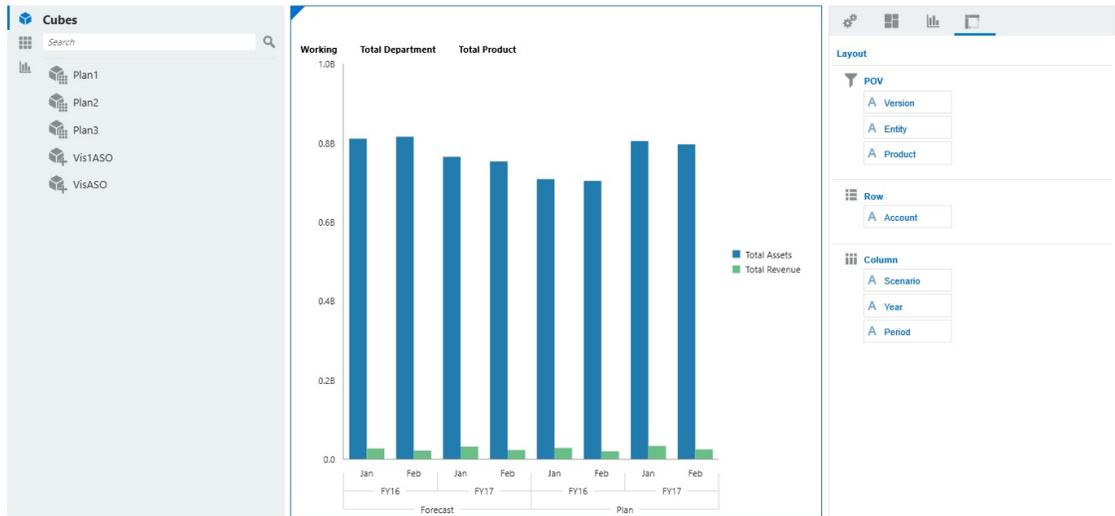
ダッシュボード 2.0 は、無効な交差を実行時にダッシュボードから除外するという方法で有効な交差のルールに準拠します。特定のメンバーを除外するように管理者が定義している場合は、ランタイム・ダッシュボードおよびメンバー・セレクトタにそのメンバーが表示されなくなります。

## クイック分析について

クイック分析を使用すると、事前作成されたフォームがなくても、ダッシュボードにコンポーネントを追加できます。「検索」バーにメンバー名を入力するか、「メンバー・セレクトタ」を使用

してアドホック問合せを作成した後、「プロパティ」パネルの「レイアウト」タブで問合せのレイアウトを制御します。

### ダッシュボード 2.0 のデザイン・モードでのクイック分析チャートの例



ダッシュボードでクイック分析を作成するには:

1. 問合せのキューブを選択します。次の 2 つのいずれかの方法で行うことができます:
  - ワークスペースの「検索」ボックスをクリックしてキューブのリストを表示し、キューブを選択します。
  - オブジェクト・パレットからダッシュボード・ワークスペースにキューブをドラッグ・アンド・ドロップします。

#### ノート:

どちらの方法でも、デフォルトの問合せから開始されます。最近使用したもの (MRU) に基づく、キューブ内の 1 つの交差です。デフォルトの問合せは、キューブで最近見ていたものによって異なります。

キューブ内の MRU 交差が無効な場合は、エラーが発生します。エラーが表示された場合は、別のフォームを開いてページを有効な交差に変更し、MRU が有効な交差で更新されるようにします。

2. 問合せのメンバーを指定して、問合せを調整します:
  - 「検索」ボックスにメンバー名を入力して、キューブからのオートコンプリート・リストを表示します。
  - 「メンバー・セレクタ」 を起動してメンバーを選択し、「OK」をクリックします。

 ノート:

クイック分析を実行するために検索ボックスを使用してメンバーを検索し、キューブ内のメンバーが 25,000 人よりも多い場合、検索ボックスでは、キューブのディメンション内の最初の 3000 人のメンバーのみが検索されます。キューブに含まれているメンバーが 25,000 人より少ない場合は、検索ボックスですべてのメンバーが検索されます。メンバーが 25,000 人より多いキューブを検索するには、メンバー・セレクタを起動してクイック分析の選択をします。

3. 問合せのチャート・タイプを選択します。

 (「チャート・タイプ」)をクリックして、チャート・タイプ(「棒」 など)を選択します。

4. 「プロパティ」パネルで、「レイアウト」タブ  をクリックします。
5. 「プロパティ」パネルの「レイアウト」タブのディメンションを「レイアウト」タブの他のセクションにドラッグ・アンド・ドロップして、ダッシュボード・コンポーネントの「POV」、「行」および「列」レイアウトを変更します。

## ビデオ

## 目的

## 視聴するビデオ

フォームを事前作成せずに、ダッシュボードにクイック分析コンポーネントを追加する方法を学習します。ダッシュボード・デザイナーでアド・ホック問合せを作成する方法と、ディメンションのレイアウトを変更し、ビジュアライゼーションを適用して結果をフォーマットする方法を学習します。



[ダッシュボード 2.0 でのクイック分析の作成](#)

## ダッシュボード 2.0 のチャートからアド・ホックへのドリルダウン

アド・ホックには、ダッシュボード 2.0 のダッシュボード内のフォームに作成されたグラフからアクセスできます。

ダッシュボード 2.0 のダッシュボード内のグラフからアド・ホック・グリッドを作成するには:

1. ダッシュボード 2.0 のダッシュボードを開きます。
2. 棒グラフの棒などのチャート要素を右クリックし、「分析」を選択して、チャートの交差をアド・ホックで表示します。

チャート要素を右クリックし、「分析」をクリックすると、チャート要素によって表される交差のアド・ホックが開き、フォーム定義を超えたセル値の詳細な分析が可能になります。チャート・タイプ別の「分析」の動作については、次の表を参照してください。

 **Note:**

- **分析**は、フォーム上に構築されたチャート要素に対してのみ機能します。
- ジオマップを除くダッシュボード 2.0 のすべてのチャート・タイプに対して「**分析**」がサポートされています。
- 式の行または列があるフォーム上に構築されたチャートでは、式の行/列に対応するチャート要素(棒グラフの棒など)を右クリックしてから「**分析**」をクリックしても、アクションは実行されません。
- クイック分析チャートに対して「**分析**」はサポートされていません。

Table 6-3 チャート・タイプ別の「分析」の動作

チャート・タイプ	「分析」の動作
棒または縦棒	単一の棒または縦棒セクションを右クリックすると、アド・ホックが開き、その棒に関連する行と列のメンバーが表示されます。アド・ホックには1つの値のみが表示されます。
面または折れ線	面または折れ線グラフのデータ・ポイントを右クリックすると、アド・ホックが開き、そのデータ・ポイントに関連する行と列のメンバーが表示されます。アド・ホックには1つの値のみが表示されます。
組合せ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 棒チャート要素の動作は、前述の棒または縦棒の動作と同じです。</li> <li>• 面または折れ線チャート要素の動作は、前述の面または折れ線の動作と同じです。</li> </ul>
円またはドーナツ (単一または複数)	円またはドーナツ・チャートのスライスをクリックすると、アド・ホックが開き、そのスライスに関連する行と列のメンバーが表示されます。アド・ホックには1つの値のみが表示されます。
ゲージ (単一または複数)	ゲージ・チャートの値またはしきい値領域をクリックすると、アド・ホックが開き、そのスライスに関連する行と列のメンバーが表示されます。アド・ホックには1つの値のみが表示されます。
ファンネルまたはピラミッド	ファンネルまたはピラミッドの単一セクションを右クリックすると、アド・ホックが開き、その棒に関連する行と列のメンバーが表示されます。アド・ホックには1つの値のみが表示されます。
バブル	単一のバブルをクリックすると、アド・ホックが開き、バブルをプロットするために使用される3つの列メンバーとそれに関連する行メンバーが表示されます。アド・ホックには3つの値が表示されます。
散布	単一の散布ポイントを右クリックすると、アド・ホックが開き、散布データ・ポイントをプロットするために使用される2つの列メンバーとそれに関連する行メンバーが表示されます。アド・ホックには2つの値が表示されます。
レーダーとそのサブタイプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「棒」サブタイプ: 前述の棒または縦棒の動作と同じです。</li> <li>• 「折れ線」サブタイプ: 前述の面または折れ線の動作と同じです。</li> <li>• 「面」サブタイプ: 前述の面または折れ線の動作と同じです。</li> <li>• 「バブル」サブタイプ: 前述のバブルの動作と同じです。</li> <li>• 「散布」サブタイプ: 前述の散布の動作と同じです。</li> </ul>
ウォーターフォール	ウォーターフォール内の任意の棒をクリックすると、アド・ホックが開き、その行のすべてのメンバーとそれに関連する列メンバーが表示されます。これは、ウォーターフォールにプロットされた値はいくつかの計算に基づいており、右クリックした棒のみをアド・ホックで開いても、トレンドの完全なコンテキストが提供されないためです。

Table 6-3 (Cont.) チャート・タイプ別の「分析」の動作

チャート・タイプ	「分析」の動作
表 (スパーク・チャートあり、なし)	<ul style="list-style-type: none"> <li>列ヘッダーを右クリックすると、アド・ホックが開き、その列のメンバーとその下のすべての行メンバーが表示されます。</li> <li>行ヘッダーを右クリックすると、アド・ホックが開き、その行のメンバーとその行のすべての列メンバーが表示されます。</li> <li>スパーク・チャートありの表の場合、スパーク・チャートが表示されている列の列ヘッダーを右クリックすると、アド・ホックが開き、スパーク・チャートにプロットされているすべての列値と、その列の下のすべての行が表示され、その列の下のすべてのスパーク・チャートのすべての値が実質的にプロットされます。</li> </ul>
ジオマップ	ジオマップ・チャート・タイプに対して「分析」はサポートされていません。

## 税金合計ダッシュボードの確認

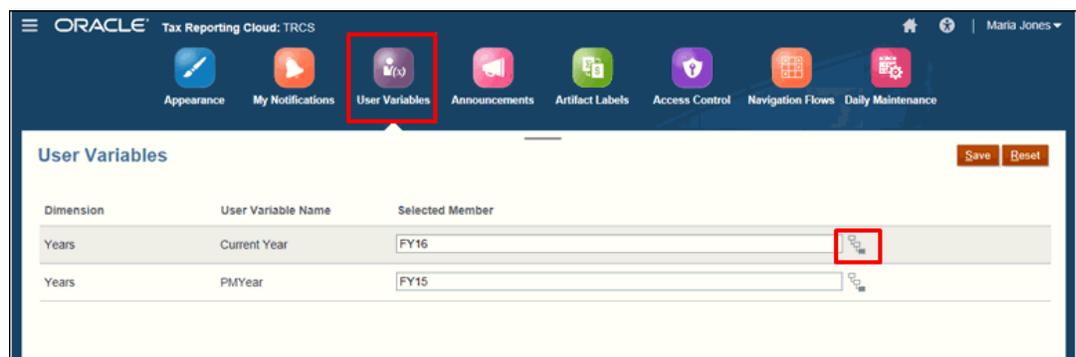
税金合計ダッシュボードでは、エンティティ別と管轄別の連結有効税率および支払税金に関する分析が提供されます。各エンティティまたは管轄の詳細にドリルダウンすることもできます。

次の税金合計ダッシュボードを使用できます。

- エンティティ別連結 ETR - [エンティティ別税金合計連結 ETR の確認](#) を参照
- 管轄別連結 ETR - [管轄別連結 ETR の確認](#) を参照
- エンティティ別支払税金 - [エンティティ別支払税金の確認](#) を参照
- 管轄別支払税金 - [管轄別支払税金の確認](#) を参照

現在の年を設定するには:

- ホーム・ページで、「ツール」を選択し、「ユーザー変数」をクリックします。
- 「ユーザー変数」画面のメンバー・セレクトタ  で、「現在の年」を選択します。



- 「保存」をクリックします。

## エンティティ別税金合計連結 ETR の確認

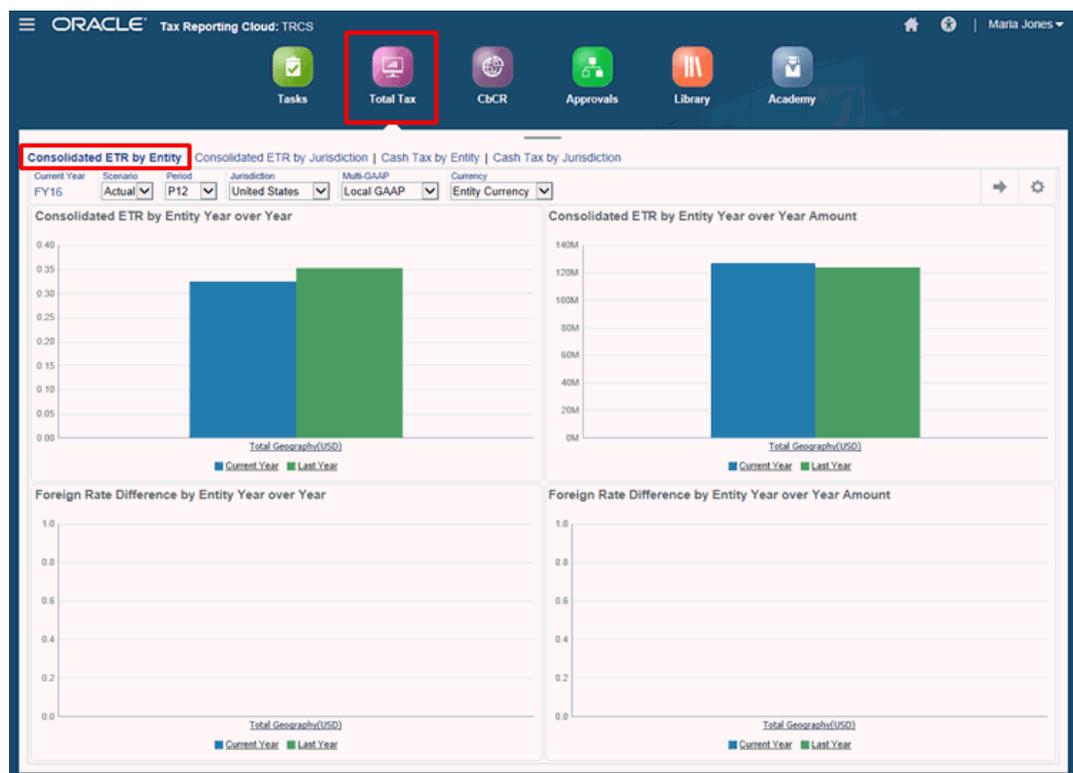
連結 ETR では、国と地域の ETR および税引当合計に加え、エンティティ別外国レート差異が計算されます。

次の棒グラフが表示されます。

- エンティティ別連結 ETR 前年同期比
- エンティティ別連結 ETR 前年同期比金額
- エンティティ別外国レート差異前年同期比
- エンティティ別外国レート差異前年同期比金額

エンティティ別連結 ETR ダッシュボードを確認するには:

1. ホーム・ページで、「税金合計」を選択します。
2. 「エンティティ別連結 ETR」ダッシュボードを選択します。



3. **オプション:** 視点を調整します。
4. 棒グラフの結果を確認します。  
ダッシュボードにドリルダウンするには、「地域合計」をクリックします。使用可能な地域の名前をクリックしてドリルダウンを続けます。たとえば、上のキャプチャ画面で「アメリカ合衆国(USD)」をクリックすると、チャートが展開され、選択した地域の追加エンティティが表示されます。

## 管轄別連結 ETR の確認

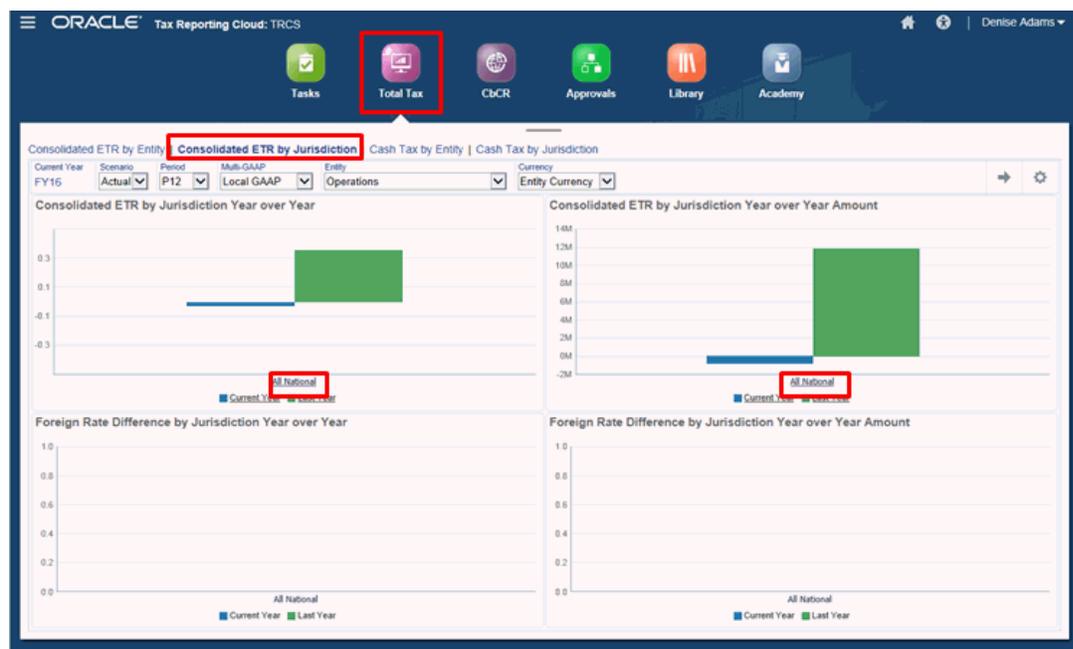
管轄別連結 ETR では、国と地域の ETR 合計、税引当合計、および管轄別外国レート差異が計算されます。

次の棒グラフが表示されます。

- 管轄別連結 ETR 前年同期比
- 管轄別連結 ETR 前年同期比金額
- 管轄別外国レート差異前年同期比
- 管轄別外国レート差異前年同期比金額

管轄別連結 ETR ダッシュボードを確認するには:

1. ホーム・ページで、「税金合計」を選択します。
2. 「管轄別連結 ETR」ダッシュボードを選択します。



3. オプション: 視点を調整します。
4. 棒グラフの結果を確認します。  
ダッシュボードにドリルダウンするには、**国全体**などの最上位レベル・エンティティをクリックし、国の管轄にドリルダウンします。

## エンティティ 別支払税金の確認

エンティティ 別支払税金ダッシュボードでは、指定した期間において納税義務を果たすために発行された資金額が計算されます。

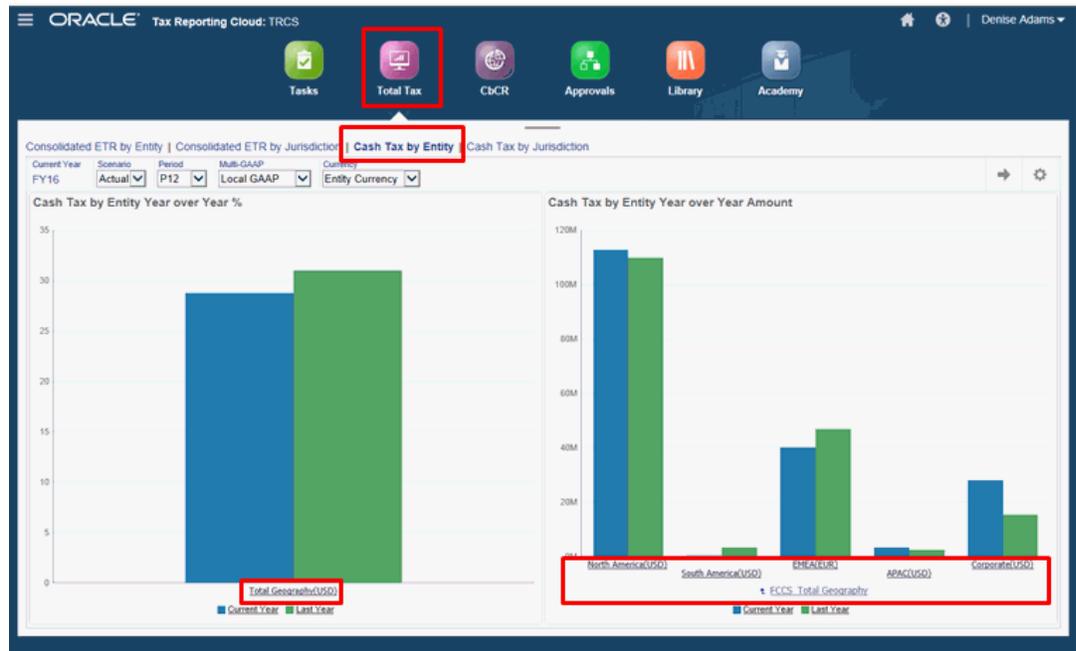
次の棒グラフが表示されます。

- エンティティ 別支払税金前年同期比%

- エンティティ別支払税金前年同期比金額

エンティティ別支払税金ダッシュボードを確認するには:

- ホーム・ページで、「税金合計」を選択します。
- 「エンティティ別支払税金」ダッシュボードを選択します。



- オプション: 視点を調整します。
- 棒グラフの結果を確認します。  
ダッシュボードにドリルダウンするには、**地域合計**などの最上位レベル・エンティティをクリックし、追加のエンティティを表示します。クリックを続けてドリルダウンを実行します。

## 管轄別支払税金の確認

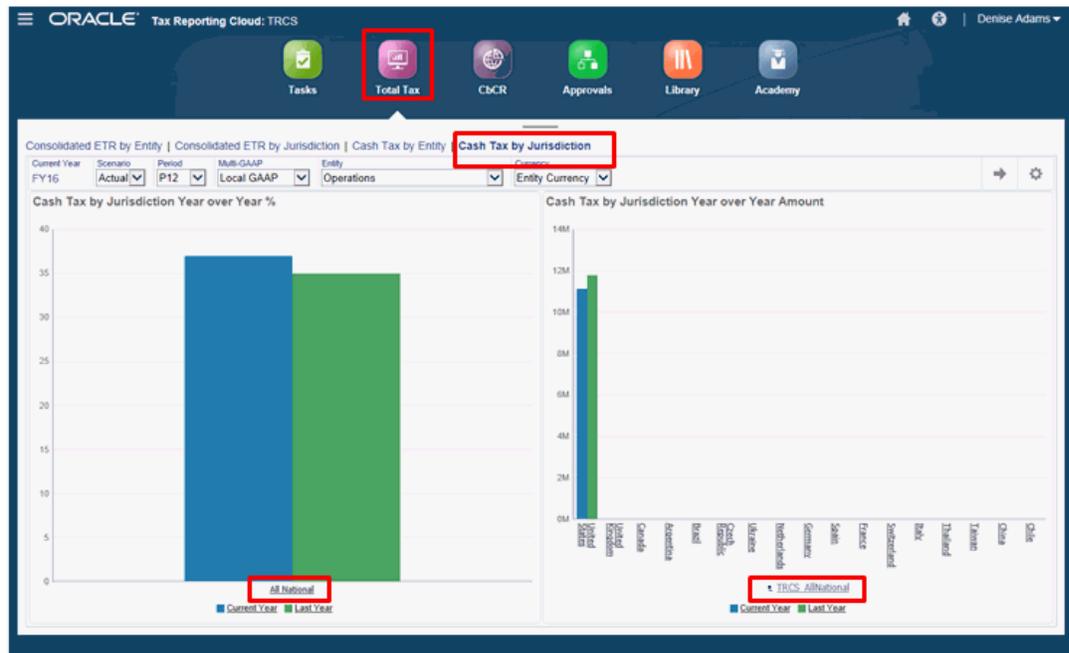
管轄別支払税金ダッシュボードでは、選択した管轄において納税義務を果たすために発行された資金額が計算されます。

次の棒グラフが表示されます。

- 管轄別支払税金前年同期比%
- 管轄別支払税金前年同期比金額

管轄別支払税金ダッシュボードを確認するには:

- ホーム・ページで、「税金合計」を選択します。
- 「管轄別支払税金」ダッシュボードを選択します。



3. オプション: 視点を調整します。
4. 棒グラフの結果を確認します。  
ダッシュボードにドリルダウンするには、**国全体**などの最上位レベル・エンティティをクリックし、追加の管轄を表示します。

# 7

## データ入力および分析のためのアド・ホックの使用

アド・ホック・グリッドを使用すると、重要なデータ・スライスにすばやくドリルできます。

アド・ホック・グリッドが焦点を絞るのにどのように役立つかを示す例:

- 実績が変動したために、作業する一連の製品のドライバを変更します。
- 地域の利益マージンを迅速に確認します。
- 他のユーザーが設定したアド・ホック・グリッドの勘定科目の設定を変更します。
- 差異数にドリルして差異の原因を理解します。
- ビジネス・プロセスで設定したアド・ホック・グリッドを Oracle Smart View for Office で使用します。さらに学習するには、Oracle® Smart View for Office ユーザーズ・ガイドを参照してください。

### ビデオ

目的	視聴するビデオ
ライン・アイテムの詳細、コメント、添付の入力や、グリッド・メンバーのソートとフィルタ、グリッド・データの調整、ショートカット・キーの使用など、EPM グリッドの操作を実行する方法を学習します。EPM グリッド、つまりアド・ホック・グリッドを使用して、分析のために頻繁に使用する、フォーカスしたデータ・スライスをパーソナライズできます。	 <a href="#">新しい EPM グリッドの操作の実行</a>
メンバーの選択、ディメンションの移動、グリッド・データおよび定義の保存など、アド・ホック操作を実行する方法を学習します。アド・ホック・グリッドを使用して、分析のために頻繁に使用する、フォーカスしたデータ・スライスをパーソナライズできます。	 <a href="#">Cloud EPM プラットフォームでのアド・ホック・グリッドの設計</a>
フォーム、キューブおよびダッシュボードを使用してアド・ホック・グリッドを作成する方法を学習します。	 <a href="#">Cloud EPM プラットフォームでのアド・ホック・グリッドの作成</a>

## アド・ホックの実行の開始

アド・ホック・グリッドでは、データを入力した後、様々な角度からデータをスライス・アンド・ダイスすることにより、多くの方法でデータを分析したり、変更できます。

Table 7-1 アド・ホック・グリッドで実行できるアクション

目的	さらに学ぶ
アド・ホックを開始する	<a href="#">アド・ホック・グリッドの作成</a> を参照してください。

Table 7-1 (Cont.) アド・ホック・グリッドで実行できるアクション

目的	さらに学ぶ
アド・ホックのグリッドを設計する	<a href="#">アド・ホック・グリッドの設計</a> を参照してください。
様々な角度からデータを見る(スライス・アンド・ダイス)	「 <b>ピボット</b> 」を使用して、ディメンションを POV、列または行に移動することにより、分析を調整します。 <a href="#">ディメンションのピボット</a> を参照してください。
ショートカット・キーを使用して、すばやくアド・ホック・グリッド内を移動したり、データを入力する	<a href="#">アド・ホック・グリッドのキーボード・ショートカットとクイック・データ入力コマンド</a> を参照してください。
データをさらに絞り込む	<ul style="list-style-type: none"> <li>「<b>選択項目の保持</b>」および「<b>選択項目の削除</b>」を使用して、グリッドをカスタマイズします。</li> <li>「<b>ズーム・イン</b>」を使用してディメンション内の次の詳細レベルを表示したり、サマリー・レベルまで「<b>ズーム・アウト</b>」します。</li> </ul>
様々なデータを操作する	多機能な「 <b>メンバー・セレクト</b> 」を使用して、様々なメンバーを選択します。たとえば、属性、子、レベルまたは分岐に基づいてメンバーを選択できます。 <a href="#">アド・ホック・グリッドのメンバー・セレクトを開く</a> を参照してください。
基礎となるデータに関連付けられたソース詳細を表示する	「 <b>データ統合</b> 」にドリル・スルーします。 <a href="#">データ統合の管理のソースへのドリル・スルーの使用</a> を参照してください。
特定の量ずつ値を変更する	「 <b>調整</b> 」を使用します。 <a href="#">値の調整</a> を参照してください。
アド・ホックに対して有効化されたコンテキスト・メニューの表示	アド・ホック・メニューを使用します。 <a href="#">アド・ホックの「アクション」メニューの使用</a> を参照してください。
データ値にロジックを構築します	<a href="#">ライン・アイテムの詳細</a> を使用します。 <a href="#">ライン・アイテムの詳細の使用について</a> を参照してください。
データの背後にある仮定を説明する	コメントを追加したり、外部ファイルを添付します。 <a href="#">コメントおよび添付の追加</a> を参照してください。
アド・ホック・グリッドの表示および動作を制御する	 (「プロパティ・パネル」)、  (「アドホック」)タブの順にクリックして、アド・ホック・グリッドの表示および動作を管理します。 <a href="#">アド・ホック・グリッドのプロパティの設定</a> を参照してください。
フリー・フォーム・アド・ホックを実行する	メンバー名を空白のグリッドに入力し、値を取得します。 <a href="#">フリーフォーム・アド・ホックの使用</a> を参照してください。
アド・ホック・データを変更した後にビジネス・ルールを実行する	「 <b>ルール</b> 」をクリックしてビジネス・ルールを検索し、起動します。 <a href="#">アド・ホック・グリッドへのルールの適用</a> を参照してください。
Oracle Smart View for Office に切り替える	「 <b>アクション</b> 」、 <b>Smart View で開く</b> 」の順にクリックします。 <a href="#">Smart View for Office ユーザーズ・ガイド 23.100 の Web アプリケーションからフォームおよびアド・ホック・グリッドを開く方法</a> を参照してください。

## アド・ホック・グリッドの作成

アド・ホック・グリッドを作成し、複数の方法でデータをスライス・アンド・ダイスできます。

 **ノート:**

アド・ホック・グリッドを作成するには、管理者から「アドホック - 作成」の役割を付与されている必要があります。この役割がない場合は、既存のアド・ホック・グリッドでのみ作業ができます。

アド・ホック・グリッドは、スタンドアロン・フォームまたはダッシュボード内のフォームから作成できます。ダッシュボードまたはフォームから開いたアド・ホックは、動的タブで開きます。

新規のアド・ホック・グリッドを作成するには:

1. ホーム・ページで、「**データ**」をクリックします。
2. 「**データ**」ページで、「**アクション**」、「**アド・ホックの作成**」の順にクリックして、「**キューブの選択**」でグリッドのキューブを選択します。

デフォルトでは、勘定科目およびエンティティは行に、年および期間は列に配置されます。その他のディメンションはグリッドの上部の **POV**(視点)に配置されます。アド・ホック・グリッドで操作するメンバーを選択します。[アド・ホック・グリッドのメンバー・セレクト](#)を開くを参照してください。

 **ノート:**

キューブが集約ストレージで、年ディメンションがない場合、期間ディメンションのみが列に配置されます。

3. または、次のオプションを使用して、既存のフォームでアド・ホック分析を実行できます:
  - スタンドアロン・フォームからアド・ホック・グリッドを作成するには、「**アクション**」、「**分析**」の順にクリックします。アド・ホック機能が使用可能になり、最初のグリッドはフォームのレイアウトに基づきます。
  - ダッシュボード 1.0 のダッシュボード内のフォームの場合は、ワークスペース全体に広がるようにダッシュボード・フォームを最大化し、「**アクション**」、「**分析**」の順にクリックします。または、分析するセルを右クリックし、「**セルで分析**」を選択できます。
  - ダッシュボード 2.0 のダッシュボード内のフォームの場合は、分析するセルを右クリックし、「**セルで分析**」を選択します。
  - ダッシュボード 2.0 のダッシュボードのフォーム上に作成されたチャートの場合は、棒グラフの棒などのチャート要素を右クリックし、「**分析**」を選択して、グラフの交差をアド・ホックで表示します。
4. **グリッド定義の保存**を選択して、アド・ホック・グリッドを保存します。[アド・ホック・データの送信とグリッド定義の保存](#)を参照してください。

これで、アド・ホック機能を使用して、データを選択および分析できるようになります。[アド・ホックの実行開始](#)を参照してください。

 **ヒント:**

グリッドに関する概要レベルの情報を表示するには、「**プロパティ・パネル**」



(「**プロパティ・パネル**」)をクリックします。「**一般**」タブで、メンバー名の表示方法を設定し、別名表を選択できます。[アド・ホック・グリッドのプロパティの設定](#)を参照してください。

## アド・ホック・データの送信およびグリッド定義の保存

アド・ホック・グリッドから変更されたデータを送信することにより、キューブ内のデータを更新できます。

 **Note:**

フォーマットは **Web** アド・ホックではサポートされておらず、**Oracle Smart View for Office** ネイティブ・モードから保存されたアド・ホック・グリッド内のフォーマットは、**Web** アド・ホックで開いた場合は保持されない場合があります。

データ送信のオプションは次のとおりです:

- **データのみ送信:** 明示的に変更した(ダーティにした)セルのデータを送信しますが、グリッド設計は送信しません。
- **リフレッシュせずにデータを送信:** 明示的に変更した(ダーティにした)データ・セルと変更されていないものをすべて送信します。すべてのデータ・セルがダーティとマークされて送信されます。送信操作が完了すると、グリッド全体がリフレッシュされます。
- **データ範囲の送信:** 選択したセルのセル・データのみを送信します。選択したセルの範囲外のグリッド上にダーティ・セルがある場合、それらの変更された値は送信されず、それらのセルは、最後に保管された値に戻ります。

アド・ホック・グリッドを保存するには、「**グリッド定義の保存**」をクリックします。

## 変更を送信せずに計算を実行(オンザフライの計算)

オンザフライの計算を使用すると、データの値を変更して計算後の変化を即座に知ることができ、更新後の値を送信する必要はありません。

フォーム 2.0 で作業するとき、またはアド・ホック分析中は、変更をデータベースに送信してリフレッシュする必要なく、オンザフライの計算を実行できます。この機能により、時間を節約し、グリッドに一度に複数の変更を加えられます。

フォーム 2.0 の場合は、このオプションは管理者がこの機能をフォームに対して有効化している場合に使用できます。この機能が有効化されているときは、2.0 バージョンのフォームで、メンバー式が添付されたセルにカーソルを置くと、セルに関連付けられているメンバー式が表示され、オンザフライの計算を実行できます。

アド・ホック分析用に、管理者がこの機能を有効化している可能性があります。または、「ユーザー・プリファレンス」の「表示」タブの「アド・ホックのユーザー式の有効化」で「はい」を選択して、オンザフライでの計算の表示プリファレンスを設定できます。この設定が有効になっている場合、アド・ホック・グリッドでメンバー式が添付されているセルにカーソルを置くと、セルに関連付けられているメンバー式が表示され、オンザフライの計算を実行できます。

オンザフライの計算を実行するには:

1. 2.0 バージョンのフォームまたはアド・ホック・グリッドを開き、セルにカーソルを置いて、式が添付されたメンバーについて、メンバー式と集計演算子の両方を表示します。この例では、**Jan** の **Sales** に対する式が確認できます。

	Trips	Trips	Trips	Trips
	Jan	Feb	Mar	Q1
International Sales	20	20	20	60
Sales East	30	30	30	90
Sales NorthEast	25	25	25	75
Sales Mid-Atlantic	20	20	20	60
Sales SouthEast	15	15	15	45
Sales South	12	12	12	36
Sales Central	10	10	10	30
Sales West	12	12	12	36
Sales	144	144	144	432

Row Sales Column BaseData Trips Jan member( 403 ):  
 410 +420 +421 +422 +423 +430 +440 +450 +66  
 grid math:  
 = EssSum( essMissing(1/0) , B4, B5, B6, B7, B8, B9, B10, B11 )

式が表示されるようにするには、フォームまたはアド・ホック・グリッドの中に入力可能なセル(レベル・ゼロ・メンバー)があることが必要です。

2. 必要に応じて計算を実行して、セルからカーソルを移動させます:
  - 計算後のセルに寄与する値を変更します。計算後のセルの値が更新されます。
  - 計算された値を変更します。そのフォームまたはアド・ホック・グリッド上のセルのうち、計算されたセルに寄与するものが更新されます。  
式スプレッドを正しく機能させるには、計算値のすべてのソース・セルがフォームまたはアド・ホック・グリッドに表示されている必要があります。

色の変化は、セルの値が変更されたことを示します。セルはすぐにリフレッシュされて、変更をデータベースに送信しなくても、新しく計算された値が表示されます。

#### Note:

「オンザフライ計算の使用可能」を選択した場合でも、データ検証およびデータ値に基づくフォーマットのみルールを使用したセルのフォーマット(色の変更を含む)は、フォームのクライアントで計算されるセルには適用されません。

この、計算済セルに寄与する値を変更する例では、**Jan** の **Sales West** の値を変更します:

	Trips	Trips	Trips	Trips
	Jan	Feb	Mar	Q1
International Sales	20	20	20	60
Sales East	30	30	30	90
Sales NorthEast	25	25	25	75
Sales Mid-Atlantic	20	20	20	60
Sales SouthEast	15	15	15	45
Sales South	12	12	12	36
Sales Central	10	10	10	30
Sales West	15	12	12	36
Sales	144	144	144	432

[Tab]を押すと、オンザフライの計算によって、**Jan**の**Sales**、**Sales West**の**Q1**、**Sales**の**Q1**の更新値が計算されます。新しく計算された値では色が変わることに注意します。

	Trips	Trips	Trips	Trips
	Jan	Feb	Mar	Q1
International Sales	20	20	20	60
Sales East	30	30	30	90
Sales NorthEast	25	25	25	75
Sales Mid-Atlantic	20	20	20	60
Sales SouthEast	15	15	15	45
Sales South	12	12	12	36
Sales Central	10	10	10	30
Sales West	15	12	12	39
Sales	147	144	144	435

この、計算後の値を変更する例では、**Feb**の**Sales**の計算後の値を変更します：

	Trips	Trips	Trips	Trips
	Jan	Feb	Mar	Q1
International Sales	20	20	20	60
Sales East	30	30	30	90
Sales NorthEast	25	25	25	75
Sales Mid-Atlantic	20	20	20	60
Sales SouthEast	15	15	15	45
Sales South	12	12	12	36
Sales Central	10	10	10	30
Sales West	12	12	12	36
Sales	144	288	144	432

[Tab]を押すと、計算後のセルに寄与する値が更新されます。新しく計算された値では色が変わることに注意します。

	Trips	Trips	Trips	Trips
	Jan	Feb	Mar	Q1
International Sales	20	40	20	80
Sales East	30	60	30	120
Sales NorthEast	25	50	25	100
Sales Mid-Atlantic	20	40	20	80
Sales SouthEast	15	30	15	60
Sales South	12	24	12	48
Sales Central	10	20	10	40
Sales West	12	24	12	48
Sales	144	288	144	576

- すべての変更が完了し、計算に満足した場合は、変更後の値をサーバーに送信するか、送信せずに変更を破棄できます。

オンザフライの計算は **Oracle Smart View for Office** で 2.0 バージョンのフォームまたはアド・ホック・グリッドで実行することもできます。**Oracle Smart View for Office** の操作の変更を送信せずに計算を実行を参照してください。

サポートされる式関数および演算子を確認してください。**Oracle Smart View for Office** の操作のオンザフライ計算でサポートされる関数と演算子を参照してください。

オンザフライの計算では、サポートされない式の関数があります。Oracle Smart View for Office の操作のオンザフライの計算でサポートされない関数および式を参照してください。

オンザフライの計算を実行するときの追加の考慮事項は、Oracle Smart View for Office の操作のガイドラインおよび考慮事項を参照してください。

### チュートリアル

チュートリアルには、トピックを学習するのに役立つ一連のビデオおよびドキュメントを使用した説明が用意されています。

目的	方法の学習
このチュートリアルでは、メンバー式を使用するアド・ホック分析でオンザフライ計算を実行する方法を学習します。オンザフライの計算の作業は、Web でも Smart View でも行うことができます。	 <a href="#">Cloud EPM でのオンザフライ計算の実行</a>

## アド・ホック・グリッドへのアクセス

アド・ホック・グリッドを開いて、フォーム内のデータの表示および分析をパーソナライズします。

アド・ホックには、スタンドアロン・フォーム、ダッシュボード内のフォーム、またはダッシュボード 2.0 のダッシュボード内のフォームに作成されたグラフからアクセスできます。ダッシュボードまたはフォームから開いたアド・ホックは、動的タブで開きます。

### 保存済アド・ホック・グリッドへのアクセス

保存したアド・ホック・グリッドにアクセスするには:

1. ホーム・ページで、「データ」をクリックします。  
「データの入力」リスト・ページのアド・ホック・グリッドには、「アド・ホック・グリッド」アイコン  が表示されます。
2. アド・ホック・グリッドの名前をクリックします。

### スタンドアロン・フォームでのアド・ホックの実行

スタンドアロン・フォームでアド・ホックを実行するには、フォームを開き、「アクション」をクリックした後、「分析」をクリックします。

### ダッシュボード・フォームでのアド・ホックの実行

ダッシュボード内のフォームでアド・ホックを実行するには:

- ダッシュボード 1.0 のダッシュボード内のフォームの場合は、ワークスペース全体に広がるようにダッシュボード・フォームを最大化し、「アクション」、「分析」の順にクリックします。または、分析するセルを右クリックし、「セルで分析」を選択してアド・ホックを動的タブで開くことができます。
- ダッシュボード 2.0 のダッシュボード内のフォームの場合は、分析するセルを右クリックし、「セルで分析」を選択してアド・ホックを動的タブで開きます。

### ダッシュボード 2.0 のチャート要素でのアド・ホックの実行

ダッシュボード 2.0 のダッシュボード内のチャート要素でアド・ホックを実行するには:

1. ダッシュボード 2.0 のダッシュボードを開きます。
2. チャート要素を右クリックします。たとえば、棒グラフ内の棒を右クリックします。
3. 「分析」をクリックして、動的タブでアド・ホックを開きます。「分析」は、そのチャートの交差をアド・ホックで起動します。  
チャート・タイプ別の分析動作を理解するには、[ダッシュボード 2.0 のチャートからアド・ホックへのドリルダウン](#)を参照してください。

## アド・ホック・グリッドの設計

アド・ホック・グリッドをカスタマイズして、関連するデータにすばやくアクセスできるようにします。

簡単に使用できる機能により、選択したデータ・スライスを設計して見直すことができます。

表 7-2 次の機能を使用したアド・ホック・グリッドのカスタマイズ

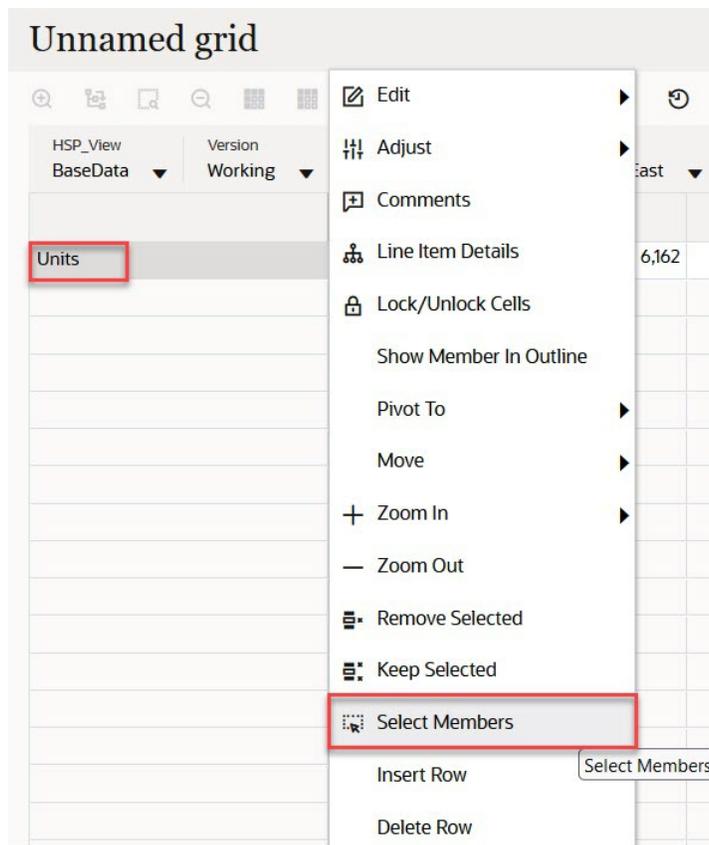
目的	参照先トピック
操作するデータの見直し	<a href="#">アド・ホック・グリッドのメンバー・セレクトアを開く</a>
ある軸から別の軸へのディメンションの移動	<a href="#">ディメンションのピボット</a>
メンバー階層レベルのインデント方法などのオプションを設定する	<a href="#">アド・ホック・グリッドのプロパティの設定</a>
セル・データを計算するロジックの定義	<a href="#">ライン・アイテムの詳細の使用について</a>

## アド・ホック・グリッドのメンバー・セレクトアを開く

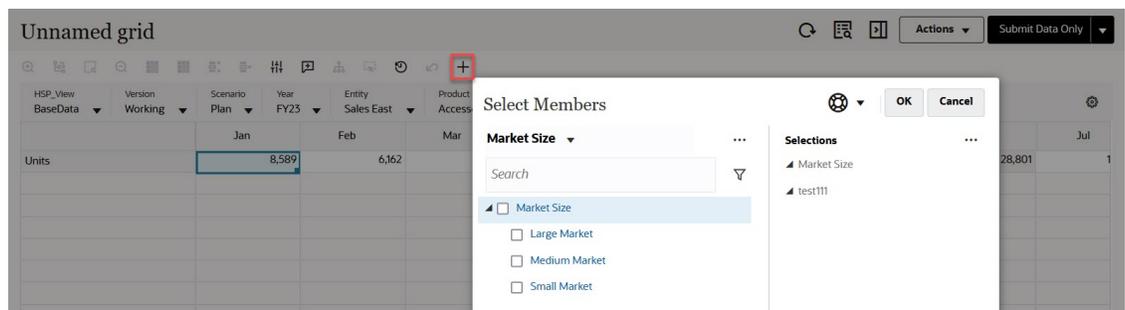
データを分析するときに、対象データの操作が必要になる場合があります。POV、行および列のメンバーを選択すると、分析するデータを迅速に設定および変更できます。アド・ホック・グリッド内のメンバーを選択するには、メンバー・セレクトアを使用します。

メンバー・セレクトアを使用すると、アド・ホック・グリッドの定義内のユーザー変数、代替変数および属性を設定できます。アド・ホック・グリッドからメンバー・セレクトアを開くには:

メンバーの 1 つを右クリックし、「**メンバーの選択**」を選択します。



属性が使用可能な場合は、ツールバーの「属性の挿入」アイコンをクリックします。



 (POV 設定)をクリックしてから「メンバー・セレクタ」を選択することもできます。

メンバー・セレクタの使用に関する詳細は、[メンバー・セレクタの使用](#)を参照してください。

## 期間累計メンバーの選択

管理者が期間ディメンションについて動的時系列メンバーを設定していれば、期間累計データを表示するメンバーを選択できます。たとえば、年次累計費用のデータを表示するには、1月から8月までのデータを含む動的時系列メンバーを選択できます。

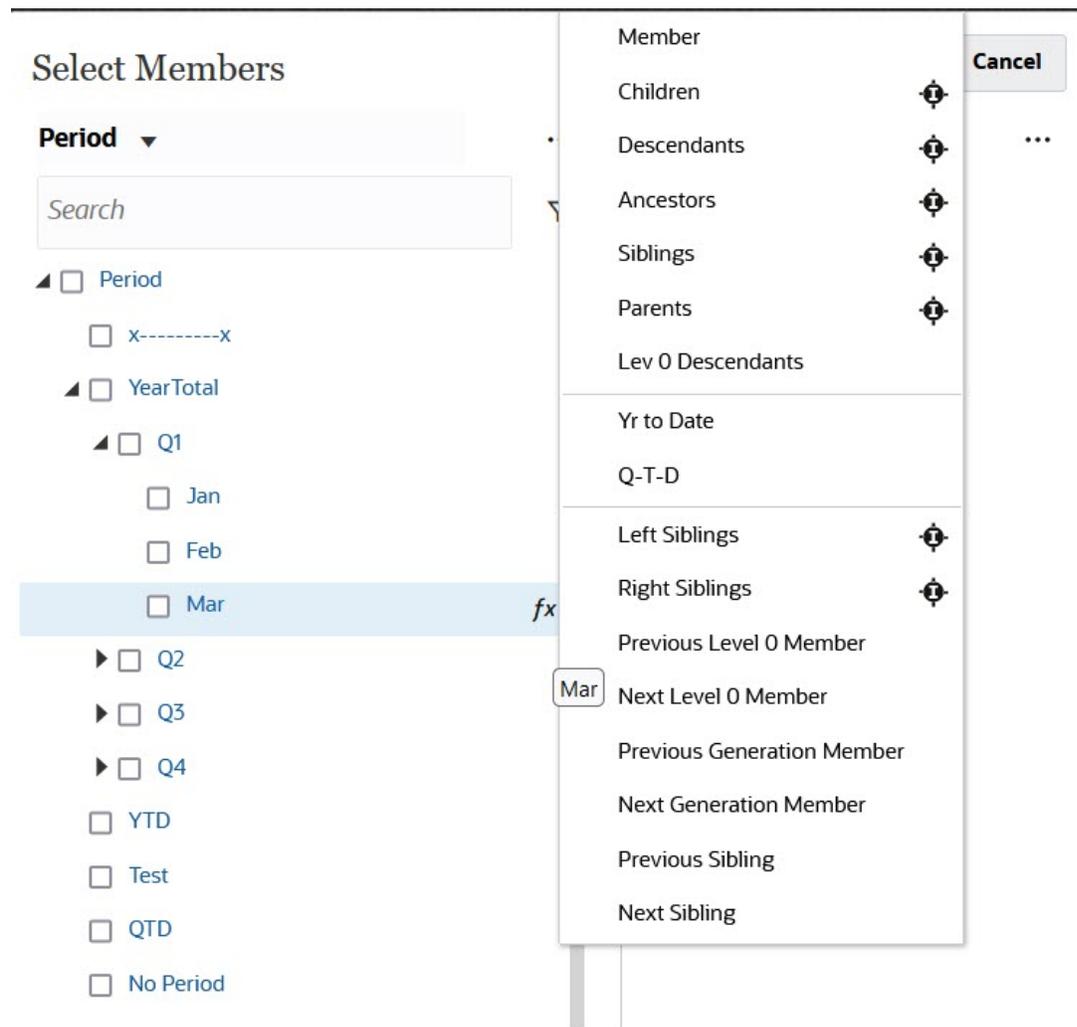
動的時系列メンバーを選択するには:

1. アド・ホック・グリッドの「期間」ディメンションを右クリックし、「メンバー・セレクタ」を選択します。

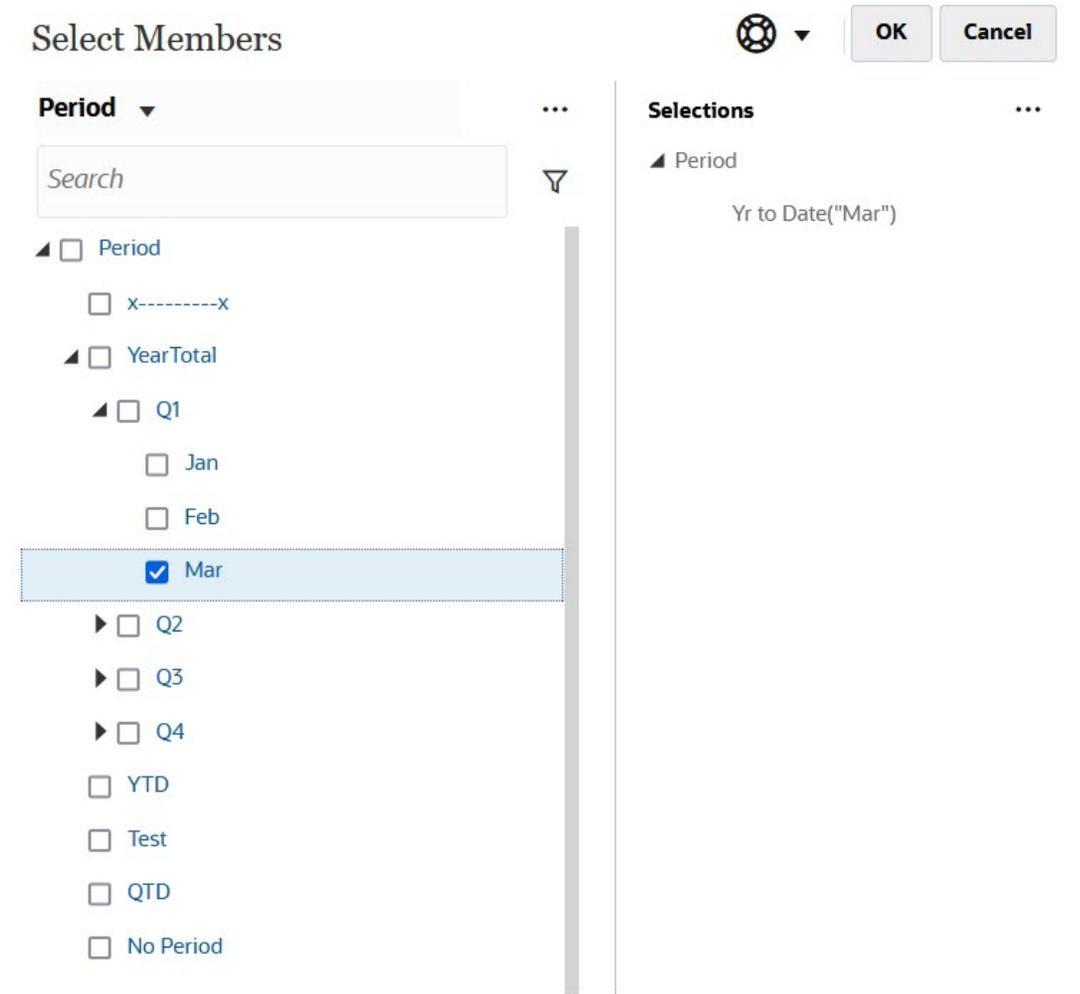
2. メンバーの横の

$f_x$

(「関数セレクト」)をクリックして、使用可能な時系列メンバー(Q-T-D など)を表示します。



3. リストから時系列メンバーを選択します。この例では、「3月」が選択されているため、「年次累計」を選択すると「年次累計("3月")」が「選択」ペインに追加されます。



4. 「OK」をクリックします。

メンバー・セレクタの詳細は、[メンバー・セレクタの使用](#)を参照してください。

## 列メンバーのフィルタ

強力なフィルタ・オプションにより、アド・ホック・グリッドでの列メンバーの表示を制御できます。列名にカーソルを置き、列名の右側にあるファンネルをクリックして、アクションを選択します。

「ソート」オプションを使用すると、昇順または降順でソートして、メンバー階層を無視できます。「フィルタ条件」オプションを使用すると、「条件」（「次より大きい」や「次より小さい」など）または「値」でフィルタ処理できます。ソートおよびフィルタ・オプションを削除するには、



（「フィルタの除去」）をクリックします。

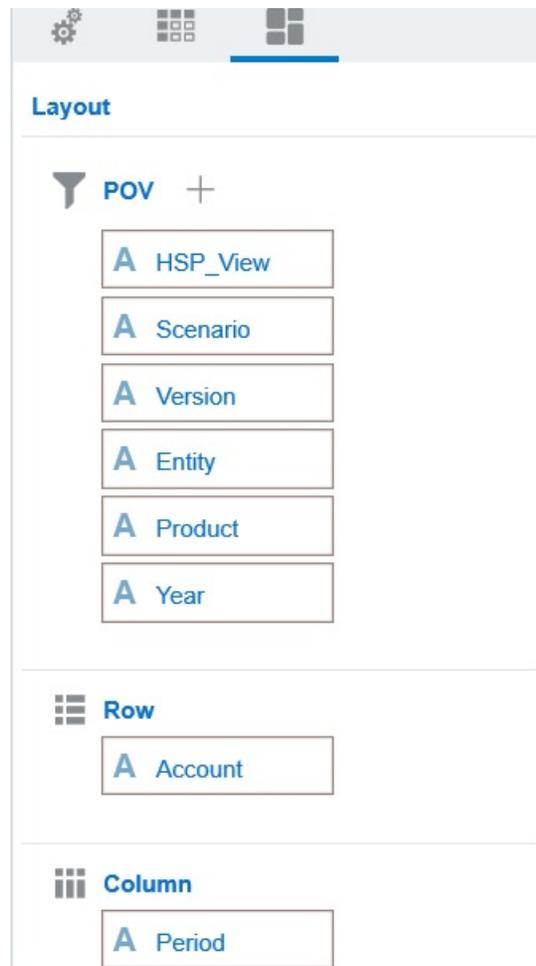
## ディメンションのピボット

ディメンションをピボットすると、グリッドのデータの方向が変わるため、別の角度からデータを表示したり、情報をスライス・アンド・ダイスできます。

1つの軸から別の軸へディメンションをドラッグして、ディメンションをピボットします。

たとえば、次のようなことができます。

- 行から列へ、または列から行へディメンションをドラッグします。
- POVと行または列の間でディメンションをドラッグします。
- 同じ軸上でメンバーをドラッグして、並べ替えます。
- 「プロパティ・パネル」の「レイアウト」タブとの間でディメンションをドラッグします：



行軸と列軸に1つのディメンションが存在する必要があります。行または列の最後に残ったディメンションはピボットできません。

## 共有メンバーについて

共有メンバーは、ストレージ・スペースを別の同名メンバーとの間で共有し、キューブに複数回現れるメンバーが重複して計算されることを防ぎます。共有メンバーは、エンティティ、勘定科目、ユーザー定義のカスタム・ディメンションに使用できます。

メンバーを共有すると、アプリケーション内でロールアップ構造の入れ替えが行えます。管理者が共有メンバーを作成する前に基本メンバーが存在している必要があります。管理者は、基本メンバーに複数の共有メンバーを作成できます。上から下への表示位置では、基本メンバーはその共有メンバーより先に表示されている必要があります。

アド・ホック・グリッドの共有メンバーにドリルできますが、管理者が最初に、「**アド・ホックでの共有メンバーに対するドリルダウンを許可**」と呼ばれるシステム設定を有効にする必要があります。

共有メンバーは基本メンバーと同様に、Oracle Smart View for Office のメンバー選択のディメンション階層に表示されます。

## 共有メンバーへのズーム・イン

アド・ホック・グリッド内の共有メンバーがサポートされ、メンバーが基本メンバーであるか共有メンバーであるかが認識されます。管理者がアプリケーション設定「**アド・ホックでの共**

**有メンバーに対するドリルダウンを許可**を有効にした場合、共有メンバーへのズーム・インがサポートされます。この場合、共有メンバーのズーム・インは、それに対応する基本メンバーのズーム・インと実質的に同じになります。一度に1つのレベルずつ共有メンバーにズーム・インできます。

管理者がアプリケーション設定「ベースのすべてのレベルにドリル」を有効にした場合、ズーム・イン・オプションの「すべてのレベル」および「最下位レベル」を使用して、基本階層内の共有メンバーのみでなくすべてのレベルまたは最下位レベルのみにズーム・インできます。

### 共有メンバー・ズーム・インの例

この例では、「アド・ホックでの共有メンバーに対するドリルダウンを許可」が「はい」に設定され、「ベースのすべてのレベルにドリル」が有効になっている場合に表示される結果について説明します。

図1に、エンティティ・ディメンションの下の3つの階層を示します。entity\_10階層では、すべてのメンバーがentity\_10の子孫です。entity\_12階層では、すべてのメンバーがentity\_12の子孫です。entity\_14階層には、entity\_14の子孫のメンバーと、共有メンバーentity\_10およびentity\_12もあります。共有メンバーはその子孫も含みます。

Figure 7-1 階層を表示するエンティティ・ディメンション

Name
Entity
entity_10
entity_10.1
entity_10.2
entity_10.3
entity_10.4
entity_12
entity_12.1
entity_12.1.1
entity_12.1.2
entity_12.1.3
entity_12.2
entity_12.3
entity_14
entity_14.1
entity_14.1.1
entity_14.1.2
entity_10(Shared)
entity_12(Shared)

図2に、entity\_14へのズーム・インの差異を示します:

- すべてのレベルへのズーム・イン・コマンドを使用
- 最下位レベルへのズーム・イン・コマンドを使用

どちらの場合も、Oracle Smart View for Officeの「メンバー・オプション」の「祖先の位置」は、「最上位」に設定されています。

Figure 7-2 「祖先の位置」が「最上位」の entity\_14 へのズーム・インの結果

Zoom In “entity\_14” to **All Levels**

```
entity_14
  entity_14.1
    entity_14.1.1
    entity_14.1.2
  entity_10 (shared member)
  entity_10.1
  entity_10.2
  entity_10.3
  entity_10.4
  entity_12 (shared member)
  entity_12.1
    entity_12.1.1
    entity_12.1.2
    entity_12.1.3
  entity_12.2
  entity_12.3
```

Zoom In “entity\_14” to **Bottom Levels**

```
entity_14
  entity_14.1.1
  entity_14.1.2
  entity_10 (shared member)
  entity_10.1
  entity_10.2
  entity_10.3
  entity_10.4
  entity_12 (shared member)
    entity_12.1.1
    entity_12.1.2
    entity_12.1.3
  entity_12.2
  entity_12.3
```

 **Note:**

ネイティブ・モード・アプリケーションでは、「アド・ホックでの共有メンバーに対するドリルダウンを許可」が「はい」に設定され、「ベースのすべてのレベルにドリル」が無効な場合は、すべてのレベルへのズーム・インの例に示された結果を得ることができます。ただし、各階層の最下位レベルに達するまで、一度に1つのレベルずつ共有メンバーにズーム・インする必要があります。共有メンバーの最下位レベルに直接ズーム・インすることはできません。

## アド・ホック・グリッドのプロパティの設定

「プロパティ・パネル」を使用してプリファレンスを設定することにより、アド・ホック・グリッドの表示と動作を制御できます。

### 全般アド・ホック・プロパティの設定

全般アド・ホック・オプションを設定するには:

1. アド・ホック・グリッドで、「プロパティ・パネル」アイコン



をクリックし、「全般」をクリックします。

2. 「グリッド」で、次のオプションを設定します:

- 名前
- 説明
- キューブ
- メンバー・ラベルの表示では、次のオプションから選択します:

- 個別のメンバー名のみ
- メンバー名または別名
- 別名表

### アド・ホック・ユーザー・オプションの設定

アド・ホック・ユーザー・オプションを設定するには:

1. アド・ホック・グリッドで、「プロパティ・パネル」アイコン



をクリックし、「アド・ホック・オプション」をクリックします。

2. 「グリッド」で、メンバーの表示方法を設定します:

- **含めるメンバー:**
    - **選択を含める:** 選択したメンバーと操作の結果として取得されたメンバーの両方を表示するには、「はい」を選択します。たとえば、選択したメンバー Qtr1 にズーム・インすると、Qtr1 (1月、2月および3月)のデータが表示されます。
    - **選択されたグループ内:** 選択したメンバー・グループのみを対象としてズームなどの操作を実行し、選択しなかったセルはそのままにするには、「はい」を選択します。この設定が有意義なのは、グリッドの下位の行として、またはグリッド全体にわたる列として2つ以上のディメンションがある場合です。このオプションは、「ズーム」、「選択項目のみ保持」および「選択項目のみ削除」に適用されます。
  - **ズーム・イン:** ズーム・インするレベルを選択します。
    - **次のレベル:** 選択したメンバーの子のデータを取得します。
    - **すべてのレベル:** 選択したメンバーのすべての子孫のデータを取得します。
    - **最下位レベル:** ディメンションの最下位レベルのメンバーのデータを取得します。
  - **祖先の位置:** 階層での祖先の表示方法を設定します。
    - **最上位:** メンバー階層を最上位レベルから最下位レベルに向かって表示します。
    - **最下位:** メンバー階層を最下位レベルから最上位レベルに向かって表示します。
  - **インデント:** メンバー階層レベルのインデント方法を設定します。
    - **なし:** メンバーをインデントしません。
    - **サブアイテム:** 子孫をインデントします。祖先は列で左揃えになります。
    - **合計:** 祖先をインデントします。子孫は列で左揃えになります。
  - **データをリフレッシュせずにナビゲート:** 「いいえ」を選択すると、ピボットやズームなどでグリッドをナビゲートする際のパフォーマンスが向上します。データを更新する場合、単に「リフレッシュ」をクリックします。(このオプションで「はい」を選択した場合、アド・ホックで作業する際にデータがリフレッシュされます。)
3. データの表示を簡潔にするには、「抑制」でオプションを選択して、グリッドの要素を抑制します。たとえば、ゼロ値を含む行または列を非表示にできます。
    - **ゼロ値:**
      - **なし:** ゼロのみを含む行と列を表示するために選択します。
      - **行:** ゼロのみを含む行を非表示にする場合に選択します。
      - **列:** ゼロのみを含む列を非表示にする場合に選択します。

- **行と列:** ゼロのみを含む行と列を非表示にするために選択します。
- **繰返しのメンバー:** グリッドの方向に関係なく、繰返しのメンバー名を含む行を非表示にするには、「はい」を選択します。
- **欠落データ:** ゼロを含むか、データが欠落している行または列を非表示にするために選択します:
  - **なし:** ゼロを含むか、データが欠落している行と列を表示します。
  - **行:** ゼロを含むか、データが欠落している行を非表示にします。
  - **列:** ゼロを含むか、データが欠落している列を非表示にします。
  - **行と列:** ゼロを含むか、データが欠落している行と列を非表示にします。
- **行で欠落しているブロック:** データが欠落している行のセル・ブロックを非表示にするには、「はい」を選択します。
- **アクセス権なし:** 自分にアクセス権がない行または列を非表示にするために選択します:
  - **なし:** 自分にアクセス権がない行と列を表示します。
  - **行:** 自分にアクセス権がない行を非表示にします。
  - **列:** 自分にアクセス権がない列を非表示にします。
  - **行と列:** 自分にアクセス権がない行と列を非表示にします。

 **ノート:**

アド・ホック・グリッドを開こうとしたときに、「有効なデータ行がないため、アド・ホック・グリッドを開けません。」というエラーが表示された場合は、「抑制」のオプションをクリアしてください。

4. 「精度値」で、「通貨」の値、「通貨以外」の値および「パーセンテージ」の値について、セルに表示される小数部の最小桁数と最大桁数を設定します。たとえば、セルの値が100で、「最小」精度"2"を選択した場合、値は"100.00"と表示されます。たとえば、「最大」精度"3"を選択し、セルの値が100.12345の場合、値は"100.123"と表示されます。通貨メンバーの精度設定を適用するには、「通貨メンバーの精度の使用」を選択します。
5. 「置換」で、データが欠落しているセル、自分にアクセス権がないセルまたは無効なデータを含むセルに表示するラベルを設定します。
  - **データなし:** 「#Missing」または「#NoData」という値を含むセルに表示するテキストを入力します。
  - **アクセス権なし:** 自分にアクセス権がないセルに表示するテキストを入力します。
  - **ゼロを送信:** 「データなし」または「アクセス権なし」置換オプションでテキストとして「#NumericZero」を指定したときに、ゼロをアプリケーションに送信する場合は、「はい」を選択します。
6. 「リフレッシュ」をクリックします。

**レイアウト・オプションの設定**

「レイアウト」タブを使用して、アド・ホック・グリッド内で使用されている属性を削除できます。これは、グリッドから属性を削除できる唯一の場所です。

アド・ホック・グリッドのレイアウト・オプションを設定するには:

1. アド・ホック・グリッドで、「プロパティ・パネル」アイコン



をクリックし、「レイアウト」をクリックします。

2. [ディメンションのピボット](#)を参照してください。

## アド・ホック・グリッドのキーボード・ショートカットおよびクイック・データ入力コマンド

### キーボード・ショートカット

次のショートカット・キーを使用してアド・ホック・グリッドを迅速に移動できます:

キーまたはキーの組合せ	結果
[Tab]	その行の次のセルに移動します。フォーカスが行の最後のセルにある場合、[Tab]で次の行の最初のセルに移動します。
[Shift]+[Tab]	その行の前のセルに移動します。フォーカスが行の最後のセルにある場合、[Shift]+[Tab]で前の行の最後のセルに移動します。
[↑]、[↓]	同じ列内で前または次の行に上下に移動します。
[→]、[←]	その行の次のセルまたは前のセルに移動します。
[Ctrl]+[Home]	グリッドの最初のセルに移動します。
[Shift]+[End]	グリッドの最初の行の最後のセルに移動します。
[Ctrl]+[End]	グリッドの最後のセルに移動します。
[Ctrl]+[→]	現在の行の最後のセルに移動します。
[Ctrl]+[←]	現在の行の最初のセルに移動します。
[Shift]+[Space]	行を選択します。
[Ctrl]+[Space]	列を選択します。
[Ctrl]+[↑]	列の一番上の行に移動します。
[Ctrl]+[↓]	列の一番下の行に移動します。
[Ctrl]+[Shift]+[↑]	現在のセルから列の一番上の行まで、列のセルを選択します。
[Ctrl]+[Shift]+[↓]	現在のセルから列の一番下の行まで、列のセルを選択します。
[Shift]+[←]	行の先頭に到達するまで左矢印を押すたびに、行の現在のセルの左側にあるセルを選択します。
[Shift]+[→]	行の末尾に到達するまで右矢印を押すたびに、行の現在のセルの右側にあるセルを選択します。
[Shift]+[↑]	列の上部に到達するまで上矢印を押すたびに、列の現在のセルの上にあるセルを選択します。
[Shift]+[↓]	列の下部に到達するまで下矢印を押すたびに、列の現在のセルの下にあるセルを選択します。
[Shift]+クリック	[Shift]キーを押しながらマウスを使用してグリッド内の様々な列または行からセルを選択することにより、複数のセルを選択します。

### データを迅速に入力するためのコマンド

これらのショートカットを使用して、アド・ホック・グリッドにデータをすばやく入力できます。キーまたは記号を入力し、[Enter]または[Tab]を押します。

キーまたは記号	結果	例
K	千単位で値を入力します。	5,000 の場合、5K と入力します。

キーまたは記号	結果	例
M	百万単位で値を入力します。	5,000,000 の場合、5Mと入力します。
Add または +	セルの値に数値を加算します。	セルの値が 100 の場合、100 の後に Add10 と入力すると、110 になります。
/	セルの値を数値で除算します。	セルの値が 100 の場合、100 の後に /2 と入力すると、50 になります。
Sub または ~	セルの値から数値を減算します。	セルの値が 100 の場合、100 の後に Sub10 と入力すると、90 になります。
Percent または per	入力したパーセンテージをセルの値に掛けます。	セルの値が 100 の場合、100 の後に per10 と入力すると、現在のセルの値の 10%、つまり 10 になります。
Increase または inc	入力したパーセンテージ分セルの値が増加します。	セルの値が 200 の場合、200 の後に inc10 と入力すると、セルの値が 200 の 10% (20)増加され、220 になります。
Decrease または dec	入力したパーセンテージ分セルの値が減少します。	セルの値が 200 の場合、200 の後に dec10 と入力すると、セルの値が 200 の 10% (20)減少され、180 になります。
Power または pow	セルの値を指数として追加された値に変更します。	セルの値が 100 の場合、100 の後に pow2 と入力すると、セルの値に指数 2 が掛けられ、10,000 になります。
gr	パーセンテージ分セルを増加させます。	セルの値が 200 の場合、200 の後に gr50 と入力すると、セルの値が 100 増加され、300 になります。

## アド・ホック・グリッドへのルール適用

新規または変更されたデータを送信した後、データを計算するビジネス・ルールを実行できません。

ルールを適用するには:

1. アド・ホック・グリッドを開きます。
2. 「ルール」  をクリックします。
3. 実行時プロンプトが表示された場合、必要な情報を入力または選択して「起動」をクリックします。

ルールが正常に実行されると、メッセージが表示され、データが更新されます。

## コメントおよび添付の追加

データを説明したり背景を提供するために、セルにコメントおよび添付を追加できます。

有効な添付ファイルのタイプは:

- 使用できる画像タイプ: .jpg、.gif、.png、.7z
- 使用できる画像以外のファイル・タイプ:  
ブ: .csv、.xls、.xlsx、.txt、.zip、.jlf、.doc、.docx、.ppt、.pptx、.rtf、.pdf、.gdoc、.gsheet、.gslides、.msg

コメントまたは添付を追加するには:

1. セルをクリックし、



(「コメント」)を選択します。

2. コメントを入力します。ファイルを添付するには、



(「添付の追加」)をクリックしてファイルを参照します。

3. 「**転記**」をクリックします。

セルの右上の青色の三角形は、コメントまたは添付があることを示します。コメントを読んだり、添付ファイルを表示するには、ステップ1を実行します。

#### ノート:

フォーム 2.0 では、式セルへのコメントまたは添付の追加はサポートされていません。

## 値の調整

アド・ホック・グリッドでセル値をすばやく調整できます。

セルの値を調整するには:

1. セルをクリックします。

2. 「**調整**」



をクリックします。

3. 「**調整**」に、正、負またはパーセンテージの値を入力し、「**OK**」をクリックします。

## アド・ホックの「アクション」メニューの使用

管理者は、すべてのアド・ホック・グリッドに対してグローバルに使用可能になる、アド・ホック・メニューと呼ばれるアクション・メニューを作成できます。アド・ホック・メニューは、1つ以上のキューブのコンテキスト内で機能します。管理者がアド・ホック・メニューを1つ以上のキューブに関連付けると、それらのキューブを使用するすべてのアド・ホック・グリッドのユーザーがそのメニューを表示できるようになります。

たとえば、管理者はビジネス・ルールを起動するアド・ホック・メニューを定義できます。選択したキューブを使用するアド・ホック・グリッドでデータ・セルを右クリックすると(ディメンションを選択するか、メニュー・アイテムを表示するオプション(「視点」、「ページ」、「行」、「列」、「メンバーのみ」、「セルのみ」)を選択できます)、ビジネス・ルール・メニュー・オプションが表示され、ルールを実行できます。

アド・ホックの「アクション」メニュー・アイテムを表示するには:

1. グリッドのセルを右クリックします。ディメンションを選択するか、メニュー・アイテムを表示するオプション(「視点」、「ページ」、「行」、「列」、「メンバーのみ」、「セルのみ」)を選択できます
2. アクションを実行するメニュー・アイテムを選択します。

## ライン・アイテムの詳細の使用について

セル値の計算方法にロジックを組み込むには、ライン・アイテムの詳細と呼ばれるアプリケーションの組み込み計算機能を使用できます。

### ノート:

ライン・アイテムの詳細はサポート詳細を置き換えるものであり、これらは機能的に同一です。詳細はセル・レベルで追加することも、同じ行内の複数のセルに追加することもできます。

ライン・アイテムの詳細を使用すると、セルの値を作成し、値の背後にある仮定を保存できます。たとえば、ボールペン、万年筆、マーカーなどのペンのライン・アイテムの詳細を追加します。これで、ペン・メンバーでは、すべてのペン・タイプの合計を表示できます。または、独自のロジックを使用して、次期四半期の出張費用の計画を立てるとします。この例では、出張費用の計画にライン・アイテムの詳細を使用する方法を示しています。詳細はグリッドの下に表示されます:

	Jan
<b>acc2</b>	<b>2850</b>
▼ Air Fare (+)	2,400.00
Customer Visits (+)	2.00
Average Rate (x)	1,200.00
▼ Hotel (+)	450.00
Number of Nights (+)	3.00
Rate per Night (x)	150.00

ライン・アイテムの詳細を作成するには、行ヘッダーをクリックし、



(「ライン・アイテムの詳細」)をクリックします。ライン・アイテムの詳細グリッドの上部中央にある下矢印をクリックして縮小します。

ライン・アイテムの詳細について:

- データの計算方法を定義するテキスト、数値および演算子を含めることができます。
- セルの上にカーソルを置くと、ライン・アイテムの詳細があるかどうかを確認できます。
- ライン・アイテムの詳細では、アド・ホック・グリッドへのメンバーの追加やその組織の変更は行われません。
- ライン・アイテムの詳細を作成するセルへの書込み権限が必要です。

- ライン・アイテムの詳細を保護するために、ライン・アイテムの詳細を含むセルの集約値は読み取り専用です。
- ライン・アイテムの詳細は、基本期間(レベル 0 メンバー)にのみ追加できます。四半期などのサマリー期間には、ライン・アイテムの詳細を追加できません。
- 式の行セルにはサポート詳細もライン・アイテムの詳細も追加できません。
- 設定済の数値および精度フォーマットは、**ライン・アイテムの詳細**ウィンドウには反映されません。
- 演算子のシーケンスは、複雑な計算で複数の演算子进行处理するのに使用されるものと同じ論理に従います。[ライン・アイテムの詳細の順序](#)を参照してください。

## ライン・アイテムの詳細の追加

ライン・アイテムの詳細を使用して、詳細アイテムがセルの値に集約される方法を設定します。

ライン・アイテムの詳細の概要は、[ライン・アイテムの詳細の使用について](#)を参照してください。

ライン・アイテムの詳細を操作するには:

1. 行ヘッダーをクリックしてから、



(「ライン・アイテムの詳細」)をクリックします。

2. アド・ホック・グリッドの下に新しいグリッドが表示されます。このグリッドに、必要な構造を反映する行を追加します。

たとえば、



(「ライン・アイテムの詳細の追加」)をクリックしてから、「**子の追加**」をクリックして、選択した行の直下に行を追加します。[ライン・アイテムの詳細の構造の操作](#)を参照してください。

3. テキスト・ボックスに、最大 **1,500** 文字の説明を入力できます。
4. 各行でデフォルトのプラス記号をクリックしてから、演算子を選択して行間の算術的關係を設定します。次の演算子から選択します:

 Approx

 Add

 Subtract

 Multiply

 Divide

5. ライン・アイテムの詳細の構造を作成したら、設定または計算するデータを入力します。フォームで設定したものと同じスケールを使用して、数字を入力します。データをコピーしてライン・アイテムの詳細に貼り付けることができます。

6. 「**適用**」をクリックします。

値は動的に計算され、データを保存する前に集約されます。

 ノート:

式の行セルにサポート詳細またはライン・アイテムの詳細を追加することはできません。

詳細は、[ライン・アイテムの詳細の構造の操作](#)を参照してください。

## ライン・アイテムの詳細の構造の操作

ライン・アイテムの詳細の要素の操作方法を学習します。

ライン・アイテムの詳細の構造を作成または変更するには:

1. ライン・アイテムの詳細を追加する行を選択し、  
  
(「ライン・アイテムの詳細」)をクリックします。
2.   
(「ライン・アイテムの詳細の追加」)をクリックした後、「子の追加」をクリックします。「無題」をクリックし、名前を指定します。
3. 必要な構造を反映する行を追加します。たとえば、「兄弟の追加」または「複製」をクリックします。「ライン・アイテムの詳細」グリッドの前にあるツールバーから次のオプションを使用します:

表 7-3 ライン・アイテムの詳細のオプション

オプション	結果
	<b>リフレッシュ:</b> 「ライン・アイテムの詳細」グリッドをリフレッシュします。保存していないデータを破棄するには、「はい」をクリックします。それ以外の場合は、「いいえ」をクリックします。
	<b>ライン・アイテムの詳細の追加:</b> 選択したセルの1レベル下に子または兄弟を追加します。子は無制限に追加できますが、パフォーマンスに与える影響を考慮してください。
	<b>上位へ移動:</b> 選択した行を1つ上のレベルに移動します。
	<b>下位へ移動:</b> 選択した行を1つ下のレベルに移動します。
	<b>上へ移動:</b> 選択した行をその兄弟の先祖より前に移動します。
	<b>下へ移動:</b> 選択された行をその兄弟の子孫より後に移動します。
	<b>削除:</b> 次の削除アクションを選択できます: <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「行の削除」は、選択した行を削除します。</li> <li>• <b>すべての行の削除</b>は、すべての行を削除します。</li> </ul>

4. 「適用」をクリックします。

## ライン・アイテムの詳細の順序

ライン・アイテムの詳細の順序は、保存される結果の値に影響します。

計算の順序を理解すると正確にライン・アイテムの詳細を入力できます。ライン・アイテムの詳細は+ (加算)、- (減算)、\* (乗算)および/ (除算)の計算順序で使用します。簡単な単位 x レートの例で正確にライン・アイテムの詳細に入力する方法を実演します。

[ライン・アイテムの詳細の間違った入力](#)および[ライン・アイテムの詳細の正しい入力](#)を参照してください。

## ライン・アイテムの詳細の間違った入力

この例は、間違ったデータを生成するライン・アイテムの詳細の行の順序を示しています。

次の表では、レートが単項演算子+に設定されています。したがって、まずレートを加算してから単位を掛けるという計算順序になり、2月と3月については間違ったデータになります。

	Jan	Feb	Mar
Rate +	250	250	250
Unit *	10		
Total:	2500	250	250

## ライン・アイテムの詳細の正しい入力

この例は、正しい値を生成するライン・アイテムの詳細の順序を示しています。

次の表では、単位にレートを掛けるという計算順序となるため、結果は正しい値になります。

ライン・アイテムの詳細を追加するときは、行の順序を検証して、正しい値が計算され保存されたことを確認します。

	Jan	Feb	Mar
Unit +	10		
Rate *	250	250	250
Total:	2500		

## ライン・アイテムの詳細のセルが空白の場合の合計

ライン・アイテムの詳細のセルが空白である場合、値が集約される際に(空白セルがゼロを意味すると仮定するのではなく)無視されます。

たとえば、講師を雇用するための1日当たりのレート(\$250)と講師の雇用を計画している1か月当たりの日数(1月に4回、2月はなし)を乗算するために、次のようなライン・アイテムの詳細を定義するとします。2月には講師を雇用するつもりがないにもかかわらず、2月の講師合計は250になります。

	Jan	Feb
Instructor	1000	250
Rate +	250	250
Days	4	

いくつかのセルが空白であるときに、\*乗数によって集約される値を正しく合計するには、レート  
のセルを空白のままにするか、または日数のセルを空白のままにするかわりにゼロを入力し  
ます。これでレート(250)と0(ゼロ)が乗算され、2月の結果はゼロになります。

	Jan	Feb
Instructor	1000	0
Rate +	250	250
Days	4	0

## アド・ホック・グリッドの印刷

印刷が必要な場合は、ブラウザの印刷機能または Oracle Smart View for Office の Excel 印刷機  
能を使用してアド・ホック・グリッドを印刷できます。

Smart View でアド・ホック・フォームの作業を行うには、フォームを開いて「アクション」を  
クリックし、「Smart View で開く」を選択します。

Smart View for Office ユーザーズ・ガイド 23.100 の Web アプリケーションからフォームおよ  
びアド・ホック・グリッドを開く方法を参照してください。

## フリーフォーム・アド・ホックの使用

データベースのディメンションおよびメンバーを把握している場合は、アド・ホック・グリッ  
ドのセルにディメンションおよびメンバーの名前を直接入力することで、自由形式アド・ホッ  
クを使用できます。

自由形式グリッドでは、POV、メンバー選択およびその他のアド・ホック操作も使用できま  
す。

### 自由形式アド・ホックのガイドライン

フリーフォーム・アド・ホックで作業するときには、次のガイドラインを考慮してください。

- グリッドには、少なくとも 1 つの行ディメンションおよび 1 つの列ディメンションが必要  
です。
- それぞれの行ディメンションには、1 つのディメンションのみのメンバーを含めることが  
できます。それぞれの列ディメンションには、1 つのディメンションのみのメンバーを含  
めることができます。
- 1 つのディメンションのメンバーは、次の領域のうちの 1 つにのみ入力できます:

- 同じ行内
- 同じ列内
- 単語の間にスペースがあるメンバー名には先頭に一重引用符を付けてください。
- 現在の別名表の別名はフリーフォーム・グリッドで許可されますが、他の別名表の別名はコメントとして扱われます。

# 8

## メンバー・セレクタの使用

### Related Topics

- [メンバーの選択について](#)
- [ディメンションの選択](#)
- [メンバー表示オプションの定義](#)
- [メンバーの検索](#)
- [表示されるメンバーのフィルタ](#)
- [メンバーの選択](#)

## メンバーの選択について

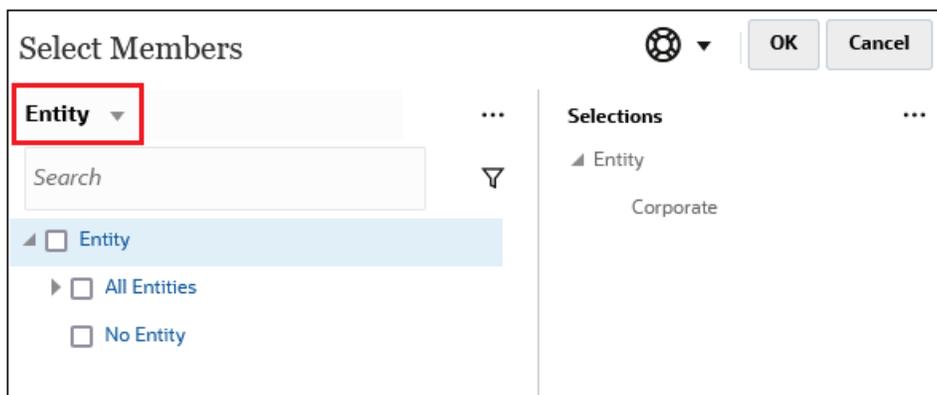
「**メンバーの選択**」ダイアログ・ボックスでメンバーを選択します。ダイアログ・ボックスのオプションは、メンバーを選択する機能に応じて若干異なる場合があります。

次の機能とともに使用するメンバーを選択できます:

- **フォーム 2.0:** メンバー選択を使用して、フォームで使用する行、列および視点を定義したり、ビジネス・ルールの実行時プロンプトのメンバーを選択します。
- **ダッシュボード 2.0:** メンバー選択を使用して、グローバルまたはローカル POV を定義したり、ビジネス・ルールの実行時プロンプトのメンバーを選択します。
- **アド・ホック・グリッド:** メンバー選択を使用して、POV、行および列を定義したり、アド・ホック・グリッドのユーザー変数、代替変数および属性を設定します。

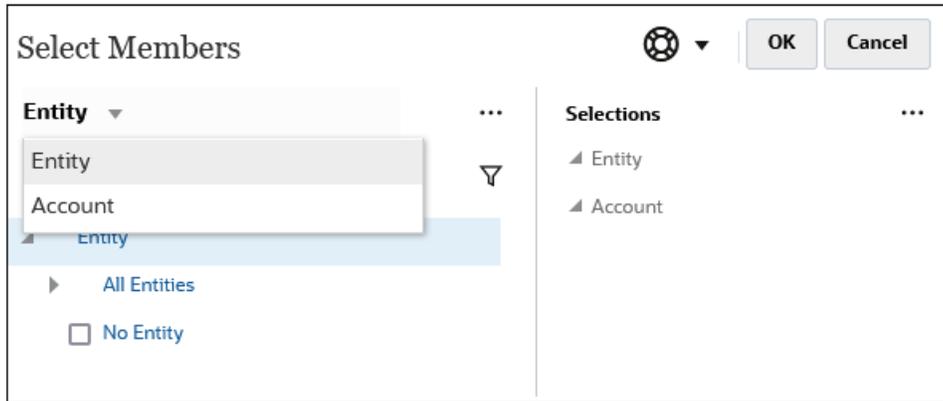
## ディメンションの選択

メンバーを選択するディメンションは、「**メンバーの選択**」ダイアログ・ボックスの上部に表示されます。



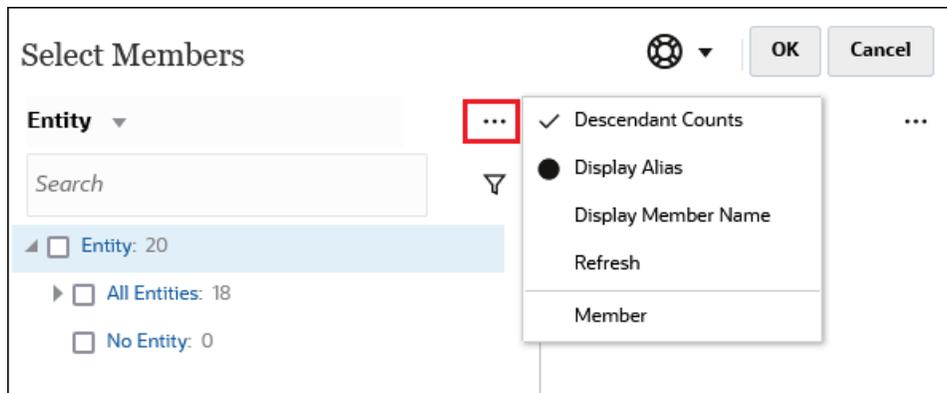
状況によっては、複数のディメンションのメンバーを選択できます。これを行うには、ドロップダウンをクリックして目的のディメンションを選択します。たとえば、エンティティ・ディ

メンションと勘定科目ディメンションの両方のメンバーを選択する場合、「エンティティ」と「勘定科目」の両方がドロップダウンに表示されます。



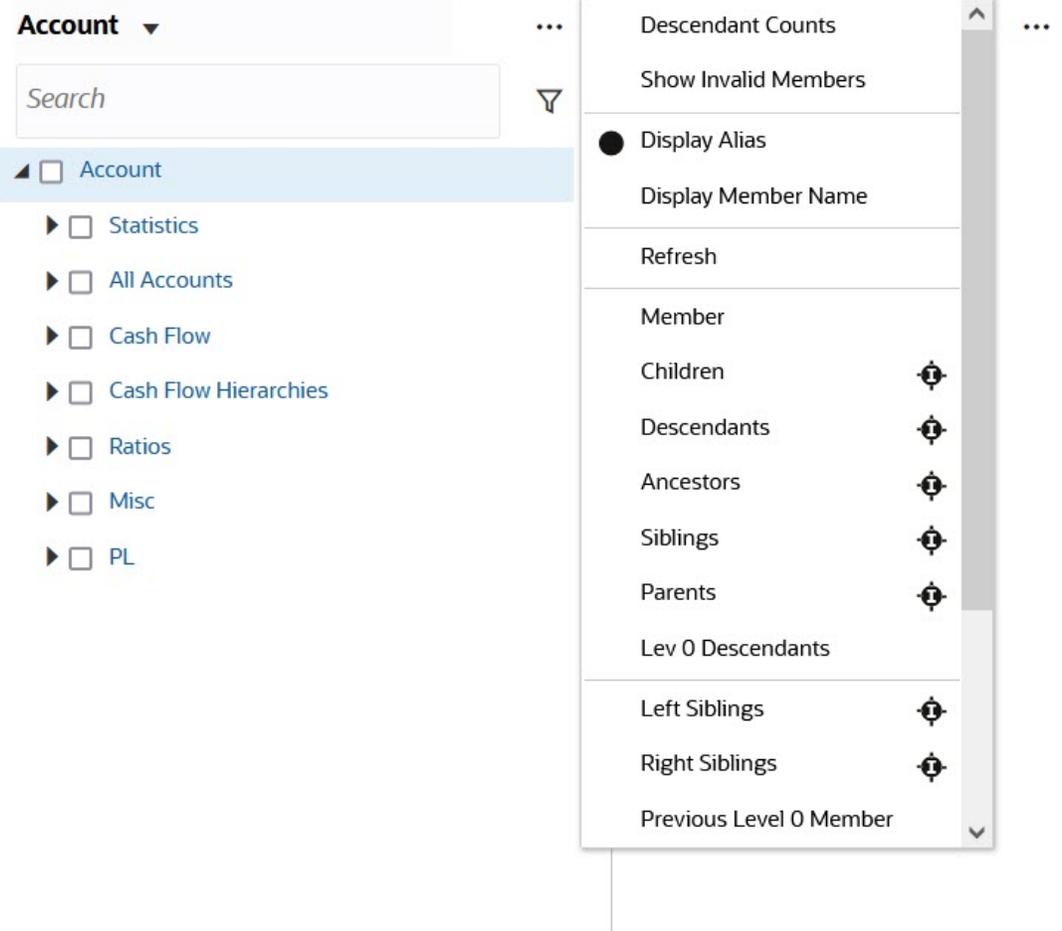
## メンバー表示オプションの定義

(「使用可能なアイテム」アイコン)をクリックして、メンバーを別名で表示するかメンバー名で表示するか、および各メンバーの子孫の数を表示するかどうかを選択します。



場所によっては、次のように追加のオプションが使用可能になります:

## Select Members

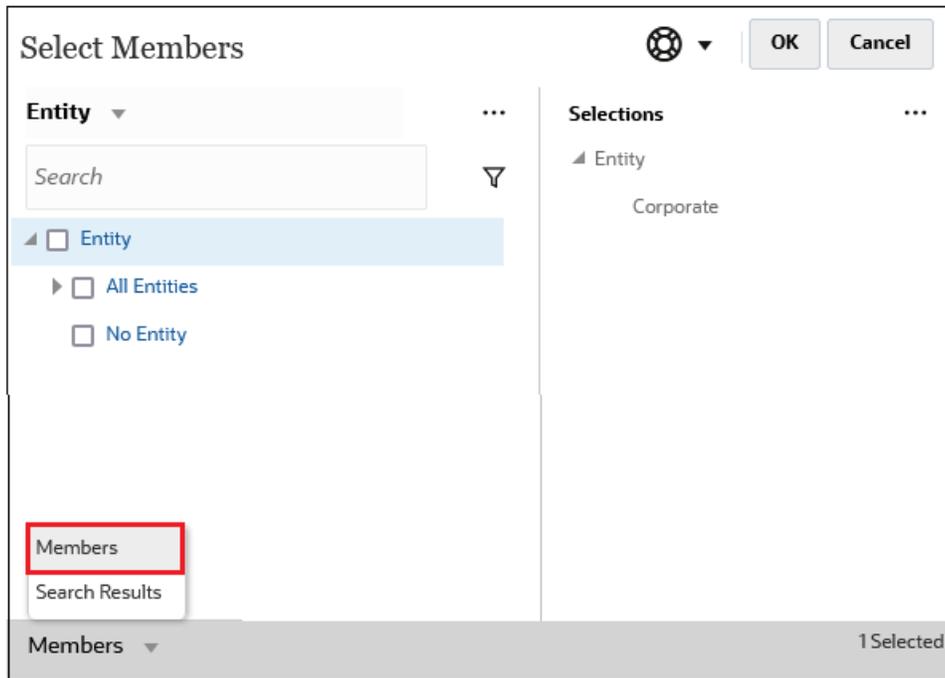


「無効なメンバーの表示」をするかどうかを選択できます。

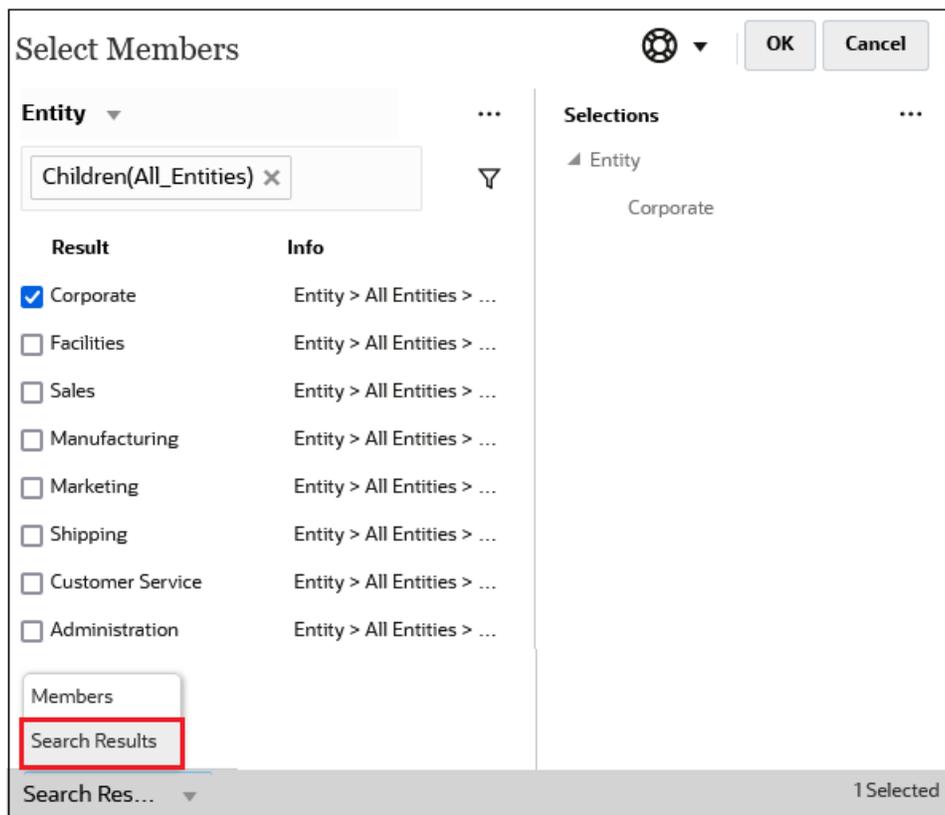
メンバー関係を使用してメンバーを表示および選択することもできます。「**使用可能なアイテム**」メニュー内のメンバー関係のオプションをクリックすると、そのメンバーが「**選択**」ページに移動します。メンバー関係の詳細は、[メンバーの関係](#)を参照してください。

階層ビューと検索またはフィルタの結果の間で表示を切り替えるには、画面の左下にある「**メンバー**」または「**検索結果**」を選択します。

**階層ビューが表示された「メンバーの選択」ダイアログ・ボックス**



検索結果が表示された「メンバーの選択」ダイアログ・ボックス



場所によっては、次の項目を表示するかどうか切り替えることができます:

- ユーザー変数
- 代替変数

- 属性

 **Tip:**

「メンバーの選択」ペインと「選択」ペインの間の分割バーをドラッグして、ダイアログ・ボックスの表示方法を調整できます。

## メンバーの検索

「検索」フィールドでメンバーを検索できます。メンバーを検索する際には、1つの単語、複数の単語またはワイルドカード文字を検索できます。

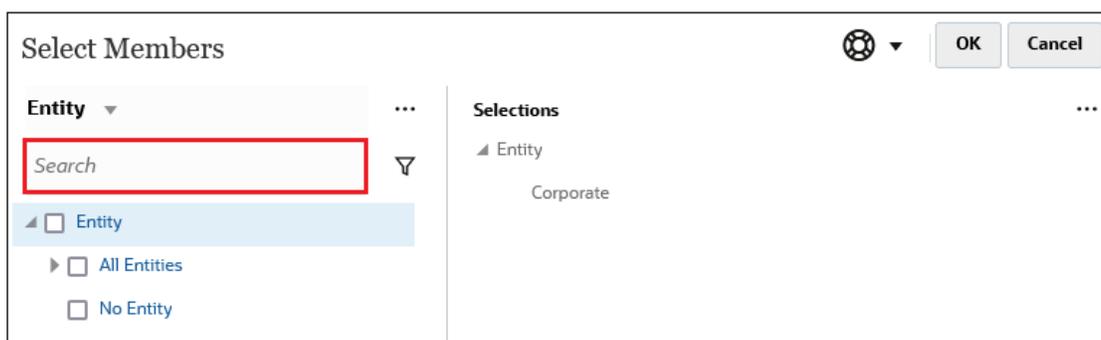


Table 8-1 有効なワイルドカード文字

ワイルドカード	説明
?	任意の 1 文字を表します
*	ゼロ文字以上の文字を表します。たとえば、「sale*」と入力すると、「Sales」と「Sale」が一致します。これは*を使用することで、「sale」という語の後にゼロ文字以上の文字を含む語と一致するためです。 デフォルトの検索には、*ワイルドカードが使用されます。デフォルトの検索には、*ワイルドカードが使用されます。たとえば、検索条件として「cash」と入力すると、「*cash*」が検索され、「Restricted Cash」、「Cash Equivalentents」、「Cash」、「Noncash Expenses」などが戻されます。これは、一致した各アイテム内に「cash」が含まれるためです。
#	任意の 1 つの数字(0-9)を表します
[list]	指定した文字リスト内の任意の単一文字を検索します。ワイルドカードとして使用する特定の文字をリストできます。たとえば、[plan]と入力すると、カッコ内のすべての文字を 1 つのワイルドカード文字として使用します。「-」文字を使用すると、[A-Z]や[!0-9]などの範囲を指定できます。「-」文字をリストの一部として使用するには、この文字をリストの先頭に入力します。たとえば、[-@&]の場合、カッコ内の文字をワイルドカード文字として使用します。
[!list]	指定した文字リスト内にはないすべての単一文字を検索します。また、[!A-Z]や[!0-9]のように、「-」で範囲を示すこともできます。

検索条件を削除するには、検索フィルタの横にある「X」をクリックします。

**Select Members**

Entity ▼

sales x

Result	Info
<input type="checkbox"/> Sales	Entity > All Entities > Sales
<input type="checkbox"/> Outside Sales	Entity > All Entities > Sales > O...
<input type="checkbox"/> Inside Sales	Entity > All Entities > Sales > In...

Selections

- Entity
- Corporate

検索を実行した後、「メンバーの特定」アイコン  を使用して、階層内の特定のメンバーを見つけることができます。これは、多数のメンバーがあり、その階層位置にある特定のメンバーを操作する必要がある場合に非常に便利です。

「メンバーの特定」アイコンを表示するには、検索結果でメンバーをハイライトします。階層内でそのメンバーを特定するには、「情報」列で、ハイライトしたメンバーの左側にある  (「メンバーの特定」アイコン)をクリックします。

たとえば、「顧客」ディメンションで **bb100** を検索し、**BB100-02** の行で  (「メンバーの特定」)をクリックするとします。

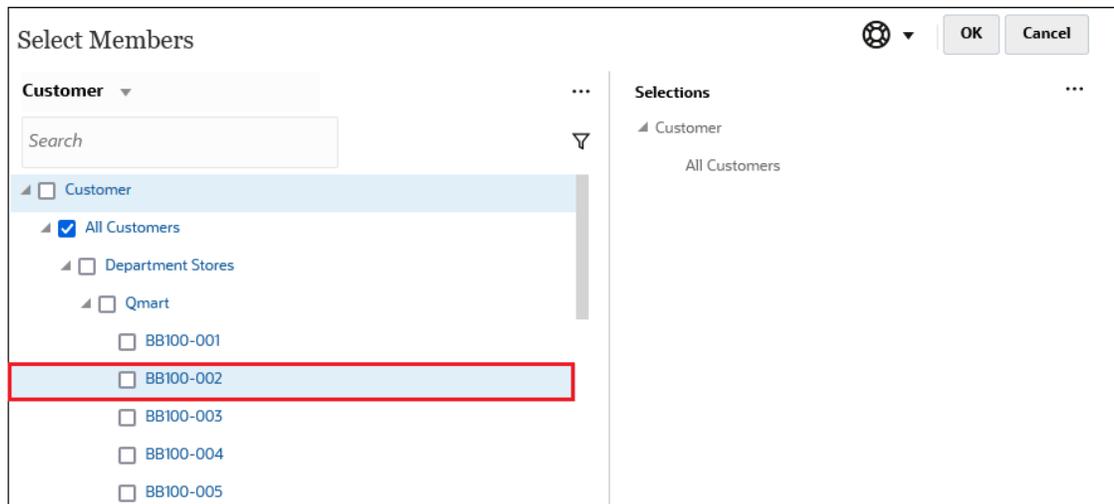
**Select Members**

Customer ▼

bb100 x

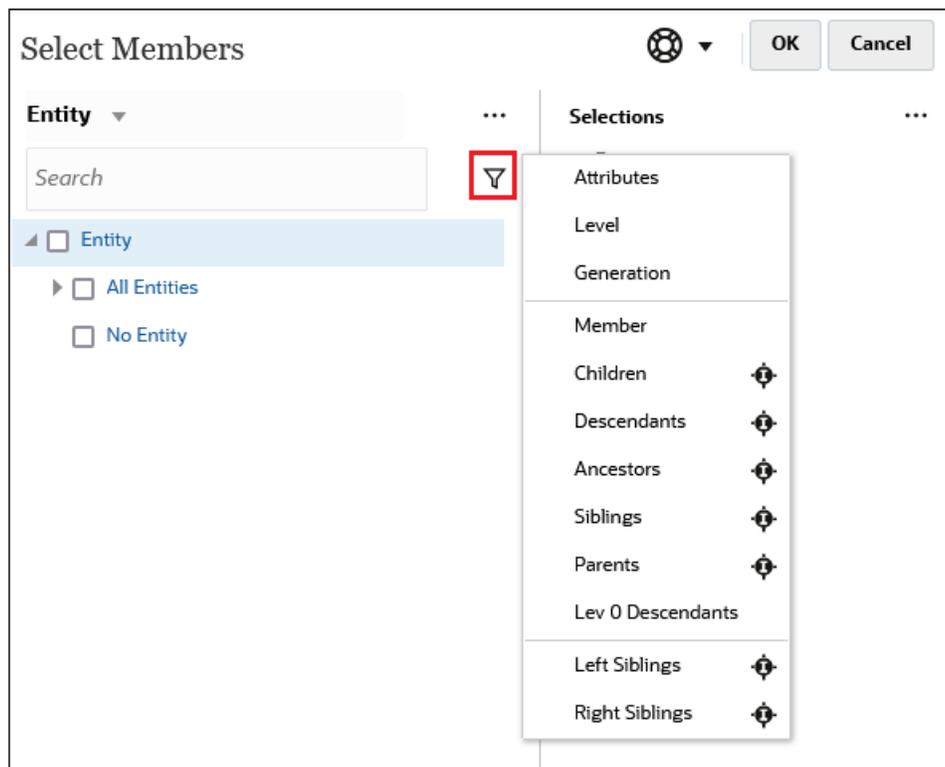
Result	Info
<input type="checkbox"/> BB100-001	Customer > All Customers > Department Stores > Qmart > BB100-001
<input type="checkbox"/> BB100-002	 Customer > All Customers > Department Stores > Qmart > BB100-002
<input type="checkbox"/> BB100-003	Customer > All Customers > Department Stores > Qmart > BB100-003
<input type="checkbox"/> BB100-004	Customer > All Customers > Department Stores > Qmart > BB100-004
<input type="checkbox"/> BB100-005	Customer > All Customers > Department Stores > Qmart > BB100-005

 (「メンバーの特定」)をクリックすると、**BB100-02** がハイライトされた状態の階層ビューに戻ります。この時点で、必要に応じて、**BB100-02** の横にあるチェック・ボックスを選択して「選択」ペインに移動できます。



## 表示されるメンバーのフィルタ

表示されるメンバーをさらにフィルタするには、「フィルタ」アイコン  をクリックし、オプションを選択します。

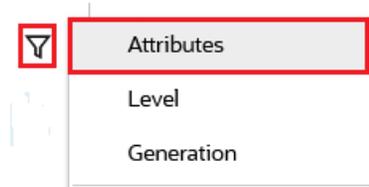


フィルタで特定の属性、レベル、世代またはメンバー関係を指定して絞り込むことができます。

- 属性によるフィルタ
- レベルによるフィルタ
- 世代によるフィルタ
- メンバー関係によるフィルタ

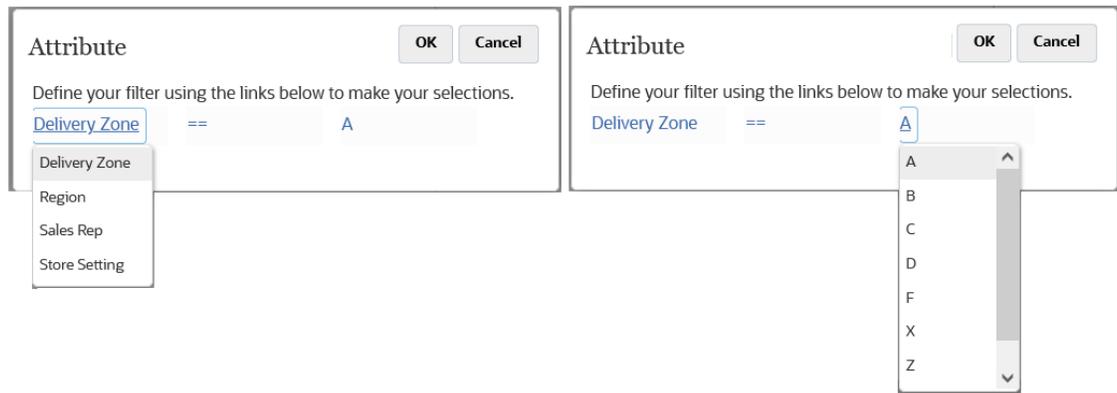
## 属性によるフィルタ

属性が定義されている場合、表示されるメンバーを特定の属性値でフィルタするには、 (「フィルタ」)をクリックし、「属性」を選択します。

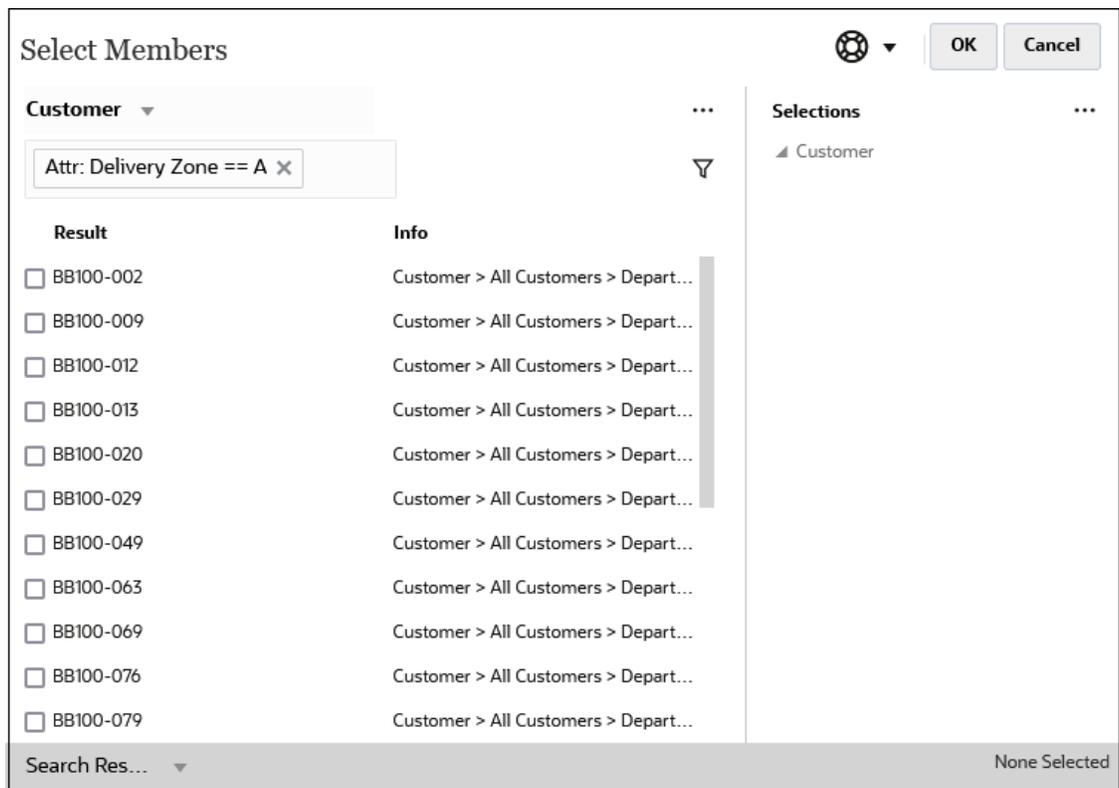


複数の属性が定義されている場合は、「属性」ダイアログ・ボックスでリンクをクリックして使用可能な属性を表示し、フィルタを選択します。たとえば、「顧客」ディメンションについて表示される結果を **Delivery Zone A** でフィルタできます。

### 「Delivery Zone」 および 「A」 が選択されている 「属性」 ダイアログ・ボックス

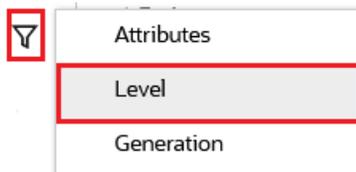


### Delivery Zone A でフィルタされた 「顧客」 ディメンションのメンバー



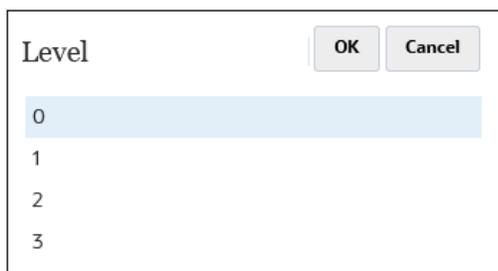
## レベルによるフィルタ

表示されるメンバーを特定のレベルでフィルタするには、 (「フィルタ」)をクリックし、「レベル」を選択します。

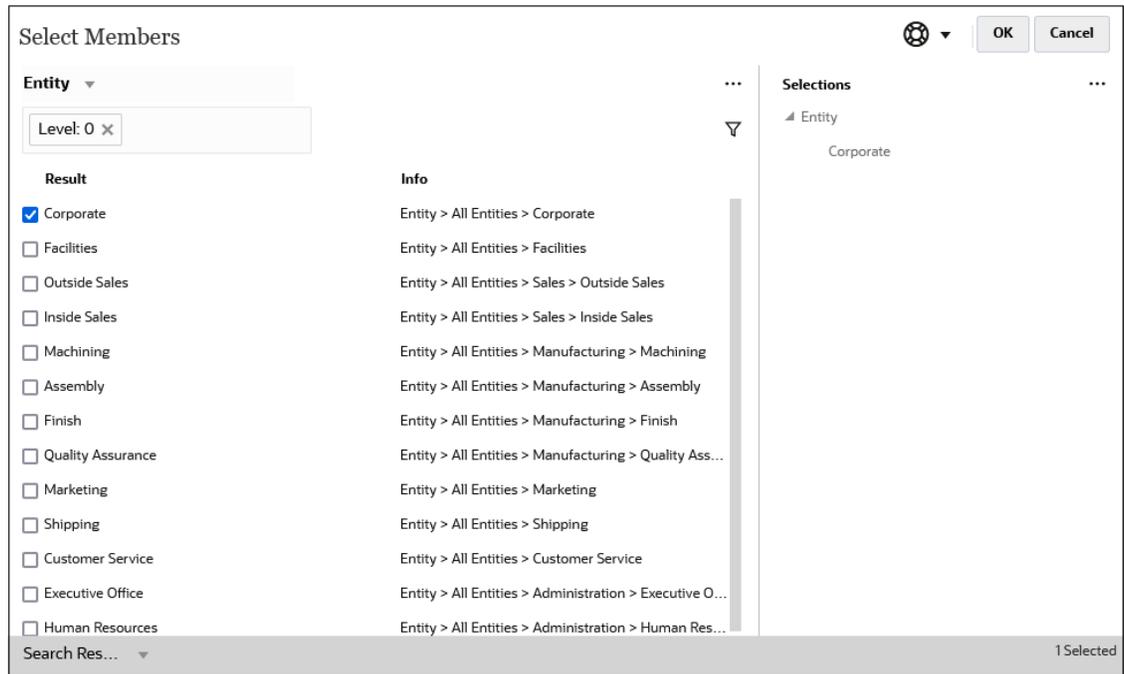


たとえば、「エンティティ」ディメンションのレベル0のメンバーでフィルタできます。

**レベル0**が選択されている「レベル」ダイアログ・ボックス

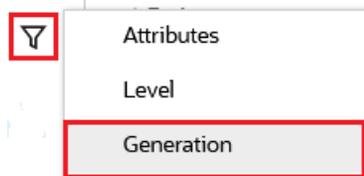


レベル0でフィルタされた「エンティティ」ディメンションのメンバー



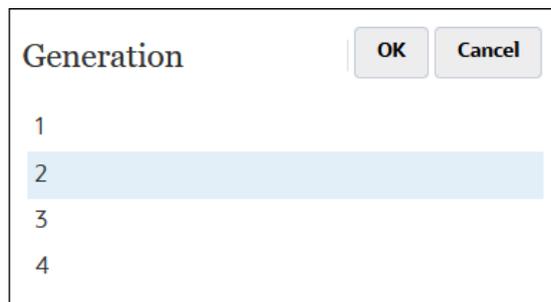
## 世代によるフィルタ

表示されるメンバーを特定の世代のものでフィルタするには、 (「フィルタ」)をクリックし、「世代」を選択します。

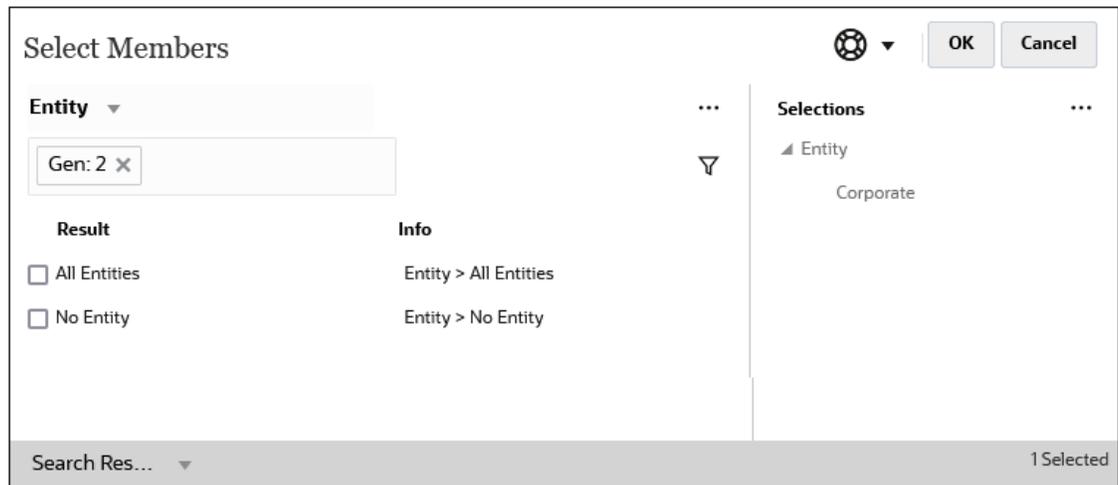


たとえば、「エンティティ」ディメンションの**世代2**のメンバーでフィルタできます。

**世代2**が選択されている「世代」ダイアログ・ボックス



世代2でフィルタされた「エンティティ」ディメンションのメンバー

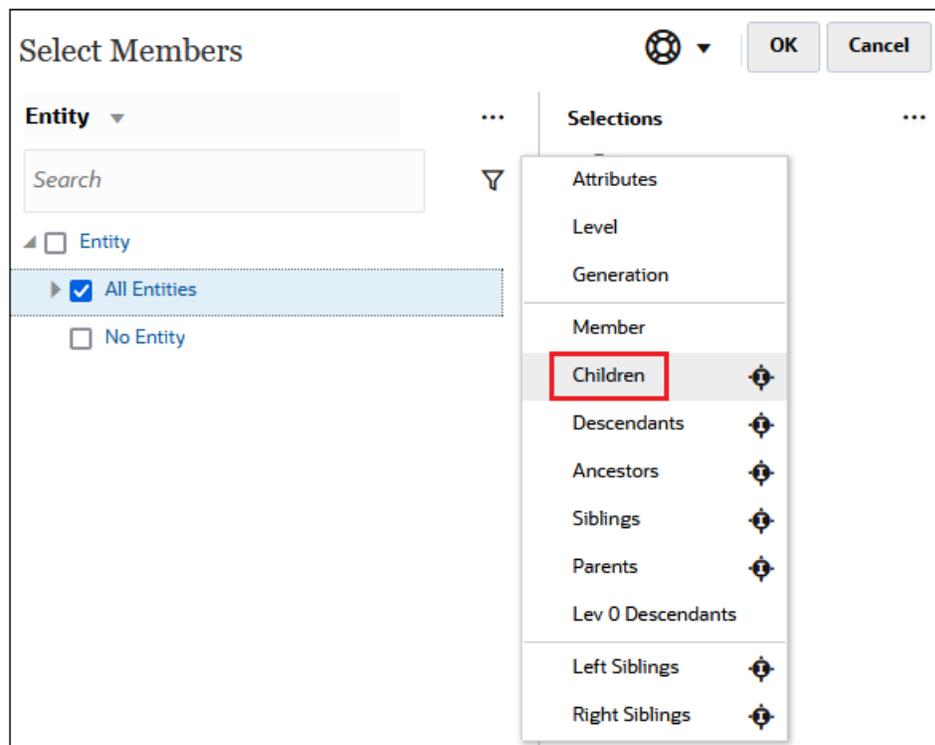


## メンバー関係によるフィルタ

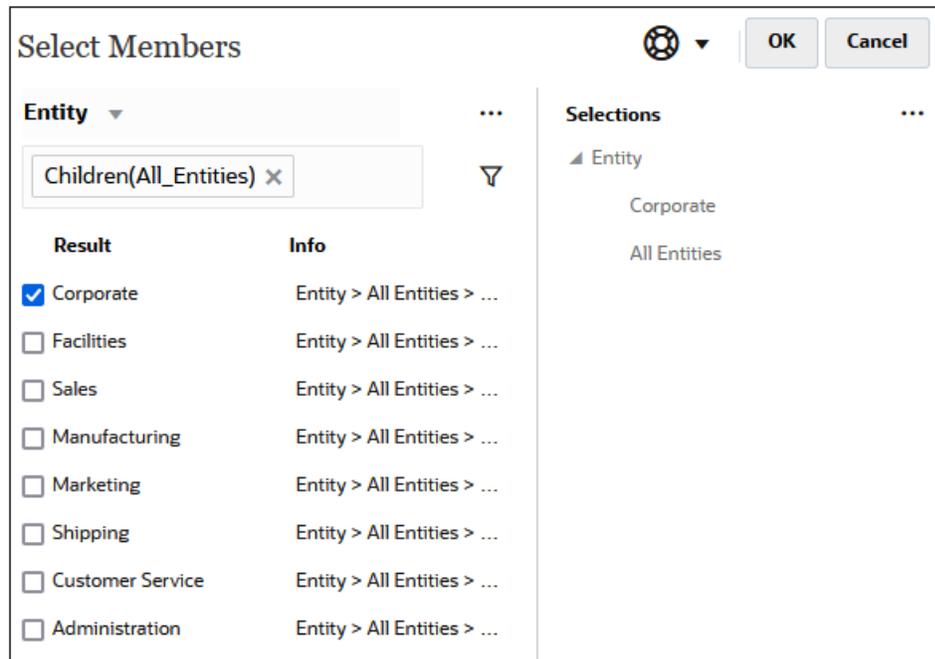
メンバーの関係でフィルタする場合、現在ハイライトされているメンバーを検索結果に含めるかどうかを定義できます。

- 現在ハイライトされているメンバーを除いて関連メンバーを選択するには、関係名をクリックします。

たとえば、「すべてのエンティティ」を選択し、 (「フィルタ」)をクリックして、「子」を選択するとします。

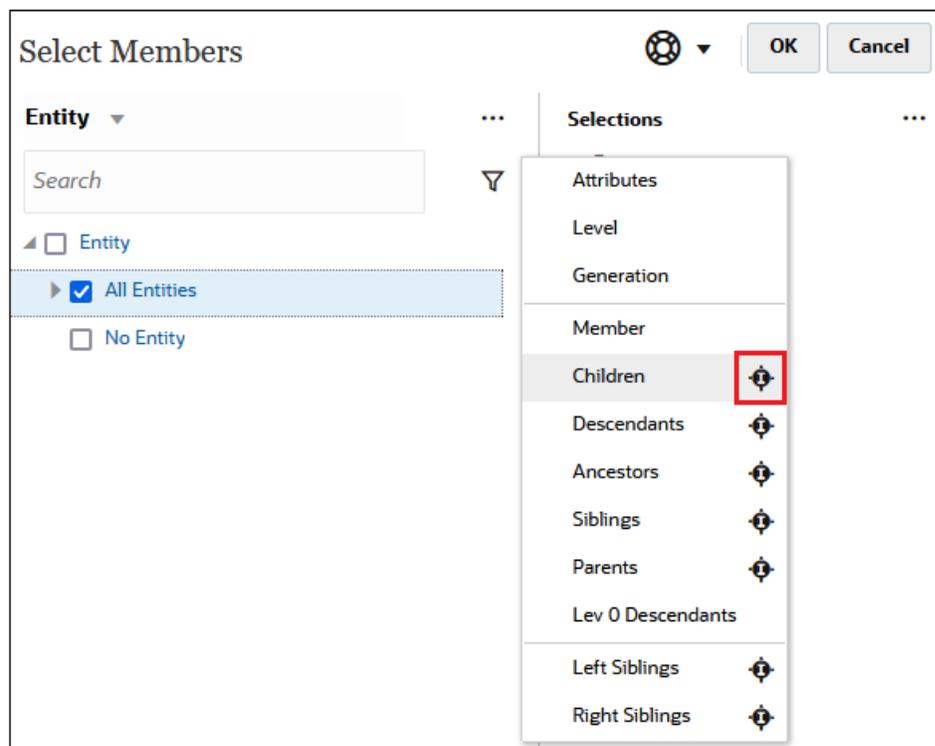


この場合、「すべてのエンティティ」の子はフィルタ結果に含まれますが、「すべてのエンティティ」メンバーは含まれません。

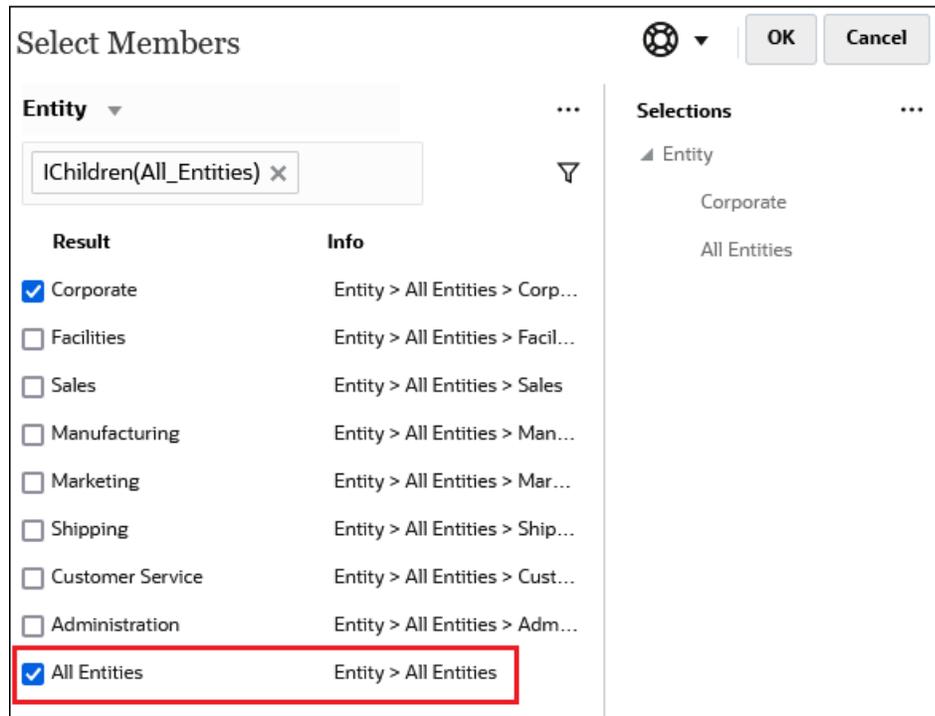


- 現在ハイライトされているメンバーを含めて関連メンバーを選択するには、関係名の右側にある「含む」アイコン  をクリックします。

たとえば、「すべてのエンティティ」を選択し、 (「フィルタ」)をクリックして、「子」の横にある  (「含む」)をクリックするとします。



この場合、「すべてのエンティティ」の子と「すべてのエンティティ」メンバーの両方がフィルタ結果に含まれます。



**Note:**

詳細は、次を参照してください [メンバーの関係](#)

## メンバーの関係

この表は、どのメンバーおよび関連メンバーがフィルタリングおよびメンバー選択のときに含まれるかを示しています。

現在ハイライトされているメンバーを含めて関連メンバーを選択するには、関係名の右側にある「含む」アイコン  をクリックします。

**Table 8-2** メンバーの関係

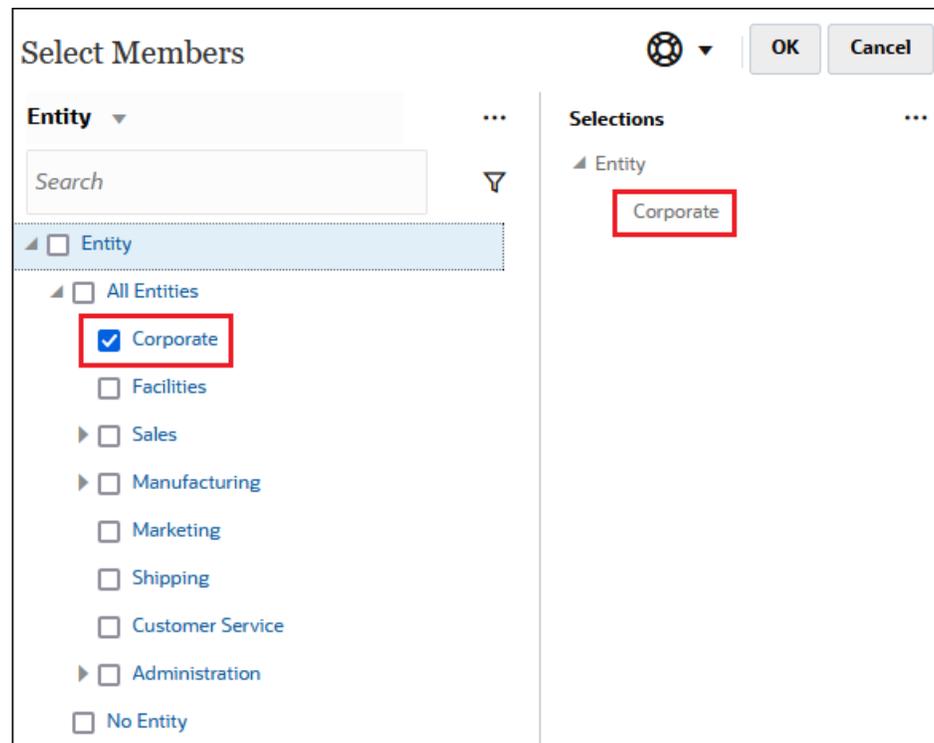
メンバー	どの関連メンバーが含まれるか
メンバー	選択したメンバー
子	選択したメンバーの真下にあるレベルのすべてのメンバー
子孫	選択したメンバーのすべての子孫(選択したメンバーは除く)
祖先	選択したメンバーの上方にあるすべてのメンバー(選択したメンバーは除く)
兄弟	選択したメンバーと同じ階層レベルからのすべてのメンバー(選択したメンバーは除く)
親	選択したメンバーの上方にあるレベルのメンバー
レベル 0 の子孫	子を持たない選択したメンバーのすべての子孫
左兄弟	同じ親を持つ選択したメンバーの前に出現するメンバー
右兄弟	同じ親を持つ選択したメンバーの後に出現するメンバー

Table 8-2 (Cont.) メンバーの関係

メンバー	どの関連メンバーが含まれるか
前のレベル 0 のメンバー	選択したメンバーの前に出現する前のレベル 0 のメンバー 例: PrevLvl0Mbr(Jan)は BegBalance を、PrevLvl0Mbr(Jul)は Jun を、PrevLvl0Mbr(BegBalance)は空の結果を返します
次のレベル 0 のメンバー	選択したメンバーの後に出現する次のレベル 0 のメンバー 例: NextLvl0Mbr(Mar)は Apr を、NextLvl0Mbr(Dec)は空の結果を返します
前の世代のメンバー	同じ世代内の選択したメンバーの直前に出現するメンバー
次の世代のメンバー	同じ世代内の選択したメンバーの直後に出現するメンバー
前の兄弟	同じ親を持つ選択したメンバーの直前に出現するメンバー
次の兄弟	同じ親を持つ選択したメンバーの直後に出現するメンバー

## メンバーの選択

メンバーを選択するには、「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスでメンバーの横にあるチェック・ボックスを選択します。選択したメンバーにはチェック・マークが表示され、「選択」ペインに移動されます。



### Note:

状況によっては、選択できるメンバーが制限されます。

親メンバーを展開してその子メンバーを表示するには、親メンバー名の左側にある拡張アイコン ▶ をクリックします。拡張アイコンをクリックしても、親メンバーは選択されません。

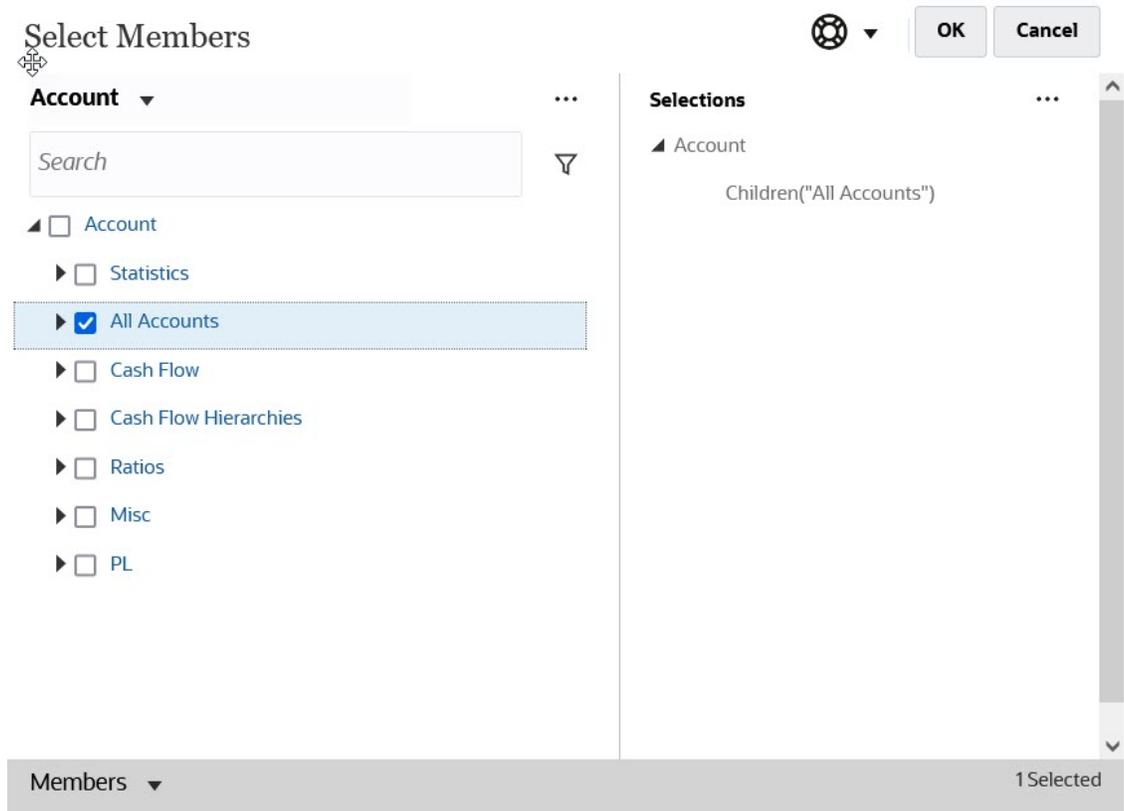
場所によっては、「メンバーの選択」ペインの中で関数セレクトタ<sup>fx</sup>を使用してメンバー選択を行うことができます。メンバーの横の関数セレクトタ<sup>fx</sup>をクリックして「関数セレクトタ」メニューを表示し、メンバー関係のオプションを選択します。

The screenshot shows the 'Select Members' dialog box. On the left, under 'Account', the 'All Accounts' item is selected and highlighted in blue. To its right is a function selector icon labeled 'fx'. A dropdown menu is open, listing various member relationships such as 'Member', 'Children', 'Descendants', 'Ancestors', 'Siblings', 'Parents', 'Lev 0 Descendants', 'Left Siblings', 'Right Siblings', 'Previous Level 0 Member', 'Next Level 0 Member', 'Previous Generation Member', 'Next Generation Member', 'Previous Sibling', and 'Next Sibling'. At the bottom of the dialog, there is a 'Members' table with the following data:

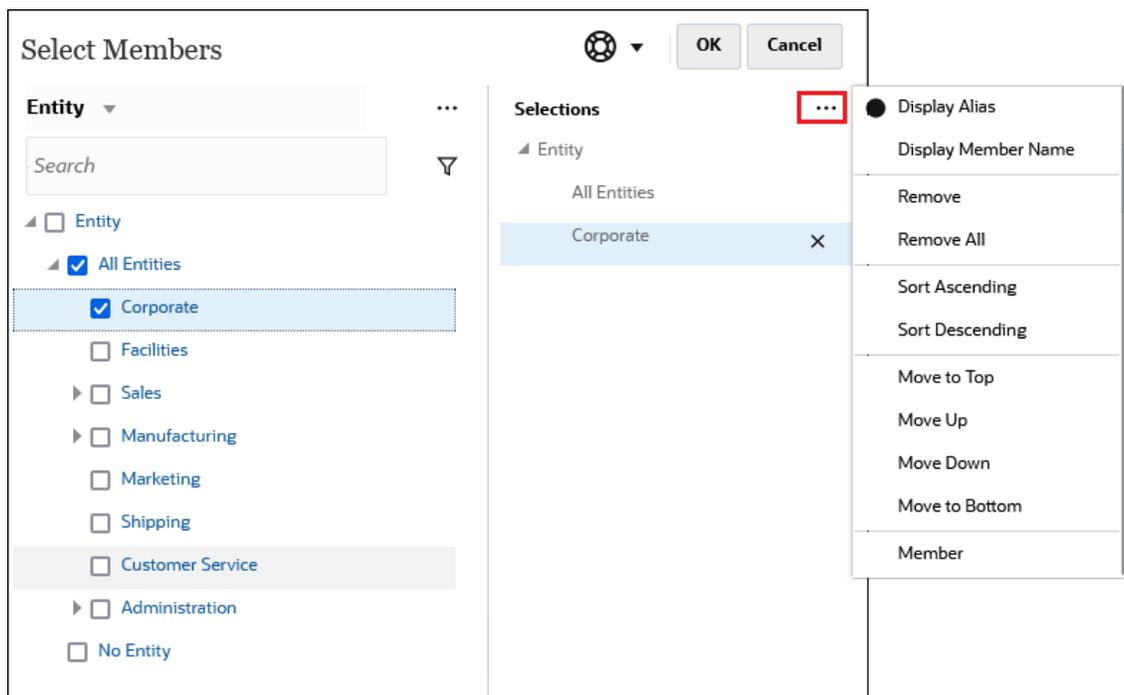
Account	Value
7410: Utilities	20,123
7420: Rent Exper	4,305

The 'Previous Sibling' option in the dropdown menu has a value of 60,368, and the 'Next Sibling' option has a value of 12,916.

たとえば、「すべてのアカウント」の横の関数セレクトタ<sup>fx</sup>をクリックしてから「子」をクリックすると、「子("すべてのアカウント")」が「選択」ペインに追加されます。

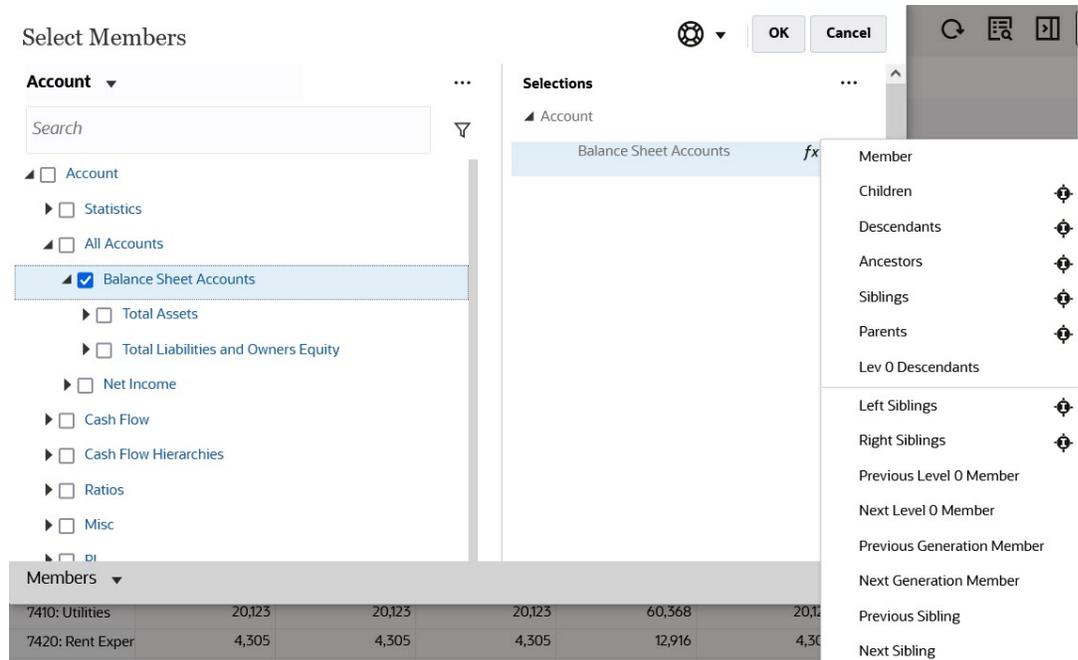


選択したメンバーを削除、ソートまたは移動するには、「選択」ペインで  (「選択アイテム」) をクリックし、オプションを選択します。別名を表示するか、メンバー名を表示するかを選択することもできます。

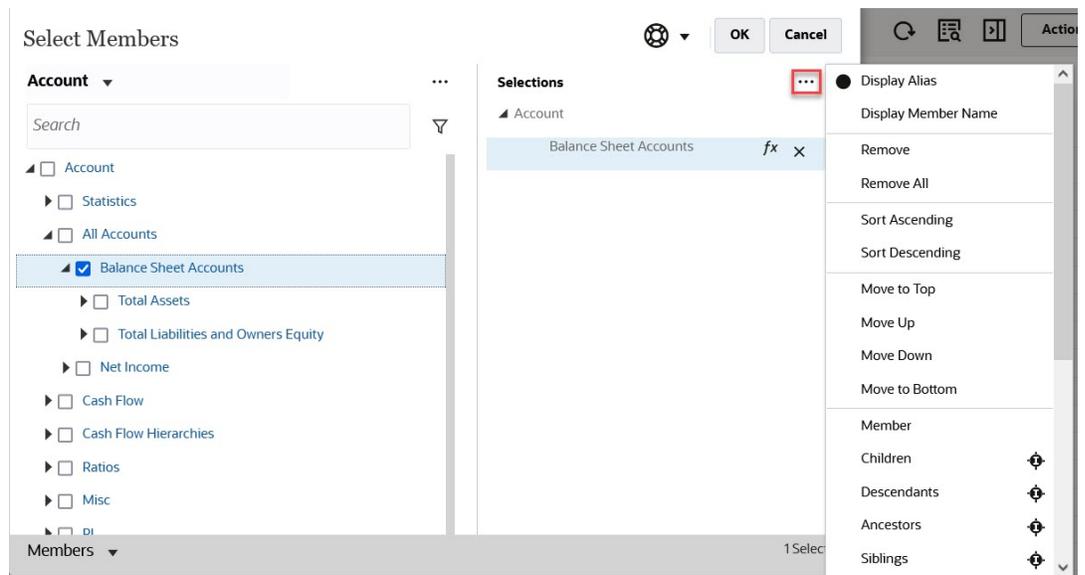


選択されているメンバーの「選択」ペインにさらにメンバーを追加するには、次のような方法があります:

- 選択済メンバーの横の関数セクタ  $fx$  をクリックして「関数セクタ」メニューを表示し、メンバー関係のオプションを選択します。



- 「選択」ペイン内のメンバーの1つを選択し、「選択アイテム」アイコン  をクリックし、メンバー関係のオプションを選択します。



メンバー関係の詳細は、[メンバーの関係](#)を参照してください。

# 9

## IPM インサイトを使用した意志決定への情報提供

### 関連トピック

- [IPM インサイトについて](#)
- [インサイトの分析](#)
- [「インサイト」ダッシュボードの検索と表示のフィルタ](#)
- [タグを使用したインサイトでのコラボレーション](#)

## IPM インサイトについて

IPM インサイトは、マルチディメンショナル税金、プランニングおよび予測のユースケースに最適化されたデータ・サイエンスにより、財務、税金および運用ユーザーを支援します。

IPM インサイトは、データを分析し、自力では発見できなかった可能性のあるデータのパターンおよびインサイトを見つけるために役立ちます。インサイトは、トレンド、異常、予測偏向または差異である可能性があります。IPM インサイトを使用すると、プランニング・プロセスのインサイト検出フェーズがデータ・サイエンスおよび財務パターン認識によって自動化され、予測の有効性が向上します。IPM インサイトを使用すると、任意の勘定科目のデータを分析および探索できます。IPM インサイトは、大量のマルチディメンショナル・データの処理を自動化するため、新しい実績がシステムに取り込まれると、データのパターンまたは隠れた相関をすばやく検出し、レポートを合理化し、予測を向上させ、意思決定を強化します。分析に費やす時間が減ることで全体的なプランニング・プロセスの時間を節約できます。

IPM インサイトは次の利点を提供します:

- データ分析にかかる時間を削減します
- 隠れた偏向を最小化します
- 予測の精度および信頼性を向上させ、情報に基づいた意思決定により予測の有効性を高めます
- 同僚とのコラボレーションを促進します
- トレンドの早期検出と戦略的な意思決定の強化に役立ちます

IPM インサイトは、履歴データを使用して、次のタイプのインサイトを提供します:

- **予測差異および予測偏向インサイト**は、プランナが履歴データの分析によって送信した予測の隠れた偏向を明らかにします。このタイプのインサイトは、予測と実績などの2つの履歴シナリオ間の差異または偏向を測定し、現在の予測に関連付けられたリスクのパーセンテージを計算します。  
予測差異は、プランナが送信した予測のレベルの精度を示します。予測偏向は、予測誤差の方向の傾向を示します。たとえば、実績を上回って予測する傾向は過大予測偏向と呼ばれ、実績を下回って予測する傾向は過少予測偏向と呼ばれます。

IPM インサイトは、差異またはリスクのいずれかが指定されたしきい値を超えると、インサイトをトリガーします。

- 異常インサイト**は、予期した結果から外れるデータの異常なパターンを検出します。このタイプのインサイトは、他の値と大きく異なる外れ値を検出します。たとえば、実績が基本レベルと比較して突然変動していたり、実績データが欠落している場合などです。たとえば、納税引当金への戻し入れや財務データ・バージョンの分析に対して異常インサイトを生成できます。

異常は、主要なビジネス・アクションに起因する場合もあれば、隠れたトレンドに関する貴重な情報が含まれる場合もあります。

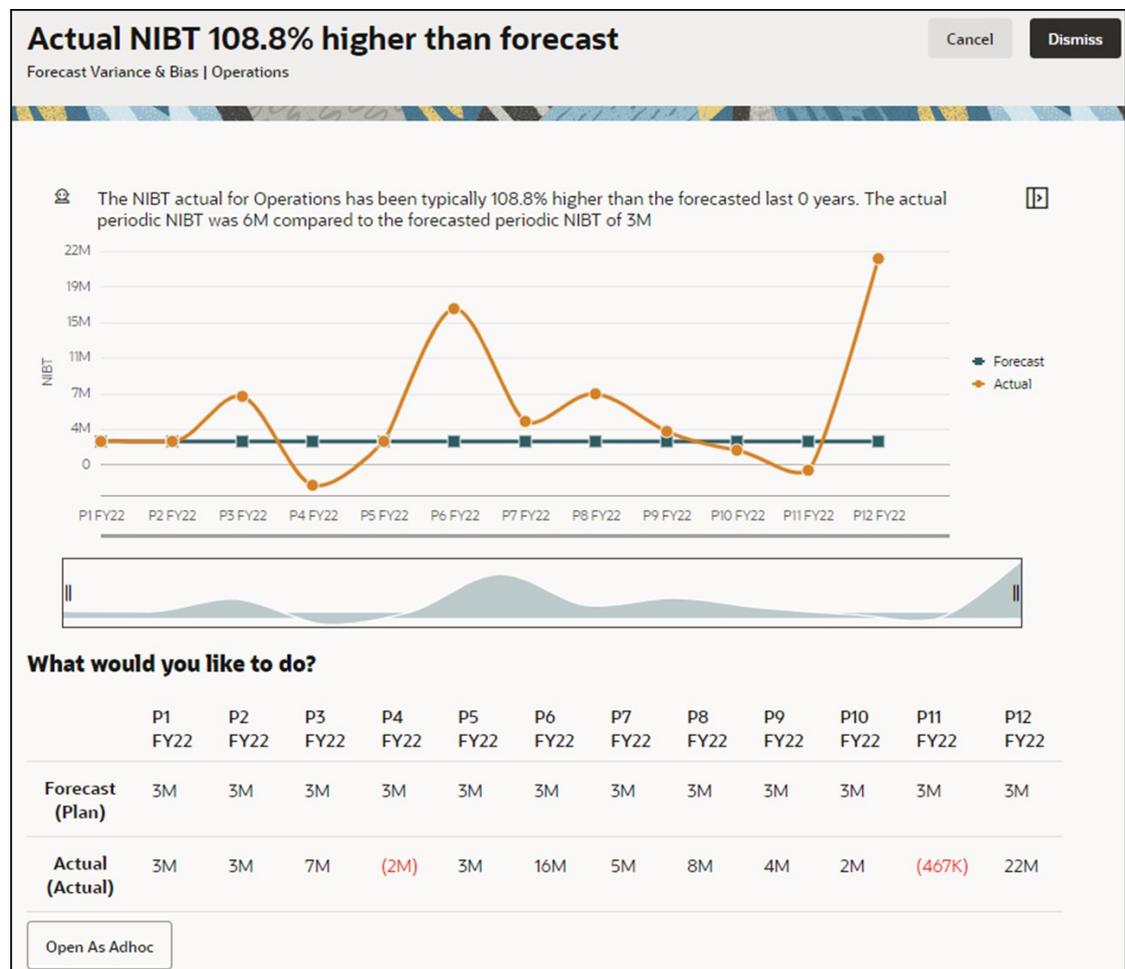
また、履歴データの異常は、過去にデータの急増や減少につながったイベントに起因する場合があります。インサイト生成中にこれらの急増や減少を考慮することを選択できます。

IPM インサイトは、外れ値測度が指定されたしきい値を超えると、インサイトをトリガーします。

IPM インサイトの使用を開始するには、管理者はインサイトを構成して実行し、定期的に行うようにスケジュールできます。

プランナは、ダッシュボードでインサイトを確認および分析し、予測を改善するために適切なアクションを実行できます。

Figure 9-1 予測差異および偏向インサイト



## ビデオ

目的	視聴
この概要では、インサイトを紹介します。インサイトは、マルチディメンショナル・プランニングおよび予測のユースケースに最適化されたデータ・サイエンスにより、財務および運用ユーザーを支援します。インサイトは、過去のデータとプレディクト・データを分析し、自力では発見できなかった可能性のあるデータのパターンおよびインサイトを見つけるために役立ちます。それらのインサイトを評価し、それに対してアクションを実行できます。	 <a href="#">概要: Cloud EPM のインサイト</a>

## インサイトの分析

Tax Reporting の IPM インサイトは、データ・サイエンスを使用した予測に対するデータ駆動型アプローチの実現に役立ちます。

「インサイト」ダッシュボードを使用して、管理者が構成したインサイトを確認します。このダッシュボードには、ユーザー・セキュリティに基づいて、使用可能なすべてのインサイトが含まれます。「インサイト」ダッシュボードのそれぞれの行は 1 つのインサイトを表し、分析対象とするパターンの発見に役立ちます。インサイトは、評価の優先順位付けに役立つように、偏差の大きさの順に表示されます。たとえば、偏差が大きければ大きいほど、評価する重要性が高くなります。

1. ホーム・ページで、「IPM」をクリックし、「インサイト」をクリックします。
2. ダッシュボードでインサイトを確認します。

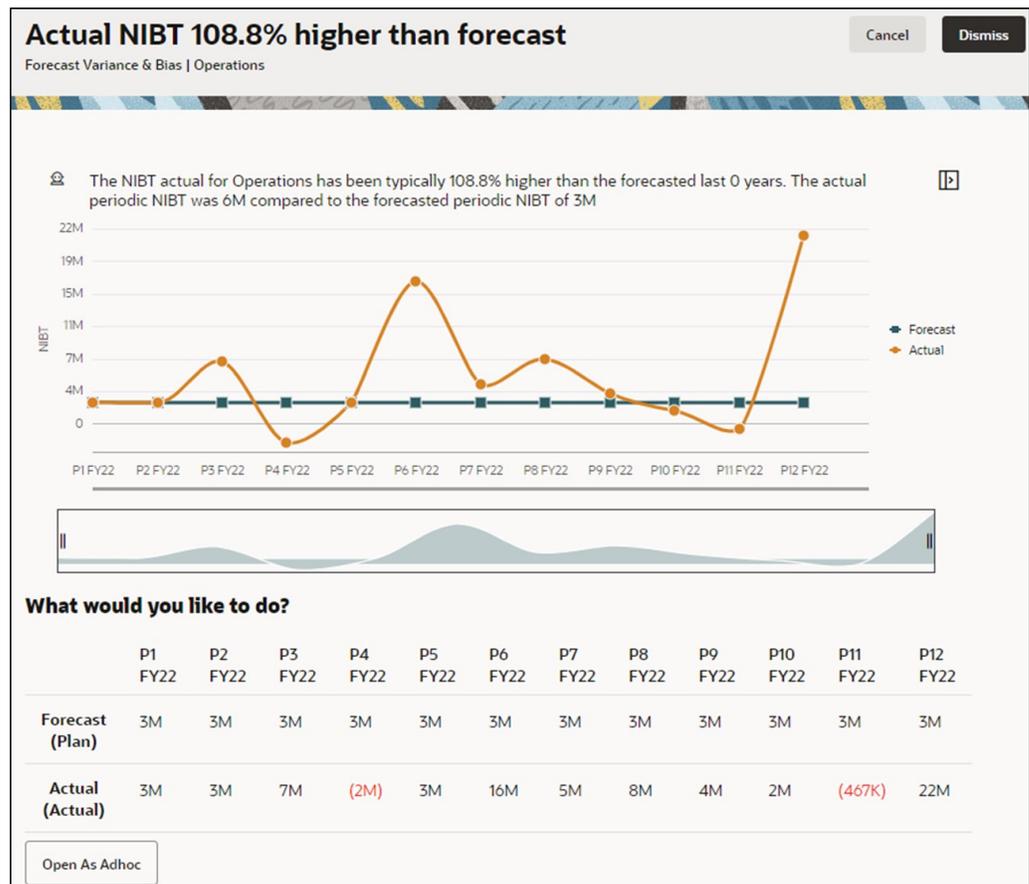
Insights										Actions	Refresh	
Q Search												
Type Anomaly	Status Open	Priority High	Percentage of Impact 0.1 - 0.5	More Filters								
4 results												
<input type="checkbox"/>	Priority	Impact	Value	POV	Type	Details	Status	Created	Comments	Actions		
<input type="checkbox"/>	Medium	28.7%	12M	Operations	Forecast Variance & Bias	Actual NIBT 28.7% higher than forecast	<span>Open</span>	8/5/24 4:58 AM		...		
<input checked="" type="checkbox"/>	Medium	10.2%	23M	Vision UK 2	Forecast Variance & Bias	Actual NIBT 10.2% higher than forecast	<span>Open</span>	8/5/24 4:58 AM		...		
<input checked="" type="checkbox"/>	Low	2.9%	10M	EMEA	Forecast Variance & Bias	Actual NIBT 2.9% higher than forecast	<span>Open</span>	8/5/24 4:58 AM		...		
<input checked="" type="checkbox"/>	Low	2.2%	16M	Total Geography	Forecast Variance & Bias	Actual NIBT 2.2% higher than forecast	<span>Open</span>	8/5/24 4:58 AM		...		

「インサイト」ダッシュボードのそれぞれの行は 1 つのインサイトを表します。列はそれぞれのインサイトの属性を表します。未読のインサイトは、インジケータ ● で示されます。インサイトは、重大さの順にリストされます。

### Note:

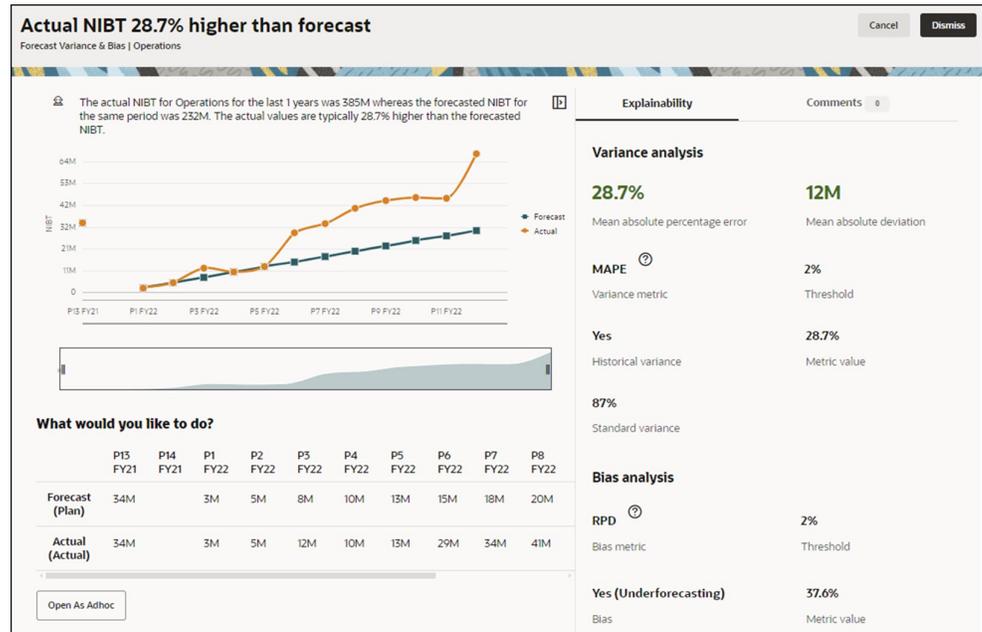
- 「優先度」では、管理者が定義した重大さのしきい値を使用して、インサイトが「高」、「中」および「低」の優先度に分類されます。
- 「影響」は、偏差の相対的な量を示します。より極端な差異があるインサイト、つまり重大さが大きいインサイトに注意を集中させることができます。
- 「値」には、このインサイトの偏差の絶対値が表示されます。

3. インサイトの詳細を表示するには、インサイトの「アクション」メニューから「詳細の表示」をクリックします。「インサイト」ダッシュボードの「詳細」列にあるリンクをクリックすることもできます。  
値のグラフとともに、インサイトの説明を含む Analyzer ビューが表示されます。  
任意のグラフ・ポイントにカーソルを置くと、値の詳細が表示されます。  
グラフには一度に最大 18 の期間を表示できます。スライダ・バーを使用して、表示する期間を増やしたり、時間枠や値のセットにズーム・インします。
4. データを評価したり、アクションを実行できるように、グラフを確認します:
  - **予測偏向**インサイトでは、履歴予測と実績の間の差異が最も大きい箇所を確認します。これは、予測に隠れた偏向がある場合にそれを認識するために役立ちます。グラフおよび表形式でデータを確認できます。



- 「異常」インサイトでは、簡単に見つけることができるように外れ値に星のマーク★が付けられます。
5. インサイトの Analyzer ビューから、アクションを実行します:
    - インサイトの詳細を表示したり、コメントを入力するには、 (「説明可能性」)をクリックします。
    - 「インサイト(AI)」タブでは、生成 AI (GenAI)を使用して、単一のインサイトまたはインサイトのグループに関するナレーティブ・サマリーを自動的に生成します。詳細は、[生成 AI によるインサイトのサマリー](#)を参照してください。

- 「説明可能性」タブには、インサイトで使用されるメトリックや手法など、インサイトに関する詳細が表示されます。この詳細により、インサイト・データがより有用になり、透明性が高まります。



- 「コメント」をクリックして、たとえば差異を同僚に説明するために、インサイトに関するコメントを入力し、 (インサイト・コメントの保存)をクリックします。

**Explainability** **Comments** 0

Enter Comments



 **Note:**

コメントを削除するには、「コメント」タブでコメントにカーソルを置き、 (「削除」)をクリックします。「インサイト」ダッシュボードからコメントを削除するには、「コメント」ボックス  をクリックし、コメントにカーソルを置いて、 (「削除」)をクリックします。自分が入力したコメントを削除できます。管理者はどのユーザーが入力したコメントでも削除できます。

- コメントでタグ(#や@)を使用して、インサイトについて同僚とコラボレーションします。詳細は、[タグを使用したインサイトでのコラボレーション](#)を参照してください
- 「アドホックとして開く」をクリックしてインサイトを開き、さらにアド・ホック分析を行います。

Account	Entity	View	Currency	Intercompany	Contribution	Data Source	GAAP	Movement	Jurisdiction						
NBS7	[North America] Operations	Periodic	Entry Currency	No Intercompany	[Proportion] Entity Total	[Pre Tax] [Pre Tax Input]	[Multi-GAAP] [FCCS_Local GAAP]	[Automated - Override Tax Rate] [Automated]	[Total National And Regional]						
		FY21	FY21	FY22	FY22	FY22	FY22	FY22	FY22						
	RTA	Audit	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7						
Plan		33,098,199	#missing	2,533,257,833,333	5,066,515,666,666	7,599,778,499,999	10,133,031,333,333	12,666,289,666,666	15,199,546,999,999	17,732,804,333,333	20,266,062,666,666	22,799,320,499,999	25,332,578,333,333	27,865,836,666,666	30,399,094
Actual		33,098,199	#missing	2,533,257,833,333	5,066,515,666,666	7,599,778,499,999	10,133,031,333,333	12,666,289,666,666	15,199,546,999,999	17,732,804,333,333	20,266,062,666,666	22,799,320,499,999	25,332,578,333,333	27,865,836,666,666	30,399,094

Oracle Smart View for Office でアド・ホック・グリッドを開くには、「アクション」メニュー()をクリックし、「Smart View で開く」をクリックします。

- 「終了」をクリックして、インサイトのステータスを「クローズ済」に変更します。このステータスは、すべてのユーザーの「インサイト」ダッシュボードに反映されます。

 **Tip:**

「コメントの追加」と「アドホックとして開く」は、「インサイト」ダッシュボードの「アクション」...メニューから使用することもできます。

6. 「取消」をクリックするか、インサイトのタブを閉じて Analyzer ビューを終了し、「インサイト」ダッシュボードに戻ります。
7. インサイトに対する評価やアクションの実行が終了したら、ステータスを変更できます: 「インサイト」ダッシュボードで、インサイトの横にある「アクション」メニューから「インサイトの終了」をクリックします。これにより、インサイトのステータスが「クローズ済」に変更されます。このステータスは、すべてのユーザーの「インサイト」ダッシュボードに反映されます。

インサイトは、「インサイト」ダッシュボードで 6 か月間使用でき、それを過ぎると、管理者が次に IPM インサイト・ジョブを実行したときにパージされます。

**チュートリアル**

チュートリアルには、トピックを学習するのに役立つ一連のビデオおよびドキュメントを使用した説明が用意されています。

目的	方法の学習
<p>「インサイト」ダッシュボードを使用して、管理者が構成したインサイトを確認する方法を学習します。このダッシュボードには、ユーザー・セキュリティに基づいて、使用可能なすべてのインサイトが含まれます。「インサイト」ダッシュボードのそれぞれの行は1つのインサイトを表し、分析対象とするパターンの発見に役立ちます。インサイトは、評価の優先順位付けに役立つように、偏差の大きさの順に表示されます。たとえば、偏差が大きければ大きいほど、評価する重要性が高くなります。</p>	 <p>インサイトの分析およびアクションの実行</p>

## 生成 AI によるインサイトのサマリー

インサイトでは、生成 AI (GenAI) を使用して、Tax Reporting 内の単一のインサイトまたはインサイトのグループに関するナレーティブ・サマリーを自動的に生成する機能が提供されます。

生成 AI の力を活用してインサイト・サマリーを生成することで、インサイトに関するより有意義な詳細情報を同僚と共有できるようになります。また、サマリーを使用すると、一連のインサイトに関するサマリー情報を同僚と簡単に共有できるようになります。

インサイト・サマリーは、次の方法で使用できます：

- **単一のインサイトの場合**、インサイトの簡単なルールベースの説明を超えた追加のコンテンツを提供します。
- **親メンバーに基づく複数のインサイトの場合**、親メンバーとそのすべての子进行评估するサマリーを生成します。このサマリーは、インサイトの根本原因を絞り込むのに役立ち、一連のインサイトの分析を同僚と簡単に共有できるようになります。

サマリーは、すべてのインサイト・タイプで利用できます。

### Note:

管理者はこの機能を使用可能にする必要があります。この機能が使用可能になっていない場合、「インサイト(AI)」タブまたは「サマリー」メニュー・アイテムは表示されません。

### 単一のインサイトのナレーティブ・サマリートの確認

単一のインサイトのナレーティブ・サマリーを確認するには：

1. ホーム・ページで、「IPM」、「インサイト」の順にクリックして、「インサイト」ダッシュボードを開きます。
2. 「インサイト」ダッシュボードの「詳細」列にあるリンクをクリックします。値のグラフとともに、インサイトの説明を含む Analyzer ビューが表示されます。
3. インサイトのナレーティブ・サマリーを表示するには、 (「説明可能性」)、「インサイト(AI)」の順にクリックします。

生成 AI は、既存の分析、メトリック、メソッド、ルールベースのサマリーを評価し、大規模言語モデルを使用して、インサイトの影響を説明する有用なナレーティブな説明を生成します。

**Note:**

このサマリーは生成 AI を使用しています。生成 AI からの出力は、常に事実で正確で適切であるとはかぎりません。ユーザーは、生成 AI の出力をレビューして、各自の裁量で使用する責任があります。

**インサイト・セットのナレーティブ・サマリーの確認**

親メンバーに基づくインサイト・セットのナレーティブ・サマリーを確認するには:

1. ホーム・ページで、「IPM」、「インサイト」の順にクリックして、「インサイト」ダッシュボードを開きます。
2. 親メンバーのインサイトを選択し、「アクション」メニューから「サマリー」を選択します。親メンバーと POV が分析の開始点となります。
3. サマリーの名前を入力します。
4. インサイト・タイプを選択します。  
分析では、一度に 1 つのインサイト・タイプのみを確認してサマリーします。たとえば、異常インサイトと予測差異および偏向インサイトの両方をサマリーすることはできません。
5. 元のインサイトの選択に基づいた親メンバーと POV を確認し、必要に応じてメンバー・セレクトタを使用して別のメンバーを選択します。
6. 「実行」をクリックします。  
生成 AI は、指定された POV の親メンバーとその子について、選択されたタイプのすべてのインサイトを評価し、有用なサマリーの説明を生成します。たとえば、親のインサイトに貢献している子メンバーを識別し、その影響を説明できます。  
サマリーには、ユーザーがアクセスできるメンバーのみが含まれます。
7. 「インサイト」ダッシュボードで、「サマリー」タブをクリックし、確認するサマリーをクリックします。

**Note:**

このサマリーは生成 AI を使用しています。生成 AI からの出力は、常に事実で正確で適切であるとはかぎりません。ユーザーは、生成 AI の出力をレビューして、各自の裁量で使用する責任があります。

この例では、サマリーには、予測差異および偏向インサイトが**地域合計**の2つの子(「**北アメリカ**」と「**EMEA**」)によって決定されていることが示され、親のインサイトへの影響が説明されています。

The screenshot shows the Oracle Insights dashboard. At the top, there are tabs for 'Insights', 'Configure', and 'Tags'. Below is a 'Summary' section with a search bar and a date range 'Created 2025-01-16 - 2025-01-23'. A table lists three results, with 'Total geography summary' selected. To the right, a detailed summary panel for 'Total geography summary' is displayed, containing text about NIBT metrics and a list of entities with their respective differences and variances.

## 「インサイト」ダッシュボードの検索と表示のフィルタ

「インサイト」ダッシュボードを検索およびフィルタして、分析の焦点を絞り込むことができます。

インサイトを検索するには、ダッシュボードの上にある「**検索**」ボックスに検索する語句を入力します。

「インサイト」ダッシュボードをフィルタして、評価するインサイトのみを表示できます。

1. フィルタ・タイプをクリックします。フィルタのデフォルト値は表示されますが、ページの結果にはまだ適用されません。
2. フィルタのパラメータを入力します。ダッシュボードが、フィルタ条件を満たすインサイトで更新されます。
  - **作成:** インサイト作成の開始日と終了日を入力します。
  - **タイプ:** 1つ以上のインサイト・タイプを選択します。
  - **ステータス:** 「**オープン**」または「**クローズ済**」から選択します。
  - **優先度:** 管理者が定義したしきい値に基づいて、「**高**」、「**中**」または「**低**」から選択します。
  - **影響のパーセンテージ:** 影響のパーセンテージ値の範囲を入力します。
  - **絶対的影響:** 影響の絶対値の範囲を入力します。
3. フィルタ・バーでフィルタを閉じて削除します(「X」をクリック)。

## タグを使用したインサイトでのコラボレーション

タグを使用した IPM インサイトにより、同僚とより効果的にコラボレーションし、自動分析の力を活用できます。

- #を使用して、カスタム・ラベルでインサイトにタグ付けします。たとえば、#TeamReview を追加することで、チーム・レビュー用のインサイト・セットにタグ付けできます。
- @を使用して、ユーザーまたはグループにタグ付けします。

次に、インサイト・ダッシュボードをフィルタして、タグ付けしたインサイトを表示します。

タグはインサイトの「コメント」ボックスに追加します。

インサイトにタグを追加するには:

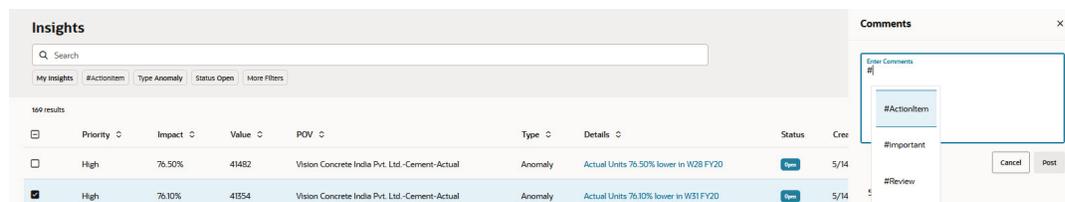
1. ホーム・ページで、「IPM」をクリックし、「インサイト」をクリックします。
2. インサイトの「アクション」メニューで、「コメントの追加」をクリックします。または、インサイトの「アクション」メニューで「詳細の表示」をクリックし、インサイトの詳細ページで「コメント」アイコンをクリックします。

「インサイト」ダッシュボードの「詳細」のリンクをクリックし、インサイトの詳細ページで「コメント」アイコンをクリックすることもできます。

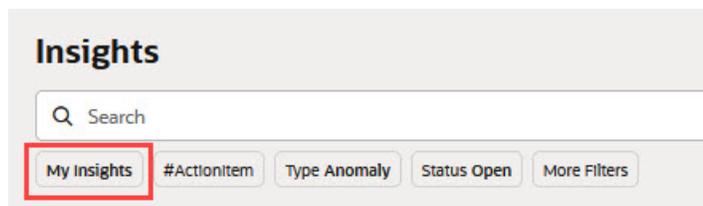
3. 「コメント」ボックスで、#を追加し、その後にカスタム・ラベルを追加します。または、ユーザーまたはグループにタグ付けするには、@タグの後にユーザーまたはグループ名を追加します。  
#を入力すると、既存のタグのリストが表示されます。リストから選択するか、新しいタグ名を入力できます。

@を入力すると、インサイトのメンバーにアクセスできるユーザーおよびグループのリストが表示されます。

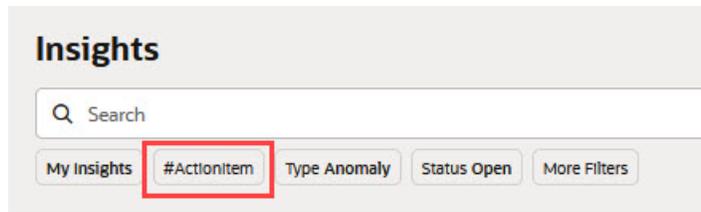
「インサイト」ダッシュボードの「コメント」ボックスでのタグの追加:



ユーザー名またはグループ名でタグ付けされたインサイトを確認するには、「インサイト」ダッシュボードで、「フィルタ」領域の「自分のインサイト」をクリックします。



最も頻繁に使用されるタグは、「フィルタ」領域でチップで強調表示されます。それを選択すると、そのタグに関連付けられているすべてのインサイトが表示されます。



タグ付けされたインサイトを検索するには、「検索」ボックスに#または@に続けてタグ・テキストを入力します。

たとえば、「インサイト」ダッシュボードは、「**自分のインサイト**」および**#ActionItem**でタグ付けされたインサイトを表示するようにフィルタされます：

Priority	Impact	Value	POV	Type	Details	Status	Created	Comments	Actions
High	76.50%	41482	Vision Concrete India Pvt. Ltd.-Cement-Actual	Anomaly	Actual Units 76.50% lower in W28 FY20	Open	5/14/24 8:22 AM	1	...
High	76.10%	41354	Vision Concrete India Pvt. Ltd.-Cement-Actual	Anomaly	Actual Units 76.10% lower in W31 FY20	Open	5/14/24 8:22 AM	1	...
High	76.00%	41310	Vision Concrete India Pvt. Ltd.-Cement-Actual	Anomaly	Actual Units 76.00% lower in W35 FY20	Open	5/14/24 8:22 AM	2	...

タグに関するノート：

- タグでは大文字と小文字が区別されます。
- タグは、コメント・テキストのどこにでも配置できます。
- コメントには任意の数のタグを含めることができます。

## ビデオ

目的	視聴
インサイトへのタグ付けについて学習すると、チームのコラボレーションを促進し、注意が必要なインサイトに目が向くようにして、例外による管理を実施するために役立ちます。	 <a href="#">EPM プランニングにおけるタグを使用したインサイトでのコラボレーション</a>

# 10

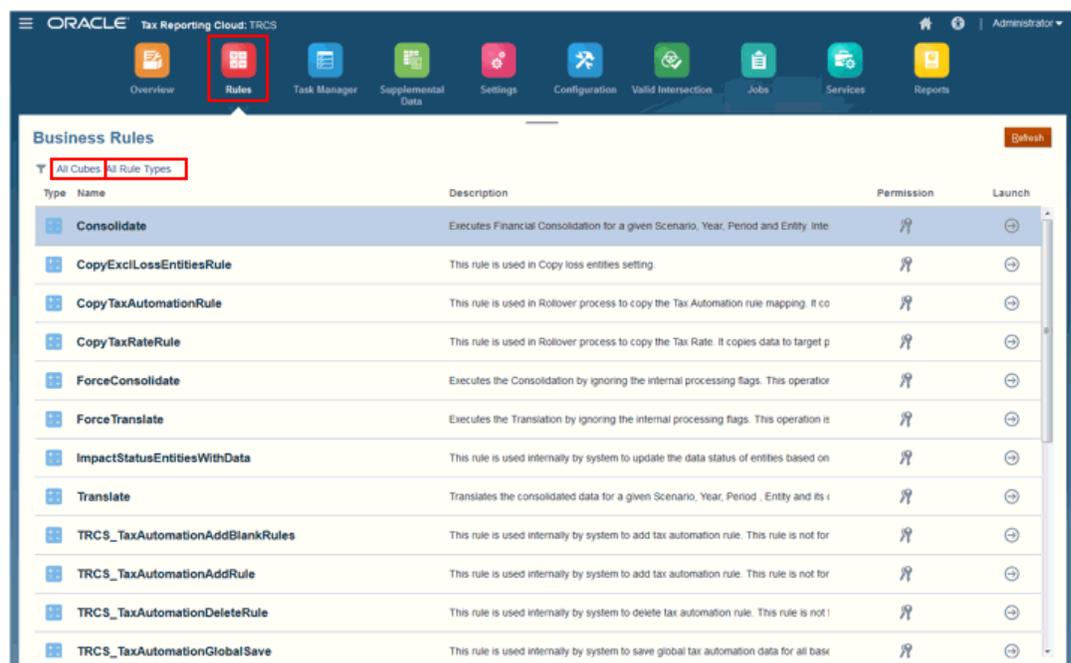
## ビジネス・ルールの操作

ビジネス・ルールは、コンポーネントにグループ化された計算で構成されます。ルールには 1 つ以上のコンポーネント、テンプレートまたはルールが含まれます。

Tax Reporting には、アプリケーションのタスクまたは計算を簡単に実行できるように設計された複数のビジネス・ルールが用意されています。

ビジネス・ルールを表示するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」を選択し、「ルール」をクリックします。



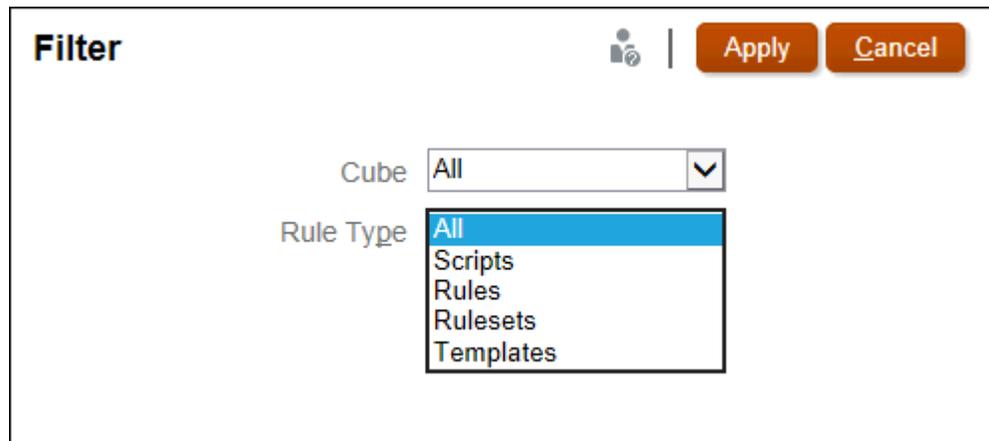
2. 「ビジネス・ルール」画面で、「すべてのキューブ」をクリックして、ビジネス・ルールを適用するキューブを選択します。

- すべて
- 連結
- レート
- CbCR

3. 「すべてのルール・タイプ」をクリックして、使用するルールのタイプを選択し、「適用」をクリックします。

- すべて
- スクリプト
- ルール
- ルールセット

- テンプレート



4. 「連結」や「換算」など、適用するルールを選択します。参照

5. 「起動」をクリックしてビジネス・ルールを適用します。

フォームにビジネス・ルールが添付されている場合は、フォームからルールを実行する方法が2つあることに注意してください:

- 「アクション」メニューからビジネス・ルールを起動(「アクション」 → 「ルール」)
- フォームで右クリックして、ビジネス・ルールを起動

 ノート:

フォームのセルを右クリックしてビジネス・ルールを起動する場合、実行時プロンプトはセル・コンテキストから取得されます。

ベスト・プラクティスとして、「連結」または「換算」などの長時間実行するビジネス・ルールを、イベントの保存またはロードのフォームに添付しないでください。

## 使用可能なビジネス・ルールのリスト

ビジネス・ルールは、アプリケーションでタスクや計算を簡単に実行できるように設計されています。次に使用可能な Tax Reporting ビジネス・ルールのリストを示します。

使用可能なビジネス・ルールの多くには、"スタンドアロン実行用ではありません。"というタグが付いています。この指定があるルールは自動的に呼び出され、システムによって内部的に使用されて操作が実行されます。これは内部ルールであるため、ユーザーが選択して単独で実行することはできません。"スタンドアロン実行"が可能なルールは、ユーザーがルールを選択して単独で実行できます(連結など)。

表 10-1 Tax Reporting のビジネス・ルール

ビジネス・ルール名	説明
連結	指定されたシナリオ、年、期間およびエンティティの財務連結を実行します。エンティティの連結ステータスに基づいてインテリジェントに連結を実行します。
損失エンティティのコピー・ルール	このルールは、損失エンティティのコピー設定で使用されます。
税金自動化ルールのコピー	このルールは、税金自動化ルール・マッピングをコピーするためにロールオーバー・プロセスで使用します。これにより、前の期間からターゲット期間にマッピングがコピーされます。
税率のコピー・ルール	このルールは、税率をコピーするためにロールオーバー・プロセスで使用します。これにより、前の期間からターゲット期間にデータがコピーされます。詳細は、ユーザー・ガイドを参照してください。
連結の強制	内部の処理フラグを無視して連結を実行します。この操作は、管理ユーザーがシステムをなんらかの正しくない状態から回復する目的で使用されます。詳細は、ユーザー・ガイドを参照してください。
換算の強制	内部の処理フラグを無視して換算を実行します。この操作は、管理ユーザーがシステムをなんらかの正しくない状態から回復する目的で使用されます。詳細は、ユーザー・ガイドを参照してください。
データのあるエンティティへの影響(廃止)	このルールは非推奨になりました。以前にこのルールを使用していた場合は、かわりに「Consol キューブでのデータのあるエンティティへの影響」を使用できます。
換算	指定されたシナリオ、年、期間、エンティティおよびその子孫の連結データを、選択されたレポート通貨に換算します。エンティティが連結されていない場合、最初にステータスに従って連結された後に、レポート通貨に換算されます。
TAR 自動化ルールのコピー	このルールは、TAR 自動化ルール・マッピングをコピーするためにロールオーバー・プロセスで使用します。これにより、前の期間からターゲット期間にマッピングがコピーされます。
課税損失/税額控除の期限切れの年	選択したターゲット POV に期限切れの年をコピーします。
Consol キューブでのデータのあるエンティティへの影響	このルールは、税金自動化フォームでユーザーが定義したマッピングに基づいてエンティティのデータ・ステータスを更新するために、システムによって内部的に使用されます。このルールはスタンドアロン実行用ではありません。
TAR 自動化デフォルト・マッピング	このルールは、デフォルトの TAR 自動化ルールを保存するために、システムによって内部的に使用されます。このルールはスタンドアロン実行用ではありません。
TAR 自動化すべてのマッピング	このルールは、デフォルトの TAR 自動化ルールを表示するために、システムによって内部的に使用されます。このルールはスタンドアロン実行用ではありません。

表 10-1 (続き) Tax Reporting のビジネス・ルール

ビジネス・ルール名	説明
税金自動化空白ルールの追加	このルールは税金自動化空白ルールの追加用です
税金自動化グローバル保存	このルールは、すべての基本エンティティのグローバルな税金自動化データを保存するために、システムによって内部的に使用されます。このルールはスタンドアロン実行用ではありません。
TAR マッピング検証	このルールは、税金自動化フォームでユーザーが定義したマッピングに基づいてエンティティのデータ・ステータスを更新するために、システムによって内部的に使用されます。このルールはスタンドアロン実行用ではありません。
レートの計算	指定された通貨(元)と通貨(先)に対してシステムに入力された直接レートに基づいて、特定のシナリオ、期間および年の平均レートと期末レートを計算します。直接レートが入力されない場合、アプリケーション通貨に基づいてトライアングレーションを実行します。
FX レートのコピー・ルール	このルールは、FX レート・データをコピーするためにロールオーバー・プロセスで使用します。これにより、前の期間からターゲット期間にデータがコピーされます。詳細は、ユーザー・ガイドを参照してください。
SDM 通貨レートのリフレッシュ	データベース・リフレッシュ、データ・ロード、フォーム保存の後処理操作の一部として実行されるルール。このルールはスタンドアロン実行用ではありません。
CbCR 自動化フォーム検証	このルールは、税金自動化フォームでユーザーが定義したマッピングに基づいてエンティティのデータ・ステータスを更新するために、システムによって内部的に使用されます。このルールはスタンドアロン実行用ではありません。
CbCR の連結	このルールは、データ・フォーム保存の前処理操作の一部として実行されます。このルールは、スタンドアロン計算用ではありません。
税金自動化ルールのコピー	このルールは、CbCR 自動化ルール・マッピングをコピーするためにロールオーバー・プロセスで使用します。これにより、前の期間からターゲット期間にマッピングがコピーされます。
CbCR データのコピー	このルールは、CbCR をコピーするためにロールオーバー・プロセスで使用します。これにより、ユーザーの選択に基づいてターゲット期間およびソース期間にデータがコピーされます。詳細は、ユーザー・ガイドを参照してください。
連結の強制 CbCR	内部の処理フラグを無視して連結を実行します。この操作は、管理ユーザーがシステムをなんらかの正しくない状態から回復する目的で使用されます。詳細は、ユーザー・ガイドを参照してください。
換算の強制 CbCR	内部の処理フラグを無視して換算を実行します。この操作は、管理ユーザーがシステムをなんらかの正しくない状態から回復する目的で使用されます。詳細は、ユーザー・ガイドを参照してください。

表 10-1 (続き) Tax Reporting のビジネス・ルール

ビジネス・ルール名	説明
<b>CbCR キューブでのデータのあるエンティティへの影響</b>	このルールは、CbCR 自動化フォームでユーザーが定義したマッピングに基づいてエンティティのデータ・ステータスを更新するために、システムによって内部的に使用されます。このルールはスタンドアロン実行用ではありません。
<b>CbCR の換算</b>	指定されたシナリオ、年、期間、エンティティおよびその子孫の連結データを、選択されたレポート通貨に換算します。エンティティが連結されていない場合、最初にステータスに従って連結された後に、レポート通貨に換算されます。
<b>CbCR 自動化空白ルールの追加</b>	このルールは、空白の CbCR 自動化ルールを追加するために、システムによって内部的に使用されます。このルールはスタンドアロン実行用ではありません。
<b>CbCR 自動化ルールの追加</b>	このルールは、CbCR 自動化ルールを追加するために、システムによって内部的に使用されます。このルールはスタンドアロン実行用ではありません。

# 11

## インフォレットでの主な情報の表示

インフォレットでは、意思決定と対処に有効なデータを迅速に見極めることができます。インフォレットには、概要レベルの集約された情報がビジュアルにわかりやすく示されます。データを迅速に分析し、次のようなビジネス上の主要な問題を把握しやすくなります。

- 注意を向ける必要がある、特に重要な点は何ですか。
- 最近、クリティカルな情報のうち何が変更されましたか。
- 何件のオーダーが対応困難か、ステータス別にリストしますか。

重要な情報について概要をすぐに把握することで、状況の変化にすぐに対応できます。

管理者の設計次第で、インフォレットにはチャート、フォームのデータ・ポイント、フォーム全体を表示できます。管理者は、表示を切り替えたり展開したりして段階的に詳細を表示するインフォレットも設計できます。(インフォレットを設計できるのは管理者のみです。)

重要なデータに注意が向くように、管理者は直接ホーム・ページに表示されるインフォレット・ページを設定できます。サンプルのインフォレット・ページ:



ホーム・ページ上部のドットをクリックしてインフォレットにアクセスすることもできます。[インフォレット・ドットについて](#)を参照してください。インフォレットの内容に、ページの表示より多くのスペースが必要な場合は、右側のスクロール・バーを使用します。

 ノート:

ナビゲータ・フロー・デザイナを使用して、管理者はホーム・ページに最大 7 つのインフォレット・ドットを定義できます。管理者が他の Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management サブスクリプションへの接続を作成できる場合は、インフォレットから他の Cloud EPM サブスクリプションのインフォレット・ページにもリンクできます。

## インフォレット・ビューについて

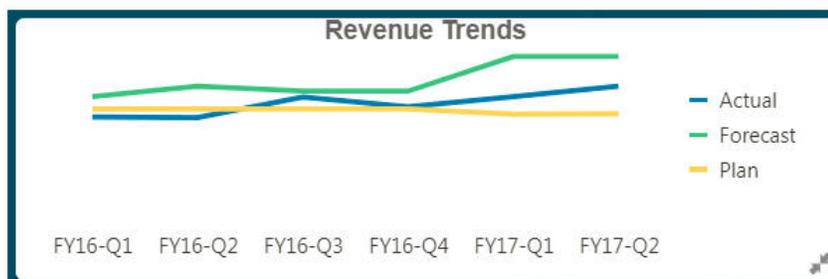
管理者は、1 つのインフォレットで最大 3 つのビューを設計できます。前面ページでは通常、主要な情報が示されます。例:



インフォレットに背面ビューがある場合は、右下隅にカーソルを置くと切替えの矢印が表示されるので、それをクリックします。背面ビューには通常、グラフなどの分析情報があります。例:



前面ビューに切り替えるには、左下矢印にカーソルを置いてクリックします。1 つのインフォレットには、1 つの展開ビューを設定し、さらに詳細な情報を示すことができます。その場合、展開ビューを表示するには、右下隅の二重矢印にカーソルを置いてクリックします。例:



展開ビューから前面または背面ビューに戻るには、右下隅の二重矢印をクリックします。

 ノート:

インフォレット・ビューでは、基礎となるフォームとディメンションに割り当てられているアクセス権が保持されます。したがって、インフォレット・ビューは、同じインフォレットの他のユーザーのビューとは異なることがあります。

## インフォレット・ドットについて

管理者によってアクセス権を付与されたインフォレットは、ホーム・ページの上部にあるドットをクリックすると開きます。



- 1つ目のドットは、ホーム・ページにリンクしています。
- 2つ目のドットは、自身のデフォルトまたはお気に入りのインフォレット・ページにリンクしています。[デフォルト・インフォレットの設定](#)を参照してください。
- 3つ目から9つ目までのドットは、管理者が作成した他のインフォレットにリンクしています。

## デフォルト・インフォレットの設定

特に頻繁にアクセスするインフォレットをデフォルトとして設定できます。2つ目のドットをクリックすると、デフォルトのインフォレットが表示されます。

デフォルトのインフォレットを設定するには:

1. ホーム・ページで、「**インフォレット**」をクリックします。
2. デフォルトにしたいインフォレットの「**アクション**」メニューで、「**デフォルト**」をクリックします。  
「**デフォルト**」設定を元に戻す場合は、「**マーク解除**」をクリックします。

ダッシュボードとインフォレットの両方をデフォルトとしてマークできますが、有効になるのは一度に1つのみです。直前にデフォルトとして設定したほうが、現在のデフォルトです。

# 12

## 国税プロセスの操作

### 関連リンク:

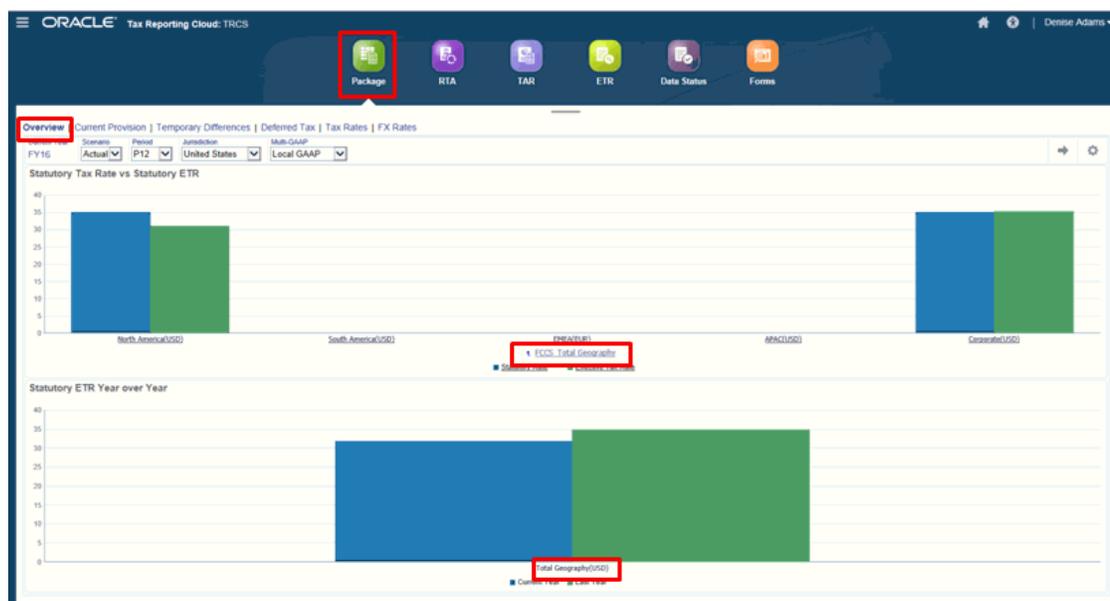
- [国の当期引当金](#)
- [当期引当金\(国\)の税金自動化の使用](#)
- [永久差異と一時差異の操作](#)
- [取得の操作: 国](#)
- [国の繰延税金の操作](#)
- [税率の操作](#)
- [国の FX レートの操作](#)
- [RTA \(申告額の未払処理調整\)の操作](#)
- [税金勘定ロールフォワード\(TAR\)の操作](#)
- [法定および連結有効税率の操作](#)
- [IFRS レポートを使用した法定および連結有効税率の操作](#)
- [連結税率 IFRS の入力](#)
- [エンティティ別連結 ETR IFRS 税率の上書き](#)
- [固定資産フォームの操作](#)
- [データ・ステータスおよび検証](#)
- [予測および予算の作成シナリオに対する期首残高のオーバーライド](#)

## 国の当期引当金

### 国の税引当の概要ダッシュボードの確認

国の税引当の概要ダッシュボードには、次の棒グラフの結果が表示されます。

- **法定税率 vs 法定 ETR** - 選択したエンティティについて今年度の国の法定税率と有効税率を比較します。
- **法定 ETR 前年同期比** - 選択したエンティティについて今年度と前年度の国の法定 ETR レートを比較します。



概要ダッシュボードを確認するには:

1. ホーム・ページで、「税引当(国)」を選択し、次に「パッケージ」を選択します。
2. 「概要」タブで、法定税率 vs 法定 ETR ダッシュボードを確認します。  
ダッシュボードにドリルダウンするには、地域合計などの最上位レベル・エンティティをクリックします。使用可能な地域の名前をクリックしてドリルダウンを続けます。
3. 「概要」タブで、法定 ETR 前年同期比ダッシュボードを確認します。  
ダッシュボードにドリルダウンするには、最上位レベル・エンティティをクリックします。使用可能な地域の名前をクリックしてドリルダウンを続けます。

#### ノート:

最上位レベル・エンティティ (地域合計) のダッシュボードを表示するには、地域合計を連結し、税率および FX レートがすべてのエンティティに入力されていることを確認する必要があります。

## 国の当期引当金フォームの操作

国の当期引当金フォームは、国の引当金に対する当期の税金費用を調整、確認および計算するために使用されます。

フォームでは、追加の永久差異と一時差異の調整に加え、他の引当以外の金額も入力できます。

フォームで作業をする前に、エンティティを連結して「自動」列に結果を生成し、当期引当金の開始点が、法的エンティティの財務諸表の税引前利益に等しいことを確認する必要があります。

IFRS についてのみ、期末残高の課税所得を繰延税金の認識から外すことができます。次の項を参照してください:

- [IFRS の未認識繰延税金\(DTNR\)の操作](#)
- [IFRS の繰延税金転記 DTNR の操作](#)

国の引当金に対する当期の税金費用を計算するには:

1. ホーム・ページで、「**税引当(国)**」を選択し、次に「**パッケージ**」を選択します。
2. フォームで、「**現在の引当金**」タブを選択します。

Overview | **Current Provision** | Temporary Differences | Deferred Tax | DTNR | Deferred Tax Post DTNR | Tax Rates | FX Rates

**Current Provision** ⓘ

Scenario Actual	Years FY15	Period P1	Entity Montreal(CAD)	Consolidation Entity Input	Jurisdiction Canada	Multi-GAAP No Multi-GAAP	Currency Entity Currency
				Automated	Adjustment	Total	
⊞ Net Income Before Tax							
⊞ Permanent Differences (GAAP to Stat)							
⊞ Total Temporary Differences (GAAP to Stat)							
					10000	10000	
Local Statutory Net Income Before Tax							
					10000	10000	
⊞ Permanent Differences (Stat to Tax)							
⊞ Total Temporary Differences (Stat to Tax)							
⊞ Deductible Income tax							
Taxable Income Before Loss							
					10000	10000	
Special Deductions							
⊞ Total National Tax Losses - Carryforward Automated							
Taxable Income							
					10000	10000	
Current Year Tax Rate							
				35%	35%	35%	
Current Tax on Taxable Income							
⊞ Total Tax Credits							
Current Tax Expense per Return							
⊞ Total Additional Current Provision							
Current Provision							

3. オプション: 「メンバーの編集」  をクリックして POV を変更します。
4. 「自動」列の下の自動値を表示します。自動値は、税金自動化プロセスの一環として連結中にシステムによって計算されます。「自動」列の下に値が表示されない場合、帳簿データのインポート後にエンティティが連結されていない可能性があります。
5. オプション: 「調整」の下で、自動金額に対する調整を入力します。
6. 「アクション」で、「連結」を選択して現在の引当金データ・フォームを再計算します。

 **ノート:**

特定の勘定科目に対して税が計算されていない場合、プロパティが正しく設定されない可能性があります。たとえば、次の属性が、永久差異と一時差異の勘定科目で設定されていることを確認する必要があります。

- **税データ・タイプ**を **PreTax** に設定します
- **税タイプ**を **NationalAndRegional** に設定します

ディメンション・エディタでプロパティ設定を確認し、必要に応じて修正します。[簡易ディメンション・エディタを使用したメンバー・プロパティの編集](#)を参照してください。

7. 計算された国の当期の税金費用の結果を確認します。

## 税引前純利益

税引前純利益(NIBT)は、税金自動化プロセスを通じて現在の引当金フォームで自動的に移入されます。システムでは、いくつかの既存の税引前純利益調整を準備するとともに、税引前純利益を調整する必要がある状況に対して調整を構成できます(遅延調整など)。システムでは、次の税引前純利益調整が提供されます。

- 帳簿の調整
- 帳簿の組替え

税引前純利益の自動化プロセスによって、一般会計から現地通貨で当期引当金が移入されます。自動構成により、税引前純利益が財務諸表に一致することが保証されます。

## 控除可能な地域税およびその他税

現在の引当金フォームのこのセクションでは、システムで控除可能に構成されている地域税の自動控除と、国レベルで控除可能な他の税金の手動調整が提供されます。

- 地域の法人税 - 自動値は、地域の控除が国の引当金用に控除可能に構成されている場合、地域の当期引当金から取得されます。たとえば、米国の各州は、連邦用に控除可能です。
- 他の控除可能な法人税 - 国レベルの同等部分で控除可能な他の税金に対する手動入力
- 控除可能な法人税

## 国の課税損失および税額控除の詳細

課税損失および税額控除では、ビジネス・エンティティが将来の課税所得または税金負債(あるいはその両方)を相殺するために、課税損失および税額控除を繰越可能にするメカニズムを提供します。損失および控除は詳細な課税損失および税額控除のフォームに取得され、起算および期限切れの年別に詳細に記載されます。詳細な課税損失および税額控除のフォームは、「現在の引当金」および「一時差異」フォームに統合されています。

繰越可能な期間は国ごとに税のルールが異なるため、「期限切れの年」で取得します。この連結ベースのデータおよび詳細は、財務諸表の税の注記または開示の一部です。

課税損失および税額控除を取得するには、次のフォームを使用できます。

- [国の課税損失](#)
- [国の税額控除](#)

### ノート:

アプリケーションで課税損失または税額控除の勘定科目が使用可能でない場合、課税損失または税額控除のフォームは使用できません。

ホーム・ページで、「**税引当(国)**」、「**パッケージ**」の順に選択します。「課税損失」フォームと「税額控除」フォームの列は両方とも同じです。各列の説明は、次の「課税損失および税額控除の詳細スケジュール」表を参照してください。

表 12-1 課税損失および税額控除の詳細スケジュール

課税損失および税額控除の列	説明	他のフォームへの影響
起算年	POV で選択した年に基づいて、 <b>起算年</b> に、実際の会計年(FY17、FY18、FY19 など)が表示されます。	
期限切れの年	<p>課税損失または税額控除の期限が切れる年をドロップダウン・リストから選択します。損失を繰り越せる期間を指定する税のルールは国ごとに異なります。</p> <p>連結が実行された後、次の状況では「<b>期限切れの年</b>」がデフォルト設定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「<b>期限切れの年</b>」が未選択で、<b>期末繰越</b>に値がある場合、「期限切れの年」は自動的に「<b>期限切れなし</b>」に設定されます。</li> <li>「<b>期限切れの年</b>」が選択され、<b>期末繰越</b>に値がないかゼロに等しい場合、「期限切れの年」はクリアされます。</li> </ul>	
期首繰越	<p>期首繰越は読取り専用で、前年度の期末繰越から移入されます。この値は連結後に移入されます。</p> <p>前年度の期末繰越の値がゼロに等しい場合、今年度の期首繰越は空白になります。</p>	

表 12-1 (続き) 課税損失および税額控除の詳細スケジュール

課税損失および税額控除の列	説明	他のフォームへの影響
前年度調整 - 損失および控除	前年度調整金額を入力します。	<p>次の場所に調整の合計がコピーされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「課税損失」フォーム</li> <li>「一時差異」フォームの<b>前年度調整 - 損失および控除</b>の対応する課税損失/税額控除勘定科目。このフィールドは読取り専用です。</li> <li><b>期末繰越</b>の値が翌年に移動します。</li> </ul>

 **ト:** 前年度調整 - 損失および控除は、アプリケーションの開始年には編集可能ではありません。

調整された期首

この金額は、期首繰越と前年度調整の合計の親です。

表 12-1 (続き) 課税損失および税額控除の詳細スケジュール

課税損失および税額控除の列	説明	他のフォームへの影響
作成された損失/控除	<p>この金額は今年度の繰延課税損失または繰延税額控除です。</p> <p>今年度の繰延課税損失について、調整が入力された場合は「現在の引当金」フォームの調整済の課税損失勘定科目から国の課税損失合計 - 自動繰越勘定科目に、この金額が振り替えられます。</p> <p><b>ノート:</b> 控除は今年度税額控除にのみ入力できます。控除が「現在の引当金」フォームから振り替えられることはありません。</p> <p>繰延課税損失は、「一時差異」の「自動」列にコピーされます。</p> <p>「課税損失」詳細スケジュールでは、繰延金額はフォームの次の場所に表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 選択した年の<b>作成された損失/控除</b>の下。</li> <li>• <b>期首繰越</b>の下。</li> </ul>	<p>連結後、この金額は「一時差異」フォームの「自動」列にコピーされます。</p>
申告額の未払処理調整	<p>税金還付の充てん結果として、繰延調整に返還するために現在の期間に調整を入力します。</p>	<p>この金額は RTA スケジュールから自動化されていないため、一時差異に自動的に適用されません。</p>
その他の調整	<p>その他の調整の金額を入力します。</p>	<p>連結後、その他の調整の合計はすべて、「一時差異」フォームの<b>他の調整 - 自動(繰延のみ)</b>に移動されます。</p>
使用可能な損失/控除	<p>この列の合計は、次の要約になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 調整された期首</li> <li>• 作成された損失/控除</li> <li>• 申告額の未払処理調整</li> <li>• 他の調整</li> </ul>	
今年度使用	<p>この損失を今年度(CY)に使用する場合は負の金額を入力します。</p>	<p>CY 合計が次のフォームに移動します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「現在の引当金」フォームの<b>課税損失 - 自動繰越</b>の「自動」列</li> <li>• 「一時差異」フォームの<b>課税損失 - 自動繰越</b>の「自動」列</li> </ul>
調整済	<p>この列には、次の各列の合計が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 使用可能な損失/控除</li> <li>• 今年度使用</li> </ul>	
期限切れ	<p>今年度の特定の金額を期限切れにする場合は、その金額を入力します。</p>	<p>課税損失または税額控除の<b>期限切れ</b>および「その他の調整」の合計が、「一時差異」の<b>他の調整(繰延のみ)</b>に移動します。</p>

表 12-1 (続き) 課税損失および税額控除の詳細スケジュール

課税損失および税額控除の列	説明	他のフォームへの影響
外国為替 - 期首残高	この金額は、親通貨またはレポート通貨への換算に起因する期首残高の差異です。	
外国為替 - 今年度	この金額は、親通貨またはレポート通貨への換算に起因する今年度の差異です。	
外国為替	この金額は、外国為替期首残高と今年度の外国為替の合計です。	これらの 3 つの列は自動化された通貨換算の値で、「一時差異」に表示される値と同様に動作します。
出資比率	この金額は、出資比率期首残高と今年度の出資比率の合計です。	
出資比率 - 期首残高	この金額は、親への出資比率の変更に起因する期首残高の差異です。	
出資比率 - 今年度	この金額は、出資比率における親への変更に起因する現在の年の差異です。	
期末繰越(a)	<b>期末繰越</b> には、期末繰越を生成するために、「期限切れの年」を除くすべての列のサマリーが表示されます。	
一時差異期末残高(b)	<b>一時差異期末残高(b)</b> には、一時差異の期末残高が表示されます。	
差異(a - b)	この金額には、次の値の差異が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>期末繰越(a)</b></li> <li>• <b>- 一時差異期末残高(b)</b></li> </ul>	

## 国の課税損失

国の課税損失は、次のカテゴリの自動繰越で取得されます。

- **課税損失** - 今年度の課税所得に対する純営業損失繰越の利用を記録するために使用されます
- **資本損失**
- **寄付金**
- **国の課税損失** - 繰り越す必要のある今年度の損失があるエンティティについて、課税所得を最大で 0 にするために使用されます
- **国の課税損失合計**

「課税損失」フォームは課税損失の追跡に使用されます。損失を将来の期間に繰り延べる場合は、現在の引当金レポートにデータを入力します。連結後に繰延金額が「課税損失」詳細スケジュールに移動します。

損失を将来の期間に繰り延べるには:

1. ホーム・ページで、「**税引当(国)**」、「**パッケージ**」の順にクリックします。

2. 「現在の引当金」フォームで、課税損失 - 自動繰越の「調整」列に、繰延損失の値を入力します。
3. 「保存」をクリックします。
4. 「アクション」で、「連結」を選択します。
5. 現在の引当金レポートの「課税損失」タブをクリックします。  
「課税損失」詳細スケジュールでは、繰延金額は期首繰越に表示されます。「課税損失」フォームで実施したその他の調整は、連結後に「一時差異」フォームに移動されます。国の一時差異の入力を参照してください。

Tax Losses/Credits Currency	Scenario Actual	Years FY15	Period P12	Entity San Jose(USD)	Consolidation Entity Input	Jurisdiction United States	Multi-GAAP No Multi-GAAP							
	Year Of Origination	Year Of Expiration	Opening Carryforward	Prior Year Adjustment - Losses And Credits	Opening as Adjusted	Created Losses/Credits	Return to Accrual Adjustment	Other Adjustments	Available Losses/Credits	CY Utilization	Adjusted	Expires		
Historic Year														
Current Year Minus 20		FY95												
Current Year Minus 19		FY96												
Current Year Minus 18		FY97												
Current Year Minus 17		FY98												
Current Year Minus 16		FY99												
Current Year Minus 15		FY00												
Current Year Minus 14		FY01												
Current Year Minus 13		FY02												
Current Year Minus 12		FY03												
Current Year Minus 11		FY04												
Current Year Minus 10		FY05												
Current Year Minus 9		FY06												

6. 必要に応じて、選択した年の課税損失を入力します。「課税損失」フォームのすべての列の説明について、国の課税損失および税額控除の詳細の「課税損失および税額控除の詳細スケジュール」を参照し、データ入力を完了してください。一部の列は「現在の引当金」フォームの詳細を使用して自動的に移入されます。
7. 「保存」をクリックします。
8. 「アクション」で「連結」を選択します。

## 国の税額控除

システムは、次のカテゴリを含む合計税額控除の税額控除の影響を追跡します。

- 今年度合計税額控除: 外国税額控除 - 今年度を含む
- 合計税額控除繰越
  - 外国税額控除
  - 一般事業税額控除
  - 雇用税額控除

### ノート:

課税損失/税額控除の勘定科目が使用可能でない場合、課税損失および税額控除のフォームは表示されません。

控除を将来の期間に繰り延べる場合は、「税額控除」フォームにデータを入力する必要があります。連結後に繰延金額が「一時差異」フォームの他の調整 - 「自動」 - 繰延のみ列に移動します。一時差異ロールフォワードで税額控除の繰越が追跡されます。

控除を将来の期間に繰り延べるには:

1. ホーム・ページで、「**税引当(国)**」、「**パッケージ**」の順にクリックします。
2. 「**税額控除**」フォームの「現在の年」の**作成された損失/控除**列に繰延控除の値を入力します。この値は「現在の引当金」レポートから移入されません。

Tax Credits															
Tax Losses/Credits Currency	Scenario Actual	Years FY19	Period P12	Entity San Jose(USD)	Consolidation Entity Input	Jurisdiction United States	Multi-GAAP Local GAAP	Account Tax Credit							
	Year Of Origination	Year Of Expiration	Opening Carryforward	Prior Year Adjustment - Losses And Credits	Opening as Adjusted	Created Losses/Credits	Return to Accrual Adjustment	Other Adjustments	Available Losses/Credits	CY Utilization	Adjusted	Expiration			
Current Year Minus 13		FY06													
Current Year Minus 12		FY07													
Current Year Minus 11		FY08													
Current Year Minus 10		FY09													
Current Year Minus 9		FY10													
Current Year Minus 8		FY11													
Current Year Minus 7		FY12													
Current Year Minus 6		FY13													
Current Year Minus 5		FY14													
Current Year Minus 4		FY15													
Current Year Minus 3		FY16													
Current Year Minus 2		FY17 No Expiration						2000	2000		2000				
Current Year Minus 1		FY18 No Expiration												-20000	
Current Year		FY19 No Expiration					4567913		4567913		4567913				
Total Tax Losses/Credits							4567913		4569913		4569913			-20000	

3. 「**税額控除**」フォームで次の列に値を入力します:

- 期限切れの年
- 作成された損失/控除
- その他の調整

 **ノート:**

POV で選択した年に基づいて、**起算年**に、実際の会計年(FY19 など)が表示されます。

4. 「**保存**」をクリックします。
5. 「**アクション**」で、「**連結**」を選択します。  
次の列の合計は、「一時差異」フォームの対応する税額控除勘定科目の「**その他の調整**」 - **他の自動調整(繰延のみ)**に表示されます:
  - 作成された損失/控除
  - 他の調整
  - 有効期限

Temporary Differences										Actions		Save									
Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency														
Actual	FY19	P12	San Jose(USD)	Entity Input	United States	Local GAAP	Entity Currency														
								Opening Balance	Opening Balance Adjustment	Prior Year Adjustment - Losses And Credits	Opening Balance As Adjusted	Automated	Automated Reversal	Automated Total	Adjustment	Adjustment Reversal	Adjustment Total	CY Total	Return to Accrual (Deferred Only)	Audit Settlements (Deferred Only)	Other Adjustments - Automated (Deferred Only)
Total Temporary Differences (GAAP to Stat)																					
Total Temporary Differences (Stat to Tax)																					
Total Temporary Differences																					
Total National Tax Losses - Carryforward Automated																					
Total National Tax Losses																					
Tax Credit																					
General Business Credit																					
Jobs Credit																					
Total Tax Credits Carryforward																					
Total Tax Attributes																					
Total National Temporary Differences, Losses, Credits and Attributes																					
Total Valuation Allowance																					
Temporary Differences National																					

国の一時差異の入力を参照してください。

## 追加の当期引当金の合計

システムには、手動で入力されるか、税効果に基づいて自動化される追加引当金項目があります。これらの項目は、課税所得に基づかない税金や税率が掛けられない税金、または財務諸表の当期引当金にレポートされる他の調整に対して使用されます(FIN48 など)。これらの追加引当金項目は、税引当合計に影響し、レート照合調整として有効税率(ETR)レポートに反映されます。

追加引当金項目のリストは次のとおりです。

### 追加の当期引当金 - ソース

- 当期の税金の偶発引当金
- 源泉徴収税

### 追加の当期引当金 - 手動

- 監査調整 - 当期の税金費用
- テキサス州マージン税
- 当期の課税額

### 追加の当期引当金 - 計算

- 当期の税金費用(申告額の未払処理調整) - 自動
- 国の資本逆仕訳
- StockComp 当期の税金費用 RTA 調整

## 当期引当金(国)の税金自動化の使用

国の当期引当金プロセスは、税金自動化に依存して NIBT、永久差異および一時差異の自動金額を移入します。国の引当金計算は、地域の引当金計算の前、連結プロセスの実行中に行われます。税金自動化ロジックは、連結プロセスの一環として実行されます。

サービス管理者は、当期引当金表のソースと宛先のメンバーを定義し、連結を実行して、当期引当金の開始点が、法的エンティティの財務諸表の税引前利益に等しいことを確認します。連結が完了すると、結果が「現在の引当金」フォームの税引前純利益行にコピーされます。

エンティティの損益計算書の税引前純利益(NIBT)が、現在の引当金フォームの税引前純利益行にコピーされます。税金自動化プロセスを使用して、当期引当金に取得される税引前純利益調整の金額を自動化することもできます(たとえば、帳簿の調整や帳簿の組替えなど)。

 ノート:

「保管」または「共有しない」のプロパティを持つ子を **NIBT の帳簿調整** および **NIBT の合計台帳組替** で追加する必要があります。これにより、税金自動化を使用してデータを「現在の引当金」フォームに取り込むことができます。

貸借対照表および損益計算書データは、永久差異と一時差異に移入するために使用されます(これは、照合時間を短縮して正確性を向上するために、一般会計から自動化できます)。

税金自動化の実行後に、NIBT、一時差異および永久差異の自動金額が表示されます。

Overview   Current Provision   Temporary Differences   Deferred Tax   DTNR   Deferred Tax Post DTNR   Tax Rates   FX Rates							
Current Provision ⓘ							
Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency
Actual	FY15	P1	Montreal(CAD)	Entity Input	Canada	No Multi-GAAP	Entity Currency
				Automated	Adjustment	Total	
Net Income Before Tax							
Permanent Differences (GAAP to Stat)							
Total Temporary Differences (GAAP to Stat)					10000	10000	
Local Statutory Net Income Before Tax					10000	10000	
Permanent Differences (Stat to Tax)							
Total Temporary Differences (Stat to Tax)							
Deductible Income tax							
Taxable Income Before Loss					10000	10000	
Special Deductions							
Total National Tax Losses - Carryforward Automated							
Taxable Income					10000	10000	
Current Year Tax Rate				35%	35%	35%	
Current Tax on Taxable Income							
Total Tax Credits							
Current Tax Expense per Return							
Total Additional Current Provision							
Current Provision							

Tax Reporting の管理の「税金自動化トレースの操作」も参照してください。

## 永久差異と一時差異の操作

永久差異と一時差異は、エンティティの GAAP と法定間の差異のレポート要件に対応するため、次の 2 つのカテゴリに分類されます。

- **GAAP と法定の調整** - 各地の税法で親のものとは異なる会計基準が要求される法的エンティティは、GAAP と法定の調整を使用します。

- **法定と税金の調整** - GAAP と法定の永久差異または一時差異を使用しないか、それらを保持しないエンティティで、レポート標準と各地の税法が同じであるものは、法定と税金の永久差異および一時差異のセクションを使用します。

 **ノート:**

一時差異は、貸借対照表用としては非流動に分類されます。

次の項を参照してください:

- [永久差異](#)
- [一時差異の操作](#)
- [国の一時差異の入力](#)

永久差異の構成についてさらに学習するには次のビデオを参照してください:  [Tax Reporting Cloud](#) での永久差異の構成。

税タイプ、税データ・タイプおよび FBOS 属性に基づく勘定科目の分類の詳細は、[Tax Reporting の管理の勘定科目の課税属性の定義](#)を参照してください。

## 永久差異

帳簿基準と税務基準間の永久差異は、解消されないため、課税所得に影響しません。

システムのセットアップ、実装または進行中の税レポート作成の一環として、永久差異の勘定科目を追加して構成できます。永久差異は、連邦、地域または州の非課税控除や付加に起因する国または地域の調整金額です。

たとえば、罰金や違約金、最大 50% の接待交際費、特定の生命保険の保険金などが当てはまります。これらの金額は、次のカテゴリの下にある TRCS 勘定科目ディメンションのメンバーに保管されます。

- TRCS\_PermGSTotal (永久差異(GAAP と法定))
- TRCS\_PermSTTotal (永久差異(法定と税金))

Name	Alias (Default)	Data Storage	Custom Attributes
TRCS_TaxAccounts	Tax accounts	Label only	
TRCS_CurrentTaxExpense	Current Provision	Dynamic Calc	View
TRCS_CurrentTaxReturn	Current Tax Expense per Return	Dynamic Calc	View
TRCS_CurrentTaxTI	Current Tax on Taxable Income	Dynamic Calc	
TRCS_TaxableIncomeAfterLoss	Taxable Income	Dynamic Calc	
TRCS_TaxableIncomeBeforeLossWSplDeducts	Taxable Income Before Loss with Special Deductions	Dynamic Calc	
TRCS_TaxableIncomeBeforeLoss	Taxable Income Before Loss	Dynamic Calc	
TRCS_NIBTLS	Local Statutory Net Income Before Tax	Dynamic Calc	
TRCS_NIBTAadjusted	Net Income Before Tax	Dynamic Calc	
TRCS_NIBT	NIBT	Store	
TRCS_NIBTBA	Book Adjustments to NIBT	Dynamic Calc	
TRCS_PermGSTTotal	Permanent Differences (GAAP to Stat)	Dynamic Calc	
PermGS0001	Perm 1 - XXXXX	Store	
PermGS0002	Perm 2 - XXXXX	Store	View
PermGS0003	Perm 3 - XXXXX	Store	View
TRCS_TempGSTotal	Total Temporary Differences (GAAP to Stat)	Dynamic Calc	
TempGS0001	Temp 1 - XXXX	Store	View
TempGS0002	Temp 2 - XXXX	Store	View
TempGS0003	Temp 3 - XXXX	Store	View
TempGS0004	FA - Tax Depreciation US/Stat	Store	View
TempGS0005	GAAP/Stat - LT	Store	View
TempGS0006	GAAP/Stat - ST	Store	View
TRCS_PermSTTotal	Permanent Differences (Stat to Tax)	Dynamic Calc	
TRCS_TempSTotal	Total Temporary Differences (Stat to Tax)	Dynamic Calc	
TRCS_DeductIncTaxTotal	Deductible Income tax	Dynamic Calc	
TRCS_TaxSpecialDeductions	Special Deductions	Store	

永久差異を国レベルで調整する場合は、レポート標準または法定標準への調整時、あるいは法定標準から税レポート標準への調整時に差異が生じる可能性があることに留意してください。たとえば、レポート標準が IFRS である場合、イギリスの納税申告基準は UK GAAP になります。いずれの永久差異についても、GAAP と法定に関する親の下にある勘定科目に入力されます。UK GAAP から課税所得に調整する場合は、これらの永久差異は法定と税金に関する親の下に入力されます。

永久差異の構成に関する詳細は、次のチュートリアル・ビデオを参照してください： [Tax Reporting での永久差異の構成](#)。

## 一時差異の操作

帳簿基準と税務基準間の一時差異は、解消されるため、将来のある時点で課税所得に影響します。一時差異の例は、帳簿上の減価償却の超過による税務上の減価償却累計額、貸倒引当金またはその他積立金などです。

システムのセットアップ、実装または進行中の税レポート作成の一環として、一時差異の勘定科目を追加して構成します。一時差異とは、資産と負債の税および財務レポート基準間の差異のうち、翌年度以降に課税対象または控除対象の金額になるすべての差異のことです。

一般的な期間的差異としては、減価償却方法、報酬繰延制度、契約、貸倒などに関連する差異があげられます。

これらの金額は、次のカテゴリの下にある勘定科目ディメンションのメンバーに保管されます。

- TRCS\_TempGSTotal
- TRCS\_TempSTotal

一時差異を国レベルで調整する場合は、レポート標準から法定標準への調整時、あるいは法定標準から税レポート標準への調整時に差異が生じる可能性があることに留意してください。たとえば、レポート標準が IFRS である場合、イギリスの納税申告基準は UK GAAP になります。

いずれの一時差異についても、GAAP と法定に関する親の下にある勘定科目に入力されます。UK GAAP から課税所得に調整する場合は、これらの一時差異は法定と税金に関する親の下に入力されます。

一時差異については、次のチュートリアル・ビデオを参照してください：  
Cloud での一時差異の構成



## 国の一時差異の入力

一時差異フォームは、システムで自動化されない一時差異を入力するために使用されます。金額には、一時差異、課税損失、国または地域の控除、および関連する評価引当金が含まれます。今年度と前年度の調整および非引当金や資本項目などのアクティビティも入力できます。

各一時差異は、貸借対照表の分類目的で非流動として設定されます。一時差異、課税損失および評価引当金調整(非流動や課税損失など)は、税引前ベースで入力されます。税額控除および評価引当金税額控除は、税効果ベースで入力されます。

次の評価引当金勘定科目が提供されます。

- 非流動一時差異
- 課税損失
- 税額控除

すべての評価引当金は、評価引当金を減少させる今年度または他の調整金額を除き、マイナス値である必要があります。

Temporary Differences										
Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency			
Actual	FY16	P12	Total Geography(USD)	Entity Total	United States	Local GAAP	Entity Currency			
				Opening Balance	Opening Balance Adjustment	Prior Year Adjustment - Losses And Credits	Opening Balance As Adjusted	Automated	Automated Reversal	Automated Total
Total Temporary Differences (GAAP to Stat)				6480			6480			
Total Temporary Differences (Stat to Tax)				7200			7200			
Total Temporary Differences				13680			13680			
Total National Tax Losses - Carryforward Automated										
Total National Tax Losses										
Total Tax Credits Carryforward										
Total Tax Attributes										
Total National Temporary Differences, Losses, Credits and Attributes				13680			13680			
Total Valuation Allowance										
Temporary Differences National				13680			13680			

表 12-2 国の一時差異

カテゴリ	説明
期首残高	前年度末の一時差異。この値は自動的に移入されます。

表 12-2 (続き) 国の一時差異

カテゴリ	説明
期首残高調整	この列は、繰延税金資産/(負債)の期首残高が引当金に影響することなく修正される必要がある場合に使用されます。この調整は、繰延税金資産または(負債)の期首残高にのみ影響し、繰延引当金には影響しません。金額は、手動で入力されます。
前年度調整 - 損失および控除	調整の合計は、「現在の引当金」フォームから「一時差異」フォームの対応する課税損失/税額控除勘定科目にコピーされます。このフィールドは読取り専用です。
調整された期首残高	調整後の期首残高が計算されます。
自動	当期引当金で自動化された今年度の帳簿と税務の差異。この金額は、一時差異ロールフォワードに自動的に取得されます。この列の金額は、自動化専用で、繰延税金費用に影響します。
自動逆仕訳	当期引当金で自動化された今年度の帳簿と税務の差異の逆仕訳。この金額は、一時差異勘定科目の資本逆仕訳設定に基づいて自動化されます。この列の金額は、繰延税金費用に影響します。
自動合計	これは、「自動」と調整逆仕訳の合計です。
調整	当期引当金で入力された今年度の帳簿と税務の差異。この金額は、一時差異ロールフォワードに自動的に取得されます。この列の金額は、手動で入力され、繰延税金費用に影響します。
調整逆仕訳	当期引当金で手動入力された今年度の帳簿と税務の差異の逆仕訳。この金額は、一時差異勘定科目の資本逆仕訳設定に基づいて自動化されます。この列の金額は、繰延税金費用に影響します。
調整合計	これは、「調整」と調整逆仕訳の合計です。
CY 合計	これは、自動合計と調整合計の合計です。
申告額の未払処理調整(繰延のみ)	申告額の未払処理調整フォームに基づく一時差異に対する調整。この金額は、申告額の未払処理調整フォームから自動化され、繰延税金費用に影響します。
監査決済(繰延のみ)	監査決済による結果としての一時差異に対する調整。この金額は、一時差異ロールフォワードに手動で入力され、繰延税金費用に影響します。
他の調整 - 自動(繰延のみ)	「課税損失」詳細スケジュールの連結後に、有効期限およびその他の調整の合計が「一時差異」フォームに移動します。
他の調整(繰延のみ)	他のタイプの調整による結果としての一時差異に対する調整。この金額は、一時差異ロールフォワードに手動で入力され、繰延税金費用に影響します。
他の調整合計(繰延のみ)	これは、他の調整 - 自動と他の調整の合計です。
移転(繰延のみ)	資産/負債の移転および関連一時差異による結果としての一時差異に対する調整。この金額は、一時差異ロールフォワードに手動で入力され、繰延税金費用に影響します。

表 12-2 (続き) 国の一時差異

カテゴリ	説明
前年度調整(繰延のみ)	前年度調整による結果としての一時差異に対する調整。この金額は、一時差異ロールフォワードに手動で入力され、繰延税金費用に影響します。
偶発引当金(繰延のみ)	一時差異に関連する税金の偶発引当金による結果としての一時差異に対する調整。この金額は、一時差異ロールフォワードに手動で入力され、繰延税金費用に影響します。
損益計算書合計	これは、次のカテゴリの合計です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>調整</li> <li>申告額の未払処理調整</li> <li>監査決済</li> <li>他の調整</li> <li>異動</li> <li>前年度調整</li> <li>偶発引当金</li> </ul>
取得	資産と負債の取得および関連一時差異による結果としての一時差異に対する調整。金額は、繰延税金費用に影響しません。
処分	資産/負債の処分および関連一時差異による結果としての一時差異に対する調整。この金額は、一時差異ロールフォワードに手動で入力され、繰延税金費用に影響しません。
自動資本	資本トランザクションによる結果としての一時差異に対する調整。この金額は、税金自動化ルールに基づいて自動化され、繰延税金費用に影響しません。
資本調整	資本トランザクションによる結果としての一時差異に対する調整。この金額は、一時差異ロールフォワードに手動で入力され、繰延税金費用に影響しません。
資本合計	これは、自動資本と資本調整の合計です。
前年度資本	資本トランザクションと申告書提出による結果としての一時差異に対する調整。この金額は、勘定科目レベルの資本一時差異設定に基づいて自動化され、繰延税金費用に影響しません。
その他資本	他のすべての資本トランザクションによる結果としての一時差異に対する調整。この金額は、手動で入力され、繰延税金費用には影響しません。
資本合計	これは、「資本合計」、前年度資本およびその他資本の合計です。
貸借対照表合計	取得、処分および資本合計調整の合計。
外国為替期首残高	期首および期末の F/X スポット・レートの差異として計算された一時差異の期首残高の換算変更。
外国為替 - 今年度	外国為替の今年度調整 - 平均および期末の F/X スポット・レートの差異として計算された一時差異の今年度調整の換算変更。
外国為替	これは、外国為替期首残高と外国為替 - 今年度の合計です。

表 12-2 (続き) 国の一時差異

カテゴリ	説明
出資比率	この金額は、出資比率期首残高と今年度の出資比率の合計です。
出資比率 - 期首残高	この金額は、親への出資比率の変更に起因する期首残高の差異です。
出資比率 - 今年度	これは、親への出資比率の変更に起因する期首残高の差異です。
一時差異期末残高	一時差異の期末残高。

## 例: 一時差異の期首残高の入力

次の例を使用して、期首残高と一時差異をシードします。

開始年 FY17、P1 の一時差異をシードするには:

1. FY15 (2015 年)で始まるアプリケーションを作成します。  
一時差異、繰延税金および換算値を正しくシードするには、開始年の前の 2 年間が必要です。この方法を使用すると、開始年の前年(2016 年)の繰延税金費用がありません。
2. FY15、P12 と FY16、P12 の両方に、FY16 の期末税率および FX レートを入力します。

### ノート:

FY15、P12 と FY16、P12 に同じレートを入力します。

3. 保存して、FY15、P12 を連結します。
4. 「税引当(国)」の「一時差異」フォームで、期首残高調整列に、FY16、P12 の一時差異期末残高を入力します。

Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency	Opening Balance	Opening Balance Adjustment	Opening Balance As Adjusted	Automated	Automated Reversal	Automated Total	Adjustment	Adjust Reve		
Actual	FY16	P12	Operations(USD)	Entity Total	United States	Local GAAP	Entity Currency										
Total Temporary Differences (GAAP to Stat)															2000		
Fixed Assets																	
Total PPE								-4576395		-4576395	1271717		1271717		-1457670		
Capitalized Software								-1367070		-1367070						-143200	
Bad Debts								46820		46820	46820		46820				
Misc Accrual								3644		3644	-1075		-1075				
Pension															10000		
Stock Compensation																	
Gain/Loss AFS Securities																	
Total Temporary Differences (Stat to Tax)								-5893001		-5893001	1317463		1317463		-1590870		
Total Temporary Differences								-5893001		-5893001	1317463		1317463		-1588870		
Total National Tax Losses - Carryforward Automated																	
Total National Tax Losses																	
Total Tax Credits Carryforward																	
Total Tax Attributes																	
Total National Temporary Differences, Losses, Credits and Attributes								-5893001		-5893001	1317463		1317463		-1588870		
Total Valuation Allowance																	
Temporary Differences National								-5893001		-5893001	1317463		1317463		-1588870		

5. 保存して、FY16、P12 を連結します。
6. FY16、P12 から FY17、P1 に、税率および FX レートをロールオーバーします。
7. FY17、P1 を連結します。

## 取得の操作: 国

Tax Reporting では、国および地域の両方のレベルの一時差異を使用して税引前基準での取得がすでに使用可能で(一時差異の操作および地域の一時差異の入力を参照)、ユーザーは税効果基準でも取得を入力できるようになりました。税入力のない取得は、今年度の税率を使用する税効果となります。つまり、一時差異勘定科目に取得の税引前データのみを入力した場合は、今年度の税率が適用されます。

取得の繰延税金の影響を管理するには、ユーザーは「取得」および「取得(地域)」フォームを使用して、取得した繰延税金資産/負債の税率変更金額に対する税引前、税効果および利益と損失(P&L)の調整を入力できます。この新機能により、取得した繰延税金資産/負債を取得した税率で記録したり、税率変更を貸借対照表調整として記録できます(該当する場合)。

一時差異の取得増減に取得金額を入力する以前のプロセスは、デフォルトで繰延税金の税効果を継続するか、または税率をオーバーライドします(どちらか該当する方)。

関連項目:

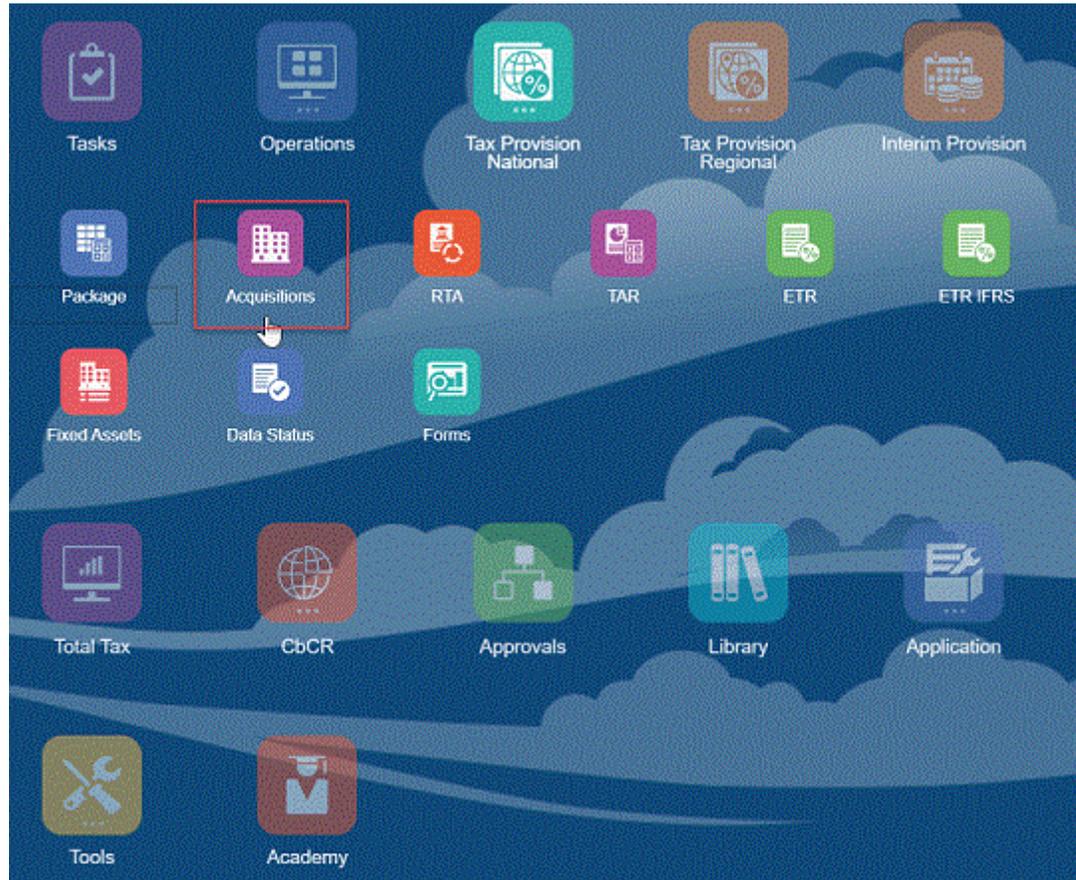
- 「取得」カードへのアクセス
- 取得(国)フォームの使用

## 「取得」カードへのアクセス

ホーム・ページとナビゲータの両方から「取得」カードにアクセスできます。

「取得」カードにアクセスするには:

1. ホーム・ページで、「**税引当(国)**」をクリックします。
2. 「**取得**」カードが表示されます。



3. 「**取得**」カードをクリックして、取得(国)フォームを開きます。

ナビゲータを介して「取得」カードにアクセスするには:

1. ナビゲータ・アイコン



をクリックして、「ナビゲータ」ウィンドウに移動します。

2. 税引当(国)の下の「**取得**」をクリックして、取得(国)フォームを開きます。

## 取得(国)フォームの使用

このフォームを使用して、取得した繰延税金資産/負債の税率変更金額に対する税引前、税効果および利益と損失(P&L)の調整を入力できます。今年度の取得は、「取得」フォームの「一時差異」および「繰延税金」列に入力できます。取得金額の結果であるすべての税率変更は、システムで計算されます。

システム内の税率変更調整は、利益と損失(P&L)費用として記録されます。P&L に影響を与えない税率変更に対して P&L を調整するには、「取得」フォームに変更を入力します。

### シナリオ例

1. ホーム・ページで、「取得」カードをクリックして、取得(国)フォームを開きます。**取得 - 税金入力**および**税率変更の影響 - 取得合計**という新しい 2 つの取得列が表示されます。
2. POV を定義します。「適用」をクリックします。
3. Temp 1 シナリオで、税引前、税金入力および税率変更の列に取得値を入力します。Temp 2 および Temp 3 シナリオにも同様に値を入力するか、または空のままにすることもできます。ユーザーが税引前金額にのみ値を入力し、税金入りに金額を入力しないと、同じ勘定科目は繰延税金に影響を与える税金になりません。その場合、税率変更は、期末残高が期末レートと一致するように計算されます。

### Acquisitions ⓘ

Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency
Actual	FY15	P12	Montreal	Entity Input	Canada	Local GAAP	Entity Currency
				Acquisition	Acquisition	Impact from Change in Tax Rates - Acquisitions Total	
				Pre Tax Input	Tax Input	Tax Input	
Temp 1 - XXXX				10000	5000	2000	
Temp 2 - XXXX							
Temp 3 - XXXX							
FA - Tax Depreciation US/Stat							
GAAP/Stat - LT							
GAAP/Stat - ST							
<input checked="" type="checkbox"/> Total Temporary Differences (GAAP to Stat)				10000	5000	2000	
PPE							
UCC							
MACRS							
<input checked="" type="checkbox"/> Total PPE							

4. 「保存」をクリックして、入力したデータを保存します。フォームの「アクション」で、「連結」を選択してから「起動」をクリックします。
5. 「ナビゲータ」 > 「パッケージ」 > 「一時差異」の順にクリックします。
6. 必要な行と列を展開します。「取得」列にデータがあることを確認できます。



8. 「繰延税金転記 DTNR」 タブをクリックして、同じ値を表示します。

Overview Current Provision Tax Losses Tax Credits Temporary Differences Deferred Tax DTNR **Deferred Tax Post DTNR** Tax Rates FX Rates

**Deferred Tax Post DTNR**

Scenario Actual	Years FY15	Period P12	Entity Montreal(CAD)	Consolidation Entity Input	Jurisdiction Canada	Multi-GAAP Local GAAP	Currency Entity Currency							
								Impact from Change in Tax Rates - Acquisitions Total	Impact from change in Tax Rates	Net Benefit of Region	DTNR Current Year P&L Total	Total Deferred Tax Expense	Acquisition	Adjustment for change in Tax Rates - Acquisition
								Tax	Tax	Tax	Tax	Tax	Tax	Tax
								Temp 1 - XXXX	2000	-985		-985	5000	-2000
								Temp 2 - XXXX						
								Temp 3 - XXXX						
								FA - Tax Depreciation US/Stat						
								GAAP/Stat - LT						
								GAAP/Stat - ST						
								Total Temporary Differences (GAAP to Stat)	2000	-985		-985	5000	-2000
								Total Temporary Differences (Stat to Tax)						
								Total Temporary Differences	2000	-985		-985	5000	-2000
								Total National Tax Losses - Carryforward Automated						
								Total Tax Credits Carryforward						

9. 「ナビゲータ」ウィンドウで、「税引当(国)」の下にある「TAR」をクリックします。次の点に注意してください:

- 取得の税率変更の影響は繰延費用として表示される必要があり、繰延税金資産または繰延税金負債として逆仕訳されます。
- 取得および取得の税率変更の調整は、繰延税金資産または繰延税金負債として開始し、取得合計列で逆仕訳される必要があります。

TAR Current Tax Payable

**TAR**

Scenario Actual	Years FY15	Period P12	Entity Montreal(CAD)	Consolidation Entity Input	Jurisdiction Canada	Multi-GAAP Local GAAP	Currency Entity Currency								
								Current Expense	Deferred Expense	Total Provision	Non-current Assets	Non-current Liabilities	Non-current Valuation Allowance	Total Deferred Tax	Income Tax Payable
								Contingency (Deferred Only)							
								Impact from change in Tax Rates - Opening Balance Total							
								Impact from change in Tax Rates - Current Year Total	2985	2985	-2985			-2985	
								Impact from change in Tax Rates - Acquisitions Total	-2000	-2000	2000			2000	
								Impact from change in Tax Rates	985	985	-985			-985	
								Net Benefit of Region	-333	-333	333			333	
								DTNR Current Year P&L Total							
								Total Current and Deferred Provision	5	653	658	-653		-653	-5
								Acquisition				5000		5000	
								Adjustment for change in Tax Rates - Acquisition				-2000		-2000	
								Disposals							
								Total Equity Adjustments							
								Non Provision - NBR				-368		-368	
								DTNR Current Year Non-P&L							

TAR Current Tax Payable

**TAR**

Scenario Actual	Years FY15	Period P12	Entity Montreal(CAD)	Consolidation Entity Input	Jurisdiction Canada	Multi-GAAP Local GAAP	Currency Entity Currency											
								Non-current Assets	Non-current Liabilities	Non-current Valuation Allowance	Total Deferred Tax	Income Tax Payable	Income Tax Receivable	Long-term Payable	Net (Payable)/Receiv	Acquisitions Total	Disposals Total	Balance Sheet Total
								Impact from change in Tax Rates	-985		-985							
								Net Benefit of Region	333		333							
								DTNR Current Year P&L Total										
								Total Current and Deferred Provision	-653		-653	-5			-5			
								Acquisition	5000		5000					-5000		-5000
								Adjustment for change in Tax Rates - Acquisition	-2000		-2000					2000		2000
								Disposals										
								Total Equity Adjustments										
								Non Provision - NBR	-368		-368							
								DTNR Current Year Non P&L Total										
								Total Non-Provision	2633		2633					-3000		-3000
								Total Manual Adjustments										
								Asset / Liability Automated Reclassification										

10. 「ナビゲータ」ウィンドウで、「ETR」 > 「税引当(国)」の下にある「国の ETR」をクリックします。
  - a. 繰延税金費用合計行を展開します。
  - b. 税率変更合計行を展開して、税率変更 - 取得のデータを確認します。

Overview		Consolidated ETR		National ETR			
Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency
Actual	FY15	P12	Montreal(CAD)	Entity Input	Canada	Local GAAP	Entity Currency
			Pre Tax	Tax	Statutory ETR Percentage		
<b>Statutory ETR</b>							
<b>Audit Settlement Adjustment</b>							
Other Adjustments (Deferred Only)							
Transfers (Deferred Only)							
Prior Year Adjustment (Deferred Only)							
Contingency (Deferred Only)							
Rate Change - Open							
Rate Change - CY							
Rate Change - Acquisitions							
<b>Rate Change - Total</b>							
Deferred Tax Override Rate Adjustment							
DTNR Current Year P&L							
<b>DTNR Current Year Total P&amp;L</b>							
<b>Deferred Tax Expense Total</b>							
Additional Total Provision							
Statutory ETR							

11. 同様に、「**連結 ETR**」タブをクリックして、**税率変更 - 取得**のデータを確認します。

Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency
Actual	FY15	P12	Montreal(CAD)	Entity Input	Canada	Local GAAP	Entity Currency
			Pre Tax	Tax Effect	Consolidated ETR Percentage		
Transfers (Deferred Only)							
Prior Year Adjustment (Deferred Only)							
Contingency (Deferred Only)							
Rate Change - Open							
Rate Change - CY			2985	2985	19900%		
Rate Change - Acquisitions			-2000	-2000	-13333.33%		
Rate Change - Total			985	985	6566.67%		
Deferred Tax Override Rate Adjustment							
DTNR Current Year P&L							
DTNR Current Year Total P&L							
Deferred Tax Expense Total			985	985	6566.67%		
Additional Total Provision CETR			984	984	6556.67%		
Consolidated ETR				991	6604.48%		

関連項目:

- [国の繰延税金の操作](#)
- [税金勘定ロールフォワード\(TAR\)の操作](#)
- [法定および連結有効税率の操作](#)
- [IFRS の繰延税金転記 DTNR の操作](#)

## 国の繰延税金の操作

繰延税金フォームは、繰延税金の計算を表示するために使用します。

Tax Reporting では、資産および負債に対する繰延税金が計算されます。この計算では、資産および負債の帳簿基準と税務基準を入力する必要があります。Tax Reporting では、帳簿基準と税務基準間の差異が計算され、繰延税金資産および負債の金額を決定するための税率が適用されます。

表 12-3 繰延税金の例

例: 物件、工場、設備	
帳簿基準	1,000,000
税務基準	900,000
差異	(100,000)
税率	20%
繰延税金負債	(20,000)

 ノート:

税務用の加速減価償却のため、繰延税金負債の増加を考慮して、税務基準は帳簿基準よりも少なくなります。

繰延税金の設定を分類する場合、[繰延税金資産および負債の分類](#)を参照してください。

繰延税金(国)フォームにアクセスするには:

1. ホーム・ページで、「**税引当(国)**」をクリックします。
2. 「**パッケージ**」をクリックし、「**繰延税金**」を選択します。
3. 列および行見出しを展開して 、すべてのカテゴリを表示します。

 ノート:

一部のカテゴリ内で次の頭字語が使用されます。

- DTNR - 未認識繰延税金(Deferred Tax Not Recognized)
- NBR - 地域の純利益(Net Benefit of Region)。米国の管轄では、この接頭辞は連邦税から控除できる州税を示します。

**Deferred Tax** ⓘ

Scenario Actual	Years FY15	Period P12	Entity Montreal(CAD)	Consolidation Entity Input	Jurisdiction Canada	Multi-GAAP Local GAAP	Currency Entity Currency									
								Impact from change in Tax Rates - Current Year Total	Impact from Change in Tax Rates - Acquisitions Total	Impact from change in Tax Rates	Net Benefit of Region	Total Deferred Tax Expense	Acquisition	Adjustment for change in Tax Rates - Acquisition	Dis	
								Tax	Tax	Tax	Tax	Tax	Tax	Tax	Tax	
Temp 1 - XXXX								400	5000	5400	-875	5775	100	-5000		
Temp 2 - XXXX											-7500	7500				
Temp 3 - XXXX											-1636	1636				
FA - Tax Depreciation US/Stat											-500	500				
GAAP/Stat - LT											-250	250				
GAAP/Stat - ST																
Total Temporary Differences (GAAP to Stat)								400	5000	5400	-10761	15661	100	-5000		
Total Temporary Differences (Stat to Tax)											-5575	5575				
Total Temporary Differences								400	5000	5400	-16336	21236	100	-5000		
Total National Tax Losses - Carryforward Automated																
Total Tax Credits Carryforward																
Total Tax Attributes																
Total National Temporary Differences, Losses, Credits and Attributes								400	5000	5400	-16336	21236	100	-5000		
Total Valuation Allowance																
Deferred Tax National								400	5000	5400	-16336	21236	100	-5000		
Total Regional Temporary Differences											-125	-125				
Total Regional Tax Losses - Carryforward - Pre- Apportionment																
Total Regional Tax Losses - Carryforward Automated											-250	-250				

行見出しの説明を確認するには、[国の繰延税金の行見出し](#)を参照してください

フォームには、列全体に次の見出しが含まれます。

表 12-4 国の繰延税金の列見出し

カテゴリ	サブカテゴリ	説明とサブカテゴリ
調整された期首残高		州税の連邦利益、未認識繰延税金および前年度調整の期首残高の税効果を含む前年度末一時差異の税効果。
	<b>純前年度調整</b>	前年度調整と前年度調整 - NBR の合計。
	前年度調整 - 損失および控除	調整の合計は、「現在の引当金」フォームから「一時差異」フォームの対応する課税損失/税額控除勘定科目にコピーされます。このフィールドは読み取り専用です。
	前年度調整 - NBR	地域の法人税(米国の州法人税など)が連邦税に対して控除可能である場合の、前年度調整における地域の純利益繰延税金。
	期首残高調整	合計期首残高と純前年度調整の合計。
	<b>純期首残高</b>	合計期首残高と期首残高 - NBR の合計
	期首残高 - NBR	地域の法人税(米国の州法人税など)が連邦税に対して控除可能である場合の、期首残高における地域の純利益(NBR)繰延税金。
	期首残高	前年度末一時差異の税効果。
今年度合計		「自動」と「調整」の合計
	自動合計	
	調整合計	
申告額の未払処理調整(繰延のみ)		申告額の未払処理調整フォームに基づく一時差異に対する調整の税効果。
監査決済(繰延のみ)		監査決済による結果としての一時差異に対する調整の税効果。
他の調整合計(繰延のみ)		他のタイプの調整による結果としての一時差異に対する調整の税効果。
	他の調整(繰延のみ)	他のタイプの調整による結果としての一時差異に対する調整の税効果。
	他の自動調整(繰延のみ)	税引当で自動化されている他のタイプの調整による結果としての一時差異に対する調整の税効果。
移転(繰延のみ)		資産/負債の移転および関連一時差異による結果としての一時差異に対する調整の税効果。
前年度調整(繰延のみ)		前年度調整による結果としての一時差異に対する調整の税効果。

表 12-4 (続き) 国の繰延税金の列見出し

カテゴリ	サブカテゴリ	説明とサブカテゴリ
偶発引当金(繰延のみ)		一時差異に関連する税金の偶発引当金による結果としての一時差異に対する調整の税効果。
税率変更の影響		<p>期首残高および今年度の変動に対する税率変更の影響。</p> <p><b>「シナリオ - 株主資本に対するエンティティの税率変更」</b>機能を有効にする場合は、アプリケーション上のすべてのシナリオ・メンバーのためのカスタム属性がシステムによって作成されます。そのカスタム属性をエンティティに適用すると、すべての一時差異勘定科目について、税率データの変化の影響は<b>資本における税率変更の影響</b>列に移動します。</p> <p>関連項目: <a href="#">Tax Reporting の管理のアプリケーションの機能の有効化およびエンティティの課税属性の定義</a></p>
	税率変更の影響 - 今年度合計	今年度アクティビティに関連する税率変更の税効果。
	税率変更の影響 - 取得合計	
	税率変更の影響 - NBR	<p><b>計算:</b></p> <p><b>NBR レート変更現行残高 (TRCS_NBRCCY):</b></p> <p>期末残高= 0 の場合は 0</p> <p>期末残高&lt;&gt; 0 の場合は</p> <p>繰延税金地域全体、今年度のすべての変動</p> <p><math>(TRCS\_Mvmts\_Subtotal) * (年度末税率 - (TRCS\_TaxRateNoncurrentClosing) - 今年度税率 + (TRCS\_TaxRateCY) * -1)</math></p>
	税率変更の影響 - RCCY	<p><b>計算:</b></p> <p><b>税率変更現行残高 (TRCS_RCCY):</b></p> <p>期末残高= 0 の場合は 0</p> <p>期末残高&lt;&gt; 0 の場合は</p> <p>一時差異、今年度のすべての変動</p> <p><math>(TRCS\_Mvmts\_Subtotal) * (年度末税率 - (TRCS\_TaxRateNoncurrentClosing) - 今年度税率 + (TRCS\_TaxRateCY))</math></p>
	税率変更の影響 - 期首残高合計	期首残高合計に関連する税率変更の税効果。

表 12-4 (続き) 国の繰延税金の列見出し

カテゴリ	サブカテゴリ	説明とサブカテゴリ
	税率変更の影響 - 期首残高 NBR	<p><b>計算:</b></p> <p><b>NBR レート変更期首残高 (TRCS_NBRRCOpening):</b></p> <p>期末残高 = 0 の場合 繰延税金-地域全体、調整された期首残高 (FCCS_TotalOpeningBalance) *(今年度税率(TRCS_TaxRateCY) - 期首税率(TRCS_TaxRatePY)) * -1</p> <p>期末残高 &lt;&gt; 0 の場合は 繰延税金-地域全体、調整された期首残高 (FCCS_TotalOpeningBalance) *(年度末税率 (TRCS_TaxRateNoncurrentClosing) - 期首税率 (TRCS_TaxRatePY)) * -1</p>
	税率変更の影響 - 期首残高	<p><b>計算:</b></p> <p><b>税率変更期首残高 (TRCS_RCOpening):</b></p> <p>期末残高 = 0 の場合 一時差異、調整された期首残高 (FCCS_TotalOpeningBalance) *(今年度税率(TRCS_TaxRateCY) - 期首税率(TRCS_TaxRatePY))</p> <p>期末残高 &lt;&gt; 0 の場合は 一時差異、調整された期首残高 (FCCS_TotalOpeningBalance) *(年度末税率 (TRCS_TaxRateNoncurrentClosing) - 期首税率 (TRCS_TaxRatePY))</p>
<b>地域の純利益</b>		今年度アクティビティに関連する地域の純利益繰延税金費用の税効果。
<b>合計繰延税金費用</b>		すべての繰延税金費用の合計。
<b>取得</b>		資産と負債の取得および関連一時差異による結果としての一時差異に対する調整の税効果。
<b>税率変更の調整 - 取得</b>		
<b>処分</b>		資産/負債の処分および関連一時差異による結果としての一時差異に対する調整の税効果。
<b>資本合計</b>	資本調整合計	資本トランザクションによる結果としての一時差異に対する調整の税効果。
	自動資本合計	資本トランザクションによる結果としての一時差異に対する調整の税効果。

表 12-4 (続き) 国の繰延税金の列見出し

カテゴリ	サブカテゴリ	説明とサブカテゴリ
前年度資本		資本トランザクションと申告書提出による結果としての一時差異に対する調整の税効果。
その他資本		他のすべての資本トランザクションによる結果としての一時差異に対する調整。この金額は、手動で入力され、繰延税金費用には影響しません。
資本における税率変更の影響	資本における税率変更の影響 - 今年度合計	<p><b>計算:</b>  <b>税率変更現行残高(TRCS_RCCY):</b>            期末残高 = 0 の場合は 0            期末残高 &lt;&gt; 0 の場合は            一時差異、今年度のすべての変動 (TRCS_Mvmts_Subtotal) * (年度末税率 (TRCS_TaxRateNoncurrentClosing) - 今年度税率 (TRCS_TaxRateCY))</p>
	資本における税率変更の影響 - 期首残高合計	<p><b>計算:</b>  <b>税率変更期首残高 (TRCS_RCOpening):</b>            期末残高 = 0 の場合            一時差異、調整された期首残高 (FCCS_TotalOpeningBalance) * (今年度税率 (TRCS_TaxRateCY) - 期首税率 (TRCS_TaxRatePY))            期末残高 &lt;&gt; 0 の場合は            一時差異、調整された期首残高 (FCCS_TotalOpeningBalance) * (年度末税率 (TRCS_TaxRateNoncurrentClosing) - 期首税率 (TRCS_TaxRatePY))</p>
合計資本調整		「自動」と資本調整の合計。
非引当金 - NBR		州税の連邦利益調整から導出される貸借対照表調整の税効果。
貸借対照表合計		
外国為替	外国為替 - 期首残高	期首残高における合計通貨換算。 <b>計算:</b> エンティティ 通貨データ * (期末 FX レート - 期首 FX レート)
	外国為替 - 今年度	今年度の変動における合計通貨換算。 <b>計算:</b> エンティティ 通貨データ * (期末 FX レート - 平均 FX レート)
出資比率	出資比率`	この金額は、出資比率期首残高と今年度の出資比率の合計です。

表 12-4 (続き) 国の繰延税金の列見出し

カテゴリ	サブカテゴリ	説明とサブカテゴリ
	出資比率 - 期首残高	この金額は、親への出資比率の変更に起因する期首残高の差異です。
	出資比率 - 今年度	この値は、現行税額の出資比率を表します。
<b>期末残高 - 税金</b>		期首残高と当期変動の税効果の合計。
<b>期末残高 - 非流動資産</b>		合計純繰延税金資産と繰延税金負債の税効果の分類。合計税効果がプラスまたは資産の場合、すべての繰延税金資産および負債は資産に分類されます。
<b>期末残高 - 非流動負債</b>		合計純繰延税金資産と繰延税金負債の税効果の分類。合計税効果がマイナスまたは負債の場合、すべての繰延税金資産および負債は負債に分類されます。

## 国の繰延税金の行見出し

国の繰延税金フォームに表示される行の下には、次のエントリがリストされます。

表 12-5 国の繰延税金の行見出し

カテゴリ	サブカテゴリ	説明とサブカテゴリ
<b>合計一時差異(GAAP と法定)</b>		実装時にユーザー定義。
<b>合計一時差異(法定と税金)</b>		実装時にユーザー定義。
合計一時差異		
国の課税損失合計		繰り延べられる課税損失に使用されます。これらはシステム定義で、「現在の年」および繰越という 2 つの勘定科目が提供されます。
	国の課税損失合計 - 自動繰越	
<b>合計税額控除繰越</b>		繰り延べられる税額控除で 사용되는システム提供の基本勘定科目の親。
	税額控除	
	一般事業税額控除	
	雇用税額控除	
<b>合計課税属性</b>		実装時にユーザー定義。金額は、一般的に、税効果ベースで一時差異ロールフォワードに入力され、繰延税金に対する調整とみなされます。
	繰延税金偶発引当金	
	国の課税属性 2	

表 12-5 (続き) 国の繰延税金の行見出し

カテゴリ	サブカテゴリ	説明とサブカテゴリ
国の一時差異、損失、控除および属性の合計		
<b>評価引当金合計</b>		このカテゴリは、必要に応じて資産に対する評価引当金を記録するために使用されます。非流動、控除、課税損失という 3 つの勘定科目が提供されます。 控除は、税効果ベースで入力されますが、他の勘定科目に入力される金額は、税引前ベースで入力されます。 フォームでは、次の繰延税金資産および負債の分類も提供されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 期末 - 流動負債</li> <li>• 期末 - 非流動資産</li> <li>• 期末 - 非流動負債</li> </ul>
	評価引当金 - 非流動	
	評価引当金 - 課税損失	
繰延税金(国)		
地域の一時差異合計		
<b>地域の課税損失合計</b>		このカテゴリは、繰り延べられる地域の課税損失に使用されます。これらはシステム定義で、「現在の年」および繰越という 2 つの勘定科目が提供されます。繰越は課税損失フォームにリンクされています。
	<b>地域の課税損失合計配賦前</b>	
	地域の課税損失合計 - 自動繰越	
	<b>地域の課税損失合計配賦前</b>	
	地域の課税損失合計 - 配賦前繰越	
<b>地域の税額控除合計 - 繰越</b>		このカテゴリは、繰り延べられる課税損失に使用されます。これらはシステム定義で、「現在の年」および繰越という 2 つの勘定科目が提供されます。繰越は課税損失フォームにリンクされています。
	州税額控除	
	地域の税額控除 2	
	地域の税額控除 3	
<b>地域の課税属性</b>		このカテゴリは、実装時にユーザー定義されます。金額は、一般的に、税効果ベースで一時差異ロールフォワードに入力され、繰延税金に対する調整とみなされます。
	地域の課税属性 1	

表 12-5 (続き) 国の繰延税金の行見出し

カテゴリ	サブカテゴリ	説明とサブカテゴリ
	地域の課税属性 2	
<b>地域の評価引当金</b>		
	地域の評価引当金 - 控除	
	地域の評価引当金 - 非流動	
	地域の評価引当金 - 課税損失	
地域の繰延税金合計		
合計繰延税金 - 国		
合計繰延税金(国) - 評価引当金以外		

## 繰延税金資産および負債の分類

デフォルトでは、繰延税金により、合計繰延税金の金額(TRCS\_NDefTaxNetVA)に基づいて一時差異勘定科目が分類されます。

- 合計繰延税金がプラス(ゼロ以上)の場合、すべての一時差異勘定科目は非流動資産に分類されます。
- 合計繰延税金の金額がマイナス(ゼロ未満)の場合、各一時差異勘定科目は、非流動負債に分類されます。

追加の柔軟性が必要な場合、**分類**属性を使用して、国と地域両方の勘定科目の分類方法を定義できます。

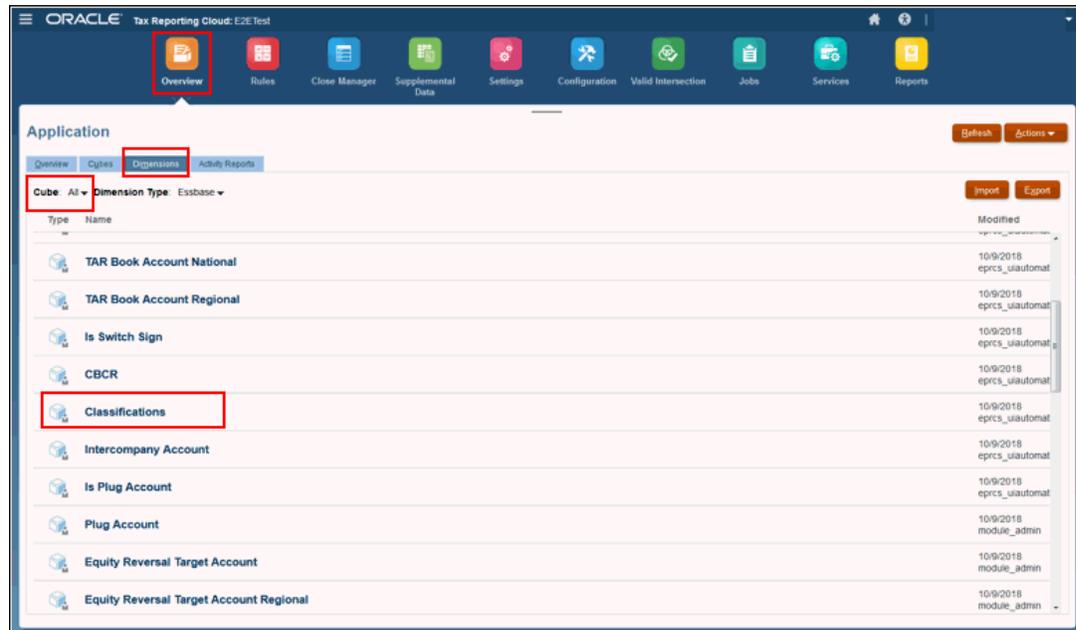
次の即時利用可能なシステム・メンバーが存在します。

- **TRCS\_Classify\_ATACCOUNT**: レベル 0 の一時差異勘定科目に割り当てられた場合、その期末残高の値に基づいて分類されます。
- **TRCS\_Classify\_ASSET**: レベル 0 の一時差異勘定科目に割り当てられた場合、その期末残高は無視されて常に非流動資産に分類されます。
- **TRCS\_Classify\_LIABILITY**: レベル 0 の一時差異勘定科目に割り当てられた場合、その期末残高は無視されて常に非流動負債に分類されます。

前述の即時利用可能な分類属性メンバー(「固定資産合計」など)に加え、追加のカスタム属性メンバーを作成できます。カスタム属性が複数のレベル 0 の一時差異勘定科目に割り当てられると、それらの勘定科目の合計期末残高によって、カスタム属性が割り当てられたすべての勘定科目の分類が決定されます。

繰延税金資産および負債を分類するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」、「**概要**」、「**ディメンション**」の順にクリックします。
2. 「**キューブ**」で、「**すべて**」を選択します。これにより、「ディメンション」タブに分類が表示されます。
3. 「**名前**」で、**分類**を選択します。



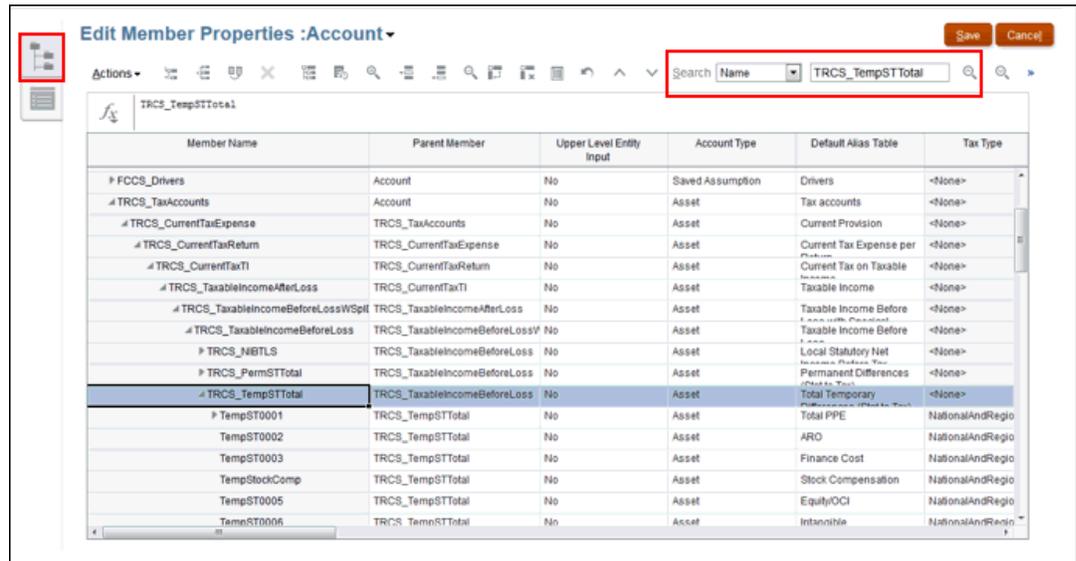
4. 「メンバー・プロパティの編集: 分類(勘定科目)」で、即時利用可能な分類属性メンバーを表示します。
- **TRCS\_Classify\_ATACCOUNT**: レベル 0 の一時差異勘定科目に割り当てられた場合、その期末残高の値に基づいて分類されます。
  - **TRCS\_Classify\_ASSET**: レベル 0 の一時差異勘定科目に割り当てられた場合、その期末残高は無視されて常に非流動資産に分類されます。
  - **TRCS\_Classify LIABILITY**: レベル 0 の一時差異勘定科目に割り当てられた場合、その期末残高は無視されて常に非流動負債に分類されます。

The screenshot shows the 'Edit Member Properties :Classifications (Account)' dialog box. It contains a table with the following data:

Member Name	Parent Member	Default Alias Table
Classifications		
TRCS_CLASSIFY_ATACCOUNT	Classifications	Classify at Account
TRCS_CLASSIFY_ASSET	Classifications	Classify Asset
TRCS_CLASSIFY LIABILITY	Classifications	Classify Liability
Fixed Assets Classified	Classifications	Fixed Assets

5. カスタム分類グループ名を作成するには、次のステップを実行します。
- 「メンバー・プロパティの編集: 分類(勘定科目)」で、「子の追加」アイコン  をクリックします。
  - 「子の追加」ダイアログ・ボックスで、追加するメンバー数を入力し、「適用」をクリックします。親メンバーが**分類**として表示されます。

- c. カスタム分類グループの「メンバー名」を入力し、「保存」をクリックします。
- d. オプション: 「別名表」の名前を入力します。
6. 「アプリケーション」 ページで、「ディメンション」をクリックし、「勘定科目」をクリックします。
7. 「メンバー・プロパティの編集: 勘定科目」画面で、「メンバー名」に移動し、必要に応じて各列からオプションを選択して分類グループを構成します。



8. 分類列までスクロールし、メンバーを関連付けるレベル 0 の一時差異勘定科目(デフォルトまたはカスタム)を選択します。
9. 分類列で、適切な分類グループ名を選択し、それを勘定科目に割り当てます。
10. 「保存」をクリックします。
11. 分類グループが割り当てられたら、「アクション」で「データベースのリフレッシュ」を選択します。
12. ホーム・ページで、必要に応じて「税引当(国)」または「税引当(地域)」を選択します。
13. 「アクション」で、「連結」を選択します。
14. ホーム・ページで、必要に応じて「税引当(国)」または「税引当(地域)」を選択し、「パッケージ」、「一時差異」レポートの順に選択します。
15. 合計一時差異勘定科目を強調表示し、レポートの一番右側の一時差異期末残高列までスクロールして、期末残高を確認します。
16. 「パッケージ」タブで「繰延税金」レポートを選択し、構成に基づいた繰延税金資産と繰延税金負債の分類が正しいことを確認します。
17. ホーム・ページで「TAR」(税金勘定科目ロールフォワード・レポート)をクリックし、合計繰延税金で、構成に基づいた繰延税金資産と繰延税金負債の分類が正しいことを確認します。

## ユース・ケース例: 繰延税金資産から繰延税金負債への再分類

繰延税金ロールフォワードの繰延税金資産/繰延税金負債(DTA/DTL)の分類は構成可能です。税金勘定科目ロールフォワード(TAR)には、繰延税金ロールフォワードの分類が反映されます(関

連項目: **税金勘定ロールフォワード(TAR)の操作**。たとえば、勘定科目レベルに基づいて分類を構成し、期首と期末でこれが DTA から DTL に変更された場合、自動再分類を使用すると、TAR の再分類によって自動的に期首残高が DTL に再分類されます。

例:

<b>Deferred Tax RollForward:</b>		
	Closing 12.20XX	Closing 12.20x1
Depreciation	100	-100
<b>TAR</b>	<b>DTA</b>	<b>DTL</b>
Opening Balance 12.20XX	100	
CY Movement		-200
(Note that the application posts the current movement to the correct TAR account based on the End of Year Classification)		
Auto Reclass	-100	100
Ending Balance 12.20X1	0	-100

DTA/DTL 分類の設定方法の詳細は、[繰延税金資産および負債の分類](#)を参照してください

## IFRS の未認識繰延税金(DTNR)の操作

IFRS レポート標準についてのみ、Tax Reporting では、未認識繰延税金の金額を税効果ベースで損益計算書金額または非損益計算書金額として入力できるようになっています。すべての値を負の値として入力する必要があります。

「未認識繰延税金」フォームには、繰延税金の認識前の税額および調整済金額のロールフォワードが表示されます。金額は、個々の一時差異勘定科目ごとに入力できます。未認識繰延税金のロールフォワードの影響は、「繰延税金転記 DTNR」フォームで確認できます。[IFRS の繰延税金転記 DTNR の操作](#)を参照してください

このオプションは地域の税金には適用されません。

これらの計算は次のフォームにも影響します。

- 「ETR」の連結 ETR および国の(法定) ETR のスケジュールでは、繰延税金費用合計の下に DTNR 今年度損益計算書合計が含まれており、税金の認識から外れる部分の合計が控除済として表示されます。
- 「TAR」のスケジュールには、認識から外れる金額を示す未認識繰延税金損益計算書および非損益計算書の行が含まれています。

列見出し  を展開すると、すべてのカテゴリが表示されます。

フォームには、列全体に次の見出しが含まれます。

表 12-6 国の DTNR の列見出し

カテゴリ	サブカテゴリ	説明とサブカテゴリ
期末残高		州税の連邦利益、未認識繰延税金および前年度調整の期首残高の税効果を含む前年度末一時差異の税効果。

表 12-6 (続き) 国の DTNR の列見出し

カテゴリ	サブカテゴリ	説明とサブカテゴリ
期首残高 - DTNR		期首残高の未認識繰延税金 (DTNR)。
DTNR 今年度損益計算書合計		今年度の損益計算書合計の未認識繰延税金 (DTNR)。
	DTNR 今年度損益計算書	
	DTNR 今年度使用済損益計算書	今年度の損益計算書に使用されている未認識繰延税金 (DTNR)。
DTNR 今年度非損益計算書合計		
	DTNR 今年度非損益計算書	
	DTNR 今年度使用済非損益計算書	
外国為替 - DTNR		未認識繰延税金 (DTNR) 残高に対する外国為替。
	外国為替 - 期首残高 DTNR	未認識繰延税金 (DTNR) 期首残高に対する外国為替。
	外国為替 - 今年度 DTNR	今年度の未認識繰延税金 (DTNR) 残高に対する外国為替。
出資比率		
	出資比率 - 期首残高	この値は、未認識繰延税金 (DTNR) 期首残高に対する出資比率です。
	出資比率 - 今年度	この値は、今年度の未認識繰延税金 (DTNR) に対する出資比率です。
	出資比率 - 変動出資比率	未認識繰延税金 (DTNR) 期首残高に対する出資比率。
期末残高 DTNR		未認識繰延税金 (DTNR) の期末残高。この値は常に負の値になりません。
DTNR を含む期末残高		未認識繰延税金 (DTNR) およびすべての調整を含む期末残高。

## IFRS の繰延税金転記 DTNR の操作

IFRS レポート標準についてのみ、「繰延税金転記 DTNR」フォームに繰延税金の金額、詳細および変動が表示されます。繰延税金ロールフォワードは、DTNR との連結ベースで表示されます。

列見出し  を展開すると、すべてのカテゴリが表示されます。

「繰延税金転記 DTNR」フォームにアクセスするには:

1. ホーム・ページで、「**税引当(国)**」、「**パッケージ**」、「**繰延税金転記 DTNR**」の順にクリックします。
2. 繰延税金転記 DTNR の詳細を入力します。

Deferred Tax Post DTNR										
Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency			
Actual	FY15	P12	Montreal(CAD)	Entity Input	Canada	Local GAAP	Entity Currency			
		Opening Balance As Adjusted	Current Year Total	Return to Accrual (Deferred Only)	Audit Settlements (Deferred Only)	Other Adjustments Total (Deferred Only)	Transfers (Deferred Only)	Prior Year Adjustment (Deferred Only)	Contingency (Deferred Only)	Impact from change in Tax Rates
		Tax	Tax	Tax	Tax	Tax	Tax	Tax	Tax	Tax
Total Temporary Differences (GAAP to Stat)										-985
Total Temporary Differences (Stat to Tax)										-985
Total Temporary Differences										-985
Total National Tax Losses - Carryforward Automated										
Total Tax Credits Carryforward										
Total Tax Attributes										
Total National Temporary Differences, Losses, Credits and Attributes										-985
Total Valuation Allowance										
Deferred Tax National										-985
Total Regional Temporary Differences										
Total Regional Tax Losses - Carryforward - Pre-Apportionment										
Total Regional Tax Losses - Carryforward Automated										
Total Regional Tax Losses										
Total Regional Tax Credits - Carryforward										
Total Regional Tax Attributes										
Total Regional Valuation Allowance										
Deferred Tax Regional										
Deferred Tax Total										-985
Deferred Tax Total No National VA										-985

フォームには、列全体に次の見出しが含まれます。

表 12-7 国の繰延税金転記 DTNR の列見出し

カテゴリ	サブカテゴリ
<b>調整された期首残高</b>	
州税の連邦利益、未認識繰延税金および前年度調整の期首残高の税効果を含む前年度末一時差異の税効果。	
<b>純期首残高</b>	
期首残高の未認識繰延税金(DTNR)。	期首残高 期首残高 - NBR 期首残高 - DTNR
<b>純前年度調整</b>	
	期首残高調整 前年度調整 - NBR 前年度調整 - 損失および控除
<b>今年度合計</b>	
	自動合計 調整合計
申告額の未払処理調整(繰延のみ)	
監査決済(繰延のみ)	
<b>他の調整合計(繰延のみ)</b>	
	監査決済(繰延のみ) 他の調整 - 自動(繰延のみ) 他の調整(繰延のみ)

表 12-7 (続き) 国の繰延税金転記 DTNR の列見出し

カテゴリ	サブカテゴリ
移転(繰延のみ)	
前年度調整(繰延のみ)	
偶発引当金(繰延のみ)	
<b>税率変更の影響</b>	<b>税率変更の影響 - 今年度合計</b>
	税率変更の影響 RCCY
	税率変更の影響 - NBR
	<b>税率変更の影響 - 期首残高合計</b>
	税率変更の影響 - 期首残高 NBR
	税率変更の影響 - 期首残高
	税率変更の影響 - 取得合計
地域の純利益	
<b>DTNR 今年度損益計算書合計</b>	<b>DTNR 今年度使用済損益計算書</b>
合計繰延税金費用	
取得	
税率変更の調整 - 取得	
処分	
<b>資本合計</b>	<b>自動資本合計</b>
	資本調整合計
前年度資本	
その他資本	
<b>資本における税率変更の影響</b>	<b>資本における税率変更の影響 - 期首残高合計</b>
	資本における税率変更の影響 - 今年度合計
合計資本調整	
非引当金 - NBR	
<b>DTNR 今年度非損益計算書合計</b>	<b>DTNR 今年度使用済非損益計算書</b>
	DTNR 今年度非損益計算書
合計貸借対照表変動	
<b>外国為替からの合計効果</b>	<b>外国為替 - 期首残高合計</b>
	外国為替 - 今年度合計
期末残高(税金)	
期末残高(非流動資産)	
期末残高(非流動負債)	

 ノート:

データ・ソース「税金入力」メンバー(TRCS\_Tax\_Input)は、税効果基準の未認識繰延税金(DTNR)の金額を DTNR 損益計算書金額または DTNR 非損益計算書金額としてサポートするよう設計されています。

DTNR 増減以外の増減(つまり、その他の調整の TRCS\_OtherSys)を使用した税効果データの調整に、このメンバーを使用しないでください。

## Tax Reporting での貸借対照表および損益計算書(P&L)方式の操作

Tax Reporting では、会社の財務諸表にレポートされている資産および負債の帳簿基準と税務基準の間の差異に対して、損益計算書方式と貸借対照表方式の両方がサポートされています。損益計算書および貸借対照表方式は、同じエンティティに対して別個にまたは一緒に使用できます。

 Note:

提供される貸借対照表方式機能を追加設定なしで使用するには、IFRS を有効にしておく必要があります。Tax Reporting の管理のアプリケーションの機能の有効化を参照してください

## レポートの基礎および方式の要約

### IFRS – IAS 12

- 規定の包括的貸借対照表方式
- 資産および負債の帳簿基準と税務基準の間の差異が、将来の税金資産および負債を生む
- 通常、引当時に実行される
- 結果的に、一時差異の税引前期末残高になる
- 通常、申告送信時に再検証される
- Tax Reporting では圧縮およびプル・ルールが使用される

### US GAAP – ASC 740

- 通常、損益計算書方式に従う
- 申告送信時に税務基準貸借対照表の準備によって補足される
- 税の影響を受ける貸借対照表資産および負債の前年度末を超える期間の終わりの変更は、課税所得決定時に今年度の増減調整として記録される
- Tax Reporting では増減ルールが使用される

## 固定資産に対する貸借対照表方式の操作

貸借対照表方式では、引当および申告書提出時に、資産および負債の帳簿基準と税務基準の比較が必要です。次の例の帳簿と税務基準の対比フォーム(図 1 と 2)は、すべての資産および負債に対して構成するか、または帳簿基準と負債基準の間に差異がある資産および負債のみに対し

て構成できます(貸倒合計、課税損失の繰越合計など)。Web フォームは、期首残高、今年度の増減および期末残高の突合せを可能にする連続フォーマットになっています。

図 1: 貸倒合計勘定科目 - TRCS\_BVTAccounts 貸倒合計

Assets / Liabilities		Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency					
Total Bad Debts		Actual	FY21	PI2	Vision Thailand(THB)	Entity Input	Thailand	Local GAAP	Entity Currency					
				Opening Balance	Opening Balance Adjustment	Opening Remapped	Current Year	Prior Year	Acquisitions	Disposals	Change in Group Structure	Other	Foreign Exchange	Closing Book vs Tax Basis
Book Basis	Bad Debts			(143,476)		(143,476)	93,476					10,000		(40,000)
	Total Bad Debts			(143,476)		(143,476)	93,476					10,000		(40,000)
Tax Basis	Bad Debts													
	Total Bad Debts													
IRE	Bad Debts													
	Total Bad Debts													
Net	Bad Debts			143,476		143,476	(93,476)					(10,000)		40,000
	Total Bad Debts			143,476		143,476	(93,476)					(10,000)		40,000

図 2: 課税損失の繰越合計 - TRCS\_BVTAccounts 損失の繰越合計

Assets / Liabilities		Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency					
Total Tax Loss Carryforward		Actual	FY21	PI2	Vision Thailand(THB)	Entity Input	Thailand	Local GAAP	Entity Currency					
				Opening Balance	Opening Balance Adjustment	Opening Remapped	Current Year	Prior Year	Acquisitions	Disposals	Change in Group Structure	Other	Foreign Exchange	Closing Book vs Tax Basis
Book Basis	Tax Loss Carryforward													
	Total Tax Loss Carryforward													
Tax Basis	Tax Loss Carryforward						5,772,048							5,772,048
	Total Tax Loss Carryforward						5,772,048							5,772,048
IRE	Tax Loss Carryforward													
	Total Tax Loss Carryforward													
Net	Tax Loss Carryforward						5,772,048							5,772,048
	Total Tax Loss Carryforward						5,772,048							5,772,048

## 固定資産フォームの操作

「固定資産」フォームでは、IFRS レポート企業の固定資産に対する貸借対照表方式が提供されます。

「固定資産」フォームは、有形固定資産、投資資産、オペレーティング・リースなどの固定資産カテゴリ(BVT)の帳簿(IFRS)と課税価格をロールフォワードします。帳簿データは会計レコードから導出され、税金データは税務アナリストによって決定されます。これらの詳細は、選択した期間に対してエンティティ 別を取得されます。

固定資産データを Tax Reporting にロードし、計算に使用できます。補助勘定科目を Tax Reporting または補足データ・マネージャに追加できます。ロードした後は、税金自動化を使用してデータを自動化するか、補助データからデータをマップできます。Tax Reporting では、貸借対照表アプローチ(つまり、帳簿と税務基準の対比分析)と、帳簿上の減価償却が追加し直されて税務上の減価償却が控除される損益計算書アプローチの両方がサポートされます。

「固定資産」フォームにアクセスする際には、固定資産/負債で使用する BVT (帳簿価額と課税価格の比較)勘定科目を選択します。こうすることにより、無形資産合計などの親を選択できるようになり、下の行にはその子孫のみが表示されるようになります。

「期首残高」には、必ず前年度の期末残高が移入されます。

次の各データ・ソースに値を入力します。

- **帳簿基準**は、US GAAP および IFRS に準拠した資産の帳簿価額と修繕や減価償却などの他の要因の調整に基づく資産の価値です。
- **税務基準**は、管轄の法令に準拠した課税対象となる資産の価値で、減価償却などの税金関連の引当金に対して調整されます。

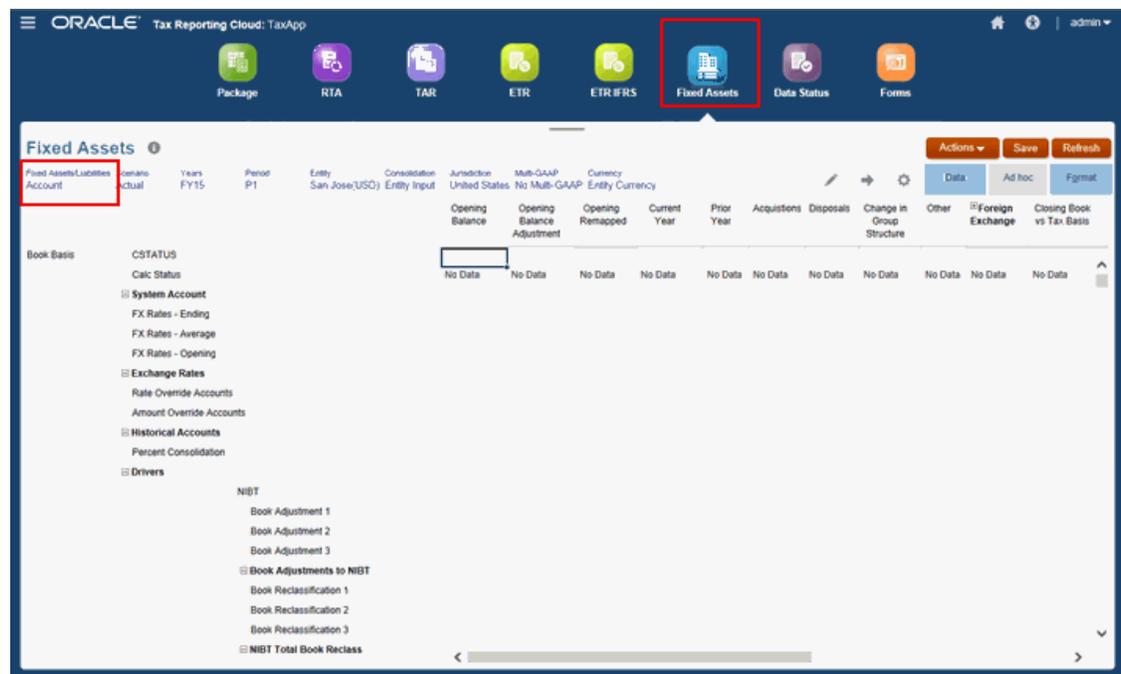
- **IRE(当初認識免除)** - 入力された値は、会計原則/税法による免除に従って消去できます。金額は、UK GAAP などの会計原則に基づいて免除されます。
- **正味 BVT 勘定** - これは、正味帳簿価額と課税価格(BVT)の比較で、税務基準から帳簿基準と IRE を減じて求めることができます。

換算値を表示するには:

1. 「アクション」、「換算」の順に選択します。
2. レポート通貨とその他必要なディメンション(シナリオや期間など)を入力します。

明細表では、次の換算値がすべて計算されます。

- FX レート - 期首レート、平均レートおよび期末レートの各列は期首レートで換算されます。
- すべての変動列(「現在の年」や前の年など)は平均レートで換算されます。
- 期末残高は期末レートで換算されます。



次の項を参照してください:

- [固定資産の入力](#)
- [固定資産での税金自動化の使用](#)

## 固定資産の入力

固定資産を入力するには:

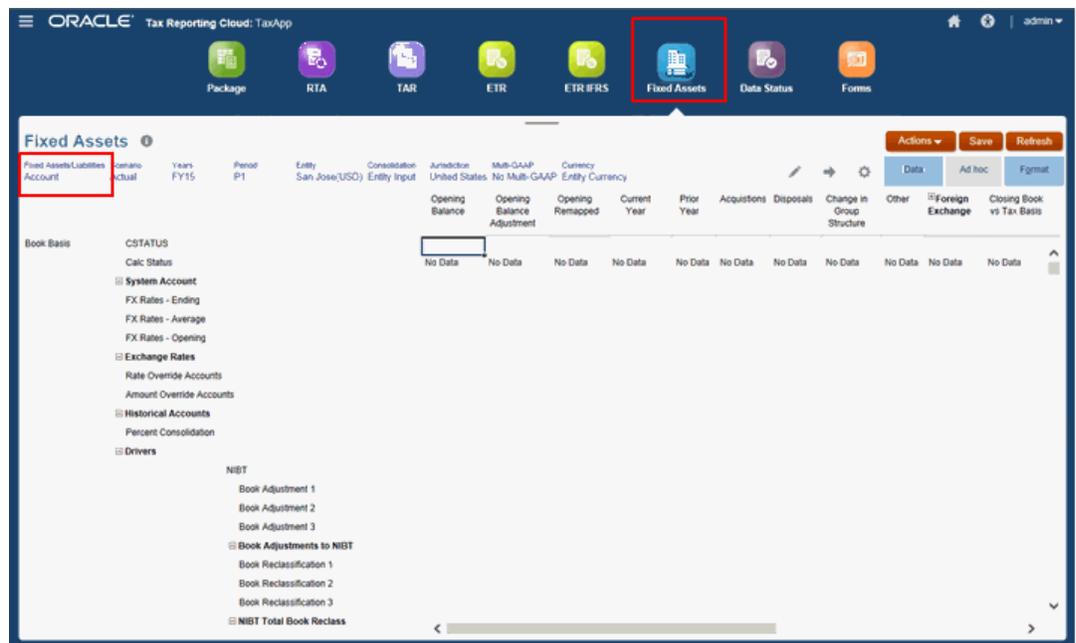
1. ホーム・ページで、次のいずれかの方法を使用して固定資産フォームを開きます。
  - 「**税引当(国)**」を選択し、次に「**固定資産**」を選択します。
  - 「**ライブラリ**」、**繰延税引当**、**貸借対照表方式**、「**固定資産**」の順に選択します。

フォームへの初回アクセス時には、ユーザー変数を作成する必要がある旨のメッセージが表示されます。

- (初回): ホーム・ページで、「ツール」、「ユーザー変数」の順に選択し、「固定資産」フォームでディメンション「勘定科目」のメンバー・セレクト  をクリックして、**固定資産/負債**を選択します。

Variables				+	Delete	Save
User Variables		Substitution Variables				
Dimension	User Variable Name	User Variable Definition		Use Context		
Entity	CbCR Parent Entity	Descendants(Entity)		<input type="checkbox"/>		
Years	Current Year	Children(Years)		<input type="checkbox"/>		
Account	Fixed Assets/Liabilities	Children(BVT Accounts)		<input checked="" type="checkbox"/>		
Entity	Loss Entities	Descendants(Total Geography)		<input type="checkbox"/>		
Years	PMYear			<input type="checkbox"/>		
Account	Tax Automation Target	ILvl0Descendants(Current Provision),ILvl0Descendants(Total Tax Attributes),ILvl0Descendants(Total Va		<input type="checkbox"/>		
Account	Tax Automation Target	ILvl0Descendants(Regional Current Provision),ILvl0Descendants([Deferred Tax Regional],[Total Regiona		<input type="checkbox"/>		
Currency	Tax Losses/Credits	CurrEntity Currency,Parent Currency,ILvl0Descendants(Reporting Currencies)		<input type="checkbox"/>		

- ホーム・ページで、「税引当(国)」を選択し、次に「固定資産」を選択します。固定資産/負債という親選択項目が POV の一部として表示されます。親の子孫は明細表の行に表示されます。



Fixed Assets/Liabilities Account	Scenario	Years	Period	Entity	Contribution	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency	Actions				
Actual	FY15	P1	San Jose(USD)	Entity Input	United States	No Multi-GAAP	Entity Currency		Data	Ad hoc	Format	Save	Refresh
Book Basis	CSTATUS	Calc Status	Opening Balance	Opening Balance Adjustment	Opening Remapped	Current Year	Prior Year	Acquisitions	Disposals	Change in Group Structure	Other	Foreign Exchange	Closing Book vs Tax Basis
			No Data	No Data	No Data	No Data	No Data	No Data	No Data	No Data	No Data	No Data	No Data
	System Account												
	FX Rates - Ending												
	FX Rates - Average												
	FX Rates - Opening												
	Exchange Rates												
	Rate Override Accounts												
	Amount Override Accounts												
	Historical Accounts												
	Percent Consolidation												
	Drivers												
	NIBT												
	Book Adjustment 1												
	Book Adjustment 2												
	Book Adjustment 3												
	Book Adjustments to NIBT												
	Book Reclassification 1												
	Book Reclassification 2												
	Book Reclassification 3												
	NIBT Total Book Reclass												

- 固定資産ごとに、各データ・ソース(帳簿基準、税務基準および IRE)の詳細を入力します。

表 12-8 固定資産の変動

カテゴリ	説明
期首残高	「期首残高」には、必ず前年度の期末残高が移入されます。 データ・ロードを実行して前年度の期末残高をロードし、今年度で連結を実行して値を取り込みます。
期首残高調整	今年度に計上された前年度調整。
期首(再マップ)	期首残高に期首残高調整を加えたものです
現在の年	今年度の変動に対応する資産の値を入力します。
前の年	前年度の変動に対応する資産の値を入力します。
取得	選択した資産の取得の値を入力します。
処分	選択した資産の処分の値を入力します。
グループ構造の変更	選択した資産の移転の値を入力します。
その他	選択した資産のその他の調整を入力します。
外国為替	FX レートの変更合計による影響が表示され ます。 列を展開すると、次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>外国為替 - 今年度 - FX レートの変更が今年度の変動に及ぼす影響が表示されます。</li> <li>外国為替 - 期首残高 - FX レートの変更が期首(再マップ)に及ぼす影響が表示されます。</li> </ul>
出資比率 - 期首残高	この金額は、親への出資比率の変更に起因する期首残高の差異です。
出資比率 - 今年度	この金額は、出資比率における親への変更に起因する現在の年の差異です。
出資比率	この金額は、出資比率期首残高と今年度の出資比率の合計です。
期末帳簿基準 vs 税務基準	資産の期末残高が表示されます。期首(再マップ)と当期変動の合計。
BVT 勘定科目	これは、正味帳簿価額と課税価格("BVT")の比較で、税務基準から帳簿基準と IRE を減じて求めることができます。

 ノート:

外国為替の値には、次の換算のみが表示されます

5. 「保存」をクリックします。
6. 「連結」をクリックして結果を計算します。

## 固定資産での税金自動化の使用

税金自動化を使用すると、固定資産などの補足データを引当システムに自動的にコピーでき、手動で追加する必要がなくなります。「税金自動化」フォームでルールを設定すると、連結の実

行時に値が計算されてコピーされます。変動の結果は、指定した宛先勘定科目および増減メンバーが存在するすべてのフォームに表示されます。

税金自動化ロジックは、連結プロセスの一環として実行されます。

 **ノート:**

TRCS\_BVTAccounts 階層の下に共有勘定科目を作成した場合は、税金自動化ルールを作成するときに親の増減をソース増減として使用できません。例:

```

Account:
  TRCS_BVTAccounts
    PPETotal (Dynamic Calc)
      PPEAccount1 (Shared)
      PPEAccount2 (Store)

Movement:
  TRCS_ClosingBVT (Never Share)
    TRCS_BVTSubTotal (Never Share)
      TotalTB (Never Share)
        Increase (Store)
        Decrease (Store)

Tax Automation Rule:
  TempST0001 -- Logic: Pull
    Percent: 100%
    Source Account: PPEAccount1
    Source Movement: TotalTB
    
```

前述の例では、税金自動化ルールはソース共有勘定科目について親ソース増減から読み取っており、このことは推奨されません。この場合、税金自動化が機能するためには、PPEAccount1 のプライマリ・インスタンスを TRCS\_BVTAccounts の下に置く必要があります。例:

```

Account:
  TRCS_BVTAccounts
    PPETotal (Dynamic Calc)
      PPEAccount1 (Store)
      PPEAccount2 (Store)
    
```

税金自動化は、国と地域のいずれの勘定科目にも設定できます。

税金自動化ルールを固定資産に適用するには:

1. ホーム・ページで、「ライブラリ」を選択し、次に「データの入力」を選択します。
2. 「フォーム」の下で、「税金管理」を展開し、適切な税金自動化フォームを選択します。

**表 12-9 税金自動化フォーム**

税金自動化のタブの選択	フォーム	説明
	税金自動化	税金自動化
法定住所ルール	税金自動化(法定住所)	グローバル税金自動化ルール(法定住所のすべてのエンティティに適用)

表 12-9 (続き) 税金自動化フォーム

税金自動化のタブの選択	フォーム	説明
法定住所地域ルール	税金自動化(法定住所地域)	グローバル税金自動化ルール(法定住所地域のすべてのエンティティに適用)
エンティティ・ルール	税金自動化エンティティ	特定のエンティティ用の税金自動化ルール
エンティティ・ルール(地域)	税金自動化エンティティ(地域)	グローバル税金自動化ルール(法定住所に関係なくすべてのエンティティに適用)
エンティティおよび地域ルール(地域のみ)	税金自動化エンティティ(全地域)	特定のエンティティ用の税金自動化ルール(全地域に適用)
グローバル・ルール	税金自動化(グローバル)	グローバル税金自動化ルール(法定住所に関係なくすべてのエンティティに適用)
グローバル・ルール(地域)	税金自動化(グローバル地域)	地域グローバル税金自動化ルール(法定住所地域に関係なくすべてのエンティティに適用)

3. 選択した税金自動化フォームで、ルール・パラメータを選択します。

- a. 「無効」で、「有効」を選択したままにします。そうしないと、連結時にルールが無視されます。
- b. 「論理」で、セル内をクリックして「エンティティ」ダイアログ・ボックスをアクティブにし、ソース勘定科目とソース増減に適用する論理的方法を選択します。
  - 「プル」では、ソース勘定科目とソース増減の指定のパーセンテージを取得し、その値を交差に適用します。

 ノート:

期首残高、期首残高調整および期首(再マップ)はプルできません。

- 「増減」では、ソース勘定科目の当期金額とソース勘定科目の前年度の最後の期間の金額との差分を取り、その金額を宛先勘定科目に適用します。
- **圧縮** - ソース勘定科目とソース増減が交差する部分の値は、帳簿または補足スケジュールからの圧縮時に、ターゲット勘定科目の一時差異の期末残高と等しくなる必要があります。

**補足スケジュールからの圧縮(固定資産など)**

**例 1: 固定資産:**

- ソース勘定科目/増減 = -8110 (帳簿基準から有形固定資産の税務基準を差し引いたものと今年度の増減の交差)
- ターゲット勘定科目/増減の**期末残高**の一時差異 = -8110

 ノート:

ターゲット勘定科目についてのその他の増減が一時差異に移入される場合、期末残高がソース勘定科目/増減の値として残るように、それらの増減は"圧縮"(減算)されます。

- **例 2: 固定資産**

- \* ソース勘定科目/増減 = -8110 (帳簿基準から有形固定資産の税務基準を差し引いたものと今年度の増減の交差)
- \* ターゲット勘定科目の一時差異の調整済期首残高 = 1000
- \* ターゲット勘定科目/増減の期末残高の一時差異は-8110 のままです。
- \* 期首残高調整 1000 と P&L 合計増減-9100 の間の差異は-8110 のままです

#### ソース・データが帳簿データである場合の圧縮:

- 「税金自動化」にソースまたはターゲット増減が指定されていない場合、ソース増減はデフォルトで試算表の期末に設定され、ターゲット増減はデフォルトで自動化(今年)に設定されます。有効なソース帳簿勘定科目を指定する必要があります。
  - 値は、自動化増減と期末残高の一時差異 = ソース帳簿勘定科目の値になります。
- c. 「パーセンテージ」で、ソース勘定科目のパーセンテージを入力します。このパーセンテージは小数として計算されます。たとえば、100%の場合は「1」と入力し、50%の場合は「.5」と入力します。
  - d. 「ソース勘定科目」セル内をクリックし、「検索」ダイアログ・ボックスから「ソース」を選択します。
  - e. 「ソース増減」セル内をクリックし、変動のソース(試算表のクローズや処分など)を選択します。
  - f. 「ターゲット増減」で、計算された値の宛先増減を選択します。
    - 自動
    - 自動資本
    - 他の調整 - 自動(繰延のみ)

4. 「保存」、「閉じる」の順にクリックします。

## 損益計算書方式の操作

### 税金自動化

税金自動化ルールは、損益計算書方式に従って、試算表の残高を基に帳簿資産および負債の今年度の「増減」または残高の変化を計算するように構成できます(図 3 のグローバル・ルール 1、財務資産)。期末一時差異残高を帳簿価額と課税価格の比較の貸倒合計との期末差異に「圧縮」または設定するように、追加のルールを構成できます(図 3 のエンティティ・ルール 1、財務資産)。

税金自動化ルールは、帳簿価額と課税価格の比較フォーマットで分析された課税損失/税額控除の残高を「プル」するように構成できます(図 3 のグローバル・ルール 1、課税損失の繰越)。

#### 図 3: 税金自動化ルール – 財務資産および課税損失の繰越

Tax Automation Entity					Disabled	Logic	Percentage	Source Account	Source Movement	Target Movement
Tax Automation Target Account	Scenario	Years	Period	Entity						
Current Provision	Actual	FY21	P12	Vision Thailand(THB)						
Fixed Assets - Tax Depreciation	NationalAndRegional PreTax			Entity Rule 1	Enabled					
RoU lease IFRS 16	NationalAndRegional PreTax			Entity Rule 1	Enabled					
Financial assets	NationalAndRegional PreTax: RC16:equity			Global Rule 1	Enabled	Movement	(100)% Allowance for Bad Debt			Automated
				Entity Rule 1	Enabled	Squeeze	100% TRCS_EVTAccounts: Total Bad Debts	Closing Book vs Tax Basis		Other Adjustments - Automated (Deferred Only)
Derivatives NCA	NationalAndRegional PreTax			Entity Rule 1	Enabled					
Other NCA	NationalAndRegional PreTax			Entity Rule 1	Enabled					
Assets held for sale - Assets	NationalAndRegional PreTax			Entity Rule 1	Enabled					
Stock Compensation	NationalAndRegional PreTax: TRCS_CurrentAddnCalcStockCompRTA			Entity Rule 1	Enabled					
Regional income taxes	NationalAndRegional PreTax			Entity Rule 1	Enabled					
Other Deductible Income tax	NationalAndRegional PreTax: CETR			Entity Rule 1	Enabled					
Special Deductions	NationalAndRegional PreTax: CETR			Entity Rule 1	Enabled					
Tax Losses - Carryforward Automated	National PreTax			Global Rule 1	Enabled	Pull	100% TRCS_EVTAccounts: Total Tax Loss Carryforward	Current Year		Automated

## 税金自動化の結果

図 4 の一時差異と図 5 の繰延税金

財務資産に対して処理されたグローバル 1 税金自動化ルールにより、「増減」ルールのために今年度の自動増減に転記された今年度の増減(93,476)が表示されています。財務資産に対して処理されたエンティティ 1 自動化により、エンティティ 1 ルールで選択されているターゲット増減で処理された「圧縮」ルールの結果として、他の自動調整(10,000)が表示されています。

課税損失の繰越に対して処理されたグローバル 1 税金自動化ルールにより、「プル」ルールのために今年度の自動増減に転記された今年度の増減(5,772,046)が表示されています。

### 図 4: 一時差異

Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency									
Actual	FY21	P12	Vision Thailand(THB)	Entity Input	Thailand	Local GAAP	Entity Currency									
								Opening Balance	Opening Balance As Adjusted	Automated	Automated Total	CY Total	Other Adjustments - Automated (Deferred Only)	Other Adjustments Total (Deferred Only)	P&L Total	Temporary Differences Closing Balance
Financial assets								143,476	143,476	(93,476)	(93,476)	(93,476)	(10,000)	(10,000)	(103,476)	40,000
<b>Total Temporary Differences (Stat to Tax)</b>								<b>143,476</b>	<b>143,476</b>	<b>(93,476)</b>	<b>(93,476)</b>	<b>(93,476)</b>	<b>(10,000)</b>	<b>(10,000)</b>	<b>(103,476)</b>	<b>40,000</b>
Total Temporary Differences								143,476	143,476	(93,476)	(93,476)	(93,476)	(10,000)	(10,000)	(103,476)	40,000
Tax Losses - Carryforward Automated										5,772,046	5,772,046	5,772,046			5,772,046	5,772,046
<b>Total National Tax Losses - Carryforward Automated</b>										<b>5,772,046</b>	<b>5,772,046</b>	<b>5,772,046</b>			<b>5,772,046</b>	<b>5,772,046</b>
Total National Tax Losses										5,772,046	5,772,046	5,772,046			5,772,046	5,772,046
Total National Temporary Differences, Losses, Credits and Attributes								143,476	143,476	5,678,570	5,678,570	5,678,570	(10,000)	(10,000)	5,668,570	5,812,046
Temporary Differences National								143,476	143,476	5,678,570	5,678,570	5,678,570	(10,000)	(10,000)	5,668,570	5,812,046

### 図 5: 繰延税金

Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency							
Actual	FY21	P12	Vision Thailand(THB)	Entity Input	Thailand	Local GAAP	Entity Currency							
								Opening Balance As Adjusted	Automated Total	Current Year Total	Other Adjustments Total (Deferred Only)	Total Deferred Tax Expense	Closing Balance	Closing Balance
								Tax	Tax	Tax	Tax	Tax	Tax	Non Current Assets
Financial assets								28,695	(18,695)	(18,695)	(2,000)	(20,695)	8,000	8,000
<b>Total Temporary Differences (Stat to Tax)</b>								<b>28,695</b>	<b>(18,695)</b>	<b>(18,695)</b>	<b>(2,000)</b>	<b>(20,695)</b>	<b>8,000</b>	<b>8,000</b>
Total Temporary Differences								28,695	(18,695)	(18,695)	(2,000)	(20,695)	8,000	8,000
Tax Losses - Carryforward Automated									1,154,409	1,154,409		1,154,409	1,154,409	1,154,409
<b>Total National Tax Losses - Carryforward Automated</b>									<b>1,154,409</b>	<b>1,154,409</b>		<b>1,154,409</b>	<b>1,154,409</b>	<b>1,154,409</b>
Total National Temporary Differences, Losses, Credits and Attributes								28,695	1,135,714	1,135,714	(2,000)	1,133,714	1,162,409	1,162,409
Deferred Tax National								28,695	1,135,714	1,135,714	(2,000)	1,133,714	1,162,409	1,162,409
Deferred Tax Total								28,695	1,135,714	1,135,714	(2,000)	1,133,714	1,162,409	1,162,409
Deferred Tax Total No National VA								28,695	1,135,714	1,135,714	(2,000)	1,133,714	1,162,409	1,162,409

## 繰延税金証明の操作

繰延税金証明は、帳簿資産および負債の帳簿基準と税務基準および差異をまとめるように設計されています。税効果が計算され、税率が決定されます。このスケジュールは貸借対照表方式を実体化しており、繰延税金ロールフォワードの税金計算と一致するように設計されています。

Deferred Tax Proof ⓘ						
Scenario	Years	Period	Currency	Entity	Consolidation	Jurisdiction
Actual	FY21	P12	Entity Currency	Vision Thailand	Entity Input	Thailand
	Book Basis	Tax Basis	Net	Tax	Tax Rate	
Total Bad Debts Allowance	(40,000)		40,000	8,000	20%	
Total Carryforward Losses		5,772,048	5,772,048	1,154,409	20%	
<b>Total Deferred Tax Proof</b>	<b>(40,000)</b>	<b>5,772,048</b>	<b>5,812,048</b>	<b>1,162,409</b>	<b>20%</b>	

## メタデータの設定

次の例に示すように帳簿勘定科目および税金勘定科目をグループ化して、勘定科目代替階層を作成します。関連項目: [Tax Reporting の管理の代替階層の作成](#)

次の例には、代替階層を使用して作成された 2 つのユース・ケースが示されています。

- TotalBadDebtsAllowance** 親には、貸倒合計帳簿勘定科目および財務資産があります - 共有メンバーとしての一時差異勘定科目。
- TotalCarryforwardLosses** 親には、課税損失合計繰越帳簿勘定科目および課税損失自動繰越があります - 共有メンバーとしての一時差異勘定科目。

TotalDeferredTaxProof	Total Deferred Tax Proof	Dynamic Calc
<ul style="list-style-type: none"> <li>TotalBadDebtsAllowance</li> <li>TRCS_Item001Total(Shared)</li> <li>TempST0004(Shared)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Total Bad Debts Allowance</li> <li>Total Bad Debts</li> <li>Financial assets</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Dynamic Calc</li> <li>Shared</li> <li>Shared</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>TotalCarryforwardLosses</li> <li>TotalTaxLossCarryforward(Shared)</li> <li>TaxLoss0001CFS(Shared)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Total Carryforward Losses</li> <li>Total Tax Loss Carryforward</li> <li>Tax Losses - Carryforward Automated</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Dynamic Calc</li> <li>Shared</li> <li>Shared</li> </ul>

- 代替階層の作成後、データベースをリフレッシュします。

## 繰延税金証明フォームの構築

フォーム・デザイナーを使用して、代替階層設定を使用する繰延税金証明フォームを作成します。

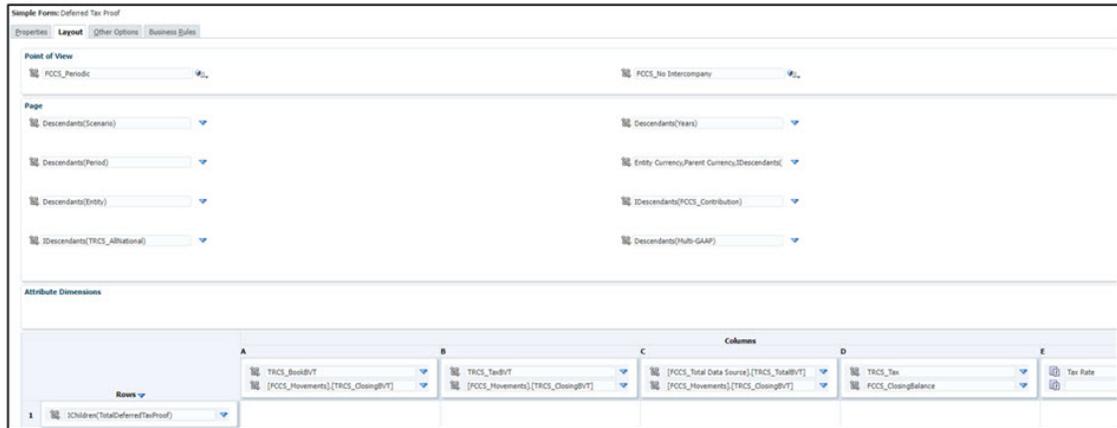
関連項目: [Tax Reporting の管理の代替階層の作成](#)

例:

行: IChildren(TotalDeferredTaxProof)

列:

- TRCS\_BookBVT / [FCCS\_Movements].[TRCS\_ClosingBVT]
- TRCS\_TaxBVT / [FCCS\_Movements].[TRCS\_ClosingBVT]
- [FCCS\_Total Data Source].[TRCS\_TotalBVT] / [FCCS\_Movements].[TRCS\_ClosingBVT]
- TRCS\_Tax / FCCS\_ClosingBalance
- 税率を表示するフォーム式、つまり[D]/[C]



フォームを保存すると、「ライブラリ」カードからそのフォームを表示できます。

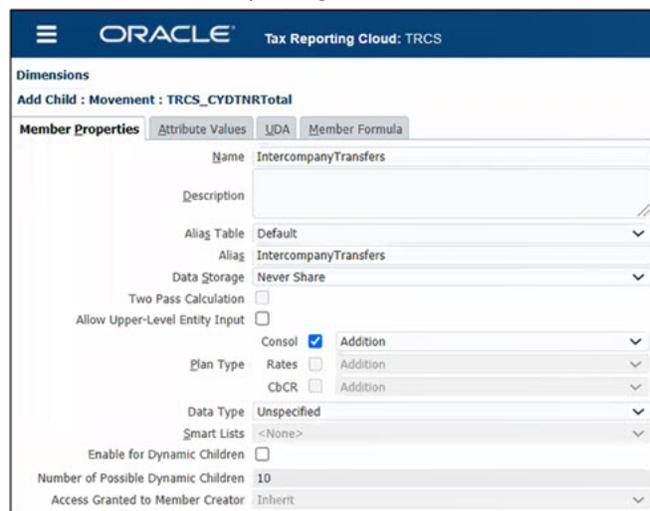
## 構成可能な遅延増減メンバーの操作

増減ディメンションでは、勘定科目の増減の詳細が取得されます。デフォルトで、増減ディメンションには、データを増減するメンバーが用意されています。アプリケーションを作成すると、シード済メンバーを使用して増減ディメンションがデフォルトで作成され、オプションで、有効にした機能に基づいてシステム・メンバーが追加されます。*Tax Reporting* の管理のシード済ディメンション・メンバーを参照してください。

増減ディメンション下に追加のユーザー定義メンバーを作成し、これらのメンバーに対して連結や換算を行えます。詳細は、増減ディメンション階層のカスタマイズを参照してください。

遅延増減メンバーに新しい列を追加する次の例を参照してください：

1. 「ナビゲータ」 → 「作成および管理」 → 「ディメンション」 → 「増減」に移動します。
2. **TRCS\_CYDTRTotal** (損益計算書セクション)の下に、**IntercompanyTransfers** メンバーを作成します。*Tax Reporting* の管理のメンバーの追加または編集を参照してください。



3. **IntercompanyTransfers** の下に、**IntercompanyTransfers1** および **IntercompanyTransfers2** を作成します。

ORACLE Tax Reporting Cloud: TRCS

Dimensions  
Add Child : Movement : IntercompanyTransfers

Member Properties Attribute Values UDA Member Formula

Name IntercompanyTransfers1

Description

Alias Table Default

Alias IntercompanyTransfers1

Data Storage Never Share

Two Pass Calculation

Allow Upper-Level Entity Input

Consol  Addition

Plan Type Rates  Addition

CbCR  Addition

Data Type Unspecified

Smart Lists <None>

Enable for Dynamic Children

Number of Possible Dynamic Children 10

Access Granted to Member Creator Inherit

Dimensions  
Add Sibling : Movement : IntercompanyTransfers1

Member Properties Attribute Values UDA Member Formula

Name IntercompanyTransfers2

Description

Alias Table Default

Alias IntercompanyTransfers2

Data Storage Never Share

Two Pass Calculation

Allow Upper-Level Entity Input

Consol  Addition

Plan Type Rates  Addition

CbCR  Addition

Data Type Unspecified

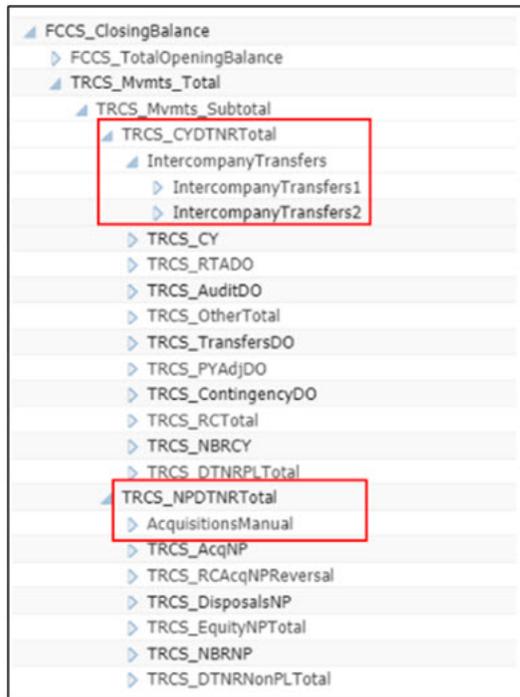
Smart Lists <None>

Enable for Dynamic Children

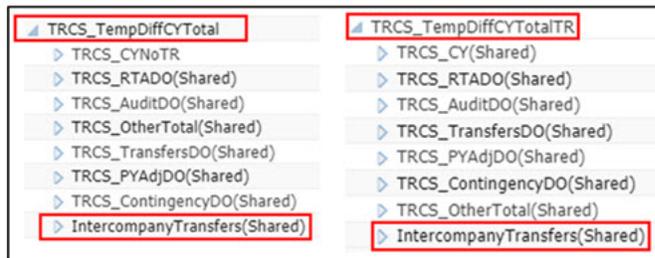
Number of Possible Dynamic Children 10

Access Granted to Member Creator Inherit

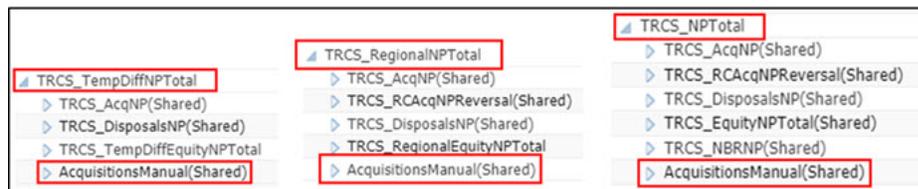
4. TRCS\_NPDTNRTotal (貸借対照表合計)の下に、AcquisitionsManual メンバーを作成します。



5. データベースをリフレッシュします。
6. IntercompanyTransfers の共有メンバーが、TRCS\_TempDiffCYTotal および TRCS\_TempDiffCYTotalTR の下に作成されているかどうかを確認します。同様に、AcquisitionsManual の共有メンバーが、TRCS\_TempDiffNPTotal、TRCS\_RegionalNPTotal および TRCS\_NPTotal の下に作成されているかどうかを確認します。  
TRCS\_CYDTNRTotal の下に新しく作成されたメンバーの共有メンバー



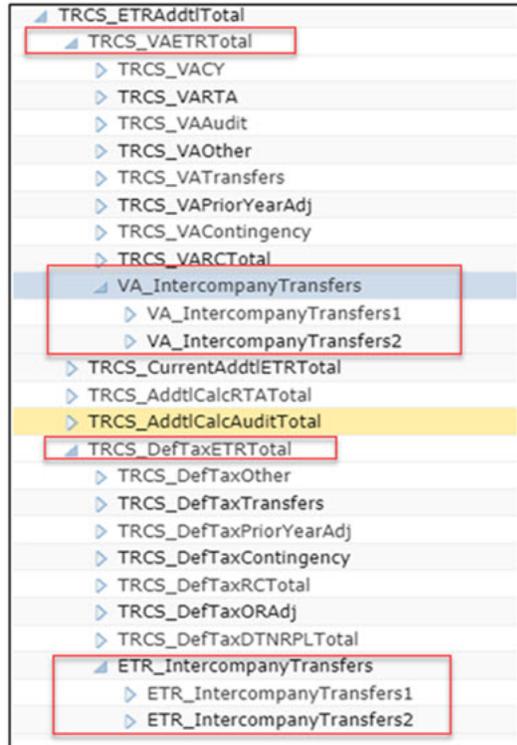
TRCS\_NPDTNRTotal の下に新しく作成されたメンバーの共有メンバー



 **Note:**

**TRCS\_CYDTNRTotal** および **TRCS\_NPDTNRTotal** の各階層の内部または外部へ、メンバーを移動する(切り取って貼り付ける)ことは一切できません。ただし、新しく作成した構成可能な遅延増減メンバーを作成/削除することはできます (*Tax Reporting* の管理のメンバーの削除を参照)。

7. 会社間転送に対応する ETR 勘定科目が、**TRCS\_DefTaxETRTotal** の下に作成されているかどうかを確認します。同様に、対応する VA 勘定科目が **TRCS\_VAETRTotal** の下に作成されています。

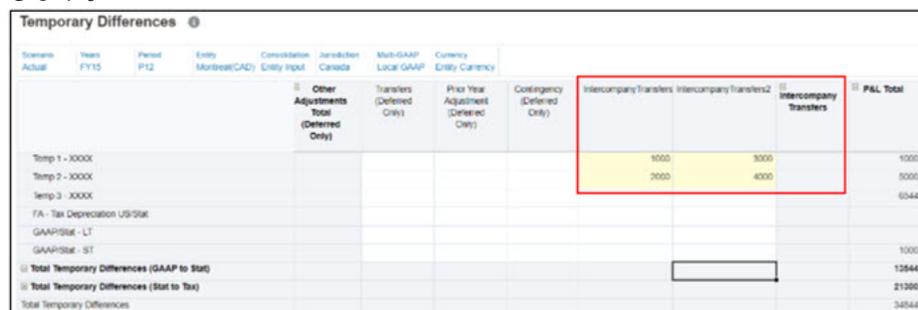


TRCS_ETRAddtlTotal
TRCS_VAETRTotal
TRCS_VACY
TRCS_VARTA
TRCS_VAAudit
TRCS_VAOther
TRCS_VATransfers
TRCS_VAPriorYearAdj
TRCS_VAContingency
TRCS_VARCTotal
VA_IntercompanyTransfers
VA_IntercompanyTransfers1
VA_IntercompanyTransfers2
TRCS_CurrentAddtlETRTotal
TRCS_AddtlCalcRTATotal
TRCS_AddtlCalcAuditTotal
TRCS_DefTaxETRTotal
TRCS_DefTaxOther
TRCS_DefTaxTransfers
TRCS_DefTaxPriorYearAdj
TRCS_DefTaxContingency
TRCS_DefTaxRCTotal
TRCS_DefTaxORAdj
TRCS_DefTaxDTNRPLTotal
ETR_IntercompanyTransfers
ETR_IntercompanyTransfers1
ETR_IntercompanyTransfers2

 **Note:**

対応する ETR 勘定科目と VA 勘定科目は、**TRCS\_CYDTNRTotal** の下の増減メンバーについてのみ作成されます。

8. 「一時差異」フォームを開き、**IntercompanyTransfers** 列を展開します。**IntercompanyTransfers1** および **IntercompanyTransfers2** にデータを入力します。保存します。



Series Actual	Year FY15	Period P12	Entity Montreal(CAD)	Consolidation Entity Input	Jurisdiction Canada	Multi-GAAP Local GAAP	Currency Entity Currency	Other Adjustments Total (Deferred Only)	Transfers (Deferred Only)	Prior Year Adjustment (Deferred Only)	Contingency (Deferred Only)	Intercompany Transfers	Intercompany Transfers2	Intercompany Transfers	P&L Total
Temp 1 - XXXX												1000	5000		1000
Temp 2 - XXXX												3000	4000		5000
Temp 3 - XXXX															6044
FA - Tax Depreciation US/Stat															
GAAP/Stat - LT															1000
<b>Total Temporary Differences (GAAP to Stat)</b>															13844
<b>Total Temporary Differences (Stat to Tax)</b>															21300
<b>Total Temporary Differences</b>															34544



Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency	Return to Actual	Audit Settlements	Other Adjustments	Transfers	Prior Year Adjustment	Contingency	Intercompany Trans	Intercompany Trans	Intercompany Trans	Impact from change in Tax Rates
Actual	FY20	P12	Montreal(CAD)	Entity Input	Canada	Local GAAP	Entity Currency	(Deferred Only)	(Deferred Only)	Total (Deferred Only)	(Deferred Only)	(Deferred Only)	(Deferred Only)	Tax	Tax	Tax	Tax
Temp 1 - XXXX														400	1200	1600	-2896
Temp 2 - XXXX														800	1600	2400	-1010
Temp 3 - XXXX																	-481
FA - Tax Depreciation US/Stat																	
GAAP/Stat - LT																	
GAAP/Stat - ST																	-508

同様に、(AcquisitionManual に対して入力した) 9000 の 40% は 3,600 となります。

Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency	Disposals	AcquisitionsManual	Total Equity	Equity Prior Year
Actual	FY20	P12	Montreal(CAD)	Entity Input	Canada	Local GAAP	Entity Currency	Tax	Tax	Tax	Tax
Temp 1 - XXXX									3600		
Temp 2 - XXXX											
Temp 3 - XXXX											
FA - Tax Depreciation US/Stat											
GAAP/Stat - LT											
GAAP/Stat - ST											

評価引当金の控除と課税損失は非課税ですが、「評価引当金 - 非流動」は課税対象であることに注意してください。「評価引当金 - 非流動」は、5000 の 40% で 2000 となります。

Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency	Transfers	Prior Year Adjustment	Contingency	Intercompany Trans	Intercompany Trans	Intercompany Trans
Actual	FY20	P12	Montreal(CAD)	Entity Input	Canada	Local GAAP	Entity Currency	(Deferred Only)	(Deferred Only)	(Deferred Only)	Tax	Tax	Tax
Total Temporary Differences (GAAP to Stat)													
											1200	2800	4000
Total Temporary Differences (Stat to Tax)													
Total Temporary Differences													
											1200	2800	4000
Total National Tax Losses - Carryforward Automated													
Total Tax Credits Carryforward													
Total Tax Attributes													
Total National Temporary Differences, Losses, Credits and Attributes													
											1200	2800	4000
											400		400
											2000		2000

14. 「ETR」をクリックしてデータを検証します。



15. 「連結 ETR」フォームおよび「連結 ETR IFRS」フォームでデータを確認します。連結有効税率の入力および連結 ETR IFRS の概要ダッシュボードも参照してください。

### 「連結 ETR」フォーム

IntercompanyTransfers の計算された値が-4000 (10,000 の 40%の負の値)であることを確認します。

Overview		Consolidated ETR		National ETR		
Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP
Actual	FY20	P12	Montreal(CAD)	Entity Input	Canada	Local GAAP
				Pre Tax	Tax Effect	Consolidated ETR Percentage
Other Adjustments (Deferred Only)						
Transfers (Deferred Only)						
Prior Year Adjustment (Deferred Only)						
Contingency (Deferred Only)						
☒ Rate Change - Total				14938	14938	2.91%
Deferred Tax Override Rate Adjustment						
☒ DTNR Current Year Total P&L				2146	2146	0.42%
IntercompanyTransfers1				-1200	-1200	-0.23%
IntercompanyTransfers2				-2800	-2800	-0.55%
☒ Intercompany Transfers				-4000	-4000	-0.78%
☒ Deferred Tax Expense Total				13084	13084	2.55%
Additional Total Provision CETR				-15251	-15251	-2.97%
Consolidated ETR					224132	43.63%

同様に、評価引当金の変更が負の値-2400 (400+5000 の 40%)であることに注意してください。

Overview		Consolidated ETR		National ETR		
Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP
Actual	FY20	P12	Montreal(CAD)	Entity Input	Canada	Local GAAP
				Pre Tax	Tax Effect	Consolidated ETR Percentage
Change in VA - Other Adjustments						
Change in VA - Transfers (DO)						
Change in VA - Prior Year Adjustments						
Change in VA - Contingency						
☒ Change in VA - Rate Change - Total				1500	1500	0.29%
IntercompanyTransfers1				-2400	-2400	-0.47%
IntercompanyTransfers2						
☒ Intercompany Transfers				-2400	-2400	-0.47%
☒ Change in Valuation Allowance				-3100	-3100	-0.60%
Foreign Tax Rate Differences				-26235	-26235	-5.11%
☒ Additional Current Provision - Source						
☒ Additional Current Provision - Manual						
Additional Total Provision - From Current						

### 「連結 ETR IFRS」フォーム

国全体の計算値が 4000、地域全体の計算値が-100 であることに注意してください

CA\_Blended の今年度の税率は 10%で、今年度地域配賦税率は 5%であるため、計算は  $10,000 \times 10\% \times 5\% = 50$  となります

これは地域全体を対象とするため、 $50 + 50 = 100$  となります

Overview				Consolidated ETR IFRS	Consolidated ETR IFRS by Entity	National ETR
Consolidated ETR IFRS						
Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Multi-GAAP	Currency
Actual	FY20	P12	Montreal(CAD)	Entity Input	Local GAAP	Entity Currency
				Pre Tax	Tax Effect IFRS	Tax Effect IFRS
				All National	All National	All Regional
Return to Accrual Adjustment				1000	1000	
Audit Settlement Adjustment						
Other Adjustments (Deferred Only)						
Transfers (Deferred Only)						
Prior Year Adjustment (Deferred Only)						
Contingency (Deferred Only)						
Rate Change - Total				14938	14938	
Deferred Tax Override Rate Adjustment						
DTNR Current Year Total P&L				2146	2146	
Intercompany Transfers				-4000	-4000	-100
Deferred Tax Expense Total				13084	13084	-100
Tax Rate Differences					0	-20548

16. 税率変更合計を確認します。遅延税金合計評価引当金(国)なし勘定科目の税率変更の影響 - 今年度合計は、「連結 ETR」フォームの税率変更合計と一致する必要があります。次の例では、「繰延税金」フォームと「連結 ETR」フォームの計算値(14398)に注意してください。国の繰延税金の操作および連結有効税率の入力も参照してください。

**「繰延税金」フォーム**

Deferred Tax							
Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency
Actual	FY20	P12	Montreal(CAD)	Entity Input	Canada	Local GAAP	Entity
				Intercompany Transfers	Impact from change in Tax Rates		
				Tax	Tax		
Total Regional Tax Credits - Carryforward							
Total Regional Tax Attributes							
Total Regional Valuation Allowance							
Deferred Tax Regional						23	
Deferred Tax Total					6200	-15688	
Deferred Tax Total No National VA					4000	-14938	

**「連結 ETR」フォーム**

Consolidated ETR ⓘ						
Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP
Actual	FY20	P12	Montreal(CAD)	Entity Input	Canada	Local GAAP
				Pre Tax	Tax Effect	Consolidated ETR Percentage
<b>⊟ Audit Settlement Adjustment</b> Other Adjustments (Deferred Only) Transfers (Deferred Only) Prior Year Adjustment (Deferred Only) Contingency (Deferred Only)						
<b>⊟ Rate Change - Total</b>				14938	14938	2.91%
Deferred Tax Override Rate Adjustment						
<b>⊟ DTNR Current Year Total P&amp;L</b>				2146	2146	0.42%

17. 「税金合計の検証」フォームを確認します。「ライブラリ」 → 「検証」 → 「税金合計」に移動します。差異値が 0 であることを注意してください。

Total Tax ⓘ					
Scenario	Years	Period	Entity	Multi-GAAP	Currency
Actual	FY20	P12	Montreal(CAD)	Local GAAP	Entity Currency
Consolidated					
Current Provision	247486.264				
Deferred Tax	-23354				
Total	224132				
Consolidated ETR	224132				
Difference	0				

18. ここで、地域フォームの場合は、IntercompanyTransfers1 (MACRS – 連邦逆仕訳勘定科目) に対して「一時差異(地域)」フォームにデータを入力します。保存します。地域の一時差異の入力も参照してください。

Temporary Differences Regional ⓘ						
Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP
Actual	FY20	P12	Montreal(CAD)	Entity Input	CA Blended	Local GAAP
				IntercompanyTransfers1	IntercompanyTransfers2	Intercompany Transfers
Temporary Differences National						
				3000	7000	10000
MACRS - Fed Reversal				2000	3000	5000
MACRS - US State						
<b>⊟ Total Regional Temporary Differences</b>				2000	3000	5000
Total Temporary Differences - Regional				5000	10000	15000

19. たとえば、エンティティ Montreal(CAD)の税率を確認します。CA Blended の今年度の税率は 10% で、今年度地域税金配賦は 5% です。地域の税率の操作も参照してください。

Scenario	Years	Period	Entity	Prior Year Current Tax Rate	Current Year Current Tax Rate	Opening Deferred Tax Rate - Non Current	Closing Deferred Tax Rate - Non Current	Opening Regional Tax Apportionment	Current Year Regional Tax Apportionment	Closing Regional Tax Apportionment	Active Region Flag
Actual	FY20	P12	Montreal(CAD)								
Canada				35%	40%	20%	25%				
CA Blended				10%	10%	10%	10%	5%	5%	5%	Active
Ontario				10%	10%	10%	10%	5%	5%	5%	Active

20. 「繰延税金(地域)」フォームを確認します。計算値は  $5000 \times 10\% \times 5\%$  (つまり 25) であることに注意してください。地域の繰延税金の操作も参照してください。

Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency	Impact from Change in Tax Rates Regional	Total Deferred Tax Expense								
Actual	FY20	P12	Montreal(CAD)	Entity Input	CA Blended	Local GAAP	Entity Currency										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>Intercompany Transfers</th> <th>Impact from Change in Tax Rates Regional</th> <th>Total Deferred Tax Expense</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>Tax</td> <td>Tax</td> <td>Tax</td> </tr> </tbody> </table>									Intercompany Transfers	Impact from Change in Tax Rates Regional	Total Deferred Tax Expense				Tax	Tax	Tax
Intercompany Transfers	Impact from Change in Tax Rates Regional	Total Deferred Tax Expense															
Tax	Tax	Tax															
Total Valuation Allowance																	
Deferred Tax National									409								
MACRS - Fed Reversal									25								
MACRS - US State																	
Total Regional Temporary Differences									25								

21. 「地域の ETR」フォームを確認します。地域の法定有効税率の操作も参照してください。

Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency	Pre Tax	Tax	Statutory ETR Percentage	
Actual	FY20	P12	Montreal(CAD)	Entity Input	CA Blended	Local GAAP	Entity Currency				
Deferred Tax Override Rate Adjustment											
Rate Change - Total											
IntercompanyTransfers1									-10	-10	-0.00%
IntercompanyTransfers2									-15	-15	-0.00%
IntercompanyTransfers									-25	-25	-0.00%
Deferred Tax Expense Total Regional									-25	-25	-0.00%
Additional Total Provision Regional ETR									-25	-25	-0.00%
Regional Statutory ETR										2899	0.56%

22. 「税金合計(地域)の検証」フォームを確認します。「ライブラリ」 → 「検証」 → 「税金合計(地域)」に移動します。差異値が 0 であることに注意してください。

Total Tax Regional ⓘ					
Scenario	Years	Period	Entity	Multi-GAAP	Currency
Actual	FY20	P12	Montreal(CAD)	Local GAAP	Entity Currency
All Regional					
Regional Current Provision		6514			
Deferred Tax		-992			
Total		5522			
Regional Statutory ETR		5522			
Difference		0			

## ユーザー構成の遅延増減の税金自動化のサポート

税金自動化を使用して帳簿データや固定資産データを新しく構成された遅延増減にプルできます。新しく構成された遅延増減メンバーを追加した後、増減メンバーが税金自動化をサポートするようにできる機能を使用できます。次のことが可能です:

- 構成された遅延増減を税金自動化ターゲット増減に指定します。カスタム属性を使用すると、カスタマイズされた遅延増減とその属性をユーザーが関連付けることができます。これにより、「税金自動化」フォームで、カスタマイズされた遅延増減が税金自動化ターゲット増減として表示されるようになります。
- 使用可能なすべての税金自動化ロジック(つまり、プル、移動、圧縮、年換算、年換算解除)を指定します

前年/調整(国)の税金自動化ルールは構成された遅延増減では許可されません。

[構成可能な遅延増減メンバーの操作](#)も参照してください

## ユース・ケース例

次の例では、遅延増減"PYAutomated"を作成して構成し、税金自動化がサポートされるようにします。

1. 「ナビゲータ」 → 「作成および管理」 → 「ディメンション」 → 「増減」に移動します。
2. TRCS\_CYDTNRTOTAL の下に 2 つの子メンバーを作成します。名前(PYAutomated (税金自動化用)と PYnoAuto (データ入力用))と別名を入力します。Tax Reporting の管理のメンバーの追加または編集を参照してください

Name	Alias (Default)	Data Storage	Custom
FCIS_Movements	Total Movements	Label only	
TRCS_BookClosing	Book closing	Dynamic Calc	
TRCS_TaxClosing	Total Balance Close	Store	
TRCS_OCR Total	Total	Store	
TRCS_Inv Movement	No Movement	Store	
TRCS_TaxAutoCreditTotal	TaxAutoCreditTotal	Dynamic Calc	
FCIS_ClosingBalance	Closing Balance	Never Share	
FCIS_InitialOpeningBalance	Total Opening Balance	Never Share	
TRCS_Movts_Total	Total Deferred Tax Movements	Never Share	
TRCS_CVSubtotal	Deferred Tax Movements	Never Share	
TRCS_CVTotal	Total Deferred Tax Expense	Never Share	
TRCS_CV	Current Year Total	Never Share	
TRCS_ATAD0	Return to Account (Deferred Only)	Store	
TRCS_AutoDD	Audit Settlements (Deferred Only)	Store	
TRCS_OtherTotal	Other Adjustments Total (Deferred Only)	Never Share	
TRCS_TransferDD	Transfers (Deferred Only)	Store	
TRCS_PriorYearAdj	Prior Year Adjustment (Deferred Only)	Store	
TRCS_PAutomated		Never Share	View
TRCS_PAutoDD		Never Share	
TRCS_CashAutoDD		Store	
TRCS_ACStar	Contingency (Deferred Only)	Store	
TRCS_OTMCR	Impact from change in Tax Rates	Never Share	
TRCS_OTMCRTotal	Net Benefit of Rupture	Store	
TRCS_OTMCRTotal	OTMCR Current Year P&L Total	Never Share	
FCIS_Movts_Total	Total Balance Sheet Movements	Never Share	
TRCS_InvMovements	Total Effect from Foreign Exchange	Never Share	
TRCS_OTMCR	Total Movement Changes	Never Share	
TRCS_ClosingBIT	Difference (2) (a - b)	Never Share	
TRCS_ClosingTotal	Effective Tax Rate Total	Never Share	
TRCS_ClosingTotal	Closing Book vs Tax Basis	Never Share	
TRCS_ClosingTotal	Payable Closing Balance	Dynamic Calc	
TRCS_ClosingTotal	Total Tax	Dynamic Calc	
TRCS_ClosingTotal	CRAR Automation	Label only	
TRCS_System Movements		Label only	
TRCS_System Validations		Dynamic Calc	

3. 「属性値」タブに切り替え、新しい属性 **TaxAutoTargetMovement** が作成されていることを確認します。
4. 追加(>)アイコンをクリックして **TaxAutoTargetMovement** を割り当てます。

属性は増減メンバーに割り当てられます。PYnoAuto はデータ入力用であるため属性は割り当てません。

**Note:**  
増減メンバーは自動増減とデータ入力のどちらにもできます。

5. 「保存」をクリックします。
6. 続行してデータベースをリフレッシュします。
7. 「構成」カードに移動します。
8. 「税金自動化」をクリックします。

- 「グローバル・ルール」タブをクリックします。これで、「税金自動化」フォームに、「PYAutomated」が税金自動化の「ターゲット増減」として表示されるようになります。このことは、法定住所ルール、エンティティ・ルールおよび税金自動化(地域)についても同じです。例で適用されたロジックが「年換算」であることに注意してください。

Tax Automation Target Account	Scenario	Years	Period	Disabled	Logic	Percentage	Source Account	Source Movement	Target Movement	Source MultiGAAP	Target MultiGAAP	Source Scenario
NIBT	NationalAndRegional PreTax	CETR		Global Rule 1	Enabled							
Book Adjustment 1	NationalAndRegional PreTax	CETR		Global Rule 1	Enabled							
Book Adjustment 2	NationalAndRegional PreTax	CETR		Global Rule 1	Enabled							
Book Adjustment 3	NationalAndRegional PreTax	CETR		Global Rule 1	Enabled							
Book Reclassification 1	NationalAndRegional PreTax	CETR		Global Rule 1	Enabled							
Book Reclassification 2	NationalAndRegional PreTax	CETR		Global Rule 1	Enabled							
Book Reclassification 3	NationalAndRegional PreTax	CETR		Global Rule 1	Enabled							
Perm 1	XXXX	NationalAndRegional PreTax	CETR	Global Rule 1	Enabled							
Perm 2	XXXX	NationalAndRegional PreTax	CETR	Global Rule 1	Enabled							
Perm 3	XXXX	NationalAndRegional PreTax	CETR	Global Rule 1	Enabled							
Temp 1	XXXX	NationalAndRegional PreTax		Global Rule 1	Enabled							
Temp 2	XXXX	NationalAndRegional PreTax		Global Rule 1	Enabled	Annualize	100%	90001		PYAutomated		
Temp 3	XXXX	NationalAndRegional PreTax		Global Rule 1	Enabled							
FA	Tax Depreciation US/Stat	NationalAndRegional PreTax		Global Rule 1	Enabled							
GAAP/Stat	LT	NationalAndRegional PreTax		Global Rule 1	Enabled							
GAAP/Stat	ST	NationalAndRegional PreTax		Global Rule 1	Enabled							
Meals & Entertainment	NationalAndRegional PreTax	CETR		Global Rule 1	Enabled							
Fines & Penalties	NationalAndRegional PreTax	CETR		Global Rule 1	Enabled							
Non-deductible Insurance	NationalAndRegional PreTax	CETR		Global Rule 1	Enabled							
PPE	NationalAndRegional PreTax			Global Rule 1	Enabled	Pull	100%	40002		PYAutomated		
UCC	NationalAndRegional PreTax			Global Rule 1	Enabled							
MACRS	NationalAndRegional PreTax			Global Rule 1	Enabled	Movement	100%	40001		PYAutomated		
ARO	NationalAndRegional PreTax			Global Rule 1	Enabled							
Finance Cost	NationalAndRegional PreTax			Global Rule 1	Enabled	Squeeze	100%	40003		PYAutomated		
Stock Compensation	NationalAndRegional PreTax			Global Rule 1	Enabled							
Equity/OCI	NationalAndRegional PreTax	RCToEquity		Global Rule 1	Enabled							

- ルールを保存して連結を実行します。
- 帳簿フォームを開き、値を参照します。ホーム・ページ -> 「ライブラリ」 -> 「帳簿データ」で、



年間値は P1value \* 12 です。



 **Note:**

PYAutomated 増減の税金自動化ターゲット増減属性を削除(ディメンション > 増減メンバー > メンバーの選択 > 属性値 > 削除)し、「データベースのリフレッシュ」を実行すると、関連付けられたルールは無効になり、データがクリアされなくなります。

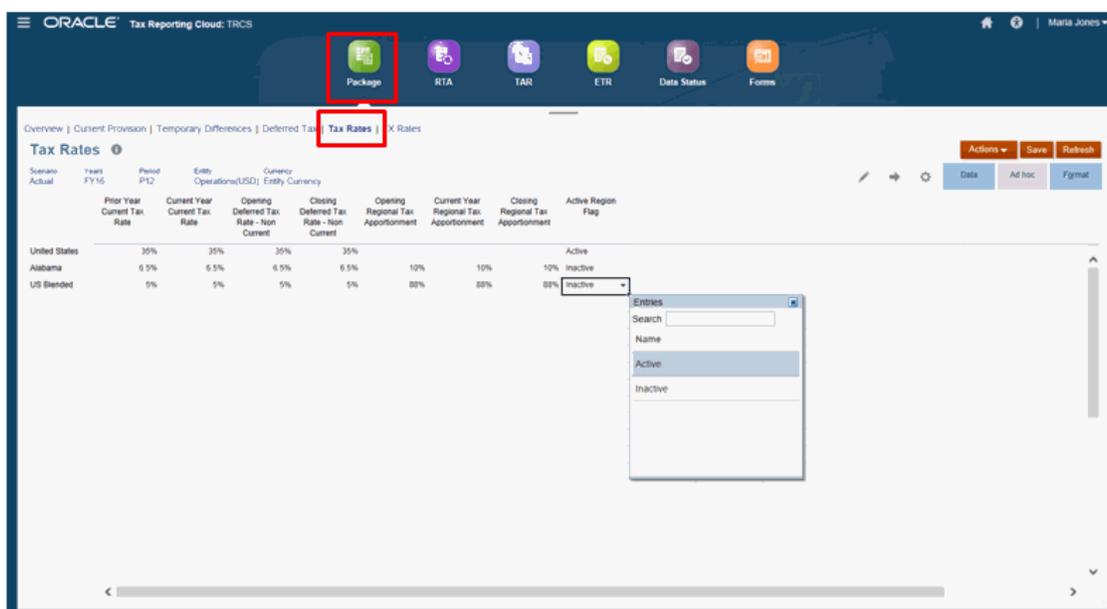


増減メンバーから税金自動化ターゲット増減属性を削除する前に、そのメンバーに関連付けられたすべての税金自動化ルールを削除する必要があります。

## 税率の操作

Tax Reporting では、法的エンティティ・レベルで適切な国の法人税率と地域の法人税率および配賦率を入力する必要があります。

税率フォームには、特定のエンティティの国および地域の引当金をシステムが計算するために必要な国および地域の税率と配賦率が含まれます。



各管轄で次のレート・タイプを使用できます。

表 12-10 税率タイプ

税率タイプ	説明
前年度現行税率	前年の国の法定税率。このレートは、情報目的で使用されます。
今年度現行税率	<p>当期の国の法定税率。このレートは、次の計算で使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 当期引当金</li> <li>• 繰延税金ロールフォワードの今年度アクティビティ</li> <li>• 連結有効税率レポートの外国レート差額</li> <li>• 繰延税金ロールフォワードの今年度税率変更コンポーネント</li> </ul>
期首繰延税率 - 非流動	<p>流動として分類される一時差異で使用される期首繰延税率。このレートは、次の計算で使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 期首繰延税金の資産と負債</li> <li>• 繰延税金ロールフォワードの期首レート変更コンポーネント</li> </ul>
期末繰延税率 - 非流動	非流動として分類される一時差異で使用される期末繰延税率。期末繰延税金の資産/負債と、繰延税金ロールフォワードの期首および今年度のレート変更コンポーネントの計算で使用されます。
期首地域税金配賦	繰延引当金の期首税金残高の計算でシステムに使用される前年度配賦パーセンテージ。
今年度地域税金配賦	繰延引当金の今年度アクティビティに基づいた当期引当金および税金の配賦利益の計算でシステムに使用される今年度配賦パーセンテージ。
期末地域税金配賦	繰延引当金の期末税金残高の計算でシステムに使用される期末配賦パーセンテージ。
アクティブな地域フラグ	法人税引当金を計算する必要がある地域(米国の州など)を指定します。

 ヒント:

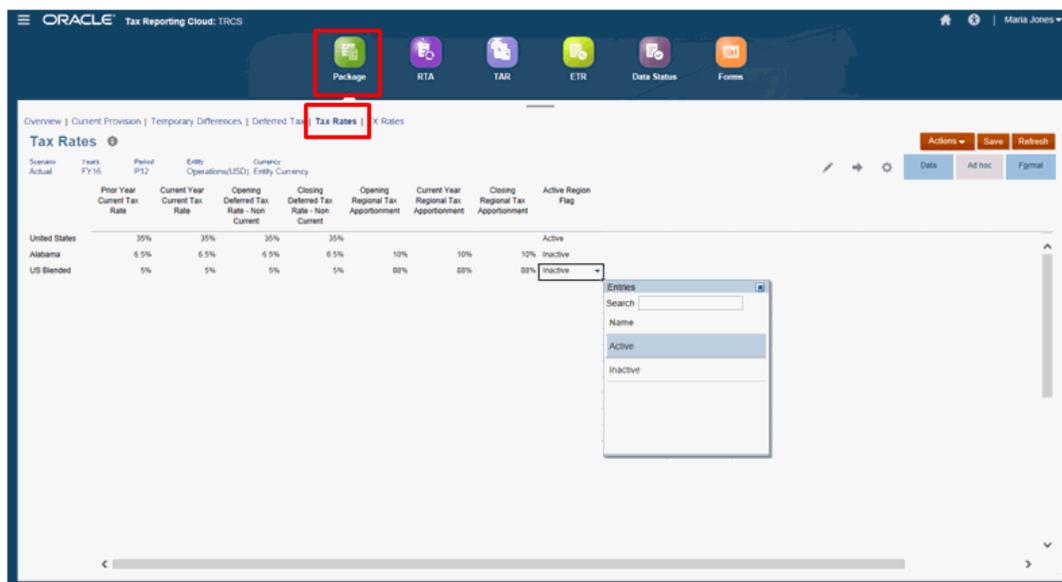
国と地域の管轄の間でデータが正しく流れるようにするには、国の税率で、アクティブな各管轄に対してアクティブな地域フラグを「**アクティブ**」に設定する必要があります。

## 税率の入力

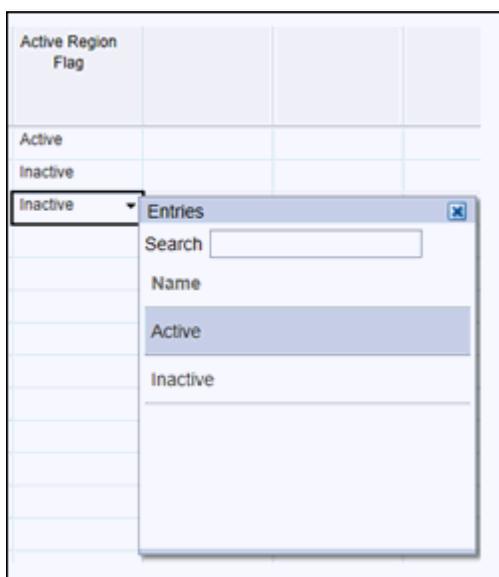
税率フォームには、特定のエンティティの国および地域の引当金をシステムが計算するために必要な国および地域の税率と配賦率が含まれます。

税率を入力するには:

1. ホーム・ページで、「税引当(国)」を選択し、次に「パッケージ」を選択します。
2. フォームで、「税率」タブを選択します。



3. **オプション:** 「メンバーの編集」  をクリックし、シナリオ、年、期間およびエンティティ・ディメンションのメンバーを選択して視点を設定します。使用可能な場合、選択したエンティティの国内所在地と任意の地域の行が表示されます。デフォルトで、法人税引当金は、地域管轄では計算されません。
4. **アクティブな地域フラグ列で、「アクティブ」**を選択して、選択したエンティティ・メンバーのその地域での税引当計算をアクティブ化します。



 ヒント:

国と地域の管轄の間でデータが正しく流れるようにするには、「税率」で、アクティブな各管轄に対してアクティブな地域フラグを「**アクティブ**」に設定する必要があります。

5. 各タイプの税率を入力します。  
パーセンテージの税率を小数点形式で入力し、**[Enter]**を押します。たとえば、**.05**を入力すると、**5%**と表示されます。
6. 「**保存**」をクリックします。
7. エンティティを連結して変更後の税率を適用し、税引当で新しいレートを使用します。

## 国および地域の親の税金の計算

親の税率またはエンティティの基本レベルを使用して、税金計算を親レベルで実行できます。親の税金計算は、単一および複数通貨のアプリケーションと、疎および密のパフォーマンス設定の両方に対して機能します。親の税金計算は **Consol** キューブに対してのみ適用されます。

 ノート:

親の税金計算は **CbCR** に対してはサポートされていません。

国の税金計算では、様々なレベルに様々な法定住所を設定できますが、地域の税金計算では、地域の親のすべての子には親と同じ法定住所を設定する必要があります。

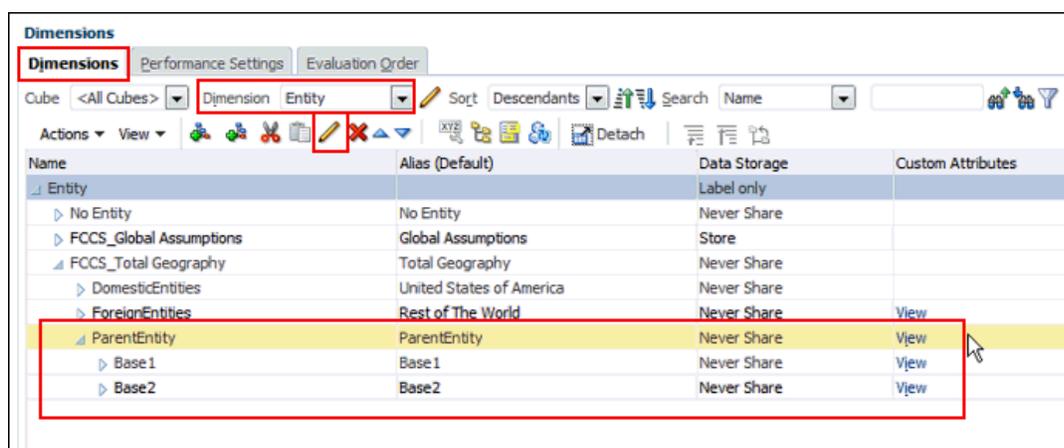
親の税金計算は、複数の親の階層では有効にできません。また、**SDM** および **FDM** のデータは親メンバーに直接転記できません。

 ノート:

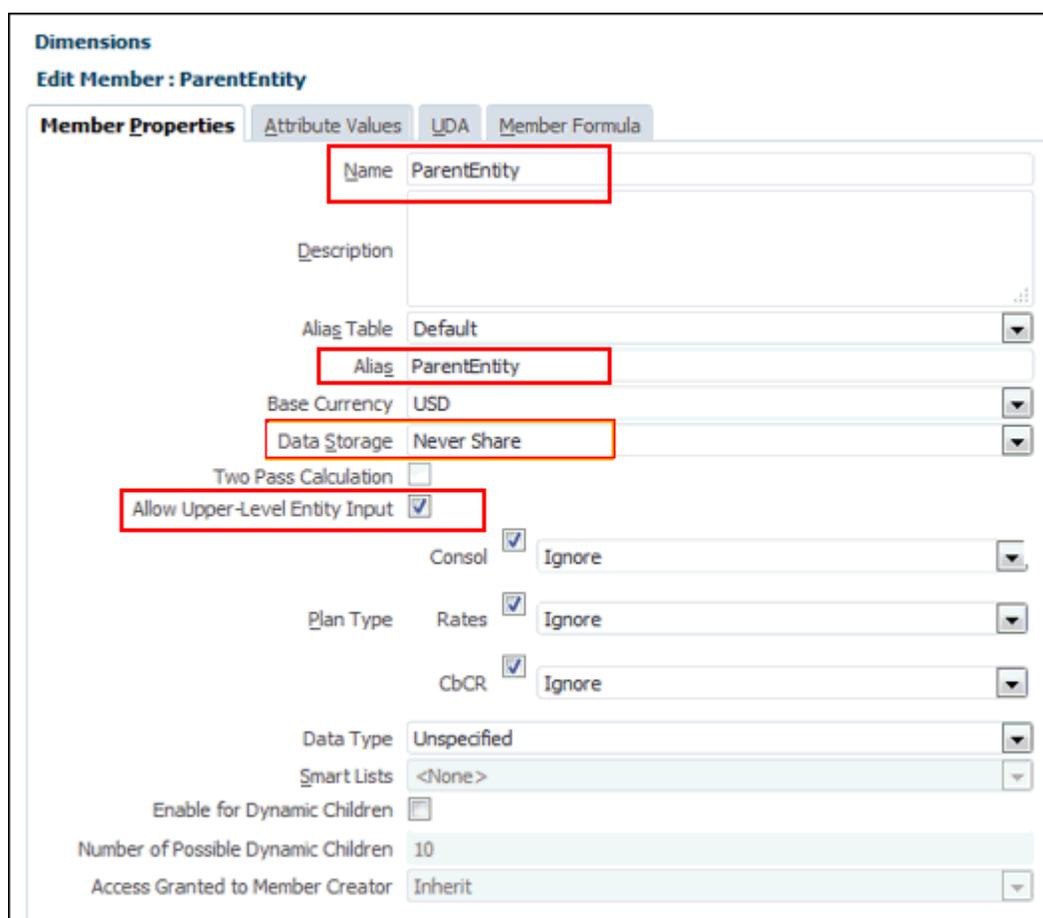
親エンティティの親の税金計算プロパティを有効にすると、外国為替 - 通貨換算調整値が再計算されます。

親エンティティの税金計算を構成するには:

1. ホーム・ページで「ナビゲータ」アイコン  をクリックし、「作成および管理」、「ディメンション」の順に選択します。
2. 「ディメンション」タブの「ディメンション」で、「エンティティ」ディメンションを選択します。
3. 「エンティティ」で、税金計算を有効にする親エンティティを選択します。必要に応じて親エンティティを作成します。



4. 「編集」  をクリックします。
5. 「メンバーのプロパティ」 タブで、親エンティティに対して次の詳細を入力します。
  - 親エンティティに対して「上位レベルのエンティティ入力を許可」オプションを選択します。
  - 「データ・ストレージ」を「共有しない」に設定します。



6. 「属性値」 タブで、次のオプションを選択します:

- 親エンティティに対して属性「TaxCalcYes」を選択します。
- 税金計算が必要な親エンティティで**法定住所**属性を設定します。
- 地域のアプリケーションに対してのみ**地域控除**を割り当てます。

Available Attribute Values	Attribute	Assigned Attribute Value
Regional deduction	Regional deduction	RDeduct
Parent Tax Calculations	Domicile	US
TaxCalcYes	Parent Tax Calcula...	TaxCalcYes
Intercompany Entity		
Domicile		
US		
UK		
CA		

- 「保存」をクリックします。
- 必要に応じて、子メンバーを親エンティティに追加し、「保存」をクリックします。地域の親の税金計算の場合、子エンティティには親エンティティと同じ法定住所を設定する必要があります。
- 「ディメンション」タブで、「アクション」、「データベースのリフレッシュ」の順に選択します。
- ホーム・ページで、「税引当(国)」または「税引当(地域)」をクリックし、次に「パッケージ」、「税率」タブの順にクリックします。
- POVの「エンティティ」で、「ParentEntity」を選択します。

Scenario	Years	Period	Entity	Prior Year Current Tax Rate	Current Year Current Tax Rate	Opening Deferred Tax Rate - Non Current	Closing Deferred Tax Rate - Non Current	Opening Regional Tax Apportionment	Current Year Regional Tax Apportionment	Closing Regional Tax Apportionment	Active Region Flag
Actual	FY16	P12	ParentEntity(USD)								
				50%	50%	50%	50%				

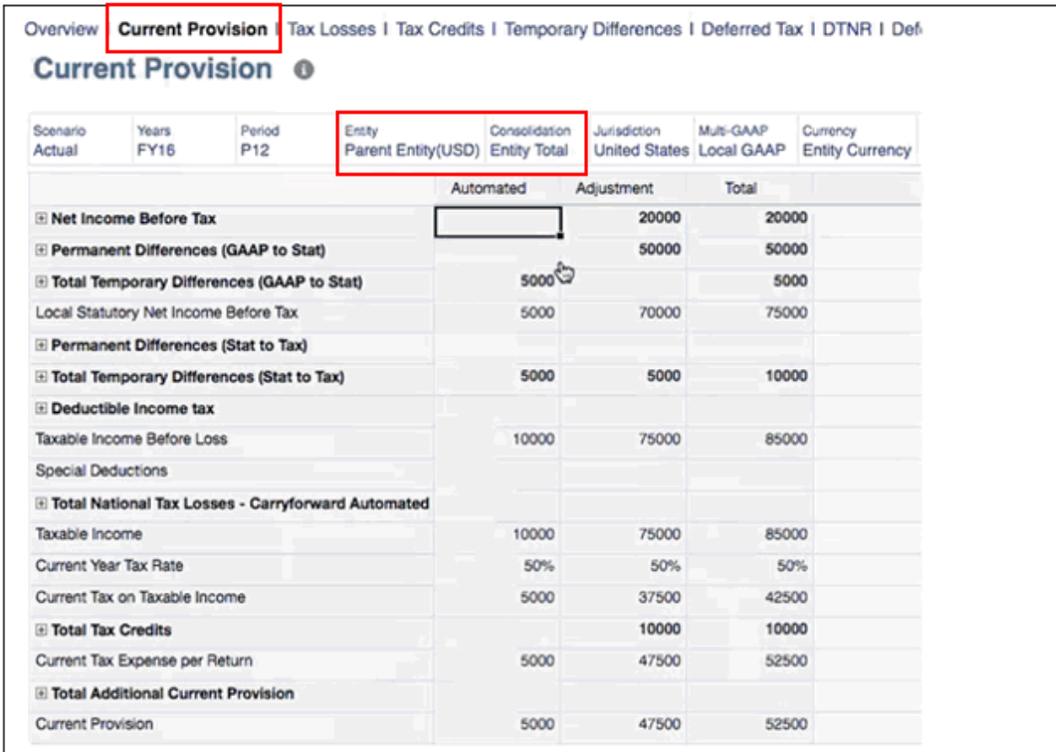
- 親エンティティの有効な法定住所(例: United States)に対して税率を入力します。無効な法定住所は非表示になります。

国の場合は、各子について次のレートを入力します:

- 前年度現行税率(前年度からのロールオーバー)
- 今年度現行税率
- 期首繰延税率 - 非流動(前年度からのロールオーバー)
- 期末繰延税率 - 非流動

地域の場合は、各子について次のレートを入力します:

- 期首地域税金配賦(前年度からのロールオーバー)
  - 今年度地域税金配賦
  - 期末地域税金配賦
  - アクティブな地域フラグで、エンティティの各子について「アクティブ」を選択すると、データが地域に引き継がれます。
13. 「保存」をクリックします。
  14. ホーム・ページで、「税引当(国)」または「税引当(地域)」をクリックし、次に「パッケージ」、「現在の引当金」の順にクリックします。
  15. 「編集」  をクリックして、POV を設定します:
    - 「エンティティ」に対して「親エンティティ」を選択します
    - 「連結」に対してエンティティ合計を選択します
  16. 基本エンティティまたは親エンティティに対してデータを入力します。
  17. 親レベルで連結します。基本の税引前データは親にロールアップされ、親に設定されたレートに基づいた税効果となります。



Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency
Actual	FY16	P12	Parent Entity(USD)	Entity Total	United States	Local GAAP	Entity Currency
			Automated	Adjustment	Total		
Net Income Before Tax					20000		20000
Permanent Differences (GAAP to Stat)					50000		50000
Total Temporary Differences (GAAP to Stat)				5000			5000
Local Statutory Net Income Before Tax				5000	70000		75000
Permanent Differences (Stat to Tax)							
Total Temporary Differences (Stat to Tax)				5000	5000		10000
Deductible Income tax							
Taxable Income Before Loss				10000	75000		85000
Special Deductions							
Total National Tax Losses - Carryforward Automated							
Taxable Income				10000	75000		85000
Current Year Tax Rate				50%	50%		50%
Current Tax on Taxable Income				5000	37500		42500
Total Tax Credits					10000		10000
Current Tax Expense per Return				5000	47500		52500
Total Additional Current Provision							
Current Provision				5000	47500		52500

18. オプション: 必要に応じて、親エンティティに対する税金自動化ルールを作成します。
19. オプション: 親の税金計算のロールオーバーを準備します。親税金対応のエンティティに対して次のロールオーバー・ルールがサポートされています:
  - 税金自動化ルール
  - 税率
  - FX レート

- 課税損失/税額控除の期限切れの年

## シナリオ例: 親の税金の計算

Tax Reporting で、親エンティティの親の税金計算機能を有効にすると、親レベルで直接税金の計算を実行できます。この構成は、個々の子エンティティからの税金データを集約するのではなく、連結レベルで税率または調整を適用する必要がある場合に特に役立ちます。

次のシナリオ例を参照してください:

### エンティティ 構造:

- ENT\_PAR (親エンティティ)
- ENT\_CHILD1 (子エンティティ 1)
- ENT\_CHILD2 (子エンティティ 2)

### 金額:

- ENT\_CHILD1: 100
- ENT\_CHILD2: 200

### 親の税金計算が有効になっていない場合:

デフォルトでは、連結時に、ENT\_CHILD1 および ENT\_CHILD2 の金額が ENT\_PAR にロールアップされます。

したがって、ENT\_PAR には、連結金額である 300 (ENT\_CHILD1 の 100 + ENT\_CHILD2 の 200)が表示されます。

### 親の税金計算が有効になっている場合:

ENT\_PAR で親の税金計算機能が有効になっている場合は、親レベルで直接税金データを入力できます。

この構成の場合、システムでは連結時に ENT\_CHILD1 と ENT\_CHILD2 からの税金データを集約しません。かわりに、ENT\_PAR に直接入力されたデータが使用されます。

たとえば、ENT\_PAR で直接 400 の値を入力した場合、ENT\_CHILD1 と ENT\_CHILD2 の金額は無視され、ENT\_PAR の連結金額は 400 になります。

### 構成ステップ:

ENT\_PAR の親の税金計算を有効にするには:

#### 1. エンティティのプロパティを設定します:

- 上位レベルのエンティティ 入力を許可: はい
- 「データ・ストレージ」: 共有しない
- 親の税金計算属性: TaxCalcYes
- 法定住所: ENT\_PAR に適切な法定住所を割り当てます

#### 2. 子エンティティを割り当てます:

ENT\_CHILD1 および ENT\_CHILD2 を子メンバーとして ENT\_PAR に追加します。

#### 3. データベースをリフレッシュします:

これらの変更を行ったら、データベースをリフレッシュして新しい設定を適用します。

詳細は、[国および地域の親の税金計算](#)のドキュメントを参照してください。

**考慮事項:**

- **データ入力:** 親の税金計算が有効になっている場合は、税金データが親エンティティ・レベル(ENT\_PAR)で直接入力されていることを確認してください。子エンティティ (ENT\_CHILD1 および ENT\_CHILD2)で入力されたデータは、税金計算のために親にロールアップされません。
- **連結プロセス:** 連結プロセスでは、親レベルで入力されたデータが使用されます。子エンティティのデータは、親エンティティの税金計算に集約されません。

## 国の FX レートの操作

外国為替レート(FX レート)とは、2つの通貨を相互に交換するとき使用される値です。レート値は小数フォーマットで入力します。

同じ通貨を使用するすべての基本および親エンティティに 1つの FX レートを適用することも、基本または親エンティティごとにレートを変えることもできます。1つの通貨に複数のエンティティを設定することもできます。たとえば、USD に対してニューヨーク、ロサンゼルスおよびシカゴのエンティティを設定できます。

- 地域の FX レートの使用の詳細は、[地域の FX レートの操作に関する項](#)を参照してください。
- CbCR FX レートの使用の詳細は、[CbCR FX オーバーライド・レートの入力](#)を参照してください。

 **ノート:**

CbCR FX レートのための個別のレート入力フォームはありません。[FX レート単一期間](#)と [FX レート全年](#)で入力されたレートが CbCR にも使用されます。

- 詳細は、次のビデオを参照してください:  [Tax Reporting Cloud での外貨換算レートの構成](#)

## FX レート単一期間

「FX レート単一期間」画面では、選択した基本または親エンティティで指定期間中に使用されるすべての通貨の平均 FX レートと期末 FX レートを入力できます。

単一期間の FX レートを入力するには:

1. ホーム・ページで、「**ライブラリ**」を選択します。
2. 「データの入力」画面で、「**税金管理**」を展開し、「**FX レート単一期間**」をクリックします。

	USD	ARS	AUD	BRL	CAD	CHF	CNY	COP	DKK	EL
USD	FX Rates - Opening									
	Average Rate	1								
	Ending Rate	1								
ARS	FX Rates - Opening									
	Average Rate									
	Ending Rate									
AUD	FX Rates - Opening									
	Average Rate									
	Ending Rate									
BRL	FX Rates - Opening									
	Average Rate									
	Ending Rate									
CAD	FX Rates - Opening									
	Average Rate		1							
	Ending Rate		1							
CHF	FX Rates - Opening									
	Average Rate									
	Ending Rate									
CNY	FX Rates - Opening									
	Average Rate									
	Ending Rate									
COP	FX Rates - Opening									
	Average Rate									
	Ending Rate									
DKK	FX Rates - Opening									
	Average Rate									
	Ending Rate									

3. 「編集」アイコン  をクリックして、POV を選択します。
  - **期間**(この期間で必要となる通貨を入力することになります)
  - **年**
  - **シナリオ**
  - **エンティティ**(基本または親エンティティ)
4. アプリケーション通貨の列をクリックします。フォームにアプリケーションで使用できるすべての通貨が表示されます。
5. 必要な通貨を含む行を選択し、**平均レート**と**期末レート**の値を小数の割合(1.00 や.98 など)として入力します。
6. **オプション**: この期間に使用する通貨ごとに同じステップを繰り返します。
7. 「**保存**」をクリックします。  
結果はすべてのキューブで自動的に更新されます。

## FX レート全年

「FX レート全年」画面では、選択した通貨および POV の 1 年間の平均 FX レートと期末 FX レートを期間ごとにアプリケーションに入力できます。

アプリケーションで使用できるすべての通貨が表示されます。基本または親エンティティを選択すると、それに対応する通貨に固有のレートを追加できるようになります。アプリケーションでは、1 つの通貨が複数のエンティティに対応付けられている場合があります。たとえば、CAD は、モントリオール、トロントおよびバンクーバーに対応します。

1 年間の FX レートを入力するには:

1. ホーム・ページで、「ライブラリ」を選択します。
2. 「データの入力」画面で、「税金管理」を展開し、「FX レート全年」をクリックします。

Currency	Years	Scenario	Entity	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9
USD	FX Rates - Opening											
	Average Rate			1								
	Ending Rate			1								
ARS	FX Rates - Opening											
	Average Rate											
	Ending Rate											
AUD	FX Rates - Opening											
	Average Rate											
	Ending Rate											
BRL	FX Rates - Opening											
	Average Rate											
	Ending Rate											
CAD	FX Rates - Opening											
	Average Rate			78								
	Ending Rate			75								
CHF	FX Rates - Opening											
	Average Rate											
	Ending Rate											
CNY	FX Rates - Opening											
	Average Rate											
	Ending Rate											
COP	FX Rates - Opening											
	Average Rate											
	Ending Rate											
DKK	FX Rates - Opening											
	Average Rate											
	Ending Rate											
EUR												

3. 「編集」アイコン  をクリックして、通貨および POV を選択します。
  - **通貨** - 1 年間の各期間の通貨を選択します。
  - **年**
  - **シナリオ**
  - **エンティティ** (基本または親エンティティ)
4. 選択したエンティティに対応する通貨を含む行を選択します。
5. 選択した期間の下で、**平均レート**と**期末レート**の値を入力します。レートは小数の割合で表されます。たとえば、1.00 や.98 のようになります。
6. **オプション**: このアプリケーションで使用する通貨ごとに同ジステップを繰り返します。
7. 「**保存**」をクリックします。  
結果はすべてのキューブで自動的に更新されます。

## FX レートの確認

この読み取り専用フォーマットを使用すると、Tax Reporting アプリケーションの外国為替(FX)レートを確認できます。値は小数点形式で表示されます。

アプリケーションで使用される各通貨に対して、期間ごとに次のレートが表示されます。

- FX レート - 期首

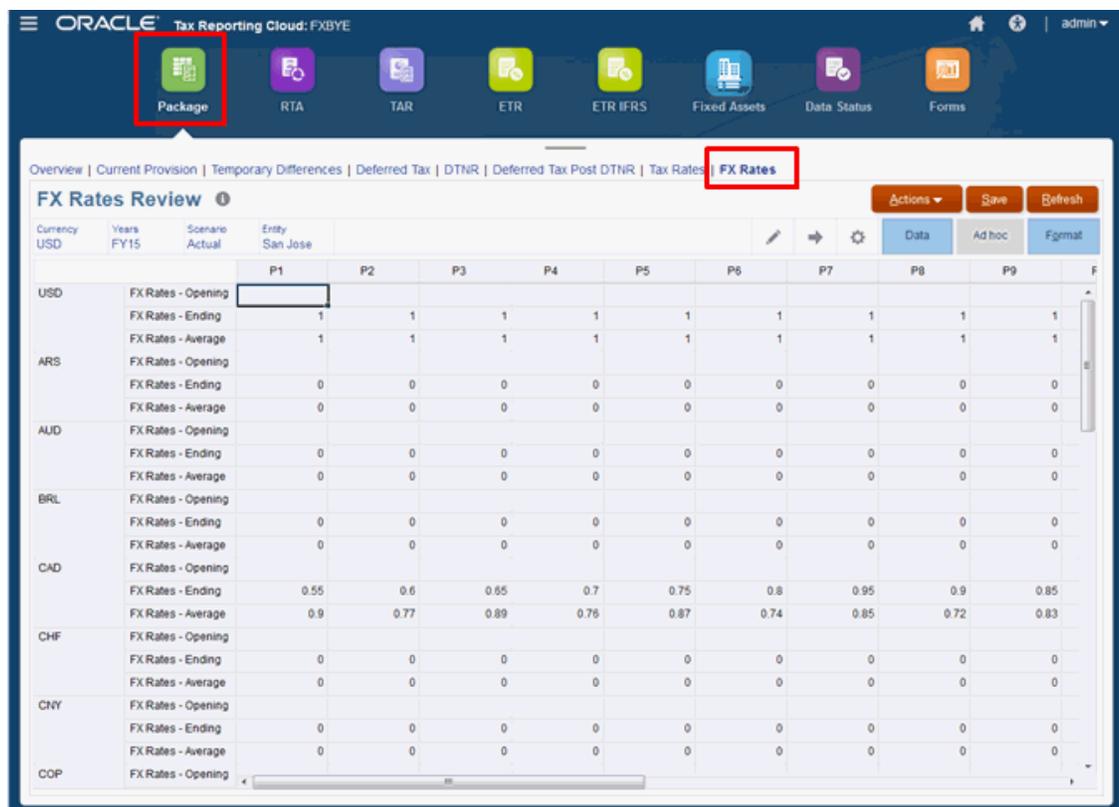
- FX レート - 期末
- FX レート - 平均

いずれかのレートを変更する場合は、「ライブラリ」または「構成」ページから FX レート画面に移動する必要があります。

 **ノート:**

期首残高調整は、前年度、P12、期末レートから移入される FX レート - 期首を使用して換算されます。前年度のレートの計算を実行して、今年度の Fx レート - 期首を生成してください。

期首残高調整は、FX レート - 期首を使用して換算されます。



Currency	Years	Scenario	Entity	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	F
USD	FY15	Actual	San Jose	FX Rates - Opening									
				FX Rates - Ending	1	1	1	1	1	1	1	1	1
				FX Rates - Average	1	1	1	1	1	1	1	1	1
ARS	FY15	Actual	San Jose	FX Rates - Opening									
				FX Rates - Ending	0	0	0	0	0	0	0	0	0
				FX Rates - Average	0	0	0	0	0	0	0	0	0
AUD	FY15	Actual	San Jose	FX Rates - Opening									
				FX Rates - Ending	0	0	0	0	0	0	0	0	0
				FX Rates - Average	0	0	0	0	0	0	0	0	0
BRL	FY15	Actual	San Jose	FX Rates - Opening									
				FX Rates - Ending	0	0	0	0	0	0	0	0	0
				FX Rates - Average	0	0	0	0	0	0	0	0	0
CAD	FY15	Actual	San Jose	FX Rates - Opening									
				FX Rates - Ending	0.55	0.6	0.65	0.7	0.75	0.8	0.95	0.9	0.85
				FX Rates - Average	0.9	0.77	0.89	0.76	0.87	0.74	0.85	0.72	0.83
CHF	FY15	Actual	San Jose	FX Rates - Opening									
				FX Rates - Ending	0	0	0	0	0	0	0	0	0
				FX Rates - Average	0	0	0	0	0	0	0	0	0
CNY	FY15	Actual	San Jose	FX Rates - Opening									
				FX Rates - Ending	0	0	0	0	0	0	0	0	0
				FX Rates - Average	0	0	0	0	0	0	0	0	0
COP	FY15	Actual	San Jose	FX Rates - Opening									

FX レートを表示するには:

1. 次のいずれかのオプションを選択して、FX レート画面を表示します。
  - ホーム・ページで、「税引当(国)」を選択し、次に「パッケージ」、「FX レート」の順に選択します。
  - ホーム・ページで、「ライブラリ」を選択し、次に「フォーム」、「税金管理」、「FX レート確認」の順に選択します。
2. **オプション:** いずれかのレートを変更するには、次のいずれかの場所に移動します。

- ホーム・ページで、「ライブラリ」を選択し、次に「税金管理」を選択して、FX レート・フォームのいずれかを直接開きます。
- ホーム・ページで、「アプリケーション」を選択し、次に「構成」、「為替レート」の順に選択します。このオプションを使用すると、「FX レート単一期間」フォームが開きます。

## NIBT FX オーバーライド・レートの入力

NIBT に適用される平均 FX レートをオーバーライドすると、必要に応じて連結システムで換算された NIBT との突合せを有効にできます。NIBT FX レートは、Consol キューブにのみ入力できます。

NIBT オーバーライド・レートと平均レート\* NIBT との差異は、現在の引当金と、連結および法定有効税率調整の永久差異として分類されます。

NIBT オーバーライドが機能するように、次の両方のカスタム属性を勘定科目ディメンションで定義する必要があります。

- **TRCS\_NIBT Override Rate Accounts** -- ユーザーは、このカスタム属性を使用して、レート勘定科目を **TRCS\_NIBT Adjusted** 階層のベースに割り当てることができます。これは、**TRCS\_NIBT Override Rate Accounts** 階層の下で作成されたメンバーを自動的に同期する、メンバー主導のカスタム属性です。  
そのままの状態では、**TRCS\_NIBT Override Rate Accounts** の下に NIBT オーバーライド・レート勘定科目が 1 つ作成されます。
- **NIBT FX オーバーライド差異勘定科目** -- ユーザーは、このカスタム属性を使用して、FX 差異(つまり、NIBT オーバーライド・レートと FX 平均レートの差額)を転記する永久差異勘定科目を指定できます。これは、NIBT FX オーバーライド勘定科目カスタム属性が指定されているメンバー(つまり、**TRCS\_NIBT Adjusted** のベース)に指定する必要があります。これは、**TRCS\_PERMGSTOTAL** および **TRCS\_PERMSTTOTAL** 階層の下で作成されたメンバーを自動的に同期する、階層主導のカスタム属性です。

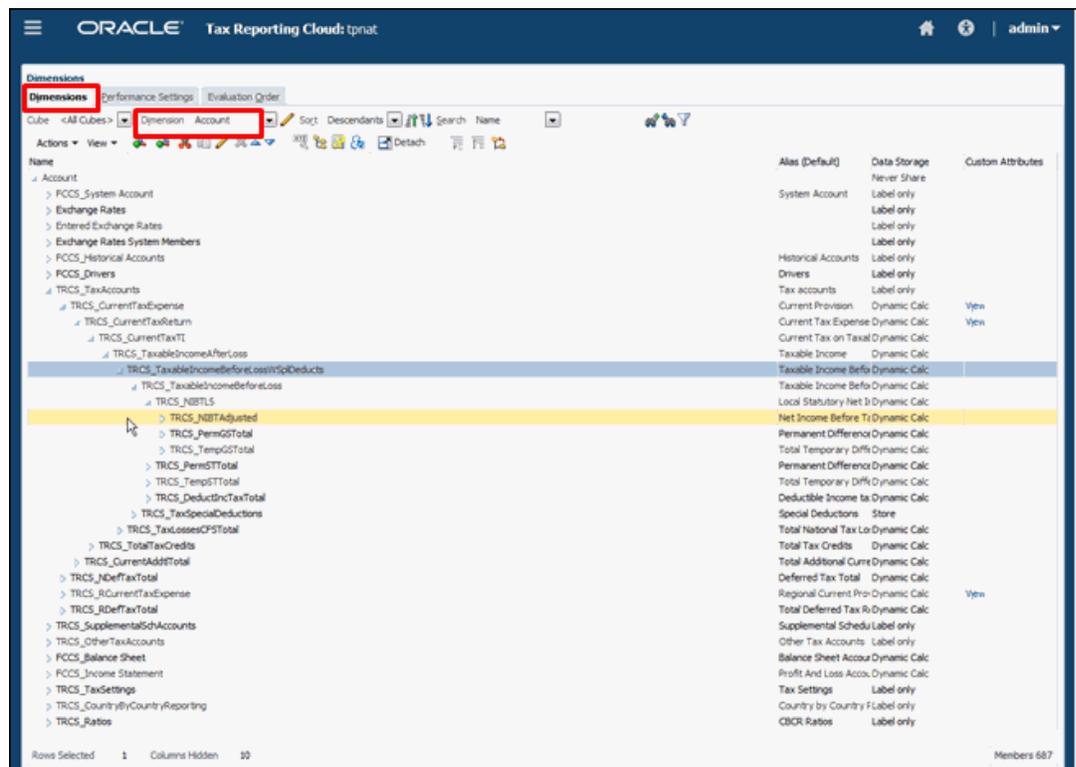
FX オーバーライド差異は、換算通貨で転記されます。

すべてのレポートおよび選択したデータ・フォームでは、次のように異なる通貨でデータを表示できます。

- エンティティ通貨(現地通貨)
- レポート通貨

NIBT FX レートを構成するには:

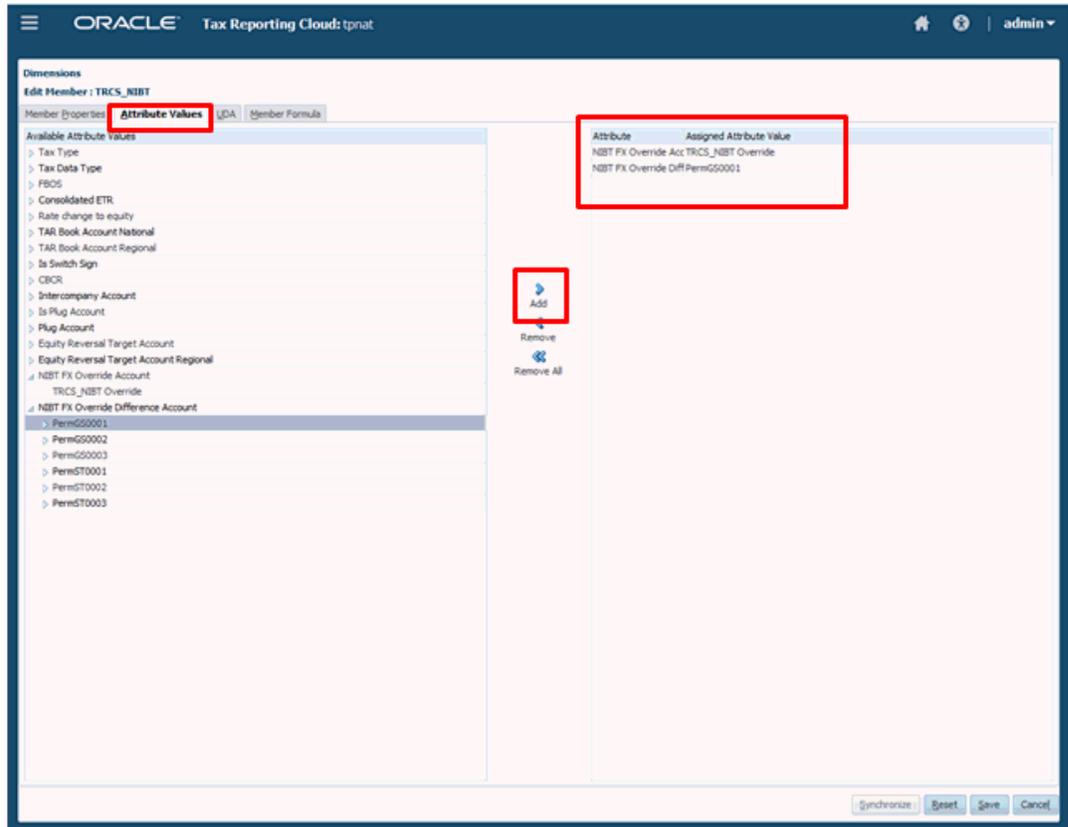
1. ナビゲータで「ディメンション」、「勘定科目」の順に選択します。
2. 「TRCS\_TaxAccounts」、「TRCS\_NIBTLS」、「TRCS\_NIBTAdjusted」の順に展開します。これらは事前シード済のメンバーです。



3. 「アクション」ツールバーで、「編集」をクリックし、「メンバーの編集」画面で「属性値」をクリックします。
4. **NIBT FX オーバーライド勘定科目**および**NIBT FX オーバーライド差異勘定科目**で、指定したレートで換算が正しく実行されるように、各勘定科目タイプから 1 つ選択してから、「追加」、「保存」の順にクリックします。  
各差異勘定科目は一意である必要があり、そうでない場合は、もう 1 つの差異勘定科目は上書きされます。たとえば、同じオーバーライド勘定科目を使用できますが、構成で固有の差異勘定科目を選択する必要があります。

 **ノート:**

差異勘定科目に自動化された税金または調整を転記しないでください。



5. ホーム・ページで、「ライブラリ」を選択し、「フォーム」で、「税金管理」を展開して、「NIBT FX レート・オーバーライド」を選択します。  
画面にシナリオ、年およびエンティティ(基本または親)が表示され、レート勘定科目(NIBT オーバーライド・レート)と使用可能なすべての入力通貨が表示されます。

Scenario		Years	Entity									
Actual		FY15	San Jose	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9
NIBT Override Rate	USD								1.5			
	ARS											
	AUD											
	BRL											
	CAD											
	CHF											
	CNY											
	COP											
	DKK											
	EUR											
	GBP											
	HKD											
	JPY											
	KRW											
	MXN											
	MYR											
	PEN											
	PHP											
	PLN											
	SEK											
	TWD											
	VEB											
	ZAR											

6. 「エンティティ通貨」に、選択した期間の NIBT オーバーライド・レートを入力し、「保存」をクリックします。
7. ホーム・ページで、「**税引当(国)**」、「**パッケージ**」、「**現在の引当金**」の順に選択し、フォームを開きます。
8. 「POV」を「エンティティ通貨」に設定して、NIBT の通貨データの値を表示し、「**アクション**」から、「**連結**」を選択します。  
永久差異(GAAP と法定)または永久差異(法定と税金)で、選択したメンバーを使用して、換算通貨の差異を転記します。「エンティティ通貨」で差異を表示できないため、換算通貨を選択して、結果を表示する必要があります。
9. 「**編集**」で、レポート通貨を選択します。
10. 「**アクション**」で、「**換算**」を選択します。  
NIBT オーバーライド・レートを使用して、値が換算されます。
11. 「現在の引当金」レポートで結果を確認します。

## 加重平均の有効化

「FX レート計算済加重平均」フォームは、アプリケーションの作成時または後から有効化したときに作成されます。機能を有効化するには、*Oracle Tax Reporting Cloud の管理ガイド*の次の手順を参照してください。

- [新規アプリケーションの作成](#)
- [アプリケーションの機能の有効化](#)

機能を有効化すると、「為替レート」の「TRCS\_Weighted Average Rates」の勘定科目ディメンションに、次のものが作成されます。

- TRCS\_Weighted Average FX Rate Calc
- TRCS\_Weighted Average FX Rate Override
- TRCS\_NIBT Weighted Average FX Rate Calc
- TRCS\_NIBT Weighted Average FX Rate Override
- TRCS\_TotalTaxExpenseNIBT

ライブラリで「**FX レート計算済加重平均**」および **TRCS\_NIBT FX レート・オーバーライド・WAR** フォームを使用できます。

NIBT 勘定科目の優先順位は、次のように最低の優先度から最高の優先度に向かいます。

表 12-11 FX レートの優先順位

優先度	FX レートのタイプ
最低の優先度	グローバル平均 FX レート エンティティ平均 FX レート 計算済加重平均 FX レート - 税金費用 加重平均 FX レート・オーバーライド - 税金費用 NIBT FX レート・オーバーライド - NIBT 税金勘定科目のみ NIBT に対する計算済加重平均 FX レート
最高の優先度	NIBT に対する加重平均 FX レート・オーバーライド - ユーザー入力による 履歴金額/レート・オーバーライド - 税金/帳簿勘定科目のみ

表 12-11 (続き) FX レートの優先順位

優先度	FX レートのタイプ
	勘定科目/DS/増減/MG/製品別の履歴金額/レート・オーバーライド

次のトピックを参照してください:

- [NIBT 勘定科目に対する加重平均 FX レート・オーバーライドの計算.](#)
- [その他税金および帳簿勘定科目に対する加重平均 FX レート・オーバーライドの計算.](#)

## 加重平均集計金額オーバーライドのサポート

Tax Reporting では、基本エンティティの加重平均レート金額が親エンティティにロールアップされ、親エンティティの加重平均集計金額をオーバーライドできます。データ不一致を防ぐために親エンティティで加重平均レート金額を再入力する必要はありません。

親エンティティで**金額オーバーライド**を入力し、**集計金額オーバーライド**が基本エンティティからロールアップされると、**金額オーバーライド**に入力した金額が優先とみなされ、加重平均レートの計算に使用されます。

### 機能の有効化

1. この機能を有効にするには、「**構成**」カードに移動し、「**機能を使用可能にする**」をクリックします。[アプリケーションの機能の有効化](#)も参照してください。「**加重平均レート金額を親エンティティに集計**」は既存の「**加重平均**」機能のサブ機能であることに注意してください。



2. 機能を選択し、「**有効化**」をクリックします。関連項目: [加重平均の有効化](#)

## 加重平均レート(WAR)フォームの操作

機能を正常に有効化した後、次のフォームが新規列**集計金額オーバーライド**で更新され、親エンティティの加重平均レート(WAR)集計金額が表示されます:

### FX レート - NIBT オーバーライド WAR

次の例では、**集計金額オーバーライド**列に親エンティティの WAR 集計金額が表示されます。USD 金額オーバーライド・データ(6000)が、集計された基本エンティティから表示されています。また、平均オーバーライド・レートの計算に使用される金額は 0.3 です。このレートが NIBT 勘定科目の換算に使用されます。

FX Rates - NIBT Override WAR ⓘ				
Scenario Actual	Years FY15	Period P3	Entity Total Canada	Multi-GAAP Local GAAP
	NIBT	NIBT	NIBT Weighted Average FX Rate Calculated	NIBT Weighted Average FX Rate Override
	Amount Override	Aggregated Amount Override	Rate Override	Rate Override
Entity Currency	20000			
USD		6000	0.3	
ARS				
AUD				

同じロジックが次の経費オーバーライド・フォームにも適用されます。

### FX レート - 経費オーバーライド - WAR

次の例では、**集計金額オーバーライド**列に親エンティティの WAR 集計金額が表示されます。USD 金額オーバーライド・データ(5000)が、集計された基本エンティティから表示されています。ただし、親レベルに USD 金額(10,000)をオーバーライドするオプションがあり、この金額が優先とみなされ、平均オーバーライド・レート(0.5)が計算されます。このレートが NIBT を除くすべての費用勘定科目の換算に使用されます。

FX Rates - Expense Override - WAR ⓘ				
Scenario Actual	Years FY15	Period P3	Entity Total Canada(CAD)	Multi-GAAP Local GAAP
	Total Tax Expense / NIBT	Total Tax Expense / NIBT	Weighted Average FX Rate Calculated	Weighted Average FX Rate Override
	Amount Override	Aggregated Amount Override	Rate Override	Rate Override
Entity Currency	20000			
USD	10000	5000	0.5	
ARS				
AUD				

#### Note:

前述の 2 つのフォームをカスタマイズしないようにしてください(「構成」 -> 「アクション」 -> 「変更されたアーティファクトの確認」に移動するとクロスチェックできます)。そうしないと、「機能の有効化」オプションで新規列によるフォームの更新が行われなくなります。

「加重平均通貨、連結と勘定科目の組合せ」有効交差も、**集計された金額オーバーライド**・メンバーを親エンティティに対して有効にするように更新されます。

 **Note:**

経費オーバーライド WAR レートが存在する場合、貸借対照表勘定科目は経費オーバーライド WAR レートを使用します。

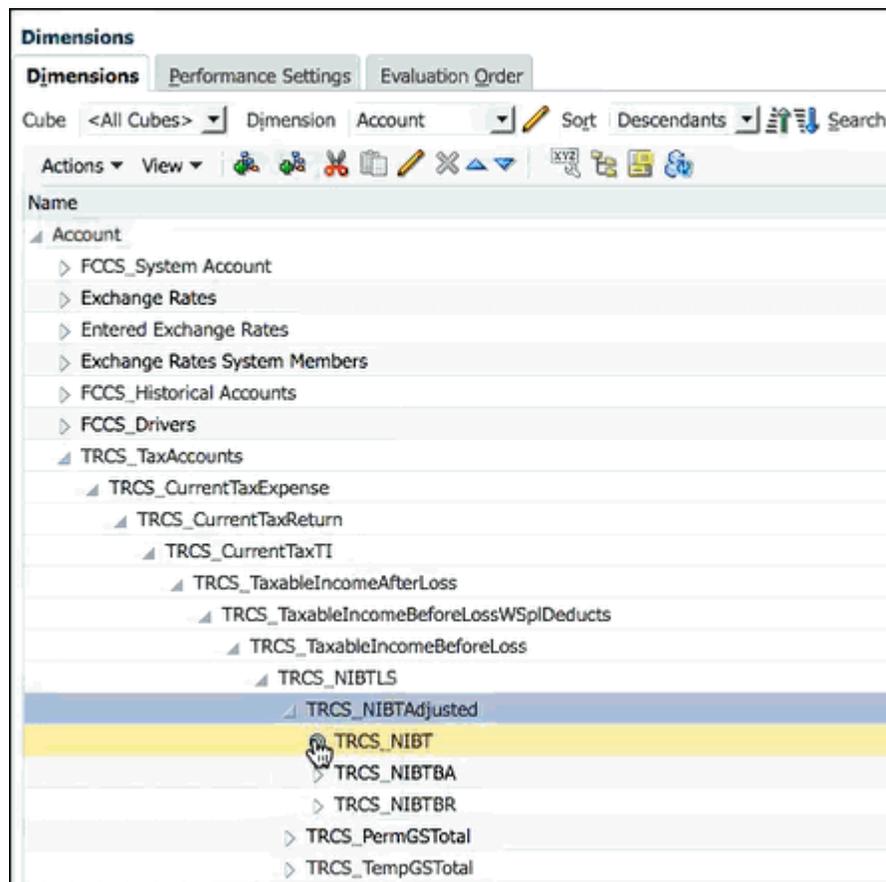
## NIBT 勘定科目に対する加重平均 FX レート・オーバーライドの計算

このオプションを使用すると、NIBT 勘定科目のために特別に加重平均 FX レートを計算できます。入力通貨に対して NIBT 換算金額を入力すると、加重平均 FX レートが計算されます。NIBT に対して計算された加重平均レートは、TRCS\_NIBT 税金勘定科目にのみ適用されます。計算済加重平均 FX はオーバーライドできます

NIBT FX レートは、Consol キューブにのみ入力できます。NIBT FX オーバーライド・レートを構成する必要があります。構成しないと、NIBT WAR は適用されません。NIBT オーバーライド・レートと平均レート\* NIBT との差異は、現在の引当金と、連結および法定有効税率調整の永久差異として分類されます。

NIBT 勘定科目専用の加重平均 FX レートを計算するには:

1. ホーム・ページで「ナビゲータ」アイコン  をクリックし、「作成および管理」で「ディメンション」を選択します。
2. 「ディメンション」タブで、「勘定科目」ディメンションを選択し、「TRCS\_TaxAccounts」を展開してメンバー「TRCS\_NIBT」を選択します。



3. 「アクション」 ツールバーで、「編集」  をクリックして「メンバーの編集」画面を開き、「属性値」をクリックします。
4. 「属性値」 タブで、次の属性を選択し、「追加」、「保存」の順にクリックします:
  - NIBT FX オーバーライド勘定科目
  - NIBT FX オーバーライド差異勘定科目

 **ノート:**

「エンティティ通貨」の「データなし」は、換算金額の差異計算に使用されるため、差異勘定科目である必要があります。

5. ホーム・ページで、「ライブラリ」、「フォーム」、「税金管理」、TRCS\_NIBT FX レート・オーバーライド - WAR フォームの順に選択します。
6. TRCS\_NIBT FX レート・オーバーライド - WAR フォームで、POV を選択します。「NIBT」の下にある「エンティティ通貨」は、連結後の「現在の引当金」レポートの NIBT ソースから取得されます。

 ノート:

「エンティティ通貨」に表示される金額は、POV で選択したそれぞれの通貨の下にも表示されます。たとえば、エンティティが CAD 通貨を使用するモントリオールにあり、CAD に対して同じ金額が表示される場合、計算済加重平均 FX レートは 1 として表示されます。入力したその他の通貨には、その通貨の計算済加重平均 FX レートが表示されます

7. **オプション:** 換算金額をそれぞれの通貨(USD や EUR など)にロードします。

TRCS_NIBT FX Rates Override -... 				
Scenario	Years	Period	Entity	Multi-GAAP
Actual	FY15	P12	Montreal	Local GAAP
	NIBT		NIBT Weighted Average FX Rate Calculated	NIBT Weighted Average FX Rate Override
Entity Currency	131000			
USD	65500		0.5	
ARS				
AUD				
BRL				
CAD	131000		1	
CHF				
CNY				
COP				
DKK				

8. **NIBT 加重平均 FX レート計算済**列に、各通貨の導出レートが表示されます。計算済のレートは NIBT 勘定科目にのみ適用されます。
9. ホーム・ページで、「**税引当(国)**」、「**パッケージ**」、「**現在の引当金**」タブの順に選択し、レポートに対して「**連結**」を実行します。
10. POV を「エンティティ通貨」に設定します。
11. 「現在の引当金」レポートの「**合計**」列に、換算値が表示されます。税引前純利益勘定科目の下の Perm 3 - XXXXX 勘定科目にはデータがないことに注意してください。POV で、通貨をそれぞれの通貨に設定して換算値を表示できます。

Overview | **Current Provision** | Tax Losses | Tax Credits | Temporary Differences | Deferred Tax | DTNR | Deferred

### Current Provision ⓘ

Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency
Actual	FY15	P12	Montreal(USD,CAD)	Entity Total	Canada	Local GAAP	Entity Currency
				Automated	Adjustment	Total	
NIBT				131000	6500	137500	
⊕ Book Adjustments to NIBT					7000	7000	
⊕ NIBT Total Book Reclass					1500	1500	
⊕ Net Income Before Tax				131000	15000	146000	
Perm 1 - XXXXX				1500	-10000	-8500	
Perm 2 - XXXXX					2000	2000	
Perm 3 - XXXXX							
⊕ Permanent Differences (GAAP to Stat)				1500	-8000	-6500	
⊕ Total Temporary Differences (GAAP to Stat)				1500	13544	15044	
Local Statutory Net Income Before Tax				134000	20544	154544	
⊕ Permanent Differences (Stat to Tax)							
⊕ Total Temporary Differences (Stat to Tax)					21300	21300	
⊕ Deductible Income tax				-1350	-518	-1868	
Taxable Income Before Loss				132650	41326	173976	
Special Deductions					10000	10000	
⊕ Total National Tax Losses - Carryforward Automated							
Taxable Income				132650	51326	183976	
Current Year Tax Rate				35%	35%	35%	
Current Tax on Taxable Income				46428	17964	64391	
⊕ Total Tax Credits					-10000	-10000	
Current Tax Expense per Return				46428	7964	54391	
⊕ Total Additional Current Provision							
Current Provision				46428	7964	54391	

 ノート:

帳簿勘定科目に同じ NIBT 加重平均レートを適用して、換算時に NIBT と帳簿勘定科目の両方が同じ値を持つようにするには、次のステップに従います:

1. ディメンション・ライブラリに移動し(*Tax Reporting* の管理のディメンションの操作を参照)、NIBT 税金自動化のソース元になる親勘定科目を選択します。
2. 「編集」をクリックし、**カスタム属性**タブを選択します。
3. カスタム属性 ApplyWARRate->ApplyNIBTWARRate を設定します。
4. 「保存」をクリックしてデータベースをリフレッシュします。

属性が親勘定科目で設定されている場合は、その下のすべての子で NIBT 加重平均レートが使用されることに注意してください。または、関連する基本勘定科目で属性を指定することもできます。

## その他税金および帳簿勘定科目に対する加重平均 FX レート・オーバーライドの計算

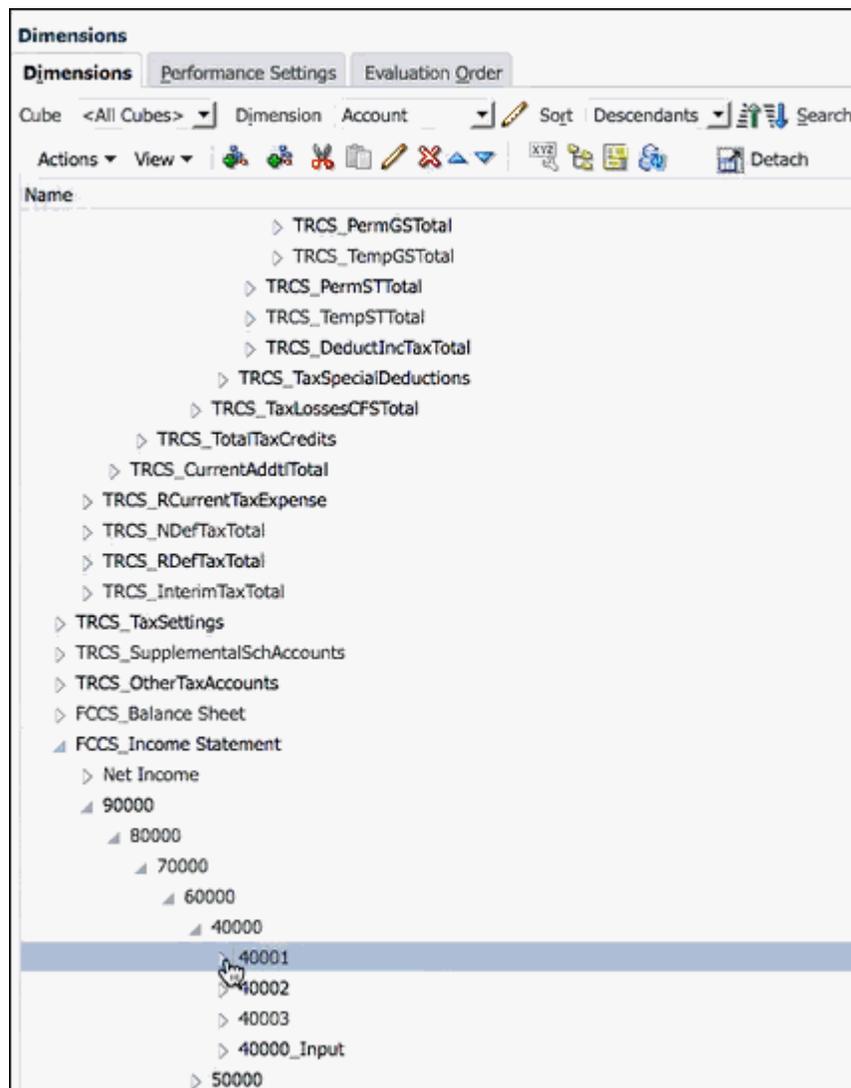
ソース勘定科目を選択して、税金および帳簿勘定科目に対する加重平均レートを計算します。このレートは、タイム・バランスが「フロー」のすべての勘定科目に適用されます。

計算済加重平均 FX はオーバーライドできます。

加重平均レートは、基本および親の両方のエンティティで使用できますが、親エンティティの場合は、プロパティへの親データ入力を許可する必要があります。

税金および帳簿勘定科目に対する加重平均 FX レートを計算するには:

1. ホーム・ページで「ナビゲータ」アイコン  をクリックし、「作成および管理」で「ディメンション」を選択します。
2. 「ディメンション」タブで、「勘定科目」ディメンションを選択し、「FCCS\_Income Statement」を展開して、加重平均 FX レートを計算するソースとして使用する勘定科目を選択します(例: 40001)。



3. 「アクション」 ツールバーで、「編集」  をクリックして「メンバーの編集」画面を開き、「属性値」タブをクリックします。
4. 「属性値」タブで、「WARExpSrcAccount」属性を選択し、「追加」、「保存」の順にクリックします。このアクションによって、加重平均レートの計算に使用される予定の税金費用勘定科目がタグ付けされます。この属性を使用して、複数の帳簿勘定科目をタグ付けできます。
5. ホーム・ページで、「ライブラリ」、「フォーム」、「税金管理」、「FX レート計算済加重平均」フォームの順に選択します。
6. 「FX レート計算済加重平均」フォームで POV を選択します。「合計税金費用/NIBT」の下にある「エンティティ通貨」は、連結後の「現在の引当金」レポートから取得されます。

 ノート:

「エンティティ通貨」に表示される金額は、POV で選択したそれぞれの通貨の下にも表示されます。たとえば、エンティティが CAD 通貨を使用するモントリオールにあり、CAD に対して同じ金額が表示される場合、計算済加重平均 FX レートは 1 として表示されます。入力したその他の通貨には、その通貨の計算済加重平均 FX レートが表示されます

7. オプション: 換算金額をそれぞれの通貨(USD や EUR など)にロードします。

FX Rates Calculated Weighted ... ⓘ				
Scenario	Years	Period	Entity	Multi-GAAP
Actual	FY15	P12	Montreal	Local GAAP
	Total Tax Expense / NIBT	Weighted Average FX Rate Calculated	Weighted Average FX Rate Override	
Entity Currency	262000			
USD	65500	0.25		
ARS				
AUD				
BRL				
CAD	262000	1		
CHF				
CNY				
COP				
DKK				
EUR				
GBP				

8. **加重平均 FX レート計算済**列に、各通貨の導出レートが表示されます。計算済のレートは NIBT 勘定科目にのみ適用されます。
9. ホーム・ページで、「**税引当(国)**」、「**パッケージ**」、「**現在の引当金**」タブの順に選択し、レポートに対して「**連結**」を実行します。
10. POV を「エンティティ通貨」に設定します。
11. 「現在の引当金」レポートの「**合計**」列に、換算値が表示されます。税引前純利益勘定科目の下の Perm 3 - XXXXX 勘定科目にはデータがないことに注意してください。POV で、通貨をそれぞれの通貨に設定して換算値を表示できます。

Overview | **Current Provision** | Tax Losses | Tax Credits | Temporary Differences | Deferred Tax | DTNR | Deferr

**Current Provision** ⓘ

Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency
Actual	FY15	P12	Montreal(USD,CAD)	Entity Total	Canada	Local GAAP	Entity Currency
				Automated	Adjustment	Total	
NIBT				131000	6500	137500	
⊕ Book Adjustments to NIBT					7000	7000	
⊕ NIBT Total Book Reclass					1500	1500	
⊖ Net Income Before Tax				131000	15000	146000	
Perm 1 - XXXXX				1500	-10000	-8500	
Perm 2 - XXXXX					2000	2000	
Perm 3 - XXXXX							
⊖ Permanent Differences (GAAP to Stat)				1500	-8000	-6500	
⊕ Total Temporary Differences (GAAP to Stat)				1500	13544	15044	
Local Statutory Net Income Before Tax				134000	20544	154544	
⊕ Permanent Differences (Stat to Tax)							
⊕ Total Temporary Differences (Stat to Tax)					21300	21300	
⊕ Deductible Income tax				-1350	-518	-1868	
Taxable Income Before Loss				132650	41326	173976	
Special Deductions					10000	10000	
⊕ Total National Tax Losses - Carryforward Automated							
Taxable Income				132650	51326	183976	
Current Year Tax Rate				35%	35%	35%	
Current Tax on Taxable Income				46428	17964	64391	
⊕ Total Tax Credits					-10000	-10000	
Current Tax Expense per Return				46428	7964	54391	
⊕ Total Additional Current Provision							
Current Provision				46428	7964	54391	

## 取得時換算勘定の外国為替レートおよび金額のオーバーライドの入力

オーバーライド・レートおよび金額を使用するために取得時換算勘定のメンバー・プロパティを編集して、取得時換算帳簿勘定のレートおよび金額のオーバーライドを構成できます。

次のように、履歴レートを必要とする勘定科目で次のオプションを使用して、現在の期間をオーバーライドできます。

- 履歴レート・オーバーライド - 通貨換算時に、当期為替レートのかわりに履歴為替レートを使用できます。取得時換算勘定レートのオーバーライドは、帳簿勘定科目(損益計算書または貸借対照表の勘定科目メンバー階層内の勘定科目)での使用のみを目的としています。
- 履歴金額オーバーライド - 通貨換算が発生しない場合に当期換算値で履歴換算金額を使用できます。

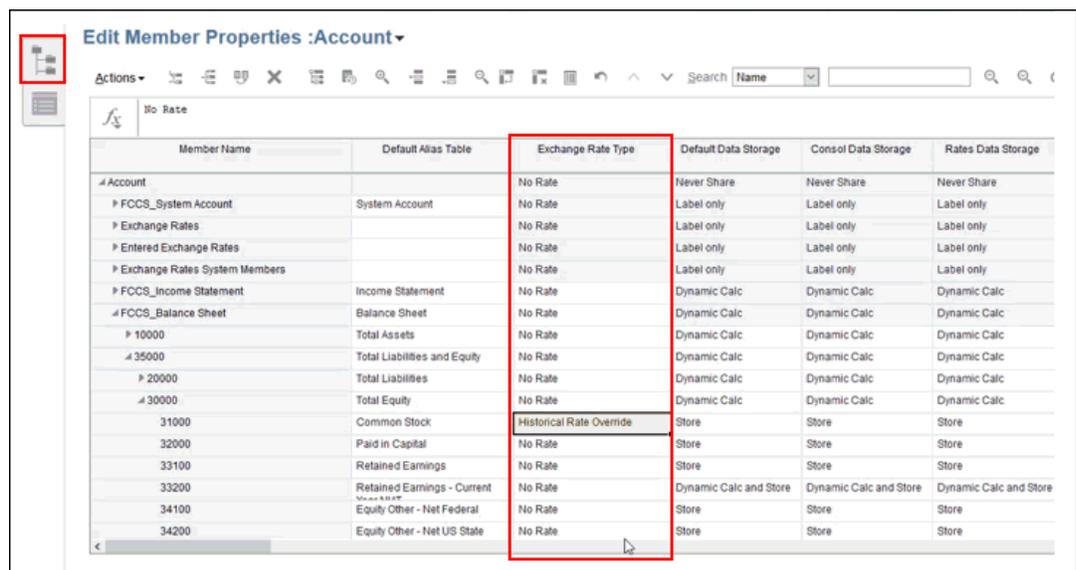
オーバーライドのレートと金額は、Consol キューブに格納されます。取得時換算勘定のオーバーライド・レートをロードする場合、それらは Rates キューブではなく Consol キューブにロードされる必要があります。

選択した為替レート・タイプに基づいて勘定科目の履歴レートまたは金額のオーバーライドを選択すると、勘定科目は、共有メンバーとして FCCS\_Historical Accounts 階層に自動的に追加されます。FCCS\_Historical Accounts の基本レベルの勘定科目は、レートの入力に使用される「FX レート・オーバーライド」フォームに表示されます。Oracle Tax Reporting Cloud の履歴レートは、すべての増減メンバーに適用されます。

次のビデオを参照してください:  [Tax Reporting Cloud](#) での取得時換算勘定の外国為替レートおよび金額のオーバーライドの構成。

履歴外国為替レートを構成するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「概要」、「ディメンション」の順にクリックします。
2. 「勘定科目」を選択し、「メンバー・プロパティの編集」タブを選択します。
3. 「メンバー名」で、FCCS\_Balance Sheet を展開し、履歴外国為替レートまたは金額を適用する勘定科目を選択します。
4. 「為替レート・タイプ」列で、ドロップダウンから適切なレート・タイプを選択します。
  - 履歴レート・オーバーライド
  - 履歴金額オーバーライド

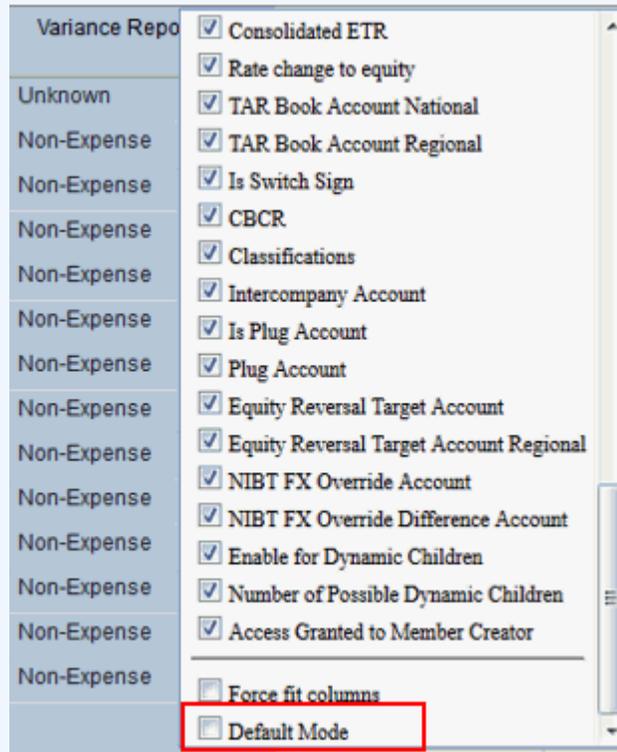


Member Name	Default Alias Table	Exchange Rate Type	Default Data Storage	Consol Data Storage	Rates Data Storage
Account		No Rate	Never Share	Never Share	Never Share
FCCS_System Account	System Account	No Rate	Label only	Label only	Label only
Exchange Rates		No Rate	Label only	Label only	Label only
Entered Exchange Rates		No Rate	Label only	Label only	Label only
Exchange Rates System Members		No Rate	Label only	Label only	Label only
FCCS_Income Statement	Income Statement	No Rate	Dynamic Calc	Dynamic Calc	Dynamic Calc
FCCS_Balance Sheet	Balance Sheet	No Rate	Dynamic Calc	Dynamic Calc	Dynamic Calc
10000	Total Assets	No Rate	Dynamic Calc	Dynamic Calc	Dynamic Calc
35000	Total Liabilities and Equity	No Rate	Dynamic Calc	Dynamic Calc	Dynamic Calc
20000	Total Liabilities	No Rate	Dynamic Calc	Dynamic Calc	Dynamic Calc
30000	Total Equity	No Rate	Dynamic Calc	Dynamic Calc	Dynamic Calc
31000	Common Stock	Historical Rate Override	Store	Store	Store
32000	Paid in Capital	No Rate	Store	Store	Store
33100	Retained Earnings	No Rate	Store	Store	Store
33200	Retained Earnings - Current	No Rate	Dynamic Calc and Store	Dynamic Calc and Store	Dynamic Calc and Store
34100	Equity Other - Net Federal	No Rate	Store	Store	Store
34200	Equity Other - Net US State	No Rate	Store	Store	Store

 ノート:

デフォルトでは、使用可能な列で「デフォルト・モード」が有効で、適切な列の選択のみが表示されます。「為替レート・タイプ」列が表示されない場合、次のように「デフォルト・モード」を無効にしてすべてのプロパティ列を表示する必要があります。

- a. 任意の列ヘッダーを選択して右クリックすると、「使用可能な列」リストが表示されます。
- b. リストの一番下までスクロールして、「デフォルト・モード」の選択を解除し、すべての列を追加します。



- c. 「為替レート・タイプ」列を見つけ、選択を行います。

5. 「保存」、「閉じる」の順にクリックします。
6. 「アプリケーション」画面の「ディメンション」タブで、「リフレッシュ」をクリックして変更を適用します。
7. ホーム・ページで「ライブラリ」をクリックし、「税金管理」を展開して、「FX レート・オーバーライド」フォームを開きます。

		P1		P2		P3		P4		P5		Rate O
		Rate Override	Amount Override	Rate O								
Rate Override Accounts	USD	85		85		85		85		85		
	ARS											
	AUD											
	BRL											
	CAD											
	CHF											
	CNY											
	COP											
	DKK											
	EUR											
	GBP											
	HKD											
	JPY											
	KRW											
	MXN											
	MYR											
	PEN											
	PHP											
	PLN											
	SEK											
	TWD											
	VEB											
	ZAR											
Amount Override Accounts	USD		8000		8000		8000		8000		8000	
	ARS											
	AUD											
	BRL											
	CAD											

- POV で、履歴レートおよび金額を追加する基本または親エンティティを選択します。FCCS\_Historical Accounts 階層のすべての勘定科目が表示されます。

#### ノート:

データ入力に使用できるのは、選択したレートまたは金額のオーバーライドに関連付けられた列のみです。たとえば、履歴レート・オーバーライド勘定科目を選択すると、レート・オーバーライド列を使用できます。金額オーバーライドを入力するには、履歴金額オーバーライド勘定科目を選択する必要があります。

- オプション:** 履歴レート・オーバーライド勘定科目では、**レート・オーバーライド**列で各期間の履歴レートを入力し、POV のエンティティの基本通貨から行の通貨に換算できます。比率をパーセントで入力します。たとえば、.85 とします。
- オプション:** 履歴金額オーバーライドでは、**金額オーバーライド**列で換算値を入力し、各期間の勘定科目に使用できます。
- 「保存」をクリックします。

#### ノート:

トライアングレーションは含まれないため、オーバーライド・レートおよび金額の入力後、レートの計算ルールを実行する必要はありません。

## 税金勘定科目の金額オーバーライドおよびレート・オーバーライドの操作

### 関連トピック:

- [金額オーバーライドおよびレート・オーバーライドの有効化](#)
- [オーバーライド・フォームへのアクセス](#)
- [帳簿または税金勘定科目への FX レート勘定科目の適用](#)
- [税金勘定科目への金額またはレートのオーバーライド](#)
- [金額とレートの FX オーバーライド移行の後の、ユーザーがカスタマイズしたアーティファクトの更新](#)

### Note:

次の勘定科目は、FX レート/金額オーバーライドをサポートしていません:

- TAR 勘定科目(このため、換算された数値は、遅延税金スケジュールと TAR を比較したときに一致しません)
- BVT/補助勘定科目(損失/貸方の詳細/固定資産/現在の未払税)
- CbCR 勘定科目

[加重平均の有効化](#)の FX レートの優先順位に関する表を参照してください。

## 金額オーバーライドおよびレート・オーバーライドの有効化

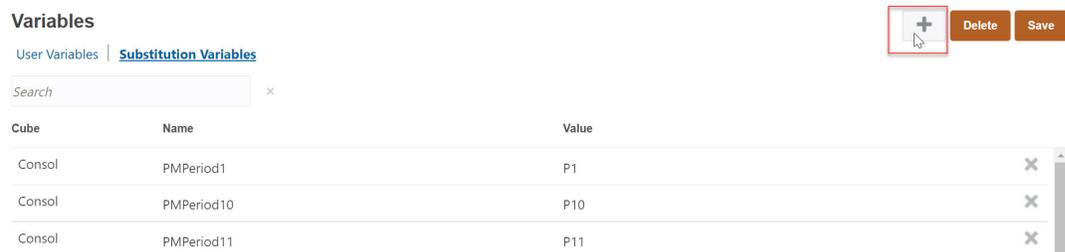
### 関連トピック:

- [代替変数の使用](#)
- [データの移行](#)

## 代替変数の使用

この機能を有効にするには、次の代替変数を有効にする必要があります:

1. ホーム・ページに移動します。
2. 「ツール」の下で、「変数」を選択します。
3. 代替変数に切り替えて、「追加」(+アイコン)をクリックします。



The screenshot shows a web interface for managing variables. At the top right, there are buttons for '+', 'Delete', and 'Save'. Below these, there are tabs for 'User Variables' and 'Substitution Variables'. A search bar is present. The main area contains a table with columns 'Cube', 'Name', and 'Value'. The table lists three substitution variables for the 'Consol' cube.

Cube	Name	Value
Consol	PMPeriod1	P1
Consol	PMPeriod10	P10
Consol	PMPeriod11	P11

4. 次の詳細を入力して変数を追加します([Tax Reporting の管理の代替変数の作成](#)を参照):

- キューブ: Consol
- 変数名: FxOverrideByConsolidationDimensionMembers
- 値: true

## データの移行

この機能を使用するには、データ移行を実行する必要があります。「構成」カードのデータ移行ジョブを使用して、既存の NIBT FX レート・オーバーライド/NIBT WAR および経費 WAR データを新しい連結メンバーに移行できます。

移行タスクにより、連結ディメンション内の次の交差からデータが移行されます:

- FCCS\_Entity Input からの TRCS\_NIBT Override Rate Accounts の子が FCCS\_Rate override へ
- FCCS\_Entity Input からの TRCS\_NIBT Weighted Average FX Rate Override が FCCS\_Amount override へ
- FCCS\_Entity Input からの TRCS\_NIBT Weighted Average FX Rate Calc が FCCS\_Rate override へ
- FCCS\_Entity Input からの TRCS\_Weighted Average FX Rate Override が FCCS\_Amount override へ
- FCCS\_Entity Input からの TRCS\_Weighted Average FX Rate Calc が FCCS\_Rate override へ

データ移行を開始するには:

1. ホーム・ページに移動します。
2. 「アプリケーション」 → 「構成」を選択します。
3. Click on NIBT FX レート、NIBT WAR および経費 WAR データ移行をクリックします。
4. チェック・ボックス「NIBT FX オーバーライド・レート、NIBT WAR および経費 WAR データを移行します」を選択します。
5. 「起動」ボタンをクリックします。データ移行はジョブとして開始され、ジョブの完了にはデータ量に応じて時間がかかる場合があります。

### NIBT FX override rate, NIBT WAR and Expense WAR Data Migration

Migrate NIBT FX override rate, NIBT WAR and Expense WAR Data

This task migrates existing NIBT FX Rate override, NIBT weighted average rate and Expense weighted average rate data stored under "FCCS\_Entity Input" to the "FCCS\_Amount Override" or "FCCS\_Rate Override" Consolidation members. The existing NIBT FX Rate override, NIBT weighted average rate and Expense weighted average rate data will remain under "FCCS\_Entity Input" member and can be cleared manually as desired. This task is launched as a job and can take a long time based on the amount of data. Refer to job "NIBT WAR and Expense WAR Data Migration" for details.

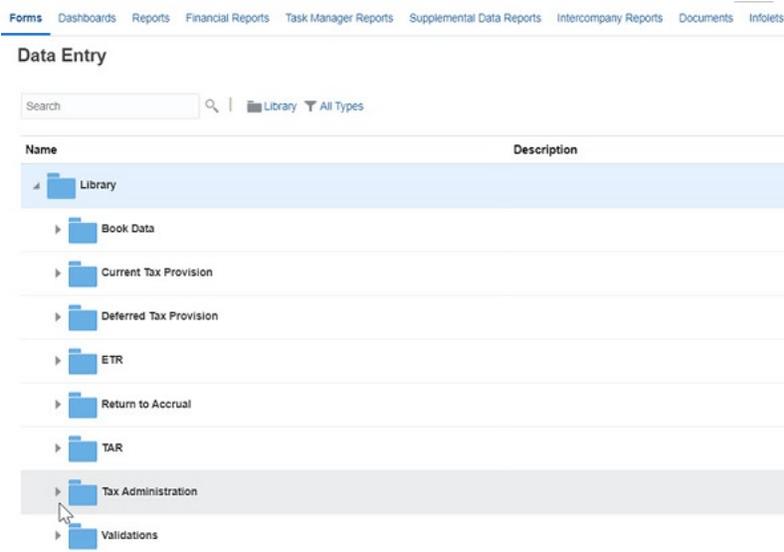
 **Note:**

- 機能フラグが **true** である場合、NIBT FX レート・オーバーライド/NIBT WAR および経費 WAR データは移行されず、連結は失敗します。
- エンティティは、データ移行後に影響を受けません。
- 帳簿勘定科目の履歴 FX 金額/レート・オーバーライド・データの移行は、データ移行タスクでは考慮されません。このデータは手動で移行する必要があります。

## オーバーライド・フォームへのアクセス

このフォームにアクセスするには:

1. ホーム・ページに移動します。
2. 「ライブラリ」に移動します。
3. 「税金管理」フォルダを選択します。



4. 「税金管理」フォルダの下にある「FX レート」フォルダを選択します。すべてのオーバーライド・フォームがリストされます。

Forms Dashboards Reports Financial Reports Task Manager Reports Supplemental Data Reports Intercompany Reports Documents Infolets

### Data Entry

Search | Library All Types

Name	Description
<ul style="list-style-type: none"> <li>Tax Administration           <ul style="list-style-type: none"> <li>FX Rates               <ul style="list-style-type: none"> <li>FX Rates - Book Override</li> <li>FX Rates - Expense Override - WAR</li> <li>FX Rates - Global Account Rate Override</li> <li>FX Rates - NIBT Override</li> <li>FX Rates - NIBT Override WAR</li> <li>FX Rates - Tax Override</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Foreign Exchange Rate/Amount Override for Book Account(s)</li> <li>FX Rates Calculated Weighted Average</li> <li>Custom Foreign Exchange Rate per Account(s)</li> <li>NIBT Foreign Exchange Override Rates</li> <li>NIBT FX Override Rates - Calculated Weighted Average</li> <li>Foreign Exchange Rate/Amount Override for Tax Account(s)</li> </ul>

## 帳簿または税金勘定科目への FX レート勘定科目の適用

### 関連トピック:

- [FX レート・オーバーライド勘定科目の設定](#)
- [FX レート - グローバル勘定科目オーバーライド・フォームの操作](#)

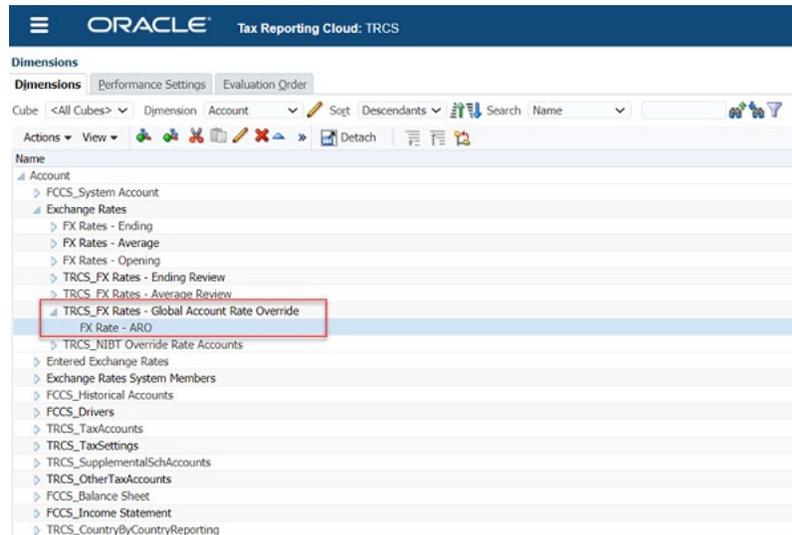
## FX レート・オーバーライド勘定科目の設定

この機能を使用して、外国為替(FX)レート・オーバーライド勘定科目を勘定科目に割り当てます。これにより、FX レート・オーバーライド勘定科目に対して入力されたレートが、割り当てられた勘定科目に適用されます。(帳簿または税金勘定科目に対して FX レート勘定科目を構成するために作成された)カスタム属性「FX レート - グローバル・アカウント・レート・オーバーライド」を使用すると、レート勘定科目を基本勘定科目に割り当てることができます。「FX レート - グローバル・アカウント・レート・オーバーライド」は、メンバー・ドリブン・カスタム属性であり、TRCS\_FX Rates - Global Account Rate Override 階層の下に作成されたメンバーを自動的に同期します。

### 構成例

次の例では、一時差異勘定科目の FX レート・オーバーライド勘定科目を設定する方法を示します(ARO など):

1. **ディメンション・ライブラリ**に移動します。*Tax Reporting* の管理の**勘定科目ディメンション**を参照してください。
2. 「**勘定科目**」をクリックします。
3. 「**為替レート**」階層を展開します。
4. 「メンバー・プロパティの編集: 勘定科目」ウィンドウが開きます。
5. **TRCS\_FX Rates - Global Account Rate Override** 階層を選択します。
6. TRCS\_FX Rates - Global Account Rate Override 階層の下に勘定科目を作成し、**FX Rate - ARO** と名前を付けて保存します。

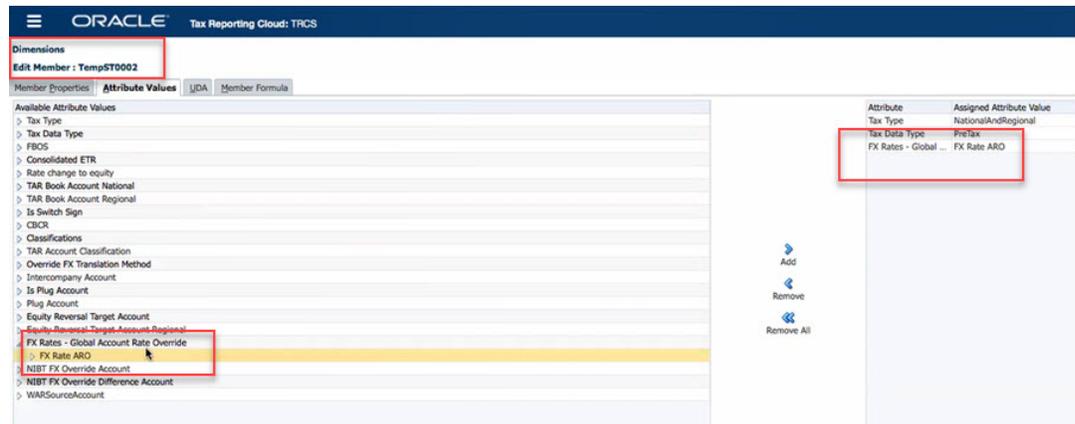


7. 一時差異勘定科目 TempST0002 (ARO)を選択して、「編集」



アイコンをクリックし、「属性値」タブを選択します。

8. 「FX レート - グローバル・アカウント・レート・オーバーライド」を展開して、**FX Rate - ARO** を選択して保存します。



9. FX Rate ARO 階層の下に作成した勘定科目が、その下にリストされて表示されます。それ以外の場合は、下部の

**Synchronize**

ボタンをクリックして、FX レート勘定科目のリストをリフレッシュします。

10. データベースのリフレッシュを実行します。
11. ライブラリに移動して、「税金管理」、「FX レート」フォルダの順に展開します。
12. **TRCS\_FX Rates - Global Account Rate Override** フォームを開きます。
13. 期間の FX レートを入力し、データを送信します。
14. 「連結/換算」を実行すると、FX レートが TempST0002(ARO)勘定科目に適用されます。

 **Note:**

- 前述の例で FX Rate – ARO 勘定科目に入力した FX レートは、TempST002 勘定科目/すべての増減(期首残高メンバー、期首残高調整メンバーおよび課税損失期首調整を除く)の換算に使用されます。
- FX レート勘定科目は、複数の勘定科目に指定できます。FX レート勘定科目に関連付けられるすべての勘定科目は、FX レート勘定科目に入力されたレートに基づいて換算されます

## FX レート – グローバル勘定科目オーバーライド・フォームの操作

フォームで作業するには:

1. 「FX レート」フォルダに移動します(オーバーライド・フォームへのアクセスを参照)。
2. 「FX レート - グローバル・アカウント・レート・オーバーライド」を選択します。
3. 「FX レート - グローバル・アカウント・レート・オーバーライド」フォームが開きます。このフォームを使用して、シナリオ/年/期間およびエンティティ別に FX オーバーライド・レートを入力します。

FX Rates - Global Account Rat..

Scenario	Years	Entity	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	ISA	Audit
Actual	FY15	Montreal(CAD)												1.2		
FX Rate ARO	USD													1.2		
	ARS															
	AUD															
	BRL															
	CAD															
	CHF															
	CNY															
	ODP															
	DKK															
	EUR															
	GBP															
	HKD															
	JPY															
	KRW															
	MXN															
	MYR															
	PEN															
	PHP															
	PLN															
	SEK															
	TWD															
	VEB															

ここで、FX レート ARO 勘定科目の P12 期間のレートは 1.2 であることがわかります。これにより、このカスタム FX レート ARO を使用するすべての勘定科目のレートは 1.2 となります。

4. 「一時差異」の下で、ARO 勘定科目の換算されたデータに注意してください。次のスクリーンショットでは、監査の解決(繰延のみ)が 1000、他の調整(繰延のみ)が 2000 と示されています。

Overview Current Provision Tax Losses Tax Credits **Temporary Differences** Deferred Tax DTNR Deferred Tax Post DTNR Tax Rates FX Rates

**Temporary Differences**

Scenario Actual	Years FY15	Period P12	Entity Montreal(CAD)	Consolidation Entity Input	Jurisdiction Canada	Multi-GAAP Local GAAP	Currency Entity Currency	Adjustment Reversal	Adjustment Total	CY Total	Return to Accrual (Deferred Only)	Audit Settlements (Deferred Only)	Other Adjustments - Automated (Deferred Only)	Other Adjustments (Deferred Only)	Other Adjustments Total (Deferred Only)	Transfers (Deferred Only)	Prior Year Adjustment (Deferred Only)	Contingency (Deferred Only)	PAL Total		
Total Temporary Differences (GAAP to Stat)									13544	15044				25000		25000				40044	
Total PPE									5900	5900											5900
ARO												1000		2000	2000				3000		
Finance Cost												1000		1500	1500					2500	
Stock Compensation									5000	5000										5000	
Equity/OCI																					
Intangible																					
FAPI												1000		1000	1000				2000		
Pension									800	800										800	
Temp ST1									600	600										600	
Temp ST2									9000	9000											9000
Total Temporary Differences (Stat to Tax)									21300	21300		3000		4500	4500					28800	
Total Temporary Differences									34844	36344		3000	25000	4500	29500					68844	
Total National Tax Losses - Carryforward Automated																					
Total National Tax Losses																					
Total Tax Credits Carryforward																					

5. ただし、レート 1.2 の適用後、**監査の解決(繰延のみ)**は  $1000 * 1.2 = 1200$  となり、**他の調整(繰延のみ)**は  $2000 * 1.2 = 2400$  となります。

Overview Current Provision Tax Losses Tax Credits **Temporary Differences** Deferred Tax DTNR Deferred Tax Post DTNR Tax Rates FX Rates

**Temporary Differences**

Scenario Actual	Years FY15	Period P12	Entity Montreal(CAD)	Consolidation Entity Input	Jurisdiction Canada	Multi-GAAP Local GAAP	Currency Entity Currency	Adjustment Reversal	Adjustment Total	CY Total	Return to Accrual (Deferred Only)	Audit Settlements (Deferred Only)	Other Adjustments - Automated (Deferred Only)	Other Adjustments (Deferred Only)	Other Adjustments Total (Deferred Only)	Transfers (Deferred Only)	Prior Year Adjustment (Deferred Only)	Contingency (Deferred Only)	
Total Temporary Differences (GAAP to Stat)									10564	11734				19500		19500			
Total PPE									4602	4602									
ARO												1200		2400	2400				
Finance Cost												500		1170	1170				
Stock Compensation									3900	3900									
Equity/OCI																			
Intangible																			
FAPI												780		780	780				
Pension									624	624									
Temp ST1									468	468									
Temp ST2									7020	7020									
Total Temporary Differences (Stat to Tax)									16614	16614		2480		4350	4350				
Total Temporary Differences									27178	28348		2480	19500	4350	23850				

## 税金勘定科目への金額またはレートのオーバーライド

この機能を使用して、増減、管轄、複数 GAAP およびカスタム・ディメンション別に税金勘定科目の金額オーバーライドまたはレート・オーバーライドを入力します。FCCS\_Historical Accounts の下に、次の 2 つの新しい階層が作成されています：

- FCCS\_Amount Override Accounts
- FCCS\_Rate Override Accounts

勘定科目の為替レート・プロパティが「履歴金額オーバーライド」または「履歴レート・オーバーライド」として設定されている場合は、それぞれの階層の下に勘定科目の共有メンバーが作成されます。

- ▶ FCCS\_Historical Accounts
  - ▶ FCCS\_Rate Override Accounts
  - ▶ FCCS\_Amount Override Accounts
  - ▶ TRCS\_Tax Rate Override Accounts
  - ▶ TRCS\_Tax Amount Override Accounts

 **Note:**

- 勘定科目が帳簿勘定科目の場合は、FCCS\_Rate Override Accounts 階層および FCCS\_Amount Override Accounts 階層に共有メンバーが作成されます。
- 勘定科目が税金勘定科目の場合は、TRCS\_Tax Rate Override Accounts 階層および TRCS\_Tax Amount Override Accounts 階層に共有メンバーが作成されます。

**例:**

- 勘定科目に税属性(税データ・タイプ/税タイプ)が設定されている場合、その勘定科目は税金勘定科目として扱われ、「為替レート・タイプ」が「履歴金額オーバーライド」の場合は「TRCS\_Tax Amount Override Accounts」階層の下で共有されます。
- 勘定科目が税金勘定科目ではなく、「為替レート・タイプ」が「履歴金額オーバーライド」の場合は、「FCCS\_Amount Override Accounts」階層の下で共有されます。

**関連トピック:** [フォームの操作: FX レート - 帳簿オーバーライドおよび税金オーバーライドフォーム](#)

## フォームの操作: FX レート - 帳簿オーバーライドおよび税金オーバーライドフォーム

次のフォームを使用して、FX 金額/レート・オーバーライドを入力します:

- FX レート - 帳簿オーバーライド** - このフォームを使用すると、増減、データ・ソース、直轄、複数 GAAP およびカスタム・ディメンション別に帳簿勘定科目の FX オーバーライド・レートを入力できます。

**FX Rates - Book Override** ⓘ

Scenario	Years	Entity	Jurisdiction	Multi-GAAP	Movement	P1		P2		P3		P4	
Actual	FY20	San Jose(USD)	United States	No Multi-GAAP	Book closing	Rate Override	Amount Override						
Rate Override Accounts		USD											
		ARS											
		AUD											
		BRL											
		CAD											
		CHF											
		CNY											
		COP											
		DKK											
		EUR											

- FX レート - 税金オーバーライド** - このフォームを使用すると、増減、直轄、複数 GAAP およびカスタム・ディメンション別に税金勘定科目の FX オーバーライド・レートを入力できます。

FX Rates - Tax Override ⓘ

Scenario	Years	Entity	Jurisdiction	Multi-GAAP	Movement							
Actual	FY20	San Jose(USD)	United States	No Multi-GAAP	Opening Balance							
						P1		P2		P3		P4
						Rate Override	Amount Override	Rate Override	Amount Override	Rate Override	Amount Override	Rate Override
Tax Rate Override Accounts		USD										
		ARS										
		AUD										
		BRL										
		CAD										
		CHF										
		CNY										

関連項目: [オーバーライド・フォームへのアクセス](#)

例: 税金勘定科目の FX レート・オーバーライドの構成

次の例では、NIBT 勘定科目について FX レート・オーバーライドを設定する方法を示します:



10. 「現在の引当金」フォームを開くと、データが換算されています。次のスクリーンショットでは、「調整」の TRCS\_NIBT/エンティティ通貨は「10000」、親通貨は  $10000 * 1.5$  で「15000」と表示されています。

**Current Provision** ⓘ

Scenario Actual	Years FY15	Period P12	Entity Montreal(CAD)	Consolidation Entity Input	Jurisdiction Canada	Multi-GAAP Local GAAP	Currency Entity Currency
				Automated	Adjustment	Total	
NIBT				131000	10000	141000	
⊞ Book Adjustments to NIBT					7000	7000	
⊞ NIBT Total Book Reclass					1500	1500	
⊞ Net Income Before Tax				131000	16500	149500	
⊞ Permanent Differences (GAAP to Stat)				1500	-3000	-1500	
⊞ Total Temporary Differences (GAAP to Stat)				1500	13544	15044	
Local Statutory Net Income Before Tax				134000	28044	163044	
⊞ Permanent Differences (Stat to Tax)							
⊞ Total Temporary Differences (Stat to Tax)					23300	23300	
⊞ Deductible Income tax							
Taxable Income Before Loss				134000	52344	186344	
Special Deductions					1000	1000	
⊞ Total National Tax Losses - Carryforward Automated							
Taxable Income				134000	53344	187344	
Current Year Tax Rate				20%	20%	20%	
Current Tax on Taxable Income				26800	10669	37469	
⊞ Total Tax Credits					-10000	-10000	
Current Tax Expense per Return				26800	669	27469	
⊞ Total Additional Current Provision							

**Current Provision** ⓘ

Scenario Actual	Years FY15	Period P12	Entity Montreal(CAD)	Consolidation Entity Input	Jurisdiction Canada	Multi-GAAP Local GAAP	Currency Parent Currency
				Automated	Adjustment	Total	
NIBT				102180	15000	117180	
⊞ Book Adjustments to NIBT					5460	5460	
⊞ NIBT Total Book Reclass					1170	1170	
⊞ Net Income Before Tax				102180	21630	123810	
⊞ Permanent Differences (GAAP to Stat)				1170	-2340	-1170	
⊞ Total Temporary Differences (GAAP to Stat)				1170	10564	11734	
Local Statutory Net Income Before Tax				104520	29854	134374	
⊞ Permanent Differences (Stat to Tax)							
⊞ Total Temporary Differences (Stat to Tax)					18174	18174	
⊞ Deductible Income tax							
Taxable Income Before Loss				104520	48028	152548	
Special Deductions					780	780	
⊞ Total National Tax Losses - Carryforward Automated							
Taxable Income				104520	48808	153328	
Current Year Tax Rate				20%	20%	20%	
Current Tax on Taxable Income				20670	9606	30276	
⊞ Total Tax Credits					-7800	-7800	
Current Tax Expense per Return				20670	1806	22476	
⊞ Total Additional Current Provision							

 **Note:**

NIBT 勘定科目の税引前と税金の両方のデータ・ソース・メンバーでは、同じ FX オーバーライド・レートが使用されます。

## 例: 税金勘定科目の FX 金額オーバーライドの構成

次の例では、PermGS0002 勘定科目について FX 金額オーバーライドを設定する方法を示します:

 **Note:**

PermGS0002 はサンプルの勘定科目です。

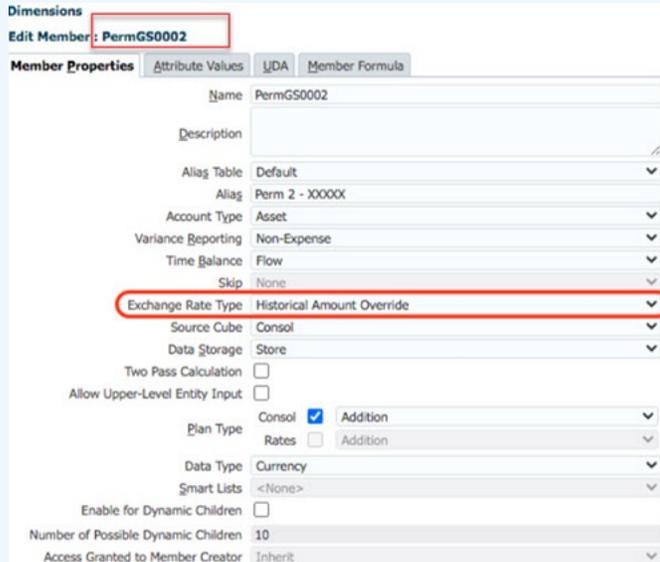
1. **ディメンション・ライブラリ**に移動します。 *Tax Reporting* の管理の **勘定科目ディメンション**を参照してください。

2. **PermGS0002** 勘定科目を選択して、「編集」



アイコンをクリックします。

3. 「為替レート・タイプ」で「**履歴金額オーバーライド**」を選択し、保存します。



Dimensions  
Edit Member: PermGS0002

Member Properties | Attribute Values | UDA | Member Formula

Name: PermGS0002

Description: [Empty]

Alias Table: Default

Alias: Perm 2 - XXXXX

Account Type: Asset

Variance Reporting: Non-Expense

Time Balance: Flow

Skip: None

**Exchange Rate Type: Historical Amount Override**

Source Cube: Consol

Data Storage: Store

Two Pass Calculation:

Allow Upper-Level Entity Input:

Plan Type: Consol  Addition

Rates:  Addition

Data Type: Currency

Smart Lists: <None>

Enable for Dynamic Children:

Number of Possible Dynamic Children: 10

Access Granted to Member Creator: Inherit

4. データベースをリフレッシュします。

5. **ライブラリ**に移動します。

6. 「**税金管理**」フォルダを展開します。

7. **TRCS\_FX Rates - Tax Override** フォームを開きます。フォームに、PermGS0002 勘定科目が自動的に表示されます。

8. POV の FX 金額オーバーライド値を入力し、データを送信します。この例では、「10000」と入力します。

FX Rates - Tax Override

Scenario Actual	Years FY15	Entity Montreal(CAD)	Jurisdiction Canada	Multi-GAAP Local GAAP	Movement Adjustment	P7		P8		P9		P10		P11		P12	
						Rate Override	Amount Override										
		PEN															
		PHP															
		PLN															
		SEK															
		TWD															
		VEB															
		ZAR															
		USD															10000
		ARS															
		AUD															
		BRL															
		CAD															

9. 「**連結/換算**」を実行すると、金額が PermGS0002 勘定科目に適用されます。

10. 「現在の引当金」フォームを開くと、データが換算されています。次のスクリーンショットでは、「調整」の PermGS0002/エンティティ通貨は「2000」、USD は「10000」と表示されています。

Current Provision ⓘ

Scenario Actual	Years FY15	Period P12	Entity Montreal(CAD)	Consolidation Entity Input	Jurisdiction Canada	Multi-GAAP Local GAAP	Currency Entity Curn
				Automated	Adjustment	Total	
Net Income Before Tax				131000	15000	146000	
Perm 1 - XXXXX				1500	-10000	-8500	
Perm 2 - XXXXX					2000	2000	
Perm 3 - XXXXX					5000	5000	
Permanent Differences (GAAP to Stat)				1500	-3000	-1500	
Total Temporary Differences (GAAP to Stat)				1500	13544	15044	
Local Statutory Net Income Before Tax				134000	25544	159544	
Permanent Differences (Stat to Tax)							
Total Temporary Differences (Stat to Tax)					21300	21300	
Deductible Income tax				-1350	-468	-1818	
Taxable Income Before Loss				132650	46376	179026	
Special Deductions Total							
Total National Tax Losses - Carryforward Automated							
Taxable Income				132650	46376	179026	
Current Year Tax Rate				35%	35%	35%	
Current Tax on Taxable Income				46428	16231	62659	
Total Tax Credits					-10000	-10000	
Current Tax Expense per Return				46428	6231	52659	
Total Additional Current Provision							
Current Provision				46428	6231	52659	

Current Provision ⓘ

Scenario Actual	Years FY15	Period P12	Entity Montreal(CAD)	Consolidation Entity Input	Jurisdiction Canada	Multi-GAAP Local GAAP	Currency USD
				Automated	Adjustment	Total	
Net Income Before Tax				120000	7473	127473	
Perm 1 - XXXXX				268	-1787	-1519	
Perm 2 - XXXXX					10000	10000	
Perm 3 - XXXXX				-96590	-3899	-100490	
Permanent Differences (GAAP to Stat)				-96322	4314	-92009	
Total Temporary Differences (GAAP to Stat)				268	2420	2688	
Local Statutory Net Income Before Tax				23946	14207	38153	
Permanent Differences (Stat to Tax)							
Total Temporary Differences (Stat to Tax)					3806	3806	
Deductible Income tax				-241	-84	-325	
Taxable Income Before Loss				23704	17930	41634	
Special Deductions Total							
Total National Tax Losses - Carryforward Automated							
Taxable Income				23704	17930	41634	
Current Year Tax Rate				35%	35%	35%	
Current Tax on Taxable Income				8297	6275	14572	
Total Tax Credits					-1787	-1787	
Current Tax Expense per Return				8297	4488	12785	

 **Note:**

金額オーバーライドは、税引前入力メンバーにのみ適用されます。その他のデータ・ソース・メンバーでは、指定された FX オーバーライド金額をエンティティ通貨値で除算した値に基づいて計算された FX レートを使用します。例:

- PermGS002、エンティティ通貨、税引前入力 → 2,000
- PermGS002、エンティティ通貨、税 → 700 (2,000 \* .35)

換算時の数値は次のとおりです:

- PermGS002、USD、税引前入力 → 10,000 (指定された金額オーバーライドに基づく)
- PermGS002、USD、税 → 3500 (700 \* (10,000 / 2000))

## 金額とレートの FX オーバーライド移行の後の、ユーザーがカスタマイズしたアーティファクトの更新

金額/レート FX オーバーライドの移行後には、いくつかの手動ステップが必要です。

これらのステップは、アプリケーションに次のいずれかの機能がすでに含まれている場合にのみ実行する必要があります:

- NIBT FX オーバーライド・レート
- FX レート・オーバーライド(履歴オーバーライド勘定科目)
- 加重平均レート

前述の機能を使用するすべての統合について、手動ステップを完了する必要があることに注意してください。これらの統合には、次のようなものがあります:

- インポート/エクスポート(フラット・ファイルまたはデータ管理)
- Smart View (フォーム、式、アドホック・グリッド、インポート/エクスポート)
- ユーザー定義 Web フォーム
- ユーザー定義レポート

**関連リンク:**

- [「NIBT 外国為替のオーバーライド・レート」フォームの更新](#)
- [「FX レート・オーバーライド」\(履歴オーバーライド帳簿勘定科目\)フォームの更新](#)
- [NIBT FX オーバーライド WAR フォームの更新](#)
- [「FX レート - 経費オーバーライド - WAR」フォームの更新](#)

## 「NIBT 外国為替のオーバーライド・レート」フォームの更新

「NIBT 外国為替のオーバーライド・レート」では、TRCS\_NIBTOVERRIDE 勘定科目メンバーと結合された連結ディメンション・メンバーを参照するすべての統合で、FCCS\_Entity Input からの連結ディメンション・メンバーを FCCS\_Rate Override に更新します。

**例: ユーザーがカスタマイズしたフォームの更新**

次に示す既存のディメンション・メンバー **FCCS\_Entity Input**:

次のように **FCCS\_Rate\_Override** に変更します:

例: データ・ロード・ファイルの更新(.csv や.txt など)

Account LE101 Point-of-View Data Load Cube Name  
TRCS\_NIBT Override 0.25 FCCS\_No Intercompany, Actual,FY15,P12,FCCS\_Periodic, **FCCS\_Entity Input**,  
USD,FCCS\_No Movement,TRCS\_No Jurisdiction,FCCS\_No Multi-GAAP, FCCS\_No Data Source Consol

Change to

Account LE101 Point-of-View Data Load Cube Name  
TRCS\_NIBT Override 0.25 FCCS\_No Intercompany, Actual,FY15,P12,FCCS\_Periodic, **FCCS\_Rate Override**,  
USD,FCCS\_No Movement,TRCS\_No Jurisdiction,FCCS\_No Multi-GAAP,FCCS\_No Data Source Consol

## 「FX レート・オーバーライド」(履歴オーバーライド帳簿勘定科目)フォームの更新

「FX レート・オーバーライド」(履歴オーバーライド勘定科目)では、FCCS\_Amount Override 勘定科目のすべての勘定科目の子孫の連結ディメンションを参照するすべての統合で、**FCCS\_Entity Input** からの連結ディメンション・メンバーを **FCCS\_Rate Override** に、**FCCS\_AmountOverride** からのデータ・ソース・ディメンション・メンバーを **FCCS\_No Data Source** に更新します。

FCCS\_Rate Override 勘定科目のすべての勘定科目の子孫については、**FCCS\_Entity Input** からの連結ディメンション・メンバーを **FCCS\_Rate Override** に、**FCCS\_AmountOverride** からのデータ・ソース・ディメンションを **FCCS\_No Data Source** に更新します。

### 例: ユーザーがカスタマイズしたフォームの更新

この新機能では、増減/複数 GAAP/データ・ソース/会社間/直轄別の FX 金額/レート・オーバーライドがサポートされているため、フォームで選択できるように、これらすべてのディメンションでカスタマイズ・フォームを更新する必要があります。

変更:

- **増減:** [FCCS\_Movements].[TRCS\_BookClosing],[FCCS\_Movements].[TRCS\_TBClosing]
- **データ・ソース:** ILvl0Descendants([FCCS\_Total Data Source].[FCCS\_TotalInputAndAdjusted])
- **複数 GAAP:** ILvl0Descendants(Multi-GAAP)
- **会社間:** ILvl0Descendants(Intercompany)
- **直轄:** ILvl0Descendants(Jurisdiction) Excluding selection: [Jurisdiction].[TRCS\_No Jurisdiction],[TRCS\_Total Jurisdiction].[TRCS\_No Jurisdiction]



Point of View  
FCCS\_Periodic

Page  
Ilv0Descendants(Scenario)  
Ilv0Descendants(Year)  
Ilv0Descendants(YearTotal)  
Ilv0Descendants(Multi-GAAP)  
Ilv0Descendants(Years)  
Descendants(Entity)  
No Entity,FCCS\_Global Assumptions

Attribute Dimensions

Rows	A	B	C
1 Entity Currency FCCS_No Intercompany [TRCS_CYSysDT],[TRCS_CYSys]	TRCS_NIBT [Jurisdiction],[TRCS_No Jurisdiction] FCCS_AmountOverride FCCS_Entity Input	TRCS_NIBT Weighted Average FX Rate Calc [Jurisdiction],[TRCS_No Jurisdiction] FCCS_No Data Source FCCS_Entity Input	TRCS_NIBT Weighted Average FX Rate Overr [Jurisdiction],[TRCS_No Jurisdiction] FCCS_No Data Source FCCS_Entity Input
2 Descendants(Input Currencies) FCCS_No Intercompany FCCS_No Movement			

変更:

Point of View  
FCCS\_Periodic

Page  
Ilv0Descendants(Scenario)  
Ilv0Descendants(YearTotal)  
Ilv0Descendants(Multi-GAAP)  
Ilv0Descendants(Years)  
Descendants(Entity)  
No Entity,FCCS\_Global Assumptions

Attribute Dimensions

Rows	A	B	C
1 Entity Currency FCCS_No Intercompany [TRCS_CYSysDT],[TRCS_CYSys]	TRCS_NIBT [Jurisdiction],[TRCS_No Jurisdiction] FCCS_No Data Source FCCS_Amount Override	TRCS_NIBT Weighted Average FX Rate Calc [Jurisdiction],[TRCS_No Jurisdiction] FCCS_No Data Source FCCS_Rate Override	TRCS_NIBT Weighted Average FX Rate Overr [Jurisdiction],[TRCS_No Jurisdiction] FCCS_No Data Source FCCS_Rate Override
2 Descendants(Input Currencies) FCCS_No Intercompany FCCS_No Movement			

例: データ・ロード・ファイルの更新(.csv や.txt など)

Account LE101 Point-of-View Data Load Cube Name  
TRCS\_NIBT 0.25 FCCS\_No Intercompany, Actual,FY15,P12,FCCS\_Periodic, **FCCS\_Entity Input**, USD,FCCS\_No Movement,TRCS\_No Jurisdiction,FCCS\_No Multi-GAAP,**FCCS\_AmountOverride** Consol

TRCS\_NIBT Weighted Average FX Rate Override 0.25 FCCS\_No Intercompany, Actual,FY15,P12,FCCS\_Periodic, **FCCS\_Entity Input**, USD,FCCS\_No Movement,TRCS\_No Jurisdiction,FCCS\_No Multi-GAAP,FCCS\_No Data Source Consol

Change to

Account LE101 Point-of-View Data Load Cube Name  
TRCS\_NIBT 0.25 FCCS\_No Intercompany, Actual,FY15,P12,FCCS\_Periodic, **FCCS\_Amount Override**, USD,FCCS\_No Movement,TRCS\_No Jurisdiction,FCCS\_No Multi-GAAP,**FCCS\_No Data Source** Consol

TRCS\_NIBT Weighted Average FX Rate Override 0.25 FCCS\_No Intercompany, Actual,FY15,P12,FCCS\_Periodic, **FCCS\_Rate Override**, USD,FCCS\_No Movement,TRCS\_No Jurisdiction,FCCS\_No Multi-GAAP,FCCS\_No Data Source Consol

## 「FX レート - 経費オーバーライド - WAR」 フォームの更新

「FX レート - 経費オーバーライド - WAR」では、TRCS\_TotalTaxExpenseNIBT 勘定科目の連結ディメンションを参照するすべての統合で、**FCCS\_Entity Input** からの連結ディメンション・メンバーを **FCCS\_Amount Override** に、**FCCS\_AmountOverride** からのデータ・ソース・ディメンション・メンバーを **FCCS\_No Data Source** に更新します。

勘定科目 TRCS\_Weighted Average FX Rate Calc と TRCS\_Weighted Average FX Rate Override については、FCCS\_Entity Input からの連結ディメンション・メンバーを FCCS\_Rate Override に更新します。

 **Note:**

これらの更新は、加重平均レート機能がアプリケーションで有効になっている場合に必要となります。詳細は、[加重平均の有効化](#)を参照してください。

**例: ユーザーがカスタマイズしたフォームの更新**

既存:

変更:

**例: データ・ロード・ファイルの更新(.csv や.txt など)**

```

Account          LE101 Point-of-View Data Load Cube Name
TRCS_TotalTaxExpenseNIBT 0.25 FCCS_No Intercompany, Actual,FY15,P12,FCCS_Periodic, FCCS_Entity
Input, USD,FCCS_No Movement,TRCS_No Jurisdiction,FCCS_No Multi-GAAP,FCCS_AmountOverride Consol

TRCS_Weighted Average FX Rate Override 0.25 FCCS_No Intercompany, Actual,FY15,P12,FCCS_Periodic,
FCCS_Entity Input, USD,FCCS_No Movement,TRCS_No Jurisdiction,FCCS_No Multi-GAAP,FCCS_No Data Source Consol

Change to

Account          LE101 Point-of-View Data Load Cube Name
TRCS_TotalTaxExpenseNIBT 0.25 FCCS_No Intercompany, Actual,FY15,P12,FCCS_Periodic, FCCS_Amount
Override, USD,FCCS_No Movement,TRCS_No Jurisdiction,FCCS_No Multi-GAAP,FCCS_No Data Source Consol

TRCS_Weighted Average FX Rate Override 0.25 FCCS_No Intercompany, Actual,FY15,P12,FCCS_Periodic,
FCCS_Rate Override, USD,FCCS_No Movement,TRCS_No Jurisdiction,FCCS_No Multi-GAAP,FCCS_No Data Source Consol

```

## RTA (申告額の未払処理調整)の操作

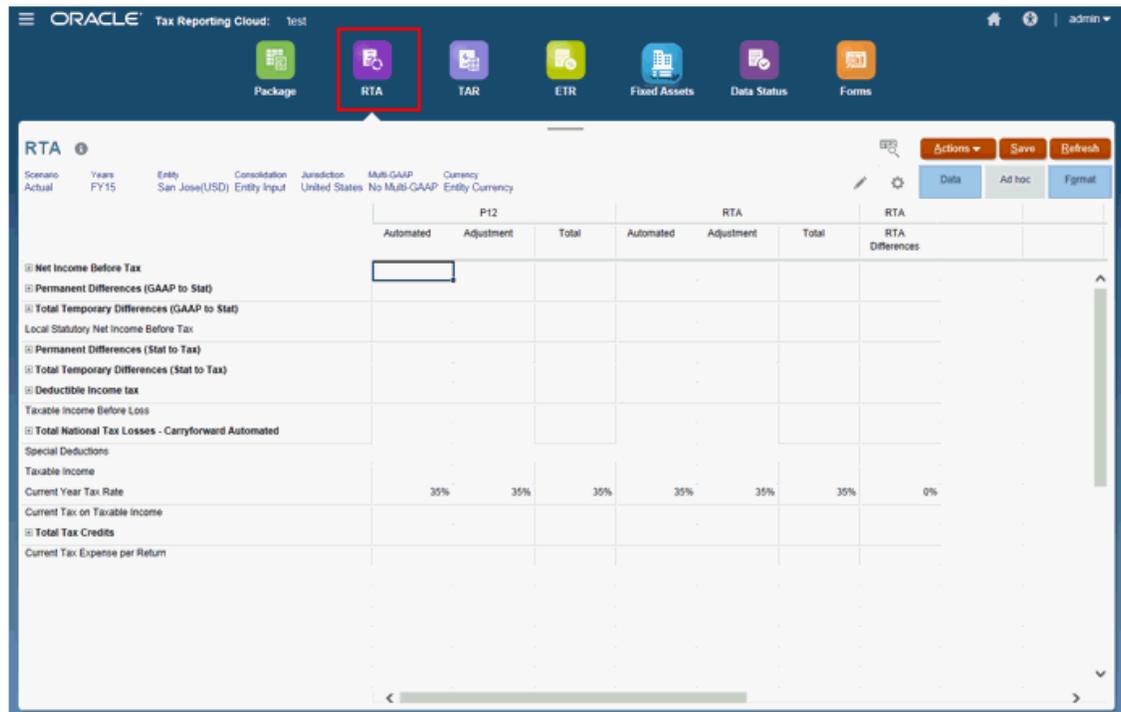
Tax Reporting では、前年度の引当金額を調整できます。税引当は、自動的にフォームに移入されます。申告データは、手動で入力するか、アプリケーションにロードできます。

システムでは、期間 13 または P13 (RTA)で申告額の未払処理調整が処理されます。アプリケーションは、複数年の分析と、現在の期間への調整の転記に対応しています。入力スケジュールに対するデータ変更は、法人税の現在の期間の引当金に必要な申告額の未払処理調整を決定するために、連結によって追跡される必要があります(当期引当金や繰延引当金など)。計算された金額は、追加引当金項目として RTA 自動化で構成されたターゲット会計年度と宛先期間の当期引当金に取得され、一時差異フォームにも取得されます(この場合、システムのデフォルトでは、すべての申告額の未払処理調整が繰延税金費用にのみ影響すると仮定されます)。設定の詳細は、[RTA 自動化ルールの定義](#)を参照してください。

### ノート:

RTA 金額に前年度レートを使用する場合、[RTA 金額への前年度レートの適用](#)を参照してください

申告額の未払処理調整は、エンティティに応じて異なる四半期中に計算および計上できます。たとえば、カレンダー年中に、カナダのエンティティでは Q3 で調整を計上し、アメリカのエンティティでは Q4 で計上できます。つまり、システムは、ユーザーがデータを移入し、RTA 自動化を使用して宛先期間と会計年度を設定し、調整が転記される RTA 期間および年とターゲット期間および年の両方を連結した場合のみ申告額の未払処理調整の差異を計算するよう設定されます。



フォームには、次のロールフォワード・メンバーが含まれます。

表 12-12 国の一時差異

カテゴリ	サブカテゴリ	説明
P12	自動	POV に指定された年度の引当金からの自動金額。
	調整	POV に指定された年度の引当金からの手動入力金額。
	合計	「自動」と「調整」の合計。(合計引当金)
RTA	自動	POV に指定された年度の申告からの自動金額。
	調整	POV に指定された年度の申告からの手動入力金額。
	合計	申告からの「自動」と「調整」の合計。(合計申告額)
RTA	RTA 差異	合計引当金と合計申告額の差異

計算されると、当期引当金に取得される金額は、当期の申告書/申告上の当期の税額という勘定科目の金額となります。一時差異の差異は、申告額の未払処理調整における一時差異ロールフォワードの列に対して計算されると、自動的に取得されます。

調整を入力するには:

1. ホーム・ページで、「**税引当(国)**」を選択し、次に「**RTA**」を選択します。
2. 必要に応じて勘定科目残高に調整金額を入力します。
3. 「**保存**」をクリックします。

4. フォームの「アクション」で、「連結」を選択してから「起動」をクリックします。

## RTA 自動化ルール の定義

申告額の未払処理調整(RTA)では、前年の引当金と提出した申告書の間の差異が計算されます。

「RTA 自動化」画面を使用して、RTA 調整をコピーするためのルールを定義します。RTA 残高をコピーするために、ソースおよび宛先のシナリオ・メンバーとレポート標準メンバーを入力します。

### ノート:

RTA 自動化ルールを定義するには、管理者またはパワー・ユーザーのセキュリティ権限を持っている必要があります。

デフォルトでは、申告額の未払処理調整(RTA)の金額は、今年度の税率を使用して計算されます。RTA 金額に前年度レートを使用する場合、[RTA 金額への前年度レートの適用](#)を参照してください。

作業を開始する前に、調整を転記するため、次のタスクを実行する必要があります。

- 申告年度の RTA フォームを完成する必要があります。
- 申告年度の RTA 期間を連結する必要があります。[RTA \(申告額の未払処理調整\)の操作](#)を参照してください。
- 申告年度の RTA 期間について、データ・ステータスが「OK」である必要があります。

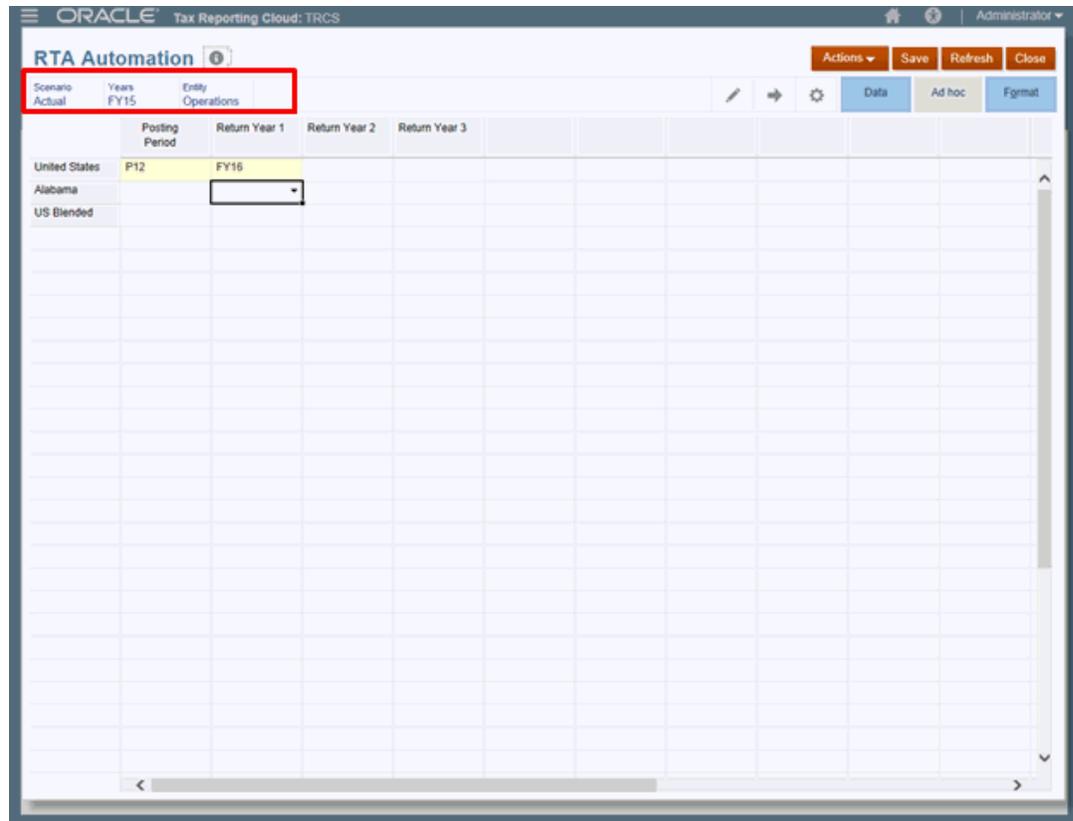
RTA 自動化ルールを定義するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」を選択し、「構成」をクリックします。

The screenshot shows the Oracle Tax Reporting Cloud interface. The top navigation bar includes 'Overview', 'Rules', 'Close Manager', 'Supplemental Data', 'Settings', 'Configuration' (highlighted with a red box), 'Valid Intersection', 'Jobs', 'Services', and 'Reports'. The main content area is titled 'Configure: Tax Reporting' and contains a table of automation rules. The 'RTA Automation' rule is selected and highlighted in blue.

Name	Type	Status	Executed	Action
<b>Tax Automation</b> Manage Rules	Maintenance Optional	Not Configured	11/13/18 8:46 PM	...
<b>CbCR Automation</b> CbCR Automation	Maintenance Optional	Not Configured		...
<b>Tax Automation Regional</b> Manage Regional Rules	Maintenance Optional	Not Configured		...
<b>RTA Automation</b> Post Adjustment	Maintenance Optional	Not Configured	11/13/18 1:28 PM	...
<b>Exchange Rates</b> Manage Rates	Maintenance Optional	Not Configured		...
<b>Tax Rates</b> Manage Rates	Maintenance Optional	Not Configured		...
<b>Consolidated Tax Rates</b> Manage Rates	Maintenance Optional	Not Configured		...
<b>Rollover</b> Perform Periodic Rollover	Maintenance Optional	Not Configured		...
<b>CbCR Data Migration for Separate Approval Process</b> Performs Migration of CbCR Historical Data to newly created CbCR Scenario(s)	Maintenance Optional	Not Configured		...
<b>CbCR Automation Migration</b> Perform Migration of CbCR Automation Data	Maintenance Optional	Not Configured		...

2. 「RTA 自動化」を選択します。



3. **オプション:**  をクリックし、RTA 自動化が構成されている POV を変更して、「適用」をクリックします。

4. **転記期間**のドロップダウンで、申告調整を転記する期間を選択します。
5. **申告年度 1**、**申告年度 2** および **申告年度 3** のドロップダウンで、調整の控除元となる前の申告年度を選択します。  
申告調整は、最大 3 年前まで同じターゲット引当年度に転記できます。申告年度 1、2、3 を使用して、調整の控除元となる前の申告年度を指定します。たとえば、FY14 および FY15 から FY16 の P10 に申告調整を転記できます。
6. 「**保存**」をクリックします。
7. RTA 自動化を変更したすべてのシナリオ、年、エンティティおよび期間を連結します。

## RTA 金額への前年度レートへの適用

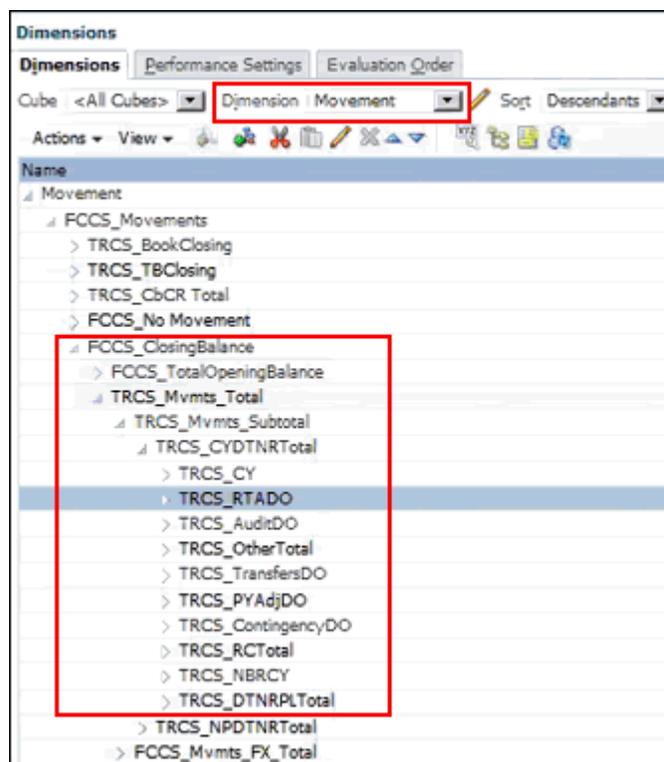
デフォルトでは、申告額の未払処理調整(RTA)の金額は、今年度の税率を使用して計算されま  
す。RTA 金額に対して前年度の税率を使用する場合、増減ディメンション  
で"ApplyTaxReturnRate"という属性を設定できます。

### ノート:

システムでは、期間 13 または P13 (RTA)で申告額の未払処理調整が処理されます。

RTA 計算に前年度レートを使用するには:

1. ホーム・ページから、「ナビゲータ」アイコン  をクリックします。
2. 「作成および管理」で、「ディメンション」を選択し、次に「増減」を選択します。
3. 「FCCS\_Movements」の下で「FCCS\_ClosingBalance」を展開し、「TRCS\_RTADO」(申  
告額の未払処理調整(繰延のみ))に移動します。



4. 「アクション」で「編集」を選択し、「属性値」タブを選択します。
5. 「使用可能な属性値」の下で、「RTA Prior Year Rate」を展開した後、**ApplyTaxReturnRate**  
を選択します。「追加」をクリックして「割り当てられた属性値」に移動します。
6. 「ディメンション」タブで、「データベースのリフレッシュ」アイコンをクリックします

 ノート:

RTA 調整を転記するため、RTA 自動化ルールを設定する必要があります。RTA 自動化ルールの定義を参照してください。

## RTA 実績地域控除の使用

州の申告書で支払われた州税を連邦申告書で差し引くユーザーは、申告額の未払処理調整 (RTA) で、支払われ控除された州税を含められる必要があります。RTA (申告額の未払処理調整)の操作も参照してください。

Tax Reporting を使用すると、P13 で支払われた実績税額を差し引いて、RTA 調整を導き出すことができます。差額は州税 RTA として含まれており、この州税 RTA は、連邦引当の控除対象外です。控除は、引当転記済の連邦 RTA に含まれています。

当期引当金フォームでは、地域の所得税に、RTA 地域側から差し引かれる申告額の未払処理調整 - 当期税額地域がありません。追加の当期引当金の合計 -> 申告額の未払処理調整当期税額に、RTA フォームからの RTA 差異減額が反映されます。したがって、連邦は税制上の優遇措置を 2 回受けることはありません。

## RTA 実績地域控除の使用例の設定

- 親の税金計算を有効にして RTAParentEntity エンティティ・メンバーを作成します。エンティティ・ディメンションおよび国および地域の親の税金計算を参照してください。
- FY15、P12 および P13、FY16、P1 の RTAParentEntity の一時差異勘定科目のデータを国および地域の両方の一時差異フォームに入力します。Tax Reporting Cloud での一時差異の構成を参照してください
- FY15、P12 と P13、および FY16、P1 POV の貸借対照表フォームにデータを入力します。フォームの操作を参照してください
- FY15、P12 と P13、および FY16、P1 POV の税率を入力します。税率の入力を参照してください
- FY15、P12 と P13、および FY16、P1 POV の税金自動化エンティティ・ルールをロードします。データ・ソース・ディメンションへの税金自動化ルールの追加を参照してください
- FY16 の P1 の転記済期間 RTA 自動化をロードします。RTA 自動化ルールの定義および RTA 金額への前年度レートの適用を参照してください
- FY15、P13 および FY16、P1 の連結を実行します。

## RTA 実績地域控除の使用例

- P13 期間の地域当期引当金の負の値は、RTA の国のフォームの RTA 列の地域の所得税に反映されます。



## Current Provision ⓘ

Scenario Actual	Years FY16	Period P1	Entity RTAParentEntity(USD)	Consolidation Entity Input	Jurisdiction United States	Multi-GAAP Local GAAP	Cur Ent
				Automated	Adjustment	Total	
Regional Income taxes				-73	-10	-83	
Other Deductible Income tax							
<b>[-] Deductible Income tax</b>				<b>-73</b>	<b>-10</b>	<b>-83</b>	
Taxable Income Before Loss				14428	490	14918	
<b>[-] Special Deductions Total</b>							
<b>[-] Total National Tax Losses - Carryforward Automated</b>							
Taxable Income				14428	490	14918	
Current Year Tax Rate				35%	35%	35%	
Current Tax on Taxable Income				5050	172	5221	
<b>[-] Total Tax Credits</b>							
Current Tax Expense per Return				5050	172	5221	
<b>[-] Additional Current Provision - Source</b>							
<b>[-] Additional Current Provision - Manual</b>							
Return-to-Accrual Current Tax Expense				693		693	
<b>[-] Equity Reversals for National</b>							
<b>[-] Additional Current Provision - Calculated</b>				<b>693</b>		<b>693</b>	
<b>[-] Total Additional Current Provision</b>				<b>693</b>		<b>693</b>	

申告額の未払処理調整当期税額が 693 であることがわかります。これは、前述の FY15 の RTA フォームと同じ値です。これには、P13 の実際の州税が含まれます。

- RTA 自動化が FY16、P1 に指定されているため、FY15 の RTA 地域フォームの RTA 差額列の申告上の地域当期税額の値は、FY16、P1 の当期引当金地域フォームの申告額の未払処理調整の税額に反映されます。

### RTA Regional ⓘ

Scenario Actual	Years FY15	Entity RTAParentEntity(USD)	Consolidation Entity Total	Jurisdiction US Blended	Multi-GAAP Local GAAP	Currency Entity Currency							
							P12		RTA		RTA		
							Automated	Adjustment	Total	Automated	Adjustment	Total	RTA Differences
Regional Taxable Income before Apportioned Tax Losses							725	50	775	725	250	975	200
<b>[-] Total Regional Tax Losses - Carryforward Automated</b>													
Regional Taxable Income							725	50	775	725	250	975	200
Current Year Tax Rate							10%	10%	10%	10%	10%	10%	0%
Regional Current Tax on Taxable Income							73	5	78	73	25	98	20
<b>[-] Total Regional Tax Credits</b>													
Regional Current Tax per Return							73	5	78	73	25	98	20

## Current Provision Regional ⓘ

Scenario Actual	Years FY16	Period P1	Entity RTAParentEntity(USD)	Consolidation Entity Input	Jurisdiction US Blended	Multi-GAAP Local GAAP	Currency Entity Currency
				Automated	Adjustment	Total	
					73	10	83
					73	10	83
					20		20
					20		20
					20		20
					93	10	103

- 申告額の未払処理調整税額は、当期引当金(国)フォームの地域所得税では除外されます。地域当期引当金のかわりに、当期引当金フォーム申告上の地域当期税額の負の値は、当期引当金フォームの地域所得税に反映されます。

## Current Provision Regional ⓘ

Scenario Actual	Years FY16	Period P1	Entity RTAParentEntity(USD)	Consolidation Entity Input	Jurisdiction US Blended	Multi-GAAP Local GAAP	Currency Entity Currency
				Automated	Adjustment	Total	
					73	10	83
					73	10	83
					20		20
					20		20
					20		20
					93	10	103

## Current Provision ⓘ

Scenario Actual	Years FY16	Period P1	Entity RTAParentEntity(USD)	Consolidation Entity Input	Jurisdiction United States	Multi-GAAP Local GAAP	Cu En
				Automated	Adjustment	Total	
⊞ Total Temporary Differences (GAAP to Stat)							
Local Statutory Net Income Before Tax							
⊞ Permanent Differences (Stat to Tax)							
⊞ Total Temporary Differences (Stat to Tax)							
				14500	500	15000	
Regional Income taxes				-73	-10	-83	
Other Deductible Income tax							
⊞ Deductible Income tax							
				-73	-10	-83	
Taxable Income Before Loss							
				14428	490	14918	

## RTA 繰延税金の計算

Tax Reporting は、国の勘定科目と地域の勘定科目の両方で、税引当を目的として、資産および負債に対する企業の繰延税金を計算します。国の繰延税金の操作および地域の繰延税金の操作も参照してください。

今年度の税率は、前年度の申告額の未払処理調整の税率および配賦率と異なる場合があります。Tax Reporting では、P13 の税率と配賦率を使用して、繰延税金の国および地域フォームでの申告額の未払処理調整(繰延のみ)増減の税金に影響を与えます。

国(US 課税エンティティ)に対して控除可能な地域の RTA がある場合、地域の RTA は、地域の純利益(NBR)の国の P13 税率での税効果となります。

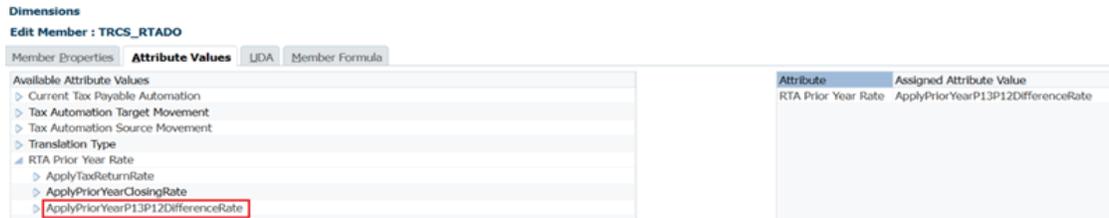
**ApplyPriorYearP13P12DifferenceRate** カスタム属性は TRCS\_RTADO 増減メンバーに適用され、申告額の未払処理調整(繰延のみ)の繰延税金が計算されます。

参照: [カスタム属性の追加](#)

## カスタム属性の追加

**ApplyPriorYearP13P12DifferenceRate** カスタム属性を追加するには:

1. ナビゲータをクリックします。
2. 「作成および管理」の下で「**ディメンション**」をクリックします。
3. 「ディメンション」の下で「**増減**」を選択します。
4. **ApplyPriorYearP13P12DifferenceRate** カスタム属性を TRCS\_RTADO 増減メンバーに適用します。「RTA Prior Year Rate」の下に表示されます。
5. DB を保存してリフレッシュします。



申告額の未払処理調整(繰延のみ)の繰延税金は、次のように計算されます:

- **国:** P13 総額 \* P13 の今年度税率 - P12 総額 \* P12 の今年度税率
- **地域:** P13 総額 \* P13 の今年度税率 \* P13 の今年度税金配賦 - P12 総額 \* P12 の今年度税率 \* P12 の今年度税金配賦

## RTA 繰延計算のユース・ケース例の設定

1. RTAParentEntity エンティティを作成します。[エンティティ・ディメンション](#)も参照してください
2. カスタム属性 **ApplyPriorYearP13P12DifferenceRate** を TRCS\_RTADO 増減メンバーに適用します。
3. FY15、P12 および FY15、P13 の RTAParentEntity の一時差異勘定科目のデータを一時差異フォームに入力します。[Tax Reporting Cloud](#) での一時差異の構成を参照してください
4. FY15、P12、FY15、P13 および FY16、P1 の税率を入力します。[税率の入力](#)を参照してください
5. FY16 の P1 の転記済期間 RTA 自動化をロードします。[RTA 自動化ルールの定義](#)および [RTA 金額への前年度レートの適用](#)を参照してください
6. FY15、P13 および FY16、P1 の連結を実行します。

## RTA 繰延計算のユース・ケース例

国および地域の両方を計算する次のユースケース例を参照してください:

### 例: 国の計算

「繰延税金」フォームの申告額の未払処理調整(繰延のみ)は、国の RTA について次のように計算されます:

RTA ⓘ

Scenario Actual	Years FY15	Entity RTAParentEntity(USD)	Consolidation Entity Input	Jurisdiction United States	Multi-GAAP Local GAAP	Currency Entity Currency								
							P12		RTA		RTA			
							Automated	Adjustment	Total	Automated	Adjustment	Total	RTA Differences	
Temp 1 - XXXX								1000	1000		1000	1000	0	
Temp 2 - XXXX										600	600	600		
⊖ Total Temporary Differences (GAAP to Stat)								1000	1000		1600	1600	600	
Local Statutory Net Income Before Tax								1000	1000		1600	1600	600	
⊖ Total Temporary Differences (Stat to Tax)							14500	500	15000	14500	2500	17000	2000	
⊖ Deductible Income tax								-73	-10	-83	-435	-198	-551	
Taxable Income Before Loss								14428	1490	15918	14065	3902	17967	2050
Taxable Income								14428	1490	15918	14065	3902	17967	2050
Current Year Tax Rate								35%	35%	35%	45%	45%	45%	10.00%
Current Tax on Taxable Income								5050	522	5571	6329	1756	8085	2514
Current Tax Expense per Return								5050	522	5571	6329	1756	8085	2514

したがって、前述の「RTA」フォームの RTA 差額列(税引前)の Temp 1 勘定科目は 0 と表示されますが、繰延税金(国)フォームの申告額の未払処理調整(繰延のみ)は次のように計算されます:

P13 総額 \* P13 の今年度税率 - P12 総額 \* P12 の今年度税率 (1000 \* 0.45 - 1000 \* 0.35 = 100)。

Deferred Tax ⓘ

Scenario Actual	Years FY16	Period P1	Entity RTAParentEntity(USD)	Consolidation Entity Input	Jurisdiction United States	Multi-GAAP Local GAAP	Currency Entity Curren			
							⊕ Opening Balance As Adjusted	⊕ Current Year Total	Return to Accrual (Deferred Only)	
							Tax	Tax	Tax	
Temp 1 - XXXX								319	100	
Temp 2 - XXXX									270	

例: 地域の計算

「繰延税金(地域)」フォームの申告額の未払処理調整(繰延のみ)は、次のように計算されます:



をインポートまたは入力し、リンクされたフォームの使用を通じて必要に応じて勘定科目残高に調整を入力できます。

 **ノート:**

追加の一般会計の勘定科目列または増減の詳細が必要な場合は、カスタマイズした TAR フォームを作成できます。参照

TAR フォームのデータは、税金仕訳入力の準備に使用します。必要に応じて、一般会計の勘定科目にそれを定期的に照合する必要があります。列見出し  を展開すると、すべてのカテゴリが表示されます。

TAR - Current Tax Payable

Scenario	Year	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency	Current Expense	Deferred Expense	Total Provision	Non-current Assets	Non-current Liabilities	Non-current Valuation Allowance	Total Deferred Tax	Income Tax Payable	Income Tax Receivable	Long-term Payable	Net (Payable/Receivable)	Acquisitions Total	Disposals Total	Balance Sheet Total					
Actual	FY15	P12	Entity	Consolidation	Canada	LACE GAAP	Entity Currency																			
Other Adjustments Total (Deferred Only)									-12500	-12500	12500			12500												
Transfers (Deferred Only)																										
Prior Year Adjustment (Deferred Only)																										
Contingency (Deferred Only)																										
Impact from change in Tax Rates - Opening Balance Total																										
Impact from change in Tax Rates - Current Year Total								-400	-400	400			400													
Impact from change in Tax Rates - Acquisitions Total								-5000	-5000	5000			5000													
Impact from change in Tax Rates								-5400	-5400	5400			5400													
Net Benefit of Region									18711	18711	-18711			-18711												
DTRN Current Year P&L Total																										
Total Current and Deferred Provision								35211	-20861	14350			20861				-35211				-35211					
Acquisition											100		100								-100		-100			
Adjustment for change in Tax Rates - Acquisition											-5000		-5000								5000		5000			
Disposals																										
Total Equity Adjustments																										
Non-Provision - NBR											-375		-375													
DTRN Current Year Non P&L Total																										
Total Non-Provision											-5275		-5275													
Total Manual Adjustments																										
Asset / Liability Automated Reclassification																										
Total Adjustments																										
Total Movements																										
Ending Balance (A)								35211	-20861	14350	15086		15086				-35211				-35211	4900		4900		

調整を入力するには:

1. ホーム・ページで、「**税引当(国)**」を選択し、次に「**TAR**」を選択します。
2. 支払や払戻の金額をインポートまたは入力し、必要に応じて勘定科目残高に調整を入力します。
3. 「**保存**」をクリックします。
4. 次の項目を確認します。
  - **期末残高**(期首残高とすべてのアクティビティに基づく)
  - **帳簿上の期末残高**(一般会計、ERP または連結アプリケーション)Tax Reporting の管理のカスタム・マッピングの生成を参照してください
  - **差異(JE)**
5. フォームの「**アクション**」で、「**連結**」を選択してから「**起動**」をクリックします。

**Consolidate**  **Launch** **Cancel**

\* Enter Entities  

\* Enter Scenario  

\* Enter Period  

\* Enter Year  

6. 差異に対して Oracle Smart View for Office に仕訳入力を生成します。

表 12-13 税金勘定科目ロールフォワード

カテゴリ	説明
当期費用	当期引当金で計算された国の当期法人税額。
繰延費用	繰延引当金で計算された国の繰延法人税額。
合計引当金	当期費用と繰延費用の合計。
非流動資産	非流動資産に分類される国の繰延税金額。
非流動負債	非流動負債に分類される国の繰延税金額。
非流動評価引当金	非流動評価引当金に分類される国の繰延税金額。
出資比率 - 期首残高	この金額は、親への出資比率の変更に起因する期首残高の差異です。
出資比率 - 今年度	この金額は、親への出資比率の変更に起因する期首残高の差異です。
出資比率増減合計	この金額は、現行税額に対する出資比率の増減合計です。
合計繰延税金	国の流動資産/負債、非流動資産/負債および非流動評価引当金の合計。
未払法人税	法人税引当金を計算する必要がある地域(米国の州など)を指定します。
未収法人税	国の当期末収税金。金額は、税金勘定ロールフォワードの組替勘定科目を使用して手動で転記します。支払や払戻は手動で入力します。
長期未払税	長期未払の国税。金額は、税金勘定ロールフォワードの組替勘定科目を使用して手動で転記します。支払や払戻は手動で入力します。
純(未払)未収税	未払/未収の国税合計。
取得合計	資産と負債の取得および関連一時差異による結果としての取得の合計。詳細金額は一時差異フォームの取得詳細から得られます。
処分合計	資産と負債の処分および関連一時差異による結果としての処分の合計。詳細金額は一時差異フォームの処分詳細から得られます。
貸借対照表合計	取得と処分の合計は貸借対照表合計の下に表示されます。
資本調整	非引当金調整と繰延税金ロールフォワードに基づく国の資本トランザクション。これらの金額は、繰延税金ロールフォワードから自動取得されます。
資本調整合計	国および地域の資本調整合計。
TAR 勘定科目	相殺後ゼロ

## 現在の未払税フォームの操作

「現在の未払税」フォームでは、各年の引当金の詳細を取得し、それらが支払や払戻、または RTA などの調整によって清算されているかどうかを確認できます。現在の未払税分析では、7 年前までの期末残高を取得でき、それらを合算すると、「TAR」の期末残高と一致します。フォームに新しい年を追加すると、7 年前以前の年が履歴年の合計に合算されます。

次の 3 つの「現在の未払税」フォームがあります:

- 現在の未払税
- 現在の未払税自動
- 現在の未払税詳細

「現在の未払税」フォームはデフォルトで使用可能であることに注意してください([現在の未払税\(国\)フォームの入力](#)を参照)。ただし、「現在の未払税自動」および「現在の未払税詳細」フォームを使用する場合は、自動化機能を有効にする必要があります。詳細は、[現在の未払税自動および詳細フォームの管理](#)を参照してください。

## 現在の未払税(国)フォームの入力

「現在の未払税」フォームは GAAP と IFRS の両方のレポート標準で使用できます。

現在の未払税の前年度の期末残高データは今年度の期首残高になります。次の見出しの列に必要な詳細を追加できます。

- 今年度損益計算書課税額
- 今年度 OCI/資本
- 支払
- 払戻
- 支払と払戻の合計
- RTA (損益計算書)
- 異動
- 外国為替 - 期首残高
- 外国為替 - 今年度
- 現在の未払の外国為替(複数通貨アプリケーションでのみ使用可能)
- 出資比率
- 出資比率 - 期首残高
- 出資比率 - 今年度
- 未払期末残高

「現在の未払税」フォームに詳細を入力するには:

1. ホーム・ページで、「**税引当(国)**」を選択し、次に「**TAR**」を選択します。
2. 「**現在の未払税**」タブを選択します。

Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Account	Currency		
Actual	FY15	P1	Montreal(CAD)	Entity Input	Canada	Local GAAP	CurPayNational	USD		
		Year Of Origination	Opening Balance	Opening Balance Adjustment	Beginning Balance as Restated	CY P&L Charge	CY OCI / Equity	Payments	Refunds	
Historic Year										
	Current Year Minus 6	FY09								
	Current Year Minus 5	FY10								
	Current Year Minus 4	FY11								
	Current Year Minus 3	FY12								
	Current Year Minus 2	FY13								
	Current Year Minus 1	FY14								

3. **オプション:** 必要に応じて、POV を変更します。  
新しい年を開始する場合は、POV にその年を選択してください。既存の「現在の年」のデータは**現在の年 - 1** に移動され、前の**現在の年 - 6** のデータは**履歴年**の合計値に合算されることに留意してください。  
POV で選択した年に基づいて、**起算年**に、実際の会計年(FY17、FY18、FY19 など)が表示されます。
4. 次の列のいずれかに金額の詳細を入力します。
  - 今年度損益計算書課税額
  - 今年度 OCI/資本
  - 支払
  - 払戻
  - 支払と払戻の合計
  - RTA (損益計算書)
  - 異動
  - 外国為替 - 期首残高
  - 外国為替 - 今年度
  - 出資比率
  - 出資比率 - 期首残高
  - 出資比率 - 今年度
  - 現在の未払の外国為替(複数通貨アプリケーションでのみ使用可能)
5. 「アクション」で、「**連結**」をクリックします。
6. **未払期末残高**で結果を確認します。

## 現在の未払税自動および詳細フォームの管理

### 税金自動化の有効化

現在の未払税自動化は、次の 2 つの方法で有効にできます:

1. アプリケーションの作成中に「現在の未払税自動化」の横にある「有効化」チェック・ボックスを選択します。

The screenshot shows a multi-step wizard with steps: General, Details, Features (active), and Review. Under the 'Features' section, several options are listed with 'Enable' checkboxes. The 'Current Tax Payable Automation' option is highlighted with a red rectangular box.

Feature	Enable
IFRS Enable IFRS to calculate Deferred Tax Not Recognized (DTNR), and report on the Consolidated Effective Tax Rate (CETR) in an IFRS format.	<input type="checkbox"/>
CbCR Enable CbC Reporting to calculate analyses which assess risk as a result of transfer pricing strategies.	<input type="checkbox"/>
Interim Provision Enable interim provision to calculate monthly or quarterly tax provision using an annualised estimated effective tax rate("AEETR") plus discrete tax amounts	<input type="checkbox"/>
Weighted Average Enable weighted average to calculate the average foreign currency translation rate for the net income before tax for each base entity	<input type="checkbox"/>
Ownership Management Enable Ownership Management to assign parent-child percentages, consolidation methods and account for changes overtime.	<input type="checkbox"/>
<b>Current Tax Payable Automation</b> Enable Current Tax Payable Automation to automate the data flow from current provision to current tax payable	<input type="checkbox"/>

2. アプリケーションを作成した後、「Tax Reporting – 機能を使用可能にする」画面に移動します。「現在の未払税自動化」を選択し、「有効化」をクリックします。

The screenshot shows a dialog box titled 'Tax Reporting - Enable Features'. It contains a list of features with checkboxes. The 'Current Tax Payable Automation' checkbox is highlighted with a red rectangular box.

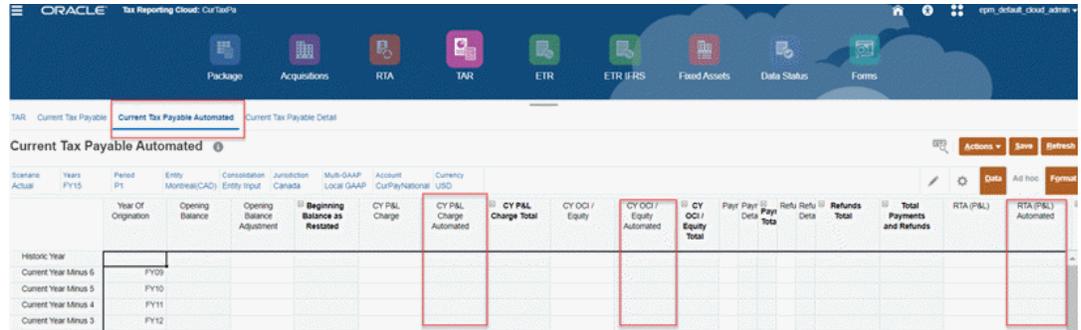
<input type="checkbox"/> IFRS
<input type="checkbox"/> Deferred Tax Not Recognized (DTNR)
<input type="checkbox"/> Consolidated Effective Tax Rate Reconciliation
<input type="checkbox"/> Country by Country Reporting (CbCR)
<input type="checkbox"/> Interim Tax Provision (Applications created prior to 18.08)
<input type="checkbox"/> Interim Tax Provision
<input type="checkbox"/> Total AEETR
<input type="checkbox"/> Detailed AEETR(Current and Deferred)
<input type="checkbox"/> Weighted Average
<input type="checkbox"/> Dynamic Calc Jurisdiction
<input type="checkbox"/> Ownership Management
<input type="checkbox"/> <b>Current Tax Payable Automation</b>

### 自動化フォームへのアクセス

「現在の未払税自動化」フォームにアクセスするには:

1. ホーム・ページで、「税引当(国)」を選択し、次に「TAR」を選択します。

2. 「現在の未払税自動」タブを選択します。



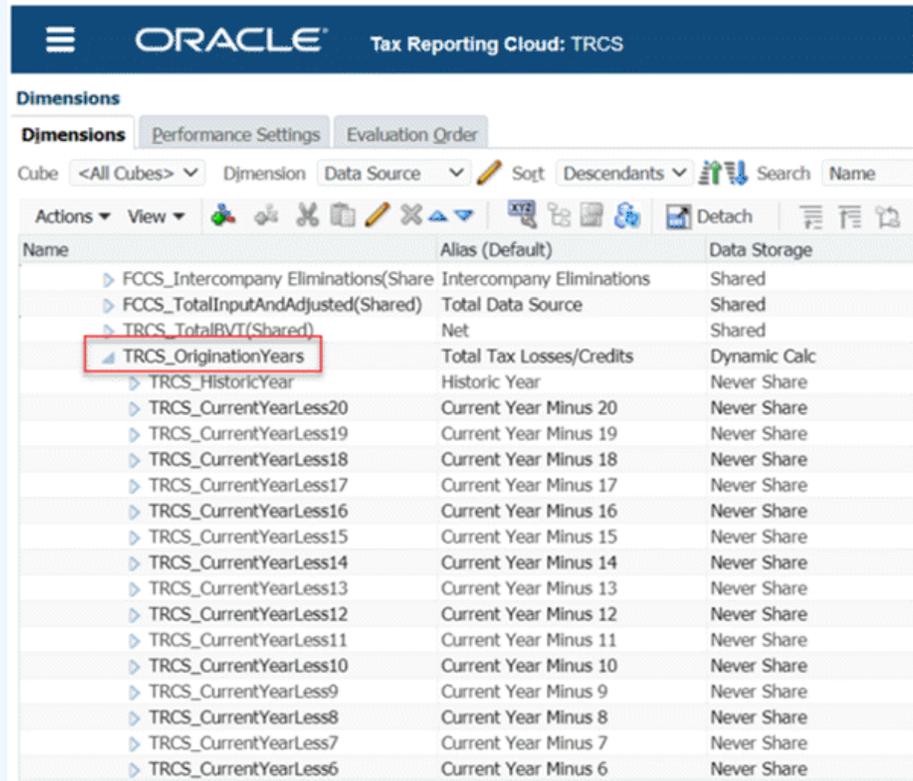
「現在の未払税」フォームは、支払、払戻などの取得に使用されるデータ入力フォームです。データを現在の引当金から現在の未払税に移動する場合は、データを手動で入力する必要があります。単一の交差の場合は問題ありませんが、すべての年月(つまり、P1 から P12 まで)の場合は、データを手動で入力するには大変な労力が必要です。そのような場合は、「現在の未払税自動」機能を使用できます。

これは「現在の未払税」フォームに似ていますが、追加の 3 つの列があります。次の 3 つの増減メンバーに対して自動化が実行されます：

- CYPL 課税額自動
- CY OCI /自動資本
- RTA (P/L)自動

 **Note:**

- 支払および払戻に対して、自動化機能は適用できません。
- TRCS\_OriginationYears には現在年から 20 年前までのメンバーが表示されるため、TRCS\_OriginationYears のメンバーを共有メンバーとして使用して、「現在の未払税自動」フォームに新しい行を追加できます。



Name	Alias (Default)	Data Storage
▶ FCCS_Intercompany Eliminations(Share)	Intercompany Eliminations	Shared
▶ FCCS_TotalInputAndAdjusted(Shared)	Total Data Source	Shared
▶ TRCS_TotalBVT(Shared)	Net	Shared
▶ <b>TRCS_OriginationYears</b>	Total Tax Losses/Credits	Dynamic Calc
▶ TRCS_HistoricYear	Historic Year	Never Share
▶ TRCS_CurrentYearLess20	Current Year Minus 20	Never Share
▶ TRCS_CurrentYearLess19	Current Year Minus 19	Never Share
▶ TRCS_CurrentYearLess18	Current Year Minus 18	Never Share
▶ TRCS_CurrentYearLess17	Current Year Minus 17	Never Share
▶ TRCS_CurrentYearLess16	Current Year Minus 16	Never Share
▶ TRCS_CurrentYearLess15	Current Year Minus 15	Never Share
▶ TRCS_CurrentYearLess14	Current Year Minus 14	Never Share
▶ TRCS_CurrentYearLess13	Current Year Minus 13	Never Share
▶ TRCS_CurrentYearLess12	Current Year Minus 12	Never Share
▶ TRCS_CurrentYearLess11	Current Year Minus 11	Never Share
▶ TRCS_CurrentYearLess10	Current Year Minus 10	Never Share
▶ TRCS_CurrentYearLess9	Current Year Minus 9	Never Share
▶ TRCS_CurrentYearLess8	Current Year Minus 8	Never Share
▶ TRCS_CurrentYearLess7	Current Year Minus 7	Never Share
▶ TRCS_CurrentYearLess6	Current Year Minus 6	Never Share

データが取得された場所からこれらの自動化列にソース勘定科目を指定するには、マッピングを作成する必要があることに注意してください。[Tax Reporting の管理の現在の未払税自動化のマッピングの作成](#)を参照してください。

3. 「現在の未払税詳細」タブを選択して、「詳細」フォームにアクセスします。「現在の未払税詳細」フォームから、特定の年の払戻または支払の詳細を追跡できることに注意してください。このフォームには定期的にデータを入力できます。

Year Of Origination	Current Year	Current Year Minus 1	Current Year Minus 2	Current Year Minus 3	Current Year Minus 4	Current Year Minus 5	Current Year Minus 6	Historic Year	Prior Years Total	Current Payable Total
P1 Payments										
P2 Payments										
P3 Payments										
P4 Payments										
P5 Payments										
P6 Payments										
P7 Payments										
P8 Payments										
P9 Payments										
P10 Payments										
P11 Payments										
P12 Payments										

### Note:

- 「現在の未払税詳細」フォームで列の順序を変更したり、列を追加する場合は、**Tax Reporting の管理の「現在の未払税詳細」フォームの管理**を参照してください。
- このフォームで作業をしない場合は、このフォームを手動で非表示にすることもできます。そのためには、フォームを使用しないで、新しいナビゲーション・フローを作成し、新しいカードを作成する必要があります。

## 税金勘定科目ロールフォワード(TAR)のカスタマイズ

一般会計の勘定科目構造が **Tax Reporting** の初期状態の勘定科目と異なる場合は、**TAR** 自動化レポートに列を追加し、その列にデータをマップできるカスタマイズされた **TAR** 自動化レポートを構成できるようになりました。

**TAR** 自動化レポートには、初期状態の **TAR** レポートで使用可能なすべての列および行が含まれていますが、次のようにレポートをカスタマイズすることもできます。

- 会社の一般会計勘定体系と一致するように、追加の **G/L** 勘定科目を追加します。
- 各増減合計の複合詳細を分類するために、追加の増減メンバー行を追加します。

特定の **POV** のマッピングがユーザーによって定義されている場合、そのマッピングは連結に考慮されます。マッピングがカスタマイズされていない場合は、デフォルトのマッピングが使用されます。

**TAR** 自動化レポートのカスタマイズについては、**TAR** 自動化の構成を参照してください。

## 法定および連結有効税率の操作

**Tax Reporting** では、国の(法定)レートおよび連結レートで自動的に有効税率(ETR)照合が計算されます。

法定および連結レート照合フォームでは、税引前および税効果ベースで次の項目が取得されません。

- 税引前純利益**

- 永久差異(GAAP と法定)
- 永久差異(法定と税金)
- 合計永久差異
- 合計控除可能税金 CETR
- 特別控除
- 今年度合計税額控除
- 評価引当金の変更
- 外国税率差異
- 追加の当期引当金 - ソース
- 追加の当期引当金 - 手動
- 追加の合計引当金 - 当期から
- 申告額の未払処理調整
- 監査決済調整
- 他の調整(繰延のみ)
- 移転(繰延のみ)
- 前年度調整(繰延のみ)
- 偶発引当金(繰延のみ)
- 税率変更 - 合計
- 繰延税金のオーバーライド・レートの調整
- DTNR 今年度損益計算書
- DTNR 今年度合計損益計算書
- 繰延税金費用合計

Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency						
Actual	FY15	P12	Montreal(CAD)	Entity Input	Canada	Local GAAP	Entity Currency						
								Pre Tax	Tax Effect	Consolidated ETR Percentage			
Net Income Before Tax								15	7	45%			
Permanent Differences (GAAP to Stat)													
Permanent Differences (Stat to Tax)													
Total Permanent Differences													
Total Deductible Tax CETR								951	618	4119.48%			
Special Deductions Total													
Total Tax Credits Current Year													
Change in Valuation Allowance													
Foreign Tax Rate Differences								-2	-2	-10%			
Additional Current Provision - Source													
Additional Current Provision - Manual													
Additional Total Provision - From Current													
Return to Accrual Adjustment													
Audit Settlement Adjustment													
Deferred Tax Expense Total								985	985	6566.67%			
Additional Total Provision CETR								984	984	6556.67%			
Consolidated ETR									1608	10721.15%			

連結レート照合は、グローバル法定税率から開始され、前述のカテゴリを使用してエンティティの税率に照合されます。法定レート照合の計算は、連結レート照合と同様ですが、開始点がエンティティの法定税率に基づいているため、外国レート差異はありません。

レート照合では、調整された税引前純利益のパーセンテージとして項目の照合による税効果が自動的に計算されます。システムでは、前述の各照合項目詳細の最下位レベルにドリルダウンし、入力された情報のレベルに応じて有効税率全体に対する各項目のコントリビューションを表示できます。

外国レート差異は、連結税率と法定税率の間の差異を取得して、それを税引前純利益(調整済)、GAAP と法定の永久差異、および法定と税金の永久差異に掛けることで計算されます。

#### ノート:

CETR IFRS 計算は階層主導であるため、ユーザー作成の勘定科目メンバーは、TRCS\_PermGSTotal、TRCS\_PermSTTotal または TRCS\_TaxSpecialDeductionsTotal などのすぐに利用できる永久差異階層の下に作成する必要があります。

## 連結有効税率の入力

適切な連結法人税率を入力して、連結有効税率照合を作成する必要があります。

連結有効税率を入力するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「構成」の順に選択してから、「連結税率」フォームを選択します。
2. **オプション:** 「メンバーの編集」 をクリックし、シナリオ、年、期間およびエンティティ・ディメンションのメンバーを選択して視点を設定します。
3. 各タイプの連結税率を入力します。  
パーセンテージの税率を小数点形式で入力し、[Enter]を押します。たとえば、.05 を入力すると、5%と表示されます。
4. 「保存」をクリックします。

## IFRS レポートを使用した法定および連結有効税率の操作

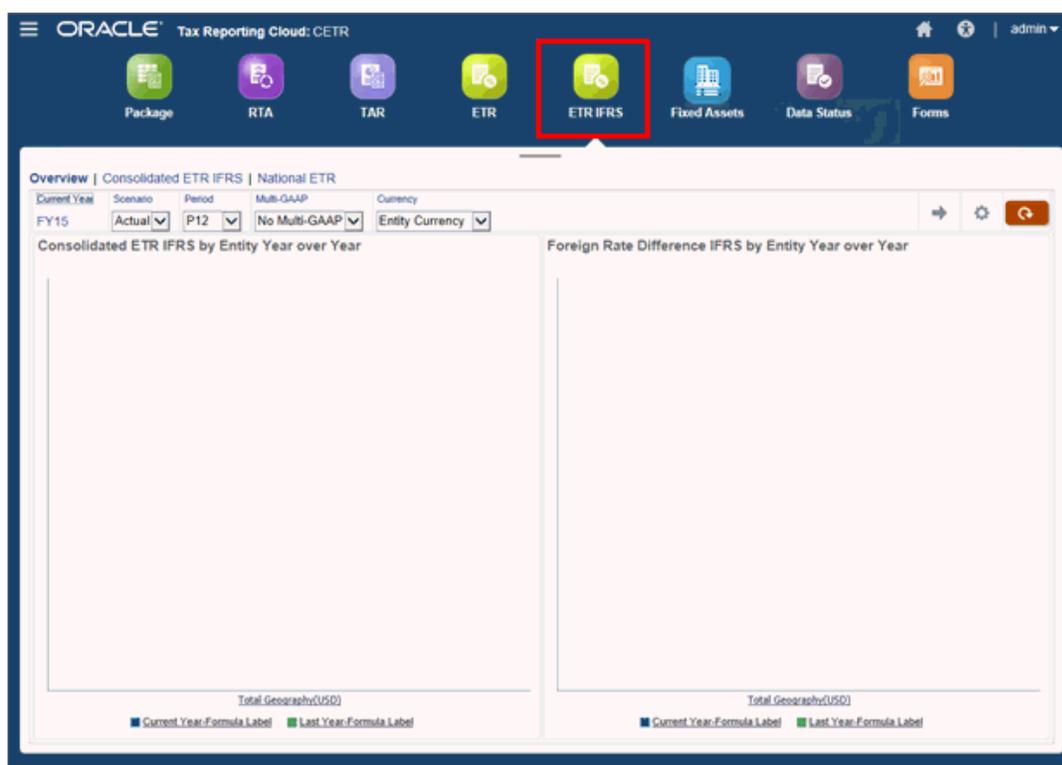
### 連結 ETR IFRS の概要ダッシュボード

連結 ETR IFRS の概要ダッシュボードには、次の棒グラフの結果が表示されます。

- エンティティ別連結 ETR IFRS 前年同期比
- エンティティ別外国レート差異 IFRS 前年同期比

概要ダッシュボードを確認するには:

1. ホーム・ページで、「税引当(国)」をクリックし、次に ETR IFRS をクリックします。



2. 「概要」タブで、各ダッシュボードを確認します。  
ダッシュボードにドリルダウンするには、**地域合計**などの最上位レベル・エンティティをクリックします。使用可能な地域の名前をクリックしてドリルダウンを続けます。

## IFRS レポートを使用した連結有効税率の操作

Tax Reporting では、IFRS レポート標準に基づいて有効税率(ETR)照合が計算されます。「連結 ETR IFRS」フォームでは、税引前の金額、税金およびパーセンテージが示され、国と地域の両方の連結税率が適用されます。この税率はグローバル・レートです。

### ノート:

連結 ETR IFRS 率フォームと「エンティティ別連結税率 IFRS」フォームを表示して、エンティティ CETR 率を使用して計算された勘定科目を表示するには、アプリケーションに対して IFRS 機能を有効にする必要があります。IFRS 機能を有効にするには、*Tax Reporting* の管理ガイドの次の手順を参照してください:

- 新規アプリケーションの作成。
- アプリケーションの機能の有効化。

開始する前に、国および地域の連結税率を入力する必要があります。税金は、それぞれ国と地域の NIBT の連結税率に基づいて計算されます。追加引当金項目や繰延税金などの残額は、国の当期引当金や繰延引当金によって充当されます。

計算では次の式が使用されます。

表 12-14 CETR IFRS の式

計算	式	例
国の税率差異	法定住所の今年度の率 * (調整済 NIBT) - 国の連結 ETR IFRS 率 * (調整済 NIBT)	$-.40(207040) - .40(207040)=82816-82816=0$
地域の税率差異 各地域エンティティ の税率	地域の税率差異 = (((税引前純利益 Entity1)* 今年度の配賦率)*管轄の今年度の率) + (((税引前純利益 Entity2)* 今年度の配賦率)*管轄の今年度の率) - 地域の連結 ETR IFRS 率 * (税引前純利益)	地域の税率差異 = (((517600)*.05))*10)+ (((517600)*.05))*10)-.05*(517600) 地域の税率差異 = ((25880)*.10)+ (25880*.10)) - .05*517600 地域の税率差異 = (2588 + 2588) - 25880 = -207400
NIBT の CETR IFRS %	税効果 IFRS (国および地域の合計) / 税引前調整済 NIBT (国全体)	$23155/517600=0.4485=44.85\%$ $232920/517600=45\%$

連結 ETR 税率 IFRS レポートを表示するには:

1. 国と地域の連結税率を設定します。
  - a. ホーム・ページで、「アプリケーション」をクリックし、次に「構成」をクリックします。
  - b. 「構成」ページで、「連結税率」をクリックし、「連結税率 IFRS」タブを選択します。



- 計算を実行するディメンションを入力します。ディメンションはデフォルトでは現在の POV になりますが、変更可能です。

## 連結税率 IFRS の入力

IFRS の連結税率を入力し、国レベルまたは地域レベルでこの税率を適用します。このオプションは、単一通貨および複数通貨の両方に適用されます。

### ノート:

このタスクを実行する前にアプリケーションの IFRS 機能を有効にする必要があります。*Tax Reporting* の管理ガイドの次の手順を参照してください:

- 新規アプリケーションの作成.
- アプリケーションの機能の有効化.

連結 ETR IFRS 税率を入力するには:

- ホーム・ページで「アプリケーション」、「構成」の順にクリックします。
- 「構成」画面で「連結税率」を選択して、「連結税率」フォームを表示します。
- 「連結税率 IFRS」タブを選択します。

Scenario	Years	Period
Actual	FY15	P12
Consolidated Tax Rate National	40%	
Consolidated Tax Rate Local	20%	
Total Consolidated Tax Rate	60.00%	

- エンティティを含む POV を選択します。
- オプション: 連結税率(国)**で IFRS のオーバーライド税率(国)の値を入力します。
- オプション: 連結税率(地域)**で IFRS のオーバーライド税率(地域)の値を入力します。
- 「保存」をクリックします。

## エンティティ別連結 ETR IFRS 税率の上書き

選択したエンティティの連結 ETR IFRS グローバル税率をオーバーライドできます。エンティティ・レベルの税率は、国レベルまたは地域レベルに適用できます。このオプションは、単一通貨および複数通貨の両方と密と疎の組合せの両方に適用されます。

 ノート:

連結 ETR IFRS 率フォームと「エンティティ別連結税率 IFRS」フォームを表示して、エンティティ CETR IFRS 率を使用して計算された勘定科目を表示するには、アプリケーションに対して IFRS 機能を有効にする必要があります。IFRS 機能を有効にするには、*Tax Reporting* の管理ガイドの次の手順を参照してください:

- 新規アプリケーションの作成.
- アプリケーションの機能の有効化.

開始する前に、選択した基本レベル・エンティティの国および地域の連結税率を入力する必要があります。税金は、それぞれ国と地域の NIBT のみの連結税率に基づいて計算されます。追加引当金項目や繰延税金などの残額は、国の当期引当金や繰延引当金によって充当されます。

 ノート:

エンティティにエンティティ別連結有効レートが割り当てられていない場合は、「エンティティ別連結 ETR IFRS」フォームに連結後の税効果額が表示されません。「連結 ETR IFRS」フォームには、グローバル・レートを使用して計算された金額が表示されます。

エンティティ別連結税率 IFRS は、税率のロールオーバーを使用してある年から別の年へ、あるいはある期間から別の期間へコピーできます。

エンティティ別連結 ETR 税率 IFRS レポートを表示するには:

1. 特定のエンティティの連結 ETR IFRS 税率を設定します:
  - a. ホーム・ページで「アプリケーション」、**「構成」**の順にクリックします。
  - b. **構成**ページで**連結レート**をクリックして、「連結税率」フォームを表示します。
  - c. **「エンティティ別連結税率 IFRS」** タブを選択します。



Scenario	Years	Period	Entity						
Actual	FY16	P12	San Jose(USD)						
Consolidated Tax Rate National				35%					
Consolidated Tax Rate Local				20%					
Total Consolidated Tax Rate by Entity				55%					

- d. **オプション:** 「編集」アイコン  をクリックし、グローバル税率をオーバーライドする基本レベルの**エンティティ**を含む POV を選択します。
- e. **連結税率(国)**と**連結税率(地域)**で、国と地域のオーバーライド税率の値を入力します。率は小数で入力してください。たとえば、**100** の場合は「**1**」と入力し、**50%** の場合は「**.5**」と入力します。これらの率は税引前純利益(NIBT)にのみ適用されます。その他のフィールドはデータの変動のみを表します。

- f. 「保存」をクリックして**エンティティ別合計連結税率**を移入し、「閉じる」をクリックします。
2. ホーム・ページで、「**税引当(国)**」をクリックし、次に **ETR IFRS** をクリックします。
3. 「**エンティティ別連結 ETR IFRS**」タブをクリックします。次の列が表示されます。
  - 税引前 - 国全体
  - エンティティ別税効果 CETR IFRS - 国全体
  - エンティティ別税効果 CETR IFRS - 地域全体
  - エンティティ別税効果 CETR IFRS - 国および地域の合計
  - 連結 CETR IFRS パーセンテージ - 管轄なし

Consolidated ETR IFRS by Entity						
Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Multi-GAAP	Currency
Actual	FY20	P 1	ABC Enterprises	Entity Input	No Multi-GAAP	Entity Currency
	Pre Tax	Tax Effect CETR IFRS By Entity	Tax Effect CETR IFRS By Entity	Tax Effect CETR IFRS By Entity	Consolidated ETR IFRS By Entity Percentage	
	All National	All National	All Regional	Total National And Regional	No Jurisdiction	
<input type="checkbox"/> Net Income Before Tax						
Consolidated Effective Tax Rate By Entity						
<input type="checkbox"/> Permanent Differences (GAAP to Stat)						
<input type="checkbox"/> Permanent Differences (Stat to Tax)						
Total Regional Permanent Differences						
Total Permanent Differences						
Special Deductions						
<input type="checkbox"/> Consolidated Deductible Regional Tax						
Other Deductible Income tax						
Other Deductible Income Taxes - Reversal						
Regional Tax Deduction						
Total Deductible Tax CETR						
Total Tax Credits Current Year						
Regional Total Tax Credits Current Year						
Total Tax Credits						
<input type="checkbox"/> Change in Valuation Allowance						
Additional Current Provision - Source						
Additional Current Provision - Manual						

4. オプション: 「編集」アイコン  をクリックし、グローバル税率をオーバーライドする**エンティティ**を含む POV を選択します。
5. 「アクション」、「連結」の順に選択します。このフォームは、選択したエンティティの国と地域の ETR IFRS 税率を使用して計算されています。エンティティ別 CETR IFRS 税率は、NIBT セクションのみに適用されます。
6. 一番下の行の税額と連結 ETR IFRS の値は、「連結 ETR IFRS」フォームと「エンティティ別連結 ETR IFRS」フォームで同じである必要があります。

## データ・ステータスおよび検証

### 計算ステータスの確認

各プロセス単位(シナリオ、年、エンティティ、期間)の処理ステータスを確認するには、データ・ステータス・フォームの「計算ステータス」タブにアクセスします。

 ノート:

このフォームのデータは変更できません。

計算ステータスを確認するには:

1. ホーム・ページで、「**税引当(国)**」を選択し、次に「**データ・ステータス**」を選択します。
2. 「**計算ステータス**」タブを選択します。

Calculation Status											
Consolidated ETR Validation											
National ETR Validation											
Regional ETR Validation											
Data Status											
Scenario Actual	Years FY16	Currency Entity Currency								Actions	Refresh
			P1		P2		P3		P4		P5
			Approval Status	Calculation Status	Approval Status						
			Not Started	Impacted	Not Started						
<input type="checkbox"/>	<b>Western USA(USD)</b>		Not Started	Impacted	Not Started						
			Not Started	No Data	Not Started						
			Not Started	No Data	Not Started						
			Not Started	No Data	Not Started						
<input type="checkbox"/>	<b>Eastern USA(USD)</b>		Not Started	No Data	Not Started						
<input type="checkbox"/>	<b>United States of America(USD)</b>		Not Started	Impacted	Not Started						
			Not Started	Ok	Not Started						
			Not Started	No Data	Not Started						
			Not Started	No Data	Not Started						
<input type="checkbox"/>	<b>Total Canada(CAD)</b>		Not Started	Impacted	Not Started						
			Not Started	Impacted	Not Started						
			Not Started	No Data	Not Started						
			Not Started	No Data	Not Started						
<input type="checkbox"/>	<b>Total UK(GBP)</b>		Not Started	Impacted	Not Started						
			Not Started	No Data	Not Started						
			Not Started	No Data	Not Started						
			Not Started	No Data	Not Started						
			Not Started	No Data	Not Started						
			Not Started	No Data	Not Started						
			Not Started	No Data	Not Started						

3. エンティティごとに、表示するエンティティが含まれる行を選択します。
4. 必要な期間(P1、P2 など)の「承認ステータス」の下に、アイテムの承認ステータスが表示されます。
5. 必要な期間(P1、P2 など)の「計算ステータス」の下に、現在のステータスが表示されません。
  - 未開始
  - システムの変更
  - データなし
  - 影響
  - OK

## ハイブリッドおよび非ハイブリッド・アプリケーションのデータ・ステータス間の差異

勘定科目が密のアプリケーションと、期間と増減が密のアプリケーションでは、連結実行後のデータ・ステータス・フォームの計算ステータスの変化に違いがあります。

ユース・ケース例:

この例では、ハイブリッド・アプリケーションと非ハイブリッド・アプリケーションのデータ・ステータスの動作の違いを確認できます。

- 実績、FY22、P1、トロント・エンティティのデータを入力します。P1 が影響を受けます。

Entity	Calc Status				
	P1	P2	P3	P4	P5
Toronto	Impacted	No Data	No Data	No Data	No Data

- 同じ POV を統合します。計算ステータス P1 が「OK」になり、次の期間 P2 が影響を受けます。

Entity	Calc Status				
	P1	P2	P3	P4	P5
Toronto	OK	Impacted	No Data	No Data	No Data

- 次に、実績、FY22、P4、トロントのデータを入力します。P4 が影響を受けます。

Entity	Calc Status				
	P1	P2	P3	P4	P5
Toronto	OK	Impacted	No Data	Impacted	No Data

- 連結実績、FY22、P4、トロント。P1 の計算ステータスが「OK」であるため、P1 の連結は実行されません。

### ハイブリッド・アプリケーション

すべての期間(P2以降)が連結され、P2 - P4 の計算ステータスが「OK」に変更されます。P5 である P4 の次の期間が影響を受けます。

Entity	Calc Status				
	P1	P2	P3	P4	P5
Toronto	OK	OK	OK	OK	Impacted

### 非ハイブリッド・アプリケーション

勘定科目を密として使用するアプリケーションでは、実績、FY22、P4、トロントを連結すると、動作が異なります。

実績、FY22、P4、トロントを連結した後、システムは、計算ステータスが「データなし」である前期の計算ステータスを変更しません。

Entity	Calc Status				
	P1	P2	P3	P4	P5
Toronto	OK	OK	No Data	OK	Impacted

関連項目: [Tax Reporting の管理のアプリケーション・モデル](#)および[ハイブリッド集約のアプリケーション・モデルの最適化](#)

## 国の ETR の検証

当期引当金 - 繰延税金が、システムで計算された法定 ETR に等しいことを検証できます。

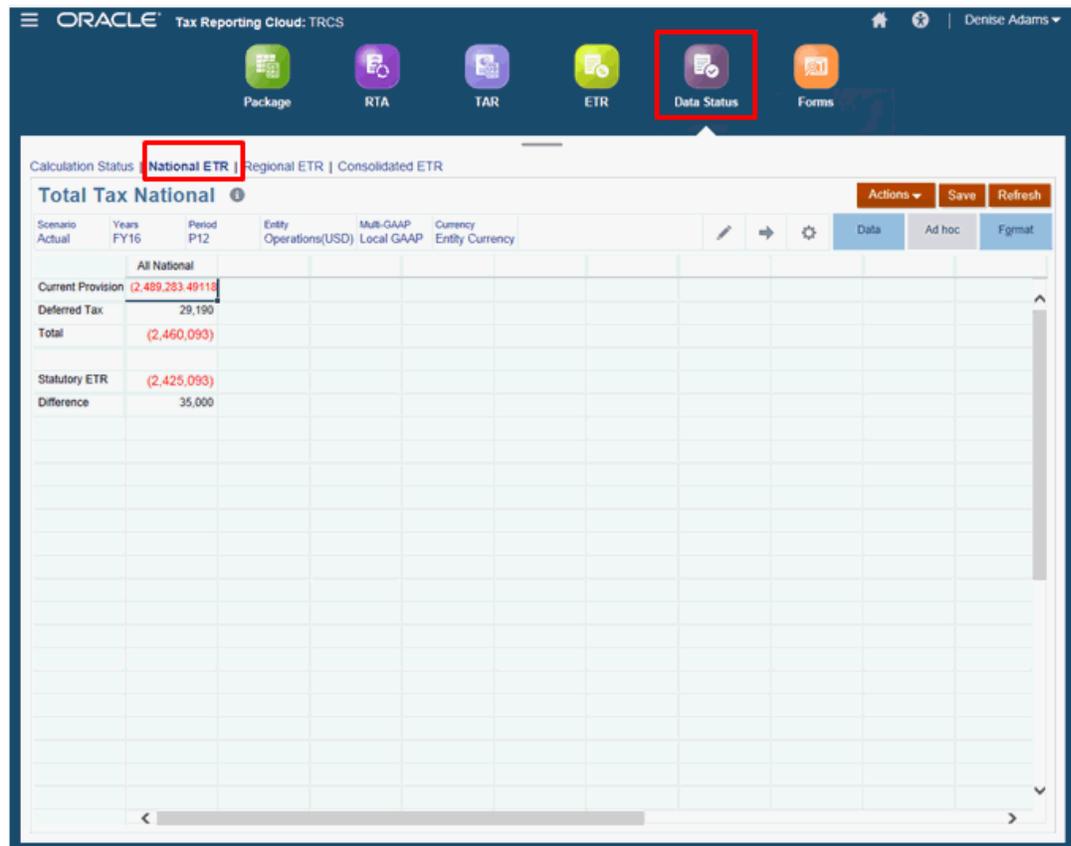
差異がある場合、その金額は Oracle Smart View for Office の仕訳入力に記録される必要があります。

 **ノート:**

このフォームのデータは変更できません。

国の ETR の計算を検証するには:

1. ホーム・ページで、「**税引当(国)**」を選択し、次に「**データ・ステータス**」を選択します。



The screenshot shows the Oracle Tax Reporting Cloud: TRCS interface. The 'Data Status' tab is highlighted in the top navigation bar. Below it, the 'National ETR' tab is selected in the 'Calculation Status' section. The main content area displays a table titled 'Total Tax National' with the following data:

Scenario	Years	Period	Entity	Mult-GAAP	Currency
Actual	FY16	P12	Operations(USD)	Local GAAP	Entity Currency
All National					
Current Provision					(2,489,283,491.18)
Deferred Tax					29,199
<b>Total</b>					<b>(2,460,093)</b>
Statutory ETR					(2,425,093)
Difference					35,000

2. 「**国の ETR**」タブを選択します。
3. 税金合計(国)の結果を確認します。
  - 当期引当
  - 繰延税金
  - 合計
  - 合計有効税率 SETR
  - 差異

4. 「差異」に金額が表示されている場合、Smart View を使用して仕訳入力を生成し、差異を説明する必要があります。

## 地域の ETR 計算の検証

地域の当期引当金 - 繰延税金が、システムで計算された地域の法定 ETR に等しいことを検証できます。

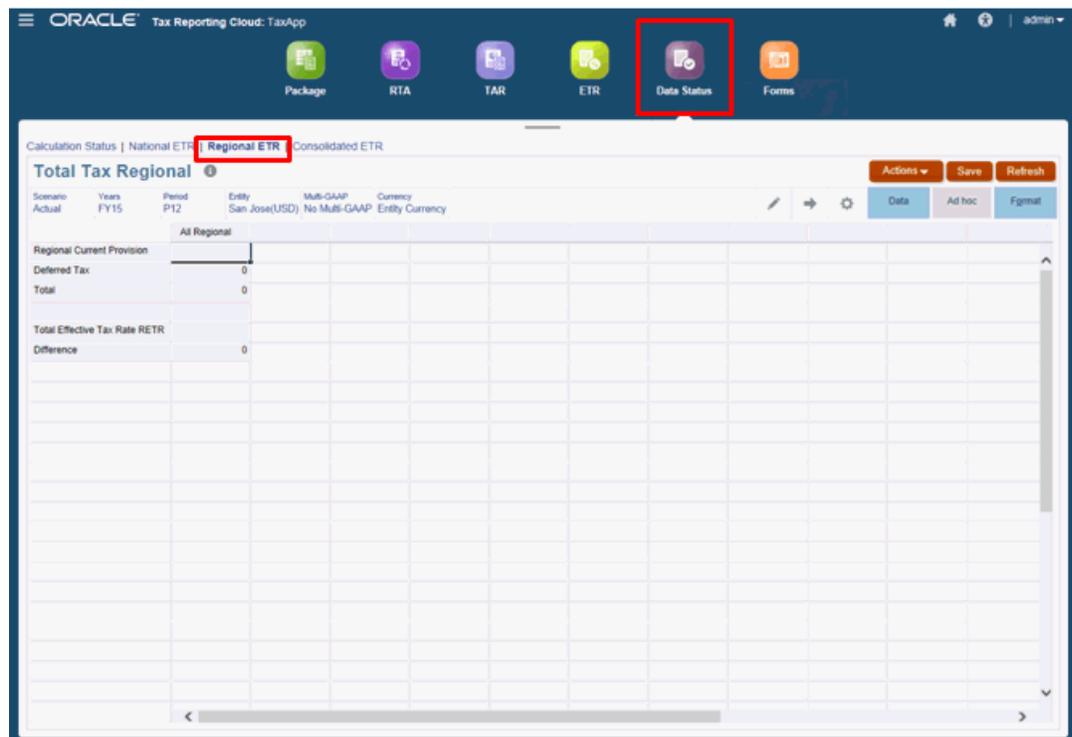
差異がある場合、その金額は Oracle Smart View for Office の仕訳入力に記録される必要があります。

### ノート:

このフォームのデータは変更できません。

税金合計(地域)フォームを検証するには:

1. ホーム・ページで、「税引当(国)」を選択し、次に「データ・ステータス」を選択します。



2. フォームで、「地域の ETR」タブを選択します。
3. 税金合計(地域)の結果を確認します。
  - 当期引当
  - 繰延税金
  - 合計

- 合計有効税率 SETR
  - 差異
4. 「差異」に金額が表示されている場合、Smart View を使用して仕訳入力を生成し、差異を説明する必要があります。

## 税金合計(連結)の検証

連結 ETR の計算を検証できます。

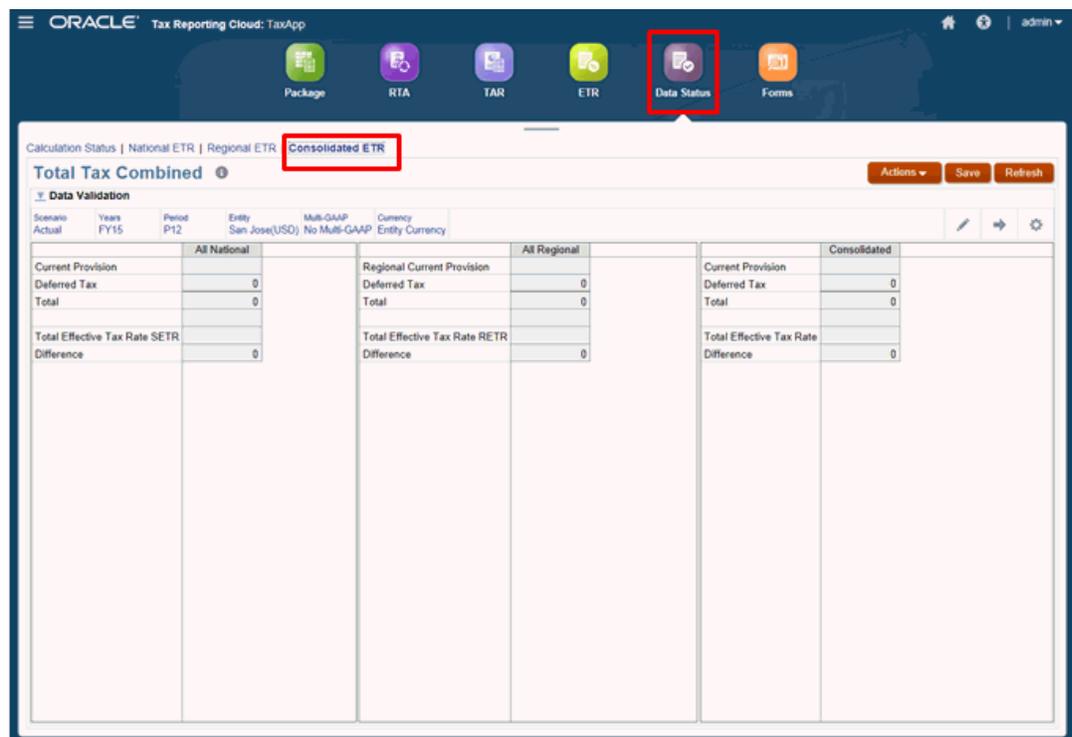
検証は自動的に生成されます(合計税金費用が、システムで計算された有効税率レポートと一致していることが示される必要があります)。差異がある場合、その金額は Oracle Smart View for Office の仕訳入力に記録される必要があります。

### ノート:

このフォームのデータは変更できません。

税金合計(連結)を検証するには:

1. ホーム・ページで、「税引当(国)」を選択し、次に「データ・ステータス」  を選択します。



	All National	All Regional	Consolidated
Current Provision			
Deferred Tax	0	0	0
Total	0	0	0
Total Effective Tax Rate SETR			
Difference	0	0	0

2. フォームで、「連結 ETR」タブを選択します。
3. 適切な列で、次の連結された結果を確認できます。
  - 国全体

- 地域全体
  - 連結
4. 「税金合計」カテゴリのいずれかで「差異」に金額が表示されている場合、Smart View を使用して仕訳入力を生成し、差異を説明する必要があります。

## 予測および予算の作成シナリオに対する期首残高のオーバーライド

予測および予算は、現在の費用を管理して来年度の将来の費用をプレディクトできるようにする方法です。アプリケーションに対して様々なシナリオ(予測、予算、What-If シナリオなど)を作成することによって、状況ごとに異なる条件を反映するようにシナリオをモデル化できます。

期首残高に対するシステムのデフォルトの動作では、データが書き込まれる期首残高と同じシナリオから期末残高を繰り越します。期首残高には、各年度の期末残高データのソースとなる別のシナリオを指定できます。たとえば、予測、プラン、予算など、将来の予測データを記録する場合、レポートされる期首残高は、予測される期間の期末残高に可能な限り正確な結果が反映されるように、通常は実際の最新データに基づいています

シナリオに期首残高オーバーライドを指定するには:

1. **オプション:** ターゲット・シナリオ(予測など)の税率および FX レートを更新します。次のトピックを参照してください:

- [税率の入力](#)
- [国の FX レートの操作](#)

システム管理者またはパワー・ユーザーは、構成のコピーを使用して、実績の期首税率を予測にプルできます。シナリオ、年および期間全体の構成のコピーを参照してください。

2. ホーム・ページで「**アプリケーション**」、**「構成」**の順にクリックします。
3. **期首残高オーバーライド**を選択して、TRCS\_Opening Balance Override フォームを開きます。

	Source Scenario for Opening Balance	Source Scenario for RTA	Source Scenario for Opening FX Rate
Actual			
Interim Provision Forecast	Actual	Actual	Actual
Budget	Actual	Actual	Actual
Budget NIBT			
Quarter1 Forecast			
Quarter 1 Forecast NIBT			
Quarter2 Forecast			
Quarter 2 Forecast NIBT			
Quarter3 Forecast			
Quarter 3 Forecast NIBT			

4. 「年」をクリックして設定するターゲット年を選択し、「OK」をクリックします。
5. 生成するシナリオ(予算や予測など)を含む行を選択します。
6. **オプション:** 新しいシナリオ(What-If シナリオなど)を追加するには:

- a. ナビゲータの「作成および管理」で、「ディメンション」を選択し、「シナリオ」ディメンションを選択します。使用可能なすべてのシナリオが TRCS\_Opening Balance Override フォームに表示されます。
- b. 「子の追加」をクリックして新しいシナリオの詳細を追加し、「保存」をクリックします。

 ノート:

「BegBal を期間として含める」を選択して期首残高を含めます。

- c. データベースをリフレッシュします。
7. **期首残高のソース・シナリオ**で、「実績」を選択して期首残高のソースとして使用します。ソース期間は常に固定されます(例: 期首残高と期首 FX レートの場合は P12、RTA の場合は P13)。
8. **オプション: RTA のソース・シナリオ**で、ソース・シナリオを選択して RTA データをプルします。実績 RTA ソース・シナリオが選択されていない場合、RTA はターゲット・シナリオ(例: 予測または予算シナリオ)から選択されます(そこにデータが定義されている場合)。
9. **オプション: 期首 FX レートのソース・シナリオ**で、ソース・シナリオを選択して FX レートをプルします。実績 FX レート・ソース・シナリオが選択されていない場合、FX レートはターゲット・シナリオ(例: 予測または予算シナリオ)から選択されます(そこにデータが定義されている場合)。
10. 「保存」をクリックします。
11. **オプション:** 連結を実行する前に、必要に応じてシナリオを調整します。
12. ホーム・ページで、「税引当(国)」を選択し、次に「パッケージ」、「現在の引当金」の順に選択します。
13. 「アクション」で、「連結」を選択します。ターゲット POV を選択することで連結の結果を表示でき、「一時差異」および「繰延税金」フォームの「期首残高」で結果をレビューできます。

# 13

## 地域税プロセスの操作

### 関連リンク:

- [当期引当金\(地域\)の税金自動化の使用](#)
- [地域の当期引当金の操作](#)
- [地域の RTA \(申告額の未払処理調整\)の操作](#)
- [取得の操作: 地域](#)
- [地域の税金勘定ロールフォワード \(TAR\)の操作](#)
- [地域の税金勘定科目ロールフォワード \(TAR\)のカスタマイズ](#)
- [地域の法定有効税率の操作](#)

## 当期引当金(地域)の税金自動化の使用

サービス管理者は、ソースと宛先のメンバーを定義し、税金自動化で地域の当期引当金の開始点が法的エンティティの財務諸表の税引前利益に等しいことを確認するために、連結プロセスを実行します。税金自動化ロジックは、連結プロセスの一環として実行されます。

地域の引当金プロセスは、税金自動化に依存して NIBT、永久差異および一時差異の自動金額を移入する点で、国の引当金プロセスに似ています。国の引当金計算は、地域の引当金計算の前、連結プロセスの実行中に行われます。[当期引当金\(国\)の税金自動化の使用](#)を参照してください。

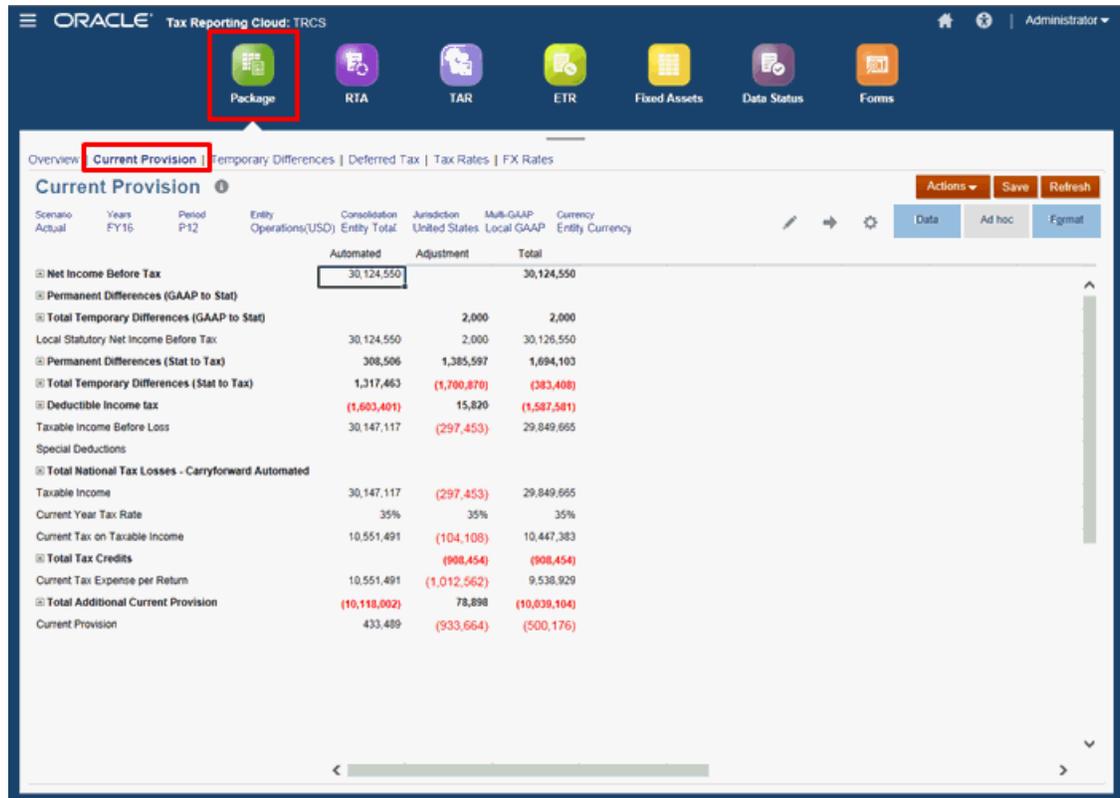
エンティティの損益計算書の税引前純利益(NIBT)が、現在の引当金フォームの税引前純利益行にコピーされます。税金自動化プロセスを使用して、当期引当金に取得される税引前純利益調整の金額を自動化することもできます(たとえば、帳簿の調整や帳簿の組替えなど)。

### ノート:

「保管」または「共有しない」のプロパティを持つ子を **NIBT の帳簿調整** および **NIBT の合計台帳組替** で追加する必要があります。これにより、税金自動化を使用してデータを「現在の引当金」フォームに取り込むことができます。

貸借対照表および損益計算書データは、永久差異と一時差異に移入するために使用されます(これは、照合時間を短縮して正確性を向上するために、一般会計から自動化できます)。

税金自動化の実行後に、NIBT、一時差異および永久差異の自動金額が表示されます。



Tax Reporting の管理の「税金自動化トレースの操作」も参照してください。

## 地域の当期引当金の操作

### 関連トピック:

- ・ [地域の概要ダッシュボードの確認](#)
- ・ [地域の当期引当金フォームの操作](#)
- ・ [地域の一時差異の入力](#)
- ・ [地域の繰延税金の操作](#)
- ・ [地域の税率の操作](#)
- ・ [地域の FX レートの操作](#)

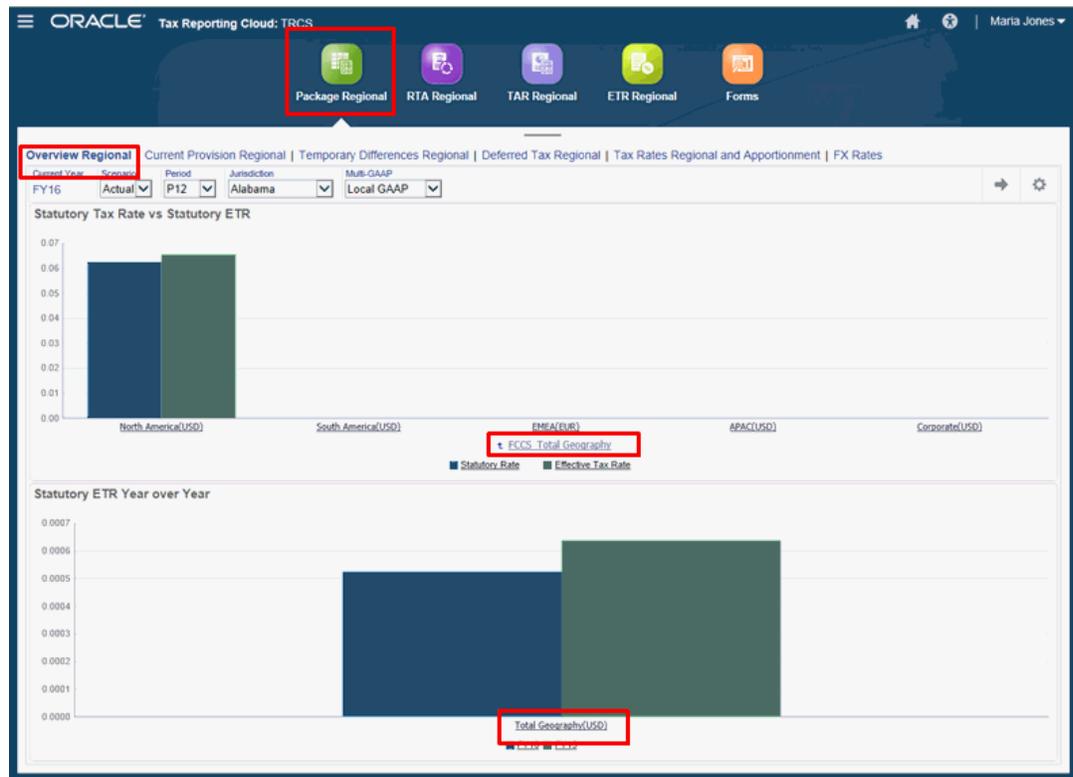
## 地域の概要ダッシュボードの確認

地域の税引当の概要ダッシュボードには、次の棒グラフの結果が表示されます。

- ・ **法定税率 vs 法定 ETR** - 選択したエンティティについて今年度の地域の法定税率と有効税率を比較します。
- ・ **法定 ETR 前年同期比** - 選択したエンティティについて今年度と前年度の地域の法定 ETR レートを比較します。

概要ダッシュボードを確認するには:

1. ホーム・ページで、「**税引当(地域)**」を選択し、次に「**パッケージ(地域)**」を選択します。



2. 「概要(地域)」 タブで、**法定税率 vs 法定 ETR** ダッシュボードを確認します。

ダッシュボードにドリルダウンするには、**地域合計**などの最上位レベル・エンティティをクリックします。使用可能な地域の名前をクリックしてドリルダウンを続けます。

3. 「概要(地域)」 タブで、**法定 ETR 前年同期比**ダッシュボードを確認します。

ダッシュボードにドリルダウンするには、**地域合計**などの最上位レベル・エンティティをクリックします。使用可能な地域の名前をクリックしてドリルダウンを続けます。

#### 📌 ノート:

最上位レベル・エンティティ (地域合計)のダッシュボードを表示するには、地域合計を連結し、税率および FX レートがすべてのエンティティに入力されていることを確認する必要があります。

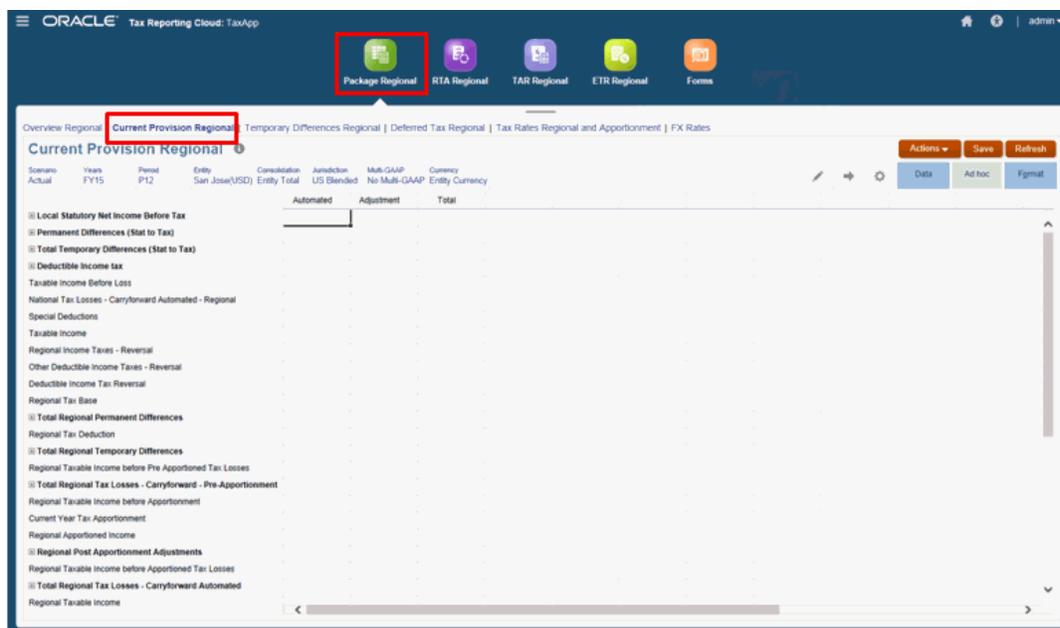
## 地域の当期引当金フォームの操作

地域の当期引当金フォームを使用して、地域の引当金に対する当期の税金費用を調整、確認および計算します。

フォームでは、追加の永久差異と一時差異の調整に加え、他の引当以外の金額も入力できます。[国の当期引当金フォームの操作](#)も参照してください。

地域の引当金に対する当期の税金費用を計算するには:

1. ホーム・ページで、「**税引当(地域)**」を選択し、次に「**パッケージ(地域)**」を選択します。
2. 「**現在の引当金(地域)**」タブを選択します。



3. オプション: 「メンバーの編集」  をクリックして POV を変更します。
4. オプション: 「調整」 の下で、調整を入力します。
5. 「アクション」 で、「連結」 を選択して現在の引当金データ・フォームを再計算します。

#### ノート:

特定の勘定科目に対して税が計算されていない場合、プロパティが正しく設定されない可能性があります。たとえば、次の属性が、永久差異と一時差異の地域の勘定科目で設定されていることを確認する必要があります。

- **税データ・タイプ**を **PreTax** に設定します。
- **税タイプ**を **Regional** に設定します

ディメンション・エディタでプロパティ 設定を確認し、必要に応じて修正します。  
[簡易ディメンション・エディタを使用したメンバー・プロパティの編集](#)を参照してください

 ノート:

国のデータが、一部の税金差異勘定科目について地域の引当金に取得されない場合、いくつかのプロパティが適切に構成されていないことが原因である場合があります。次の属性が税金差異勘定科目で設定されていることを確認する必要があります。これを行うには:

- 税タイプを **NationalAndRegional** に設定します。これにより、税金勘定科目の国のデータが地域/県に渡されます。勘定科目メンバー属性の詳細は、**Tax Reporting の管理の勘定科目プロパティの定義**にある表**勘定科目プロパティ**を参照してください。
- ディメンション・エディタでプロパティ設定を確認し、必要に応じて修正します。**簡易ディメンション・エディタを使用したメンバー・プロパティの編集**を参照してください。
- 地域/県が、税率スケジュールでアクティブとして設定されていることを確認します。アクティブな地域フラグの構成については、**Tax Reporting の管理の税率の設定**にある表**税率タイプ**を参照してください。

6. 計算された地域の当期の引当金費用の結果を確認します。

## 税引前純利益

税引前純利益(NIBT)は、税金自動化プロセスを通じて現在の引当金フォームで自動的に移入されます。システムでは、いくつかの既存の税引前純利益調整を準備するとともに、税引前純利益を調整する必要のある状況に対して調整を構成できます(遅延調整など)。システムでは、次の税引前純利益調整が提供されます。

- 帳簿の調整
- 帳簿の組替え

税引前純利益の自動化プロセスによって、一般会計から現地通貨で当期引当金が移入されます。自動構成により、税引前純利益が財務諸表に一致することが保証されます。

## 永久差異と一時差異

永久差異と一時差異は、エンティティの **GAAP** と法定間の差異のレポート要件に対応するため、次の 2 つのカテゴリに分類されます。

- **GAAP と法定の調整** - 各地の税法で親のものとは異なる会計基準が要求される法的エンティティは、**GAAP** と法定の調整を使用します。
- **法定と税金の調整** - **GAAP** と法定の永久差異または一時差異を使用しないか、それらを保持しないエンティティで、レポート標準と各地の税法が同じであるものは、**法定と税金の永久差異および一時差異のセクション**を使用します。

永久差異と一時差異の金額は、手動入力または自動化が可能です。手動入力には、必要な自動計算値に対する調整も含まれます。

## 控除可能な地域税、その他税および逆仕訳

現在の引当金フォームのこのセクションでは、システムで控除可能に構成されている地域税の自動控除および逆仕訳と、国レベルで控除可能な他の税金の手動調整が提供されます。

- **地域の法人税** - 自動値は、地域の控除がプラス/マイナスで控除可能に構成されている場合、地域の当期引当金から取得されます
- **他の控除可能な法人税** - 国レベルの同等部分で控除可能な他の税金に対する手動入力
- **控除可能な法人税**

## 地域の課税損失および税額控除の詳細

課税損失および税額控除では、ビジネス・エンティティが将来の課税所得または税金負債(あるいはその両方)を相殺するために、課税損失および税額控除を繰越可能にするメカニズムを提供します。損失および控除は詳細な「課税損失(地域)」および「税額控除(地域)」フォームに取得され、起算および期限切れの年別に詳細に記載されます。詳細な「課税損失(地域)」および「税額控除(地域)」フォームは、「現在の引当金(地域)」および「一時差異(地域)」フォームに統合されています。

繰越可能な期間は国ごとに税のルールが異なるため、「期限切れの年」で取得します。この連結ベースのデータおよび詳細は、財務諸表の税の注記または開示の一部です。

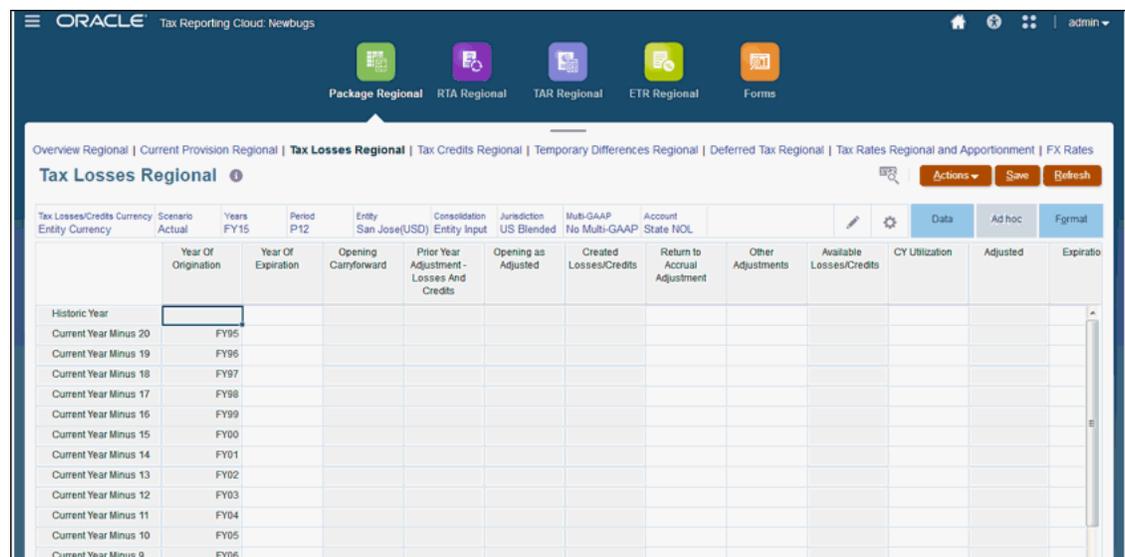
課税損失および税額控除を取得するには、次のフォームを使用できます。

- [地域の課税損失](#)
- [地域の税額控除](#)

### ノート:

アプリケーションで課税損失または税額控除の勘定科目が使用可能でない場合、課税損失または税額控除のフォームは使用できません。

ホーム・ページで、「**税引当(地域)**」、「**パッケージ(地域)**」の順に選択します。「**課税損失**」フォームと「**税額控除**」フォームの列は両方とも同じです。各列の説明は、次の「課税損失および税額控除の詳細スケジュール」表を参照してください。



Tax Losses/Credits Currency	Scenario Actual	Years FY15	Period P12	Entity San Jose(USD)	Consolidation Entity Input	Jurisdiction US Blended	Multi-GAAP No Multi-GAAP	Account State NOL		Data	Ad hoc	Format
	Year Of Origination	Year Of Expiration	Opening Carryforward	Prior Year Adjustment - Losses And Credits	Opening as Adjusted	Created Losses/Credits	Return to Accrual Adjustment	Other Adjustments	Available Losses/Credits	CY Utilization	Adjusted	Expiration
Historic Year												
Current Year Minus 20	FY95											
Current Year Minus 19	FY96											
Current Year Minus 18	FY97											
Current Year Minus 17	FY98											
Current Year Minus 16	FY99											
Current Year Minus 15	FY00											
Current Year Minus 14	FY01											
Current Year Minus 13	FY02											
Current Year Minus 12	FY03											
Current Year Minus 11	FY04											
Current Year Minus 10	FY05											
Current Year Minus 9	FY06											

表 13-1 課税損失および税額控除の詳細スケジュール

課税損失および税額控除の列	説明	他のフォームへの影響
起算年	POV で選択した年に基づいて、 <b>起算年</b> に、実際の会計年(FY17、FY18、FY19 など)が表示されます。	
期限切れの年	<p>課税損失または税額控除の期限が切れる年をドロップダウン・リストから選択します。損失を繰り越せる期間を指定する税のルールは国ごとに異なります。</p> <p>連結が実行された後、次の状況では「<b>期限切れの年</b>」がデフォルト設定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「<b>期限切れの年</b>」が未選択で、<b>期末繰越</b>に値がある場合、「<b>期限切れの年</b>」は自動的に「<b>期限切れなし</b>」に設定されます。</li> <li>• 「<b>期限切れの年</b>」が選択され、<b>期末繰越</b>に値がないかゼロに等しい場合、「<b>期限切れの年</b>」はクリアされます。</li> </ul>	
期首繰越	<p>期首繰越は読取り専用で、前年度の期末繰越から移入されます。この値は連結後に移入されます。</p> <p>前年度の期末繰越の値がゼロに等しい場合、今年度の期首繰越は空白になります。</p>	

表 13-1 (続き) 課税損失および税額控除の詳細スケジュール

課税損失および税額控除の列	説明	他のフォームへの影響
前年度調整 - 損失および控除	前年度調整金額を入力します。	<p>次の場所に調整の合計がコピーされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「課税損失」フォーム</li> <li>「一時差異」フォームの<b>前年度調整 - 損失および控除</b>の対応する課税損失/税額控除勘定科目。このフィールドは読取り専用です。</li> <li><b>期末繰越</b>の値が翌年に移動します。</li> </ul>

 **ト:** 前年度調整 - 損失および控除は、アプリケーションの開始年には編集可能ではありません。

**調整された期首**

この金額は、期首繰越と前年度調整の合計の親です。

表 13-1 (続き) 課税損失および税額控除の詳細スケジュール

課税損失および税額控除の列	説明	他のフォームへの影響
作成された損失/控除	この金額は今年度の繰延課税損失または繰延税額控除です。 今年度の繰延課税損失について、調整が入力された場合は「現在の引当金」フォームの調整済の課税損失勘定科目から国の課税損失合計 - 自動繰越勘定科目に、この金額が振り替えられます。	連結後、この金額は「一時差異」フォームの「自動」列にコピーされます。



ト:

控除は今年度税額控除にのみ入力できます。控除が「現在の引当金」フォームから振り替えら

表 13-1 (続き) 課税損失および税額控除の詳細スケジュール

課税損失および税額控除の列	説明	他のフォームへの影響
		る こ と は あ り ま せ ん。
	繰延課税損失は、「一時差異」の「自動」列にコピーされます。	
	「課税損失」詳細スケジュールでは、繰延金額はフォームの次の場所に表示されます。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 選択した年の<b>作成された損失/控除</b>の下。</li> <li>• <b>期首繰越</b>の下。</li> </ul>	
申告額の未払処理調整	税金還付の充てん結果として、繰延調整に返還するために現在の期間に調整を入力します。	この金額は RTA スケジュールから自動化されていないため、一時差異に自動的に適用されません。
その他の調整	その他の調整の金額を入力します。	連結後、その他の調整の合計はすべて、「一時差異」フォームの <b>他の調整 - 自動(繰延のみ)</b> に移動されます。
使用可能な損失/控除	この列の合計は、次の要約になります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 調整された期首</li> <li>• 作成された損失/控除</li> <li>• 申告額の未払処理調整</li> <li>• 他の調整</li> </ul>	
今年度使用	この損失を今年度(CY)に使用する場合は負の金額を入力します。	CY 合計が次のフォームに移動します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「現在の引当金」フォームの<b>課税損失 - 自動繰越</b>の「自動」列</li> <li>• 「一時差異」フォームの<b>課税損失 - 自動繰越</b>の「自動」列</li> </ul>
調整済	この列には、次の各列の合計が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 使用可能な損失/控除</li> <li>• 今年度使用</li> </ul>	
期限切れ	今年度の特定の金額を期限切れにする場合は、その金額を入力します。	課税損失または税額控除の <b>期限切れ</b> および「その他の調整」の合計が、「一時差異」の <b>他の調整(繰延のみ)</b> に移動します。

表 13-1 (続き) 課税損失および税額控除の詳細スケジュール

課税損失および税額控除の列	説明	他のフォームへの影響
外国為替 - 期首残高	この金額は、親通貨またはレポート通貨への換算に起因する期首残高の差異です。	
外国為替 - 今年度	この金額は、親通貨またはレポート通貨への換算に起因する今年度の差異です。	
外国為替	この金額は、外国為替期首残高と今年度の外国為替の合計です。	これらの 3 つの列は自動化された通貨換算の値で、「一時差異」に表示される値と同様に動作します。
出資比率 - 期首残高	この金額は、親への出資比率の変更に起因する期首残高の差異です。	
出資比率 - 今年度	この金額は、出資比率期首残高と今年度の出資比率の差異です。	
出資比率	この金額は、出資比率期首残高と今年度の出資比率の合計です。	
期末繰越(a)	<b>期末繰越</b> には、期末繰越を生成するために、「期限切れの年」を除くすべての列のサマリーが表示されます。	
一時差異期末残高(b)	<b>一時差異期末残高(b)</b> には、一時差異の期末残高が表示されます。	
差異(a - b)	この金額には、次の値の差異が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>期末繰越(a)</b></li> <li>• <b>- 一時差異期末残高(b)</b></li> </ul>	

## 地域の課税損失

「課税損失(地域)」フォームは、地域の課税損失の追跡に使用されます。損失を将来の期間に繰り延べる場合は、現在の引当金(地域)レポートにデータを入力します。連結後に繰延金額が課税損失詳細(地域)スケジュールに移動します。

損失を将来の期間に繰り延べるには:

1. ホーム・ページで、「**税引当(地域)**」、「**パッケージ(地域)**」の順にクリックします。
2. 「**現在の引当金**」フォームの**地域の課税損失合計 - 自動繰越**で、**地域の課税損失 2 - 自動繰越**の「**調整**」列に、繰延損失の値を入力します。  
課税損失勘定科目の調整値が「課税損失」フォームに移動します。税額控除勘定科目に値が入力された場合、「税額控除」フォームへの移動はありません。
3. 「**保存**」をクリックします。
4. 「**アクション**」で、「**連結**」を選択します。
5. **現在の引当金(地域)**レポートの「**課税損失(地域)**」タブをクリックします。

「課税損失(地域)」詳細スケジュールでは、繰延金額は期首繰越に表示されます。「課税損失」フォームで実施したその他の調整は、連結後に「一時差異」フォームに移動されます。[地域の一時差異の入力](#)を参照してください。

Tax Losses/Credits	Currency	Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Account	Other	Available	CY Utilization	Adjusted	Expiration
Entity	Currency	Actual	FY15	P12	San Jose(USD)	Entity Input	US Blended	No Multi-GAAP	State NOL	Adjustments	Losses/Credits			
			Year Of Origin	Year Of Expiration	Opening Carryforward	Prior Year Adjustment - Losses And Credits	Opening as Adjusted	Created Losses/Credits	Return to Accrual Adjustment					
Historic Year														
Current Year Minus 20			FY95											
Current Year Minus 19			FY96											
Current Year Minus 18			FY97											
Current Year Minus 17			FY98											
Current Year Minus 16			FY99											
Current Year Minus 15			FY00											
Current Year Minus 14			FY01											
Current Year Minus 13			FY02											
Current Year Minus 12			FY03											
Current Year Minus 11			FY04											
Current Year Minus 10			FY05											
Current Year Minus 9			FY06											

- 必要に応じて、選択した年の地域の課税損失を入力します。「課税損失(地域)」フォームのすべての列の説明について、[地域の課税損失および税額控除の詳細](#)の「地域の課税損失および税額控除の詳細スケジュール」表を参照し、データ入力を完了してください。一部の列は地域の当期引当金フォームの詳細を使用して自動的に移入されます。
- 「保存」をクリックします。
- 「アクション」で「連結」を選択します。

## 地域の税額控除

地域の税額控除の効果が追跡されます。

今年度で使用された地域の税額控除が「税額控除(地域)」フォームに入力され、「一時差異(地域)」フォームに自動的に適用されます。個々の税額控除の詳細な内訳(年や有効期限など)は、「税額控除(地域)」で追跡できます。

控除を将来の期間に繰り延べる場合は、「税額控除(地域)」レポートにデータを入力する必要があります。一時差異ロールフォワードで税額控除の繰越が追跡されます。

### ノート:

地域の課税損失および税額控除の勘定科目が使用可能でない場合、「課税損失(地域)」および「税額控除(地域)」フォームは表示されません。

控除を将来の期間に繰り延べるには:

- ホーム・ページで、「**税引当(地域)**」、「**パッケージ(地域)**」の順にクリックします。
- 「**税額控除(地域)**」フォームの「現在の年」の**作成された損失/控除**列に繰延控除の値を入力します。この値は「現在の引当金」レポートから移入されません。
- 「**税額控除**」タブで次の列に値を入力します:
  - 期限切れの年
  - 作成された損失/控除

• その他の調整

 ノート:

POV で選択した年に基づいて、**起算年**に、実際の会計年(FY19 など)が表示されます。

Tax Credits Regional													
Tax Losses/Credits Currency	Scenario Actual	Years FY19	Period P12	Entity San Jose(USD)	Consolidation Entity Input	Jurisdiction Alabama	Multi-GAAP Local GAAP	Account State Tax Credit					
	Year Of Origination	Year Of Expiration	Opening Carryforward	Prior Year Adjustment - Losses And Credits	Opening as Adjusted	Created Losses/Credits	Return to Accrual Adjustment	Other Adjustments	Available Losses/Credits	CY Utilization	Adjusted	Expiration	
Current Year Minus 13		FY06											
Current Year Minus 12		FY07											
Current Year Minus 11		FY08											
Current Year Minus 10		FY09											
Current Year Minus 9		FY10											
Current Year Minus 8		FY11											
Current Year Minus 7		FY12											
Current Year Minus 6		FY13											
Current Year Minus 5		FY14											
Current Year Minus 4		FY15											
Current Year Minus 3		FY16 No Expiration						5000	5000		5000		
Current Year Minus 2		FY17											
Current Year Minus 1		FY18 No Expiration										10000	
Current Year		FY19 No Expiration					5672454		5672454		5672454		
<b>Total Tax Losses/Credits</b>							<b>5672454</b>	<b>5000</b>	<b>5677454</b>		<b>5677454</b>	<b>10000</b>	

4. 「保存」をクリックします。

5. 「アクション」で、「連結」を選択します。

次の列の合計は、「税額控除(地域)」フォームの対応する税額控除勘定科目の「その他の調整」 - 他の自動調整(繰延のみ)に表示されます:

- 作成された損失/控除
- その他の調整
- 期限切れ

Temporary Differences Regional																							
Scenario Actual	Years FY19	Period P12	Entity San Jose(USD)	Consolidation Entity Input	Jurisdiction Alabama	Multi-GAAP Local GAAP	Currency Entity Currency																
								Opening Balance	Opening Balance Adjustment	Prior Year Adjustment - Losses And Credits	Opening Balance As Adjusted	Automated	Automated Reversal	Automated Total	Adjustment	Adjustment Reversal	Adjustment Total	CY Total	Return to Accrual (Deferred Only)	Audit Settlements (Deferred Only)	Other Adjustments - Automated (Deferred Only)		
Total National Tax Losses																							
Total Tax Credits Carryforward																							
Total Tax Attributes																							
Total National Temporary Differences, Losses, Credits and Attributes																							
Total Valuation Allowance																							
Temporary Differences National																							
Total Regional Temporary Differences																							
Total Temporary Differences - Regional																							
Total Regional Tax Losses - Carryforward - Pre- Apportionment																							
Total Regional Tax Losses - Carryforward Automated																							
Total Regional Tax Losses																							
State Tax Credit																							5687454
Regional Tax Credit 2 - XXXX																							
Regional Tax Credit 3 - XXXX																							
Total Regional Tax Credits - Carryforward																							5687454
Total Regional Tax Attributes																							
Total Regional Temporary Differences, Losses, Credits and Attributes																							5687454
Total Regional Valuation Allowance																							
Temporary Differences Regional																							5687454

国の一時差異の入力を参照してください。

## 追加引当金項目

システムには、手動で入力されるか、税効果に基づいて自動化される追加引当金項目があります。これらの項目は、税務基準、税率または財務諸表の当期引当金にレポートされる他の調整が掛けられた課税所得に基づかない税金に対して使用されます(FIN48 など)。これらの追加引当金項目は、税引当合計に影響し、レート照合調整として有効税率(ETR)レポートに反映されます。

## 地域の一時差異の入力

一時差異フォームを使用して、システムで自動化されない一時差異を入力します。金額には、一時差異、課税損失、国または地域の控除、および関連する評価引当金が含まれます。今年度と前年度の調整および非引当金や資本項目などのアクティビティも入力できます。

各一時差異は、貸借対照表の分類目的で非流動として設定されます。これらの分類を表示するには、一時差異プロパティ・レポートを開きます。一時差異、課税損失および評価引当金調整(非流動や課税損失など)は、税引前ベースで入力されます。税額控除および評価引当金税額控除は、税効果ベースで入力されます。

次の評価引当金勘定科目が提供されます。

- 非流動一時差異
- 課税損失
- 税額控除

すべての評価引当金は、評価引当金を減少させる今年度または他の調整金額を除き、マイナス値である必要があります。

Scenario	Year	Revid	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency	Opening Balance	Opening Balance Adjustment	Prior Year Adjustment - Losses and Credits	Opening Balance As Adjusted	Automated	Automated Reversal	Automated Total	Adjustment	Adjustment Reversal	Adjustment Total	CY Total	Return to Actual (Deferred Only)	Audit Settlements (Deferred Only)	Other Adjustments - Automated (Deferred Only)
	Actual	FY14	P1	San Jose(USD)	Entity Input	Alabama	No Multi-GAAP														
<ul style="list-style-type: none"> <li>Total Temporary Differences (GAAP to Stat)</li> <li>Total Temporary Differences (Stat to Tax)</li> <li>Total Temporary Differences</li> <li>Total National Tax Losses - Carryforward Automated</li> <li>Total National Tax Losses</li> <li>Total Tax Credits Carryforward</li> <li>Total Tax Attributes</li> <li>Total National Temporary Differences, Losses, Credits and Attributes</li> <li>Total Valuation Allowance</li> <li>Temporary Differences National</li> <li>Total Regional Temporary Differences</li> <li>Total Temporary Differences - Regional</li> <li>Total Regional Tax Losses - Carryforward - Pre-Appportionment</li> <li>Total Regional Tax Losses - Carryforward Automated</li> <li>Total Regional Tax Losses</li> <li>Total Regional Tax Credits - Carryforward</li> <li>Total Regional Tax Attributes</li> <li>Total Regional Temporary Differences, Losses, Credits and Attributes</li> <li>Total Regional Valuation Allowance</li> <li>Temporary Differences Regional</li> </ul>																					

一時差異(地域)フォームには、列に次のカテゴリが含まれます。

表 13-2 一時差異(地域)の列

カテゴリ	説明
期首残高	前年度末の一時差異。これは、自動的に移入されません。
期首残高調整	この列は、繰延税金資産/(負債)の期首残高が引当金に影響することなく修正される必要がある場合に使用されます。この調整は、繰延税金資産または(負債)の期首残高にのみ影響し、繰延引当金には影響しません。金額は、手動で入力されます。
前年度調整 - 損失および控除	調整の合計は、「現在の引当金」フォームから「一時差異」フォームの対応する課税損失/税額控除勘定科目にコピーされます。このフィールドは読取り専用です。
調整された期首残高	調整後の期首残高が計算されます。
自動	当期引当金で自動化された今年度の帳簿と税務の差異。この金額は、一時差異ロールフォワードに自動的に取得されます。この列の金額は、自動化専用で、繰延税金費用に影響します。
自動逆仕訳	当期引当金で自動化された今年度の帳簿と税務の差異の逆仕訳。この金額は、勘定科目レベルの資本一時差異の設定に基づいて自動化されます。この列の金額は、繰延税金費用に影響します。
自動合計	これは、「自動」と自動逆仕訳の合計です。
調整	当期引当金で入力された今年度の帳簿と税務の差異。この金額は、一時差異ロールフォワードに自動的に取得されます。この列の金額は、手動で入力され、繰延税金費用に影響します。
調整逆仕訳	当期引当金で手動入力された今年度の帳簿と税務の差異の逆仕訳。この金額は、勘定科目レベルの資本一時差異の設定に基づいて自動化されます。この列の金額は、繰延税金費用に影響します。
調整合計	これは、「調整」と調整逆仕訳の合計です。
CY 合計	これは、自動合計と調整合計の合計です。
申告額の未払処理調整(繰延のみ)	申告額の未払処理調整フォームに基づく一時差異に対する調整。この金額は、申告額の未払処理調整フォームから自動化され、繰延税金費用に影響しません。
監査決済(繰延のみ)	監査決済による結果としての一時差異に対する調整。この金額は、一時差異ロールフォワードに手動で入力され、繰延税金費用に影響します。
他の調整 - 自動(繰延のみ)	他のタイプの調整による一時差異に対する自動調整。この金額は、税引当の補足スケジュールから自動化できます。
他の調整(繰延のみ)	他のタイプの調整による結果としての一時差異に対する調整。この金額は、一時差異ロールフォワードに手動で入力され、繰延税金費用に影響します。
他の調整合計(繰延のみ)	これは、他の調整 - 自動と他の調整の合計です。
移転(繰延のみ)	資産/負債の移転および関連一時差異による結果としての一時差異に対する調整。この金額は、一時差異ロールフォワードに手動で入力され、繰延税金費用に影響します。

表 13-2 (続き) 一時差異(地域)の列

カテゴリ	説明
前年度調整(繰延のみ)	前年度調整による結果としての一時差異に対する調整。この金額は、一時差異ロールフォワードに手動で入力され、繰延税金費用に影響します。
偶発引当金(繰延のみ)	一時差異に関連する税金の偶発引当金による結果としての一時差異に対する調整。この金額は、一時差異ロールフォワードに手動で入力され、繰延税金費用に影響します。
損益計算書合計	これは、次のカテゴリの合計です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>調整</li> <li>申告額の未払処理調整</li> <li>監査決済</li> <li>他の調整</li> <li>異動</li> <li>前年度調整</li> <li>偶発引当金</li> </ul>
取得	資産と負債の取得および関連一時差異による結果としての一時差異に対する調整用。この金額は、取得フォームから自動的に移転されません。金額は、繰延税金費用に影響しません。
処分	資産/負債の処分および関連一時差異による結果としての一時差異に対する調整用。この金額は、一時差異ロールフォワードに手動で入力され、繰延税金費用に影響しません。
自動資本	資本トランザクションによる結果としての一時差異に対する調整用。この金額は、勘定科目レベルの資本一時差異設定に基づいて自動化され、繰延税金費用に影響しません。
資本調整	資本トランザクションによる結果としての一時差異に対する調整。この金額は、一時差異ロールフォワードに手動で入力され、繰延税金費用に影響しません。
資本合計	これは、自動資本と資本調整の合計です。
前年度資本	資本トランザクションと申告書提出による結果としての一時差異に対する調整用。この金額は、勘定科目レベルの資本一時差異設定に基づいて自動化され、繰延税金費用に影響しません。
その他資本	他のすべての資本トランザクションによる結果としての一時差異に対する調整用。この金額は、手動で入力され、繰延税金費用には影響しません。
資本合計	これは、「資本合計」、前年度資本およびその他資本の合計です。
貸借対照表合計	期末残高
外国為替期首残高	期首残高の通貨換算の税効果。
外国為替 - 今年度	今年度の変動の通貨換算の税効果。
外国為替	期首残高および今年度の変動における通貨換算の税効果の合計
出資比率	この金額は、出資比率期首残高と今年度の変動の合計です。

表 13-2 (続き) 一時差異(地域)の列

カテゴリ	説明
出資比率 - 期首残高	この金額は、親への出資比率の変更に起因する期首残高の差異です。
出資比率 - 今年度	これは、親への出資比率の変更に起因する期首残高の差異です。
一時差異期末残高	

一時差異(地域)フォームには、列に次のカテゴリが含まれます。

表 13-3 一時差異(地域)の行

カテゴリ	説明
合計一時差異(GAAP と法定)	実装時にユーザー定義される基本勘定科目の親。
合計一時差異(法定と税金)	実装時にユーザー定義される基本勘定科目の親。
合計一時差異	合計一時差異(GAAP と法定)と合計一時差異(法定と税金)の合計。
国の課税損失合計 - 自動繰越	地域の課税損失は、次のカテゴリの自動繰越で取得されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>課税損失 - 今年度の課税所得に対する純営業損失繰越の利用を記録するために使用されます</li> <li>資本損失</li> <li>寄付金</li> <li>国の課税損失 - 繰り越す必要のある今年度の損失のあるエンティティについて、課税所得を最大で 0 にするために使用されます</li> </ul>
国の課税損失合計	当期引当金で自動化された今年度の帳簿と税務の差異。この金額は、一時差異ロールフォワードに自動的に取得されます。この列の金額は、自動化専用で、繰延税金費用に影響します。
合計税額控除繰越	当期引当金で自動化された今年度の帳簿と税務の差異の逆仕訳。この金額は、勘定科目レベルの資本一時差異の設定に基づいて自動化されます。この列の金額は、繰延税金費用に影響します。
合計課税属性	これは、「自動」と自動逆仕訳の合計です。
国の一時差異、損失、控除および属性の合計	
評価引当金合計	実装時にユーザー定義される基本勘定科目の親。
一時差異(国)	
地域の一時差異合計	
合計一時差異 - 地域	
地域の課税損失合計 - 自動繰越 - 配賦前	
地域の課税損失合計 - 自動繰越	実装時にユーザー定義される基本勘定科目の親。
地域の課税損失合計	
地域の税額控除合計 - 繰越	繰り延べられる税額控除で使用されるシステム提供の基本勘定科目の親。
地域の課税属性合計	実装時にユーザー定義される基本勘定科目の親。

表 13-3 (続き) 一時差異(地域)の行

カテゴリ	説明
地域の一時差異、損失、控除および属性の合計	
地域の評価引当金合計	実装時にユーザー定義される基本勘定科目の親。
一時差異(地域)	

## 地域の繰延税金の操作

「繰延税金(地域)」フォームは、繰延税金の計算を表示するために使用します。

Tax Reporting では、資産および負債に対する繰延税金が計算されます。この計算では、資産および負債の帳簿基準と税務基準を入力する必要があります。Tax Reporting では、帳簿基準と税務基準間の差異が計算され、繰延税金資産および負債の金額を決定するための税率が適用されます。

表 13-4 繰延税金の例

例: 物件、工場、設備	
帳簿基準	1,000,000
税務基準	900,000
差異	(100,000)
税率	20%
繰延税金負債	(20,000)

### ノート:

税務用の加速減価償却のため、繰延税金負債の増加を考慮して、税務基準は帳簿基準よりも少なくなります。

繰延税金の設定を分類する場合、[繰延税金資産および負債の分類](#)を参照してください。

「繰延税金(地域)」フォームにアクセスするには:

1. ホーム・ページで、「[税引当\(地域\)](#)」、「[パッケージ\(地域\)](#)」の順にクリックします。
2. 「[繰延税金\(地域\)](#)」タブを選択します。
3. 列見出し  を展開すると、すべてのカテゴリが表示されます。



表 13-5 (続き) 地域の繰延税金の列見出し

カテゴリ	サブカテゴリ	説明とサブカテゴリ
他の調整(繰延のみ)		Tax Reporting で自動化されている他のタイプの調整による結果としての一時差異に対する地域の調整の税効果。
	他の調整(繰延のみ)	他のタイプの調整による結果としての一時差異に対する調整の税効果。
	他の自動調整(繰延のみ)	税引当で自動化されている他のタイプの調整による結果としての一時差異に対する調整の税効果。
移転(繰延のみ)		資産/負債の移転および関連一時差異による結果としての一時差異に対する調整の税効果。
前年度調整(繰延のみ)		前年度調整による結果としての一時差異に対する調整の税効果。
偶発引当金(繰延のみ)		一時差異に関連する税金の偶発引当金による結果としての一時差異に対する調整の税効果。
税率変更の影響(地域)		期首残高および今年度の変動に対する地域の税率変更の影響。
		<b>「シナリオ - 株主資本に対するエンティティの税率変更」</b> 機能を有効にする場合は、アプリケーション上のすべてのシナリオ・メンバーのためのカスタム属性がシステムによって作成されます。
		そのカスタム属性をエンティティに適用すると、すべての一時差異勘定科目について、税率地域データの変化の影響は <b>資本における税率変更の影響</b> 列に移動します。
		関連項目: <a href="#">Tax Reporting の管理のアプリケーションの機能の有効化</a> および <a href="#">エンティティの課税属性の定義</a>
	税率変更の影響 - 期首残高	
	税率変更の影響 - RCCY	
	税率変更の影響 - 取得合計	
合計繰延費用		繰延移転、前年度調整、偶発引当金、および税率変更の影響の合計。
取得		資産と負債の取得および関連一時差異による結果としての一時差異に対する調整の税効果。
税率変更の調整 - 取得処分		資産/負債の処分および関連一時差異による結果としての一時差異に対する調整の税効果。
資本合計		自動資本と「調整」の合計。

表 13-5 (続き) 地域の繰延税金の列見出し

カテゴリ	サブカテゴリ	説明とサブカテゴリ
	自動資本合計	資本トランザクションによる結果としての一時差異に対する調整の税効果。
	資本調整合計	資本トランザクションによる結果としての一時差異に対する調整の税効果。
前年度資本		資本トランザクションと申告書提出による結果としての一時差異に対する調整の税効果。
その他資本		他のすべての資本トランザクションによる結果としての一時差異に対する調整。この金額は、手動で入力され、繰延税金費用には影響しません。
資本における税率変更の影響		資本として識別される勘定科目の税率変更の税効果。
	資本における税率変更の影響 - 期首残高	
	資本における税率変更の影響	
合計資本調整		「自動」と資本調整の合計。
貸借対照表合計		
外国為替		期首残高および今年度の変動における合計通貨換算。
	外国為替 - 期首残高	期首残高における合計通貨換算。
	外国為替 - 今年度	今年度の変動における合計通貨換算。
出資比率		この金額は、出資比率期首残高と今年度の変動の合計です。
	出資比率 - 期首残高	この金額は、親への出資比率の変更起因する期首残高の差異です。
	出資比率 - 今年度	この金額は、出資比率における親への変更起因する現在の年の差異です。
期末残高(地域) - 税金		期首残高と当期変動の税効果の合計。
期末残高(地域資産組替) - 非流動資産		合計純繰延税金資産と繰延税金負債の税効果の分類。合計税効果がプラスまたは資産の場合、すべての繰延税金資産および負債は資産に分類されます。
期末残高(地域資産組替) - 非流動負債		合計純繰延税金資産と繰延税金負債の税効果の分類。合計税効果がマイナスまたは負債の場合、すべての繰延税金資産および負債は負債に分類されます。

地域の繰延税金フォームに表示される行の下には、次のエントリがリストされます。

表 13-6 地域の繰延税金の行見出し

カテゴリ	サブカテゴリ	説明とサブカテゴリ
合計一時差異(GAAP と法定)		実装時にユーザー定義。
合計一時差異(法定と税金)		実装時にユーザー定義。
合計一時差異		
国の課税損失合計 - 自動繰越		繰り延べられる課税損失に使用されます。これらはシステム定義で、「現在の年」および繰越という 2 つの勘定科目が提供されます。繰越は課税損失フォームにリンクされています。
合計税額控除繰越		繰り延べられる税額控除で 사용되는システム提供の基本勘定科目の親。
	税額控除	
	一般事業税額控除	
	雇用税額控除	
合計課税属性		実装時にユーザー定義。金額は、一般的に、税効果ベースで一時差異ロールフォワードに入力され、繰延税金に対する調整とみなされます。
	繰延税金偶発引当金	
	国の課税属性 2	
国の一時差異、損失、控除および属性の合計		

表 13-6 (続き) 地域の繰延税金の行見出し

カテゴリ	サブカテゴリ	説明とサブカテゴリ
評価引当金合計		<p>このカテゴリは、必要に応じて資産に対する評価引当金を記録するために使用されます。非流動、控除、課税損失という勘定科目が提供されます。</p> <p>控除は、税効果ベースで入力されますが、他の勘定科目に入力される金額は、税引前ベースで入力されます。</p> <p>フォームでは、次の繰延税金資産および負債の分類も提供されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 期末 - 流動資産</li> <li>• 期末 - 流動負債</li> <li>• 期末 - 非流動資産</li> <li>• 期末 - 非流動負債</li> </ul> <p>非流動の設定は、期末 - 合計期末残高の値とともに、金額が表示される列を定義します。この残高がプラスの場合、金額は資産に分類されます。この残高がマイナスの場合、金額は負債に分類されます。評価引当金は、-1 の係数を使用して分類され(期末*-1 など)、そのため常に負の資産として反映されません。</p>
	評価引当金 - 控除	
	評価引当金 - 非流動	
	評価引当金 - 課税損失	
繰延税金(国)		
地域の一時差異合計		繰り延べられる税額控除で使用されるシステム提供の基本勘定科目の親。
合計一時差異 - 地域		
地域の課税損失合計		<p>このカテゴリは、繰り延べられる地域の課税損失に使用されます。これらはシステム定義で、「現在の年」および繰越という 2 つの勘定科目が提供されます。繰越は課税損失フォームにリンクされています。</p>
	地域の課税損失合計配賦前	
	地域の課税損失合計 - 自動繰越	
	地域の課税損失合計	
地域の税額控除合計		繰り延べられる税額控除で使用されるシステム提供の基本勘定科目の親。

表 13-6 (続き) 地域の繰延税金の行見出し

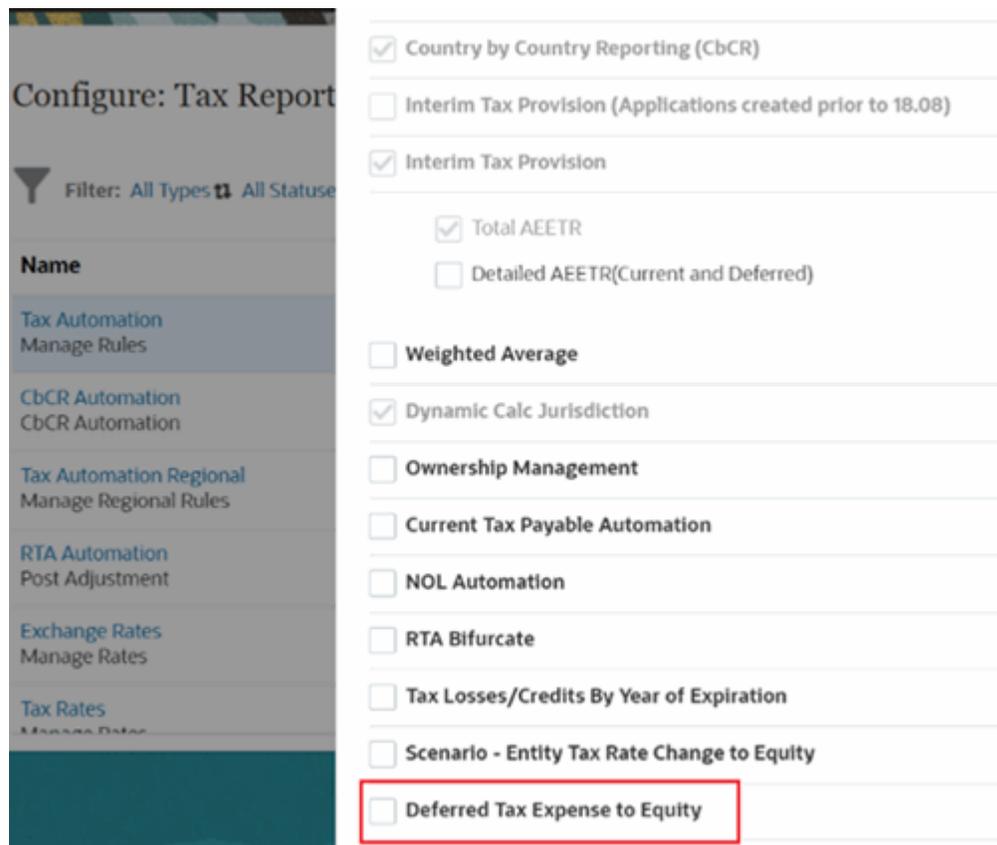
カテゴリ	サブカテゴリ	説明とサブカテゴリ
<b>地域の税額控除合計 - 繰越</b>		このカテゴリは、繰り延べられる課税損失に使用されます。これらはシステム定義で、「現在の年」および繰越という 2 つの勘定科目が提供されます。繰越は課税損失フォームにリンクされています。
	州税額控除	
	地域の税額控除 2 - XXXX	
	地域の税額控除 3 - XXXX	
<b>地域の課税属性</b>		このカテゴリは、実装時にユーザー定義されます。金額は、一般的に、税効果ベースで一時差異ロールフォワードに入力され、繰延税金に対する調整とみなされます。
	地域の課税属性 1	実装時にユーザー定義される基本勘定科目の親。
	地域の課税属性 2	実装時にユーザー定義される基本勘定科目の親。
<b>地域の評価引当金</b>		実装時にユーザー定義される基本勘定科目の親。
	地域の評価引当金 - 控除	
	地域の評価引当金 - 非流動	
	地域の評価引当金 - 課税損失	
	地域の一時差異、損失、控除および属性の合計	
	合計繰延税金 - 地域	
	合計繰延税金(国) - 評価引当金以外	

## 株主資本に対する合計繰延税金費用(地域)の再分類

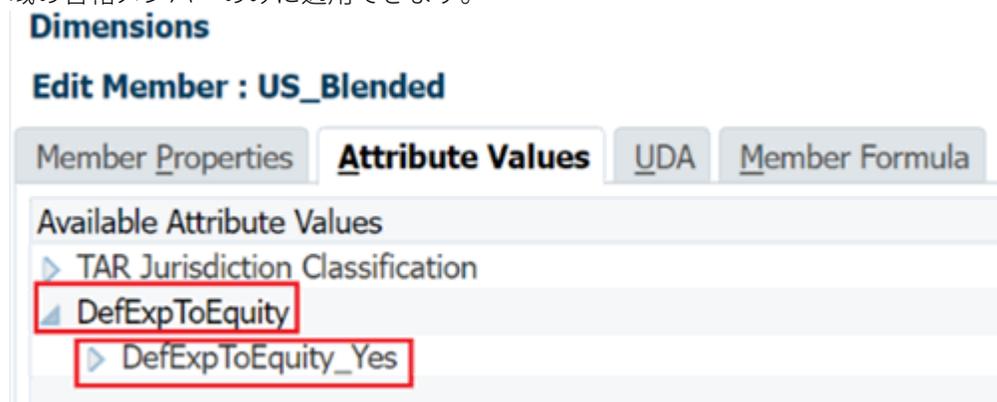
Tax Reporting は、合計繰延税金費用(地域)(すべての増減)を株主資本に再分類する機能を備えています。この分類は、エンティティおよび管轄に固有です。累計繰延法人税はユーティリティの貸借対照表に記録され、オフセットは規制資産または負債です。

### 再分類の操作

- アプリケーションの「繰延税金費用から株主資本」機能を有効にします(「アプリケーション」->「構成」画面)。関連項目: [アプリケーションの機能の有効化](#)



- アプリケーションの「繰延税金費用から株主資本」機能を有効化した後に、システムでカスタム属性 DefExpToEquity が作成されます。このカスタム属性は、アプリケーションの地域の管轄メンバーのみに適用できます。



- この属性を管轄に適用した後に、システムでは管轄メンバーを使用したエンティティ・メンバー用のカスタム属性: DefExpToEquity<Jurisdiction\_name> (例: DefExpToEquityUS\_Blended)が動的に作成されます。
- DefExpToEquityUS\_Blended カスタム属性をエンティティ・メンバーに適用して、その特定の管轄メンバーおよびエンティティ・メンバーに対して「繰延税金費用から株主資本」機能を使用できます。

## Dimensions

### Edit Member : LE102

Member Properties

**Attribute Values**

UDA

Member Formula

#### Available Attribute Values

▷ Regional Deduction

▷ Parent Tax Calculations

▷ Intercompany Entity

▷ Domicile

▷ DefExpToEquityUS\_Blended

▷ DefExpToEquityUS\_Blended\_Yes

## 再分類: 例

### 例: 設定

- POV: シナリオ – 実績、エンティティ - 配分、年 - FY23 および期間 - P1
- 「一時差異(地域)」フォームの一時差異(地域)勘定科目の損益計算書セクションで、すべての増減メンバーのデータを入力します
- FY23、P1 の米国および US\_Blended 地域の税率を入力します
- FY23、P1 を連結します

### 例: ユースケース

#### 「繰延税金(地域)」フォーム

戻し繰延税金費用の増減に対して合計繰延税金費用が戻されます

- 合計繰延税金費用列の値は、「繰延税金(地域)」フォームの戻し繰延税金費用の増減に対して戻されます。
- 合計繰延税金費用列の値はゼロである必要があります。

Deferred Tax Regional ⓘ

Scenario Plan	Years FY23	Period P1	Entity Distribution(USD)	Consolidation Entity Total	Jurisdiction US Blended	Multi-GAAP Local GAAP	Currency Entity Currency						
								Prior Year Adjustment (Deferred Only) Tax	Contingency (Deferred Only) Tax	Impact from Change in Tax Rates Regional Tax	Reverse Deferred Tax Expense Tax	Total Deferred Tax Expense Tax	
Total National Temporary Differences, Losses, Credits and Attributes										200	(400)	0	
Total Valuation Allowance													
Deferred Tax National										200	(400)	0	
MACRS - Fed Reversal								5	5	5	25	(50)	0
MACRS - US State													
Total Regional Temporary Differences								5	5	5	25	(50)	0
Total Temporary Differences - Regional								5	5	5	225	(450)	0
State NOL - Pre Apportioned								5	5	5	25	(50)	0
Total Regional Tax Losses - Carryforward - Pre-Apportionment								5	5	5	25	(50)	0
State NOL - Post Apportioned								100	100	100	500	(1,000)	0
Total Regional Tax Losses - Carryforward Automated								100	100	100	500	(1,000)	0
Total Regional Tax Losses								105	105	105	525	(1,050)	0

Note:

データが地域勘定科目にのみ入力されている場合、「税金合計の検証」フォームの値はゼロ以外の「差異」を示します。

戻される繰延税金費用が再分類繰延税金費用に再分類され、その後、合計資本調整にロールオーバーされます。

Deferred Tax Regional ⓘ 🔍 ⚙️ Actions Save Refresh

Scenario Plan	Years FY23	Period P1	Entity Distribution(USD)	Consolidation Entity Total	Jurisdiction US Blended	Multi-GAAP Local GAAP	Currency Entity Currency											
								y Prior ax	Equity Other Tax	Impact from Change in Tax Rates in Equity Tax	Reversal Deferred Tax Expense Tax	Total Equity Adjustments Tax	Balance Sheet Total Tax	Foreign Exchange Tax	Closing Balance Regional Tax	Closing Balance Regional Reversal Non Current Assets	Closing Balance Regional Reversal Non Current Liabilities	
Total Valuation Allowance																		
Deferred Tax National											400	400	400			400	400	
MACRS - Fed Reversal											50	50	50			50	50	
MACRS - US State																		
Total Regional Temporary Differences											60	60	60			60	60	
Total Temporary Differences - Regional											450	450	450			450	450	
State NOL - Pre Apportioned											50	50	50			50	50	
Total Regional Tax Losses - Carryforward - Pre-Apportionment											60	60	60			60	60	
State NOL - Post Apportioned											1,000	1,000	1,000			1,000	1,000	
Total Regional Tax Losses - Carryforward Automated											1,000	1,000	1,000			1,000	1,000	
Total Regional Tax Losses											1,050	1,050	1,050			1,050	1,050	
General Business Credit Carryforward											5,000	5,000	5,000			5,000	5,000	

「TAR (地域)」フォーム

新しい増減メンバーの TAR マッピングは自動的に実行されるため、「TAR (地域)」フォームの戻し繰延税金費用および再分類繰延税金費用に対してデータが移動します。

合計繰延税金は、戻し繰延税金費用勘定科目の合計引当金の逆仕訳である必要があります。

TAR Regional ⓘ

Scenario Plan	Years FY23	Period P1	Entity Distribution(USD)	Consolidation Entity Total	Jurisdiction US Blended	Multi-GAAP Local GAAP	Currency Entity Currency								
								Current Expense	Deferred Expense	Total Provision	- Non-current Assets	Non-current Liabilities	Non-current Valuation Allowance	Total Deferred Tax	-
Prior Year Adjustment (Deferred Entry)															
									(2,115)	(2,115)	2,110			5	2,115
Contingency (Deferred Only)															
									(2,115)	(2,115)	2,110			5	2,115
Impact from change in Tax Rates															
									(775)	(775)	750			25	775
Net Benefit of Region															
DTNR Current Year P&L Total															
									11,550	11,550	(11,500)		(50)	(11,550)	
Reverse Deferred Tax Expense															
								100	0	100	0		0	0	0
Total Current and Deferred Provision															

再分類繰延税金費用の場合、合計資本調整は合計繰延税金の逆仕訳と同じ(ゼロに相殺されるなど)である必要があります。

TAR Regional ⓘ

Scenario Plan	Years FY23	Period P1	Entity Distribution(USD)	Consolidation Entity Total	Jurisdiction US Blended	Multi-GAAP Local GAAP	Currency Entity Currency										
								ad se	Total Provision	Non-current Assets	Non-current Valuation Allowance	Total Deferred Tax	Income Tax Payable	Net (Payable)/Receive	Equity Adjustments	Equity Adjustments Total	TAR Accounts
Usposals																	
Total Equity																	
Equity Prior Year																	
Equity Other																	
Impact from change in Tax Rates in Equity																	
										11,500	50	11,550			(11,550)	(11,550)	0
Reclass Deferred Tax Expense																	
										11,500	50	11,550			(11,550)	(11,550)	0
Total Equity Adjustments																	
Non Provision - NBR																	
DTNR Current Year Non P&L Total																	
										11,500	50	11,550			(11,550)	(11,550)	0
Total Non-Provision																	

### 「ETR (地域)」、「連結 ETR IFRS」 および 「エンティティ別連結 ETR IFRS」 フォーム

「ETR (地域)」、「連結 ETR IFRS」 および 「エンティティ別連結 ETR IFRS」 フォームでは、データは、繰延税金費用合計(地域)および評価引当金の増減 - 戻し繰延税金費用の下の戻し繰延税金費用 ETR 勘定科目にフローされます。

- ETR (地域)

## Statutory ETR Regional ⓘ

Scenario Plan	Years FY23	Period P1	Entity Distribution(USD)	Consolidation Entity Total	Jurisdiction US Blended	Multi-GAAP Local GAAP	Curr Ent
				Pre Tax	Tax	Statutory ETR Percentage	
<b>⊟ Audit Settlement Adjustment Regional</b>							
Other Adjustments (Deferred Only)				(2,310)	(2,310)	(10.55)%	
Transfers (Deferred Only)				(2,110)	(2,110)	(10.55)%	
Prior Year Adjustment (Deferred Only)				(2,110)	(2,110)	(10.55)%	
Contingency (Deferred Only)				(2,110)	(2,110)	(10.55)%	
Deferred Tax Override Rate Adjustment							
<b>⊟ Rate Change - Total</b>				<b>(750)</b>	<b>(750)</b>	<b>(3.75)%</b>	
Reverse Deferred Tax Expense				11,500	11,500	57.5%	
<b>⊟ Deferred Tax Expense Total Regional</b>				<b>2,110</b>	<b>2,110</b>	<b>10.55%</b>	
Additional Total Provision Regional ETR				0	0	0%	
Regional Statutory ETR					100	0.50%	

## Statutory ETR Regional ⓘ

Scenario Plan	Years FY23	Period P1	Entity Distribution(USD)	Consolidation Entity Total	Jurisdiction US Blended	Multi-GAAP Local GAAP	Curr Ent
				Pre Tax	Tax	Statutory ETR Percentage	
Change in VA							
Change in VA - Return to Accrual							
Change in VA - Audit Settlements				(5)	(5)	(0.03)%	
Change in VA - Other Adjustments				(5)	(5)	(0.03)%	
Change in VA - Transfers (DO)				(5)	(5)	(0.03)%	
Change in VA - Prior Year Adjustments				(5)	(5)	(0.03)%	
Change in VA - Contingency				(5)	(5)	(0.03)%	
<b>⊟ Change in VA - Rate Change - Total</b>				<b>(25)</b>	<b>(25)</b>	<b>(0.12)%</b>	
Change in VA - Reverse Deferred Tax Expense				50	50	0.25%	
<b>⊟ Change in Valuation Allowance</b>				<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0%</b>	

- 連結 ETR IFRS

### Consolidated ETR IFRS ①

Scenario Plan	Years FY23	Period P1	Entity Distribution(USD)	Consolidation Entity Input	Multi-GAAP Local GAAP	Currency Entity Currency					
							Pre Tax	Tax Effect IFRS	Tax Effect IFRS	Tax Effect IFRS	Consolidated ETR IFRS Percentage
							All National	All National	All Regional	Total National And Regional	No Jurisdiction
<b>⊞ Audit Settlement Adjustment</b>											
							(14,000)	(14,000)	(2,310)	(16,310)	(81.55)%
									(2,110)	(2,110)	(10.55)%
									(2,110)	(2,110)	(10.55)%
									(2,110)	(2,110)	(10.55)%
									(750)	(750)	(3.75)%
<b>⊞ DTNR Current Year Total P&amp;L</b>											
									11,500	11,500	57.5%
							(14,000)	(14,000)	2,110	(11,890)	(59.46)%
								7,000	100	7,100	35.5%
								(7,000)	100	(6,900)	(34.5)%
								(2,993)	100	(2,893)	(14.46)%

- エンティティ別連結 ETR IFRS  
Consolidated ETR IFRS by Entity ①

Scenario Plan	Years FY23	Period P1	Entity Distribution(USD)	Consolidation Entity Input	Multi-GAAP Local GAAP	Currency Entity Currency					
							Pre Tax	Tax Effect CETR IFRS By Entity	Tax Effect CETR IFRS By Entity	Tax Effect CETR IFRS By Entity	Consolidated ETR IFRS By Entity Percentage
							All National	All National	All Regional	Total National And Regional	No Jurisdiction
<b>⊞ Audit Settlement Adjustment</b>											
							(14,000)	(14,000)	(2,310)	(16,310)	(81.55)%
									(2,110)	(2,110)	(10.55)%
									(2,110)	(2,110)	(10.55)%
									(2,110)	(2,110)	(10.55)%
									(750)	(750)	(3.75)%
<b>⊞ DTNR Current Year Total P&amp;L</b>											
									11,500	11,500	57.5%
							(14,000)	(14,000)	2,110	(11,890)	(59.46)%
								7,000	100	7,100	35.5%
								(7,000)	100	(6,900)	(34.5)%
								(2,993)	100	(2,893)	(14.46)%

## 地域の税率の操作

税率(地域)と配賦フォームには、特定のエンティティの地域の引当金をシステムが計算するために必要な地域の税率と配賦率が含まれます。

Scenario	Years	Period	Entity	Currency	Prior Year Current Tax Rate	Current Year Current Tax Rate	Opening Deferred Tax Rate - Non Current	Closing Deferred Tax Rate - Non Current	Opening Regional Tax Apportionment	Current Year Regional Tax Apportionment	Closing Regional Tax Apportionment	Active Region Flag
Actual	FY16	P12	Operations(USD)	Entity Currency								
					United States	35%	35%	35%				Active
					Alabama	6.5%	6.5%	6.5%	10%	10%	10%	Inactive
					US Blended	5%	5%	5%	88%	88%	88%	Inactive

各管轄で次のレート・タイプを使用できます。

表 13-7 税率タイプ

税率タイプ	説明
前年度現行税率	前年の法定税率。このレートは、情報目的で使用されます。
今年度現行税率	当期の法定税率。このレートは、次の計算で使用されます。
期首繰延税率 - 非流動	非流動として分類される一時差異で使用される期首繰延税率。
期末繰延税率 - 非流動	非流動として分類される一時差異で使用される期末繰延税率。
期首地域税金配賦	繰延引当金の期首税金残高の計算でシステムに使用される前年度配賦パーセンテージ。
今年度地域税金配賦	繰延引当金の今年度アクティビティに基づいた当期引当金および税金の配賦利益の計算でシステムに使用される今年度配賦パーセンテージ。
期末地域税金配賦	繰延引当金の期末税金残高の計算でシステムに使用される期末配賦パーセンテージ。

表 13-7 (続き) 税率タイプ

税率タイプ	説明
アクティブな地域フラグ	法人税引当金を計算する必要があるアクティブな地域(米国の州など)を指定する場合にこのフラグを設定します。

 ヒント:

国と地域の管轄の間でデータが正しく流れるようにするには、地域の税率で、アクティブな各管轄に対してアクティブな地域フラグを「**アクティブ**」に設定する必要があります。

## 地域の FX レートの操作

外国為替レート(FX レート)とは、2つの通貨を相互に交換するとき使用される値です。レート値は小数フォーマットで入力します。

同じ通貨を使用するすべての基本または親エンティティに 1つの FX レートを適用することも、基本または親エンティティごとにレートを変えることもできます。1つの通貨に複数のエンティティを設定することもできます。たとえば、USD に対してニューヨーク、ロサンゼルスおよびシカゴのエンティティを設定できます。

ライブラリからアクセスできる FX レート・フォームは次のとおりです。

- [地域の全年 FX レートの入力](#) - 「FX レート全年」画面では、選択した通貨および POV の 1 年間の平均 FX レートと期末 FX レートを期間ごとにアプリケーションに入力できます。
- [地域の単一期間 FX レートの入力](#) - 「FX レート単一期間」画面では、選択したエンティティで指定期間中に使用されるすべての通貨の平均 FX レートと期末 FX レートを入力できます。
- [地域の FX レートの確認](#) - この読取り専用フォーマットを使用すると、Tax Reporting アプリケーションの外国為替(FX)レートを確認できます。

外貨換算レートの構成の詳細は、次のビデオを参照してください:  
[での外貨換算レートの構成。](#)



[Tax Reporting Cloud](#)

## 地域の単一期間 FX レートの入力

「FX レート単一期間」画面では、選択した基本または親エンティティで指定期間中に使用されるすべての通貨の平均 FX レートと期末 FX レートを入力できます。

単一期間の FX レートを入力するには:

1. ホーム・ページで、「**ライブラリ**」を選択します。

- 「データの入力」画面で、「税金管理」を展開し、「FX レート単一期間」をクリックします。

Period	Years	Scenario	Entity
P12	FY15	Actual	Montreal

	USD	ARS	AUD	BRL	CAD	CHF	CNY	COP	DKK	EL
USD	FX Rates - Opening									
	Average Rate	1								
	Ending Rate	1								
ARS	FX Rates - Opening									
	Average Rate									
	Ending Rate									
AUD	FX Rates - Opening									
	Average Rate									
	Ending Rate									
BRL	FX Rates - Opening									
	Average Rate									
	Ending Rate									
CAD	FX Rates - Opening									
	Average Rate	1								
	Ending Rate	1								
CHF	FX Rates - Opening									
	Average Rate									
	Ending Rate									
CNY	FX Rates - Opening									
	Average Rate									
	Ending Rate									
COP	FX Rates - Opening									
	Average Rate									
	Ending Rate									
DKK	FX Rates - Opening									
	Average Rate									
	Ending Rate									

- 「編集」アイコン  をクリックして、POV を選択します。
  - 期間(この期間で必要となる通貨を入力することになります)
  - 年
  - シナリオ
  - エンティティ(基本または親)
- 必要な通貨を含む行を選択し、**平均レート**と**期末レート**の値を小数の割合(1.00 や.98 など)として入力します。
- オプション:** この期間に使用する通貨ごとに同じステップを繰り返します。
- 「保存」** をクリックします。  
結果はすべてのキューブで自動的に更新されます。

## 地域の全年 FX レートの入力

「FX レート全年」画面では、選択した通貨および POV の 1 年間の平均 FX レートと期末 FX レートを期間ごとにアプリケーションに入力できます。

アプリケーションで使用できるすべての通貨が表示されます。基本または親エンティティを選択すると、それに対応する通貨に固有のレートを追加できるようになります。アプリケーションでは、1 つの通貨が複数のエンティティに対応付けられている場合があります。たとえば、CAD は、モントリオール、トロントおよびバンクーバーに対応します。

1 年間の FX レートを入力するには:

1. ホーム・ページで、「ライブラリ」を選択します。
2. 「データの入力」画面で、「税金管理」を展開し、「FX レート全年」をクリックします。

		P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10
USD	FX Rates - Opening										
	Average Rate	1									
	Ending Rate	1									
ARS	FX Rates - Opening										
	Average Rate										
	Ending Rate										
AUD	FX Rates - Opening										
	Average Rate										
	Ending Rate										
BRL	FX Rates - Opening										
	Average Rate										
	Ending Rate										
CAD	FX Rates - Opening										
	Average Rate	78									
	Ending Rate	75									
CHF	FX Rates - Opening										
	Average Rate										
	Ending Rate										
CNY	FX Rates - Opening										
	Average Rate										
	Ending Rate										
COP	FX Rates - Opening										
	Average Rate										
	Ending Rate										
DKK	FX Rates - Opening										
	Average Rate										
	Ending Rate										
EUR	FX Rates - Opening										
	Average Rate										
	Ending Rate										

3. 「編集」アイコン  をクリックして、通貨および POV を選択します。
  - 通貨 - 1 年間の各期間の通貨を選択します。
  - 年
  - シナリオ
  - エンティティ (基本または親)
4. 選択したエンティティに対応する通貨を含む行を選択します。
5. 選択した期間の下で、平均レートと期末レートの値を入力します。レートは小数の割合で表されます。たとえば、1.00 や .98 のようになります。
6. オプション: このアプリケーションで使用する通貨ごとに同ジステップを繰り返します。
7. 「保存」をクリックします。  
結果はすべてのキューブで自動的に更新されます。

## 地域の FX レートの確認

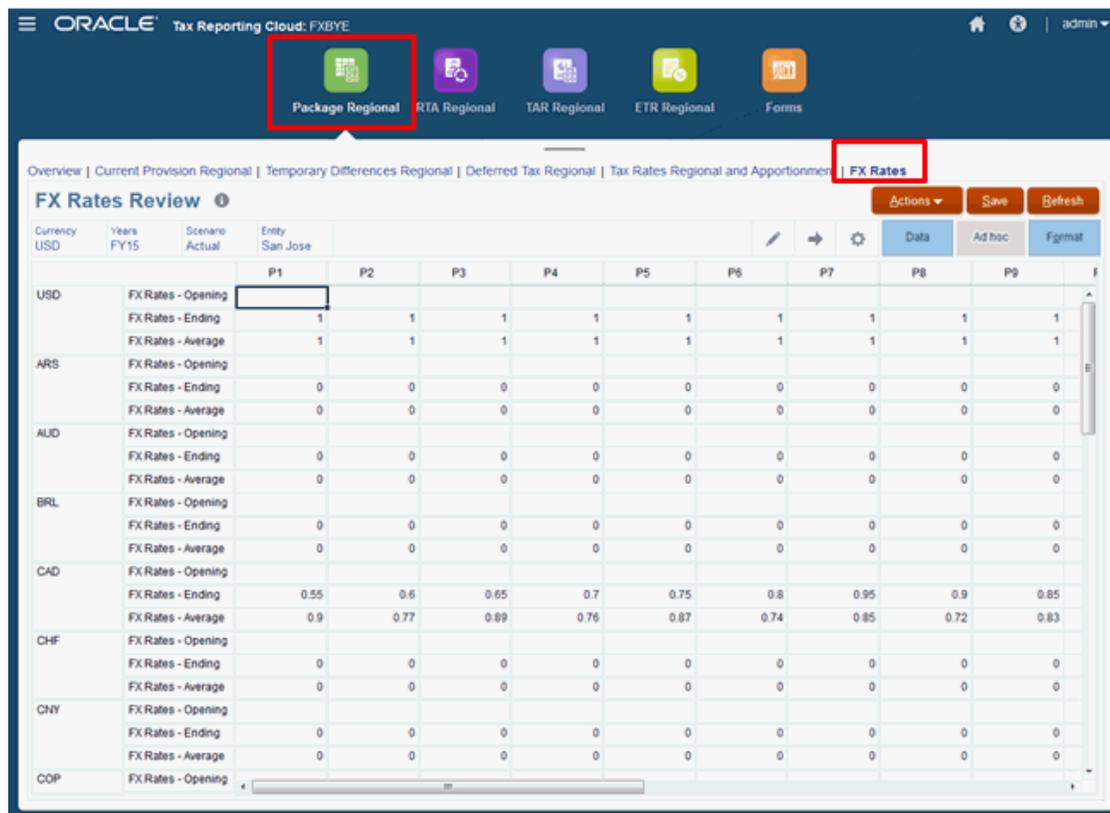
この読み取り専用フォーマットを使用すると、Tax Reporting アプリケーションの外国為替(FX)レートを確認できます。値は小数点形式で表示されます。

アプリケーションで使用される各通貨に対して、期間ごとに次のレートが表示されます。

- FX レート - 期首

- FX レート - 期末
- FX レート - 平均

いずれかのレートを変更する場合は、「ライブラリ」または「構成」ページから FX レート画面に移動する必要があります。



FX レートを表示するには:

- 次のいずれかのオプションを選択して、FX レート画面を表示します。
  - ホーム・ページで、「税引当(地域)」を選択し、次に「パッケージ(地域)」、「FX レート」の順に選択します。
  - ホーム・ページで、「ライブラリ」を選択し、次に「フォーム」、「税金管理」、「FX レート確認」の順に選択します。
- オプション:** いずれかのレートを変更するには、次のいずれかの場所に移動します。
  - ホーム・ページで、「ライブラリ」を選択し、次に「税金管理」を選択して、FX レート・フォームのいずれかを直接開きます。
    - FX レート全年
    - FX レート確認
    - FX レート単一期間
  - ホーム・ページで、「アプリケーション」を選択し、次に「構成」、「為替レート」の順に選択します。このオプションを使用すると、「FX レート単一期間」フォームが開きます。
- 変更後のレートを入力し、「保存」をクリックします。

## 地域の RTA (申告額の未払処理調整)の操作

Tax Reporting では、前年度の引当金額を調整できます。税引当は、自動的にフォームに移入されます。申告データは、手動で入力するか、アプリケーションにロードできます。

アプリケーションは、複数年の分析と、現在の期間への調整の転記に対応しています。入力スケジュールに対するデータ変更によって、法人税の当期引当金に必要な地域の申告額の未払処理調整を決定するために、自動計算が開始されます(当期引当金や繰延引当金など)。計算された金額は、追加引当金項目として当期引当金に取得され、一時差異フォームにも取得されます(この場合、システムのデフォルトでは、すべての申告額の未払処理調整が繰延税金費用にのみ影響すると仮定されます)。

### ノート:

システムでは、期間 13 または P13 で申告額の未払処理調整が処理されます。

地域の申告額の未払処理調整は、エンティティに応じて異なる四半期中に計算および計上できます。たとえば、カレンダー年中に、カナダのエンティティでは Q3 で調整を計上し、アメリカのエンティティでは Q4 で計上できます。つまり、システムは、ユーザーがデータを移入し、記帳のために期間と年度を設定し、フォームを計算した場合にのみ地域の申告額の未払処理調整の差異を計算するよう設定されます。

	P12			RTA			RTA Return Differences
	Automated	Adjustment	Total	Automated	Adjustment	Total	
Local Statutory Net Income Before Tax	30,124,550	2,000	30,126,550				
Permanent Differences (Stat to Tax)	308,506	1,385,597	1,694,103				
Total Temporary Differences (Stat to Tax)	1,317,463	(1,700,870)	(383,408)				
Deductible Income tax	(1,603,401)	15,820	(1,587,581)				
Taxable Income Before Loss	30,147,117	(297,453)	29,849,665				
Total National Tax Losses - Carryforward Automated - Regional							
Special Deductions							
Taxable Income	30,147,117	(297,453)	29,849,665				
Regional Income Taxes - Reversal	1,603,401	(15,820)	1,587,581				
Other Deductible Income Taxes - Reversal							
Deductible Income Tax Reversal	1,603,401	(15,820)	1,587,581				
Regional Tax Base	31,750,519	(313,273)	31,437,246				
Total Regional Permanent Differences							
Regional Tax Deduction		0	0				
Total Regional Temporary Differences							
Regional Taxable Income before Pre Apportioned Tax Losses		0	0				
Total Regional Tax Losses - Carryforward - Pre Apportionment							
Regional Taxable Income before Apportionment	31,750,519	(313,273)	31,437,246				
Current Year Tax Apportionment	10%	10%	10%				
Regional Apportioned Income	3,175,052	(31,327)	3,143,725				
Regional Post Apportionment Adjustments							
Regional Taxable Income before Apportioned Tax Losses	3,175,052	(31,327)	3,143,725				
Total Regional Tax Losses - Carryforward Automated							

フォームには、次のロールフォワード・メンバーが含まれます。

表 13-8 地域の一時差異

カテゴリ	サブカテゴリ	説明
P12	自動	POV に指定された年度の引当金からの自動金額。
	調整	POV に指定された年度の引当金からの手動入力金額。
	合計	「自動」と「調整」の合計。(合計引当金)
RTA	自動	POV に指定された年度の申告からの自動金額。
	調整	POV に指定された年度の申告からの手動入力金額。
	合計	申告からの「自動」と「調整」の合計。(合計申告額)
RTA 申告差異		合計引当金と合計申告額の差異

計算されると、当期引当金に取得される金額は、当期の申告書/申告上の当期の税額という勘定科目の金額となります。一時差異の差異は、申告額の未払処理調整における一時差異ロールフォワードの列に対して計算されると、自動的に取得されます。

調整を入力するには:

1. ホーム・ページで、「**税引当(地域)**」を選択し、次に「**RTA (地域)**」を選択します。
2. フォームの「**アクション**」で、「**連結**」を選択してから「**起動**」をクリックします。
3. 適切な期間またはカテゴリの「**調整**」の下で、必要に応じて勘定科目残高に調整金額を入力します。

4. 「実行」  をクリックします。

5. 「**保存**」をクリックします。

## 取得の操作: 地域

Tax Reporting では、国および地域の両方のレベルの一時差異を使用して税引前基準での取得がすでに使用可能で(一時差異の操作および地域の一時差異の入力を参照)、ユーザーは税効果基準でも取得を入力できるようになりました。税入力のない取得は、今年度の税率を使用する税効果となります。つまり、一時差異勘定科目に取得の税引前データのみを入力した場合は、今年度の税率が適用されます。

取得の繰延税金の影響を管理するには、ユーザーは「**取得**」および「**取得(地域)**」フォームを使用して、取得した繰延税金資産/負債の税率変更金額に対する税引前、税効果および利益と損失(P&L)の調整を入力できます。この新機能により、取得した繰延税金資産/負債を取得した税率で記録したり、税率変更を貸借対照表調整として記録できます(該当する場合)。

一時差異の取得増減に取得金額を入力する以前のプロセスは、デフォルトで繰延税金の税効果を継続するか、または税率をオーバーライドします(どちらか該当する方)。

関連項目:

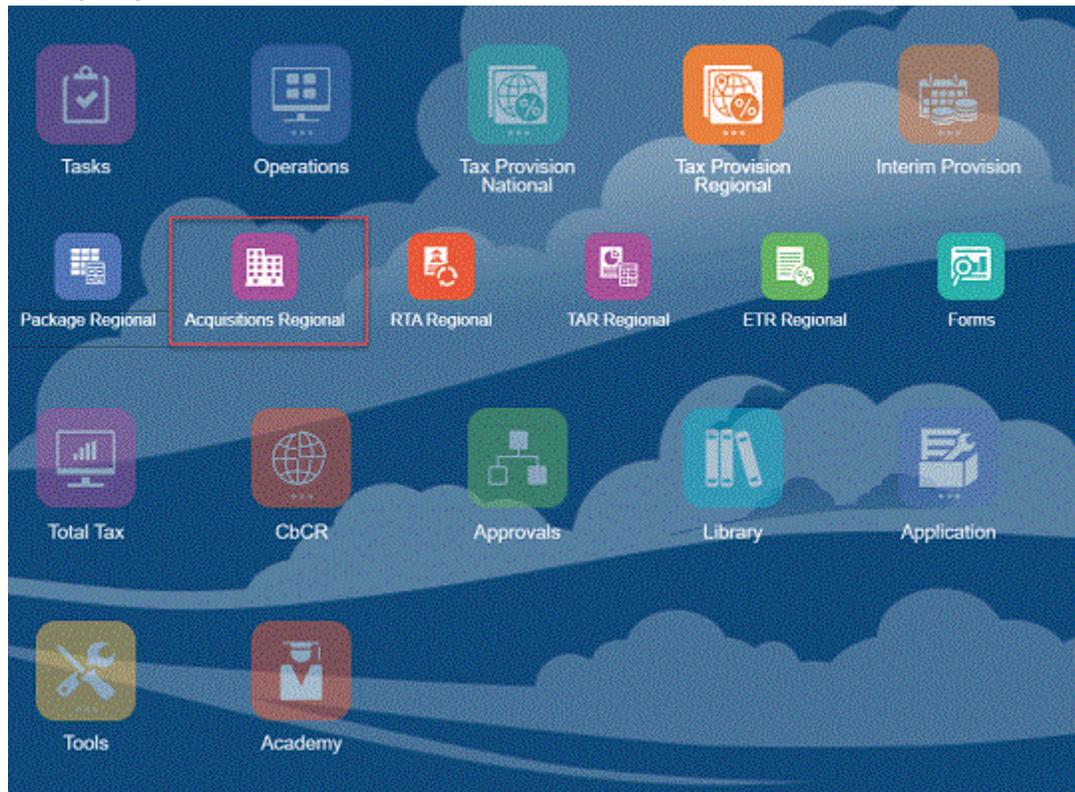
- [取得\(地域\)カードへのアクセス](#)
- [取得\(地域\)フォームの使用](#)

## 取得(地域)カードへのアクセス

ホーム・ページとナビゲータの両方から取得(地域)カードにアクセスできます。

「取得」カードにアクセスするには:

1. ホーム・ページで、「**税引当(地域)**」をクリックします。
2. 「**取得(地域)**」カードが表示されます。



3. 「**取得(地域)**」をクリックして「取得(地域)」フォームを開きます。

ナビゲータを介して「取得」カードにアクセスするには:

1. ナビゲータ・アイコン



をクリックして、「ナビゲータ」ウィンドウに移動します。

2. 「税引当(地域)」の下の「**取得(地域)**」をクリックして、「取得(地域)」フォームを開きます。

## 取得(地域)フォームの使用

スケジュールは国の勘定科目([取得\(国\)フォームの使用](#)を参照)と地域の勘定科目の両方で似ています。ただし、取得(地域)フォームでは、地域の勘定科目が国の勘定科目とともに表示されますが、国の勘定科目は状態ごとに異なる税率での税効果が可能であるため、税効果基準で調整されます。

このフォームを使用して、取得した繰延税金資産/負債の税率変更金額に対する税引前、税効果および利益と損失(P&L)の調整を入力できます。今年度の取得は、「取得」フォームの「一時差異」および「繰延税金」列に入力できます。取得金額の結果であるすべての税率変更は、システムで計算されます。

システム内の税率変更調整は、利益と損失(P&L)費用として記録されます。P&L に影響を与えない税率変更に対して P&L を調整するには、「取得」フォームに変更を入力します。

### シナリオ例

1. ホーム・ページで、「取得」カードをクリックして、取得(国)フォームを開きます。**国からマップされたデータ、税金入力および税率変更の影響 - 取得合計**という新しい 3 つの取得列が追加されます。取得(国)フォームの税引前列に入力した値は、地域フォームの**国からマップされたデータ**列に表示されます。

#### Acquisitions Regional ⓘ

Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency	
Actual	FY15	P12	Montreal	Entity Input	CA Blended	Local GAAP	Entity Currency	
				Acquisition	Acquisition	Acquisition		Impact from Change in Tax Rates - Acquisitions Total
				Mapped Data from National	Pre Tax Input	Tax Input		Tax Input
Temp 1 - XXXX				10000				
Temp 2 - XXXX								
Temp 3 - XXXX								
FA - Tax Depreciation US/Stat								
GAAP/Stat - LT								
GAAP/Stat - ST								

2. POV を定義します。「適用」をクリックします。
3. Temp 1 シナリオで、税金入力および税率変更の列に取得値を入力します。Temp 2 および Temp 3 シナリオにも同様に値を入力するか、または空のままにすることもできます。

Acquisitions Regional							
Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency
Actual	FY15	P12	Montreal	Entity Input	CA Blended	Local GAAP	Entity Currency
				Acquisition	Acquisition	Acquisition	Impact from Change in Tax Rates - Acquisitions Total
				Mapped Data from National	Pre Tax Input	Tax Input	Tax Input
	Temp 1 - XXXX			10000		4000	3000
	Temp 2 - XXXX						
	Temp 3 - XXXX						
	FA - Tax Depreciation US/Stat						
	GAAP/Stat - LT						
	GAAP/Stat - ST						
	<b>Total Temporary Differences (GAAP to Stat)</b>			10000			
	PPE						
	UCC						

4. 「保存」をクリックします。フォームの「アクション」で、「連結」を選択してから「起動」をクリックします。
5. 「パッケージ(地域)」 > 「一時差異(地域)」の順にクリックします。必要な行と列を展開します。「取得」列にデータがあることを確認できます。

Overview Regional   Current Provision Regional   Tax Losses Regional   Tax Credits Regional   **Temporary Differences Regional**   Deferred Tax Regional   Tax Rates Regional and Apportionment   FX Rates

Temporary Differences Regional											
Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency				
Actual	FY15	P12	Montreal(CAD)	Entity Input	CA Blended	Local GAAP	Entity Currency				
				Acquisition	Disposals	Equity Automated	Equity Adjustment	Total Equity	Equity Prior Year	Equity Other	Equity
	Temp 1 - XXXX			10000							
	Temp 2 - XXXX										
	Temp 3 - XXXX										
	FA - Tax Depreciation US/Stat										
	GAAP/Stat - LT										
	GAAP/Stat - ST										
	<b>Total Temporary Differences (GAAP to Stat)</b>			10000							
	<b>Total Temporary Differences (Stat to Tax)</b>										
	Total Temporary Differences			10000							
	<b>Total National Tax Losses - Carryforward Automated</b>										
	Total National Tax Losses										
	<b>Total Tax Credits Carryforward</b>										
	<b>Total Tax Attributes</b>										

6. 「繰延税金」タブをクリックし、「税率変更の影響(地域)」列を展開して、税効果データおよび税率変更を表示します。





- **期末残高** (期首残高とすべてのアクティビティに 基づく)
  - **期末残高(帳簿に基づく)** (一般会計、ERP または連結アプリケーション) *Tax Reporting* の管理のカスタム・マッピングの生成を参照してください。
  - **差異(JE)**
5. フォームの「**アクション**」で、「**連結**」を選択してから「**起動**」をクリックします。
  6. 差異を説明するために Oracle Smart View for Office に仕訳入力を生成します。
  7. 「**保存**」をクリックします。

表 13-9 税金勘定科目ロールフォワード

カテゴリ	説明
当期費用	当期引当金で計算された地域の当期法人税額。
繰延費用	繰延引当金で計算された地域の繰延法人税額。
合計引当金	当期費用と繰延費用の合計。
非流動資産	非流動資産に分類される繰延税金額。
非流動負債	非流動負債に分類される繰延税金額。
非流動評価引当金	非流動評価引当金に分類される繰延税金額。
合計繰延税金	流動資産/負債、非流動資産/負債および流動/非流動評価引当金の合計。
未払法人税	法人税引当金を計算する必要のある地域(米国の州など)を指定します。
未収法人税	当期末収税。金額は、税金勘定ロールフォワードの組替勘定科目を使用して手動で転記します。支払や払戻は手動で入力します。
長期末払税	長期末払税。金額は、税金勘定ロールフォワードの組替勘定科目を使用して手動で転記します。支払や払戻は手動で入力します。
純(未払)未収税	未払/未収税の合計。
出資比率増減合計	この金額は、現行税額に対する出資比率の増減合計です。
出資比率 - 期首残高	この金額は、親への出資比率の変更に起因する期首残高の差異です。
出資比率 - 今年度	この金額は、親への出資比率の変更に起因する期首残高の差異です。
取得合計	資産と負債の取得および関連一時差異による結果としての取得の合計。詳細金額は一時差異フォームの取得詳細から得られます。
処分合計	資産と負債の処分および関連一時差異による結果としての処分の合計。詳細金額は一時差異フォームの処分詳細から得られます。
貸借対照表合計	取得と処分の合計は貸借対照表合計の下に表示されます。
資本調整	非引当金調整と繰延税金ロールフォワードに基づく資本トランザクション。これらの金額は、繰延税金ロールフォワードから自動取得されます。
資本調整合計	地域の資本調整合計。
TAR 勘定科目	相殺後ゼロ

## 現在の未払税(地域)フォームの操作

「現在の未払税(地域)」フォームでは、各年の引当金の詳細を取得し、それらが支払や払戻、または RTA などの調整によって清算されているかどうかを確認できます。現在の未払税(地域)分析では、7 年前までの期末残高を取得でき、それらを合算すると、「TAR (地域)」フォームの期末残高と一致します。フォームに新しい年を追加すると、7 年前以前の年が履歴年の合計に合算されます。

次の 3 つの「現在の未払税」フォームがあります:

- 現在の未払税(地域)
- 現在の未払税(地域)自動
- 現在の未払税(地域)詳細

「現在の未払税」フォームはデフォルトで使用可能であることに注意してください([現在の未払税\(地域\)フォームの入力](#)を参照)。

ただし、「現在の未払税自動」および「現在の未払税詳細」フォームを使用する場合は、自動化機能を有効にする必要があります。詳細は、[現在の未払税\(地域\)自動および詳細フォームの管理](#)を参照してください。

## 現在の未払税(地域)フォームの入力

「現在の未払税(地域)」フォームは GAAP と IFRS の両方のレポート標準で使用できます。

現在の未払税の前年度の期末残高データは今年度の期首残高になります。次の見出しの列に必要な詳細を追加できます。

- CY 損益計算書課税額
- CY OCI/資本
- 支払
- 払戻
- RTA (損益計算書)
- 異動
- 外国為替 - 期首残高
- 外国為替 - 今年度
- 出資比率
- 出資比率 - 期首残高
- 出資比率 - 今年度
- 現在の未払の外国為替(複数通貨アプリケーションでのみ使用可能)

「現在の未払税(地域)」フォームに詳細を入力するには:

1. ホーム・ページで、「**税引当(地域)**」を選択し、次に「**TAR (地域)**」を選択します。
2. 「**現在の未払税(地域)**」タブを選択します。

3. **オプション:** 必要に応じて、POV を変更します。  
新しい年を開始する場合は、POV にその年を選択してください。既存の「**現在の年**」のデータは**現在の年 - 1** に移動され、前の**現在の年 - 6** のデータは**履歴年**の合計値に合算されることに留意してください。  
POV で選択した年に基づいて、**起算年**に、実際の会計年(FY17、FY18、FY19 など)が表示されます。
4. 次の列のいずれかに金額の詳細を入力します。
  - CY 損益計算書課税額
  - CY OCI/資本
  - 支払
  - 払戻
  - RTA (損益計算書)
  - 異動
  - 外国為替 - 期首残高
  - 外国為替 - 今年度
  - 出資比率
  - 出資比率 - 期首残高
  - 出資比率 - 今年度
  - 現在の未払の外国為替(複数通貨アプリケーションでのみ使用可能)
5. 「**アクション**」で、「**連結**」をクリックします。
6. **未払期末残高**で結果を確認します。

## 現在の未払税(地域)自動および詳細フォームの管理

### 税金自動化の有効化

現在の未払税自動化は、次の 2 つの方法で有効にできます:

1. アプリケーションの作成中に「**現在の未払税自動化**」の横にある「**有効化**」チェック・ボックスを選択します。

The screenshot shows a configuration wizard with four steps: General, Details, Features (current), and Review. The 'Features' section lists several options, each with an 'Enable' checkbox. The 'Current Tax Payable Automation' option is highlighted with a red box.

Feature	Description	Enable
IFRS	Enable IFRS to calculate Deferred Tax Not Recognized (DTNR), and report on the Consolidated Effective Tax Rate (CETR) in an IFRS format.	<input type="checkbox"/>
CbCR	Enable CbC Reporting to calculate analyses which assess risk as a result of transfer pricing strategies.	<input type="checkbox"/>
Interim Provision	Enable interim provision to calculate monthly or quarterly tax provision using an annualised estimated effective tax rate("AEETR") plus discrete tax amounts	<input type="checkbox"/>
Weighted Average	Enable weighted average to calculate the average foreign currency translation rate for the net income before tax for each base entity	<input type="checkbox"/>
Ownership Management	Enable Ownership Management to assign parent-child percentages, consolidation methods and account for changes overtime.	<input type="checkbox"/>
<b>Current Tax Payable Automation</b>	Enable Current Tax Payable Automation to automate the data flow from current provision to current tax payable	<input type="checkbox"/>

- アプリケーションを作成した後、「Tax Reporting – 機能を使用可能にする」画面に移動します。「現在の未払税自動化」を選択し、「有効化」をクリックします。

The screenshot shows the 'Tax Reporting - Enable Features' dialog box. It contains a list of features with checkboxes. The 'Current Tax Payable Automation' option is highlighted with a red box.

Feature	Enable
IFRS	<input type="checkbox"/>
Deferred Tax Not Recognized (DTNR)	<input type="checkbox"/>
Consolidated Effective Tax Rate Reconciliation	<input type="checkbox"/>
Country by Country Reporting (CbCR)	<input type="checkbox"/>
Interim Tax Provision (Applications created prior to 18.08)	<input type="checkbox"/>
Interim Tax Provision	<input type="checkbox"/>
Total AEETR	<input type="checkbox"/>
Detailed AEETR(Current and Deferred)	<input type="checkbox"/>
Weighted Average	<input type="checkbox"/>
Dynamic Calc Jurisdiction	<input type="checkbox"/>
Ownership Management	<input type="checkbox"/>
<b>Current Tax Payable Automation</b>	<input type="checkbox"/>

### 自動化フォームへのアクセス

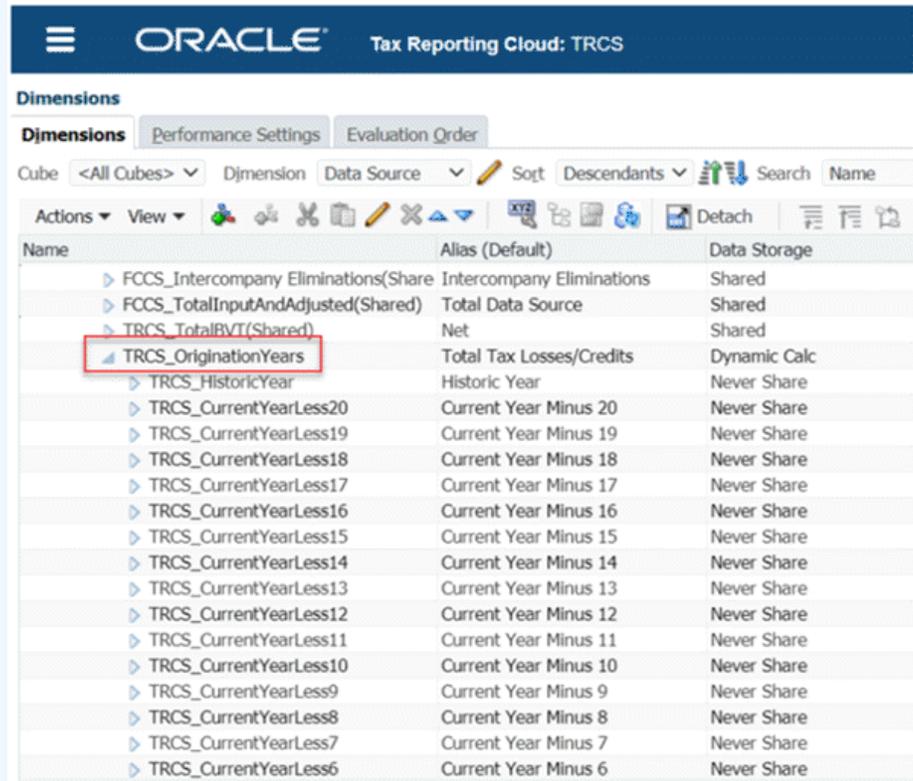
「現在の未払税自動化」フォームにアクセスするには:

- ホーム・ページで、「税引当(地域)」を選択し、次に「TAR」を選択します。
- 「現在の未払税(地域)自動」タブを選択します。



 **Note:**

- 支払および払戻に対して、自動化機能は適用できません。
- TRCS\_OriginationYears には現在年から 20 年前までのメンバーが表示されるため、TRCS\_OriginationYears のメンバーを共有メンバーとして使用して、「現在の未払税自動」フォームに新しい行を追加できます。



Name	Alias (Default)	Data Storage
▶ FCCS_Intercompany Eliminations(Share)	Intercompany Eliminations	Shared
▶ FCCS_TotalInputAndAdjusted(Shared)	Total Data Source	Shared
▶ TRCS_TotalBVT(Shared)	Net	Shared
▶ <b>TRCS_OriginationYears</b>	Total Tax Losses/Credits	Dynamic Calc
▶ TRCS_HistoricYear	Historic Year	Never Share
▶ TRCS_CurrentYearLess20	Current Year Minus 20	Never Share
▶ TRCS_CurrentYearLess19	Current Year Minus 19	Never Share
▶ TRCS_CurrentYearLess18	Current Year Minus 18	Never Share
▶ TRCS_CurrentYearLess17	Current Year Minus 17	Never Share
▶ TRCS_CurrentYearLess16	Current Year Minus 16	Never Share
▶ TRCS_CurrentYearLess15	Current Year Minus 15	Never Share
▶ TRCS_CurrentYearLess14	Current Year Minus 14	Never Share
▶ TRCS_CurrentYearLess13	Current Year Minus 13	Never Share
▶ TRCS_CurrentYearLess12	Current Year Minus 12	Never Share
▶ TRCS_CurrentYearLess11	Current Year Minus 11	Never Share
▶ TRCS_CurrentYearLess10	Current Year Minus 10	Never Share
▶ TRCS_CurrentYearLess9	Current Year Minus 9	Never Share
▶ TRCS_CurrentYearLess8	Current Year Minus 8	Never Share
▶ TRCS_CurrentYearLess7	Current Year Minus 7	Never Share
▶ TRCS_CurrentYearLess6	Current Year Minus 6	Never Share

データが取得された場所からこれらの自動化列にソース勘定科目を指定するには、マッピングを作成する必要があることに注意してください。[Tax Reporting の管理の現在の未払税自動化のマッピングの作成](#)を参照してください。

3. 「現在の未払税詳細」タブを選択して、「詳細」フォームにアクセスします。「現在の未払税詳細」フォームから、特定の年の払戻または支払の詳細を追跡できることに注意してください。このフォームには定期的にデータを入力できます。

Current Tax Payable Detail	Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Account	Currency	
Payments Detail	Actual	FY15	P1	San Jose(USD)	Entity Input	Alabama	Local GAAP	RCurPayRegional	USD	
	Current Year	Current Year Minus 1	Current Year Minus 2	Current Year Minus 3	Current Year Minus 4	Current Year Minus 5	Current Year Minus 6	Historic Year	Prior Years Total	Current Payable Total
Year Of Origination	FY15	FY14	FY13	FY12	FY11	FY10	FY09			
P1 Payments										
P2 Payments										
P3 Payments										
P4 Payments										
P5 Payments										
P6 Payments										
P7 Payments										
P8 Payments										
P9 Payments										
P10 Payments										
P11 Payments										
P12 Payments										
Payments Detail										

### Note:

- 「現在の未払税詳細」フォームで列の順序を変更したり、列を追加する場合は、**Tax Reporting** の管理の「現在の未払税詳細」フォームの管理を参照してください。
- このフォームで作業をしない場合は、このフォームを手動で非表示にすることもできます。そのためには、フォームを使用しないで、新しいナビゲーション・フローを作成し、新しいカードを作成する必要があります。

## 地域の税金勘定科目ロールフォワード(TAR)のカスタマイズ

一般会計の勘定科目構造が **Tax Reporting** の初期状態の勘定科目と異なる場合は、地域の **TAR** 自動化レポートに列を追加し、その列にデータをマップできるカスタマイズされた **TAR** 自動化レポートを構成できるようになりました。

**TAR** 自動化レポートには、初期状態の **TAR** レポートで使用可能なすべての列および行が含まれていますが、次のようにレポートをカスタマイズすることもできます。

- 会社の一般会計勘定体系と一致するように、追加の **G/L** 勘定科目を追加します。
- 各増減合計の複合詳細を分類するために、追加の増減メンバー行を追加します。

特定の **POV** のマッピングがユーザーによって定義されている場合、そのマッピングは連結に考慮されます。マッピングがカスタマイズされていない場合は、デフォルトのマッピングが使用されます。

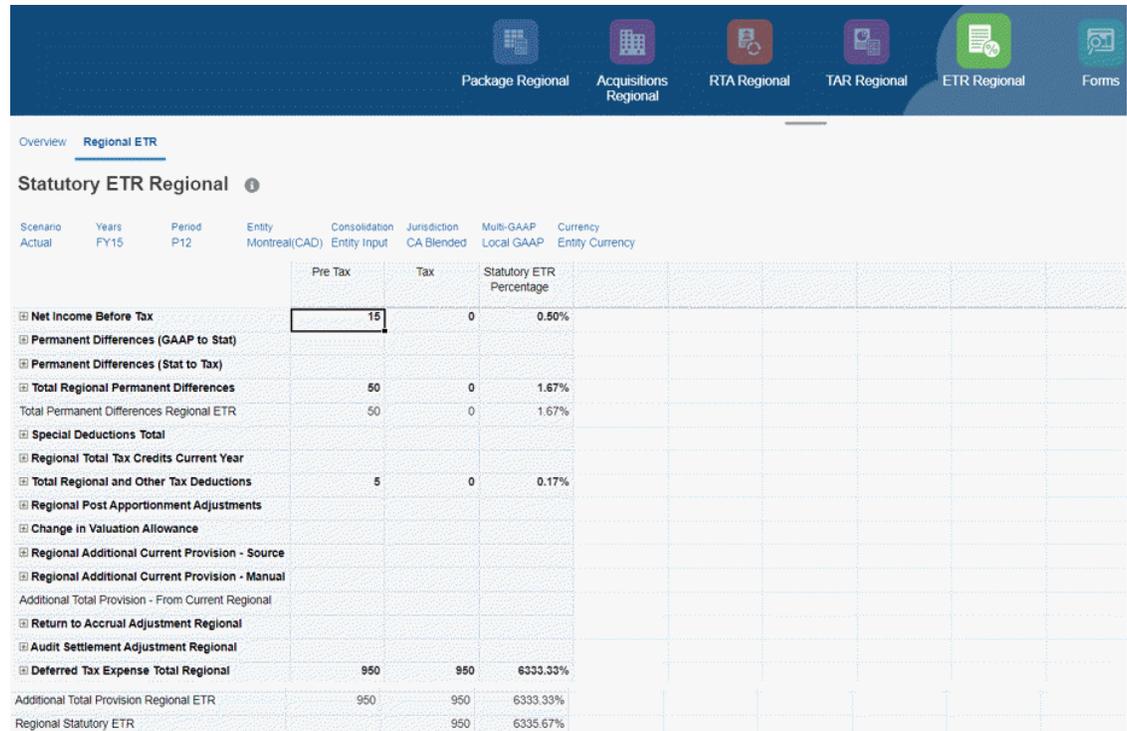
**TAR** 自動化レポートのカスタマイズについては、**TAR** 自動化の構成を参照してください。

## 地域の法定有効税率の操作

Tax Reporting では、法定レートで自動的に有効税率(ETR)照合が計算されます。

法定税率は、今年度の法定税率に今年度の配賦率を掛けたものです。

レート照合では、調整された税引前純利益のパーセンテージとして項目の照合による税効果が自動的に計算されます。 をクリックしてエントリを展開し、前述の各照合項目詳細の最下位レベルにドリルダウンし、入力された情報のレベルに応じて有効税率全体に対する各項目のコントリビューションを表示できます。



The screenshot shows the Oracle Tax Reporting interface for 'Statutory ETR Regional'. The top navigation bar includes icons for Package Regional, Acquisitions Regional, RTA Regional, TAR Regional, ETR Regional, and Forms. The main content area displays a table with the following data:

Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency	Pre Tax	Tax	Statutory ETR Percentage
Actual	FY15	P12	Montreal(CAD)	Entity Input	CA Blended	Local GAAP	Entity Currency			
<input type="checkbox"/>	<b>Net Income Before Tax</b>							15	0	0.50%
<input type="checkbox"/>	<b>Permanent Differences (GAAP to Stat)</b>									
<input type="checkbox"/>	<b>Permanent Differences (Stat to Tax)</b>									
<input type="checkbox"/>	<b>Total Regional Permanent Differences</b>							50	0	1.67%
	Total Permanent Differences Regional ETR							50	0	1.67%
<input type="checkbox"/>	<b>Special Deductions Total</b>									
<input type="checkbox"/>	<b>Regional Total Tax Credits Current Year</b>									
<input type="checkbox"/>	<b>Total Regional and Other Tax Deductions</b>							5	0	0.17%
<input type="checkbox"/>	<b>Regional Post Apportionment Adjustments</b>									
<input type="checkbox"/>	<b>Change in Valuation Allowance</b>									
<input type="checkbox"/>	<b>Regional Additional Current Provision - Source</b>									
<input type="checkbox"/>	<b>Regional Additional Current Provision - Manual</b>									
	Additional Total Provision - From Current Regional									
<input type="checkbox"/>	<b>Return to Accrual Adjustment Regional</b>									
<input type="checkbox"/>	<b>Audit Settlement Adjustment Regional</b>									
<input type="checkbox"/>	<b>Deferred Tax Expense Total Regional</b>							950	950	6333.33%
	Additional Total Provision Regional ETR							950	950	6333.33%
	Regional Statutory ETR								950	6335.67%

Overview **Regional ETR**

### Statutory ETR Regional ⓘ

Scenario Actual	Years FY15	Period P12	Entity Montreal(CAD)	Consolidation Entity input	Jurisdiction CA Blended	Multi-GAAP Local GAAP	Currency Entity Currency
				Pre Tax	Tax	Statutory ETR Percentage	
<b>⊟ Audit Settlement Adjustment Regional</b>							
Other Adjustments (Deferred Only)							
Transfers (Deferred Only)							
Prior Year Adjustment (Deferred Only)							
Contingency (Deferred Only)							
Deferred Tax Override Rate Adjustment							
Rate Change - Open							
Rate Change - CY							
Rate Change - Acquisitions							
<b>⊟ Rate Change - Total</b>							
<b>⊟ Deferred Tax Expense Total Regional</b>							
Additional Total Provision Regional ETR							
Regional Statutory ETR							

## 期限切れの年別課税損失/税額控除の管理

課税損失/税額控除フォームには、該当する場合に税額控除の金額と期限について財務諸表の注記開示を連結するために使用するデータが含まれます。期限切れの年別課税損失/税額控除フォームを使用して、エンティティ、複数 GAAP または勘定科目ごとに連結レベルの情報を参照できます。この情報を使用して、控除の期限と金額を必要に応じて反映した注記開示を構成できます。

### Note:

この機能を有効にすると、データ・ソース・メンバーが自動的に作成されます(*Tax Reporting* の管理の期限切れの年別課税損失/税額控除の有効化に関する項を参照)。ただし、必要に応じてメンバーを作成することもできます。メンバー名は FY<yearName>という形式にすることをお勧めします。

*Tax Reporting* の管理の期限切れの年別課税損失/税額控除の操作に関する項も参照してください

## 課税損失/税額控除の期限切れフォームへのアクセス

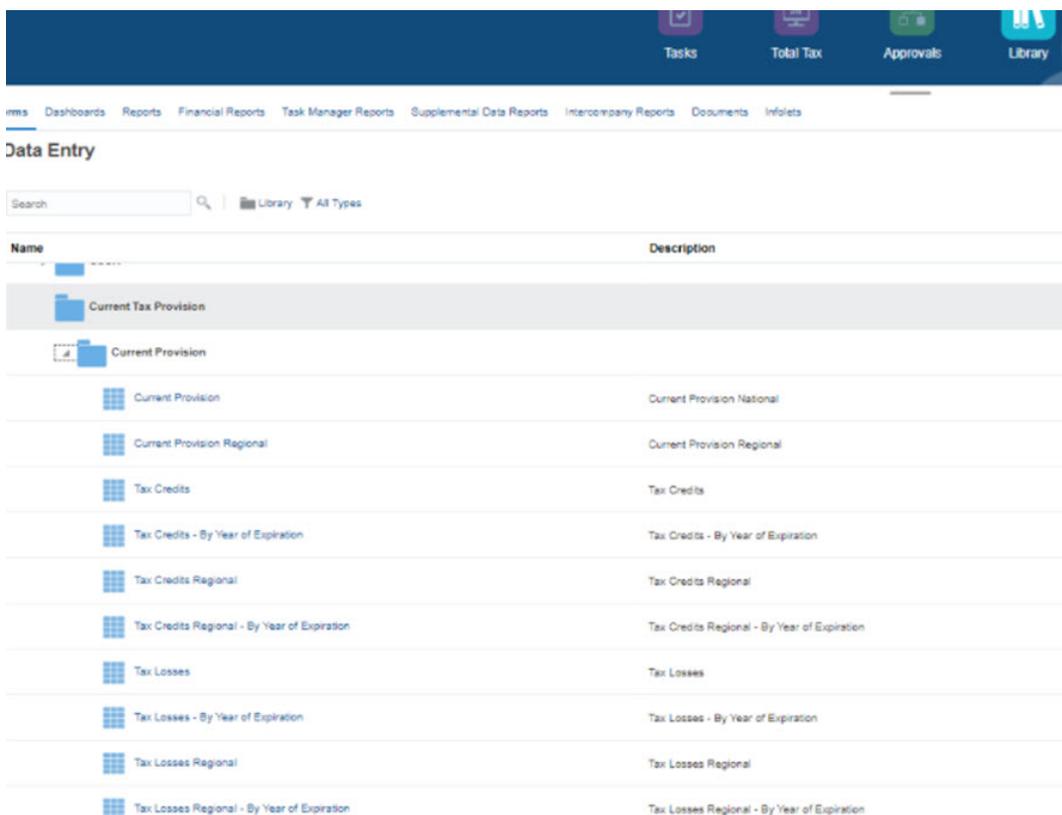
フォームには 2 つの方法のいずれかでアクセスできます:

- 課税損失/税額控除フォームのコンテキスト・メニュー/アクション・メニューから。たとえば、「課税損失」フォームで右クリックして、「課税損失 - 期限切れの年別」を選択します。「税額控除」フォームでは、同様に「期限切れの年別税額控除」が表示されます。

**Tax Losses**

Tax Losses/Credits Currency	Scenario Actual	Year FY15	Period P1	Entity San Jose/USD	Consolidation Entity Input	Jurisdiction United States	Multi-GAAP No Multi-GAAP	Account Tax Losses - Carryforward Automated											
Entity Currency																			
	Prior Year Adjustment - Losses And Credits	Opening as Adjusted	Created Losses/Credits	Return to Actual Adjustment	Other Adjustments	Available Losses/Credits	CY Utilization	Adjusted	Expiration	Foreign Exchange - Opening Balance									
Historic Year																			
Current Year Minus 20																			
Current Year Minus 19																			
Current Year Minus 18																			
Current Year Minus 17																			
Current Year Minus 16																			
Current Year Minus 15																			
Current Year Minus 14																			
Current Year Minus 13																			
Current Year Minus 12																			
Current Year Minus 11																			
Current Year Minus 10																			
Current Year Minus 9																			
Current Year Minus 8																			
Current Year Minus 7																			
Current Year Minus 6																			
Current Year Minus 5																			
Current Year Minus 4																			
Current Year Minus 3																			
Current Year Minus 2																			
Current Year Minus 1																			
Current Year																			
Total Tax Losses/Credits																			

- 「ライブラリ」 > 「当期税引当」 > 「現在の引当金」フォルダから



関連項目: *Tax Reporting* の管理の期限切れの年別課税損失/税額控除の有効化に関する項

## 期限切れの課税損失/税額控除フォームの操作

課税損失/税額控除フォームを使用して、各期末繰越に対応する期限切れの年を設定して課税損失/税額控除のスケジュールの詳細を入力できます。フォームでは期限切れの年ごとの期末繰越の詳細を表示できます。

**Tax Losses**

Tax Losses/Credits Currency	Scenario Actual	Year FY20	Period P12	Entity Montreal(CAD)	Consolidation Entity Input	Jurisdiction Canada	Multi-GAAP Local GAAP	Account Tax Losses - Carryforward Automated	Year Of Origination	Year Of Expiration	Opening Carryforward	Prior Year Adjustment - Losses And Credits	Opening as Adjusted	Created Losses/Credits	Return to Accrual Adjustment	Other Adjustments	Available Losses/Credits	CY Utilization	Adjusted	Expiration	Closing Carryforward (a)	
Historic Year																						
Current Year Minus 20		FY00																				
Current Year Minus 19		FY01																				
Current Year Minus 18		FY02																				
Current Year Minus 17		FY03																				
Current Year Minus 16		FY04																				
Current Year Minus 15		FY05																				
Current Year Minus 14		FY06																				
Current Year Minus 13		FY07																				
Current Year Minus 12		FY08																				
Current Year Minus 11		FY09																				
Current Year Minus 10		FY10	No Expiration							800	800								800			800
Current Year Minus 9		FY11	No Expiration																			
Current Year Minus 8		FY12	2023																-4000	-4000		-4000
Current Year Minus 7		FY13	No Expiration																		1000	1000
Current Year Minus 6		FY14	2023												5000				5000			5000
Current Year Minus 5		FY15	No Expiration																			
Current Year Minus 4		FY16	No Expiration																-500	-500		-500
Current Year Minus 3		FY17	No Expiration												6000				6000			6000
Current Year Minus 2		FY18	No Expiration																			
Current Year Minus 1		FY19	2025																2000	2000		2000
Current Year		FY20	2040																7000	7000		7000
<b>Total Tax Losses/Credits</b>															<b>11000</b>				<b>7800</b>			<b>17300</b>

**Note:**

複数通貨アプリケーションの場合、期限切れの年のデータは「通貨なし」に保管されます。

たとえば、前のスクリーンショットには期限切れの年と対応する期末繰越データを示す 8 行が表示されています。期限切れの年が期限なしのものが 4 行、2023 のものが 2 行、2025 と 2040 のものが 1 行ずつで、それぞれの期末繰越の値を持っています。期限切れの年別課税損失/税額控除のフォーム(国と地域の両方)は、様々なデータを期限切れの年でグループ化するために役立ちます。

ユーザーは課税損失/税額控除勘定科目のみでなく、親勘定科目、複数 GAAP および親エンティティごとに、期限切れの年を参照できます。[課税損失/税額控除の期限切れフォームへのアクセス](#)および[ユース・ケース例](#)も参照してください。

損失/控除勘定科目の期限切れの年に基づいて期末繰越を表示するには、次のフォームを参照してください:

- **課税損失 - 期限切れの年別**

**Tax Losses - By Year of Expiration**

Scenario Actual	Years FY20	Period P12	Entity Montreal(CAD)	Consolidation Entity Input	Jurisdiction Canada	Multi-GAAP Local GAAP	Account Tax Losses - Carryforward Automated	Currency Entity Currency
		Carryforward by Expiration Year						
2025		6000						
No Expiration		1000						
Uncategorized		9000						
<b>Total Carryforward</b>		<b>16000</b>						

- **税額控除 - 期限切れの年別**

**Tax Credits - By Year of Expiration**

TRCS\_TaxCredits > TRCS\_TaxCreditsByYearOfExpiration

Scenario Actual	Years FY20	Period P12	Entity Montreal(CAD)	Consolidation Entity Input	Jurisdiction Canada	Multi-GAAP Local GAAP	Account Tax Credit	Currency Entity Currency
		Carryforward by Expiration Year						
2025		6000						
No Expiration		1000						
Uncategorized		9000						
<b>Total Carryforward</b>		<b>16000</b>						

- **課税損失(地域) - 期限切れの年別**

**Tax Losses Regional - By Year of Expiration**

TRCS\_TaxLossesRegional > TRCS\_TaxLossesRegionalByYearOfExpiration

Scenario Actual	Years FY20	Period P12	Entity Montreal(CAD)	Consolidation Entity Input	Jurisdiction CA Blended	Multi-GAAP Local GAAP	Account State NOL	Currency Entity Currency
		Carryforward by Expiration Year						
2025		6000						
No Expiration		1000						
Uncategorized		9000						
<b>Total Carryforward</b>		<b>16000</b>						

- **税額控除(地域) - 期限切れの年別**

Tax Credits Regional - By Year of Expiration ⓘ

Scenario Actual	Years FY20	Period P12	Entity Montreal(CAD)	Consolidation Entity Input	Jurisdiction CA Blended	Multi-GAAP Local GAAP	Account State Tax Credit	Currency Entity Currency
		Carryforward by Expiration Year						
	2025	6000						
	No Expiration	1000						
	Uncategorized	9000						
	<b>Total Carryforward</b>	<b>16000</b>						

## コース・ケース例

データのコース・ケースは課税損失のものですが、同じことが国と地域の税額控除にも該当します。

 **Note:**

次のコース・ケース例ではアプリケーションの開始年 = 2020 です。

## コース・ケース 1: 期限切れの年が期限切れなし

「期限切れなし」の期末繰越の値は  $800 + 1000 - 500 + 6000 = 7300$  になります。

Tax Losses ⓘ

Tax Losses/Credits Currency	Scenario Actual	Years FY20	Period P12	Entity Montreal(CAD)	Consolidation Entity Input	Jurisdiction Canada	Multi-GAAP Local GAAP	Account Tax Losses - Carryforward Automated	Other Adjustments	Available Losses/Credits	CY Utilization	Adjusted	Expiration	Closing Carryforward (X)	
Entity Currency	Year Of Origination	Year Of Expiration	Opening Carryforward	Prior Year Adjustment - Losses And Credits	Opening as Adjusted	Created Losses/Credits	Return to Accrual Adjustment								
Historic Year															
Current Year Minus 20		FY00													
Current Year Minus 19		FY01													
Current Year Minus 18		FY02													
Current Year Minus 17		FY03													
Current Year Minus 16		FY04													
Current Year Minus 15		FY05													
Current Year Minus 14		FY06													
Current Year Minus 13		FY07													
Current Year Minus 12		FY08													
Current Year Minus 11		FY09													
Current Year Minus 10		FY10	No Expiration						800	800		800		800	
Current Year Minus 9		FY11													
Current Year Minus 8		FY12 2023									-4000	-4000	1000	-4000	
Current Year Minus 7		FY13 No Expiration												1000	
Current Year Minus 6		FY14 2023							5000	5000		5000		5000	
Current Year Minus 5		FY15													
Current Year Minus 4		FY16 No Expiration									-500	-500		-500	
Current Year Minus 3		FY17 No Expiration							6000	6000		6000		6000	
Current Year Minus 2		FY18													
Current Year Minus 1		FY19 2025									2000	2000		2000	
Current Year		FY20 2040								7000	7000	7000		7000	
<b>Total Tax Losses/Credits</b>									<b>11000</b>	<b>7800</b>	<b>18800</b>	<b>-2500</b>	<b>16300</b>	<b>1000</b>	<b>17300</b>

「課税損失 - 期限切れの年別」フォームの「期限切れなし」には失効年の繰越が 7,300 と表示されます。

Tax Losses - By Year of Expiration ⓘ

TRCS\_TaxLosses > TRCS\_TaxLossesByYearOfExpiration

Scenario Actual	Years FY20	Period P12	Entity Montreal(CAD)	Consolidation Entity Input	Jurisdiction Canada	Multi-GAAP Local GAAP	Account Tax Losses - Carryforward Automated	Currency Entity Currency
		Carryforward by Expiration Year						
	2023	1000						
	2025	2000						
	No Expiration	7300						
	Uncategorized	7000						
	<b>Total Carryforward</b>	<b>17300</b>						

## ユース・ケース 2: 期限切れの年で年 < (アプリケーションの開始年 + 20 年)

2023 の期末繰越の値は  $-4000 + 5000 = 1000$  です

2025 の期末繰越の値は 2000 です

Tax Losses ⓘ

Tax Losses/Credits Currency Entity Currency	Scenario Actual	Years FY20	Period P12	Entity Montreal(CAD)	Consolidation Entity Input	Jurisdiction Canada	Multi-GAAP Local GAAP	Account Tax Losses - Carryforward Automated								
	Year Of Origination	Year Of Expiration	Opening Carryforward	Prior Year Adjustment - Losses And Credits	Opening as Adjusted	Created Losses/Credits	Return to Accrual Adjustment	Other Adjustments	Available Losses/Credits	CY Utilization	Adjusted	Expiration	Closing Carryforward (k)			
Historic Year																
Current Year Minus 20		FY00														
Current Year Minus 19		FY01														
Current Year Minus 18		FY02														
Current Year Minus 17		FY03														
Current Year Minus 16		FY04														
Current Year Minus 15		FY05														
Current Year Minus 14		FY06														
Current Year Minus 13		FY07														
Current Year Minus 12		FY08														
Current Year Minus 11		FY09														
Current Year Minus 10		FY10	No Expiration					800	800		800		800			
Current Year Minus 9		FY11														
Current Year Minus 8		FY12	2023							-4000	-4000	1000	-4000			
Current Year Minus 7		FY13	No Expiration										1000			
Current Year Minus 6		FY14	2023				5000		5000		5000		5000			
Current Year Minus 5		FY15														
Current Year Minus 4		FY16	No Expiration						-500	-500			-500			
Current Year Minus 3		FY17	No Expiration					6000	6000		6000		6000			
Current Year Minus 2		FY18														
Current Year Minus 1		FY19	2025						2000	2000			2000			
Current Year		FY20	2040					7000	7000		7000		7000			
<b>Total Tax Losses/Credits</b>								<b>11000</b>	<b>7800</b>	<b>18800</b>	<b>-2500</b>	<b>16300</b>	<b>1000</b>	<b>17300</b>		

「課税損失 - 期限切れの年別」フォームの 2023 と 2025 には失効年の繰越がそれぞれ 1000、2000 と表示されます。

Tax Losses - By Year of Expiration ⓘ

TRCS\_TaxLosses > TRCS\_TaxLossesByYearOfExpiration

Scenario Actual	Years FY20	Period P12	Entity Montreal(CAD)	Consolidation Entity Input	Jurisdiction Canada	Multi-GAAP Local GAAP	Account Tax Losses - Carryforward Automated	Currency Entity Currency
		Carryforward by Expiration Year						
	2023	1000						
	2025	2000						
	No Expiration	7300						
	Uncategorized	7000						
	<b>Total Carryforward</b>	<b>17300</b>						



勘定科目資本課税損失 – 自動繰越の期限切れの年 2025 の期末繰越は 6000 です。

Tax Losses - By Year of Expiration ⓘ

Scenario Actual	Years FY20	Period P12	Entity Montreal(CAD)	Consolidation Entity Input	Jurisdiction Canada	Multi-GAAP Local GAAP	Account Capital Losses - Carryforward Automated	Currency Entity Currency
							Carryforward by Expiration Year	
	2025						6000	
	No Expiration						1000	
	Uncategorized						9000	
	<b>Total Carryforward</b>						<b>16000</b>	

親勘定科目の「課税損失 - 期限切れの年別」フォームの 2025 には失効年の繰越が 32000 (26000+6000)と表示されます。

同じ計算が「期限切れなし」と「未分類」にも該当します。

Tax Losses - By Year of Expiration ⓘ

Scenario Actual	Years FY20	Period P12	Entity Montreal(CAD)	Consolidation Entity Input	Jurisdiction Canada	Multi-GAAP Local GAAP	Account Total National Tax Losses - Carryforward Automated	Currency Entity Currency
							Carryforward by Expiration Year	
	2025						32000	
	No Expiration						12000	
	Uncategorized						38000	
	<b>Total Carryforward</b>						<b>82000</b>	

## ユース・ケース 5: 親複数 GAAP の期限切れの年

複数 GAAP MultiGaap1 の期末繰越:

- 期限切れなし = 30000
- 未分類 = 20000

Tax Losses - By Year of Expiration ⓘ

Scenario Actual	Years FY20	Period P12	Entity Montreal(CAD)	Consolidation Entity Input	Jurisdiction Canada	Multi-GAAP MultiGaap1	Account Tax Losses - Carryforward Automated	Currency Entity Currency	Product Product 1.2
							Carryforward by Expiration Year		
	2023						10000		
	No Expiration						30000		
	Uncategorized						20000		
	<b>Total Carryforward</b>						<b>60000</b>		

複数 GAAP MultiGaap2 の期末繰越:

- 期限切れなし = 10000
- 未分類 = 60000

### Tax Losses - By Year of Expiration ⓘ

TRCS\_TaxLosses > TRCS\_TaxLossesByYearOfExpiration

Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Account	Currency	Product
Actual	FY20	P12	Montreal(CAD)	Entity Input	Canada	Multi-GAAP MultiGaap2	Tax Losses - Carryforward Automated	Entity Currency	Product1.2
		Carryforward by Expiration Year							
		No Expiration							
		Uncategorized							
		<b>Total Carryforward</b>							

ParentMultiGaap の「課税損失 - 期限切れの年別」フォームの「期限切れなし」には失効年の繰越が 20000 (30000 -10000)と表示されます。同じ計算が「未分類」にも 80000 (60000+20000)として該当します。

### Tax Losses - By Year of Expiration ⓘ

TRCS\_TaxLosses > TRCS\_TaxLossesByYearOfExpiration

Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Account	Currency	Product
Actual	FY20	P12	Montreal(CAD)	Entity Input	Canada	ParentMultiGaap	Tax Losses - Carryforward Automated	Entity Currency	Product1.2
		Carryforward by Expiration Year							
	2023	10000							
		No Expiration							
		Uncategorized							
		<b>Total Carryforward</b>							

# 15

## ファイリング・グループの操作

### 関連トピック:

[単一、結合、連結、および個別の米国連邦と州規定構成の操作](#)

## 単一、結合、連結、および個別の米国連邦と州規定構成の操作

構成ステップは次のとおりです:

1. 米国連邦および州引当金のファイリング・グループの親を確立します。この階層は、最終的なレポートの親にロールアップできるように、連結されたグループ引当金階層の一部である必要があります。グループをファイリングすることにより、代替階層を作成できます ([Tax Reporting の管理の代替階層の作成](#)を参照)。ただし、最終的なレポートの親に正しくロールアップされない場合があります。
2. チェックボックスを選択して、「**上位レベルのエンティティ入力を許可**」を構成します。これにより、税の属性(たとえば、税の損失、控除など)、税率([税率の入力](#)を参照)などを含むデータを入力できます。税の損失/控除の詳細は、[期限切れの年別課税損失/税額控除の管理](#)を参照してください。

Edit Member : North America	
Member Properties	
Name	North America
Description	
Alias Table	Default
Alias	North America
Base Currency	USD
Data Storage	Never Share
Two Pass Calculation	<input type="checkbox"/>
Allow Upper-Level Entity Input	<input type="checkbox"/>
Consol	<input checked="" type="checkbox"/> Ignore
Rates	<input checked="" type="checkbox"/> Ignore
Plan Type	CbCR <input checked="" type="checkbox"/> Ignore
Config	<input checked="" type="checkbox"/> Ignore
Data Type	Unspecified
Smart Lists	<None>
Enable for Dynamic Children	<input type="checkbox"/>
Number of Possible Dynamic Children	10
Access Granted to Member Creator	Inherit

3. 基本エンティティからのすべての課税前データと親で入力されたデータを使用して、親レベルで税金を計算するために、ファイリング・グループの親エンティティで親税計算属性を構成します。詳細は、[国および地域の親の税金の計算](#)を参照してください。

**Dimensions**

**Edit Member : North America**

Member Properties **Attribute Values** UDA Member Formula

Available Attribute Values

- ▷ Regional Deduction
- ▷ Parent Tax Calculations
  - ▷ TaxCalcYes
  - ▷ NationalTaxCalcYes
- ▷ Intercompany Entity
- ▷ Domicile

4. 親エンティティの法定住所プロパティを構成します。

**Edit Member : North America**

Member Properties **Attribute Values** UDA Member Formula

Available Attribute Values

- ▷ Regional Deduction
- ▷ Parent Tax Calculations
- ▷ Intercompany Entity
- ▷ Domicile
  - ▷ US

 **Note:**

税率、税データなどを入力する必要があります。

5. 次のオプションに基づいて税金を計算します:
- a. 1つの国税率を使用して、親で税を計算します。親レベルで税率を入力します。追加情報については、次を参照してください:
    - [国税プロセスの操作](#)
    - [税率の操作](#)
  - b. 1つの地域税率と1つの地域配分率を使用して、親で税金を計算します。税率フォームで、**アクティブな地域フラグ**を親レベルで「アクティブ」に設定します。

**Tax Rates**

Scenario	Years	Period	Entity								
Actual	FY15	PI	North America(USD)								
				Prior Year Current Tax Rate	Current Year Current Tax Rate	Opening Deferred Tax Rate - Non Current	Closing Deferred Tax Rate - Non Current	Opening Regional Tax Apportionment	Current Year Regional Tax Apportionment	Closing Regional Tax Apportionment	Active Region Flag
United States											
Alabama											Active
Alaska											
California											
Connecticut											
Illinois											
Minnesota											
Nevada											
Ohio											
US Blended											

追加情報については、次を参照してください:

- [地域税プロセスの操作](#)
  - [税率の入力](#)
- c. 基本エンティティで税金を計算し、親の税率と基本エンティティの税前データを使用して親で税金を再計算します。基本エンティティと親エンティティの税率を入力し、基本と親で**アクティブな地域フラグ**を「アクティブ」に設定します。

- d. 基本エンティティで税を計算し、税効果を親エンティティにロールアップします(個別のファイリング)。基本のみで、**アクティブな地域フラグ**を「アクティブ」に設定します。

 **Note:**

親レベルで**アクティブな地域フラグ**を設定しないでください。

**関連トピック:**

[Tax Reporting](#) の [管理](#) の [税率の設定](#) および [ディメンションの操作](#)

# 16

## 中間税引当の操作

### 関連リンク:

- [中間税引当の概要](#)
- [年間推定有効税率\(AEETR\)の計算](#)

## 中間税引当の概要

税率は、四半期、年などのサマリー期間について年初に生成されます。管理者またはパワー・ユーザーは、月次や非年末などの中間税期間を作成し、年間推定有効税率(AEETR)に基づいて中間期間の当期税金および繰延税金を見積もることもできます。

機能を使用するには、中間引当合計 AEETR および詳細 AEETR を有効にする必要があります。「中間引当」をまだ有効にしていない場合、次のいずれかの方法を使用して機能を有効にします。

- 新規アプリケーションを作成する場合、アプリケーションの作成を参照してください。
- アプリケーションがすでに作成されている場合でも、「中間税引当」を有効にできます。アプリケーションの機能の有効化を参照してください。

中間引当機能が有効な場合、アプリケーションの作成ウィザードで「**合計 AEETR**」または**詳細 AEETR**、あるいはその両方を選択できます。中間を有効にする場合、AEETR 計算タイプの選択は必須です。この機能を有効にすると、TRCS\_Interim Forecast シナリオ・メンバーも作成され、中間引当での予測に使用されます。

中間税の引当を行う前に、ユーザーは当期引当フォームに NIBT データを入力する必要があります。年間推定有効税率を有効にすると、シナリオ・ディメンションの TRCS\_InterimForecast メンバーから見積税率が自動的に取得されます。TRCS\_InterimForecast は次のフォームで使用されます。

- 当期引当予測
- 繰延税金予測
- 連結 ETR 予測

TRCS\_InterimForecast シナリオの当期税金および繰延税金の税率を手動で入力する必要もあります。システムで、実効税率を使用して税金が計算されます。

オプションの選択に基づいて、AEETR の計算方法を選択できます。

- **合計 AEETR** - このオプションを選択して、予測シナリオの連結有効税率から合計 AEETR の値を取得します。合計 AEETR で調整できます。  
**合計税金 AEETR(%) = 予測シナリオの連結実行税率**
- **詳細 AEETR** - このオプションを選択して、当期税金と繰延税金を足し、予測シナリオの税金合計を表示します。当期および繰延税金を調整できます。

$$\text{Current Tax (\%)} = \frac{\text{Total Current Tax Expense}}{\text{Pre-Tax Net Income after book Adjustments (NIBT)}}$$

$$\text{Deferred Tax (\%)} = \frac{\text{Total Deferred Tax Expense}}{\text{Pre-Tax Net Income after book Adjustments (NIBT)}}$$

$$\text{Total Tax (\%)} = \text{Current Tax} + \text{Deferred Tax}$$

合計、詳細または両方を選択できます。

アプリケーション作成ウィザード(ACW)から、あるいは中間引当の有効化機能からの中間税引当勘定科目は、次に示すように勘定科目ディメンション下に格納されます。

Name	Alias (Default)	Custom Attributes	Data Storage
Account			Never Share
FCCS_System Account	System Account		Label only
Exchange Rates			Label only
Entered Exchange Rates			Label only
Exchange Rates System Members			Label only
FCCS_Historical Accounts	Historical Accounts		Label only
FCCS_Drivers	Drivers		Label only
TRCS_TaxAccounts	Tax accounts		Label only
TRCS_CurrentTaxExpense	Current Provision	View	Dynamic Calc
TRCS_RCurrentTaxExpense	Regional Current Provision	View	Dynamic Calc
TRCS_NDeftaxTotal	Deferred Tax Total		Dynamic Calc
TRCS_RDeftaxTotal	Total Deferred Tax Regional		Dynamic Calc
TRCS_InterimTaxTotal	Interim Provision		Dynamic Calc
TRCS_InterimTax	Tax Expense Before Discrete Items		Dynamic Calc
TRCS_InterimTaxAEETR	Tax Expense Before Discrete Items AEETR		Dynamic Calc
TRCS_DiscreteTotal	Total Discrete Provision		Dynamic Calc
TRCS_TaxSettings	Tax Settings		Label only
TRCS_TaxRates	Tax Rates		Label only
TRCS_TaxRatePY	Prior Year Current Tax Rate		Store
TRCS_TaxRateCY	Current Year Current Tax Rate		Store
TRCS_TaxRateConsETR	Consolidated Tax Rate for ETR		Store
TRCS_TaxRateNoncurrentClosing	Closing Deferred Tax Rate - Non Current		Store
TRCS_TaxRateNoncurrentOpening	Opening Deferred Tax Rate - Non Current		Store
TRCS_TaxRateConsETRIFRSNational	Consolidated Tax Rate National		Store
TRCS_TaxRateConsETRIFRSLocal	Consolidated Tax Rate Local		Store
TRCS_TaxRateInterim	Estimated Tax Rates		Store
TRCS_TotalAEETR	Total AEETR		Dynamic Calc
TRCS_TaxApportionmentReg	Regional Tax Apportionment		Label only
TRCS_RTADestYearPeriod	RTA Destination Period and Year		Store
TRCS_TaxRatesForForms	Tax Rates For Forms		Never Share
TRCS_SupplementalSchAccounts	Supplemental Schedule Accounts		Label only
TRCS_OtherTaxAccounts	Other Tax Accounts		Label only
FCCS_Balance Sheet	Balance Sheet		Dynamic Calc
FCCS_Income Statement	Income Statement		Dynamic Calc
TRCS_CountryByCountryReporting	Country by Country Reporting		Label only

中間税引当は、国と地域の両方の税引当に適用されます。年間推定有効税率(AEETR)は、連結税率照合から取得され、地方税および地方税の連邦給付が適宜考慮されます。すべてのエンティティが計算に参加します。

税効果ベースで追加の個別調整を入力することができます。

必要に応じて、損失エンティティが中間引当の計算に参加しないようにできます。[中間引当からの損失エンティティの除外](#)を参照してください。

計算された税および個別項目の純額は、中間引当税額とみなされます。すべての情報を入力したら、中間引当フォームの連結を実行し、合計中間税引当を計算します。

[中間税引当の生成](#)に概説されているように中間税引当を生成します。

## 年間推定有効税率(AEETR)の計算

Tax Reporting では、全年予測から決定された合計推定年間有効税率に基づいて、中間引当を提供します。推定年間有効税率の計算を実行するために、予測シナリオが提供されます。

AEETR を計算するには:

- グローバル AEETR の適用: 中間引当予測シナリオで予測された AEETR を計算した後、「中間引当」フォームで、実績シナリオの**すべてのエンティティ** NIBT にグローバル AEETR を適用できるようになります。[グローバル AEETR エンティティの識別](#)を参照してください
- 次の選択して、シナリオからターゲット・シナリオへの AEETR を自動化します:
  - AEETR が計算される中間シナリオ
  - AEETR がプッシュされる実績シナリオ。[中間シナリオの識別](#)を参照してください
- 中間引当から税金勘定科目ロールフォワード(TAR)へのデータのマッピングは、TAR 自動化を使用してサポートされます。[TAR 自動化仕訳入力の設定](#)を参照してください

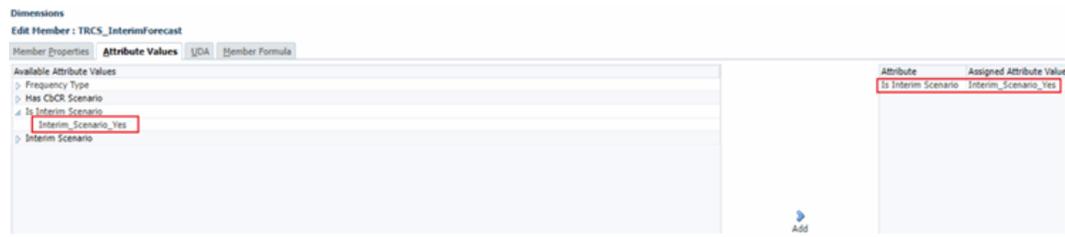
## AEETR の管理

関連トピック:

- [中間シナリオの識別](#)
- [グローバル AEETR エンティティの識別](#)
- [ユース・ケース例](#)

## 中間シナリオの識別

1. **中間シナリオ属性**を指定して、中間シナリオを識別します。ディメンション属性の操作の詳細は、[ディメンションの操作](#)を参照してください



2. **中間シナリオ属性**は、**中間シナリオ属性**が指定されたシナリオで更新されます。



3. **中間シナリオ**属性で中間シナリオが使用可能になると、シナリオを 1 つ以上の実績シナリオに割り当てることができます。実績シナリオには、1 つの中間シナリオのみを指定することに注意してください。



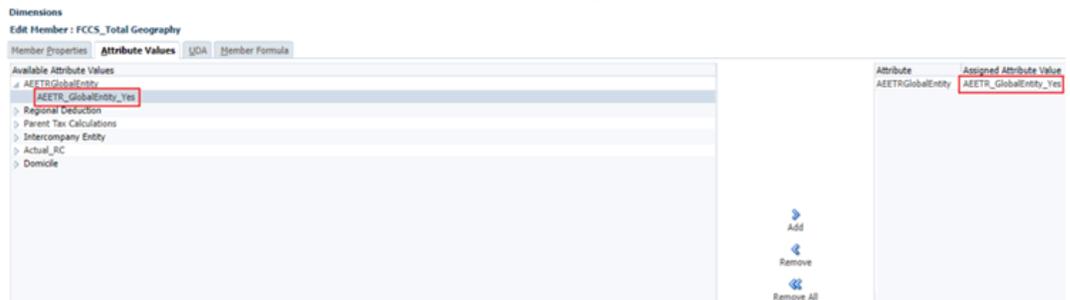
**Note:**

デフォルトでは、実績シナリオは **TRCS\_InterimForecast** シナリオに関連付けられています。

## グローバル AEETR エンティティの識別

グローバル AEETR エンティティは、各中間予測シナリオに固有であることが可能です。グローバル AEETR エンティティを識別するには:

- **AEETRGlobalEntity** の下の属性 **AEETR\_GlobalEntity\_Yes** をエンティティに割り当てて、グローバル AEETR エンティティとして識別します。



- エンティティが **AEETR\_GlobalEntity\_Yes** に関連付けられると、それらのエンティティはシナリオでグローバル AEETR エンティティとして使用できます。
- 中間 AEETR エンティティ属性には、属性 **AEETR\_GlobalEntity\_Yes** を持つすべてのエンティティがリストされます。
- 中間予測シナリオに基づいて、エンティティを選択できます。

 **Note:**

実績シナリオごとにグローバル AEETR エンティティとして指定できるのは、1つのエンティティのみです。



- 指定した属性を持つエンティティは、実績シナリオで連結 AEETR 調整を計算するのに使用されます。

## ユース・ケース例

中間引当予測は常に損失前のデータ除外で、実績は常に損失後のデータ除外です。次の例を参照してください:

Loss forecast (TRCS_InterimForecast)	Pre Loss		Loss Entity		Post loss			
	NIBT	Taxable income	CETR		NIBT Adjusted	CETR		
<b>Montreal</b>	120000	108000	40700	33.92%	120000	40700	33.92%	
<b>Toronto</b>	100000	100000	40000	40.00%	100000	40000	40.00%	
<b>Calgary</b>	151000	151000	60400	40.00%	Yes	0	0	
<b>Total Canada</b>	370000	358000	140700	38.03%		220000	80700	36.68%
<b>ROW</b>	296800	287200	112880	38.03%		176000	64560	36.68%
<b>Total Geography</b> (InterimTaxAEETRGlobalRateEntity attribute assigned)	296800	287200	112880	38.03%		176000	64560	36.68%

実績シナリオでは、**36.68%** AEETR 率を使用して、すべてのエンティティの連結 AEETR 調整を計算します。

Actual		NIBT Adjustment	AEETR Automated	Total expense	Consolidated AEETR Adjustment (i.e. NIBT Adjusted * ( Global Entity's AEETR - Entity's AEETR ) )
	Montreal	120000	33.92%	40700	120000 * (36.68% - 33.92%) = <b>3312</b>
	Toronto	100000	40.00%	40000	100000 * (36.68% - 40%) = <b>-3320</b>
	Calgary	0	0.00%	0	0%

 **Note:**

Calgary は損失エンティティのため、税引前純利益は計算されていません。

## 親エンティティでの計算の例

次の例は、中間シナリオおよび実績シナリオでデータがどのように計算されるかを表しています。

Scenario				
InterimForecast	Ch1		Ch2	ParentEntity
NIBT	100		200	300
Expense	20		30	50
AEETR	20%		15%	16.67%
Actual				AEETR Calc Parent
NIBT	500		600	1100
	100 (500*20%)		90 (600*15%)	190 Sum of (Child1 + Child2)
AEETR	20%		15%	17.27% (190/1100)

## 中間税引当の生成

中間税引当を生成する前に、次の条件を満たす必要があります。

- 中間税引当をアプリケーションに対して有効にする必要があります
- NIBT データを当期引当フォームで入力する必要があります

中間引当を生成するには:

1. ホーム・ページで「**税引当(中間)**」、「**パッケージ予測**」、「**税率予測**」の順に選択します。「税率」画面で当期税率と繰延税率を入力し、「**保存**」をクリックします。
2. 「**パッケージ予測**」で、**当期引当予測**タブを選択します。
3. **当期引当予測**タブで、「**編集**」をクリックし、必要な POV を選択します。「**シナリオ**」が**中間引当予測**に設定されていることを確認します。
4. 「**NIBT**」(税引前純利益)を展開します。
5. **NIBT の帳簿調整**の場合、「**調整**」で NIBT 額の調整を入力し、「**保存**」をクリックします。

### ノート:

NIBT データは、当期引当フォームからデフォルト設定されます。

6. 「**連結**」をクリックし、計算された結果を表示します。
7. **ETR 予測**タブを選択し、計算された連結 ETR の結果を確認します。中間 ETR は、連結 ETR パーセンテージに対する税引前純利益の割合として表されます。
8. **中間**タブを選択して次の画面(選択内容によって異なる)を表示し、「**実績**」シナリオを選択します。
  - **中間合計** - 実績シナリオの中間合計の確認
  - **中間詳細** - 実績シナリオの中間詳細の確認
9. **オプション: 「調整済 AEETR」**で、税金合計の必要な調整を入力し、「**保存**」をクリックします。
10. **オプション: 合計個別引当**の値を入力し、「**保存**」をクリックします。複数の個別項目を追加できます。自動入力には個別項目には適用されません。
11. 「**アクション**」で、「**連結**」を選択します。



- 計算から除外するエンティティについて、「**損失エンティティ**」の下で、ドロップダウン・リストから「はい」を選択します。

 **ノート:**

基本エンティティでは損失エンティティのみを設定できます。

- 「**アクション**」で、「**連結**」を選択します。連結が完了したら、税引前純利益、連結 ETR および連結 ETR パーセンテージの**事後損失**の値を表示します。
- 中間**アイコンをクリックし、「**中間合計**」をクリックして「中間合計」フォームを確認します。事後損失、自動 AEETR の行は、損失エンティティに設定されたため、空白です。
- ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**構成**」をクリックして、「**ロールオーバー**」を選択します。
- 「**ロールオーバー**」画面で、「**選択**」アイコン  をクリックし、損失エンティティが適用される「**シナリオ**」、「**年**」および「**期間**」を選択します。
- 「**タスクの選択**」で、「**損失エンティティ**」を選択し、「**実行**」をクリックします。「**ステータス**」に、アクションが完了したことを示すメッセージが表示されます。選択したシナリオ、年および期間からのデータのみがコピーされ、ロールオーバーされます。

 **ノート:**

- AEETR を使用した連結**ルールを使用すると、データ・ステータス(たとえば、「OK」)を無視して、「**中間合計**」または「**中間詳細**」(あるいはその両方) Web フォームを最新の AEETR に連結できます。このルールのメリットの 1 つは、最新の AEETR を取得するために手動でのエンティティへの影響を回避できることです。
- この固有のルールは「ルール」カードでは使用できませんが、右クリックして「**中間合計**」および「**中間詳細**」 Web フォームで使用できます。

## TAR 自動化仕訳入力の設定

TAR 自動化マッピングを作成して、現在または繰延の中間引当をプルできます。

## ユース・ケースの構成

現在の中間税は、TAR 自動列にマップされます。

TAR Automation 

Scenario	Years	Period	Account	Interim_Current				Data Source	Movement	Switch Sign
Actual	FY15	FY2	Interim_Current	Source Account National	Exclude Account National	Source Account Regional	Exclude Account Regional	Pre Tax Input	Current Tax	
Automated			Interim Provision							

中間繰延税金は、TAR 自動列にマップされます。

TAR Automation

Scenario	Years	Period	Account
Actual	FY15	P12	Interim_Deferred

Interim_Deferred						
	Source Account National	Exclude Account National	Source Account Regional	Exclude Account Regional	Data Source	Movement
Automated	Interim Provision				Pre Tax Input	Deferred Tax

「中間詳細」フォームと「TAR」フォーム間で自動値を比較します。ソース値とターゲット値は同期して表示できます。

「中間詳細」フォーム

Interim Detail

Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency	
Actual	FY15	P12	Total Geography(USD)	Entity Total	All National	Local GAAP	Entity Currency	
			Automated	Adjustment	Total	Current Tax	Deferred Tax	Total Tax
NIBT			102180	126830	229010			
Book Adjustment 1								
Book Adjustment 2				3900	3900			
Book Adjustment 3				1560	1560			
Book Adjustments to NIBT				5460	5460			
Book Reclassification 1				936	936			
Book Reclassification 2				234	234			
Book Reclassification 3				780	780			
NIBT Total Book Reclass				1950	1950			
Net Income Before Tax			102180	134240	236420			
Automated AEETR						48.90%	-3.34%	45.57%
Adjustment to AEETR						10%	10%	20%
Total AEETR						58.90%	6.66%	65.57%
Tax Expense Before Discrete Items AEETR						115617	-7887	107730
Consolidated AEETR Adjustment						-13558	-14834	-28392
Consolidated AEETR						43.17%	-9.61%	33.56%
Total Discrete Provision						780	3900	4680
Interim Provision						102840	-18821	84019
ETR After Discrete Items						43.50%	-7.96%	35.54%

「TAR」フォーム

TAR

Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency
Actual	FY15	P12	Total Geography(USD)	Entity Total	All National	Local GAAP	Entity Currency
			Current Expense	Interim_Current	Deferred Expense	Interim_Deferred	Total Provision
Net Opening Balance							
Opening Balance Adjustment							
Prior Year Adjustment - NBR							
Prior Year Adjustment - Losses And Credits							
Beginning Balance - Adjusted							
Total Payments							
Total Refunds							
Total Payments and Refunds							
Automated Total			36533	102840	14834	-18821	135386
Adjustment Total			53399		-9512		43887

## 予測された AEETR の中間引当での適用

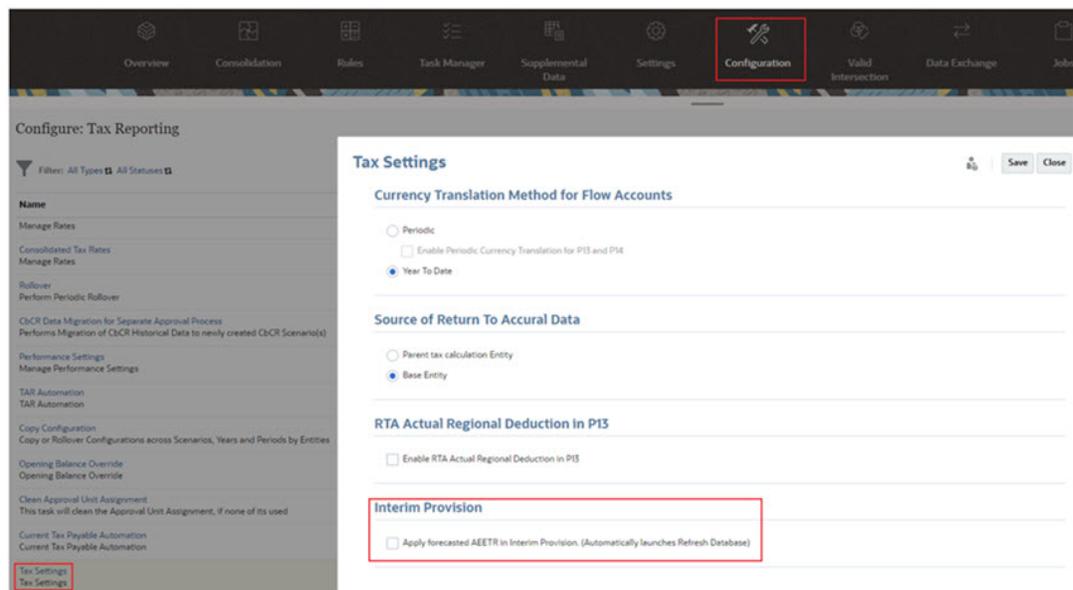
この設定を使用すると、中間引当予測で計算された AEETR を各親レベルでの中間税引当で適用できます。その結果、年次累計の純損益に対する税額を計算するときに AEETR 率まで縮小されます。

### 計算例

Scenario					
<b>InterimForecast</b>	<b>Child1</b>		<b>Child2</b>		<b>ParentEntity</b>
NIBT	100		200		300
	20		30		50
AEETR	20%		15%		16.67%
<b>Actual</b>					<b>AEETR Squeeze at Parent</b>
NIBT	500		600		1100
	100 (500*20%)		90 (600*15%)		183.33 (1100*16.67%)
AEETR	20%		15%		16.67%

予測された AEETR を中間税引当で適用するには:

1. 「ナビゲータ」に移動します。
2. 「アプリケーション」 -> 「構成」を選択します。
3. 「税金設定」をクリックします。
4. 「中間引当で予測された AEETR を適用します。(データベースのリフレッシュが自動的に起動されます)」チェック・ボックス(ポップアップ・ウィンドウの「中間引当」セクションにあります)を選択します。



5. 「保存」をクリックします。このプロセスによってデータベースのリフレッシュが実行されます。
6. データベースのリフレッシュが完了するまで待ち(ジョブ・コンソールを参照してください)、完了したら中間引当フォームを確認します。

 **Note:**

機能を再度有効にする必要がある場合は、次のステップに従います:

1. 「**変数**」に移動し、「**代替変数**」をクリックします。変数:  
InterimProvisionSqueezeCalc\_TRCS の値を「**False**」に設定します
2. 「**構成**」カードに移動し、「**税金設定**」をクリックします。
3. ポップアップ・ダイアログで「**中間引当で予測された AEETR を適用します。(データベースが自動的にリフレッシュされます)**」を選択し、「**保存**」をクリックします。
4. データベースのリフレッシュで機能の再有効化が完了するまで待機します(「ジョブ」コンソールで進捗状況をモニターします)。
5. 「**中間合計**」フォームを確認します。

# 17

## 税金分析の構成

関連リンク:

[恒常通貨の分析](#)

### 恒常通貨の分析

財務諸表の財務実績の数値を計算する場合、通貨変動の影響を完全に排除するには、固定為替レートの恒常通貨を使用します。

Tax Reporting で、今年度のレートと前年度のレート間の恒常通貨分析を作成するために、次のシナリオを検討します。

たとえば、今年度(FY21)のレートと前年度(FY20)のレート間の恒常通貨分析を作成する必要があります:

1. シナリオ(たとえば、PriorYearConstantCurrency)を作成します。
2. FY20 - Actual のデータを FY20 - PriorYearConstantCurrency にコピーします。
3. FY21 - Actual の為替レートを FY20 - PriorYearConstantCurrency にコピーします。
4. FY20 - PriorYearConstantCurrency に対して連結を実行して、恒常通貨の差異を取得します。

## 国別レポート(CbCR)の操作

国別レポートにより、大規模多国籍企業は、管轄別財務諸表の年次報告書の詳細なキー要素を提供できます。このレポートによって、各地の税務当局は、収益、利益、支払済と未払の税金、雇用、資本、利益剰余金、有形資産およびアクティビティを確認できます。

Tax Reporting では、CbCR レポートに必要なデータを収集し、まとめることができます。

CbCR レポートは、次の 3 つのセクションで構成されます。

- **データの入力** - 表 1、2、構成エンティティ情報および詳細
- 企業エンティティ全体の**サマリー**表
- レポートをローカルの税務当局に提出する際に必要となる特定の連絡先および企業情報を詳述する**ファイリング・レポート**

CbCR オプションを選択して新しい CbCR アプリケーションを作成すると、別個の CbCR キューブが作成されますが、**Consol** キューブと **Rates** キューブの両方を引き続き使用できます。CbCR キューブには、国別レポートを実行するために必要なすべてのフォームとディメンションが含まれています。Consol キューブと CbCR キューブ間でデータをプルできますが、Consol キューブには CbCR 情報はありません。すべてのディメンションが Consol キューブに反映されますが、次の違いがあります。

- CbCR キューブの「**勘定科目**」ディメンションでは、TRCS\_CountryByCountryReporting 下に CbCR 勘定科目のみがあります。帳簿勘定科目はありません。
- 「**増減**」ディメンションには、レポートを提出するために必要な情報が含まれます。
- 「**データ・ソース**」ディメンションには、CbCR に関するより限定された選択が含まれます。

### ノート:

Consol キューブは引当の報告に使用され、CbCR キューブは CbCR レポート用のデータの収集およびまとめに使用され、そのデータは Consol キューブから抽出されません。

データが 2 つの異なるキューブ内にあるため、Consol キューブに対する変更を CbCR キューブに転送する必要があります。CbCR 自動化を設定して、Consol キューブと CbCR キューブ間でのデータ移動を自動化する必要があります。CbCR 自動化の使用を参照してください。

CbCR アプリケーションの作成の詳細は、*Tax Reporting の管理* の新規アプリケーションの作成を参照してください。

 ノート:

出資比率は現在、「国別レポート(CbCR)」ではサポートされていません。かわりに、100%ロールアップが表示されます。

国別レポート勘定科目は、エンティティに応じて異なる期間中に計算および計上できます。たとえば、カレンダー年の期間中に、国別レポート勘定科目用にすべての使用可能なデータを計算できますが、CbCR のレポート作成は会社の任意の判断で行うことができます。

レポートの準備ができたなら、次のファイルを生成します。

- 税務当局に送信される正式な XML ファイル
- エラーをリストする検証.TXT ファイル。

レポートを送信する前に、すべてのエラーを修正する必要があります。

国別レポートの詳細は、次の概要ビデオをご覧ください:



[概要: Oracle Cloud EPM での国別レポート。](#)



[Tax Reporting Cloud での国別レポートの設定。](#)

## CbCR 親エンティティの設定

デフォルトで、「CbCR サマリー」フォームと「リスク評価」フォームには、FCCS\_Total Geography (地域合計)の下にすべてのエンティティのデータが表示されます。

特定の地理的領域のデータ分析を希望するユーザーは、すべての「CbCR サマリー」フォームと「リスク評価」フォームに対する分析の実行元となる選択した CbCR 親エンティティを指し示すユーザー変数を設定できます。たとえば、地域合計を使用せずに、CbCR 親エンティティを「合衆国」に設定できます。

Preferences			Save
General	User Variables		
Display	Dimension	User Variable	Member
Notifications	Entity	CbCR Parent Entity	Total Geography
Ad Hoc Options	Currency	Currency	Entity Currency
User Variables	Years	Current Year	FY19
Reports	Account	Fixed Assets/Liabilities	Total Fixed Assets
Form Printing	Entity	Loss Entities	Total Geography
	Multi-GAAP	Multi-GAAP	Local GAAP
	Years	PMYear	FY19
	Account	Tax Automation Target Account	Current Provision
	Account	Tax Automation Target Account Regional	Regional Current Provision
	Currency	Tax Losses/Credits Currency	Entity Currency

CbCR 親エンティティを設定した後、選択した CbCR 親エンティティに対して次のレポートのデータが移入されます。

- 「CbCR」の「サマリー」：
  - 表 1
  - 表 1 管轄別
  - 表 2
- 「CbCR」の「リスク評価」：
  - 従業員比率
  - 収益率
  - 利益率
  - 支払済所得税比率
  - 未払所得税比率
  - 資産比率
  - 株主資本比率

CbCR エンティティの詳細な設定手順は、[ユーザー変数の設定](#)を参照してください。

## CbC レポートのデータ入力表

「データの入力」の各表は、エンティティに関する財務情報や詳細を入力するために使用されます。

- 「**表 1**」には、個々のエンティティに関する基本レベルの財務データが含まれます。[表 1 のデータ入力の準備](#)を参照してください。
- 「**表 2**」では、研究開発や製造および開発など、エンティティに関連する事業分野を選択する必要があります。エンティティに適合するカテゴリがない場合は、「**表 3**」に入力して、関連する業種を説明する必要があります。[表 2 のデータ入力の準備](#)を参照してください。
- 「**構成エンティティ情報**」では、構成エンティティの国や住所など、エンティティの詳細を入力します。[構成エンティティ情報の準備](#)。
- 「**詳細**」に入力するのは「表 2」で「**その他**」を選択した場合のみで、業種に関する自由形式の説明を入力できます。[詳細の入力](#)を参照してください。

Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency	Revenue Related Parties - Entity	Revenue Related Parties	Revenue Unrelated Parties - Entity	Revenue Unrelated Parties	Total Revenue	Profit (Loss) Before Income Tax - Entity	Profit (Loss) Before Income Tax	National Income Tax Paid (on cash basis)	Regional Income Tax Paid (on cash basis)	Total Income Tax Paid (on cash basis)	National Income Tax Accrued (Current Year)	R Inc #
Automated															30135	1006	31141	30885	
															30135	1006	31141	30885	
Adjustment								15432	15432	98765	98765	114197			30135	1006	31141	30885	
Total								15432	15432	98765	98765	114197			30135	1006	31141	30885	

Tax Reporting で国別レポートを作成する方法についてさらに学習するには、次のビデオをご覧ください。

ください:  [Tax Reporting Cloud での国別レポートの作成。](#)

## 表 1 のデータ入力の準備

CbCR 表 1 - データ入力には、基本レベル・エンティティの国別財務詳細の詳しい内訳が表示されます。税務当局は、この情報を使用して移転価格のリスクを評価し、税監査リソースをどのように割り当てるかを決定します。ソース財務システムから自動的に統合できないデータは、Tax Reporting のネイティブ・データ収集機能を使用して手動で収集できます。財務情報をソースまで遡ることができることが重要です。

表 1 レポートでは、自動化されたデータが次の場所からインポートされます。

- **マップ済データ**には、データ・ソース・ディメンションのマップ済データから CbCR 値が格納されます。
- 「**管理対象データ**」は、データ管理からプッシュされます。
- 「**補足データ**」は、現在サポートされていません。
- **データ入力**は手動で入力します。これは、Oracle Smart View for Office を使用して入力できます。

### ノート:

CbCR 表 1 レポートを実行する前に、レポートの特定の列についてデータを自動的にインポートするかどうかや、調整を手動で入力するかどうかを決定できます。財務情報の自動化を制御するには、[CbC レポートの自動入力での作業](#)を参照してください。

CbCR 表 1 の勘定科目(従業員数を除く)ごとに、すべての「収益/費用」列では平均レートを使用して通貨換算を行い、「資産/負債」列では期末レートを使用します。従業員数は換算されません。デフォルトの平均レートまたは期末レート以外のレートを使用するには、[CbCR FX レート・オーバーライド・フォーム](#)を使用して異なるレートを入力します。[CbCR FX オーバーライド・レートの入力](#)を参照してください。

「表 1 のデータ入力」に入力するには:

1. ホーム・ページで、「CbCR」、「データの入力」の順に選択して CbCR 表 1 フォームを開き、エンティティのデータを表示します。

Scenario	Years	Period	Entity	Consideration	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency	Revenue Related Parties - Entry	Revenue Related Parties	Revenue Unrelated Parties - Entry	Revenue Unrelated Parties	Total Revenue	Profit (Loss) Before Income Tax - Entry	Profit (Loss) Before Income Tax	National Income Tax Paid (on cash basis)	Regional Income Tax Paid (on cash basis)	Total Income Tax Paid (on cash basis)	National Income Tax Accrued (Current Year)	R Inc # (Cu
Automated															30135	1006	31141	30885	
Adjustment								15432	15432	98765	98765	114197			30135	1006	31141	30885	
Total								15432	15432	98765	98765	114197			30135	1006	31141	30885	

2. オプション: 必要に応じて視点と通貨を編集します。
3. 「アクション」で、CbCR の連結を選択して、自動化された値を移入します。
4. オプション: 「アクション」で「CbCR の換算」を選択します。
5. 自動入力を確認します。
6. 「調整」に、必要に応じて調整を入力します。
7. 「合計」を確認し、必要に応じてデータを調整します。
8. 調整を行った場合は、「アクション」で、CbCR の連結を選択します。

## CbC レポートの自動入力での作業

CbCR 自動化のルールを設定および追加する方法の詳細は、[Tax Reporting の管理の CbCR 自動化の使用](#)を参照してください。

## CbCR FX オーバーライド・レートの入力

CbCR 表 1 の勘定科目(従業員数を除く)ごとに、すべての「収益/費用」列では平均レートを使用して通貨換算を行い、「資産/負債」列では期末レートを使用します。従業員数は換算されません。デフォルトの平均レートまたは期末レート以外のレートを使用するには、CbCR FX レート・オーバーライド・フォームを使用して異なるレートを入力します。

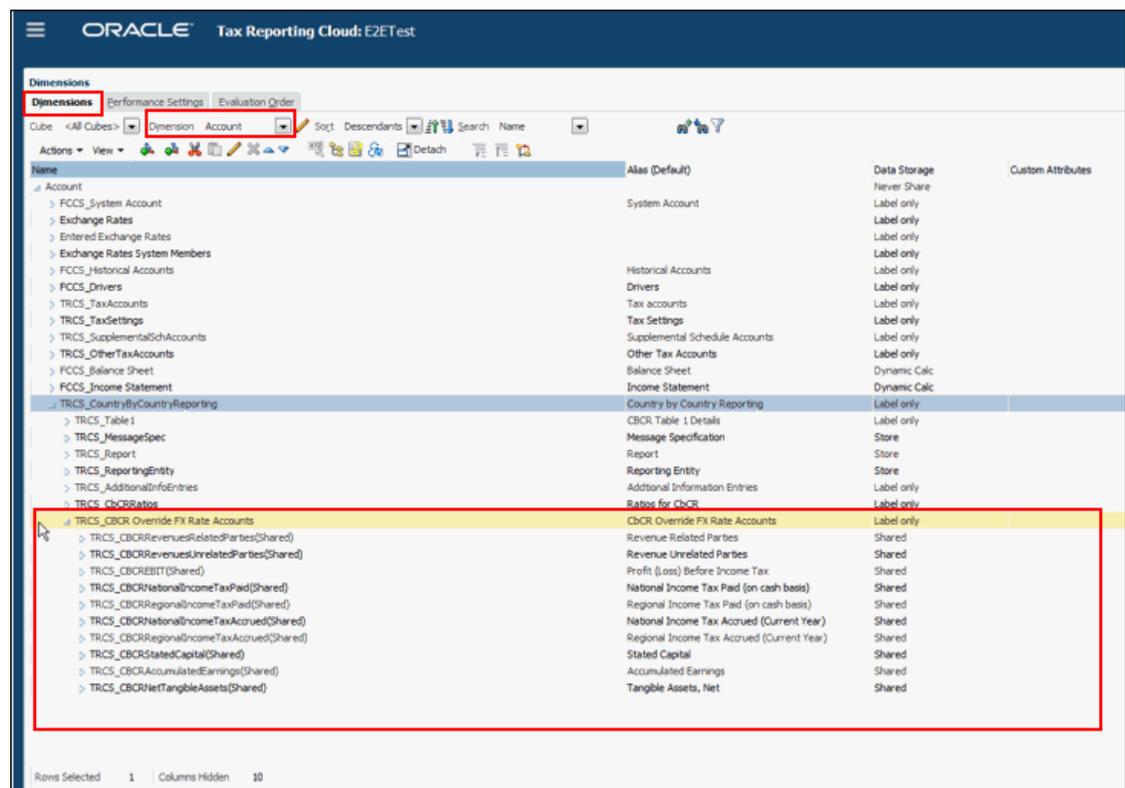
各 CbCR 列のオーバーライド・レートによって、VAL または PVA の換算方法のレートを調整することもできます。デフォルトで、Tax Reporting では、VAL の方法が使用されます。

「ディメンション」で、TRCS\_CBCR Override FX Rate Accounts の下に CbCR 表 1 の勘定科目が「共有」として作成されます。これらの勘定科目は、TRCS\_Table1 の下に指定された勘定科目をミラーリングします。

CbCR キューブを使用すると、換算の平均レートを指定するために、次の階層が自動的に作成されます。

表 18-1 TRCS\_CBCR Override FX Rate Accounts

勘定科目	デフォルト別名
TRCS_CBCRRevenuesRelatedParties(Shared)	収益関連パーティ
TRCS_CBCRRevenuesUnrelatedParties(Shared)	収益非関連パーティ
TRCS_CBCREBIT(Shared)	所得税引前利益(損失) 利息および税引前利益(EBIT)は、利息および所得税を除くすべての費用を含む、企業の利益を測る尺度です。この値は、営業収益と営業費用の差額を表します。EIBT FX オーバーライド・レートは、CbC キューブにのみ入力できます。
TRCS_CBCRNationalIncomeTaxPaid(Shared)	国の支払済所得税(現金主義)
TRCS_CBCRRegionalIncomeTaxPaid(Shared)	地域の支払済所得税(現金主義)
TRCS_CBCRNationalIncomeTaxAccrued(Shared)	国の未払所得税(今年度)
TRCS_CBCRRegionalIncomeTaxAccrued(Shared)	地域の未払所得税(今年度)
TRCS_CBCRStatedCapital(Shared)	資本金
TRCS_CBCRAccumulatedEarnings(Shared)	利益剰余金
TRCS_CBCRNetTangibleAssets(Shared)	有形資産、純



換算レートは、次のレベルで適用できます。

- 勘定科目
- エンティティ

- グローバル仮定

換算レートが使用できない場合、換算は行われません。

 **ノート:**

**所得税引前利益(損失)列(TRCS\_CBCREBIT)**では、勘定科目レベル・レートが適用されない場合、NIBT オーバーライド・レートが適用されます。

CbCR FX オーバーライド・レートを入力するには:

1. ホーム・ページで、「**ライブラリ**」を選択し、「**フォーム**」で、「**税金管理**」を展開して、「**TRCS\_CbCR FX Rates Override**」を選択します。  
画面に、CbCR 表 1 の勘定科目のすべての列(「従業員数」を除く)が表示されます。

2. 「**編集**」をクリックし、使用する POV およびエンティティ通貨を選択します。

TRCS_CbCR FX Rates Override ⓘ				
Scenario	Years	Period	Entity	Currency
Actual	FY16	P12	Operations	USD
			Entity Input	
Revenue Related Parties			1	
Revenue Unrelated Parties			1	
Profit (Loss) Before Income Tax			1	
National Income Tax Paid (on cash basis)			2	
Regional Income Tax Paid (on cash basis)			2	
National Income Tax Accrued (Current Year)			1	
Regional Income Tax Accrued (Current Year)			1	
Stated Capital			2	
Accumulated Earnings			1.5	
Tangible Assets, Net			2	

3. **エンティティ入力**で、選択した勘定科目の CbCR FX オーバーライド・レートを入力し、「**保存**」をクリックします。必要な勘定科目ごとに繰り返します。すべてのレートを入力すると、「**保存**」をクリックできます。

 **ノート:**

「資産/負債」勘定科目にオーバーライド・レートが指定されない場合、期末レートが使用されます。「収益/費用」勘定科目にオーバーライド・レートが指定されない場合、平均レートが使用されます。

4. ホーム・ページで「CbCR」、「データの入力」、「表 1」の順に選択して、「表 1 のデータ入力」フォームを開きます。
5. 「編集」で、レポート通貨を選択します。
6. 「アクション」で、CbCR の換算を選択します。  
次に示すように、CbCR FX オーバーライド・レートを使用して、値が換算されます。
  - CbCR の場合:
    - 勘定科目レベルのオーバーライド・レートが適用されます。
    - 使用できない場合、勘定科目プロパティで設定されている為替レートに基づいたデフォルト・レート(「収益/費用」勘定科目には平均レート、「資産/負債」勘定科目には期末レート(いずれもエンティティ・レベル))が使用されます
    - 使用できない場合、勘定科目プロパティで設定されている為替レートに基づいたデフォルト・レート(「収益/費用」勘定科目には平均レート、「資産/負債」勘定科目には期末レート(いずれもグローバル仮定))が使用されます
    - 使用できない場合、換算は行われません。
  - EBIT 列(TRCS\_CBCREBIT - 所得税引前利益(損失))の場合:
    - 勘定科目レベルのオーバーライド・レートが適用されます。
    - 使用できない場合、NIBT オーバーライド・レートが使用されます
    - 使用できない場合、勘定科目プロパティで設定されている為替レートに基づいたデフォルト・レート(「収益/費用」勘定科目には平均レート、「資産/負債」勘定科目には期末レート(いずれもエンティティ・レベル))が使用されます
    - 使用できない場合、勘定科目プロパティで設定されている為替レートに基づいたデフォルト・レート(「収益/費用」勘定科目には平均レート、「資産/負債」勘定科目には期末レート(いずれもグローバル仮定))が使用されます
    - 使用できない場合、換算は行われません。
7. CbCR の「表 1 のデータ入力」フォームで結果を確認します。

## CbCR 表 1 のカスタマイズ

詳細を追加したり、列をグループ化して、より詳細なレベルでデータを管理することで、CbCR 表 1 をカスタマイズして、組織のレポート機能を強化できます。管轄および地域についてレポートするために列を分割したり、選択した勘定科目の追加詳細を表示するために列を拡張できます。たとえば、合計非関連パーティ収益列では、組織の要件に合わせて、「サード・パーティ収益」、「その他収益」などの項目を作成できます。

CbCR 表 1 の勘定科目ごとに、組織の子勘定科目を追加することで、TRCS\_Table 1 の「合計」表をカスタマイズできます。これは、ディメンション・エディタを使用して追加されます。新しく作成された子を帳簿勘定科目に割り当てる必要があるため、連結を実行すると、割り当てられたメンバーはマップ済データの下に自動的に移入されます。

▲ TRCS_CountryByCountryReporting
▲ TRCS_Table1
▲ TRCS_CBCRTotalRevenue
▶ TRCS_CBCRTotalRevenuesRelatedParties
▲ TRCS_CBCRTotalRevenuesUnrelatedParties
▲ TRCS_CBCRRevenuesUnrelatedParties
▶ OtherIncome
▶ ThirdPartyRevenue

次の親メンバーにのみ子を追加できます。

- TRCS\_CBCRTotalRevenuesRelatedParties
- TRCS\_CBCRTotalRevenuesUnrelatedParties
- TRCS\_CBCRTotalEBIT
- TRCS\_CBCRTotalTax
- TRCS\_CBCRCurrentProvisionTotal
- TRCS\_CBCRTotalStatedCapital
- TRCS\_CBCRTotalAccumulatedEarnings
- TRCS\_CBCRTotalNumberOfEmployees
- TRCS\_CBCRTotalNetTangibleAssets

TRCS 表 1 に対して、次の階層が自動的に作成されます。

表 18-2 TRCS\_Table 1 の合計勘定科目

合計勘定科目	親勘定科目	デフォルト別名
TRCS_CBCRTotalRevenue		収益合計
	TRCS_CBCRTotalRevenuesRelatedParties	収益関連パーティ
	TRCS_CBCRTotalRevenuesUnrelatedParties	収益非関連パーティ
TRCS_CBCRTotalEBIT		所得税引前利益(損失) 利息および税引前利益(EBIT)は、利息および所得税を除くすべての費用を含む、企業の利益を測る尺度です。この値は、営業収益と営業費用の差額を表します。
	TRCS_CBCREBIT	利息および税引前利益(EBIT)
TRCS_CBCRTotalTax		合計支払済所得税(現金主義)
	TRCS_CBCRNationalIncomeTaxPaid	国の支払済所得税(現金主義)
	TRCS_CBCRRegionalIncomeTaxPaid	地域の支払済所得税(現金主義)
TRCS_CBCRCurrentProvisionTotal		合計未払所得税 - 今年度
	TRCS_CBCRNationalIncomeTaxAccrued	国の未払所得税(今年度)
	TRCS_CBCRRegionalIncomeTaxAccrued	地域の未払所得税(今年度)

表 18-2 (続き) TRCS\_Table 1 の合計勘定科目

合計勘定科目	親勘定科目	デフォルト別名
TRCS_CBCRTotalStatedCapital	TRCS_CBCRStatedCapital	資本金 資本金 - エントリ
TRCS_CBCRTotalAccumulatedEarnings	TRCS_CBCRAccumulatedEarnings	利益剰余金 利益剰余金 - エントリ
TRCS_CBCRTotalAccumulatedEarnings	TRCS_CBCRAccumulatedEarnings	利益剰余金 利益剰余金 - エントリ
TRCS_CBCRTotalNumberOfEmployees	TRCS_CBCRNumberOfEmployees	従業員数 従業員数 - エントリ
TRCS_CBCRTotalNetTangibleAssets	TRCS_CBCRNetTangibleAssets	有形資産、純 有形資産、純 - エントリ

CbCR 表 1 用にカスタマイズされた勘定科目を追加するには:

1. ホーム・ページで、「ナビゲータ」をクリックします。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」を選択します。
3. 「TRCS\_CountryByCountryReporting」で、「TRCS\_Table1」を展開します。
4. 子を追加する合計親メンバーを選択し、「子の追加」をクリックします。
5. 「メンバーのプロパティ」タブで、新規メンバーの「名前」および「別名」を入力し、デフォルト・プロパティを設定して、「保存」をクリックします。  
親メンバーに子を追加すると、子メンバーも自動的に次の場所に追加されます。
  - 「表 1 のデータ入力」フォームなど、すべての CbCR 税金自動化フォーム。
  - TRCS\_CbCR オーバーライド・レート勘定科目の下(共有メンバーとして)。これにより、ユーザーは、TRCS\_CbCR FX Rates Override フォームで FX オーバーライド・レートを直接入力できます。詳細は、[CbCR FX オーバーライド・レートの入力](#)を参照してください。
  - 作成された新規メンバーと同じ名前のカスタム属性。これにより、新規メンバーをマップして帳簿データを取り込むことができます。たとえば、TRCS\_TotalEBIT の下に EBIT1 メンバーが追加されると、ソース帳簿勘定科目に列をマップできるように、EBIT1 という名前の新しいカスタム属性メンバーが CbCR カスタム属性の親の下に作成されます。
6. CbCR の「表 1 のデータ入力」フォームで、追加された列を確認します。

Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency									
Actual	FY15	P12	Montreal(CAD)	Entity Total	Canada	Local GAAP	Entity	Currency								
Automated																
Adjustment																
Total																

## 表 2 のデータ入力の準備

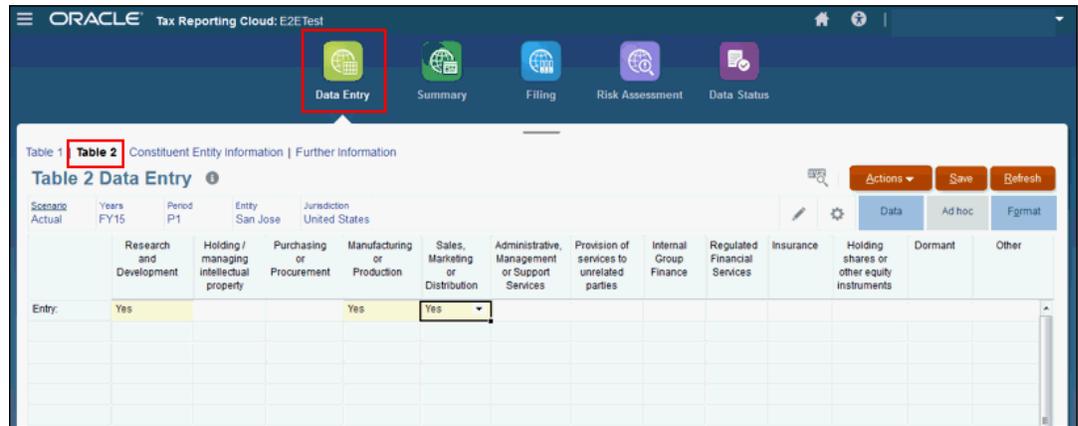
表 2 レポートでは、エンティティに関連するビジネス・アクティビティを指定します。複数のビジネス・アクティビティが該当する場合があります。

次のアクティビティを使用できます。

- 研究開発
- 知的財産の保有/管理
- 購買または調達
- 製造または生産。
- セールス、マーケティングまたは販売
- 管理、運用またはサポート・サービス
- 非関連パーティへのサービスの提供
- 内部グループ財務
- 規制金融サービス。
- 保険
- 株式またはその他の持分金融商品の保有
- 休眠
- その他

「表 2 のデータ入力」レポートに入力するには:

1. ホーム・ページで、「CbCR」、「データの入力」の順に選択します。
2. 「表 2」を選択します。



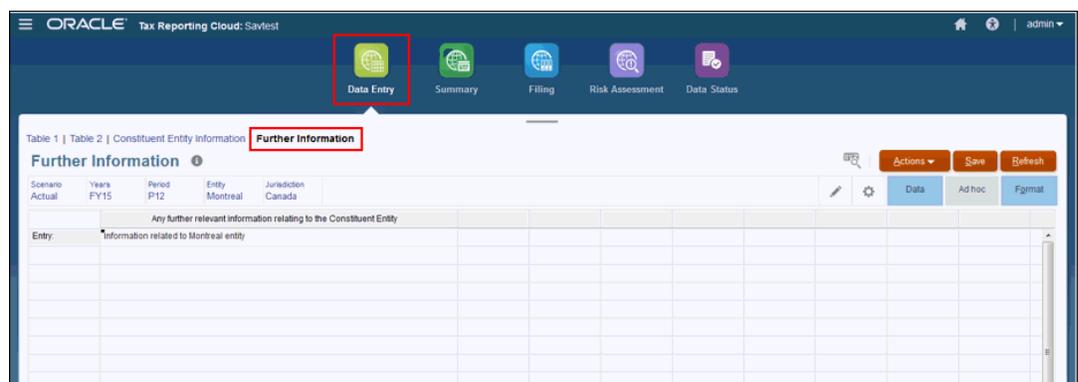
3. **オプション:** 必要に応じて視点を編集します。
4. 関連するアクティビティで、該当するすべてのアクティビティについてドロップダウンから「はい」を選択します。
5. エンティティに適用されるアクティビティがない場合、「その他」を選択し、「詳細」を入力します。詳細の入力を参照してください。
6. 「保存」をクリックします。

## 詳細の入力

表 2 にリストされたエンティティに対して適切なビジネス・アクティビティがない場合にのみ「詳細」を入力する必要があります。詳細レポートでは、選択したエンティティのビジネス・アクティビティに関する説明またはその他の関連情報を自由形式で入力できます。

詳細レポートを完成させるには:

1. ホーム・ページで、「CbCR」、「データの入力」の順に選択します。
2. 「詳細」を選択します。



3. **オプション:** 必要に応じて視点を編集します。
4. 「構成エンティティに関連する詳細情報」で、エントリの行をクリックし、選択したエンティティに適用される関連情報または追加詳細の自由形式の説明を入力します。
5. 「保存」をクリックします。

## 構成エンティティ情報の準備

「構成エンティティ情報」では、送信するレポートの構成エンティティの名前や住所に関する詳細情報を入力します。

「構成エンティティ情報」レポートを準備するには:

1. ホーム・ページで、「CbCR」、「データの入力」の順にクリックします。
2. 「構成エンティティ情報」を選択します。

Constituent Entity Information ⓘ								
Scenario Actual	Years FY21	Period P1	Entity San Jose(USD)	Jurisdiction United States				
				Entry 1:	Entry 2:	Entry 3:	Entry 4:	Entry 5:
Country Code/Tax Jurisdiction								
TIN Code								
TIN Issued By								
IN Code								
IN Issued By								
Full legal name of the Constituent entity								
Address Type								
Country Code								
Street								
Building Identifier								
Suite Identifier								
Floor Identifier								
District Name								
POB								
Post Code								
City								
Country Subentity								
Role								
Incorp Country code								

3. レポートの POV を選択します。
4. **国コード/税管轄**で、選択した構成エンティティに関連付けられた税管轄の国コードを選択します。
5. **TIN コード**に、納税者番号(TIN)を入力します。
6. **TIN 発行元**で、TIN を発行した国または管轄の名前を選択します。
7. **IN コード**に、IN コード(エンティティまたは組織識別番号)を入力します。  
このデータ要素は、会社登録番号やグローバル法人識別番号(EIN)など、使用可能な他の IN がある場合に入力(および繰返し)できます。
8. **IN 発行元**で、IN を発行した国または管轄の名前を選択します。
9. **構成エンティティの完全な登録名**に、会社設立の定款に記載されているとおりの構成エンティティの完全な登録名を入力します。
10. **住所タイプ**で、ドロップダウン・リストからタイプを選択します。
  - 住居またはビジネス
  - 住居
  - ビジネス
  - 登録済オフィス
  - 未指定

11. 「**国コード**」で、選択したエンティティの事業所住所に関連する国コードを選択します。
12. **番地**に、詳細な番地を入力します。
13. **オプション: 建物識別子**に、建物の名前を入力します。
14. **オプション: スイート識別子**に、スイート番号を入力します。
15. **オプション: フロア識別子**に、オフィスの階数を入力します。
16. **オプション: 区域名**に、区域の名前を入力します(該当する場合)。
17. **オプション: POB**に、私書箱番号を入力します(該当する場合)。
18. **オプション: 郵便番号**に、関連する郵便番号を入力します(該当する場合)。
19. **市区町村**に、市区町村の名前を入力します。
20. **国サブエンティティ**に、都道府県、郡、州など、関連する国サブエンティティの名前を入力します。
21. 「**役割**」で、ドロップダウン・リストから役割を選択します。
  - 最終親エンティティ
  - レポート・エンティティ
  - 両方(最終親エンティティおよびレポート・エンティティ)
22. **設立国コード**で、MNE グループの構成エンティティの創立または設立の基になった法律を定めた、税管轄の国コードを選択します(税管轄が構成エンティティの所在地の税管轄と異なる場合)。
23. 「**保存**」をクリックします。

## CbC レポートのサマリー

次の「サマリー」画面には、すでに入力されているデータの様々なビューが表示され、ビューを変更することはできません。

- 「**表 1**」には、企業または国エンティティに関する企業レベルの財務データが含まれます。[表 1 のサマリーの生成](#)を参照してください。
- **表 1 管轄別詳細**には、企業エンティティとともに各管轄の財務データが含まれます。[表 1 管轄別詳細のサマリーの準備](#)を参照してください。
- **表 2** - 「研究開発」や製造および開発など、エンティティに関連する事業分野を選択します。

### 表 1 のサマリーの生成

CbCR 表 1 - サマリーには、企業レベル・エンティティの国別財務詳細の詳しい内訳が表示されます。

表 1 のデータは、グループのレポート通貨でレポートする必要があります。

表 1 のサマリーに入力するには:

1. ホーム・ページで、「**CbCR**」、「**サマリー**」の順に選択して CbCR 表 1 サマリー・フォームを開き、企業レベル・エンティティのデータを表示します。

The screenshot shows the Oracle Tax Reporting Cloud: TRCS interface. The 'Summary' tab is selected and highlighted with a red box. Below the navigation bar, 'Table 1 by Jurisdiction | Table 2' is displayed. The table header includes columns for Scenario (Actual), Years (FY16), Period (P12), Multi-GAAP (Multi-GAAP), Currency (Parent Currency), and various financial metrics: Revenue (Related Parties, Unrelated Parties, Related Parties - Entry, Unrelated Parties - Entry), Total Revenue, Profit (Loss) Before Income Tax - Entry, National Income Tax Paid (on cash basis), Regional Income Tax Paid (on cash basis), Total Income Tax Paid (on cash basis), National Income Tax Accrued (Current Year), Regional Income Tax Accrued (Current Year), and Total Income Tax Accrued - Current Year. The 'United States' row is highlighted with a red box.

2. **オプション:** 必要に応じて視点と通貨を編集します。
3. 「アクション」で、**CbCR の連結**を選択して、自動化された値を移入します。
4. 「合計」を確認し、必要に応じてデータを調整します。
5. 「アクション」で、**CbCR の換算**を選択して表 1 のデータをグループのレポート通貨に換算します。

## 表 1 管轄別詳細のサマリーの準備

表 1 管轄別詳細レポートには、選択した視点での管轄およびエンティティ別のサマリー結果が表示されます。管轄は、企業レベルの合計に集約されます。

このデータは、ナビゲータの「ディメンション」で帳簿および税金勘定科目に CbCR 属性値を割り当てることによって自動的に移入できます。

表 1 管轄別詳細レポートは、グループのレポート通貨でレポートする必要があります。

表 1 管轄別詳細を確認するには:

1. ホーム・ページで、「CbCR」、「サマリー」の順に選択します。

The screenshot shows the Oracle Tax Reporting Cloud: TRCS interface. The 'Summary' menu item is highlighted with a red box. Below it, the 'Table 1 by Jurisdiction' report is displayed. The report title 'Table 1 by Jurisdiction' is also highlighted with a red box. The report shows financial data for various jurisdictions, including the United States, United Kingdom, and Canada. The data is organized into columns for Revenue (Related and Unrelated Parties), Total Revenue, Profit (Loss) Before Income Tax, and National Income Tax Paid. The report is filtered for Scenario Actual, Years FY16, Period P12, Multi-GAAP, and Currency USD.

Scenario	Years	Period	Multi-GAAP	Currency	Revenue Related Parties	Revenue Unrelated Parties	Revenue Related Parties - Entry	Revenue Unrelated Parties - Entry	Total Revenue	Profit (Loss) Before Income Tax - Entry	National Income Tax Paid (on cash basis)	Re Inco Paid (on cash basis)
Actual	FY16	P12	Multi-GAAP	USD								
United States	Operations(USD,USD)						24,170	185,727,373	185,751,543	30,124,550	9,582,577	
	Distribution(USD,USD)						12,479	6,992,631	7,005,110	4,003,705	1,416,206	
	Vision MRC(USD,USD)						22,500	11,279,250	11,301,750	5,490,900	2,990,557	
	Education Ltd(USD,USD)						721,147	361,200,973	361,922,120	280,416,780	98,977,358	
	Vision Consulting(USD)						366	93,603	93,969	(650,558)	(225,984)	
	Vision Construction(USD,USD)						3,076	785,905	788,981	(5,462,174)	(1,896,488)	
	Vision Leasing(USD,USD)						358,044	91,484,760	91,842,804	74,591,655	26,284,872	
	Operations Elimination(USD,USD)						2,318,002	10,161,252	12,479,254	3,736,545	1,491,092	
	Corporation (Vision Consolidation)(USD,USD)						4,838	1,236,280	1,241,118	427,237	159,482	
	Operations(USD,USD)						24,170	185,727,373	185,751,543	30,124,550	9,582,577	
	Distribution(USD,USD)						12,479	6,992,631	7,005,110	4,003,705	1,416,206	
	Vision MRC(USD,USD)						22,500	11,279,250	11,301,750	5,490,900	2,990,557	
	Education Ltd(USD,USD)						721,147	361,200,973	361,922,120	280,416,780	98,977,358	
	Vision Construction(USD,USD)						3,076	785,905	788,981	(5,462,174)	(1,896,488)	
	Vision Leasing(USD,USD)						358,044	91,484,760	91,842,804	74,591,655	26,284,872	
	Operations Elimination(USD,USD)						2,318,002	10,161,252	12,479,254	3,736,545	1,491,092	
	Corporation (Vision Consolidation)(USD,USD)						4,838	1,236,280	1,241,118	427,237	159,482	
	Operations(USD,USD)						24,170	185,727,373	185,751,543	30,124,550	9,582,577	
	Distribution(USD,USD)						12,479	6,992,631	7,005,110	4,003,705	1,416,206	
	Vision MRC(USD,USD)						22,500	11,279,250	11,301,750	5,490,900	2,990,557	
United Kingdom	Vision UK(EUR,GBP)						208,412	116,779,793	116,988,205	67,134,156	10,957,529	
	Vision UK(USD,GBP)						208,412	116,779,793	116,988,205	67,134,156	10,957,529	
Canada	Vision Canada(USD,CAD)											

2. 表 1 管轄別詳細を選択します。
3. オプション: 必要に応じて視点を編集します。
4. 「アクション」で、CbCR の連結を選択して詳細サマリーを更新します。
5. 必要に応じて CbCR の連結を実行します。
6. 「アクション」で、CbCR の換算を選択して表 1 のデータをグループのレポート通貨に換算します。

## 表 2 のサマリーの準備

表 2 レポートでは、国または企業レベルに関連するビジネス・アクティビティを指定します。複数のビジネス・アクティビティが該当する場合があります。

次のアクティビティを使用できます。

- 研究開発
- 知的財産の保有/管理
- 購買または調達
- 製造または生産
- セールス、マーケティングまたは販売
- 管理、運用またはサポート・サービス

- 非関連パーティへのサービスの提供
- 内部グループ財務。
- 規制金融サービス。
- 保険
- 株式またはその他の持分金融商品の保有
- 休眠
- その他

「表 2 のサマリー」レポートに入力するには:

1. ホーム・ページで、「CbCR」、「サマリー」の順に選択します。
2. 「表 2」を選択します。

The screenshot shows the Oracle Tax Reporting Cloud interface. The 'Summary' menu item is highlighted with a red box. Below it, the 'Table 2' header is also highlighted with a red box. The table displays various activities and their status for different jurisdictions.

Scenario	Years	Period	Research and Development	Holding/ managing intellectual property	Purchasing or Procurement	Manufacturing or Production	Sales, Marketing or Distribution	Administrative, Management or Support Services	Provision of services to unrelated parties	Internal Group Finance	Regulated Financial Services	Insurance
United States	Actual	FY16	P12	Yes		Yes						
					Yes	Yes						
						Yes						
								Yes				
									Yes			
				Yes								
				Yes	Yes			Yes				
				Yes	Yes	Yes						
					Yes	Yes						
				Yes					Yes			
				Yes	Yes							
				Yes	Yes	Yes		Yes				
				Yes	Yes	Yes	Yes					
				Yes	Yes	Yes	Yes					
						Yes						

3. **オプション:** 必要に応じて視点を編集します。
4. 関連するアクティビティで、該当するすべてのアクティビティについてドロップダウンから「はい」を選択します。
5. 「保存」をクリックします。

## CbC レポートの提出

エンティティ全体およびエンティティが事業を行っている各税管轄について国別(CbC)レポートの年次レポートを提出する必要があります。このレポートによって、各地の税務当局は、収益、利益、支払済と未払の税金、雇用、資本、利益剰余金、有形資産およびアクティビティを確認できます。

「ファイリング」の各タブには、基本エンティティ・レベルでは収集されない、XML ファイルに挿入する必要があるすべての追加情報が用意されています。国別の「ファイリング」の各タブにより、ドキュメント ID、管轄、詳細な連絡先や住所など、レポートを提出する際に財務情報とは別に必要となるすべての情報を確実に入力して、送信内容や元のレポートに加えた変更内容を追跡できます。

次の項を参照して、レポートを検証および送信できるように準備してください。

- [メッセージ仕様の準備](#)
- [レポート・エンティティ情報の準備](#)
- [管轄ドキュメント仕様の準備](#)
- [提出のための表 3 の準備](#)

## メッセージ仕様の準備

「メッセージ仕様」はメッセージの送信者と受信者を指定するために使用され、ここでは、情報の対象となる期間やレポートのステータス(オリジナル、修正、補足データなど)を含む、送信されるメッセージの詳細を入力します。

メッセージ仕様を準備するには:

1. ホーム・ページで、「CbCR」、「ファイリング」の順にクリックします。
2. 「メッセージ仕様」を選択します。

Scenario	Years	Period	Entry	Entry 2	Entry 3	Entry 4	Entry 5	Entry 6
Actual	FY15	P12	SendingIN12DEMO					
Sending Entity Identification Number			Bahamas					
Transmitting Country			Azerbaijan					
Receiving Country			CBC					
Message Type			No Warning					
Language			Mr. C. Smith, Mgr Tax, Bay Street, Nassau, Bahamas					
Free text expressing the restrictions for use of the information			MessageID1230					
Contact info about persons responsible/involved in the processing of the data			The message contains new information					
Sender's unique identifier for this message			CorrMessageRetID123					
Type of message sent			S/B/18					
Sender's unique identifier that has to be corrected.								
Reporting Period								

3. レポートの POV を選択します。
4. **送信エンティティ 識別番号**に、送信エンティティの識別番号を入力します。
5. **送信国**で、レポートの送信元の国または管轄の名前を選択します。選択できる国は 1 つのみです。
6. **受信国**で、レポートの送信先の受信国または管轄の名前を選択します。レポートに記載されている、エンティティが存在する各管轄を選択する必要があります。

 ノート:

10 を超える国を入力する必要がある場合は、必要な数にあわせてメタデータを更新する必要があります。

7. 「メッセージ・タイプ」で、使用可能な唯一のタイプとして「CBC」を選択します。
8. 「言語」で、レポートの準備に使用された言語を選択します。言語は、送信管轄の現地の法律によって決まります。
9. オプション: 「情報の使用に関する制限を表すフリーテキスト」に、レポートの作成やコンテンツに関する状況を明らかにするために適用できる自由形式の警告や考慮事項を入力します。
10. 「データの処理に関与/関係する者の連絡先」に、地域の税務当局からレポートに関する質問があった場合に備えて、メッセージの送信者の完全な連絡先情報を入力します。
11. 「このメッセージの送信者の一意の ID」に、送信者によって作成されたレポートの一意の ID を入力します。
12. 「送信されるメッセージのタイプ」で、ドロップダウン・リストから該当するテキストを選択します。
  - メッセージには新しい情報が含まれている。
  - メッセージには以前送信した情報の修正が含まれている。
13. オプション: 「修正の必要のある送信者の一意の識別子」に、修正メッセージ参照 ID を入力します。

 ノート:

ドキュメント参照 ID はスペースおよび時間で一意であるため、この要素はドキュメント仕様レベルでは CbC レポートに使用されません。

14. 「レポート期間」に、レポート期間(会計年度など)の最終日を入力します。各自のロケールのフォーマットで日付を入力できますが、XML ファイルの作成時に日付が必要な日付フォーマット(YYYY-MM-DD)に自動的に変換されます

 ノート:

レポート期間の長さが完全な 12 か月間でない場合は、「警告」にコメントを入力して、その理由を説明してください。

15. 「保存」をクリックします。
16. 「アクション」で「ビジネス・ルール」を選択し、次の両方のビジネス・ルールを実行します。
  - Consolidate\_CbCR
  - Translate\_CbCR

## レポート・エンティティ情報の準備

「レポート・エンティティ情報」では、送信するレポートのレポート・エンティティの名前や住所に関する詳細情報を入力します。

レポート・エンティティ情報を準備するには:

1. ホーム・ページで、「CbCR」、「ファイリング」の順にクリックします。
2. 「レポート・エンティティ情報」を選択します。

### Reporting Entity Information ⓘ

Scenario	Years	Period								
Actual	FY21	P1	Entry 1	Entry 2	Entry 3	Entry 4	Entry 5	Entry 6	Entry 7	Entry 8
IN Issued By										
Full legal name of the Constituent entity										
Address Type										
Country Code										
Street										
Building Identifier										
Suite Identifier										
Floor Identifier										
District Name										
POB										
Post Code										
City										
Country Subentity										
Name of the MNE Group										
Reporting Role										
Reporting Period - Start Date										
Reporting Period - End Date										
This element specifies the type of data being submitted										
Sender's unique identifier of this document										
Sender's unique identifier that has to be corrected.										
Reference id of the document referred to if this is correction										

3. レポートの POV を選択します。
4. 「国コード」/税管轄 で、選択したレポート・エンティティに関連付けられた税管轄の国コードを選択します。
5. TIN コード に、納税者番号(TIN)を入力します。
6. TIN 発行元 で、TIN を発行した国または管轄の名前を選択します。
7. IN コード に、IN コード(エンティティまたは組織識別番号)を入力します。  
このデータ要素は、会社登録番号やグローバル法人識別番号(EIN)など、使用可能な他の IN がある場合に入力(および繰返し)できます。
8. IN 発行元 で、IN を発行した国または管轄の名前を選択します。
9. 構成エンティティの完全な登録名 に、会社設立の定款に記載されているとおりの構成エンティティの完全な登録名を入力します。
10. 住所タイプ で、ドロップダウン・リストからタイプを選択します。
  - 住居またはビジネス
  - 住居
  - ビジネス
  - 登録済オフィス
  - 未指定
11. 「国コード」 で、選択したエンティティの事業所住所に関連する国コードを選択します。

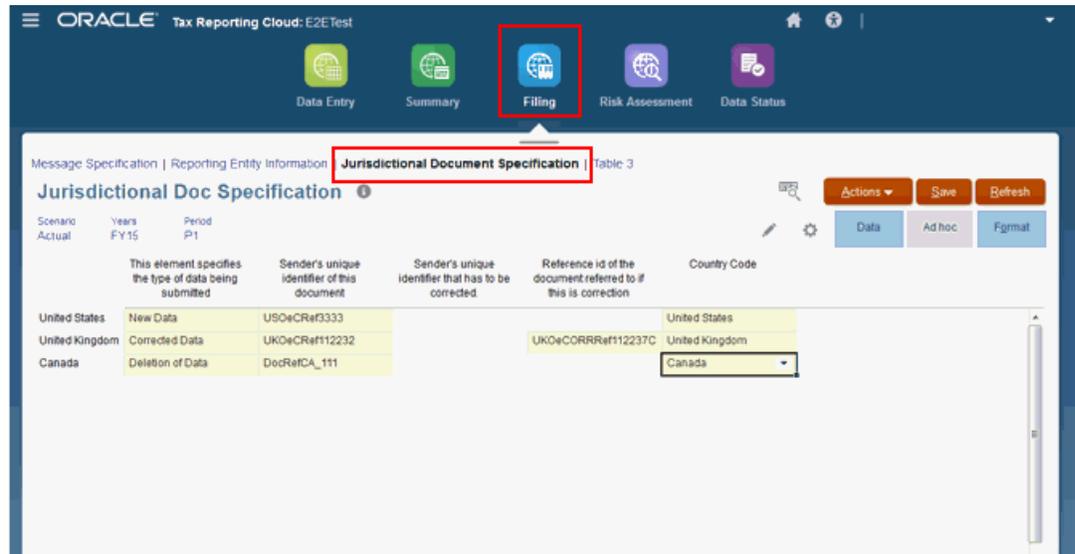
12. **番地**に、詳細な番地を入力します。
13. **オプション: 建物識別子**に、建物の名前を入力します。
14. **オプション: 스위트識別子**に、スイート番号を入力します。
15. **オプション: フロア識別子**に、オフィスの階数を入力します。
16. **オプション: 区域名**に、区域の名前を入力します(該当する場合)。
17. **オプション: POB**に、私書箱番号を入力します(該当する場合)。
18. **オプション: 郵便番号**に、関連する郵便番号を入力します(該当する場合)。
19. **市区町村**に、市区町村の名前を入力します。
20. **国サブエンティティ**に、都道府県、郡、州など、関連する国サブエンティティの名前を入力します。
21. **「MNE グループの名前」**で、多国籍企業(MNE)グループの名前を入力します。フリーハンドのテキスト・フィールドであるため、ここでは自由に入力できます。
22. **レポート役割**で、ドロップダウン・リストからレポート役割を選択します。
  - 最終親エンティティ
  - 代理親エンティティ
  - 外国為替の枠組みにおけるローカル・ファイリング
  - 不完全な情報によるローカル・ファイリング
23. **「レポート期間 - 開始日」**で、レポート期間の開始日を入力します。
24. **「レポート期間 - 終了日」**で、レポート期間の終了日を入力します。
25. **「送信されるデータのタイプをこの要素で指定」**に、送信されるデータのタイプの説明を入力します。
26. **「このドキュメントの送信者の一意の識別子」**に、ドキュメントの識別子を入力します。
27. **「修正の必要のある送信者の一意の識別子」**に、修正メッセージ参照 ID を入力します。
28. **「これが修正の場合に参照されるドキュメントの参照 ID」**に、選択したレポートに対して作成された一意の ID を入力します。
29. **「保存」**をクリックします。

## 管轄ドキュメント仕様の準備

「管轄ドキュメント仕様」では、送信される CbC メッセージ内の特定のレポートを識別します。これにより、修正を必要とするレポートを識別できます。

管轄ドキュメント仕様を準備するには:

1. ホーム・ページで、「CbCR」、「ファイリング」の順にクリックします。
2. 「管轄ドキュメント仕様」を選択します。



3. レポートの POV を選択します。
4. 影響を受ける管轄ごとに「送信されるデータのタイプをこの要素で指定」で、レポートに含む情報のタイプを選択します。
  - 再送信データ(CbC XML スキーマでは使用されない)
  - 新規データ
  - 修正済データ
  - データの削除
  - 再送信テスト・データ(CbC XML スキーマでは使用されない)
  - 新規テスト・データ
  - 修正済テスト・データ
  - テスト・データの削除
5. 「このドキュメントの送信者の一意の識別子」で、選択したレポートに対して作成された一意の ID を入力します。
6. オプション: 「このドキュメントの送信者の一意の識別子」に、修正メッセージ参照 ID を入力します。
7. オプション: 「修正の必要のある送信者の一意の識別子」で、修正したレポートの送信者の一意の ID を作成します。
8. 「これが修正の場合に参照されるドキュメントの参照 ID」で、修正したレポートに対して一意の ID を作成します。
9. 「国コード」で、選択した構成エンティティに関連する国を選択します。
10. 「保存」をクリックします。

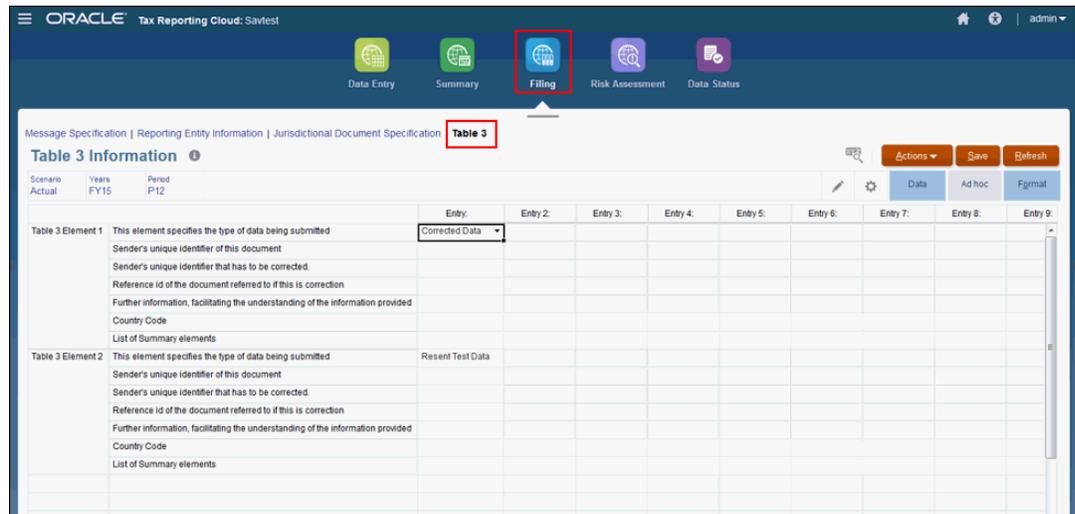
## 提出のための表 3 の準備

「ファイリング」の表 3 画面は、レポート用に整理される、各提出の詳細の入力に使用されません。たとえば、テスト・データや修正として送信内容を指定できます。レポートを送信または

再送信するたびに、正しいデータが正しい理由について評価されるように適切な詳細を追加します。

表 3 に入力するには:

1. ホーム・ページで、「CbCR」、「ファイリング」の順にクリックします。
2. 「表 3」を選択します。



3. レポートの POV を選択します。
4. **表 3 要素**(要素 1、要素 2 など)ごとに、次のフィールドに情報を入力します。
  - 「**送信されるデータのタイプをこの要素で指定**」で、このバージョンのレポートに含む情報のタイプを選択します。
    - 再送信データ(CbC XML スキーマでは使用されない)
    - 新規データ
    - 修正済データ
    - データの削除
    - 再送信テスト・データ(CbC XML スキーマでは使用されない)
    - 新規テスト・データ
    - 修正済テスト・データ
    - テスト・データの削除
  - 「**このドキュメントの送信者の一意の識別子**」で、このバージョンのレポートに対して作成された一意の ID を入力します。
  - 「**修正の必要のある送信者の一意の識別子**」で、修正メッセージ参照 ID を入力します。
  - **オプション:** 「**これが修正の場合に参照されるドキュメントの参照 ID**」に、修正されたレポートに対して作成された一意の ID を入力します。
  - 「**指定された情報の理解に役立つ詳細情報**」に、このバージョンのレポートに適切な詳細を入力します。たとえば、これが別の修正であることや、特定のフィールドに調整が加えられたことを示すノートを入力できます。
  - 「**国コード**」で、このレポートが適用される国を選択します。

- 「サマリー要素のリスト」で、強調表示する情報のタイプを選択します。
  - 収益 - 非関連
  - 収益 - 関連
  - 収益 - 合計
  - 利益または損失
  - 支払済税金
  - 未払税金
  - 資本
  - 利益
  - 従業員数
  - 資産

5. 「保存」をクリックします。

## CbCR リスク評価ダッシュボード

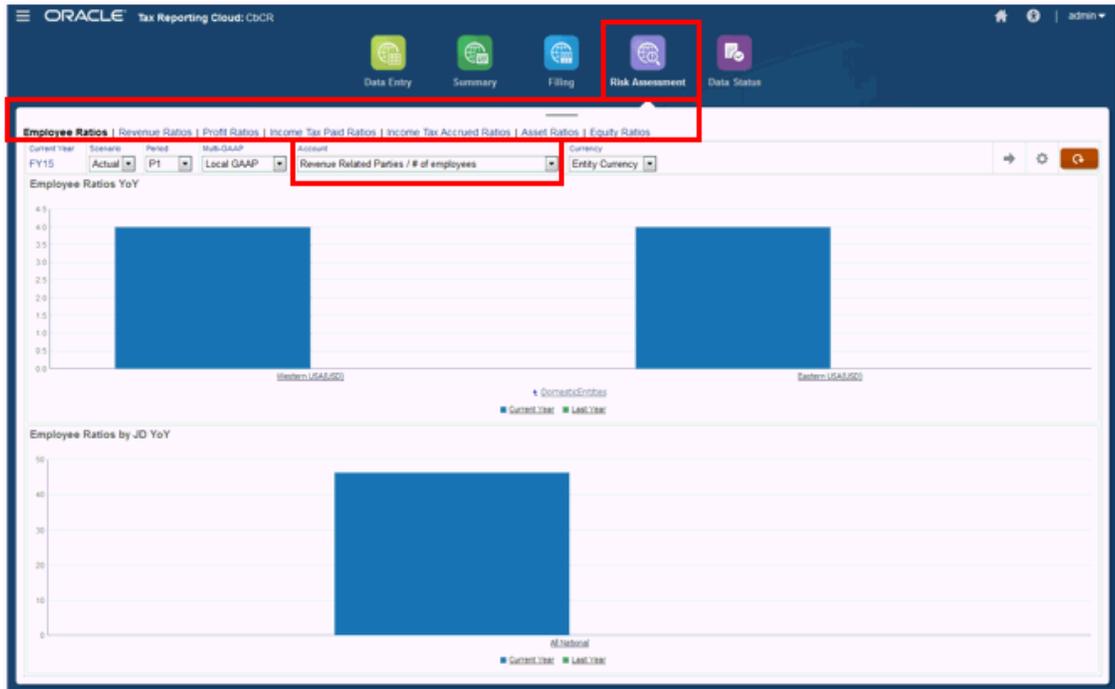
### 関連トピック:

- [リスク評価ダッシュボードの使用](#)
- [リスク評価比率の確認](#)
- [使用可能なリスク評価比率](#)

## リスク評価ダッシュボードの使用

リスク評価ダッシュボードでは、CbCR キューブの CbCR 表 1 データ入力で取得されたすべての財務データと財務以外のデータの分析が提供されます。

ダッシュボードを確認すると、事業会社から報告されたデータを把握できます。一般的な情報については、ダッシュボードにマウス・カーソルを合せます。予期しないデータのスパイクや破損に気付いて、結果の詳細を表示する場合、ライブラリからフォームを選択し、関連付けられたフォームでドリルダウンして元のデータを調べると、潜在的に監査フラグを識別したり、税務当局からの質問を予測できます。



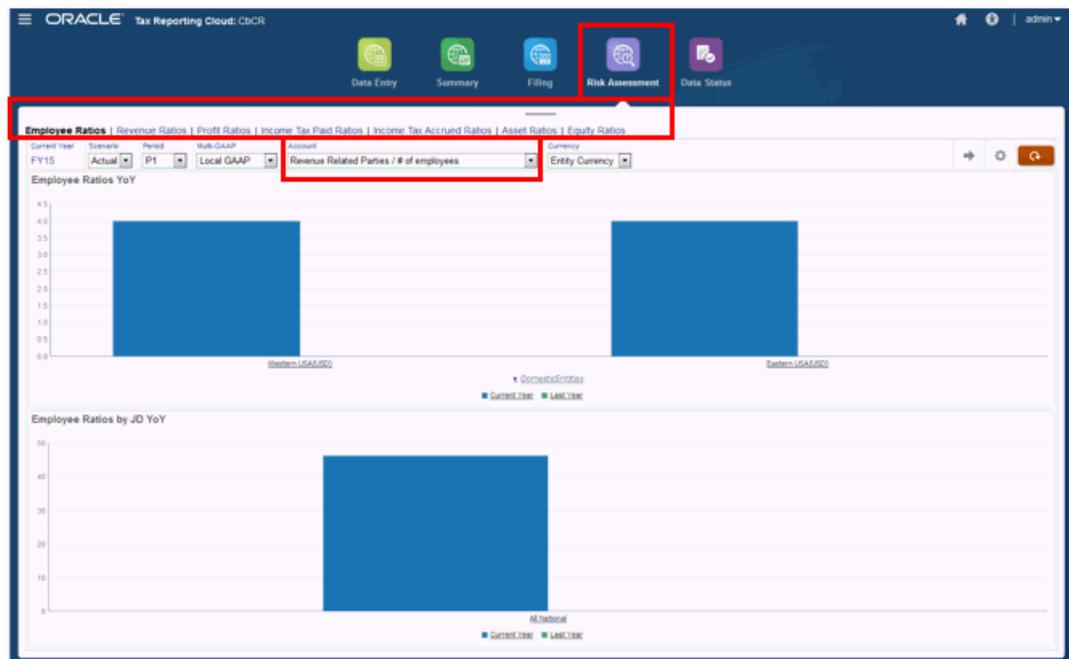
「表 1 のデータ入力」フォームから比率の値が取得されます。値を表示するには、「表 1 のデータ入力」を開き、選択した比率(たとえば収益関連パーティと「従業員数」)の「合計」行および列の見出しを選択します。

Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency	Entity Currency	Revenue Related Parties	Revenue Unrelated Parties	Total Revenue	Profit (Loss) Before Income Tax	Total Income Tax Paid (on cash basis)	Total Income Tax Accrued - Current Year	Stated Capital	Accumulated Earnings	Number of Employees
Automated	Actual	FY15	Total Geography(USD)	Entity Total	United States	Local GAAP	Entity Currency		189000		189000		3400	-3600	210000	-190030	27010
									189000		189000		3400	-3600	210000	-190030	27010
Adjustment									16200	18100	34300	20080	-7950	-1320	25000	18300	1500
Total									205200	18100	223300	20080	-4550	-4920	235000	-171730	28510

## リスク評価比率の確認

比率ダッシュボードを確認するには:

1. ホーム・ページで「CbCR」、「リスク評価」の順にクリックします。
2. 「現在の年」、「シナリオ」、「期間」、「複数 GAAP」、「通貨」などの POV を選択します。
3. 「リスク評価」から、確認する比率ダッシュボードのタブを選択します。
  - 従業員比率
  - 収益率
  - 利益(または損失)比率
  - 支払済所得税比率
  - 未払所得税比率
  - 資産比率
  - 株主資本比率



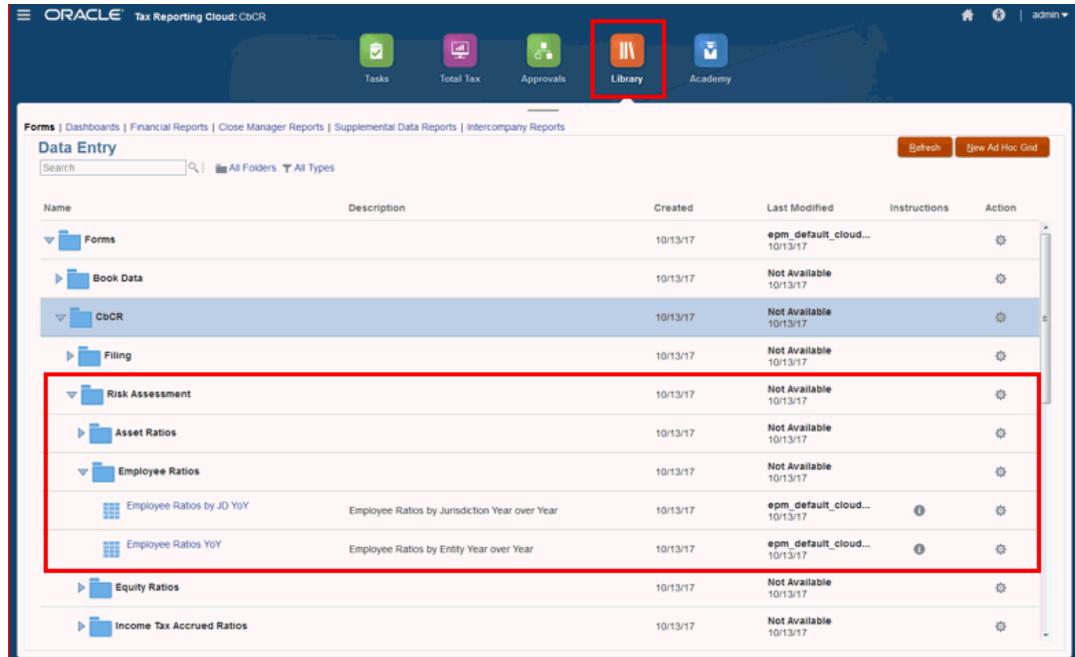
4. 選択した比率ダッシュボードの「勘定科目」で、確認する比率(収益関連パーティ / 従業員数など)を選択します。  
比率の計算により、比率の最初の値が 2 番目の値で除算されます。

たとえば、**収益関連パーティ / 従業員数**の比率を生成するには、「表 1 のデータ入力」の収益関連パーティの合計を「表 1 のデータ入力」の「従業員数」で割ります。

使用可能な比率の完全なリストは、[使用可能なリスク評価比率](#)を参照してください。

5. 「実行」  をクリックしてダッシュボードを生成します。

6. 異常、ピークまたは破損がないかどうか、ダッシュボードを確認します。
7. 結果の詳細を表示する場合は、ホーム・ページで「ライブラリ」をクリックし、「フォーム」タブをクリックします。
8. 「フォーム」で、「CbCR」、「リスク評価」の順に選択します。



9. 表示する比率のフォーム(「資産比率」や「従業員比率」など)を展開し、調べるフォームを選択します。
  - 管轄別比率 YoY (管轄、前年同期比)
  - 比率 YoY (前年同期比)

Current Year	Scenario	Period	Multi-GAAP	Account	Currency	Entity	
FY15	Actual	P12	Local GAAP	Revenue Related Parties / # of employees	Entity Currency		
			United States of America(USD)	Total Canada(CAD)	Total UK(GBP)	Rest of The World(USD)	Total Geography(USD)
Current Year			7.197474570329	0.178839211330	4.545454545454	0.140759825424	1.837723626609
Last Year							

10. 「アクション」で、CbCR の連結を選択し、地域合計に連結します。

11. レポートの図を確認します。

Current Year	Scenario	Period	Multi-GAAP	Account	Currency
FY15	Actual	P12	Local GAAP	Revenue Related Parties / # of employees	Entity Currency
Total Geography(USD)					
Current Year					
Last Year					

## 使用可能なリスク評価比率

ダッシュボードごとに、選択した POV の比率カテゴリを含む勘定科目を選択できます。次のダッシュボードごとに、一連のリスク評価比率の選択肢が用意されています。

- 従業員比率
- 収益率
- 利益(または損失)比率
- 支払済所得税比率
- 未払所得税比率
- 資産比率
- 株主資本比率

### 従業員比率

適切な勘定科目/比率を選択します。

- 収益関連パーティ / 従業員数
- 収益非関連パーティ / 従業員数
- 収益合計 / 従業員数
- 所得税引前利益(損失) / 従業員数
- 資本金 / 従業員数
- 利益剰余金 / 従業員数
- 資本金 + / 利益剰余金 / 従業員数
- 有形資産、純 / 従業員数
- 合計支払済所得税(現金主義) / 従業員数
- 合計未払所得税 - 今年度 / 従業員数

### 収益率

適切な勘定科目/比率を選択します。

- 収益関連パーティ / 収益合計
- 収益非関連パーティ / 収益合計
- 所得税引前利益(損失) / 収益関連パーティ

- 所得税引前利益(損失) / 収益非関連パーティ
- 所得税引前利益(損失) / 収益合計
- 合計支払済所得税(現金主義) / 収益関連パーティ
- 合計支払済所得税(現金主義) / 収益非関連パーティ
- 合計支払済所得税(現金主義) / 収益合計
- 合計未払所得税 - 今年度 / 収益関連パーティ
- 合計未払所得税 - 今年度 / 収益非関連パーティ
- 合計未払所得税 - 今年度 / 収益合計
- 有形資産、純 / 収益合計
- 資本金 + / 利益剰余金 / 収益合計

### 利益率

適切な勘定科目/比率を選択します。

- 資本金 / 所得税引前利益(損失)
- 利益剰余金 / 所得税引前利益(損失)
- 資本金 + / 利益剰余金 / 所得税引前利益(損失)
- 合計支払済所得税(現金主義) / 所得税引前利益(損失)
- 合計未払所得税 - 今年度 / 所得税引前利益(損失)
- 所得税引前利益(損失) / 収益合計 - 所得税引前利益(損失)

### 支払済所得税比率

適切な勘定科目/比率を選択します。

- 国の未払所得税(今年度) / 合計支払済所得税
- 地域の未払所得税(今年度) / 合計支払済所得税
- 合計未払所得税(今年度) / 合計支払済所得税
- 資本金 / 合計支払済所得税
- 利益剰余金 / 合計支払済所得税
- 資本金 + / 利益剰余金 / 合計支払済所得税
- 有形資産、純 / 合計支払済所得税

### 未払所得税比率

適切な勘定科目/比率を選択します。

- 国の未払所得税(今年度) / 合計未払所得税 - 今年度
- 地域の未払所得税(今年度) / 合計未払所得税 - 今年度
- 合計支払済所得税 / 合計未払所得税
- 資本金 / 合計未払所得税 - 今年度
- 利益剰余金 / 合計未払所得税 - 今年度

- 資本金 + / 利益剰余金 / 合計未払所得税 - 今年度
- 有形資産、純 / 合計未払所得税 - 今年度

### 資産比率

適切な勘定科目/比率を選択します。

- 資産回転率(収益 / 資産)
- 資本金 + / 利益剰余金 / 有形資産、純
- 所得税引前利益(損失) / 有形資産、純

### 株主資本比率

適切な勘定科目/比率を選択します。

- 所得税引前利益(損失) / 資本金
- 所得税引前利益(損失) / 資本金 + 利益剰余金
- 収益合計 / 資本金
- 収益合計 / 資本金 + 利益剰余金

## CbCR データ・ステータスの確認

各プロセス単位(シナリオ、年、エンティティ、期間)の処理ステータスを確認するには、「データ・ステータス CbCR」フォームにアクセスします。

### ノート:

このフォームのデータは変更できません。

計算ステータスを確認するには:

1. ホーム・ページで「**データ・ステータス**」をクリックし、**データ・ステータス CbCR** レポートを開きます。

Entity	P1		P2		P3		P4		P5	
	Approval Status	Calculation Status								
San Jose(USD)	Unlocked	No Data	Not Started	No Data						
Western USA(USD)	Unlocked	No Data	Not Started	No Data						
Atlanta(USD)	Unlocked	No Data	Not Started	No Data						
Stamford(USD)	Unlocked	No Data	Not Started	No Data						
New York City(USD)	Unlocked	No Data	Not Started	No Data						
Eastern USA(USD)	Unlocked	No Data	Not Started	No Data						
United States of America(USD)	Unlocked	No Data	Not Started	No Data						
Montreal(CAD)	Locked	No Data	Not Started	No Data						
Toronto(CAD)	Unlocked	No Data	Not Started	No Data						
Calgary(CAD)	Unlocked	No Data	Not Started	No Data						
Total Canada(CAD)	Unlocked	No Data	Not Started	No Data						
London(GBP)	Unlocked	No Data	Not Started	No Data						
Liverpool(GBP)	Unlocked	No Data	Not Started	No Data						
Leeds(GBP)	Unlocked	No Data	Not Started	No Data						
Total UK(GBP)	Unlocked	No Data	Not Started	No Data						
Switzerland(CHF)	Unlocked	No Data	Not Started	No Data						
Germany(EUR)	Unlocked	No Data	Not Started	No Data						
France(EUR)	Unlocked	No Data	Not Started	No Data						
Rest of The World(USD)	Unlocked	No Data	Not Started	No Data						
Total Geography(USD)	Unlocked	No Data	Not Started	No Data						

2. オプション:  をクリックして表示する POV を選択します。
3. 表示するエンティティが含まれる行を選択します。
4. 必要な期間(P1、P2 など)の「承認ステータス」の下に、次のようなアイテムの承認ステータスが表示されます。
  - 未開始
  - ロック解除済
  - ロック済
5. 必要な期間(P1、P2 など)の「計算ステータス」の下に、次のような現在のステータスが表示されます。
  - 未開始
  - システム変更
  - データなし
  - 影響
  - OK

関連項目: [ハイブリッドおよび非ハイブリッド・アプリケーションのデータ・ステータス間の差異](#)

## CbC レポートの検証と送信

エンティティ全体およびエンティティが事業を行っている各税管轄について国別(CbC)レポートの年次レポートを提出する必要があります。

Tax Reporting を使用して、CbC レポート用に必要な財務データおよび追加の申告情報をまとめ、追加タスクを実行して Tax Reporting アプリケーションから CbCR データを抽出し、ローカルの税務当局に提出できる CbCR XML ファイルに変換する必要があります。

Narrative Reporting を使用して、次のファイルを生成する必要があります。

- 現地の税務当局に送信する XML ファイル
- エラーや脱落を含む.TXT 検証ファイル。

 **ノート:**

XML ファイルが税務当局で受け付けられる前に、すべてのエラーを修正および検証する必要があります。

Oracle Cloud Marketplace から、Oracle Enterprise Performance Reporting Cloud の"Populate and Validate the Country by Country Reporting XML File"アプリケーションをダウンロードします。アプリケーションには、データ・ソースおよびレポート・テンプレートのインポートに関する README が含まれます。

XML ファイルおよび.TXT 検証ファイルを送信するには、ローカルの税務当局に連絡する必要があります。各税務当局にはそれぞれ送信メカニズムが用意されているため、ローカルの税務当局が示すガイダンスに従ってください。

# 19

## エンティティ 分類の操作

### 関連トピック:

- [エンティティ 分類の概要](#)
- [「Pillar 2 エンティティ 分類」 フォームの操作](#)
- [「Pillar 2 エンティティ 分類」 フォームの検証](#)
- [エンティティ ・ ルールの操作](#)

## エンティティ 分類の概要

Tax Reporting には、Pillar 2 エンティティ ([Pillar 2 の操作](#)を参照)を異なる分類に分類する拡張機能があります。エンティティを次のタイプに分類できます:

- 構成エンティティ
- フロースルー・エンティティ – 税金の透明性
- フロースルー・エンティティ – リバース・ハイブリッド
- ハイブリッド・エンティティ
- 恒久的施設
- 無国籍構成エンティティ
- 低課税構成エンティティ
- メイン・エンティティ
- 被少数保有親エンティティ
- 被少数保有子会社
- 被少数保有構成エンティティ
- 投資エンティティ
- 保険投資エンティティ
- 合併企業(JV)
- JV 子会社
- 重要性の低い構成エンティティ
- POPE (被部分保有親エンティティ)
- 最終親エンティティ
- 中間親エンティティ
- 非グループ・メンバー
- 除外エンティティ - 次のいずれかの除外の理由を指定できます:
  - 政府エンティティ

- 国際組織
- 非営利組織
- 年金基金
- UPE である投資資金
- UPE である不動産投資手段
- 1.5.2 条(a)の下で除外エンティティに所有されるエンティティ
- 1.5.2 条(b)の下で除外エンティティに所有されるエンティティ

*Tax Reporting* の管理の次の関連トピックを参照してください:

- [エンティティ分類の有効化](#)
- [エンティティ分類メタデータの操作](#)
- [法的エンティティ階層ユーザー変数の構成](#)

## 「Pillar 2 エンティティ分類」フォームの操作

「Pillar 2 エンティティ分類」フォームを使用するには:

- 「ライブラリ」 > 「Pillar 2 管理」に移動します。
- 「Pillar 2 エンティティ分類」フォームをクリックします。

### Note:

このフォームでは:

- すべての法的エンティティのエンティティ分類が可能です
- 構成に基づいてエンティティを分類するための事前作成済の検証があります

### 「Pillar 2 エンティティ分類」フォームのレイアウト

- **POV**: シナリオ、年、期間および Pillar 2 法的階層。
- **行**: Pillar 2 法的階層に示されているエンティティの子孫。
- **列**:
  - Pillar 2 管轄: 「Pillar 2 管轄自動化」フォームに示されているレポート管轄が表示されます。
  - **TRCS\_PillarTwoEntityClassification** の事前定義済子孫の**除外事由** – 次のエンティティの除外事由を選択できます。
    - \* 政府エンティティ

- \* 非営利組織
- \* 年金基金
- \* 国際組織
- \* UPE である投資資金
- \* UPE である不動産投資手段
- \* 1.5.2 条(a)の下で除外エンティティに所有されるエンティティ
- \* 1.5.2 条(b)の下で除外エンティティに所有されるエンティティ

### Note:

- このフォームでは、**Pillar 2 管轄**列は読み取り専用です。Pillar 2 管轄の選択は、Pillar 2 自動化管轄フォームで行うことができます。
- 親の税金計算属性を持たない親エンティティでは、すべての分類を選択できます。

## 「Pillar 2 エンティティ分類」フォームの検証

「Pillar 2 エンティティ分類」フォームを検証できます:

- 「Pillar 2 管轄自動化」フォームで Pillar 2 管轄が選択されていないか、フォームから削除されている場合

Pillar Two Jurisdiction Automation		Pillar Two Entity Classification													
Scenario	Years	Period	Pillar Two Jurisdictions		City	Minority-Owned Parent Entity	Minority-Owned Subsidiary	Minority-Owned Constituent Entity	Investment Entity	Insurance Investment Entity	Joint Venture (JV)	JV Subsidiary	Non-Material Constituent Entity	Partially Owned Parent Entity (POPE)	Reason For Exclusion
Actual	FY23	P1													
			Western USA												
			Atlanta												
			Stamford												
			New York City												

「エンティティ分類」フォームで分類を選択することはできません。選択できるのは除外の事由のみです。

- 「Pillar 2 管轄自動化」フォームで Pillar 2 管轄が選択されているか変更されている場合

Pillar Two Jurisdiction Automation		Pillar Two Entity Classification												
Scenario	Years	Period	Pillar Two Jurisdictions		Pillar Two Jurisdictions	Ultimate Parent Entity	Intermediary Parent Entity	Constituent Entity	Low Taxed Constituent Entity	Stateless Constituent Entity	Permanent Establishment	Flow-Through Entity-Tax Transparent	Flow-Through Entity-Reverse Hybrid	Hybrid Entity
Actual	FY23	P1												
			Western USA	Cannada CAD	Cannada CAD			Yes				Yes		
			Atlanta	Cannada CAD	Cannada CAD			Yes						
			Stamford	United States USD	United States USD			Yes				Yes		
			New York City	Cannada CAD	Cannada CAD			Yes					Yes	

- 選択されたレポート管轄が「エンティティ分類」フォームに移入され、デフォルトで構成エンティティに「はい」が選択されます
- 必要に応じて、さらに分類を指定できます

# エンティティ・ルールの操作

## 構成エンティティの生成ルール

このルールは、「Pillar 2 管轄自動化」フォームのレポート管轄のあるすべてのエンティティについて、「Pillar 2 エンティティ分類」フォームに構成エンティティを生成します。

フォーム内のルールにアクセスするには、任意のセルを右クリックし、**構成エンティティの生成**をクリックします。これにより、管轄が割り当てられているすべてのエンティティについて、構成エンティティが「はい」と選択されます。

The screenshot shows the 'Pillar Two Entity Classification' interface. The table has columns for 'Pillar Two Jurisdictions', 'Ultimate Parent Entity', 'Intermediary Parent Entity', 'Constituent Entity', 'Low Taxed Constituent Entity', 'Stateless Constituent Entity', and 'Perma Establish'. The 'Atlanta' and 'Stamford' rows under 'Western USA' have 'United States USD' in the 'Pillar Two Jurisdictions' column. A right-click context menu is open over the 'Atlanta' row, with 'Generate Constituent Entities' highlighted in red.

次の例では、アトランタとスタンフォードに管轄が割り当てられています。

The screenshot shows the same 'Pillar Two Entity Classification' interface after the 'Generate Constituent Entities' action. The 'Constituent Entity' column now contains 'Yes' for the 'Atlanta' and 'Stamford' rows, which are highlighted with a red box.

	Pillar Two Jurisdictions	Ultimate Parent Entity	Intermediary Parent Entity	Constituent Entity
▶ Western USA				
Atlanta	United States USD			Yes
Stamford	United States USD			Yes
New York City				
▼ Eastern USA				
▼ United States of America				
▶ Rest of The World				

 **Note:**

- このルールは、スタンドアロン・ルールとして使用することもできます。「アプリケーション」 > 「ルール」 > 構成エンティティの生成 > 「起動」に移動します。シナリオ、年および期間(複数の期間を選択できます)を選択し、「起動」をクリックします。
- このルールは、「ロック解除済」エンティティに対してのみ実行され、承認ステータスが「ロック済」または「未開始」であるエンティティは無視されます。管轄が割り当てられているすべてのエンティティがロック済の場合は、ルールを実行できません。エンティティのロックとロック解除を参照してください

# 20

## データの確認および承認

### 次も参照:

- [承認について](#)
- [承認ユニットの表示](#)
- [テンプレート別承認ユニット・アクション](#)
- [承認ユーザーおよび使用可能なアクション](#)
- [承認ユニット・ステータス](#)
- [承認ユニットの検証](#)
- [承認ユニットのステータスの変更](#)
- [承認ユニットの所有権](#)
- [承認ユニットの注釈の追加または表示](#)
- [承認通知用電子メールの設定](#)
- [代替確認者の選択](#)

## 承認について

管理者は、承認プロセスを設定して、データの所有権を移動したり、確認制御を実現したり、データ・プライバシーを保証したりできます。サービス管理者、パワー・ユーザーおよびユーザーには、承認カードへのアクセス権が自動的に割り当てられています。

承認の目的のため、データは承認ユニットに編成されます。承認ユニットは、特定のシナリオ、年、期間およびエンティティを持つデータを組み合わせたものです。例:

- Actual/FY18/Jan/Massachusetts
- Budget/FY19/Feb/New York

管理者は、承認プロセス用の移動パスを表示するための承認ユニット階層を定義し、所有者および確認者を割り当てます。承認プロセスが開始されると、承認ユニットは、プロセスが完了するまである確認者から別の確認者へ移動します。承認プロセスの最後に、承認ユニットは「承認済」ステータスに変更されます。承認ユニットが「承認済」になった後は、変更を加えることはできません。

承認ユニットのデータにアクセスできるかどうかは、次のアイテムの組合せに基づいて決まります。

- 割り当てられたセキュリティ役割
- 承認ユニットの現在の確認レベル
- 承認ユニットのアクセス権および確認者の役割

ホーム・ページの「承認」で実行できる操作は次のとおりです:

- データの確認および承認

- データの進行状況の追跡
- データの移動パスの表示
- 注釈を使用した確認者によるコメントの表示
- 承認プロセスでの問題の識別

## 承認ユニットの表示

「承認」ページから、自分に割り当てられている承認ユニットを表示できます。承認ステータス情報を簡単に表示でき、リスト・ビューとグラフィカル・ビューを切り替えることができます。

管理者である場合、承認ユニット階層内のすべての承認ユニットおよびすべてのエンティティへのアクセス権を持ち、すべての承認アクションを実行できます。

パワー・ユーザーまたはユーザーの場合、読取りまたは書込みアクセス権を持っているエンティティのみが表示されます。さらに、パワー・ユーザーおよびユーザーはすべての承認アクションを実行できます。

承認ユニットのステータスを表示するには:

1. ホーム・ページで、「承認」をクリックします。
2. リストをフィルタするには、「フィルタ」 をクリックし、シナリオ、年、期間、承認ステータスまたは承認ユニット別にフィルタし、「適用」をクリックします。
  - 自分の承認ユニットのみを表示するには、「自分の承認ユニットの表示」 をクリックします
  - 他のプロパティで承認ユニットをフィルタするには、ダイアログ・ボックスの下部にある「増やす」をクリックし、フィルタ・オプションを選択します。
3. ページの右上にある「表示」ドロップダウン・メニューから、承認ユニットに関する情報の表示方法を選択します。
  - リスト・ビュー 
  - グラフィカル・ビュー 
4. オプション: 右側にある「ソート基準」ドロップダウン・リストから、エンティティのソート・オプションを選択します。
  - 承認ステータス
  - 現在の所有者
  - 承認ユニット
  - 階層順序

## テンプレート別承認ユニット・アクション

承認ユニット階層に割り当てられている承認テンプレートに応じて、確認パスおよびアクションは異なります。

- **連結** – ロックにのみ使用されます

- **連結-ボトム・アップ** – プロセス管理に使用されます

 **ノート:**

両方の承認テンプレートで、最終状態は常に「**ロック済**」となります。

**表 20-1 ロックのみ**

アクション	ステータス
<アクションの前>	未開始
開始	ロック解除済
ロック	ロック済
ロック解除	ロック解除済
除外	未開始

**表 20-2 連結ボトムアップ**

アクション	ステータス
<アクションの前>	未開始
開始	レビュー中
上位へ移動	レビュー中
却下/単独却下	未サインオフ
サインオフ	サインオフ済
承認	承認済
再度開く/単独再オープン	レビュー中
委任	レビュー中
ロック	ロック済
ロック解除	レビュー中
作成	レビュー中
除外	未開始
所有権の取得	レビュー中

## 承認ユーザーおよび使用可能なアクション

承認ユニットで実行できるアクションは、その所有権、ステータス、およびユーザーに割り当てられたセキュリティ権限に応じて変化します。

表 20-3 承認ユーザーおよび使用可能なアクション

ユーザー	使用可能なアクション
管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>開始</li> <li>除外</li> </ul>
<現在の所有者>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サインオフ</li> <li>上位へ移動</li> <li>作成</li> <li>委任</li> </ul>
<現在の所有者>より上位の移動パスにいる任意のユーザー	<ul style="list-style-type: none"> <li>所有権の取得</li> <li>委任</li> </ul>
<現在の所有者>または<現在の所有者>よりも上位の移動パスに含まれるユーザー	<ul style="list-style-type: none"> <li>却下</li> <li>単独却下</li> <li>委任</li> </ul>
管理者、パワー・ユーザーまたは移動パス内の最後の所有者	<ul style="list-style-type: none"> <li>承認</li> <li>再度開く</li> <li>ロック</li> <li>ロック解除</li> </ul>

 ノート:

管理者はすべての承認アクションを実行できます。

パワー・ユーザーは、管理者と同じ承認セキュリティ権限を持ち、「開始」および「除外」を除く承認アクションをすべて実行できます。

## 承認ユニット・ステータス

承認ユニットは、承認プロセス中に複数のレベルを通過し、次のいずれかのステータスが割り当てられます。

表 20-4 承認ユニット・ステータス

レベル	説明
未開始	すべての承認ユニットの初期ステータス。サービス管理者が「開始」アクションを使用して承認ユニットを開始し、承認プロセスを開始すると、ステータスは「レビュー中」に変更されます。
レビュー中	「上位へ移動」または「送信」アクションの後に発生し、ユーザーが承認ユニットを確認していることを示します。「レビュー中」ステータスの承認ユニットのデータを変更できるのは、現在の所有者またはサービス管理者のみです。

表 20-4 (続き) 承認ユニット・ステータス

レベル	説明
未サインオフ	「拒否」が選択されたときに発生します。「未サインオフ」の承認ユニットを対象にデータを変更したり、アクションを実行したりできるのは、現在の所有者またはサービス管理者のみです。
承認済	「承認」が選択されたときに発生します。移動パスの最後のユーザー(承認ユニットの所有者)は、所有者または確認者であるかどうかにかかわらず、所有者になります。データを上位に移動する際、書込みアクセス権を持つエンティティ所有者のみがデータを変更でき、「承認」アクションを実行できます。他のユーザーはデータを変更できませんが、エンティティへの書込みまたは読取りアクセス権を持つ場合、データを表示でき、「承認」アクションを実行できます。 すべての承認ユニットが承認されると、承認プロセスは完了します。
ロック済	承認ユニットがロックされている場合、実行できるプロセス確認アクションはありません。承認ユニットを先に承認する必要があります。エンティティの計算ステータスは、「OK」、「データなし」または「システムの変更」である必要があります。計算ステータスが「影響」のエンティティをロックすることはできません。 前の期間データは、ロックされている必要があります。たとえば、2月の期間のエンティティをロックできるのは、1月のエンティティがロックされている場合のみです。また、2018年1月をロックしようとしたときに、期間が2017年に対して定義されていた場合、2018年1月をロックする前に、2017年のすべての期間をロックする必要があります。

ノート:

読取りアクセス権を持つユーザーは、「未開始」ステータス以外のすべてのレベルでデータ、承認ステータスおよび履歴を表示できます。

親の承認ユニットを使用すると、確認プロセスを上位レベルで管理できます。

## 承認ユニットの検証

管理者は、承認ユニットに適用されるデータ検証ルールを設定できます。検証プロセスでは、承認ユニットに定義されているすべてのデータ検証ルールが実行され、移動パス内のデータのエラーや変更がレポートされます。

承認プロセスで、検証は次のアクションに対してのみ実行されます。

- 上位へ移動
- 承認
- ロック
- ロック解除
- 除外(管理者のアクション、現在の期間がロックされていないことを確認します)

次のアクションが実行されている場合、検証は実行されません。

- サインオフ
- 却下
- 再度開く
- 作成
- 所有権の取得
- 開始(管理者アクション)

承認ユニットを検証するには:

1. ホーム・ページで、「承認」をクリックします。
2. 承認ユニットを選択します。
3. 「検証」をクリックして、承認ユニットに関連付けられているすべてのデータ検証ルールを実行します。

関連付けられているすべてのデータ検証ルールの条件が満たされると、「追加の承認は不要です」というメッセージが「サブステータス」に表示されます。これは、承認ユニットが上位に移動可能であることを示します。

#### ノート:

開始されていない承認ユニットは検証できません。

「上位へ移動」を選択した場合も、承認ユニットに定義されている検証ルールが実行されます。関連付けられているすべてのデータ検証ルールの条件が満たされると、移動パスに定義されている次の所有者に承認ユニットは移動されます。

## 承認ユニットのステータスの変更

承認ユニットのステータスは、確認者が別の確認者にデータを転送するたびに変更されます。承認ユニットのステータスは、確認者が別の確認者にデータを転送するために実行するアクションに基づいて割り当てられます。

#### ノート:

親の承認ユニットのステータスを変更する場合、子が除外されているかまたはすでに承認されている場合を除き、変更する承認ユニットのすべての子も変更されます。

サービス管理者、パワー・ユーザー、および所有者または管理者として割り当てられているユーザーは承認アクションを実行できます。また、サービス管理者は、移動パス内に含まれているかどうかにかかわらず、すべての承認アクションを実行できます。

承認ユニットのステータスを変更するには:

1. ホーム・ページで、「承認」をクリックします。
2. 承認ユニットを選択します。

3. 「アクション」で、アクションを選択します。
  - **作成:** 選択されたすべての承認ユニット(すべての子孫を含む)の所有権を、階層でその承認ユニットに定義された最初の所有者に変更します。
  - **開始:** 承認プロセスを開始します。このアクションは「ツリー・ビュー」で使用可能です。
  - **上位へ移動:** 確認のため、承認ユニットを別のユーザーに渡します。このアクションでは、初めて承認ユニットの所有権が割り当てられ、次回からは承認ユニットの所有権がある確認者から別の確認者へと転送されます。「上位へ移動」により、現在の所有者による暗黙のサインオフが行われ、承認ユニットのステータスが「レビュー中」に変更されます。
  - **除外:** 承認プロセスから承認ユニットを除外します。このアクションは「ツリー・ビュー」で使用可能です。
  - **拒否:** 承認ユニットが前の所有者による追加作業を必要とすることを示します。「拒否」では、通常、前の所有者による別の繰返しの作成が必要となります。デフォルトでは、「拒否」によって承認ユニットの所有権が直前の所有者に戻りますが、次の所有者を選択できます。「拒否」により、ステータスは「未サインオフ」に変更されます。
  - **承認:** 承認ユニットを承認し、そのステータスを「承認済」に変更します。
  - **所有権の取得:** 承認ユニットおよび選択した親ユニットの下位ユニットの所有者になります。現在のユーザー、および階層の現在の承認ユニット所有者より上位のユーザーが使用可能です。
  - **委任:** 移動パスに含まれているかどうかに関係なくユーザーに所有権を渡します。委任されたユーザーは、承認ユニットを移動、却下、サインオフまたは作成できます。委任されたユーザーは作業終了後に「上位へ移動」を選択して、委任を選択したユーザーにプロセス単位を戻すことができます。また、「却下」を選択して、プロセス単位を移動パスの前のユーザーに戻すこともできます。このアクションは、「レビュー中」、「サインオフ」または「未サインオフ」ステータスのエンティティでのみ許可されます。委任により、プロセス単位のステータスは「レビュー中」に変更されます。
  - **サインオフ:** 承認ユニットをサインオフします。「サインオフ」では承認ユニットの所有権は転送されませんが、状態が「サインオフ済」に変更されます。
  - **再度開く:** 承認済の承認ユニットを再度開きます。
4. 「ステータスの変更」ボタンをクリックします。
5. 「所有者」で、ユーザーを移動パス内のユーザー・リストから選択するか、「自動」を選択し、ユニットをパス内の次の確認者に自動的に渡します。

## 承認ユニットの所有権

承認ユニットで使用可能なアクションは、その所有権、ステータスおよびユーザーに割り当てられているセキュリティ権限に依存します。

### エンティティの上位への移動

親エンティティの子をそのレベルに移動する場合のみ親エンティティを上位に移動できます。すべての子エンティティを親と同じ所有者を持つように移動する場合、親を移動でき、それによりすべての子も移動されます。

親エンティティをその子とともに上位に移動する際、すべてのエンティティは、次のレベルに移動する前に検証に合格する必要があります。エンティティが検証に失敗した場合、移動されません。

## エンティティの所有権の取得

移動パス内の同じエンティティ・レベルにある所有者または確認者である場合を除き、所有権の取得以外の承認アクションを実行できません。

自分が現在のエンティティより上位の移動パス内に含まれている場合、エンティティの承認アクションを実行できるように、所有権を取得しエンティティを自分のレベルに移動できます。

親エンティティの所有権を取得した場合、その子が同じレベルにある場合、その所有権も取得できます。

## 移動パス内に含まれていない承認ユーザー

自分が承認ユニットの移動パスに含まれていない場合、読取りおよび書込みアクセス権を持つ「承認」ページでエンティティのリストを表示できますが、エンティティの承認アクションは実行できません。

## 所有者なし

エンティティに所有者が割り当てられていない場合、ユーザーがエンティティの上位の移動パスに含まれていてもユーザーは所有権を取得できません。管理者のみが承認ユニットの所有権を取得できます。

## エンティティの却下

親エンティティを却下した場合、その子もすべて却下され、そのステータスは「未サインオフ」に変更されます。それらは、パス内の前の所有者に戻り、所有者は親エンティティと同じになります。

親エンティティは却下するが、その子は却下しない場合、「**単独却下**」を選択できます。親エンティティは却下され、ステータスは「未サインオフ」に変更され、所有権は前の所有者に戻りますが、子に対して実行されるアクションはありません。子は同じ「レビュー中」ステータスのままで、所有者も同じです。

承認ユニットを却下する際のデフォルト所有者は「自動」であり、これは前の所有者に自動的に戻されることを意味します。承認ユニットを却下する場合、自分の前の移動パスの使用可能な所有者リストから異なる所有者を選択できます。

## 元のエンティティ

必要な場合、確認の開始時の元の所有者に確認プロセスを戻すように選択できます。「**作成**」アクションを実行すると、所有権は元の所有者に戻り、ステータスは「レビュー中」となります。確認プロセス履歴はクリアされません。「**作成**」アクションは基本エンティティにのみ影響し、親には影響しません。親エンティティに「作成」を実行すると、そのすべて子に対しても実行され、移動パスの元の所有者に戻されます。

### ノート:

「**作成**」アクションは、管理者のみが実行できる「**除外**」および「**開始**」アクションとは異なります。「**除外**」アクションは、確認プロセス履歴をすべてクリアし、「**開始**」アクションは、所有者を移動パスの最初の所有者に設定します。

## エンティティの承認

エンティティが移動パスの最後に到達したときのみエンティティを承認できます。エンティティを承認する際、そのステータスは「承認済」に変更されますが、所有権は変更されません。

基本エンティティのみを承認する場合、親エンティティのステータスは影響を受けません。

親エンティティを承認すると、その子はすべて確認プロセスの一部として含められます。検証に失敗した場合、承認されません。

### エンティティの再オープン

エンティティが承認された後は、エンティティのロックまたは確認のための再オープンのいずれかを行えます。エンティティを再オープンすると、ステータスは「レビュー中」に変更され、所有権は移動パス内の前の所有者に戻されます。

承認ユニットを再オープンする際のデフォルト所有者は「自動」であり、これは前の所有者に自動的に戻されることを意味します。承認ユニットを再オープンする場合、自分の前の移動パスの使用可能な所有者リストから異なる所有者を選択できます。

### エンティティのロック

承認プロセス内の最終状態は「ロック済」です。現在の期間をロックする前に以前の期間がすべてロックされていることが確認されます。移動パス内の最後の所有者のみが「承認済」から「ロック済」に変更できます。

### エンティティのロック解除

エンティティがロックされた後、追加データを変更する、またはエンティティを確認する必要がある場合、先にエンティティのロックを解除する必要があります。現在の期間をロック解除する前に将来の期間がすべてロックされていないことが確認されます。

親エンティティをロック解除する場合、すべての子がプロセスの一部としてロック解除されます。親エンティティのみをロック解除する場合、選択したエンティティのみがロック解除される「**単独ロック解除**」を選択できます。

### エンティティのサインオフ

このアクションにより、エンティティのデータを承認済かつサインオフ済であることを確認できます。ステータスは「サインオフ済」に変更されます。

## 承認ユニットの注釈の追加または表示

注釈は、開始した承認ユニットのデータに関するコメントです。注釈を表示または追加するには、少なくとも承認ユニットへの読取りアクセス権が必要となります。

承認ユニットの注釈を追加するには:

1. ホーム・ページで、「**承認**」をクリックします。
2. 承認ユニットを選択します。
3. 「**注釈の追加**」をクリックします。
4. 注釈を入力し、「**投稿**」をクリックします。  
リンクの下に注釈が表示されます。「**返答**」をクリックして、注釈に応答できます。

#### ノート:

注釈が表示されたときにハイパーリンクとして表示される URL を入力できます。

5. 「**完了**」をクリックします。

## 承認通知用電子メールの設定

承認ステータスまたは承認の所有権に変更があった場合に電子メール通知を受け取る場合、所有者および確認者は承認通知を有効にする必要があります。「アプリケーション設定」ページで、承認通知を有効にします。

承認通知メールには、次の情報が含まれます:

- ステータスを確認する URL
- アプリケーション名
- 承認ユニット
- 現在の所有者
- 前の所有者
- 前回のアクション
- 現在のステータス
- 時間
- 注釈のタイトル
- 注釈のテキスト

承認通知を有効にするには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**設定**」の順にクリックします。
2. 「**通知**」で「**承認**」を選択します。
3. **電子メール・アドレス**に、電子メール・アドレスを入力します。
4. 「**保存**」をクリックします。

## 代替確認者の選択

承認プロセス中に確認者が不在の場合、このユーザーの不在時に確認責任を担当する代替確認者を選択できます。ユーザーが戻ったときに確認責任を戻すには、「**不在時のアシスタント**」を使用します。

代替確認者を選択するには:

1. ホーム・ページで、「**ツール**」、「**ユーザー・プリファレンス**」の順にクリックします。
2. 「**全般**」タブを選択します。
3. 「**承認**」で、「**現在不在です。**」を選択します。
4. 不在時に実行する次のアクションを設定します。
  - **上位へ移動**: 承認ユニットを次の段階に進めます。
  - **却下**: 承認ユニットを却下します。
  - **送信**: 承認ユニットを送信します。
  - **委任**: 不在中にレビューの職務を行う代替確認者を指定する場合に選択します。次の確認者または特定のユーザーに委任できます。「**メッセージ**」テキスト・ボックスに確認者向けのメッセージを含めることもできます。

5. 「保存」をクリックします。

# 21

## ライブラリの操作

### 関連リンク:

- [ライブラリの使用](#)
- [フォームへのアクセス](#)
- [ダッシュボードへのアクセス](#)
- [フォームとダッシュボードへの権限の割当て](#)
- [レポートの操作](#)

## ライブラリの使用

ライブラリは、Tax Reporting 内の様々なフォームおよびレポートに直接アクセスできる集中管理用の場所です。

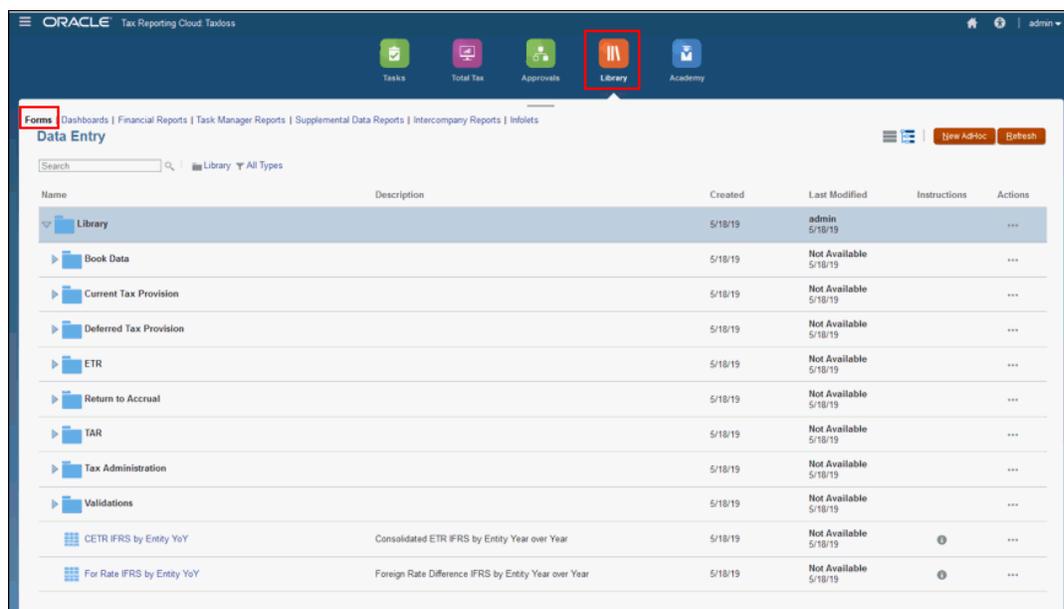
ライブラリから、フォームとダッシュボードへの権限の割当て、レポートの編集と生成など、複数のタスクを実行できます。

## フォームへのアクセス

ライブラリからアプリケーションのすべてのフォームにアクセスし、許可されたユーザーに権限を割り当てることができます。

ライブラリからフォームにアクセスするには:

1. ホーム・ページで、「**ライブラリ**」を選択します。
2. 「**フォーム**」タブを選択します。



3. リストを展開して表示するフォームの横にあるキャレット ▶ をクリックします。
4. 直接開いて表示するフォームの名前をクリックします。通常どおりフォームで作業できます。

## ダッシュボードへのアクセス

ライブラリからアプリケーションのすべてのダッシュボードにアクセスし、許可されたユーザーに権限を割り当てることができます。

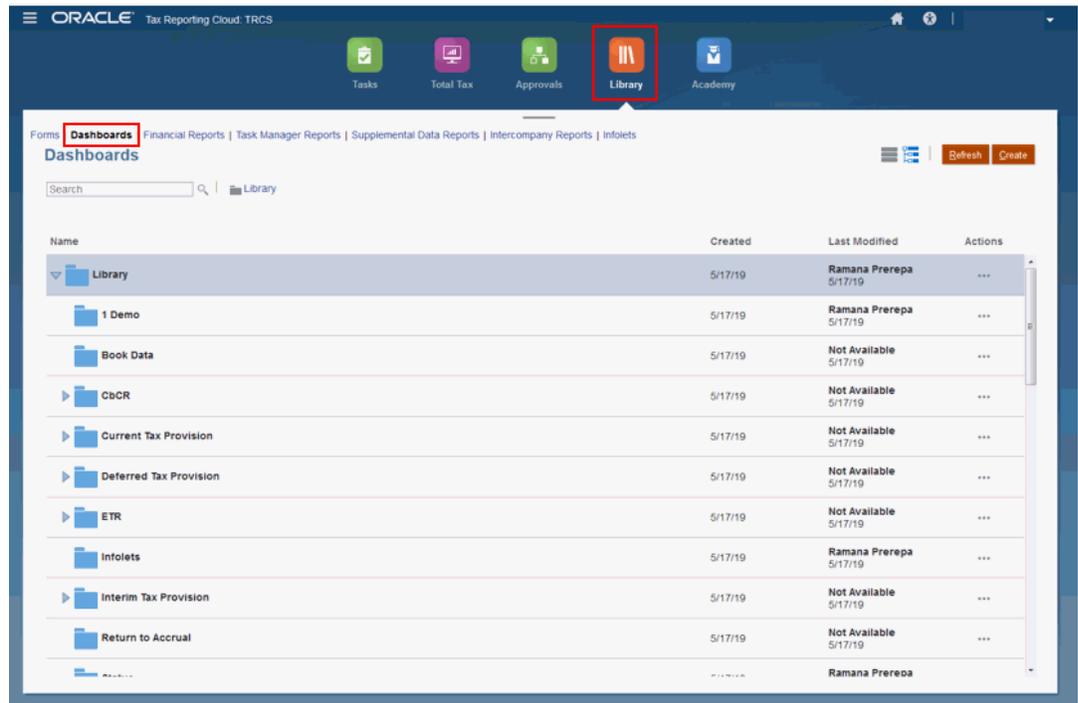
ライブラリからフォームにアクセスするには:

1. ホーム・ページで、「**ライブラリ**」を選択します。

### ノート:

管理者のみが、ファイル(ダッシュボード、インフォレット、フォーム、レポートなど)を「**ライブラリ**」ルート・フォルダに追加できます。

2. 「**ダッシュボード**」タブを選択します。



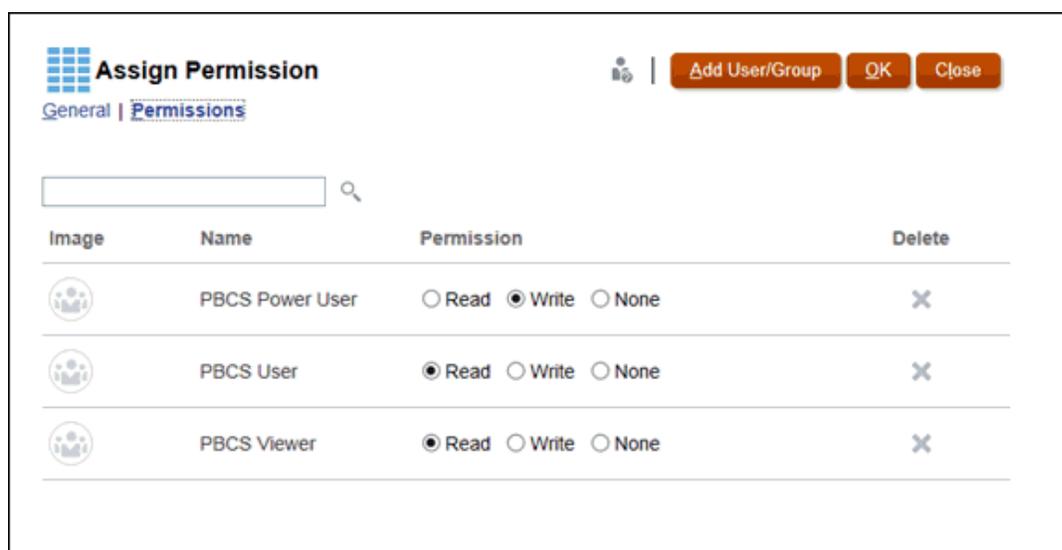
3. 直接開いて表示するダッシュボードの名前をクリックします。通常どおりダッシュボードで作業できます。

## フォームとダッシュボードへの権限の割当て

ライブラリから許可されたユーザーにフォームとダッシュボードへのアクセス権を割り当てることができます。

権限を割り当てるには:

1. ホーム・ページで、「ライブラリ」を選択します。
2. 「フォーム」または「ダッシュボード」タブを選択します。
3. 権限を割り当てるフォームまたはダッシュボードを選択します。
4. 「アクション」で、「権限の割当て」を選択します。
5. 「権限の割当て」ダイアログ・ボックスで、「権限」をクリックします。



6. **オプション: 「ユーザー/グループの追加」**をクリックし、使用可能なユーザーのリストに新しいユーザーまたはグループを追加して、「**OK**」をクリックします。
7. 選択したユーザーまたはグループに適用する権限のレベルを選択し、「**OK**」をクリックします。
  - 読取り
  - 書込み
  - なし
  - 削除

## レポートの操作

Tax Reporting では、次のタイプのレポートを使用できます:

- **Reports**。レポートでの設計の管理レポートの概要およびレポートの操作の管理レポートの概要を参照してください。
- **Financial Reporting**。 *Financial Reporting* の管理を参照してください。
- **ドキュメント**: Reports のブックに追加できます。ブックのドキュメントを表示するか、開くことができます。バースト用に **CSV** を開き、ブック用に **Word** および **PDF** ドキュメントを開くこともできます。 [Reports ソリューションの操作](#)を参照してください。
- **補足データ・レポート**: 補足データに関する詳細を表示します。 [補足データ・レポートの作成](#)を参照してください。
- **会社間レポート**: 連結するときに消去される会社間トランザクションを示します。 [会社間レポートの管理](#)を参照してください。

## Reports ソリューションの操作

Reports (以前は Narrative Reporting ビジネス・プロセスの管理レポートとして使用されていた)が、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management プラットフォームのビジネス・プロセスおよびアプリケーション(Planning、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting およびフリー・フォーム)に組み込まれ、今後は Financial Reporting のかわりに使用

されるようになります。Reports は、わかりやすい堅牢なレポート開発フレームワークと、充実したレポート・ビューア・エクスペリエンスを提供します。

Reports には、ブックおよびバーストも含まれています。ブックは、1 つ以上のレポート、ブックおよびその他のドキュメントをグループ化して、単一の PDF 出力を生成する機能を提供します。バースト機能では、1 つのデータ・ソースの単一ディメンションの複数のメンバーに対して単一のレポートまたはブックを実行して、各メンバーの PDF 出力を公開できます。バースト定義をスケジュール済ジョブとしてスケジュールできます。

レポート、ブックおよびバースト定義は、Reports リポジトリに保管されます。「ドキュメント」の下のブックおよびバーストで使用されて生成されたサード・パーティ・ドキュメントにアクセスすることもできます。たとえば、バースト定義で使用されるブックおよび CSV ファイルに挿入された MS Word および PDF のドキュメントや、バースト定義によって生成された PDF ファイルがあります。ドキュメント・リポジトリを表示するには、「ライブラリ」、「レポート」の順にクリックし、ページの左側にある「ドキュメント」タブをクリックします。

すべてまたは個々のレポートを移行できるインプレース移行を使用するか、「リポジトリの検索」からローカルにエクスポートされた Financial Reporting のレポート・ファイルをインポートすることで、Financial Reporting のレポートを Reports に移行できます。移行の際は、元のレポートの可能なかぎり多くの要素が Reports の相当する要素に変換されることに注意してください。ただし、2 つのソリューションには違いがあり、すべての要素が両方のソリューションに存在するとはかぎりません。元のレポートに相当するレポートを生成するには、レポートを移行した後に、特定の要素の変更が必要になる可能性があります。

Financial Reporting は、コンテンツを Financial Reporting から Reports に移行するための十分な時間が経過した後に、将来の未定の日付で最終的に削除されます。

次世代の Reports を表示するには、ホーム・ページで「ライブラリ」をクリックし、次にページの左側にある「レポート」タブをクリックします。

#### ノート:

管理者のみが、ファイル(ダッシュボード、インフォレット、フォーム、レポートなど)を「ライブラリ」ルート・フォルダに追加できます。

Reports を使用して設計および操作するには、次の各ガイドのトピックを参照してください:

- [レポートの操作のレポートの概要](#)
- [レポートでの設計のレポートの概要](#)

## フォルダおよびレポートの管理

ホーム・ページの「ライブラリ」カードから Reports を管理し、レポートのリストをどのように表示するかを選択できます。「ドキュメント」で、ブックおよびバーストで使用されて生成されたサード・パーティのドキュメントにアクセスしたり、これらのドキュメントを保持できます。たとえば、バースト定義で使用されるブックおよび CSV ファイルに挿入された MS Word および PDF のドキュメントや、バースト定義によって生成された PDF ファイルがあります。

レポートおよびドキュメントは、フォルダでグループ化されます。レポートおよびドキュメントのリストを表示する場合、次のことを実行できます:

- レポート・アーティファクトまたはドキュメントによる検索

- フォルダによるフィルタ。レポート・アーティファクトの場合、タイプ(レポート、スナップショット、ブック、バースト定義)によってフィルタできます。

- フォルダ・ツリー・ビュー  またはフラット・リスト・ビュー  の切替え  
レポート・デザイナーは、フォルダまたは個別のレポートの  アイコンをクリックして、次のフォルダ、レポートおよびドキュメントの管理タスクを実行できます:

- フォルダ用:
  - ファイルのアップロード(ドキュメントのみ)
  - フォルダの作成
  - 削除
  - 名前変更
  - 移動先
  - 権限の割当て
- レポート、ブックおよびバースト定義用:
  - 開く(レポートおよびブックのみ)
  - 編集
  - 名前変更
  - 別名コピー
  - 削除
  - 移動先
  - 権限の割当て
- ドキュメント用:
  - プロパティ
  - 別名コピー
  - 削除
  - 移動先
  - 権限の割当て

「ドキュメント」リストでは、次のファイル・タイプおよび拡張子がサポートされます。100MB をサポートする PDF を除き、デフォルトのファイル・サイズ制限は 5MB です。

- Word (.DOC、.DOCX)
- Excel (.XLS、.XLSX)
- カンマ区切り値(.CSV)
- PDF (.PDF)
- テキスト(.TXT)
- PowerPoint (.PPT、.PPTX)

「ドキュメント」でサード・パーティ・ファイルをアップロードするには:

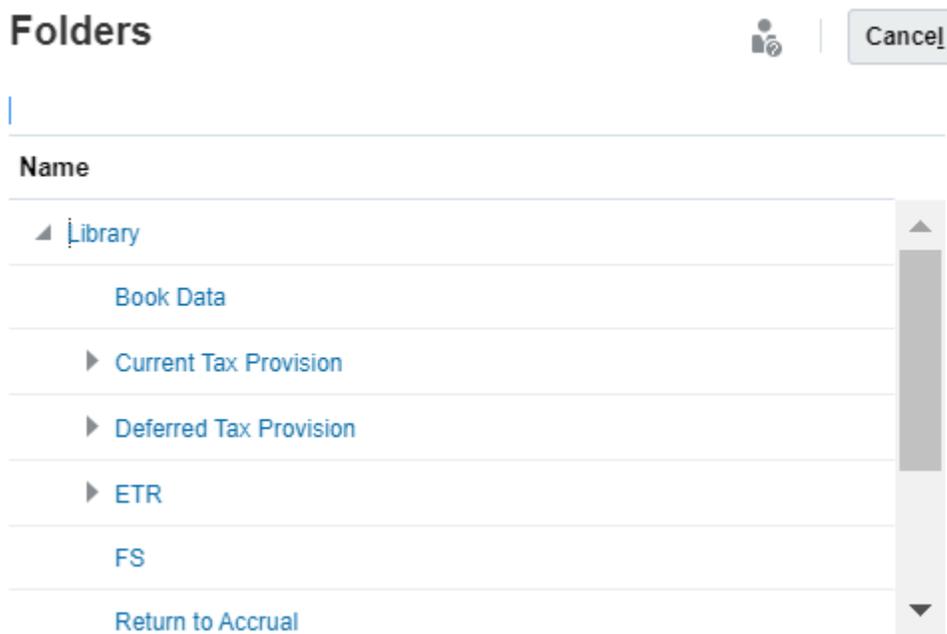
1. 「ドキュメント」リストで、宛先フォルダを選択してから、次のいずれかをクリックします:
  - 「ドキュメント」パネルの右上にある「アップロード」をクリックします。
  -  アイコンをクリックして、「ファイルのアップロード」を選択します。
2. 「ファイルのアップロード」で、ローカル・ファイル・システムからアップロードするファイルを選択します。「OK」をクリックします。選択したフォルダにファイルがアップロードされます。

「ドキュメント」リストの「ドキュメント」でサード・パーティ・ファイルをダウンロードするには、目的のファイルの場所を参照し、ファイル名をクリックしてダウンロードします。

## Cloud EPM でのフォルダまたは Reports の検索

1. フォルダまたは Reports を検索するには、ペインの上部にある「検索テキスト」ボックスに検索テキストを入力し、「検索」 アイコンを選択します。
2. 検索結果がコンテンツ領域に表示されます。

3.  Library を選択してフォルダの検索を絞り込みます。



4.  All Types を選択して、Reports またはスナップショットで検索します。

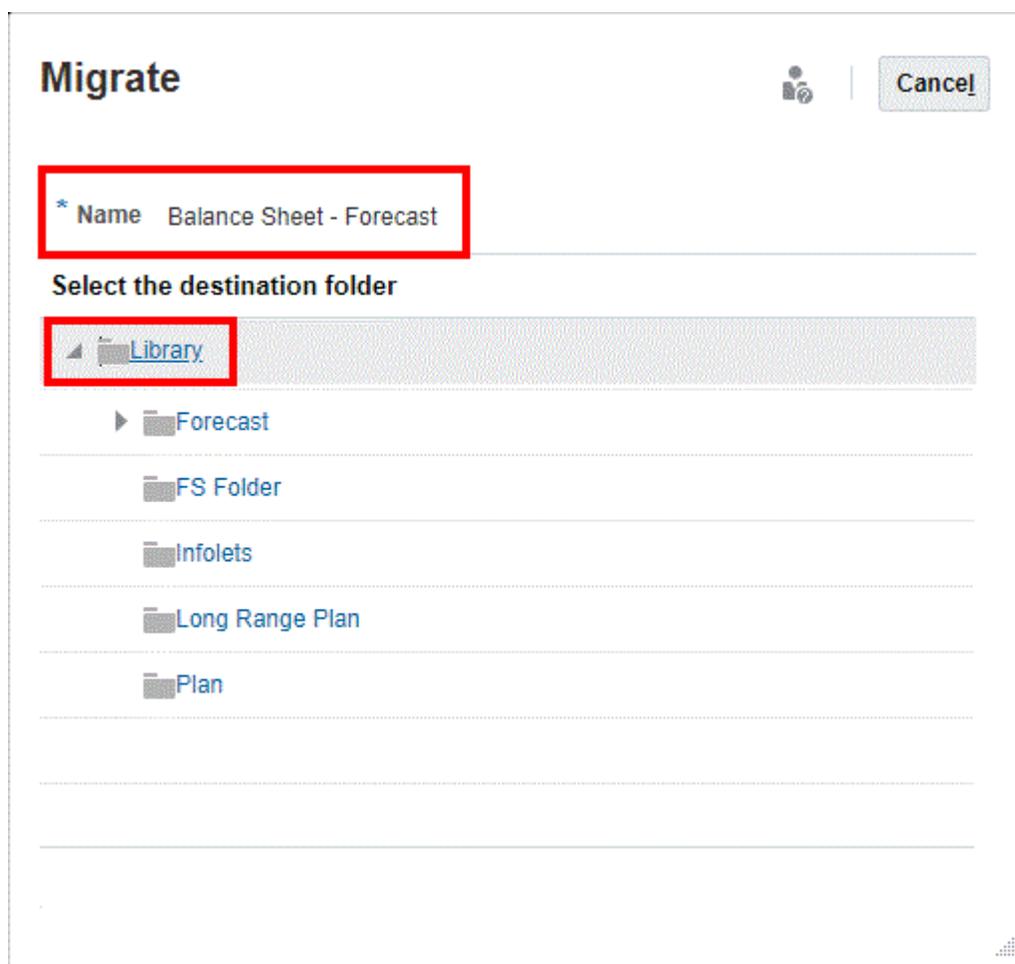
5. 表示のために  または  を選択します。

## Financial Reporting からのレポートの移行

Financial Reporting からレポートを移行するには:

1. Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management サービスから「ライブラリ」カードを選択し、「財務レポート」を選択します。「リポジトリの検索」で、移行可能な Financial Reporting のレポートを表示します。

2. リポジトリから、移行するレポートを選択し、 「財務レポートの移行」アイコンをクリックします。
3. 「移行」ダイアログで、ファイル名を入力し、ファイルの保存先フォルダを選択して、「OK」をクリックします。



The screenshot shows a 'Migrate' dialog box. At the top, there is a title 'Migrate' and a 'Cancel' button. Below the title, there is a text input field with the label '\* Name' and the value 'Balance Sheet - Forecast'. Underneath, there is a section titled 'Select the destination folder' which contains a list of folders: 'Library', 'Forecast', 'FS Folder', 'Infolets', 'Long Range Plan', and 'Plan'. The 'Library' folder is highlighted with a red box.

移行されたレポートがそれぞれの場所に保存されます。

## 財務レポートの表示

ライブラリの「財務レポート」タブでは、データ入力に使用できるデフォルトの財務レポートの選択肢が提供されます。

カスタマイズされたレポートを作成する場合は、Oracle Marketplace からアプリケーションをダウンロードして、オーダーメイドのレポートを作成するための開始点として使用できます。次の[複数通貨アプリケーションのための TRCS レポート・テンプレートの使用](#)を参照してください。

レポートにアクセスするには:

1. ホーム・ページで、「ライブラリ」をクリックします。
2. 「財務レポート」を選択します。



3. **オプション:** POV を持つレポートの POV を選択するには、「POV オプションの表示」をクリックします。このチェック・ボックスはデフォルトで選択されています。レポートが開始されると、POV メンバー・セレクタ・ウィンドウが表示されます。設定した POV は、POV を持つリスト内のすべてのレポートに影響します。
4. 表示アイコンを選択してレポートを表示します。
  - フラット・ビュー
  - ツリー・ビュー
5. PDF、HTML または XLS フォーマットでレポートを確認します。

### 複数通貨アプリケーションのための TRCS 財務レポート・テンプレートの使用

30 を超えるカスタマイズされた複数通貨の財務レポートを簡単に作成できるように、Oracle Marketplace からアプリケーションをダウンロードして、カスタマイズされた財務レポートを作成できます。

レポートのテンプレートをダウンロードするには:

1. [Oracle Cloud Marketplace](#) を選択して、**複数通貨アプリケーションのための TRCS レポート**・ページを表示します。
2. **TRCS の標準レポート**・ページで、**アプリの取得**をクリックします。
3. 「**詳細**」で、指示に従ってパッチをダウンロードし、これらのレポートをオーダーメイド・レポートを作成するための開始点として使用します。パッチには、TRCS FR レポート、インポート指示および Readme ファイルが含まれています。

#### ノート:

Tax Reporting Cloud (TRCS) と Hyperion Tax Provisioning (HTP) のディメンションおよびメンバーは完全に同じではないため、これらの変更にあわせて HTP からのカスタム・レポートを調整する必要があります。Oracle Marketplace からのダウンロードでは、標準レポートのみが提供されます。

## レポートの POV メンバー・セレクタの表示

「レポート」ページで「POV オプションの表示」オプションを選択すると、POV を持つレポートで異なるメンバーを選択できます。

ホーム・ページで「レポート」をクリックすると、「レポート」ページが表示され、表示するレポートを選択できます。ページで「POV オプションの表示」チェック・ボックスを選択して POV を持つレポートを選択すると、POV メンバー・セレクタ・ウィンドウが表示されます。[メンバーの操作](#)を参照してください。

このチェック・ボックスの選択状態は、リストにあつて POV を持つレポートすべてに適用され、現在のセッションからログアウトするまで存続します。

**「POV オプションの表示」** チェック・ボックスをクリアすると(デフォルトで選択済)、レポートは直接起動され、POV メンバー・セクタ・ウィンドウは表示されません。レポートにおける POV メンバーは、フォームで最近使用されたメンバー、または最近使用されたメンバーがない場合は、ディメンションのルートです。

レポートを直接起動し、POV メンバー・セクタ・ウィンドウを経由せずにレポートが表示された場合でも、POV にあるリンクをクリックして別のメンバーを選択すれば、POV のメンバーを変更することができます。

## タスク・マネージャ・レポートの生成

タスク・マネージャ・レポートを生成して、ビジネス・プロセス・アクティビティについてレポートできます。使用可能なレポート・フォーマット・タイプは、CSV、XLSX、HTML および PDF です。

レポートを生成するには:

1. ホーム・ページで、「**レポート**」をクリックします。
2. 「**タスク・マネージャ・レポート**」をクリックします。
3. 「**生成**」をクリックします。
4. レポートの名前を入力します。
5. 「**スケジュール**」 ドロップダウン・リストから、レポートのスケジュールを選択します。
6. 「**期間**」 から、期間を選択します。
7. レポートの「**開始日**」と「**終了日**」を選択します。
8. **オプション**: ユーザーによって変更されたタスクを含めるには、「**変更者**」の横にあるセクタをクリックしてユーザーを選択します。
9. **オプション**: 他の変更を含めるには、「**変更されたフィールド**」から「**アラート**」などのフィールドを選択します。
10. **オプション**: 「**タスク ID**」で、特定のタスクのタスク ID を入力します。
11. 「**生成**」をクリックします。

完了すると、「正常に完了しました。」というステータス・メッセージが表示されます。

レポート生成プロセスではバックエンド・ジョブ・フレームワークが使用されるため、レポート・ジョブがバックグラウンドで実行されます。推奨サイズを超えるなど、レポートにエラーが含まれている場合は、レポートが生成される前に「レポートの生成」ダイアログにエラーを示すメッセージが表示されます。レポートに含まれるレコード件数が多い場合は、フィルタ機能を使用して含まれるレコード数を制限して、レポートを分割することをお勧めします。

 ノート:

特定の期間またはスケジュールについて標準レポート「**タスク・コメント**」を実行して、タスクに関して入力されたすべてのコメントを表示できます。レポートには、次の情報が表示されます:

- タスク ID
- タスク名
- タスク・ステータス
- コメント・テキスト
- ユーザー
- コメントの日付

## 補足データ・レポートの作成

補足データ・レポートを作成して、補足データの詳細をレポートできます。使用可能なレポート・フォーマット・タイプは、**CSV**、**XLSX**、**HTML** および **PDF** です。

補足データ・レポートを作成するには、サービス管理者またはパワー・ユーザーである必要があります。

レポートを作成するには:

1. ホーム・ページで、「**レポート**」をクリックします。
2. 「**補足データ・レポート**」をクリックします。
3. 「**出力フォーマット**」選択します:
  - **XLSX** - グラフではサポートされません。
  - **HTML** - グラフおよびチャートではサポートされません。
  - **PDF**
  - **CSV** - テンプレートを使用せず、高速でデータを取得できます。

 ノート:

レポートに含まれるレコードが 10,000 件を上回る場合は、**CSV** 形式を使用することをお勧めします。

- **csv (フォーマット済)** - フォーマット済データが含まれる単純なデータ表に最適であり、テンプレートでのイメージ、グラフィックまたはスタイル設定をサポートしていません。

 ノート:

「**csv (フォーマット済)**」フォーマットでは、**CSV** フォーマットと比べて、テンプレート・フォーマットを考慮してレポートを生成するための追加の時間がかかります。そのため、データを迅速に生成する場合は「**CSV**」を選択し、フォーマット済テンプレート・ベース・データを生成する場合は「**csv (フォーマット済)**」を選択します。

4. 「**生成**」をクリックします。
5. レポートの**名前**を入力します。
6. 「**生成**」をクリックします。  
完了すると、「正常に完了しました。」というステータス・メッセージが表示されます。

レポート生成プロセスではバックエンド・ジョブ・フレームワークが使用されるため、レポート・ジョブがバックグラウンドで実行されます。推奨サイズを超えるなど、レポートにエラーが含まれている場合は、レポートが生成される前に「レポートの生成」ダイアログにエラーを示すメッセージが表示されます。レポートに含まれるレコード件数が多い場合は、フィルタ機能を使用して含まれるレコード数を制限して、レポートを分割することをお勧めします。

## 会社間レポートの管理

会社間照合レポートを使用すると、会社間トランザクションを追跡して、分析や監査に役立てることができます。このレポートは、会社間属性を使用可能にして設定されたエンティティと会社間パートナーの各ディメンションの一致を示します。

連結プロセスの一環として、会社は、関連するエンティティとパートナー間のトランザクションを消去します。会社間照合レポートを使用すると、これらのエンティティとパートナーの会社間トランザクションが正確に一致していることを確認できます。

会社間レポートを実行するときに、ディメンション・メンバーや、特定の差異に関連するデータ・セルを表示または抑制できます。

会社間レポートを実行するには、サービス管理者である必要があります。

次のトピックを参照してください:

- [会社間レポートの設定](#)
- [会社間レポートの作成](#)

## 会社間レポートの設定

会社間レポートを設定するには、表示する **POV** メンバー、勘定科目および照合対象勘定科目を選択します。ディメンション・メンバーや、特定の差異に関連するデータ・セルの表示を抑制するかどうかを選択することもできます。

### 会社間レポートの視点の選択

視点ディメンションは、生成されるレポートのヘッダー・セクションに表示されます。次のディメンションごとに 1 つのメンバーを選択できます。

- シナリオ
- 年
- 期間

- 表示
- 連結
- 通貨(レポート通貨であることが必要)

### 会社間レポートの勘定科目の選択

調整勘定を選択して、勘定科目およびトランザクションと照合する照合勘定を決定します。

調整勘定は、消去の完了時に 2 つの会社間勘定の間差分を保管します。レポートの調整勘定を選択すると、システムでは勘定科目、および調整勘定の定義時に管理者が指定した照合勘定が使用されます。

調整勘定ごとに、それに関連付けられ、同じ勘定科目タイプを持つ勘定科目が表示されます。たとえば、資産と費用の勘定科目タイプが関連付けられ、負債、収益および資本の勘定科目タイプが関連付けられます。

### 抑制ディメンションの選択

データ・ソース、増減およびカスタム定義のディメンションは、抑制ディメンションとみなされます。これらのディメンションでは、メンバー・セレクタを使用するか、メンバー名をカンマで区切ってテキストに指定することで、複数のメンバーを選択できます。抑制ディメンションは、生成されたレポート・ヘッダーにリストされます。

メンバー・セレクタには次のメンバー・カテゴリがあります。

- 祖先
- 子
- 子孫
- 兄弟(すべて、左、右、前、次)
- 親
- レベル 0 子孫(すべて、前、次)
- 左兄弟
- 世代(前、次)

次のいずれかの抑制オプションを選択できます。

- **抑制なし** - これは、デフォルトの選択です。ディメンションは、レポート・グリッドの列として含められます。抑制なしディメンションの各メンバーに対して、外側ディメンション(左側のディメンション)のメンバーがすべて組み合せられた行があります。
- **抑制** - ディメンションは、レポート・グリッドの列として含められません。各行のデータ・ポイントは、指定した抑制ディメンションに選択されているすべてのメンバーの合計を表します。抑制されたすべてのディメンションは、グリッドの最後(右端内部)のディメンションと同じように扱われます。
- **グループ** - これは、「抑制なし」と同じですが、合計行が追加されています。すべての外側ディメンション(左側のディメンション)とグループ化されたディメンションが、グループを構成します。すべての内部ディメンション・メンバー(グループの右側のすべてのメンバー)に対してグループが表示される場合、値の合計が次の行として追加されます。

 ノート:

「グループ」オプションにより、ディメンション選択メンバーが基本メンバーのみに制限されます。会社間ディメンション(パートナ・ディメンション)は、自動的にグループとなり、値の合計がエンティティとパートナの組合せごとに導出されます。

### 抑制照合の選択

会社間レポートでは、一連の条件を満たす場合に、特定の差異に関連するデータ・セルや差異自体の表示を抑制できます。データ・セルのデータを抑制すると、そのセルの値は表示されなくなり(空白値)。行の両方の差異が抑制されると、行全体が表示されなくなります。

データを抑制するには、許容差値(金額)またはパーセンテージを指定します。たとえば、エンティティの金額が 299 でパートナ・エンティティの金額が 200 の場合、差異は 99 です。照合許容差の値が 100 で、この例のようにエンティティとパートナの差異が 100 未満の場合は、照合許容差内のためトランザクションが抑制されます。

エンティティ/パートナのトランザクションを抑制しないように選択すると、エンティティおよびパートナの値が照合許容差の値またはパーセントの範囲内にある場合でも抑制されません。前の例では、値の差異が 99 で、照合許容差の範囲内にありますが、トランザクションは抑制されません。照合許容差は単位で表示されます。

次のオプションのいずれか、または両方を使用して照合を抑制できます。

- **許容差値** - 許容差値を入力できます。値は正数にする必要があります。指定した差異の絶対値が許容差値以下の場合、その行で指定した差異に対応する差異、勘定科目および照合勘定のデータ・セルは抑制されます。デフォルトでは、許容差値は 0 です。
- **許容差パーセント** - 許容差パーセントを入力できます。値は、100 以下の正数である必要があります。勘定科目に計上された差異の部分の絶対値を決定します。照合勘定に計上された差異の部分の絶対値を決定します。これらの 2 つの値の最小値を使用して(照合勘定がない場合、勘定科目の部分のみを使用します)、許容差パーセントを適用します。これが許容差パーセント値です。許容差パーセント値が差異の絶対値を超える場合、その行で指定した差異に対応する差異、勘定科目および照合勘定のデータ・セルは抑制されます。

 ノート:

両方のトランザクションのデータが含まれない行は、どの抑制オプションが有効になっているかとは関係なく、自動的に抑制されます。

抑制オプションは、生成されたレポートのヘッダー・セクションに表示されます。

### 表示オプションの選択

レポートの次のデフォルト表示オプションを変更できます。

- **位取り** - 0 から 9 までの値を入力できます。デフォルト値は 0 です。位取りは、各データ・セルに適用されます。たとえば、値が 1000 で位取りが 3 の場合、値は 1 として表示されます。抑制されていないすべてのデータ・セルには、位取りが乗じられます。位取りが適用される前に、計算および抑制操作が実行されます。
- **小数点以下の桁数のオーバーライド** - 小数の小数部分に表示される桁数を指定できます。0 から 6 までの整数を入力できます。デフォルト値は 0 です。

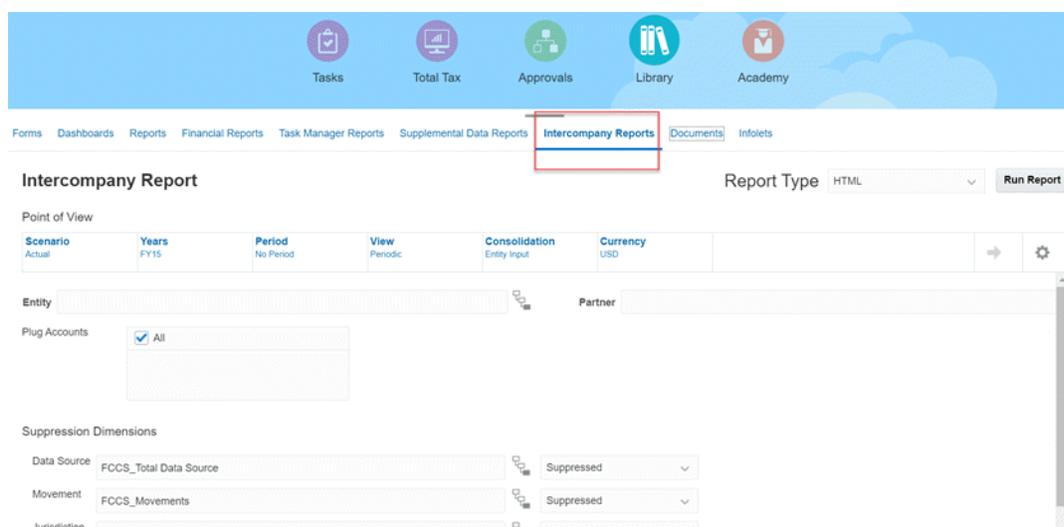
- **メンバー表示** - 名前または説明(あるいはその両方)を使用してメンバーを表示するかどうかを指定します。
- **レポート・タイプ** - HTML、PDF、XSL または XSLX フォーマットでレポートを生成できます。
- **レポート・タイトル** - レポート・タイトルを入力できます。デフォルトのタイトルは、「**会社間レポート**」です。

会社間レポートの作成で概説されているようにレポートを実行します。

## 会社間レポートの作成

会社間レポートを作成するには:

1. ホーム・ページで、「**ライブラリ**」をクリックします。
2. 「**会社間レポート**」をクリックします。



3. 「**視点**」で、「**シナリオ**」、「**年**」、「**期間**」、「**表示**」、「**連結**」および「**通貨**」の各ディメンションについて 1 つのメンバーを選択します。  
通貨はレポート通貨である必要があります。選択したディメンション・メンバーは、生成されるレポートのヘッダー・セクションに表示されます。

### 💡 ヒント:

ディメンション名(「**連結**」や「**ビュー**」など)は、デフォルトで表示されます。ディメンション名を非表示にしてメンバーのみを表示するには、「**アクション**」アイコン  をクリックし、「**ディメンション名の非表示**」を選択します。

4. 「**エンティティ**」および「**パートナー**」で、エンティティ名を入力するか、「**メンバー・セレクタ**」をクリックしてエンティティを選択します。  
エンティティでは、ICP と非 ICP の両方を有効にできます。
5. 「**調整勘定**」で、含める勘定科目を選択するか、「**すべて**」を選択します。
6. 「**抑制ディメンション**」で、メンバーを選択し、抑制オプションを選択します。

- 抑制なし
- 抑制
- グループ

7. 「抑制オプション」で、選択を行います。

- **一致したものを抑制** - クリックしてこのチェック・ボックスを選択します。
- **許容差値** - 値を入力します。
- **許容差パーセント** - パーセンテージを入力します。値は、100 以下の正数である必要があります。

抑制オプションの詳細は、[会社間レポートの設定](#)を参照してください。

8. 「表示オプション」を選択します。

- **レポート・タイトル** - レポート・タイトルを入力するか、デフォルトを使用します。
- **位取り** - 0 から 9 までの値を入力します。
- **小数点以下の桁数のオーバーライド** - 0 から 6 までの整数を入力します。
- **メンバー表示** - 「名前」、「説明」または「両方」を選択します。

9. 「レポート・タイプ」から、使用するフォーマットを選択します。

- HTML
- PDF
- XLS
- XLSX

10. 「レポートの実行」をクリックして、レポートを開くか、保存するかを選択します。

## タスク・マネージャの操作

### 関連トピック

- [タスク・マネージャの概要](#)
- [タスクの操作](#)

## タスク・マネージャの概要

タスク・マネージャは、ビジネス・プロセスの相互依存アクティビティを定義、実行およびレポートするのに役立ちます。すべてのタスクを集中モニタリングし、ビジネス・プロセスの実行を記録するための目に見える自動化された繰り返し可能なシステムを提供します。

次のことが可能です:

- タスクの定義と、最も効率的なタスク・フローを実施するためのスケジューリング
- ビジネス・プロセスの自動化、ステータスの追跡、および通知やアラートの提供
- 延滞、期限日およびステータス変更に関する、ユーザーへの電子メール通知
- ダッシュボードからのビジネス・プロセス・ステータスのモニター
- エラーおよび遅延の迅速な修正
- ビジネス・プロセスの効果の分析

### Example 22-1 ビデオ

目的	参照するビデオ
Oracle Cloud EPM Task Manager の機能、使用される一般的な用語および Oracle Cloud EPM Task Manager の典型的なプロセス・フローを学習します。	 <a href="#">概要: Oracle Cloud EPM のタスク・マネージャ</a>

## タスクの操作

### 関連トピック

- [タスクへのアクセス](#)
- [タスク情報の更新](#)
- [タスクの管理](#)
- [Smart View でのタスクの操作](#)

## Example 22-2 ビデオ

目的	次のビデオを視聴
タスクのセクションをナビゲートして、Oracle Cloud EPM タスク・マネージャの機能について学習します。	 概要: Oracle Cloud EPM タスク・マネージャでのタスクのナビゲート

## タスクへのアクセス

### 関連トピック

- [ホーム・ページからのタスクの表示](#)
- [「スケジュール・タスク」ページからのタスクの表示](#)
- [タスク・マネージャおよび補足データ・マネージャのワークリストの表示](#)

## ホーム・ページからのタスクの表示

ホーム・ページに、自分に割り当てられているタスクのサマリーとそのステータス(「**オープン**」、「**遅延**」、「**本日期限**」または**7日後に期限**)が表示されます。ステータスの左側の数は、そのステータスのタスクの数を示します。管理者が**今後のタスク**・オプションを有効にしている場合は、現在使用可能なアイテムに加えて、今後のワークフローのアイテムも表示できます。「タスクのサマリー」パネルのリンクをクリックすると、「タスク」ページが開き、そこでタスクのリストをさらにフィルタできます。

タスクのリストを**年**と**期間**でフィルタするか、「**すべて**」を選択して、ワークリスト内の任意の年または期間のアイテムを表示できます。

ホーム・ページの「**タスク**」から、次のタスクとその詳細を表示できます。

- 「**ワークリスト**」には、表示を許可されている特定の **POV** のすべてのタスクが表示されます。「ワークリスト」ページのリストの上部、および「サマリー」パネルには、アラートとそのステータスも表示されます。
- 「**補足データ・タスク**」には、補足データ・マネージャ用のタスクが表示されます。
- 「**スケジュール・タスク**」には、タスク・マネージャのタスクが表示されます。
- 「**アラート**」にはアラート・リストが表示され、アラートを作成および操作できます。

### 「タスク・アクション」ページからのタスクの表示

電子メール通知のリンクから起動できる「タスク」ページから、タスクを表示および更新することもできます。

「タスク」ページには、タスクの現在のステータスを示す説明が付いたステータス・アイコンが表示されます。「アラート」ページには、アラートの現在のステータスの説明が付いたステータス・アイコンが表示されます。

## タスク・マネージャおよび補足データ・マネージャのワークリストの表示

ワークリストには、選択したスケジュールまたはテンプレートについて、タスク・マネージャおよび補足データ・マネージャのタスクを含め、表示権限がある、指定した **POV** に関するす

すべてのタスクが表示されます。タスクがリストされ、簡単にフィルタ処理して、関心があるもののみを表示できます。

タスクについて選択された日付を含むスケジュールが管理者によって作成されます。

「すべてのタスク」/「すべてのフォーム」または「個人用タスク」/「個人用フォーム」のステータスのサマリーに加え、タスク/フォームのソースのダッシュボードも表示されます。

ワークリストから、次のタスクを実行できます。

- Excel にエクスポート
- オープン・タスク
- タスクの送信
- タスクの強制クローズまたは中止
- タスクの再割当て

### 検索およびフィルタ機能

リスト内のアイテムを簡単にフィルタするには、「**検索**」フィールドを使用します。日付およびアイコン・ベースの列を除いた、リストに表示されているすべての列が検索されます。たとえば、ユーザーを検索して、そのユーザーが担当者または承認者(タスク・マネージャの場合)および策定者または承認者(補足データ・マネージャの場合)として割り当てられているすべてのアイテムを表示できます。検索では、表示されている列で検索語が見つかったアイテムが戻されます。

特定のフィルタ機能を使用して特定のアイテムにアクセスすることもできます。**フィルタ・バー**を使用するか、「**フィルタの追加**」をクリックして、属性ごとに目的のフィルタを設定します。

ワークリストを表示するには:

1. ホームページで「**タスク**」をクリックします。「**ワークリスト**」をクリックします。
2. **オプション:** 「**検索**」で、次のステップを実行してタスクを特定します。
  - 「タスク」アイコン  をクリックして、「すべてのタスク」と「個人用タスク」の間で表示を切り替えます。
  - 目的のタスクの名前を入力します。ワークリストの**日付**以外の任意のフィールド(テキストまたは数値)で検索できます。
3. **オプション:** フィルタ・バーを非表示または表示するには、「**検索**」アイコンの横にある「**フィルタ**」アイコンをクリックします。すべてのフィルタをクリアするには、フィルタ・バーの右側にある  をクリックします。
4. **オプション:** 画面の右上にあるドロップダウンを使用して、ワークリストを管理する際に使用するフィルタを選択します:
  - **タイプ**
  - **名前**
  - **説明**
  - **ステータス(詳細)**
  - **ステータス**
  - **個人用終了日**

5. **オプション:** 次のディメンション名をクリックして POV を変更します。
- 年
  - 期間
  - 期限: (「何も選択されていません」、「遅延」、「7 日間」または「今日」)
  - ステータス: (「何も選択されていません」、「クローズ済」、「オープン」または「保留中」)
  - ソース: (「アラート」、「タスク」、「フォーム」、「仕訳」、「再割当要求」)

 **ノート:**

複数のオプションを追加するには、複数のエントリをクリックします。選択したエントリをリストから削除するには、それを再度クリックします。

6. **オプション:** タスクの横にある  をクリックして、選択したタスクを開き、その詳細を表示します。「プロパティ」、「指示」、「アラート」など、アイコンを選択してオプションを追加または変更します。
7. 「アクション」で、次のいずれかのアクションを実行できます。
- **タスクの送信。** [タスクの送信](#) を参照してください。
  - **タスクの中止:** 後続タスクに進まずに、プロセスの進行を続けるために、強制クローズを実行するのではなく、タスクを取り消します:
    - 「終了時に開始」または「エラー終了時に開始」の先行タスクが取り消された場合、その後続タスクは保留中のままです。プロセスの進行を続けるには、後続タスクを編集して、取り消された先行タスクを削除し、後続タスクを開始する必要があります。
    - 「終了時に終了」または「エラー終了時に終了」の先行タスクを取り消した場合、プロセスの進行を続けるには、タスク所有者、スケジュール所有者または管理者が後続タスクを強制的にクローズする必要があります。
  - **タスクの強制クローズ:** ステータスが「オープン」または「エラー」のタスクを強制的に「クローズ」ステータスにします。
  - **再割当の要求:** 一時的または永久にタスクを別のユーザーに再割当てします。
  - **リフレッシュ**

## 「スケジュール・タスク」ページからのタスクの表示

「スケジュール・タスク」ページから、タスクを検索およびフィルタできます。データを視覚的に表示したり、データを行と列で表示するように、ビューを変更できます。

「スケジュール・タスク」ページからタスクを表示するには:

1. ホーム・ページで「タスク」をクリックし、左側の「スケジュール・タスク」タブをクリックします。
2. **オプション:** 「検索」に、目的のタスクの名前を入力します。日付およびアイコン・ベースの列を除いた、リストの列全体が検索されます。
3. タスクの**スケジュール**を選択します。  
同じ POV を使用している複数のスケジュールを選択すると、その POV に関するすべてのスケジュールのすべてのタスクが表示されます。

4. **オプション:** フィルタを作成してタスクを表示します。 [フィルタの操作](#)を参照してください。
5. **オプション:** ディメンション名の下を選択をクリックして **POV** を変更し、有効な値を表示します。

#### ノート:

複数のオプションを追加するには、複数のエントリをクリックします。選択したエントリをリストから削除するには、それを再度クリックします。

6. **オプション:** 画面の右側にある  アイコンをクリックしてビューを選択します。 [ビューの操作](#)を参照してください
7. 選択されたタスクを確認します。

## タスク情報の更新

「オープン」ステータスのタスクの情報を更新できます。質問への回答、コメントの追加、および参照の添付が可能です。ステータス、優先度、所有者、担当者、スケジュール、開始日と終了日、指示、サポート・ドキュメントまたは **Web** リンク、およびワークフローを表示することもできます。ワークフローには、タスクの承認チェーンが表示され、ユーザー名、アクセス役割(担当者または承認者)、ステータスおよびユーザーがアクションを実行した日付が表示されます。管理者がリンクのある参照に指示を含めた場合は、タスクに直接リンクできます。

### 関連トピック

- [タスク・プロパティの表示](#)
- [指示の表示](#)
- [タスク・アラートの表示](#)
- [タスクのチーム・ワークフローの表示](#)
- [タスクの属性の表示](#)
- [タスクの質問の表示](#)
- [タスクに対するコメントの追加](#)
- [関連タスクの表示](#)
- [パラメータの表示](#)
- [タスク履歴の表示](#)

## タスク・プロパティの表示

特定のタスクのタスク・プロパティを表示するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」、「**スケジュール・タスク**」の順にクリックします。
2. タスクをダブルクリックしてオープンします。
3. 右側の「**プロパティ**」タブをクリックします。

**Properties**

<b>Name</b>	01 Consolidation Process Kick Off
<b>Task ID</b>	01_Admin
<b>Status</b>	Open
<b>Schedule</b>	June close
<b>Schedule Status</b>	Open
<b>Priority</b>	Medium
<b>Task Type</b>	Parent Task

**Owner**  Casey Brown

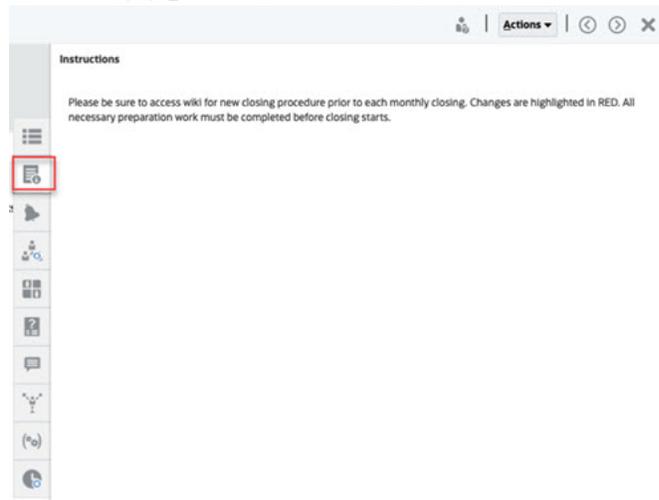
**Start Date** Apr 10, 2020 7:00 PM  
**End Date** Apr 30, 2020 8:00 PM  
**Duration** 20 days, 1 hour

**Actual Start Date** Jun 15, 2020 9:38 PM  
**Actual End Date**  
**Actual Duration**

## 指示の表示

特定のタスクのタスクの指示を表示するには:

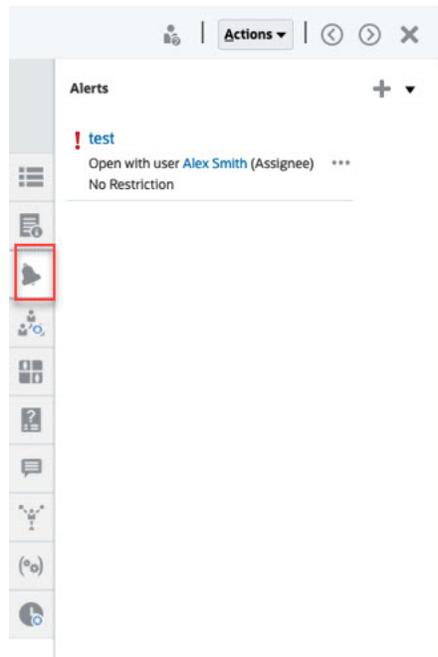
1. ホーム・ページで、「**タスク**」、「**スケジュール・タスク**」の順にクリックします。
2. タスクをダブルクリックしてオープンします。
3. 右側の「**指示**」タブをクリックします。



## タスク・アラートの表示

特定のタスクのアラートを表示するには:

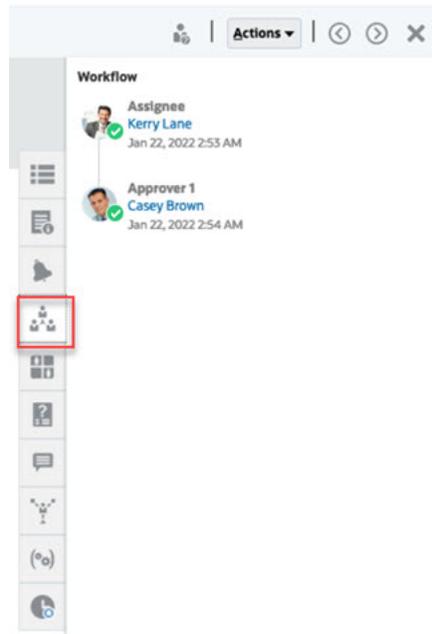
1. ホーム・ページで、「**タスク**」、「**スケジュール・タスク**」の順にクリックします。
2. タスクをダブルクリックしてオープンします。
3. 右側の「**アラート**」タブをクリックします。  
関連項目: [アラートの操作](#)



## タスクのチーム・ワークフローの表示

特定のタスクのワークフローを表示するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」、「**スケジュール・タスク**」の順にクリックします。
2. タスクをダブルクリックしてオープンします。
3. 右側の「**ワークフロー**」タブをクリックします。



チームは、タスク・マネージャで定義されたメンバーのリストです。チームをタスクの役割に割り当てると、チームのユーザーはいずれもそのタスクの役割を実行できるようになります。

### タスクの請求

チームまたはグループに**担当者**の役割が割り当てられている場合、メンバーがタスクを請求すれば、グループまたはチームのメンバーはいずれもタスクを操作および送信できます。請求前に、メンバーは暗黙的な参照者アクセス権を持っている必要があります。

チームに**「承認者」**の役割が割り当てられている場合、チームのメンバーはいずれも、タスクを最初に請求しなくてもタスクを承認できます。ただし、チームのメンバーはいずれもタスクを請求できるため、そのタスクが解放されるまで他のチーム・メンバーによる承認は妨げられます。

タスクが請求された後も、チームの他のメンバーはそのタスクを請求する権限があります。これを行うと、最初のユーザーの請求が終了するため、そのユーザーが役割機能を実行する権限は取り消され、最新の請求を行う権限がメンバーに付与されます。このようにタスクの請求を他のチーム・メンバーとは別々に行えることは、請求が行われたが、その請求を行ったユーザーが(たとえば、不測の欠席のために)役割機能を完了できない場合に対応するために必要です。

### 次の実行者のアクションが必要

担当者または承認者の役割を割り当てる際、**「次の実行者のアクションが必要」**オプションを使用してタスクのサインオフ要件を指定できます。タスクが送信または承認される前にチーム・メンバー全員がタスクをサインオフするように要求できます。あるいは、どのチーム・メンバーもタスクを送信または承認できるように許可できます。

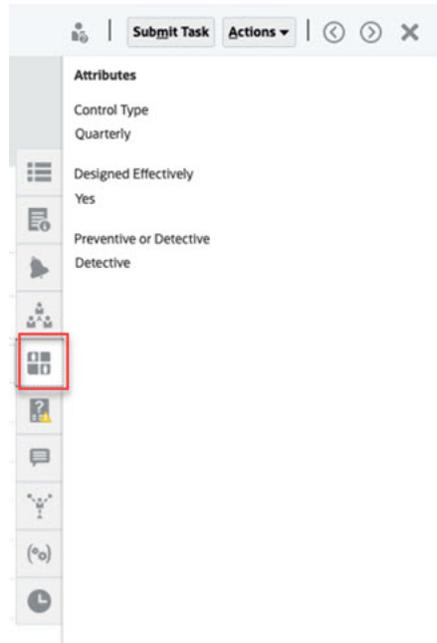
### プライマリ・ユーザー

必要に応じて、チームのプライマリ・ユーザーとして1人のチーム・メンバーを割り当てることができます。プライマリ・ユーザーを割り当てる場合、そのユーザーには、チームが担当者または承認者として割り当てられているタスクに対する請求が、デフォルトで付与されます。

## タスクの属性の表示

特定のタスクの属性を表示するには:

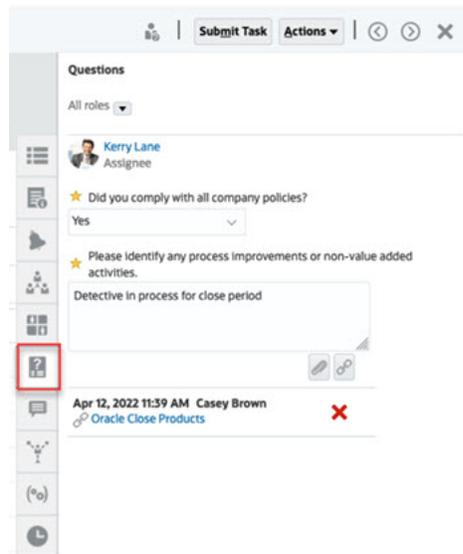
1. ホーム・ページで、「タスク」、「スケジュール・タスク」の順にクリックします。
2. タスクをダブルクリックしてオープンします。
3. 左側の「属性」タブをクリックします。



## タスクの質問の表示

特定のタスクの質問を表示して回答するには:

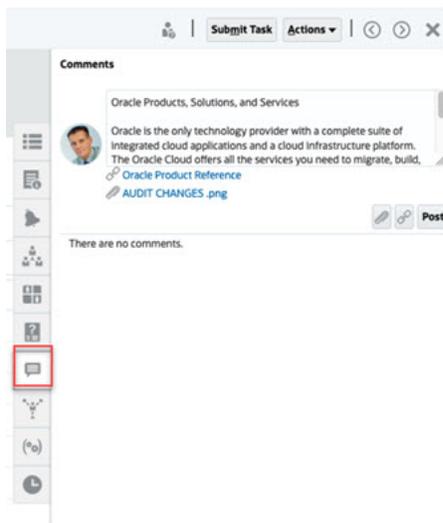
1. ホーム・ページで、「タスク」、「スケジュール・タスク」の順にクリックします。
2. タスクをダブルクリックしてオープンします。
3. 右側の「質問」タブをクリックします。



## タスクに対するコメントの追加

特定のタスクのコメントを表示するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」、「**スケジュール・タスク**」の順にクリックします。
2. タスクをダブルクリックしてオープンします。
3. 右側の「**コメント**」タブをクリックします。



### コメント追加

「**タスク**」ページから、タスクに関するコメントを追加できます。参照を添付することもできます。「**タスク**」ページから一度に複数のタスクに参照ファイルまたは URL を追加し、コメントを作成することもできます。

次の表では、アクティビティのステータスおよび役割に基づいて実行できるアクティビティを説明します:

#### Note:

あるタスクに対して同じアクセス役割を持つユーザーは、互いのコメントを作成、削除および管理できます。

Table 22-1 役割およびステータスに基づく権限

役割	ステータス: オープン (担当者)	ステータス: オープン (承認者)	ステータス: クローズ済
担当者	<ul style="list-style-type: none"> <li>コメントを追加可能</li> <li>自分のレベルのコメントを削除可能</li> <li>自分が作成したコメントを削除可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コメントを追加可能</li> <li>自分が作成したコメントを削除可能</li> </ul>	コメントを追加可能

Table 22-1 (Cont.) 役割およびステータスに基づく権限

役割	ステータス: オープン (担当者)	ステータス: オープン (承認者)	ステータス: クローズ済
承認者	<ul style="list-style-type: none"> <li>コメントを追加可能</li> <li>自分が作成したコメントを削除可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コメントを追加可能</li> <li>自分のレベルのコメントを削除可能</li> <li>自分が作成したコメントを削除可能</li> </ul>	コメントを表示可能
管理者、スケジュール所有者またはタスク所有者	<ul style="list-style-type: none"> <li>コメントを追加可能</li> <li>すべてのコメントを削除可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コメントを追加可能</li> <li>すべてのコメントを削除可能</li> </ul>	コメントを追加可能
参照者	<ul style="list-style-type: none"> <li>コメントを追加可能</li> <li>自分が作成したコメントを削除可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コメントを追加可能</li> <li>自分が作成したコメントを削除可能</li> </ul>	コメントを表示可能

 **Note:**

- 添付はタスク・マネージャのコメントに関連付けられている必要があるため、ローカル・ファイルまたは URL を複数のタスクに一括アップロードするとコメントが作成されます。
- ユーザーが自分のコメントを削除できるようにするには、管理者が「**コメントの削除を許可**」設定をオンに切り替えて、これを許可しておく必要があります。あるタスクに対して同じ役割を持つユーザーは、互いのコメントを作成、削除および管理できます。

*Tax Reporting* の管理のコメントの削除の許可を参照してください

**コメントを追加するには**

コメントを追加する手順は次のとおりです:

- ホーム・ページから、「**タスク**」を選択してタスクとその詳細を表示します。
- ワークリストから、または「スケジュール・タスク」内からタスクを選択します。「**アクション**」をクリックした後、「**オープン**」を選択するか、リスト・ページでタスクをダブルクリックします。

 **Note:**

選択したタスクは、「**保留中**」ではなく「**オープン**」ステータスである必要があります。

- 「**コメント**」タブをクリックします。
- テキスト・ボックスに、コメントを入力します。

 **Note:**

コメントを削除するには、コメントを選択して「**削除**」をクリックするか、「**アクション**」を選択して「**コメントの削除**」をクリックします。

5. **オプション:** 外部ファイルまたは Web ページの添付をコメントに追加するには、次のいずれかのオプションを選択します。
  - 「**ファイルの添付**」(ペーパークリップ・アイコン)をクリックし、添付ファイルとするファイルを一覧して選択します。
  - 「**リンクの添付**」(リンク・アイコン)をクリックし、添付の URL および名前を追加します。
6. 「**OK**」をクリックします。

 **Note:**

複数のタスクに添付(ファイルまたは URL)を一度に追加する場合は、「**スケジュール・タスク**」ビューからこのアクションを実行します。1 行以上を強調表示するか、[Shift] キーを使用してタスクを選択することで、必要なタスクを選択します。その後、「**アクション**」、「**参照の追加**」の順にクリックし、「**ファイル**」または「**URL**」を選択します。

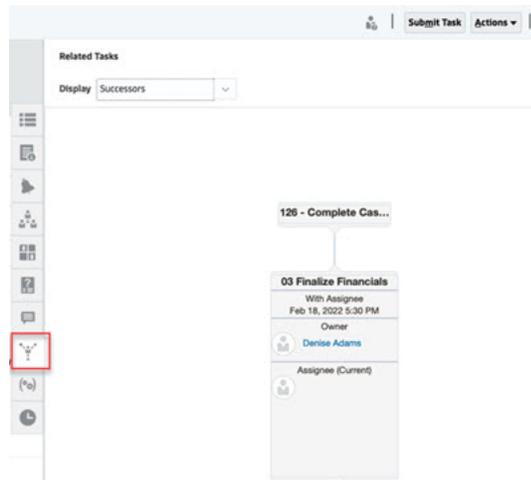
## 関連タスクの表示

「**関連タスク**」セクションでは、あるタスクの先行タスクと後続タスクを表示できます。先行タスクおよび後続タスクでは、依存タスクのタスク担当者およびタスク所有者が表示されます。

関連タスクには、他のスケジュールにおける前のタスク実行も表示されます。これにより、前のタスクのコメントまたは参照を表示できるため、現在のタスク実行を完了する場合に役立ちます。「**前のタスク**」リストで、タスク名をクリックしてそのタスクの「**タスク・アクション**」ダイアログ・ボックスを表示し、タスクを別のユーザーに再割当てできます。

関連タスクを表示するには:

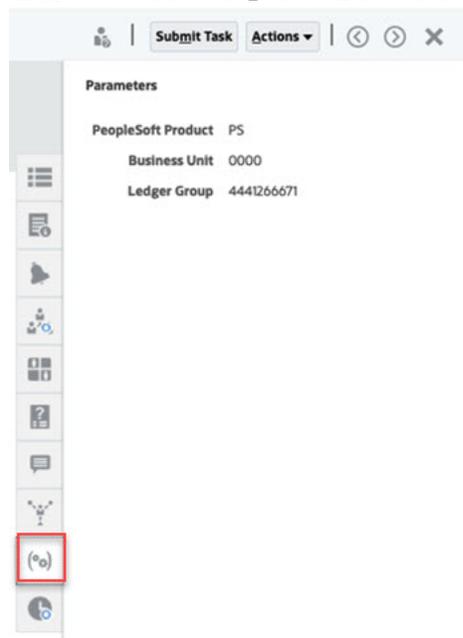
1. ホーム・ページで、「**タスク**」、「**スケジュール・タスク**」の順にクリックします。
2. タスクをダブルクリックしてオープンします。
3. 右側の「**関連タスク**」タブをクリックします。
4. 「**表示**」から、「**先行**」または「**後続**」を選択します。
5. オプション: 前のタスク実行に関する情報を表示するには、「**前のタスク**」リストでタスクをクリックします。
6. オプション: タスクを再割当てするには、「**再割当**」をクリックし、タスクを割り当てる対象のユーザーを選択します。
7. 終了したら、「**閉じる**」をクリックします。



## パラメータの表示

特定のタスクのパラメータを表示するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」、「**スケジュール・タスク**」の順にクリックします。
2. タスクをダブルクリックしてオープンします。
3. 右側の「**パラメータ**」タブをクリックします。



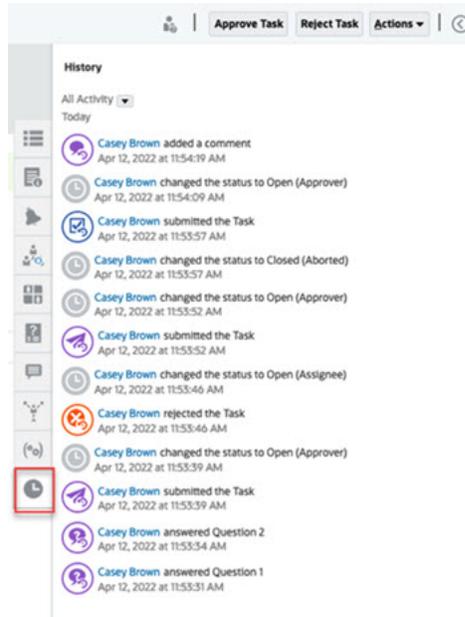
## タスク履歴の表示

システムでは、「履歴」ページから表示できるタスク・アクティビティの履歴がメンテナンスされます。タスク履歴には、更新されたコンポーネント、追加、作成、変更などの変更タイプ、古い値と新規の値、変更を行ったユーザーおよび変更日が表示されます。この情報は読取り専用です。

特定のタスクのタスク履歴を表示するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」、「**スケジュール・タスク**」の順にクリックします。

2. タスクをダブルクリックしてオープンします。
3. 右側の「履歴」タブをクリックします。
4. ページの右上から、履歴のビューを選択します。リスト・ビュー  には、基本情報のみをリストした履歴の時系列が表示され、表ビュー  にはすべての値がリストされます。
5. 時間枠を選択して、すべてのアクティビティ、今日または過去7日間の履歴を表示します。
6. 終了したら、「閉じる」をクリックします。



## タスクの管理

### 関連トピック

- [タスクの送信](#)
- [タスクの承認または却下](#)
- [タスクの再割当て](#)
- [タスクの取消し](#)
- [タスクの「クローズ」ステータスへの強制設定](#)

## タスクの送信

タスクに必要なアクションが完了したら、タスクを送信して、ワークフローに沿って次の担当者に移します。

タスクを送信するには:

1. 送信する必要のあるタスクを選択します。  
複数のタスクを選択するには、**[Ctrl]**を押しながら複数のタスクを選択するか、**[Shift]**を押しながら目的の範囲の最初と最後の行をクリックします。
2. 「送信」をクリックするか、「アクション」、「送信」の順に選択します。

3. 「はい」をクリックして送信を確定します。送信したタスクは編集できなくなります。
4. エラーを確認し、「OK」をクリックします。

## タスクの承認または却下

タスクを承認または却下するには:

1. ホーム・ページで、「タスク」、「スケジュール・タスク」の順にクリックします。
2. タスクをダブルクリックしてオープンします。
3. 次のいずれかのタスク・アクションを実行します。
  - 右クリックして、「承認」または「却下」を選択します。
  - 「アクション」パネル: 「ステータスの設定」から、「承認」または「却下」を選択します。
  - 「アクション」メニュー: 「承認」または「却下」をクリックします。確認のダイアログ・ボックスで、「はい」をクリックします。
4. エラーを確認し、「OK」をクリックします。

## タスクの請求またはリリース

タスク・マネージャでは、単一タスクまたは複数のタスクを一度に請求およびリリースできます。グループまたはチームの割当によってタスクに関連付けられているユーザーは、タスクを請求またはリリースできます。

タスクが請求された後でも、チームの他のメンバーはそのタスクを請求できますが、これを行うと、最初のユーザーの請求が終了するため、そのユーザーが役割機能を実行する権限は取り消され、最新の請求を行ったユーザーに権限が付与されます。

このようにタスクの請求を別のユーザーから行えることは、請求が行われたが、その請求を行ったユーザーが(欠席などのために)役割機能を完了できない場合に対応するために必要です。

タスクが請求されると、担当者はチームまたはグループから請求者になります。

タスクがリリースされると、担当者はリリースした人からチームまたはグループになります。

チーム・メンバーがタスクを請求する前は、チーム全体に電子メール通知が送信されます。チーム・メンバーがタスクを請求すると、チーム・メンバー全員ではなく、そのアクティブなユーザーに電子メールが送信されます。

### Note:

サービス管理者によってバルク更新機能が有効化されている場合は、複数のタスクを一度に請求またはリリースできます。

### タスクのアクション・メニューを使用したタスクの請求またはリリース

タスクの「アクション」メニューからタスクを請求またはリリースするには:

1. ホーム・ページで、「タスク」、「スケジュール・タスク」の順にクリックします。
2. 請求またはリリースするタスクをクリックするか、タスクを選択して「開く」アイコンをクリックします。

3. 「アクション」メニューで、「請求」または「リリース」をクリックします。確認を求めるポップアップ・メッセージが表示されます。
4. 「はい」をクリックします。タスクが正常に請求またはリリースされたことを示す確認メッセージが表示されます。
5. 「閉じる」をクリックして、ダイアログ・ボックスを閉じます。
6. エラーを確認して修正し、同じステップを再度実行して、タスクを請求またはリリースします。

### タスク・リストからのタスクの請求またはリリース

タスク・リストからタスクを請求またはリリースするには:

1. ホーム・ページで、「タスク」、「スケジュール・タスク」の順にクリックします。
2. 請求またはリリースするタスクを選択します。複数選択する場合、1つ1つ選択するには[Ctrl]を押し、ある範囲を選択するには、[Shift]を押しながら、その範囲の最初と最後をクリックします。選択したタスクが強調表示されます。
3. 「アクション」で「更新」をクリックし、「請求」または「リリース」をクリックします。確認を求めるポップアップ・メッセージが表示されます。
4. 「はい」をクリックします。「タスク・アクションの結果」ダイアログ・ボックスに、ステータス、選択したタスクの数、考慮したタスク、正常に処理されたタスクおよび失敗したタスクに関する情報が表示されます。ステータスは次のとおりです:
  - 処理中
  - 正常に完了
  - エラーで完了

視覚的なインジケータに完了率が表示されます。正常に処理されなかったタスクについては、ダイアログ・ボックスにエラーが表示されます。「Excel にエクスポート」アイコンをクリックし、表示されたエラーを Excel ファイルにエクスポートできます。

5. 「閉じる」をクリックして、ダイアログ・ボックスを閉じます。
6. エラーを確認して修正し、同じステップを再度実行して、タスクを請求またはリリースします。

## タスクの再割当て

タスク担当者は、他のユーザーにタスクを再割当てできます。たとえば、担当者が休暇で仕事を休む予定がある場合、担当者は自分のタスクを別のユーザーに再割当てできます。

タスクが再割当てされると、再割当てされたユーザーに電子メールの通知がすぐに送信されません。

### ノート:

「再割当ての要求」は、タスクを編集して別の担当者または承認者に割り当てることができる管理者やタスク所有者以外のユーザー向けに用意されています。

タスクを再割当てするには:

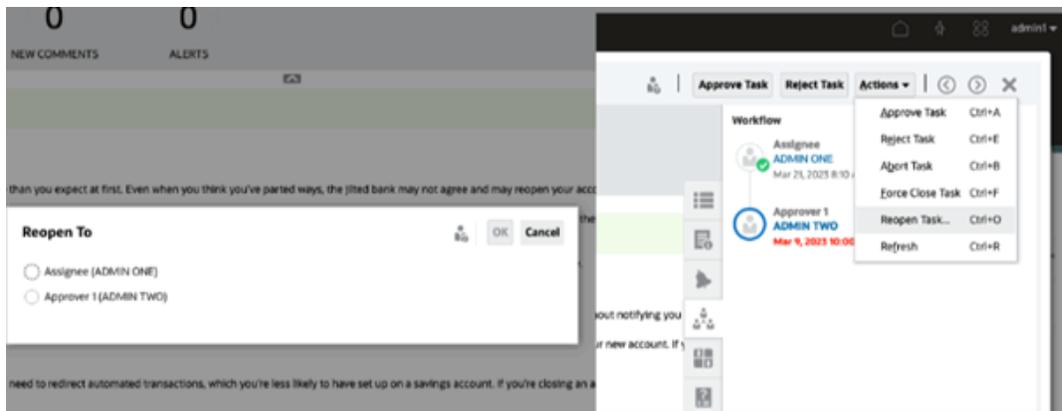
1. ホーム・ページで、「タスク」、「ワークリスト」の順にクリックします。
2. 「ワークリスト」で、責任を再割当てするタスクを選択します。
3. 選択したタスクのページで、「アクション」を選択し、「再割当ての要求」をクリックします。
4. 「対象ユーザー」の「ユーザーの選択」をクリックして、タスクの責任を負うユーザーを選択します。
5. 「再割当て」で、適切なオプションを選択します。
  - 選択したタスクのみ
  - 選択したタスクおよび将来のタスク(責任を永久的に移譲する場合)。
  - 「理由」に責任移譲の理由(休暇や役割の移譲など)を入力します
6. 「OK」をクリックします。

## タスクを再度開く

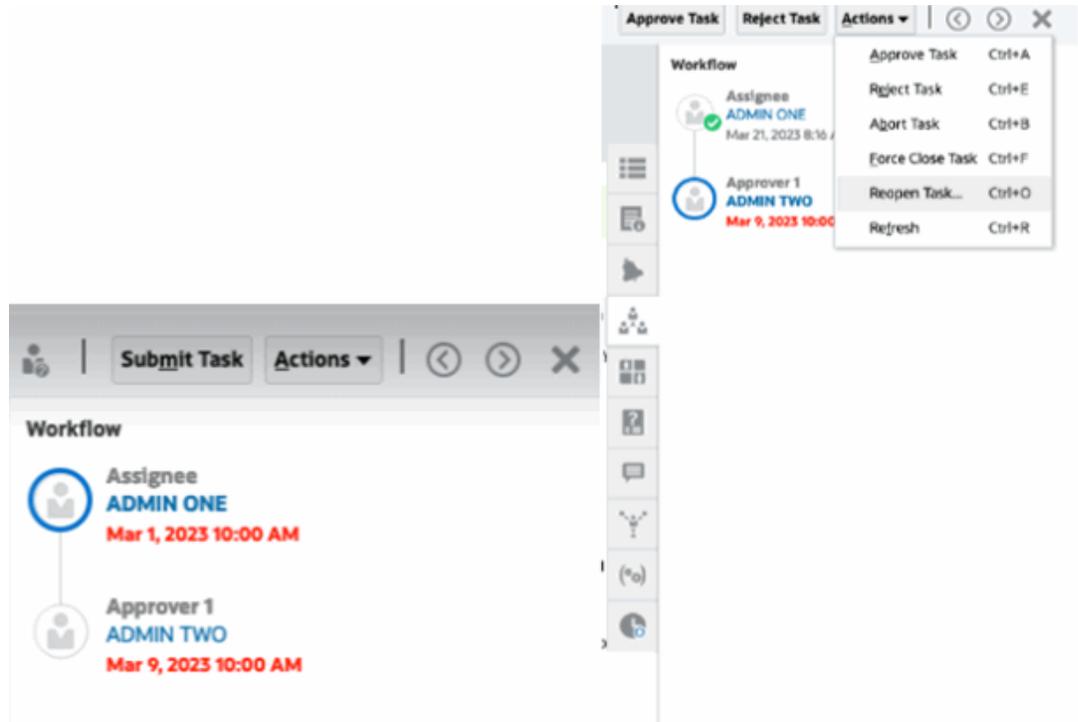
管理者とパワー・ユーザーは、クローズ済タスクとオープン・タスクを再度開くことができます。管理者が権限を付与すると、担当者や承認者などの他のユーザーもワークフロー内のタスクを再度開くことができます。*Financial Consolidation and Close* の管理のタスク・マネージャ・システム設定の管理を参照してください。

### 管理者およびパワー・ユーザー:

- タスクがクローズ済の場合、タスクを開くためのワークフロー・レベルのオプションが表示されます。たとえば、担当者が ADMIN ONE で、承認者 1 が ADMIN TWO であるタスクを再度開いた場合、ワークフローを ADMIN ONE または ADMIN TWO に戻すオプションが表示されます。



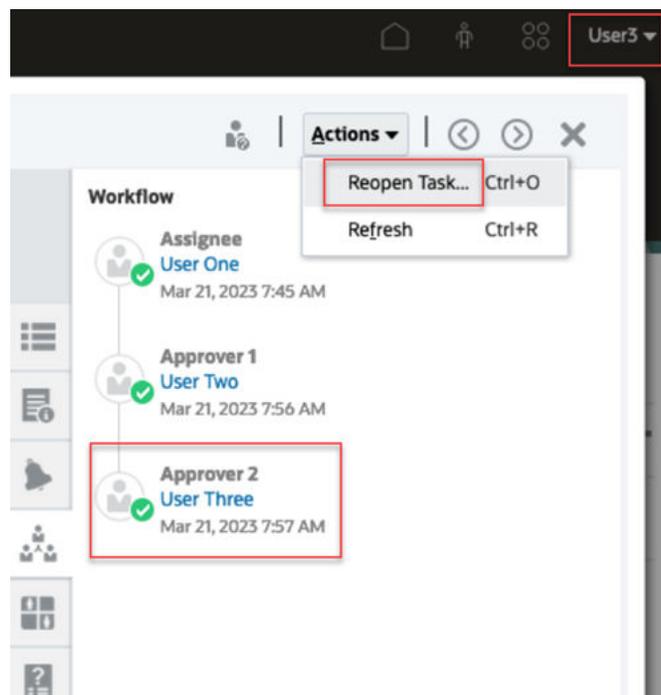
- タスクがオープンの場合、ワークフローの 1 レベルが元に戻されます。たとえば、タスクが ADMIN TWO に対してオープンである場合、再度開くと、ADMIN ONE に戻されます。



*Financial Consolidation and Close* の管理のタスクを再度開くおよび手動タスクおよび自動タスクの再開も参照してください。

**ユーザー:**

タスクがクローズ済か、後のワークフロー・ステージに対してオープンかに関係なく、ユーザーのワークフローに対して再度オープンします。たとえば、タスクがオープンであり、現在承認者 2 がいて、ユーザー 2 がそれを再度オープンした場合、タスクは「オープン(承認者)」1 に戻ります。ユーザー 1 がそれを再度開くと、「オープン(担当者)」に戻ります。



## タスクの取消し

タスク所有者およびサービス管理者は、実行中のタスクをいつでも停止できます。タスクを取り消すと、そのタスクのステータスは「クローズ済」に変わります。先行タスクがある保留中のタスクは、実行できません。タスクのシーケンスがあり、そのシーケンス全体を取り消す場合は、シーケンスの最初のタスクを取り消します。

実行中のタスクを取り消すには:

1. タスク・リストから、停止するタスクを選択します。
2. 「プロパティ」タブで、「アクション」、「中止」の順に選択します。

## タスクの「クローズ」ステータスへの強制設定

タスク所有者またはサービス管理者である場合、タスクを停止してその他のタスクの実行を許可するには、「オープン」または「エラー」ステータスのタスクを強制的に「クローズ済」ステータスにできます。たとえば、エラーの自動タスクがあり、そのタスクのエラーを確認した後、後続のタスクを実行するには、強制的に「クローズ済」ステータスにできます。

### ヒント:

後続のタスクを開始しない場合は、タスクを強制的にクローズする前に先行タスクのリンクを削除します。

タスクを強制的に「クローズ」ステータスに設定するには:

1. タスク・リストから、クローズするタスクを選択します。
2. 「プロパティ」ページで、「アクション」を選択し、「タスクの強制クローズ」をクリックします。

タスクのステータスが「クローズ済」に変わります。

## Smart View でのタスクの操作

### 関連トピック

- [Smart View 拡張機能への接続の作成](#)
- [Smart View からのタスクの更新](#)

## Smart View 拡張機能への接続の作成

Oracle Smart View for Office を使用してワークリストに接続し、Excel でタスク・マネージャおよび補足データ・マネージャのタスクを更新できます。

拡張機能で使用するプライベート接続を作成する必要があります。

 ノート:

開始する前に、Smart View とタスク・マネージャおよび補足データ・マネージャ用の Smart View 拡張機能がインストールされていることを確認してください。管理者用スタート・ガイドのクライアントのダウンロードおよびインストールを参照してください。

拡張機能への接続を作成するには:

1. Smart View パネルで、「**プライベート接続**」を選択し、パネルの下部にある「**新規接続の作成**」を選択します。
2. プロンプトが表示されたら、「**Smart View HTTP プロバイダ**」を選択して、**接続の追加**ウィザードを表示します。  
ウィザードでは一度に 1 つずつ接続を作成できます。
3. 「**接続の追加 - URL**」で、プライベート接続を次の構文で入力し、「**次**」をクリックします。
  - タスク・マネージャの場合:  
`http(s)://serviceURL/HyperionPlanning/cm/svp`
  - 補足データ・マネージャの場合:  
`http(s)://serviceURL/HyperionPlanning/sdm/svp`
  - プロンプトが表示されたら、ログイン資格証明(サインインに使用するドメイン名、ユーザー名およびパスワード)を入力します。
  - 「**接続の追加 - アプリケーション/キューブ**」で、使用するアプリケーションおよびデータベースに移動し、それを選択して「**次**」をクリックします。
  - 「**接続の追加 - 名前/説明**」で、接続の名前とオプションの説明を入力します。
  - 「**終了**」をクリックします。
  - 別の接続を作成するには、これらのステップを繰り返します。  
次のトピックを参照してください。
    - [Smart View からのタスクの更新](#)
    - [Smart View での補足データ・フォームの更新](#)

## Smart View からのタスクの更新

Oracle Smart View for Office を使用すると、タスク・マネージャのタスクとスケジュールを直接操作できます。

選択した期間のスケジュールとタスクが表示されます。表示されるのは、自分に権限があるタスクとスケジュールのみです。これはワークリストの**自分のタスクの表示**ビューであるため、表示できるすべてのタスクが表示されるわけではありません。「承認」や「却下」などのオプションは、現在の役割(担当者、策定者、承認者など)に応じて変わります。複数の役割が付与されている場合、異なる操作を実行するには、特定の役割でログインする必要がある可能性があります。

 ノート:

開始する前に、**Smart View** とタスク・マネージャ用の **Smart View** 拡張機能をインストールし、拡張機能で使用するプライベート接続を作成する必要があります。*管理者用スタート・ガイド*のクライアントのダウンロードおよびインストールおよび **Smart View** 拡張機能への接続の作成を参照してください。

リストでスケジュールをクリックすると、現在作業しているタスクのリストが表示されます。タスクが送信または承認されると、リストに表示されなくなります。

使用可能なアクションは、ユーザーの役割によって異なります:

- **担当者:** タスクの送信
- **承認者:** タスクの承認と却下
- **担当者または承認者:** タスクの再割当て

未完了のタスク(最初に質問に回答しておく必要があるなど)を送信した場合は、タスクの送信時に検証エラーが表示されます。そのタスクまたは行をダブルクリックすると、タスクをオープンして完了することが可能です。

**Smart View** の操作の詳細は、*Oracle® Smart View for Office ユーザーズ・ガイド*を参照してください。

**Smart View** からタスクを更新するには:

1. Excel を起動し、「**Smart View**」タブ、「**パネル**」の順に選択します。
2. **Smart View** パネルで、「**プライベート接続**」を選択します。
3. 「**プライベート接続**」パネルで、ドロップダウン・メニューから「**タスク・マネージャ**」接続を選択します。
4. プロンプトが表示されたら、ログイン資格証明(サインインに使用するドメイン名、ユーザー名およびパスワード)を入力します。
5. 「**プライベート接続**」で、スケジュールを選択します。
6. 次の方法でタスクを開くことができます:
  - 「**名前**」の下の、表示したいタスクをダブルクリックして「**タスク**」ダイアログを開きます。
  - 「**タスク・マネージャ**」リボン、またはスケジュール・シート内の新しい「**クイック・アクション**」列にある、次のオプションを使用します:
    - **開く:** タスクの詳細を「**タスク**」ダイアログで開きます。このオプションは、スケジュール・シート内のタスクの行をダブルクリックして「**タスク**」ダイアログを起動するという方法のかわりに使用できます。統合されたタスクの場合は、「**タスク**」ダイアログ内のタスクの詳細に埋め込まれたタスクのリンクを使用して、関係するタスクに移動します。
    - **ブラウザで開く:** 統合されたタスクを、ブラウザ内の **Web** アプリケーションで開きます。現在のセッションでまだ **Web** アプリケーションにログインしていない場合は、1 回かぎりの要件として接続を確立してログインするための画面が表示されます。それ以降は、統合されたタスクを直接ブラウザで開いて、タスクの詳細を表示し、必要なアクションを実行できます。

- **Excel で開く**: 埋め込まれたアーティファクト (たとえばフォームやダッシュボード) を Excel で開きます。フォームは同じワークブック内の新しいワークシートで開き、ダッシュボードは新しいワークブックで開きます。
7. 選択したタスクに対して、該当するオプションを選択します。
- **タスクの送信**
  - **承認**
  - **却下**
  - **タスクの再割当て**

# 補足データの操作

## 次も参照:

- [補足データ・プロセスの概要](#)
- [補足データ・フォームの操作](#)
- [「補足データ分析」ダッシュボードでのデータの表示](#)
- [収集へのデータのバルク・ロード](#)

## 補足データ・プロセスの概要

補足データ・マネージャを使用することで、補足データ(通常は財務トランザクション)の編成、更新、編集および管理を行うことができます。これは、脚注、開示、サポート詳細に役立つ堅牢でアド・ホックなデータ収集プロセスです。

1. ユーザーは、フォームをワークリストから開き(**ホーム・ページ** -> **「タスク」** -> **「ワークリスト」**)、次のタスクを実行できます:
  - 期間がオープンしたら、データを手動でロードするか、**CSV** ファイルを使用してフォーム・データをインポートします。ユーザーは、コメントの入力や質問への回答など、実行する必要があるアクションに対応することもできます。
  - 検証を実行し、データが正しいことを確認します。
  - 承認のためにデータを送信します。
2. 承認者を割り当てられたユーザーはデータを確認して承認するか、却下します(承認に複数のレベルが存在する場合があります)。
3. ユーザーは、データが承認されたら(ワークフロー・オプションにより異なります)、要約されたデータを表示してデータを転記します。

Oracle Smart View for Office の「**補足データ**」オプションを使用して、データ収集プロセスを管理したり、補足データ・フォームを操作することもできます。最初に、補足データ・マネージャ用 **Smart View** 拡張機能をインストールする必要があります。拡張機能をインストールするには、*管理者用スタート・ガイド*のクライアントのダウンロードおよびインストールを参照してください。

## 補足データ・フォームの操作

### 関連トピック:

- [補足データ・フォームへのアクセス](#)
- [補足データ・フォームの更新](#)
- [補足データ・フォームの管理](#)
- [Smart View での補足データ・フォームの操作](#)
- [「補足データ分析」ダッシュボードでのデータの表示](#)

- [収集へのデータのバルク・ロード](#)

## 補足データ・フォームへのアクセス

### 関連トピック:

- [ホーム・ページからの補足データ・フォームの表示](#)
- [タスク・マネージャおよび補足データ・マネージャのワークリストの表示](#)
- [補足データ・タスクからのフォームの表示](#)

## ホーム・ページからの補足データ・フォームの表示

ホーム・ページに、自分に割り当てられているフォームのサマリーとそのステータス(「**オープン**」、「**遅延**」、「**本日期限**」または**7日後に期限**)が表示されます。ステータスの左側の数は、そのステータスのタスクの数を示します。

フォームのリストを**年**と**期間**でフィルタするか、「**すべて**」を選択して、ワークリスト内の任意の年または期間のアイテムを表示できます。

ホーム・ページの「**タスク**」から、次のタスクとその詳細を表示できます。

- 「**ワークリスト**」には、表示を許可されている特定の **POV** のすべてのタスクが表示されます。「ワークリスト」ページのリストの上部、および「サマリー」パネルには、アラートとそのステータスも表示されます。
- 「**補足データ・タスク**」には、補足データ・マネージャ用のタスクが表示されます。
- 「**スケジュール・タスク**」には、タスク・マネージャのタスクが表示されます。
- 「**アラート**」にはアラート・リストが表示され、アラートを作成および操作できます。

## タスク・マネージャおよび補足データ・マネージャのワークリストの表示

ワークリストには、選択したスケジュールまたはテンプレートについて、タスク・マネージャおよび補足データ・マネージャのタスクを含め、表示権限がある、指定した **POV** に関するすべてのタスクが表示されます。タスクがリストされ、簡単にフィルタ処理して、関心があるもののみを表示できます。

タスクについて選択された日付を含むスケジュールが管理者によって作成されます。

「すべてのタスク」/「すべてのフォーム」または「個人用タスク」/「個人用フォーム」のステータスのサマリーに加え、タスク/フォームのソースのダッシュボードも表示されます。

ワークリストから、次のタスクを実行できます。

- Excel にエクスポート
- オープン・タスク
- タスクの送信
- タスクの強制クローズまたは中止
- タスクの再割当て

### 検索およびフィルタ機能

リスト内のアイテムを簡単にフィルタするには、「**検索**」フィールドを使用します。日付およびアイコン・ベースの列を除いた、リストに表示されているすべての列が検索されます。たとえば、ユーザーを検索して、そのユーザーが担当者または承認者(タスク・マネージャの場合)および策定者または承認者(補足データ・マネージャの場合)として割り当てられているすべてのアイテムを表示できます。検索では、表示されている列で検索語が見つかったアイテムが戻されます。

特定のフィルタ機能を使用して特定のアイテムにアクセスすることもできます。**フィルタ・バー**を使用するか、「**フィルタの追加**」をクリックして、属性ごとに目的のフィルタを設定します。

ワークリストを表示するには:

1. ホームページで「**タスク**」をクリックします。「**ワークリスト**」をクリックします。
2. **オプション:** 「**検索**」で、次のステップを実行してタスクを特定します。
  - 「タスク」アイコン  をクリックして、「すべてのタスク」と「個人用タスク」の間で表示を切り替えます。
  - 目的のタスクの名前を入力します。ワークリストの**日付**以外の任意のフィールド(テキストまたは数値)で検索できます。
3. **オプション:** フィルタ・バーを非表示または表示するには、「**検索**」アイコンの横にある「**フィルタ**」アイコンをクリックします。すべてのフィルタをクリアするには、フィルタ・バーの右側にある  をクリックします。
4. **オプション:** 画面の右上にあるドロップダウンを使用して、ワークリストを管理する際に使用するフィルタを選択します:
  - **タイプ**
  - **名前**
  - **説明**
  - **ステータス(詳細)**
  - **ステータス**
  - **個人用終了日**
5. **オプション:** 次のディメンション名をクリックして **POV** を変更します。
  - **年**
  - **期間**
  - **期限:** (「何も選択されていません」、「遅延」、「7日間」または「今日」)
  - **ステータス:** (「何も選択されていません」、「クローズ済」、「オープン」または「保留中」)
  - **ソース:** (「アラート」、「タスク」、「フォーム」、「仕訳」、「再割当要求」)

 **ノート:**

複数のオプションを追加するには、複数のエントリをクリックします。選択したエントリをリストから削除するには、それを再度クリックします。

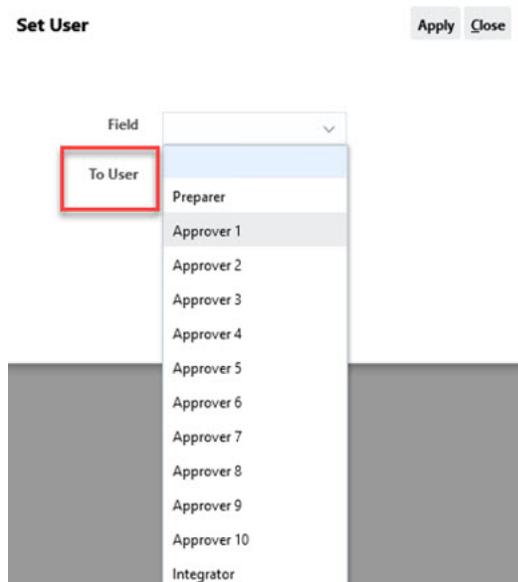
6. **オプション:** タスクの横にある  をクリックして、選択したタスクを開き、その詳細を表示します。「プロパティ」、「指示」、「アラート」など、アイコンを選択してオプションを追加または変更します。
7. 「アクション」で、次のいずれかのアクションを実行できます。
  - **タスクの送信。** [タスクの送信](#)を参照してください。
  - **タスクの中止:** 後続タスクに進まずに、プロセスの進行を続けるために、強制クローズを実行するのではなく、タスクを取り消します:
    - 「終了時に開始」または「エラー終了時に開始」の先行タスクが取り消された場合、その後続タスクは保留中のままです。プロセスの進行を続けるには、後続タスクを編集して、取り消された先行タスクを削除し、後続タスクを開始する必要があります。
    - 「終了時に終了」または「エラー終了時に終了」の先行タスクを取り消した場合、プロセスの進行を続けるには、タスク所有者、スケジュール所有者または管理者が後続タスクを強制的にクローズする必要があります。
  - **タスクの強制クローズ:** ステータスが「オープン」または「エラー」のタスクを強制的に「クローズ」ステータスにします。
  - **再割当の要求:** 一時的または永久にタスクを別のユーザーに再割当てします。
  - **リフレッシュ**

## 補足データ・タスクからのフォームの表示

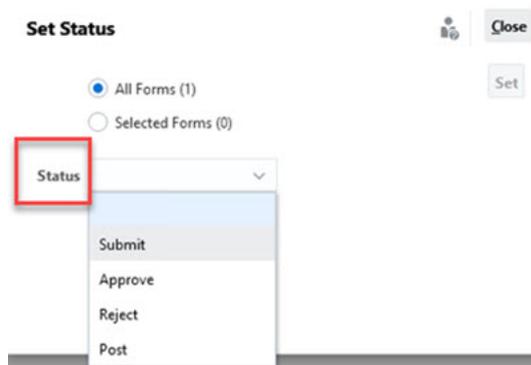
「補足データ・タスク」ページから、タスクを検索およびフィルタできます。データを視覚的に表示したり、データを行と列で表示するように、ビューを変更できます。

「補足データ・タスク」ページでフォームを表示するには:

1. ホームページで「タスク」をクリックします。
2. 左側の「補足データ・タスク」タブをクリックします。
3. **オプション:** 「検索」に、目的のフォームの名前を入力します。日付およびアイコン・ベースの列を除いた、リストの列全体が検索されます。
4. フォームの**収集間隔、年、期間**および**テンプレート**を選択します。同じ POV を使用しているこれらのアイテムで複数の値を選択すると、その POV に関するすべてのテンプレートのすべてのフォームが表示されます。
5. **オプション:** フィルタを作成してフォームを表示します。[フィルタの操作](#)を参照してください。
6. **オプション:** 画面の右側にある  アイコンをクリックしてビューを選択します。[ビューの操作](#)を参照してください。
7. **ユーザーの設定:** 各ワークフロー・レベルのユーザーを**策定者、承認者**または**統合者**として設定します(「補足データ・タスク」 → 「アクション」 → 「ユーザーの設定」)



8. **ステータスの設定:** フォームのステータスを「送信」、「承認」、「却下」または「転記」として設定します(「補足データ・タスク」 → 「アクション」 → 「ステータスの設定」)



[補足データ・フォームの表示](#)も参照してください

## 補足データ・フォームの更新

### 関連トピック:

- [フォーム・プロパティの表示](#)
- [指示の表示](#)
- [アラートの表示](#)
- [ワークフローの表示](#)
- [フォームの質問の表示](#)
- [コメントの表示およびフォームへのコメントの追加](#)
- [フォーム履歴の表示](#)

## フォーム・プロパティの表示

フォーム・プロパティを表示するには:

1. ホームページで「**タスク**」をクリックします。
2. 左側の「**補足データ・タスク**」タブをクリックします。
3. フォームをダブルクリックして開きます。
4. 右側の「**プロパティ**」タブをクリックします。

Submit Actions | ⏪ ⏩ ✕

Properties

Name	Prod_Custom_Form
Description	Prod_Custom_Form
Data Collection Period	2021 Dec FCCS_Contribution FCCS_Total Data Source
Status	Open with Preparer
Start Date	Dec 30, 2021
End Date	Jan 4, 2022
Actual Start Date	Dec 30, 2021
Actual End Date	

## 指示の表示

特定のフォームの指示を表示するには:

1. ホームページで「**タスク**」をクリックします。
2. 左側の「**補足データ・タスク**」タブをクリックします。
3. フォームをダブルクリックして開きます。
4. 右側の「**指示**」タブをクリックします。

Submit Actions | ⏪ ⏩ ✕

Instructions

Experience the benefits of being an Oracle reference. As an Oracle customer, your organization leads the way in leveraging cloud technologies to discover new ways to adapt, anticipate, and unlock new strategies for thriving in an ever-changing world. Now, more than ever, your peers want to learn from the experiences of others just like them—and you.

References

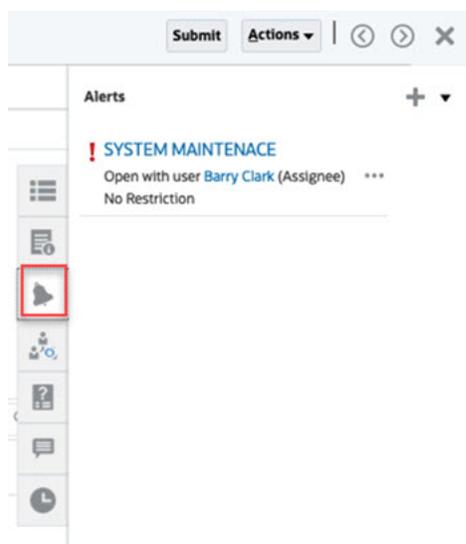
- AUDIT CHANGES.png
- Oracle References

## アラートの表示

特定のフォームのアラートを表示するには:

1. ホームページで「**タスク**」をクリックします。
2. 左側の「**補足データ・タスク**」タブをクリックします。
3. フォームをダブルクリックして開きます。

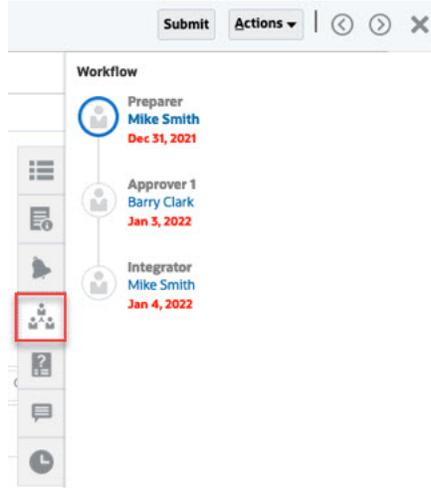
- 右側の「アラート」タブをクリックします。  
関連項目: [アラートの操作](#)



## ワークフローの表示

特定のフォームのワークフローを表示するには:

- ホームページで「タスク」をクリックします。
- 左側の「補足データ・タスク」タブをクリックします。
- フォームをダブルクリックして開きます。
- 右側の「ワークフロー」タブをクリックします。

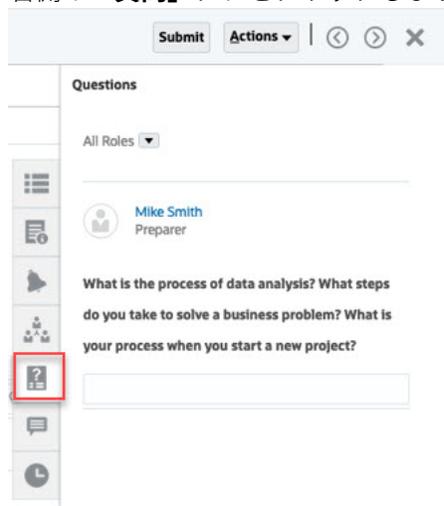


## フォームの質問の表示

特定のフォームの質問を表示するには:

- ホームページで「タスク」をクリックします。
- 左側の「補足データ・タスク」タブをクリックします。
- フォームをダブルクリックして開きます。

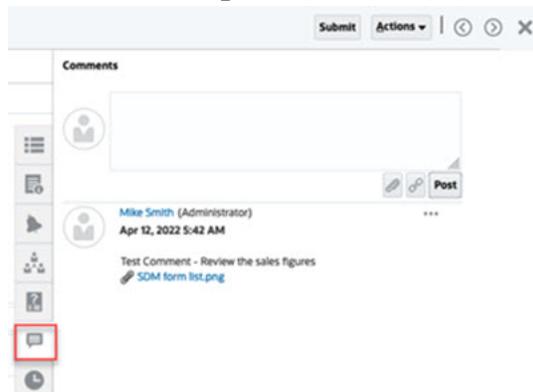
4. 右側の「質問」タブをクリックします。



## コメントの表示およびフォームへのコメントの追加

特定のフォームのコメントを表示するには:

1. ホームページで「タスク」をクリックします。
2. 左側の「補足データ・タスク」タブをクリックします。
3. フォームをダブルクリックして開きます。
4. 右側の「コメント」タブをクリックします。



### コメント追加

「タスク」ページから、補足データ・フォームに関するコメントを追加でき、参照を添付することもできます。「タスク」ページから一度に複数のフォームに参照ファイルまたは URL を追加し、コメントを作成することもできます。

#### Note:

補足データ・フォームには、「ホームページ」 → 「タスク」 → 「補足データ・タスク」からアクセスすることもできます。

次の表では、アクティビティのステータスおよび役割に基づいて実行できるアクティビティを説明します。

 **Note:**

あるフォームに対して同じアクセス役割を持つユーザーは、互いのコメントを作成、削除および管理できます。

Table 23-1 役割およびステータスに基づく権限

役割	ステータス: オープン (策定者)	ステータス: オープン (承認者)/オープン(統合者)	ステータス: クローズ済
策定者	<ul style="list-style-type: none"> <li>コメントを追加可能</li> <li>自分のレベルのコメントを削除可能</li> <li>自分が作成したコメントを削除可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コメントを追加可能</li> <li>自分が作成したコメントを削除可能</li> </ul>	コメントを追加可能
承認者/統合者	<ul style="list-style-type: none"> <li>コメントを追加可能</li> <li>自分が作成したコメントを削除可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コメントを追加可能</li> <li>自分のレベルのコメントを削除可能</li> <li>自分が作成したコメントを削除可能</li> </ul>	コメントを表示可能
管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>コメントを追加可能</li> <li>すべてのコメントを削除可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コメントを追加可能</li> <li>すべてのコメントを削除可能</li> </ul>	コメントを追加可能
参照者	<ul style="list-style-type: none"> <li>コメントを追加可能</li> <li>自分が作成したコメントを削除可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コメントを追加可能</li> <li>自分が作成したコメントを削除可能</li> </ul>	コメントを表示可能

コメントを追加するには:

1. ホーム・ページから、「**タスク**」を選択します。
2. ワークリストまたは「補足データ・タスク」から補足データ・フォームを選択します。
3. 「**コメント**」タブをクリックします。
4. テキスト・ボックスに、コメントを入力します。

 **Note:**

コメントを削除するには、そのコメントを選択し、「**削除**」をクリックするか、「**アクション**」、「**コメントの削除**」の順に選択します。

5. **オプション:** 外部ファイルまたは Web ページの添付をコメントに追加するには、次のいずれかのオプションを選択します。
  - 「**ファイルの添付**」(ペーパークリップ・アイコン)をクリックし、添付ファイルとするファイルを一覧して選択します。
  - 「**リンクの添付**」(リンク・アイコン)をクリックし、添付の URL および名前を追加します。

6. 「OK」をクリックします。

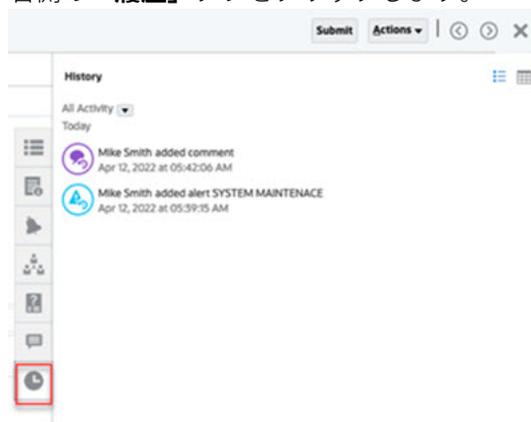
## フォーム履歴の表示

システムでは、「フォーム」ダイアログ・ボックスで表示できるフォーム・アクションの履歴が保持されています。ユーザー、日付、アクション、およびフォームに加えられた変更の差異が「履歴」に表示されます。

フォームが再デプロイされた後は、履歴にコメントの削除アクションが表示されなくなります。そのため、コメントの削除に対する監査は生成されません。ただし、フォーム・リセットの監査は表示されます。

特定のフォームの履歴を表示するには:

1. ホームページで「タスク」をクリックします。
2. 左側の「補足データ・タスク」タブをクリックします。
3. フォームをダブルクリックして開きます。
4. 右側の「履歴」タブをクリックします。



## 補足データ・フォームの管理

関連トピック:

- [補足データ・アドホック・フォームの作成](#)
- [補足データ・フォームの送信、承認、却下または転記](#)
- [補足データ・フォームの表示](#)
- [補足データ・ビューの保存](#)
- [補足データ・フォームへのデータの入力](#)
- [補足データ・フォームのレコードの検索](#)
- [詳細セクションでのすべてのレコードの削除](#)

## 補足データ・アドホック・フォームの作成

補足データ・フォームのテンプレートを作成する場合、管理者はテンプレートをアドホック・フォームの作成に使用できるかどうかを指定し、フォームの作成を許可するユーザー、グループまたはチームを選択できます。適切なセキュリティ権限が割り当てられているユーザーは、必要に応じてテンプレートから補足データ・フォームを作成できます。

 **ノート:**

アドホック・フォームを作成する前に、テンプレートをデプロイしておく必要があります。

補足データ・アドホック・フォームを作成するには:

1. 「**タスク**」から、「**補足データ・タスク**」を選択します。
2. 「**収集間隔**」を選択して、POV のメンバーを選択します。  
POV ディメンションは、選択した収集間隔によって異なります。
3. 「**テンプレート**」に、アドホック・フォームの作成に必要なテンプレートを選択します。
4. 「**アドホック・フォームの作成**」(+アイコンをクリックし、アドホック・フォームを作成します。  
「アドホック・フォームの作成」ページが表示されます。

「**期間**」および「**テンプレート名**」は、フォーム・リストから選択したとおりに表示され、読み取り専用です。「**承認のレベル**」および承認者の行数は、管理者によってテンプレートで事前に定義されたレベルおよび承認パスに基づいて表示されます。

5. 目的の承認パスをハイライトして、「**OK**」をクリックします。承認パスが定義されていない場合は、それぞれの承認者および統合者を選択できます。単一の承認パスがテンプレートでユーザーに定義されている場合、その承認パスがデフォルトで選択され、変更できません。複数の承認パスがユーザーに構成されている場合は、作成中のアドホック・フォームに適切なものを選択します。

 **ノート:**

アドホック・フォームの作成では、フォーム策定者と承認者は同じにできません。

6. 「**OK**」をクリックします。  
データを入力するためのアドホック・フォームが作成され、表示されます。

## 補足データ・フォームの送信、承認、却下、または転記

フォームのデータを入力した後、使用可能なアクション(「**送信**」、「**承認**」、「**却下**」など)を選択できます。「**アクション**」の「**ステータスの設定**」オプションを使用して、補足データ・タスク・リスト内のフォームを複数選択し、選択対象にアクションを 1 回実行するだけで、すべての選択済フォームを更新できます。

フォームに対するアクションを選択するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」をクリックします。
2. ワークリストまたは「**補足データ・タスク**」から補足データ・フォームを選択します。
3. 使用可能なアクションを選択します。たとえば、「**送信**」、「**承認**」または「**却下**」を選択します。

「**ステータスの設定**」オプションを使用してアクションを選択するには:

1. 補足データ・タスクからフォームを選択します。  
複数のフォームを選択するには、**[Ctrl]**を押しながら複数のフォームを選択するか、**[Shift]**を押しながら目的の範囲の最初と最後の行をクリックします。

2. 「アクション」ドロップダウンから、「ステータスの設定」を選択します。
3. 「ステータス」ドロップダウンから、必要なステータスを選択します。使用可能なステータスは、「送信」、「承認」、「却下」および「転記」です。
4. 「設定」をクリックします。

「フォーム・アクションの結果」ダイアログ・ボックスにステータス結果が表示されます。

- エラーがない場合は、「正常に完了」というステータスが表示されます。
- エラーがある場合は、「エラーで完了」というステータスがエラー・メッセージとともに表示されます。

## 補足データ・フォームの表示

補足データ・フォーム補足に複数のセクションがある場合、各セクションはフォーム・ヘッダー内のタブとして表示されます。サブ収集は水平方向のタブに表示されます。サブ収集の名前は最大 30 文字まで表示され、その後は省略記号(...)が続きます。テキスト上にマウスを重ねると、完全名が表示されます。ヘッダーまたは詳細セクションは展開または縮小できるため、領域を有効に使用できます。

次に、複数のセクションおよびサブ収集があるフォームの例を示します。

The screenshot displays the 'Loan Collection FORM' interface. At the top, there are navigation buttons: 'Submit', 'Previous', 'Next', and 'Close'. Below these are fields for 'Year' (2019), 'Period' (Jan), 'Scenario' (Actual), and 'Entity' (FCCS\_Global Assumptions). The main section is titled 'LOAN DATA ENTRY' and includes a 'LOAN SUMMARIZATION' tab. Under this tab, there are fields for 'Customer Name' (CENTRAL INVESTMENT E), 'Loan Account' (LBBN4567891211), and 'Category' (Housing). Below this is a 'Summary' section with a table showing account types and their associated amounts. The 'Detail' section follows, showing a list of loan entries with columns for Index, Inex, Premium, Paid Amt, Balance Amount, Account Type, Auto Deduction, and Description.

Account Type	Auto Deduction	Premium	Paid Amt	Balance Amount
Overdraft	N	3000.00	31250.00	-1250.00
Savings	Y	61000.00	63750.00	-2750.00
Savings	N	63000.00	66250.00	-3250.00
Corporate	Y	31000.00	32500.00	-1500.00
Overdraft	Y	51000.00	51250.00	-250.00
Corporate	N	24000.00	23750.00	250.00

Index	Inex	Premium	Paid Amt	Balance Amount	Account Type	Auto Deduction	Description
1	ASND12	23000.00	22500.00	500.00	Personal	True	A specified date each calendar month. Equated monthly instalments
2	ASND23	24000.00	23750.00	250.00	Corporate	False	Mortgages, auto loans, and student loans
3	ASNB12	23000.00	22500.00	500.00	Current	True	Real estate mortgages, auto loans, and student loans
4	ASND23	24000.00	23750.00	250.00	Current	True	EMIs other than variable payment plans, in which the borrower is able to pay
5	ASNB14	25000.00	25000.00	0.00	Overdraft	True	EMI reducing balance method is calculated using the formula
6	ASNB45	26000.00	26250.00	-250.00	Overdraft	True	Assume a property investor takes out a mortgage of \$500,000, which is the principal loan amount
7	ASNB56	27000.00	27000.00	-500.00	Personal	False	Note that in the EMI flat rate calculation, the principal loan amount remains constant
8	ASNB67	28000.00	28750.00	-750.00	Savings	True	Yield maintenance is a prepayment premium that allows investors to obtain the same yield as if the borrower made all scheduled
9	ASNB78	29000.00	30000.00	-1000.00	Savings	False	SmartAsset's free tool matches you with fiduciary financial advisors
10	ASNB89	30000.00	31250.00	-1250.00	Overdraft	False	A loan is money, property, or other material goods given to another party
11	ASNB100	31000.00	32500.00	-1500.00	Corporate	True	Capitalized cost reduction is any upfront payment that reduces the cost of financing
12	ASNB111	32000.00	33750.00	-1750.00	Current	True	The interest, typically expressed as a percentage, can be either simple or compounded
13	ASNB122	33000.00	35000.00	-2000.00	Savings	True	imple interest is calculated only on the principal amount of a loan or deposit
14	ASNB133	34000.00	36250.00	-2250.00	Savings	False	Simple interest vs. Compound interest
Total		388000.00	388750.00	-9750.00			

補足データ・フォームを表示するには:

1. ホーム・ページで、「タスク」をクリックします。
2. ワークリストまたは「補足データ・タスク」から補足データ・フォームを選択します。
3. フォームに複数のセクションがある場合、各セクションはフォーム・ヘッダー内のタブとして表示されます。セクション・タブをクリックすると、フォームの内容が表示されます。
4. ヘッダーまたは詳細セクションを展開または縮小します。
  - ヘッダー・セクションの右側にある



アイコンをクリックし、セクションを展開または縮小します。

- 矢印をクリックすると、詳細セクションが展開または縮小されます。

関連項目: [補足データ・タスクからのフォームの表示](#)

## 補足データ・ビューの保存

補足データを使用すると、フィルタの適用、列の指定とソート、調整したビューの保存を行います。「**ビューの管理**」メニューから、保存されたすべてのビューを参照できます。

管理者またはパワー・ユーザーは、プライベート・バージョンを他のユーザーが使用できるようにビューを発行することもできます。保存されたビューは、複製され、プライベート・バージョンとパブリック・バージョンになります。パブリック・バージョンでは、「パブリック」列にチェック・マークが表示されます。

また、公開された保存済のビューでは、管理者またはパワー・ユーザーはそのビューをデフォルト・ビューとして設定し、保存済のビューをそのビュー・タイプのすべてのユーザーが使用でき、ユーザーがそのビュー・タイプを開いたときにデフォルトで選択されるようにすることができます。

ビューを保存および管理するには:

- ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
- 目的のデータが表示されるようビューを調整します。ビューを保存するには、ダイアログの上部にある「**ビューの保存**」をクリックします。
- 「**ビューの保存**」ダイアログで、**名前**と説明(オプション),を入力し、「**OK**」をクリックします。
- 保存されているすべてのビューを表示するには、「**ビューの管理**」タブをクリックします。
- ビューを発行してプライベート・バージョンをユーザーが使用できるようにするには、「**発行**」をクリックするか、「**アクション**」、「**発行**」の順に選択します。
- ビューをデフォルトに設定するには、「**デフォルトの設定**」をクリックするか、「**アクション**」、「**デフォルトの設定**」の順に選択します。

## 補足データ・フォームへのデータの入力

次の方法を使用して補足データ・フォームにデータを入力できます。

- 手動で入力
- ファイルからインポート
- Excel を使用して入力

データは、入力の詳細に従って基本フォーマットで格納されます。たとえば、小数点以下が 2 桁で、3 桁ごとの区切り文字がないフォーマットの通貨フィールドに **\$123,456.789** と入力した場合、数値は **123456.789** として保管されますが、**\$123456.79** と再表示されます。

フォームの列と行が、データ入力モードで表示されます。データ入力用の **POV** バーでエントリを選択できます。フォーム・テンプレートに複数のデータ入力セクションが定義されている場合は、各セクションに対応するデータ入力タブが表示されます。

データをインポートする場合、「**置換**」または「**更新**」のいずれかのオプションを使用できません。

- 置換** - フォーム内のデータをクリアし、ソース・ファイルの値で置換します。インポート・プロセス後、ソース・ファイルにないフィールドは空白になります。

- **更新** - ソース・ファイルに含まれている値のみが更新されます。他の値は影響を受けません。

補足データ・フォームにデータを入力するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」をクリックします。
2. ワークリストまたは「補足データ・タスク」から補足データ・フォームを選択します。
3. フォームにデータを入力します:
  - フォームにヘッダー・セクションがある場合は、ヘッダーのフィールドにデータを入力できます。
  - フォームに詳細セクションがある場合は、「**追加 (+)**」をクリックして詳細行を追加し、データを入力します。

 **ノート:**

次の値をキー属性でデータとして使用することはできません:

- #ワークフロー
- #収集
- #サブ収集

4. **オプション:** フォーム・データをリフレッシュするには、「**リフレッシュ**」をクリックします。
5. データの入力が完了した後、使用可能なアクションを選択します。たとえば、「**送信**」、「**承認**」または「**却下**」を選択します。
6. **オプション:** 詳細セクションの「**アクション(...)**」ドロップダウンから「**印刷**」を選択してフォームを印刷します。
7. **オプション:** ヘッダー・セクションの「**アクション(...)**」ドロップダウンから「**インポート**」を選択してデータをインポートします。
  - a. 「**参照**」をクリックし、インポートするファイルに移動します。
  - b. オプションとして、すべてのデータをクリアし、ソース・ファイルのデータで置き換える「**置換**」、またはソース・ファイル内に含まれるデータのみを更新する「**更新**」を選択します。
  - c. 使用可能な日付フォーマットのドロップダウン・リストから、「**日付フォーマット**」を選択します。
  - d. 「**ファイル区切り文字**」で、**カンマ**、**タブ**、または**その他**のファイル・インポート用の区切り文字を選択します。「**その他**」を選択した場合は、テキスト・ボックスに区切り文字を指定します。
  - e. 「**インポート**」をクリックし、「**結果**」画面で「**OK**」をクリックします。  
情報をクリアし、インポートする別のファイルを選択するには、「**リセット**」をクリックします。
8. **オプション:** フォーム・データをエクスポートするには、詳細セクションの「**アクション (...)**」ドロップダウンから「**Excel にエクスポート**」を選択して、プロンプトに従います。

 ノート:

バージョンにかかわらず、Mozilla では水平方向のスクロールが機能しないため、ディメンション参照ダイアログ内の検索コントロールは部分的にしか表示されません。回避策として、Chrome または Safari を使用してください。

## 補足データ・フォーム内のレコードの検索

「検索」フィールドを使用して、補足データ・フォーム内の詳細収集またはサブ収集セクション内のレコードをすばやく検索できます。データ・グリッド上の任意のフィールド(「テキスト」、「リスト」または「数値」)を検索できます。ただし、「日時」を除きます。たとえば、「Interest」(利息)という語を検索して、値に「Interest」を含むすべてのレコード(「Simple Interest」(単利)、「Interest Payable」(未払利息)など)を表示できます。

レコードを検索するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」をクリックします。
2. ワークリストから、または補足データ・タスク内から補足データ・フォームを選択します。
3. 「詳細」セクションで、「**検索**」フィールドに検索条件を入力し、**[Enter]**を押します。リストをリセットしてすべてのレコードを表示するには、検索条件を削除します。

## 詳細セクション内のすべてのレコードの削除

補足データ・フォームの詳細セクション内またはサブ収集内のすべてのレコードを削除できます。

すべてのレコードを削除するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」をクリックします。
2. ワークリストから、または補足データ・タスク内から補足データ・フォームを選択します。
3. 「詳細」セクションの「**アクション**」ドロップダウンで、「**すべて削除**」をクリックします。  
「**削除の確認**」メッセージが次のように表示されます: 「これにより、このフォーム・セクションのデータが削除されます。続行しますか?」
4. 「**はい**」をクリックします。

グリッド内のすべてのレコードが削除され、フォームが保存されます。

## Smart View での補足データ・フォームの操作

関連トピック:

- [Smart View 拡張機能への接続の作成](#)
- [Smart View での補足データ・フォームの更新](#)

## Smart View 拡張機能への接続の作成

Oracle Smart View for Office を使用してワークリストに接続し、Excel でタスク・マネージャおよび補足データ・マネージャのタスクを更新できます。

拡張機能で使用するプライベート接続を作成する必要があります。

### ノート:

開始する前に、**Smart View** とタスク・マネージャおよび補足データ・マネージャ用の **Smart View** 拡張機能がインストールされていることを確認してください。 *管理者用スタート・ガイド* のクライアントのダウンロードおよびインストールを参照してください。

拡張機能への接続を作成するには:

1. Smart View パネルで、「**プライベート接続**」を選択し、パネルの下部にある「**新規接続の作成**」を選択します。
2. プロンプトが表示されたら、「**Smart View HTTP プロバイダ**」を選択して、「**接続の追加**」ウィザードを表示します。  
ウィザードでは一度に 1 つずつ接続を作成できます。
3. 「**接続の追加 - URL**」で、プライベート接続を次の構文で入力し、「**次**」をクリックします。
  - タスク・マネージャの場合:  
`http(s)://serviceURL/HyperionPlanning/cm/svp`
  - 補足データ・マネージャの場合:  
`http(s)://serviceURL/HyperionPlanning/sdm/svp`
  - プロンプトが表示されたら、ログイン資格証明(サインインに使用するドメイン名、ユーザー名およびパスワード)を入力します。
  - 「**接続の追加 - アプリケーションキューブ**」で、使用するアプリケーションおよびデータベースに移動し、それを選択して「**次**」をクリックします。
  - 「**接続の追加 - 名前/説明**」で、接続の名前とオプションの説明を入力します。
  - 「**終了**」をクリックします。
  - 別の接続を作成するには、これらのステップを繰り返します。  
次のトピックを参照してください。
    - [Smart View からのタスクの更新](#)
    - [Smart View での補足データ・フォームの更新](#)

## Smart View での補足データ・フォームの更新

Oracle Smart View for Office を使用すると、補足データ・マネージャのフォームを直接操作できます。

選択した期間のスケジュールとタスクが表示されます。ただし、確認できるのは、自分に権限があるフォームのみです。使用可能なオプション(「データの保存」、「承認」、「却下」など)は、現在の役割に応じて変わります。複数の役割を持っており、それぞれ異なる操作を実行する場合は、各役割でログオンする必要があることがあります。

 **ノート:**

開始する前に、**Smart View** と補足データ・マネージャ用の **Smart View** 拡張機能をインストールし、拡張機能で使用するプライベート接続を作成する必要があります。管理者用スタート・ガイドのクライアントのダウンロードおよびインストールおよび **Smart View** 拡張機能への接続の作成を参照してください。

 **ノート:**

英語以外のロケールの場合、補足データ用の **Smart View** 拡張機能では、**Smart View** の「言語」ドロップダウン・リストの「**デフォルト**」オプションはサポートされていません。

**Smart View** で次の補足データ・タスクを実行できます:

- 準備、承認および転記のために実行する必要があるフォームのワークリストを表示する
  - 「表示」セキュリティ権限を持つ、システム内の収集のリストを表示する
  - データ収集プロセスの一環として収集されたデータにフィルタを適用する。
- 補足データ用に以前に作成したフィルタやリストは、すべて **Smart View** で使用できます。

 **ノート:**

自分のセキュリティ・アクセス権で使用可能なフォームおよびオプションのみが表示されます。

## 補足データ・フォームの操作

**Smart View** を使用して補足データ・マネージャを操作するには:

1. Excel を起動し、「**Smart View**」タブ、「**パネル**」の順に選択します。
2. **Smart View** パネルで、「**プライベート接続**」を選択します。
3. 「プライベート接続」パネルで、ドロップダウンから「**補足データ・マネージャ**」接続を選択します。
4. プロンプトが表示されたら、ログイン資格証明(サインインに使用するドメイン名、ユーザー名およびパスワード)を入力します。
5. 「**補足データ**」リボンを選択し、「**リフレッシュ**」をクリックします。  
「**ワークリスト**」および「**収集**」ノードが表示されます。
6. 「**ワークリスト**」の下で、フォームのリストからフォームを選択します。
  - 各フォームはフォーマット内の 1 つの親ノードです。<Form Name> - <Workflow Dimension: Member 1>| <Workflow Dimension: Member 5>。

**例:** Debt Details Form – New York

- フォーム上にマウスを重ねると、フォーマット内に詳細が表示されます。<Form Name> - <Workflow Dimension: Member 1>| <Workflow Dimension: Member 5> (<Responsible role> - <Due Date>), <Frequency Dimension: Member 1>| <Frequency Dimension: Member 4>.

**例:** Loan Detail – Entity: LE101 | Account: Sales (Preparer – Jan 10, 2020), Year: 2020 | Period: Jan | Scenario: Actual

- リーフ・ノードをダブルクリックすると、フォーム・ヘッダーまたはサマリー・セクションが表示されます。各セクションはフォーマット内の 1 つのリーフ・ノードです。<Section name>。

**例:** Loan Collection Data Entry

- ヘッダー・セクションをクリックすると、Excel に詳細セクションが表示されます。フォームを表示または変更したり、質問に回答したり、コメントを入力できます。

各詳細セクションまたはサブ収集は別のワークシートに表示されます。

- 「**収集**」で、収集間隔のリストから間隔を選択します。

各リーフ・ノードでは、収集間隔が最初にリストされ、その後に収集とサブ収集がリストされます。

#### ノート:

データが含まれている収集のみが、各データ収集期間に表示されます。

- 完了したら、選択したフォームに対して、該当するオプションを選択します:

- データの保存
- データの送信
- 承認
- 却下
- データの転記

## 「補足データ分析」ダッシュボードでのデータの表示

「補足データ分析」ダッシュボードには収集およびサブ収集の詳細が含まれるため、情報の表示とフィルタ処理を簡単に行うことができます。列を選択およびソートして、リストを保存することもできます。

データ分析ダッシュボードに収集を表示するには:

- ホーム・ページで、「**データ**」をクリックします。
- 左側から、「**補足データ分析**」をクリックします。
- 「**収集**」ドロップダウン・リストから、アクセスしてデータを分析する収集/サブ収集およびデータ収集期間(頻度ディメンション・メンバーの組合せ)を選択します。

例:

収集名: Debt Details

データ収集期間のパラメータ: 年: 2020、期間: 4 月、シナリオ: 実績

4. **オプション:** 「フィルタの追加」をクリックし、フィルタ値を入力します。使用可能なフィルタは、選択した収集に基づきます。 [フィルタの操作](#)を参照してください。
5. **オプション:** 収集からデータをエクスポートするには、「アクション」から「エクスポート」を選択し、「Excel にエクスポート」または「CSV にエクスポート」を選択します。
6. **オプション:** 「アクション」から、「インポート」を選択して、データを収集にインポートします。  
「参照」をクリックしてファイルを選択し、既存のファイルを置換するか更新するかを選び、日付フォーマットを選択して、「インポート」をクリックします。
7. **オプション:** 画面の右側にある  アイコンをクリックしてビューを選択します。 [ビューについて](#)を参照してください。

## 収集へのデータのバルク・ロード

管理者とパワー・ユーザーは、特定のデータ収集期間および特定の収集についてデータをインポートできます。この機能は、管理者およびパワー・ユーザーが別のシステムのソース・データを使用してフォームにまとめて移入する場合や、策定者がデータ値を入力するのみで済むように、いくつかの列を事前に移入しておく場合に便利です。データ・ロードは、次のワークフロー・ステータスのフォームで許可されます:

- 保留中
- オープン(策定者)
- オープン(承認者)

### ノート:

データ・ロードは、「クローズ済」のワークフロー・ステータスのフォームでは許可されません。

「置換」または「更新」のいずれかのオプションを使用できます。

- **置換** - フォーム内のデータをクリアし、ソース・ファイルの値で置換します。インポート・プロセス後、ソース・ファイルにないフィールドは空白になります。
- **更新** - ソース・ファイルに含まれている値のみが更新されます。他の値は影響を受けません。

データをロードするには:

1. ホーム・ページで、「データ」をクリックし、次に「補足データ分析」をクリックします。
2. 収集を選択し、POV メンバーを移入して、「アクション」から「インポート」を選択します。
3. ロードする CSV ファイルを選択します。次に、ワークフロー・ディメンションとしてエンティティを使用する収集のロード・ファイルの例を示します。

	A	B	C	D	E	F
1	Entity	ID	Employee ID	Employee Name	Meal Type	Amount
2	US	301	101	Samson John	Breakfast	34
3	India	1	102	Nancy Clark	Breakfast	510
4	India	2	104	Santosh Kumar	Breakfast	3500
5	Europe	201	103	Nancy Clark	Breakfast	35
6	Germany	12	105	Bill Jones	Lunch	57
7						

4. 「置換」を選択して、すべてのデータをクリアし、ソース・ファイルのデータで置き換えるか、「更新」を選択し、ソース・ファイル内に含まれるデータのみを更新します。
5. 日付フォーマットを選択してから「インポート」をクリックします。ステータスには、エラーまたは警告があるかどうかに加えて、**エンティティの合計**、**更新されたエンティティ** および **作成** または **更新された行の合計** が表示されます。

 **ノート:**

デプロイされたフォームにデータをロードすると、インポート・アクションにより、なんらかのデータで更新されたすべてのフォームのワークフローが再開されます。データ・インポートは、インポート・アクションによって更新されなかったフォームのワークフローには影響しません。

## アラートの操作

一連のビジネス・プロセスの実行中に、進行に影響する障害が発生することがあります。たとえば、ハードウェア障害またはシステム障害、あるいはソフトウェアまたはデータの問題が発生することがあります。プロセスの問題を示すアラートを作成し、タスクまたはスケジュールに添付して、対処するためのクイック・ワークフローを割り当てることができます。自分が承認者として割り当てられているアラートを承認または却下できます。

ワークリストのタスクまたはアラート・リストからアラートを表示し、ドリルしてアラートの詳細を表示できます。アラートを編集したり、不要になったアラートを削除できます。

次のトピックを参照してください。

- [アラートの作成](#)
- [アラートの更新](#)
- [スケジュールでのアラートの作成](#)
- [アラート・アクション](#)
- [アラート・リストからのアラートの表示](#)
- [アラートの削除](#)

## アラートの作成

タスク・マネージャまたは補足データ・マネージャのオブジェクト(タスク、スケジュール、フォームなど)からアラートを作成したり(アクセス権がある場合)、アラート・リストからアラートを作成できます。アラート・タイプなどの情報を指定し、「アクション」ダイアログ・ボックスから送信するとアラートが作成されます。

必要に応じて、アラートに対するアラートを作成できます。たとえば、ネットワークおよび電源の問題に対して個別に作業するために、システム・ダウンの問題のサブアラートを作成できます。

オブジェクトに対するアラートを作成する場合は、そのオブジェクトに固有の**アラート・タイプ**と汎用**アラート・タイプ(基本アラート)**のみを使用できます。アラート・リストから直接アラートを作成する場合は、汎用アラート・タイプのみを使用できます。

アラートを作成すると、当初は「**オープン(所有者)**」ステータスになります。

### ノート:

アラートは、ロックされたオブジェクト(期間、スケジュールなど)に関連付けられている場合でも、「**オープン**」ステータスのままにできます。

次の表に、アラート・ワークフローを示します。

表 24-1 アラート・ワークフロー

役割	アクション
所有者(アラートを開始したユーザー)	送信 再オープン(アラートを所有者に返信する)
担当者	送信 情報の要求(アラートを所有者に返信する)
承認者 1	承認 却下(アラートを担当者に返信する)
承認者 N	承認 却下(アラートを担当者に返信する)

アラートを作成するには:

- 次のいずれかの方法を使用します:
  - アーティファクト(タスクまたはアラート)に移動してアーティファクトを開き、「アラート」タブをクリックします。
  - スケジュールの場合は、スケジュールを編集し、「アラート」タブをクリックします。
  - 補足データ・フォームの場合は、フォームを編集し、「アラート」タブをクリックします。
  - アラート・リストから、年および期間のみに関連付けられた汎用アラートを起動します。
- 「新規」(+)をクリックします。
- Data Corrupted など、アラートの一意の**名前**を入力します。入力できる最大文字数は 80 文字です。
- 「タイプ」で、管理者定義のアラート・タイプのリストから Data Issue などのアラート・タイプを選択します。  
アラート・タイプを選択すると、アラートはそのアラート・タイプに定義されている指示、ワークフロー・ユーザー、属性、質問および参照者を継承します。  
「所有者」は、アラートを作成したユーザーの名前です。  
「担当者」は、アラートの解決を担当するユーザーです。これは、ユーザー、グループまたはチームです。デフォルトの担当者は**アラート・タイプ**から継承されます。  
承認者も**アラート・タイプ**から継承されます。
- 「年」から年を選択します。すでに**年**が関連付けられているオブジェクトからアラートが作成されている場合は、この値を変更できません。
- 「期間」から、期間を選択します。すでに**期間**が関連付けられているオブジェクトからアラートが作成されている場合は、この値を変更できません。
- 「終了日」にアラートの期限日を指定します。通常これは、アラートが作成されたオブジェクトに基づいて移入されます。終了日を設定する必要があります。
- 「優先度」リストから、アラートの優先度(「高」、「中」、「低」)を選択します。  
「指示」に、アラート・タイプに含まれている指示が表示されます。これらは読取り専用です。  
基本アラートには指示がありません。

9. 「説明」に、「データが破損しています」など、アラートの説明を入力します。最大 255 文字まで入力できます。
10. オプション: アラートの説明を補う参照を追加するには:
  - a. 「ファイルの添付」をクリックし、ファイルを選択して添付し、「OK」をクリックします。
  - b. 「リンクの添付」をクリックし、URL 名を入力してから URL を入力し(例: Oracle、https://www.oracle.com)、「OK」をクリックします。
11. アラートを作成するには、「OK」をクリックします。  
 「アラートの作成」ダイアログ・ボックスで「OK」をクリックすると、「アラート・アクション」ダイアログ・ボックスが「オープン(所有者)」ステータスで開きます。次に、所有者は「送信」をクリックし、「オープン(担当者)」ステータスに変更するか、ダイアログ・ボックスを閉じる(X)ことができます。

## アラートの更新

アラート・リストからアラートを開くと、指示の表示、必要な質問への回答およびコメントまたは参照者の追加を行うことができます。

必要に応じて、アラートに対するアラートを作成できます。たとえば、ネットワークおよび電源の問題を個別に処理するために、システム・ダウンの問題のサブアラートを作成できます。

アラート情報の更新が完了した後は、役割およびアラート・ステータスに応じて、アラートに対してアクションを実行できます。[アラート・アクション](#)を参照してください。

アラートの情報を更新するには:

1. ホーム・ページで「タスク」をクリックし、左側の「アラート」タブをクリックして「アラート」メイン・ページを開きます。
2. アラート・リストからアラートを選択して開きます。
3. オプション: アラートのプロパティを更新するには、右側にある「プロパティ」ドロワー



を選択し、必要に応じてプロパティを編集します。

所有者は、名前、優先度、所有者、終了日および説明を編集できます。

承認者は、名前および優先度を編集できます。

4. オプション: 右側の「指示」ドロワー  を選択し、アラートに指示が添付されている場合は、必要な指示を実行します。

5. オプション: 右側の「ワークフロー」ドロワー  をクリックして、割り当てユーザーが作業しているタスクの現在の進行状況を確認します。

6. オプション: 右側の「関連付けられたオブジェクト」ドロワー  を選択して、タスク、スケジュール、関連付けられたアラートなど、アラートに関連付けられているオブジェクトを確認します。

7. **オプション:** 右側の「アラート」ドロワー  をクリックして、アラートを作成するか、既存のアラートを選択します。
- アラートに新しいアラートを作成するには、「アラートの作成」をクリックして、アラートの情報を入力します。[アラートの作成](#)を参照してください。
  - 既存のアラートをオブジェクトに関連付けるには、「既存のアラート」をクリックして、アラート・リストからアラートを選択します。
- デフォルトでは、現期間のアラートが表示されます。フィルタを変更すると、任意の期間のアラートを選択できます。

8. **オプション:** 右側の「属性」タブ  をクリックして、アラートに対する役割に関連した属性を表示します。属性リストがある場合は、アラートの属性を選択できます。

9. **オプション:** 右側の「質問」タブ  をクリックして、アラートに必要な質問を確認し、回答します。

所有者(アラートを作成したユーザー)は、質問を受ける場合もあります。これにより、問題が発生しているユーザーから重要な詳細を収集できます。

10. **オプション:** 右側の「コメント」タブ  をクリックして、新しいコメントを入力し、「投稿」をクリックします。

保存されているコメントがある場合は、新しいコメントから順に時系列で入力領域の下に表示されます。コメントが 3 つを超える場合は、[すべてのコメントの表示](#)リンクが表示されます。

URL にファイルやリンクを参照として添付するには:

- 「ファイルの添付」をクリックし、ファイルを選択して添付し、「OK」をクリックします。
- 「リンクの添付」をクリックし、URL を入力して「OK」をクリックします。

11. **オプション:** 右側の「参照者」タブ  をクリックして、アラートに参照者を追加します。

- メンバー・セレクトタから参照者を選択するには、「追加」  をクリックし、アラートに対する表示アクセス権を持つユーザー、グループまたはチームの名前を入力または選択して、「OK」をクリックします。
- アラートについて通知する必要がある、システム外部のユーザーを追加するには、「外部ユーザーの追加」  をクリックします。ユーザーの電子メール・アドレスを入力し、通知優先度を選択して、「OK」をクリックします。

 ノート:

外部ユーザーはアラートを表示したり、アラートにアクセスすることはできません。アラートに関する通知を受け取るのみです。

その優先度レベル以上に対して、通知が送信されます。たとえば、「高」に設定すると、アラートが「高」に設定されている場合にのみ通知が送信されます。「低」に設定すると、すべての優先度レベル(低、中、高)について通知されます。



12. オプション: 「履歴」タブ  をクリックして、アラートが作成されてから実行されたすべてのアクションを表示します。このタブは読取り専用です。
13. アラートのアクションを選択するには、[アラート・アクション](#)を参照してください。

## スケジュールでのアラートの作成

スケジュールを操作しているときに、進行状況に影響する問題が発生する可能性がある場合は、アラートを作成できます。

スケジュールにアラートを作成するには、所有者またはシステム管理者としてスケジュールに対する編集機能が付与されている必要があります。

スケジュールに対するアラートを作成するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「タスク・マネージャ」をクリックします。
2. 左側の「スケジュール」タブをクリックします。
3. スケジュールを選択して「編集」をクリックします。  
編集権限がない場合は、「編集」アイコンではなく「プロパティ」アイコンが表示されません。
4. 「アラート」タブをクリックします。
5. 「アラートの作成」をクリックしてアラートを作成するか、「既存のアラート」をクリックしてアラート・リストの既存のアラートを関連付けます。

[アラートの作成](#)を参照してください。

## 補足データ・フォームでのアラートの作成

フォームを操作しているときに進行状況に影響する問題が発生する可能性がある場合は、アラートを作成できます。

補足データ・フォームでアラートを作成するには、所有者またはシステム管理者としてフォームに対する編集機能が付与されている必要があります。

アラートを作成するには:

1. ホーム・ページで、「タスク」をクリックします。
2. ワークリストから、または補足データ・タスク内から補足データ・フォームを選択します。
3. フォームの右側にある「アラート」タブをクリックします。

4. 「**アラートの作成**」をクリックしてアラートを作成するか、「**既存のアラート**」をクリックしてアラート・リストの既存のアラートを関連付けます。

[アラートの作成](#)を参照してください。

## アラート・アクション

アラートで実行できるアクションは、その所有権、ステータス、およびユーザーに割り当てられたセキュリティ権限に応じて変化します。たとえば、情報を要求し、役割とアクセス権に応じてアラートを送信、承認、請求または再割当てすることができます。

次の表に、使用可能なアクションと必要な役割を示します。

表 24-2 アラートのアクションと使用可能な役割

アクション	説明	役割
情報の要求	担当者が所有者にアラートを返信して、追加情報を要求できます	担当者
アラートの送信	所有者または担当者がアラートを送信できます	所有者、担当者
アラートの承認	担当者がアラートを承認できます	承認者
アラートの却下	担当者がアラートを却下できます	承認者
アラートの請求	アラートに割り当てられているチーム・メンバーが、そのアラートを請求できます。個人ではなく、チームにアラートの担当者または承認者が割り当てられている場合にのみ実行できます。アラートが別のチーム/グループ・メンバーによって請求された場合でも、請求できます。	担当者チーム・メンバー
アラートのリリース	チーム・メンバーが、現在請求されているアラートをリリースできます	現在請求されている担当者チーム・メンバー
再割当て	管理者が別のユーザーにアラートを再割当てすることができます	管理者
アラートの強制クローズ	管理者が、現在のアラート・ステータスにかかわらず、ステータスを「クローズ済」に変更できます	管理者
リフレッシュ	最新のコメント、ステータスなどでアラートを更新します	すべて

アラートに対してアクションを実行するには:

1. ホーム・ページで「**タスク**」をクリックし、左側の「**アラート**」タブをクリックして「**アラート**」メイン・ページを開きます。
2. アラート・リストからアラートを選択して開き、必要な情報が入力されていることを確認します。
3. 「**アクション**」メニューから使用可能なアクションを選択します。
  - **情報の要求**
  - **送信**
  - **承認**

- 請求
- リリース
- 再割当
- 再割当の要求
- 強制クローズ
- リフレッシュ

## アラート・リストからのアラートの表示

アラートは、アラート・リストから表示して処理できます。このリストには、アラートの名前、ステータス、優先度、終了日、アラート・タイプなどの情報が表示されます。

「アラート」リストにアクセスするには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」をクリックします。
2. 左側のナビゲーションから「**アラート**」をクリックします。  
「アラート」ページに指定した期間の既存のアラートが表示されます。アラートを開いて操作できます。

このリストをフィルタして、表示する列を選択できます。

### ノート:

- 「**ワークリスト**」タブのリストの上部には、アラートとそのステータスも表示されます。
- 以前にアラート・リストにアクセスしたことがある場合は、「**年**」および「**期間**」のフィルタも含め、選択したフィルタが表示されます。ただし、「**年**」および「**期間**」フィルタ・バーを削除して、他のフィルタを追加することもできます。初めてアラート・リストにアクセスする場合は、フィルタ・バーに「**年**」および「**期間**」は表示されません。かわりに、デフォルトで「**ステータス**」フィルタが表示されます。これにより、アラートが関連付けられている期間に関係なく、作業する必要があるすべてのアラートを表示できます。
- 「アラート・アクション」バナーには、アラートの現在のステータスを示す説明が付いたステータス・アイコンが表示されます。

アラートを開くと、アラートの情報と作業領域が表示されます。一番上のバーにオブジェクト名が表示されます。アラート名は、親オブジェクト(タスク、スケジュールなど)の上に表示されます。「**アクション**」メニューには、役割およびアラートのワークフローに応じて使用可能なアクション・オプションが表示されます。[アラート・アクション](#)を参照してください。

次のいずれかのアクションが使用可能な場合は、一番上のバーに個別のボタンとして表示されます:

- 送信
- 承認
- 却下
- 請求

- リリース
- 情報の要求
- 再オープン

「サマリー」ボードに、アラート・ステータスのグラフィックのサマリーが表示されます。表示されるアイテムは、ワークフローによって異なります。

- **残りの日数** - アラートが解決されるまでの日数が表示されます。ユーザーが現在アラートを使用している場合は、ワークフローのその部分に対する残りの日数が表示されます。それ以外の場合は、全体の残りの日数が表示されます。

残りが数時間のみの場合、「**残りの時間数**」または「**残りの分数**」として表示されます。「**終了日**」の値を超えている場合は、**期限超過日数**が表示されます。

- **優先度** - 現在のアラートの優先度が表示されます。
- **新規コメント** - 確認していないコメントの数が表示されます。
- **質問** - アラートを送信または承認する前に回答する必要がある質問の数が表示されます。
- **属性** - アラートを送信または承認する前に設定する必要がある属性の数が表示されます。
- **アラート** - そのアラートに関連付けられているオープン・アラートの数が表示されます。

アラートを表示するには:

1. タスクで、右側にある「**アラート**」タブをクリックします。
2. アラート名をクリックしてドリルダウンし、そのアラートに関する追加情報を表示するか、アラートを選択して「**開く**」をクリックします。
3. **オプション:** アラートを検索するには、「**検索**」ボックスに検索基準を入力します。
4. **オプション:** 表示する列を選択するには、「**アラート**」タブの「**アクション**」から、「**列の選択**」をクリックして表示する列を選択するか、「**すべて表示**」を選択します。
5. **オプション:** アラートをエクスポートするには、「**アクション**」メニューの「**Excel にエクスポート**」をクリックします。
6. アラートを作成するには、[アラートの作成](#)を参照してください。
7. アラートに対してアクションを実行するには、[アラート・アクション](#)を参照してください。
8. アラート・リストをリフレッシュするには、「**リフレッシュ**」をクリックします。

## アラートの削除

管理者またはアラート所有者は、不要になったアラートを削除できます。そのアラートに関連付けられているオブジェクトにアクセスできる必要もあります。

複数のアラートを同時に削除できます。

アラートを削除するには:

1. ホーム・ページで「**タスク**」をクリックし、左側の「**アラート**」タブをクリックして「**アラート**」メイン・ページを開きます。
2. 「アラート」リストからアラートを選択して開きます。
3. 「**アクション**」を選択して「**削除**」をクリックするか、行の「**アクション**」メニューから「**削除**」を選択します。
4. 確認のプロンプトで「**はい**」をクリックします。

# 25

## ビューおよびフィルタの操作

この章では、ビューおよびフィルタの作成、管理および使用方法について説明します。

### 関連トピック

- [フィルタの操作](#)
- [ビューの操作](#)

## フィルタの操作

フィルタを使用して、ビューおよびレポートに表示されるレコードを制限します。

### Related Topics

- [フィルタについて](#)
- [既存の保存済フィルタの表示](#)
- [新規フィルタの作成](#)
- [フィルタ・バーを使用した表示の調整](#)
- [フィルタ条件のクリア](#)
- [フィルタの削除](#)
- [フィルタの編集](#)
- [フィルタの複製](#)
- [フィルタの保存](#)
- [保存済フィルタの適用](#)
- [フィルタの削除](#)
- [フィルタの列の表示](#)
- [フィルタの列の順序変更](#)

## フィルタについて

フィルタは、リスト・ビューおよびレポートに表示されるレコードを制御します。

フィルタ対象の属性の値とフィルタに使用する演算子を指定できます。一般的な演算子には、「等しい」、「次と等しくない」、「次で始まる」、「次で終わる」、「次を含む」、「次より大きい」、「次より小さい」などがあります。使用可能な演算子は属性のデータ型によって異なります。たとえば、テキスト値をフィルタ処理するための演算子は、数値をフィルタ処理するための演算子とは異なります。フィルタは、AND ロジックを使用して結合されます。この場合、フィルタ条件のすべてを満たすレコードのみが表示されます。

AND と OR のロジックを使用した複雑なフィルタや、フィルタの適用順を決めるグループ化ロジックを作成することもできます。

フィルタは、将来使用できるように保存できます。一方で、ビューの設定には保存済リストを使用できます。「リスト・ビューの操作」を参照してください。

サービス管理者およびパワー・ユーザーは、他のユーザーがアクセスできるようにフィルタを公開できます。これらは「パブリック」としてマークされます。サービス管理者およびパワー・ユーザーは、保存済フィルタを使用してルールをテストできます。

### タスク・マネージャでフィルタが使用される場所

タスク・マネージャ内にはフィルタを使用できる場所が数多くあります。

フィルタの機能は、次の様々な領域全体で一貫しています:

- スケジュール・タスク
- テンプレート
- スケジュール
- タスク・タイプ
- アラート・タイプ
- ビュー
- 属性

### 補足データ・マネージャでフィルタが使用される場所

補足データ・マネージャ内にはフィルタを使用できる場所が数多くあります。

フィルタの機能は、次の様々な領域全体で一貫しています:

- 補足データ・タスク
- ビュー
- データ収集期間

## 既存の保存済フィルタの表示

保存されたフィルタ定義は、構成の「フィルタ」タブで使用できます。

保存済フィルタを表示するには:

1. ホームから、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。  
ホームから、「アプリケーション」、「補足データ」の順にクリックします。
2. 「フィルタ」をクリックして既存のフィルタを表示します。  
パブリック・フィルタには緑のチェック・マークが付いています。

## 新規フィルタの作成

新しいフィルタを使用して、要件に応じて行の表示を制御します。

新規フィルタを作成するには:

1. ホームから、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」、「フィルタ」の順にクリックします。次のいずれかのページに移動してフィルタを作成することもできます:
  - 「タスク」 > 「スケジュール・タスク」。右側の「...」、「フィルタの管理」の順にクリックします。

- 「タスク」 > 「補足データ・タスク」。右側の「...」、「フィルタの管理」の順にクリックします。
  - 「タスク」 > 「アラート」。右側の「...」、「フィルタの管理」の順にクリックします。  
ホームから、「アプリケーション」、「補足データ」、「フィルタ」の順にクリックします。
2. 「新規」(+ )をクリックして新規フィルタを追加します。「新規フィルタ」ダイアログが表示されます。
  3. 「名前」に、フィルタの一意の名前を入力します。
  4. 「説明」に、フィルタの説明(オプション)を入力します。
  5. 「タイプ」で、作成するフィルタのタイプを選択します。
  6. 「フィルタ定義」セクションで、「条件の作成」をクリックしてデータのフィルタに使用する条件を作成します。複数の条件および条件のグループを指定できます。条件ごとに、次を指定します:
    - (条件グループのみ)組合せ: 「および」または「または」を選択します。これらによって、この条件またはグループと、先行する兄弟の条件またはグループとの関係を指定します。このフィールドは、選択したノードがその親ノードの最初の子ではない場合にのみ有効になります。
    - 属性: 属性は、条件がフィルタの結果セットに含めるための値と比較される、フィールドまたは値です。ただし、フィルタが対象の場合、属性はユーザー定義属性のリストを超えたものを表します。
    - 演算子: 属性に対して実行する評価の種類を示します。たとえば、「次と等しい」、「次の間」、「次と等しくない」、「次より大きい」、「空白である」、「空白でない」、「次より小さい」、「次の間以外」です。
    - 値: 属性を比較する値を指定します。属性のタイプによって、使用可能な入力フィールドが決定されます。

## フィルタ・バーを使用した表示の調整

フィルタ・バーは、様々な領域で機能し、リストに表示されるデータをフィルタします。1つのリストに複数のフィルタを追加できます。

フィルタ構成でのフィルタ・バーの例を次に示します。デフォルトの「すべて」が使用されていることに注意してください。つまり、フィルタ属性を選択をしないかぎり、すべてのオブジェクトが表示されます。

Name	Description	Public	Type	
No Condition	No Condition	All	All	 Add a Filter

フィルタをリストに追加するには:

1. 「+ フィルタの追加」をクリックして、データのフィルタに使用できる属性のリストを表示します。  
属性のリストは、フィルタを追加するリスト・ページに応じて異なります。
2. 追加するフィルタ属性を選択します。  
選択した属性がフィルタ・バーに表示されます。

### 日付範囲の使用

一部のフィルタ属性には日付範囲があります。たとえば、別のフィルタ属性をフィルタ・バーに追加する場合(「作成日」など)、日付範囲機能を使用できます。日付値を使用して表示を絞り込み、次に「演算子」フィールドを使用して、この基準に合致する日付値の条件を設定します。

Created On  
No Condition

+ Add a Filter

Operator Equals

Value mmm dd, yyyy h:mm a

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
28	29	30	31	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	1

## フィルタ条件のクリア

フィルタをクリアすると、表示されているデータに対して、このフィルタによって適用された条件が削除されます。

フィルタをフィルタ・バーに追加した後、次のいずれかを実行してフィルタ条件をクリアできます:

- 各フィルタにカーソルを合せ、\*\*\* アイコンをクリックし、「**クリア**」をクリックして特定のフィルタの条件をクリアしてリセットします。
- フィルタ・バーの右側にある \*\*\* アイコンをクリックし、「**すべてのフィルタのクリア**」を選択します。フィルタ・バーのすべてのフィルタの条件がクリアされ、リセットされます。

## フィルタの削除

フィルタ・バーからフィルタを削除できます。

フィルタを削除すると、リストされたデータに対してフィルタに基づいて適用された条件もクリアされます。

フィルタ・バーからフィルタを削除するには:

- フィルタの横にある \*\*\* アイコンをクリックします。
- 「**削除**」をクリックしてフィルタ・バーからフィルタを削除します。

一部のページでは、デフォルトのフィルタは削除できません。

## フィルタの編集

フィルタの定義を変更するには、フィルタを編集します。

フィルタを編集するには:

1. 「フィルタ」 ページを開きます。  
ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」、「フィルタ」の順にクリックします。  
ホーム・ページで、「アプリケーション」 > 「補足データ」 > 「フィルタ」の順にクリックします。  
また、ページで「...」、「フィルタの管理」の順にクリックすると、フィルタを編集できます。
2. 編集するフィルタを選択し、 アイコンをクリックします。  
「フィルタの編集」ダイアログが表示されます。
3. 必要な情報を更新します。
4. 「OK」をクリックします。  
フィルタの詳細が更新されます。

## フィルタの複製

既存のフィルタのコピーを作成するには、フィルタを複製します。

フィルタを複製するには:

1. 「フィルタ」 ページで、複製するフィルタを選択して  アイコンをクリックします。  
フィルタのコピーがページに表示されます。
2. コピーされたフィルタをクリックします。  
「フィルタの編集」ウィンドウが表示されます。
3. 必要な情報を更新します。
4. 「OK」をクリックします。  
コピーしたフィルタのフィルタ詳細が更新されます。

## フィルタの保存

フィルタ定義を保存すると、(必要なときにフィルタを手動で設定するのではなく)必要なときにフィルタ設定を簡単に再利用できます。

デフォルトでは、フィルタはプライベート・フィルタとして保存されます。他のユーザーが同じ保存済フィルタを使用できるように、フィルタを公開できます。

フィルタを保存するには:

1. 「フィルタの追加」を使用して、必要な属性に対するフィルタを作成します。
2. 「アクション」メニューから、「フィルタの保存」を選択します。  
「フィルタの保存」ダイアログが表示されます。
3. 「名前」に、フィルタの一意の名前を入力します。
4. 「説明」に、フィルタに関するオプションの説明を入力します。  
「フィルタ定義」セクションには、選択したフィルタ条件が表示されることに注意してください。
5. 「OK」をクリックします。

## 保存済フィルタの適用

保存済フィルタを使用して、表示されるデータを制限できます。ページの右上にある「...」アイコンをクリックすると、保存済フィルタがすべて表示されます。これらのフィルタのいずれかをクリックしてデータに適用します。定義されたフィルタ条件に基づいてデータが表示されます。

## フィルタの削除

システムからフィルタの定義を削除するには、フィルタを削除します。

フィルタを削除するには:

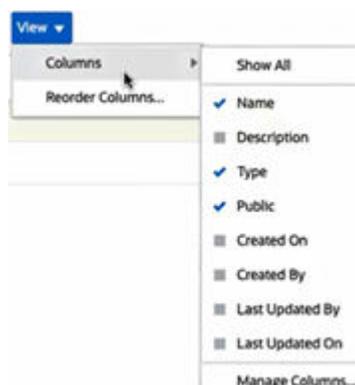
1. 「フィルタ」ページで、削除するフィルタを選択して  アイコンをクリックします。確認を求めるメッセージが表示されます。
2. 「はい」をクリックします。フィルタが削除されます。

## フィルタの列の表示

フィルタの列を表示するには:

1. 「フィルタ」ページで、「表示」、「列」の順にクリックします。
2. 表示する列を選択するか、「すべて表示」をクリックしてすべての列を表示します。

「列の管理」をクリックし、「表示」 > 「列」で表示される列を非表示に、または列を表示できます。



## フィルタの列の順序変更

列を並べ替えるには:

1. 「フィルタ」ページで、「表示」、「列の順序変更」の順にクリックします。
2. 順序を変更する列名を選択し、次のアイコンを使用して必要な位置に移動します:
  - : 選択したアイテムをリストの最上位に移動します
  - : 選択したアイテムをリストの 1 つ上に移動します

- : 選択したアイテムをリストの 1 つ下に移動します
  - : 選択したアイテムをリストの最下位に移動します
3. 「OK」をクリックします。  
指定された順序に基づいて列が表示されます。

## ビューの操作

ビューを使用すると、複数の方法でデータをビジュアル化して分析できます。

### 関連トピック

- [ビューについて](#)
- [リスト・ビューの操作](#)
- [ピボット・ビューの操作](#)
- [チャート・ビューの操作](#)
- [ガント・チャート・ビューの操作](#)
- [カレンダー・ビューの操作](#)
- [ビューの保存](#)
- [保存済ビューの編集](#)
- [デフォルト・ビューの設定](#)

## ビューについて

Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management 製品には、データを視覚的に表示できる高い柔軟性が備えられています。

### ビューのタイプ

- リスト・ビュー: ページ上のフィルタ条件を満たすオブジェクトの情報が、表に列と行で表示されます。
- ガント・チャート: タスクの期間とそれらの依存関係をグラフィカルに表す、スケジュールの時系列が表示されます。ガント・チャートを使用して、先行タスクから他のタスクへのステータスを確認できます。
- カレンダー: 月、週または日ごとに、従来のカレンダー形式でスケジュール・タスクが表示されます。「カレンダー・ビュー」を選択した後、カレンダー・アイコンを使用して「月」、「週」または「日」を選択します。「カレンダー・ビュー」では、「日」ヘッダーに「日ラベル」も表示されます。
- ピボット・ビュー: 数値属性データの値ごとのサマリーを作成できます。
- チャート・ビュー: データがチャート形式で表示されます。

ビュー・セレクトタ()を使用して、ビューを移動します。

### ビューのコンパクト表示の選択

リスト、ガントまたはピボット・ビューでアイテムを表示しているときは、データをコンパクトな形式で表示できます。「コンパクト」オプションは切替えスイッチとして機能し、表示され

る情報の行を増やすことができます。レコードをコンパクトな形式で表示するには、**ビュー・セレクタ**から「コンパクト」をクリックします。

ビューを保存すると、コンパクトの選択も保存されます。

### ビューを使用できるオブジェクト

タスク・マネージャでは、次のオブジェクトのビューを使用できます：

- スケジュール・タスク: タスク・マネージャのスケジュール済タスクのリストが含まれます
- アラート: アラートのリストが含まれ、アラート詳細にドリルダウンできます

補足データ・マネージャでは、次のオブジェクトのビューを使用できます：

- 補足データ・タスク: 補足データ・マネージャのタスクが含まれます
- 補足データ分析: 収集およびサブ収集の詳細が含まれます

## ビューでのデータのフィルタリングについて

フィルタを使用して、ビューに表示されるデータを制限できます。フィルタは、実行時(データが表示された後)、またはチャートまたはピボット・ビューの設計時に作成できます。

データは次の方法でフィルタできます：

- ビューのフィルタ・バー

フィルタ・バーからフィルタを使用して、ビューのデータに適用する必要がある基準を動的に決定できます。指定したフィルタ条件は、ビューが生成された後の実行時に適用され、適用された条件を反映するように表示が更新されます。[フィルタ・バーを使用した表示の調整](#)を参照してください。

たとえば、「担当者」列を選択した状態で「タスク」リストのフィルタ・バーにフィルタを追加します。このフィルタを使用して、1人以上の担当者を選択することでチャート・データを動的にフィルタできます。

たとえば、「策定者」列を選択した状態で「フォーム」リストのフィルタ・バーにフィルタを追加します。このフィルタを使用して、1人以上の策定者を選択することでチャート・データを動的にフィルタできます。

- 「ピボットの編集」または「チャートの編集」ダイアログの「レイアウト」タブの「フィルタ」

このフィルタはビュー・デザイナーによって追加されます。指定した条件は、データがピボット・ビューまたはチャート・ビューに追加される前にデータに適用されます。フィルタは、「**凡例(系列)**」セクションにリストされているデータ・セットごとに作成できます。[チャート・レイアウトの設定](#)を参照してください。

たとえば、ステータスを「オープン」に設定してデータ・セットのフィルタ条件を作成すると、そのデータ・セットをチャートにするときにオープン・タスクのみが含まれるようになります。

たとえば、ステータスを「オープン」に設定してデータ・セットのフィルタ条件を作成すると、そのデータ・セットをチャートにするときにオープン・フォームのみが含まれるようになります。

## リスト・ビューの操作

リスト・ビューを使用して、レコードを単純な表形式で表示します。

### Related Topics

- [リスト・ビューについて](#)
- [リスト・ビューのカスタマイズ](#)
- [タスク・マネージャの例: スケジュール・タスクのリスト・ビューのカスタマイズ](#)
- [補足データ・マネージャの例: 補足データ・タスクのリスト・ビューのカスタマイズ](#)

## リスト・ビューについて

リスト・ビューは、レコードを画面に表示し、レコードの詳細にドリルダウンできる機能を提供します。オブジェクトを行と列の形式で垂直リストに表示します。

リスト・ビューで行をさらに表示するには、右側にある**ビュー・セレクタ**から「コンパクト」を使用します。

リスト・ビューには、次のレポート機能があります:

- ビューに列を追加するか、ビューから列を削除して、列の順序を変更できます。
- フィルタを適用してリストに含まれるレコードを制限できます。
- アドホック・レポートとして、リスト・ビューを印刷することや、Excel にエクスポートすることができます。

## リスト・ビューのカスタマイズ

デフォルトの列が選択されているリスト・ビューが表示されます。デフォルトの列を簡単に変更してビューをカスタマイズできます。

リスト・ビューをカスタマイズするには:

1. 必要なオブジェクトのリスト・ビューを表示します。
2. 「アクション」ドロップダウンで、「列の選択」を選択します。  
「列の選択」ダイアログが表示されます。現在表示されている列は、「選択済」セクションにリストされています。
3. 「使用可能」セクションで、リスト・ビューに含める必要がある属性を選択し、矢印キーを使用して属性を「選択済」セクションに移動します。
4. 「OK」をクリックします。

## タスク・マネージャの例: スケジュール・タスクのリスト・ビューのカスタマイズ

タスクが作成された時期などの詳細情報を表示する必要があると仮定します。

次のステップを使用します:

1. ホームで「タスク」をクリックし、「スケジュール・タスク」をクリックします。
2. 「アクション」ドロップダウンから「列の選択」をクリックします。  
「列の選択」ダイアログが表示されます。これを使用して別の列を追加し、タスクに関する情報を表示します。
3. 「使用可能」で、リストを下にスクロールして「作成日」を選択し、矢印キーを使用して右側の「選択済」に移動します。

## 4. 「OK」をクリックします。

「スケジュール・タスク」ページにタスクの「作成日」列が表示されます。

Name	Task ID	Status (icon)	Start Date	End Date	Task Type	Created On
01 Planning Process	01_Plan	🟢	Jun 19, 2023 9:00 AM (Day 6) EST	Jun 21, 2023 5:00 PM (Day 8) EST	Parent Task	Jun 6, 2023 10:47 AM
001 - Set Strategic Goals	001_Plan	🟢	Jun 19, 2023 9:00 AM (Day 6) EST	Jun 19, 2023 5:00 PM (Day 6) EST	Basic Task	Jun 6, 2023 10:47 AM
002 - Allocate Targets	002_Plan	🟢	Jun 19, 2023 9:00 AM (Day 6) EST	Jun 19, 2023 5:00 PM (Day 6) EST	Enter Form Data	Jun 6, 2023 10:47 AM
003 - Expand Services Product Line	003_Plan	🟢	Jun 20, 2023 9:00 AM (Day 7) EST	Jun 20, 2023 5:00 PM (Day 7) EST	Basic Task	Jun 6, 2023 10:47 AM
004 - Complete Bottom-Up Operating Plan	004_Plan	🟢	Jun 19, 2023 9:00 AM (Day 6) EST	Jun 21, 2023 5:00 PM (Day 8) EST	Enter Form Data	Jun 6, 2023 10:47 AM

## 補足データ・マネージャの例: 補足データ・タスクのリスト・ビューのカスタマイズ

補足データ・タスクが最後に更新された時期などの詳細情報を表示する必要があると仮定します。

次のステップを使用します:

1. ホームで「データ」をクリックし、「補足データ・タスク」をクリックします。

「アクション」ドロップダウンから「列の選択」をクリックします。

「列の選択」ダイアログが表示されます。これを使用して、別の列をリスト・ビューに追加します。

2. 「使用可能」で「最終更新日」を選択し、矢印キーを使用して右側の「選択済」に移動します。

3. 「OK」をクリックします。

「補足データ・タスク」のリストに「最終更新日」という追加の列が表示されるようになりました。

Template	Sales Channel	Status (Detailed)	Start Date	End Date	Last Updated On
Regional Sales Channel	Direct Field Sales	With Preparer	Aug 31, 2022	Sep 26, 2022	Nov 14, 2022
Regional Sales Channel	Partner Channel Sales	Closed	Aug 31, 2022	Sep 26, 2022	Nov 14, 2022
Regional Sales Channel	Indirect Sales	With Approver Level 1	Aug 31, 2022	Sep 26, 2022	Nov 14, 2022

## ピボット・ビューの操作

ピボット・ビューを使用してデータを要約します。

### Related Topics

- [ピボット・ビューについて](#)
- [ピボット・ビューのカスタマイズ](#)
- [例: タスク・ステータスに基づいた組織単位の表示](#)

- 例: ステータスに基づいて補足データ・フォームを表示するためのテンプレートのグループ化

## ピボット・ビューについて

ピボット・ビューでは、属性データのサマリーを作成できます。

ピボット・ビューをサポートするオブジェクトごとにデフォルトのレイアウトがあります。ただし、ピボット・ビューは要件に基づいてカスタマイズできます。

ピボット・ビューに表示される各サマリー値をクリックしてドリルダウンし、合計を構成するレコードを表示します。

## ピボット・ビューのカスタマイズ

ピボット・ビューをカスタマイズして、ビジネス要件に基づいてデータを要約できます。データは、最大2つの属性によってグループ化できます。

ピボット・ビューをカスタマイズするには:

1. 必要なオブジェクトのピボット・ビューを表示します。
2. 右上にある「編集」アイコンをクリックします。  
「ピボットの編集」ダイアログが表示されます。「プロパティ」、「レイアウト」および「列」の3つのタブがあります。
3. 「プロパティ」タブで、基本的なビューのプロパティを入力します。ピボット・ビューのプロパティの設定を参照してください。
4. 「レイアウト」タブで、データをグループ化する方法の詳細を指定します。ピボット・ビュー・レイアウトの設定を参照してください。
5. 「列」タブで、データのラベルとデータのソート順を入力します。ピボット・ビューの列の指定を参照してください。
6. 「OK」をクリックします。

### Note:

レコードにドリルダウンして、1つ以上の詳細を更新して保存し、ピボット・ビューに戻っても、これらの変更は表示されません。最新の更新を表示するには、ピボット・ビューをリフレッシュする必要があります。

## ピボット・ビューのプロパティの設定

「ピボットの編集」ダイアログの「プロパティ」タブを使用して、ピボット・ビューの基本プロパティを設定します。

ピボット・ビューのプロパティを設定するには:

1. 「背景」で、次のいずれかを選択します:
  - **塗りつぶしなし:** 背景色を使用しません
  - **単色:** 背景色として使用される色を選択します。オプションで、「グラデーション」で色を選択できます。

2. 「ヘッダーの色」および「ヘッダー・サイズ」で、ピボット・ビューのヘッダーの色とフォント・サイズを選択します。
3. 「データの色」および「データ・サイズ」で、ピボット・ビューに表示されるデータの色とフォント・サイズを選択します。
4. データ値が欠落している場合にゼロを表示するには、「**ゼロとしての欠落値**」を選択します。  
これには、欠落しているデータ値や、適用されたフィルタが原因で欠落している値が含まれます。
5. 「**期間**」で、次のいずれかを選択します:
  - **選択**: 期間フィルタからの選択をそのまま使用します。
  - **最新の選択**: フィルタ内で時間順に最新の期間を使用します。
  - **選択の前**: フィルタ内の最新の期間に基づいて、X 期間前の新しいフィルタを作成します。  
期間選択を使用して、特定のピボット・ビューの「期間」のリストを微調整できます。これにより、同じグローバル期間フィルタを共有するピボット・ビューで異なる量のデータを表示したり、単一のローカル期間選択に基づいて期間データの分布を簡単に表示できます。

## ピボット・ビュー・レイアウトの設定

「**レイアウト**」タブでは、ピボット・ビューのデータを要約する方法を指定します。要約対象のデータにフィルタを適用することもできます。

次のレイアウト詳細を指定します:

1. 「**X 軸**」セクションで、ビューで使用するプライマリ・グループ化に関する詳細を指定します。
  - 「**タイプ**」で、次のいずれかを選択します: 「なし」、「属性」、「日付」、「ユーザー」、「はいいいえ」または「True/False」。  
「**タイプ**」を「属性」に設定した場合は、「**属性 1**」で、データのグループ化に使用する属性を選択します。たとえば、「組織単位」などです。  
オプションで、「**属性 2**」で別の属性を選択して、「**属性 1**」グループ内に別のサブグループを作成できます。
  - 「**ソート**」で、属性、およびデータをソートする順序を選択します。
  - グリッド内の行および列の表示を入れ替えるには、「**行および列の入替え**」を選択します。
2. 「**凡例(系列)**」セクションで、「**追加**」アイコンをクリックして、データを要約する属性ごとに 1 行を作成します。この要約は、指定された**タイプ**内に作成されます。このセクションには少なくとも 1 行が必要です。

行ごとに次の詳細を指定します:

- 「**値**」で、データを要約する属性を選択します。たとえば、「承認者(人数)」などです。
- 「**集約**」で、要約されたデータに対して実行する集約操作を選択します。選択した属性で指定された集約方法がデフォルトになります。サポートされている集約方法は、「平均」、「カウント」、「最大」、「最小」および「合計」です。

 **Note:**

「値」で数値以外の属性を選択した場合、使用可能な「集約」は「カウント」のみです。

- オプションで、「カテゴリ」の「値」グループ内で、データが要約される属性を選択します。
- 「グループ化基準」で、リストから属性を選択します。これは、「タイプ」が「属性」以外の値に設定されている場合のみ適用可能です。
- ピボット・ビューに含めるデータにフィルタを適用するには、「フィルタ」をクリックします。最初にこのフィルタがデータに適用され、次に、指定した条件を使用してデータが要約されます。

デフォルトでは、フィルタ条件の最初の句がこのフィルタのラベルとして表示されます。

3. 「OK」をクリックします。

### 集約を使用する際の考慮事項

タスク・マネージャの例は、[例: タスク・ステータスに基づいた組織単位の表示](#)を参照してください

補足データ・マネージャの例は、[例: ステータスに基づいて補足データ・フォームを表示するためのテンプレートのグループ化](#)を参照してください

## ピボット・ビューの列の指定

「列」タブを使用して、ピボット・ビューに表示するデータのラベルおよび順序をカスタマイズします。

このタブの各行は、ピボット・ビューの列として表示されます。行数は、「レイアウト」タブの「X軸」および「カテゴリ」に指定された内容によって決まります。

ピボット・ビューの表示をカスタマイズするには:

- 「ラベル」に、この列に表示されるラベルを入力します。
- この列でピボット・データをソートするには、「ソート」を選択します。昇順または降順でソートするには、このオプションの横にあるアイコンをクリックします。
- 表示される列の順序を変更するには、右側の矢印を使用します。この列のリストがピボット・ビューに左から右に表示されます。

## 例: タスク・ステータスに基づいた組織単位の表示

この例では、タスクのステータスに基づいて組織単位をグループ化するピボット・ビューの作成方法について説明します。次のイメージは、ピボット・ビューを示しています。

Schedule Tasks

View  ▼

4 Selected

Schedule	Year	Period	Status
AI	AI	AI	AI

Actions

Organizational Unit	Closed	Open	Pending
EMEA	17	25	4
North America	17	25	4
APAC	16	25	4
Corporate	19	25	4

前述のピボット・ビューを作成するには、次のステップを使用します:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」をクリックして「スケジュール・タスク」ページを表示します。
2.  アイコンをクリックして、「**ピボット・ビュー**」を選択します。
3. 「**編集**」アイコンをクリックして、要件のとおりピボット・ビューを構成します。
4. 「**プロパティ**」タブで:
  - **背景:** 塗りつぶしなし
  - **ヘッダー・サイズ:** 13
  - **データ・サイズ:** 14
  - **期間:** 選択
5. 「**レイアウト**」タブで:
  - 「**X 軸**」で:
    - 「**タイプ**」で、「**属性**」を選択します。
    - 「**属性 1**」で、「**組織単位**」を選択します。
    - 「**ソート**」で、最初のドロップダウン・リストから「**組織単位**」を選択し、2 番目のドロップダウン・リストから「**降順**」を選択します。
  - 「**凡例(系列)**」で:
    - 「**値**」で、「**タスク**」を選択します。
    - 「**カテゴリ**」で、「**ステータス**」を選択します。
6. 「**列**」タブで、表示されているラベルを選択します。
7. 「**OK**」をクリックします。

## 例: ステータスに基づいて補足データ・フォームを表示するためのテンプレートのグループ化

この例では、テンプレートをグループ化し、ステータスに基づいて補足データ・フォームを表示するピボット・ビューを作成する方法を説明します。次のイメージは、ピボット・ビューを示しています。

Supplemental Data Tasks

Search  View

Collection Interval	Year	Period	Corporate Region	Template	
Regional Sales Channel	All	All	All	All	...

Actions

Template	Status (Detailed)	Count
Regional Sales Chan...	With Preparer	1
Regional Sales Chan...	With Approver	1
Regional Sales Chan...	Closed	1

前述のピボット・ビューを作成するには、次のステップを使用します:

1. ホーム・ページで「データ」をクリックし、「補足データ分析」をクリックします。
2.  アイコンをクリックして、「ピボット・ビュー」を選択します。
3. 「編集」アイコンをクリックして、要件のとおりピボット・ビューを構成します。
4. 「プロパティ」タブで、次のようにします:
  - 背景: 塗りつぶしなし
  - ヘッダー・サイズ: 13
  - データ・サイズ: 14
  - 期間: 選択
5. 「レイアウト」タブで:
  - 「X軸」で:
    - 「タイプ」で、「属性」を選択します。
    - 「属性 1」で「テンプレート」を選択し、「属性 2」で「ステータス(詳細)」を選択します。
    - 「ソート」で、「テンプレート」、「降順」の順に選択します。
  - 「凡例(系列)」で:
    - 「値」で、「フォーム」を選択します。
    - 「カテゴリ」で、「なし」を選択します。
6. 「列」タブで、表示されているラベルを選択します。
7. 「OK」をクリックします。

## チャート・ビューの操作

チャート・ビューでは、データを視覚化できます。

### Related Topics

- [チャート・ビューの概要](#)
- [チャート・ビューの作成](#)
- [例: タスク・ステータスを月別に表示するチャートの作成](#)
- [例: プランと実際の終了日に対比して表示するチャートの作成](#)
- [例: タスク実行を組織単位別に表示するチャートの作成](#)
- [例: フォームとそのステータスを表示するチャートの作成](#)

- 例: フォーム・テンプレートの期間とステータス(および説明)を表示するチャートの作成

## チャート・ビューの概要

### Related Topics

- [チャート・ビューについて](#)
- [チャート・ビューのプロパティについて](#)
- [チャート・ビューのタイプ](#)

## チャート・ビューについて

チャートではデータの視覚的な表現が提供されます。

チャートはビジネス・プロセス・データに基づいて動的に生成されます。チャート内の領域(たとえば、円グラフ内の領域)をクリックすると、ドリルダウンしてその領域で要約された情報の詳細が表示されます。チャート・ビューとピボット・ビューのレイアウトはリンクされているため、チャート・ビューとピボット・ビューをすばやく切り替えることができます。

チャート・ビューの設定を構成すると、それらの設定が記憶されます。チャート・ビューを閉じて、ビジネス・プロセスで他のアクションを実行してからチャート・ビューに戻ると、以前の設定を使用してチャートが表示されます。

タスクをグラフィカルに表現するために、複数のタイプのチャート・ビューを使用できます。[チャート・ビューのタイプ](#)を参照してください。

補足データをグラフィカルに表現するために、複数のタイプのチャート・ビューを使用できません。

## チャート・ビューのプロパティについて

チャートのプロパティには、チャートのタイプ、チャートの向き、背景など、基本的な詳細が含まれています。チャートに設定できるプロパティは、チャートのタイプによって異なります。

チャートのプロパティ	適用可能なチャートのタイプ	説明
タイプ	すべて	チャートのタイプ <a href="#">チャート・ビューのタイプ</a> を参照してください。
背景	面、棒、縦棒、組合せ、ドーナツ、折れ線、円、タイル	チャートで使用される背景色 この色は、チャート領域全体(枠線から枠線まで)に適用されます。背景色を使用しない選択も可能です。その場合、チャートには白い背景が使用されます。背景色を指定する場合は、オプションでグラデーションも指定できます。
グラデーション	面、棒、縦棒、組合せ、折れ線	要素に対するデータ・ラベルの位置 使用可能なオプションは、チャートのタイプによって異なります。たとえば、棒グラフには「ラベルなし」、「中央」、「エッジの内側」または「エッジの外側」のラベル・オプションがあります。
棒のラベルの位置	組合せ	棒グラフのデータ・ラベルの位置

チャートのプロパティ	適用可能なチャートのタイプ	説明
グリッド線	面、棒、縦棒、組合せ、折れ線	チャート領域の分割に使用されるグリッド線
向き ゼロとしての欠落値	面、棒、縦棒 面、組合せ、折れ線、タイル	チャートの向き - 垂直または水平 特定の要素のデータが欠落している場合は、ゼロ(空白ではなく)を表示します  このオプションを選択すると、欠落値がすべてゼロとして表示されます。これには、欠落しているデータ値や、適用されたフィルタが原因で欠落している値が含まれません。
二重-Y 軸	面、棒、縦棒、組合せ、折れ線	チャートのプライマリ Y 軸の反対側に表示されます  セカンダリ Y 軸のスケールは、関連するデータ系列の値を反映します。セカンダリ Y 軸は折れ線チャート・タイプおよび棒チャート・タイプで使用できますが、より一般的には、組合せチャート・タイプで使用して、セカンダリ Y 軸にプロットされるデータ系列を区別しやすくします。たとえば、プライマリ Y 軸に「棒」、セカンダリ Y 軸に「折れ線」を選択します。  チャートのデータ値がデータ系列によって大きく異なる場合や、データのタイプ(通貨とパーセンテージなど)が混在する場合は、1 つ以上のデータ系列をセカンダリ(垂直) Y 軸にプロットできます。  セカンダリ Y 軸を分割二重チャートとしてプロットすることもできます。この場合、セカンダリ Y 軸はそのデータ系列とともに元のチャートの下にプロットされます。このケースでは、棒または折れ線のグラフ・タイプを使用できます。
線の太さ	組合せ、折れ線	チャートの線の幅 デフォルトは 5 ピクセルです。
棒のラベルの位置	組合せ	棒グラフとして表示されるデータ・セットのラベルの位置
パーセンテージとして表示	ドーナツ、円	各データ・セットの値はパーセンテージ(数値ではなく)として表示されます
3D チャート	円、タイル	3 次元チャート形式

## チャート・ビューのタイプ

次のタイプのチャート・ビューを作成できます:

- 面

各データ・セットを表す網掛け領域が表示されます

- 棒  
比較に利用するために、複数のデータ値のグラフィカルなサマリーが表示されます  
棒グラフは、垂直または水平に表示できます
- 列  
異なるデータ・セット同士を積み重ねて表す棒グラフが表示されます  
1つの棒の最終的な高さは、データ・セットを合算した値を表します。
- 組合せ  
棒グラフ、折れ線グラフおよび面グラフの任意の組合せを1つのチャートにマージできる  
ビジュアライゼーションを提供します。  
Y軸にプロットされる2つの異なるデータ・セットがある場合に、このタイプを使用します。  
プライマリY軸の反対側にセカンダリY軸を追加できます。セカンダリY軸を追加すると、他のメジャーでは適切にスケールされない1つのメジャーのスケールをチャートに表示できます。たとえば、パーセンテージ・メジャーと通貨メジャーを同じチャートに表示できます。
- ドーナツ  
データ・セット同士を比較するために、セグメントに分割された円形グラフが表示され  
ます  
中央の空白は、全データ・セットの合計を表します。
- 折れ線  
ユーザーは一定期間にわたるデータのトレンドをビジュアル化できます
- 円  
データ・セット同士を比較するために、スライスに分割された円グラフが表示されます
- タイル  
ユーザーは、データ・セットから特定の値を選択して別のタイルに表示できます  
これにより、少数のデータ・ポイントまたは個々のデータ・ポイントが強調されます。

デフォルトのチャート・ビューは棒グラフです。チャートの表示をカスタマイズしたり、デフォルトのチャート・ビューを変更できます。

## チャート・ビューの作成

アプリケーションのデータをグラフィカルに表現するには、チャートを作成します。

チャート・ビューを作成するには:

1. 必要なオブジェクトのチャート・ビューを表示します。
2. ページの右上にある**ビュー・セレクタ**から、「**チャート・ビュー**」を選択します。  
初めてチャート・ビューにアクセスしている場合は、デフォルトのチャート・ビュー・レイアウトが表示されます。
3. 右上の「**編集**」をクリックして「チャートの編集」ダイアログを表示します。「**プロパティ**」、「**レイアウト**」および「**凡例**」の3つのタブがあります。
4. 「**プロパティ**」タブで、**チャート・ビューのプロパティについて**の説明に従って、必要なチャートのプロパティを指定します。

5. 次のトピックの説明に従って、チャートの作成に必要な情報を入力します:
  - [チャート・レイアウトの設定](#)
  - [チャート軸の設定](#)
  - [チャート凡例の設定](#)
6. 「OK」をクリックしてチャート定義を保存し、チャートを表示します。

チャート・ビュー内の任意の領域をクリックしてドリルダウンし、選択した領域によって集約されたすべてのレコードを表示します。レコードは「詳細」ダイアログに表示されます。このダイアログ内のリンクをクリックすると、個々のレコードの詳細にアクセスできます。

 **Note:**

個々のレコードにドリルダウンして、1つ以上の詳細を更新して保存し、チャート・ビューに戻っても、これらの変更は表示されません。最新の更新を表示するには、チャート・ビューをリフレッシュする必要があります。

## チャート・レイアウトの設定

「**レイアウト**」タブを使用して、チャートのX軸とY軸にプロットするデータ・セットを指定します。

チャート・レイアウトを設定するには:

1. 「チャートの編集」ダイアログの「**レイアウト**」タブを開きます。
2. 「**X軸**」セクションで、チャートのX軸にプロットするデータを指定します。
  - 「**タイプ**」で、データのタイプを選択します。オプションには、「なし」、「属性」、「日付」、「ユーザー」、「はいいいえ」および「True/False」があります。
  - 「**タイプ**」を「**属性**」に設定した場合は、X軸にプロットされる属性を少なくとも1つ指定する必要があります。属性は2つまで指定できます。
    - 「**属性 1**」で、X軸にプロットする最初の属性を選択します。オプションで、「**属性 2**」で、X軸にプロットする2番目の属性を選択します。属性1と属性2の値は様々な組合せでプロットされます。
  - 「**ソート**」で、X軸のデータをソートするために「**昇順**」または「**降順**」を選択します。
3. 「**凡例(系列)**」セクションで、チャート・ビューのY軸に沿ってプロットされる1つ以上のデータ・セットを指定します。

たとえば、3つのデータ・セットを定義すると、Y軸に3つの値がプロットされます。

各データ・セット内で、集約操作を実行したり、データをグループ化できます。オプションで、フィルタを適用して、データ・セットに対して集約を計算するときに選択されるデータを制限できます。

このセクションのデータ・セットごとに、次を指定します:

- 「**値**」で、プロットされる値を選択します。たとえば、金額やステータスです。
- 「**集約**」で、選択した値に対して実行される集約を選択します。サポートされている集約方法は、「平均」、「カウント」、「最大」、「最小」および「合計」です。このトピックの最後にある「集約を使用する際の考慮事項」を参照してください。

- (オプション)「**カテゴリ**」で、データ・セット内のデータを分類するのに使用される属性を選択します。カテゴリを使用して、グラフをより詳細に分類します。
- (オプション)「**グループ化基準**」で、「日付」タイプのデータがグループ化される基準になる属性を選択します。  
「**グループ化基準**」が日付に設定されている場合は、新しい列の「**日付集約**」が表示されます。

- (オプション)「**フィルタ**」で、「フィルタ」アイコンをクリックしてフィルタ条件を追加します。この条件により、チャート・ビュー内のデータ・セットに表示されるデータが絞り込まれます。これは、データがチャート・ビューに含まれる前に適用されます。たとえば、「**値**」が「**タスク**」に設定されている場合は、ステータスが「**オープン**」のタスクのみをプロットするフィルタを作成できます。

デフォルトでは、フィルタ条件の最初の句がこのフィルタのラベルとして表示されません。

4. 「**OK**」をクリックして、チャート・ビューの設定を保存します。

### 例

タスク・マネージャについては、次を参照してください:

- 例: [タスク・ステータスを月別に表示するチャートの作成](#)
- 例: [プランと実際の終了日を対比して表示するチャートの作成](#)
- 例: [タスク実行を組織単位別に表示するチャートの作成](#)

補足データ・マネージャについては、次を参照してください:

- 例: [フォームとそのステータスを表示するチャートの作成](#)
- 例: [フォーム・テンプレートの期間とステータス\(および説明\)を表示するチャートの作成](#)

## チャート軸の設定

チャート軸のプロパティは、チャートの軸ラベルのビジュアル表示に影響を与えます。チャートの X 軸、およびプライマリ Y 軸とセカンダリ Y 軸のタイトルとラベルを作成できます。また、Y 軸のテキストおよび数値のフォーマットを編集したり、両方の Y 軸のカスタム範囲を定義できます。

### Note:

「**タイプ**」が「**ドーナツ**」、「**円**」または「**タイル**」に設定されているチャート・ビューの場合、このタブは表示されません。

チャート軸を定義するには:

1. 「チャートの編集」ダイアログの「**軸**」タブを開きます。
2. 「**X 軸**」を選択し、次を指定します(「**レイアウト**」タブで「**タイプ**」が「**日付**」に設定されているチャート・ビューの場合のみ):
  - **間隔**: 「**自動**」、「**日次**」、「**月次**」または「**年次**」。
  - **最大**: 「**自動**」または「**固定**」。「**固定**」の場合は日付を選択します。
  - **最小**: 「**自動**」または「**固定**」。「**固定**」の場合は日付を選択します。

- 「Y 軸」をクリックして、次について「自動」または「固定」を指定します: 「最小」、「最大」、「主ユニット」および「副ユニット」。
- 「プロパティ」タブでチャートに対して「二重 Y 軸」が選択されている場合は、「二重 Y 軸」をクリックし、「最小」、「最大」、「主ユニット」および「副ユニット」を指定します。
- 「OK」をクリックして、チャート・ビューの設定を保存します。

## チャート凡例の設定

凡例のプロパティは、チャートの凡例のビジュアル表示に影響を与えます。

凡例の位置を変更したり、凡例のタイトルの表示、背景や枠線の色の変更、およびチャート・ラベルのフォントやフォーマットの編集ができます。

組合せグラフの場合、「凡例」タブには「タイプ」という名前の新しい 1 列が含まれます。構成された凡例(系列)ごとにタイプを選択できます。たとえば、ある凡例は「タイプ」=「棒」で、他の凡例は「タイプ」=「折れ線」です。

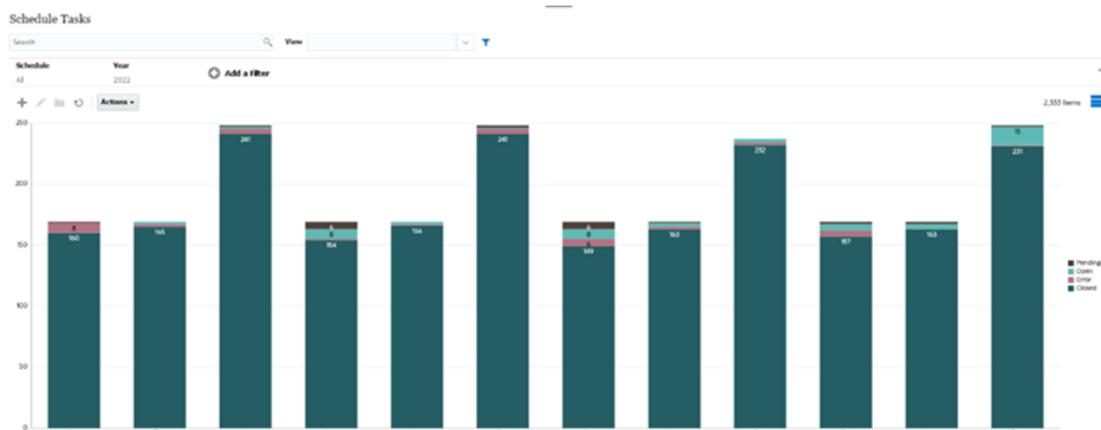
チャート凡例を定義するには:

- 「チャートの編集」ダイアログの「凡例」タブを開きます。
- 「凡例の位置」で、チャート内の要素に関連させてデータ・ラベルの位置を選択します。使用可能なオプションは、「凡例なし」、「左」、「右」、「上」または「下」です。
- 「パレット」で、チャート・ビューを表示するときに使用される色パレットを選択します。
- 「系列」表には、「レイアウト」タブで指定した凡例ごとに 1 行が表示されます。各データ・セットについて次を指定します:
  - 「ラベル」に、チャートのこのデータ系列に表示されるラベルを入力します。
  - セカンダリ Y 軸に表示されるデータ系列に対して「二重-Y」を選択します。
- 「OK」をクリックして、チャート・ビューの設定を保存します。

## 例: タスク・ステータスを月別に表示するチャートの作成

この例では、すべてのタスクの完了ステータスを期間別に要約するチャートを作成します。これは一定の期間に完了していない特定のタスクがあるかどうかを識別するのに役立ちます。

生成されたチャートは、次のように表示されます。チャート内の任意の領域をクリックして、集約されたその領域を構成する個々のレコードにドリルダウンして表示します。



このチャートを作成するには:

1. ホームページで「**タスク**」をクリックします。「**スケジュール・タスク**」をクリックして、タスク・リストを表示します。
2. ページの右上にある**ビュー・セレクト**から、「**チャート・ビュー**」を選択します。  
デフォルトのチャートが表示されているチャート・ビューが表示されます。
3. 右上の「**編集**」をクリックして「チャートの編集」ダイアログを表示します。
4. 「プロパティ」タブで、次の情報を入力します:
  - 「タイプ」で、「**縦棒**」を選択します。
  - 「**グリッド線**」の選択を解除します。
  - 「期間」で、「**選択**」を選択します。
5. 「**レイアウト**」タブで、次の情報を入力します:

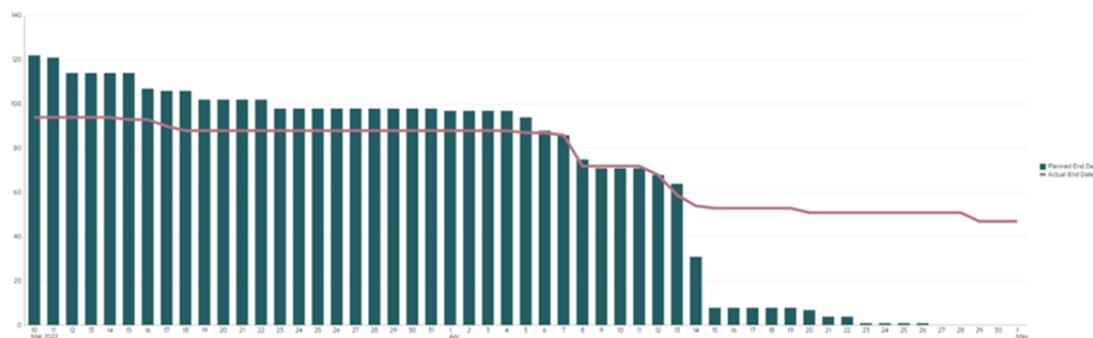
The screenshot shows the 'Edit Chart' dialog box with the 'Layout' tab selected. The 'X Axis' section has 'Type' set to 'Attribute', 'Attribute 1' set to 'Period', and 'Attribute 2' empty. The 'Legend (Series)' section has 'Value' set to 'Task', 'Aggregation' set to 'Count', and 'Categories' set to 'Status'. There are also 'OK' and 'Cancel' buttons at the top right.

- 「**X 軸**」セクションで、次のようにします:
    - 「**タイプ**」で、「**属性**」を選択します。
    - 「**属性 1**」で、「**期間**」を選択します。
  - 「**凡例(系列)**」セクションで、次のようにします:
    - 「**値**」で、「**タスク**」を選択します。
    - 「**カテゴリ**」で、「**ステータス**」を選択します。
6. 「**軸**」タブでは、デフォルトの設定をそのままにしておきます。
  7. 「**凡例**」タブで、次の情報を入力します:
    - 「**凡例の位置**」で、「**右**」を選択します。
    - 「**パレット**」で、「**レッドウッド**」を選択します。
  8. 「**OK**」をクリックします。

## 例: プランと実際の終了日を対比して表示するチャートの作成

この例では、タスクの完了のプランと実績を対比して経時的に視覚化します。スケジュールが予定より進んでいるか遅れているかを確認できます。このチャートには、特定の日付以降のすべてのタスクの終了日が表示されます。これにより、スケジュールの最初に大量のタスク数が表示され、スケジュールの最終タスクまで徐々に減少します。

生成されたチャートは、次のように表示されます。チャート内の任意の領域をクリックして、集約されたその領域を構成する個々のレコードにドリルダウンして表示します。



このチャートを作成するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」をクリックし、「**スケジュール・タスク**」をクリックしてタスク・リストを表示します。
2. ページの右上にある**ビュー・セレクタ**から、「**チャート・ビュー**」を選択します。デフォルトのチャートが表示されているチャート・ビューが表示されます。
3. 右上の「**編集**」アイコンをクリックして「**チャートの編集**」ダイアログを表示します。
4. 「**プロパティ**」タブで、次の情報を入力します:

**Edit Chart [Task Burndown - Plan vs Actual End Date]** OK Cancel

Properties Layout Axis Legend

Title: Task Burndown - Plan vs

Type: Combination

Background:  No Fill  Solid  Gradient

Label Position:  No Label  Center  Above Point  Below Point  Before Point  After Point

Bar Label Position:  No Label  Center  Inside Edge  Outside Edge

Line Weight: 5

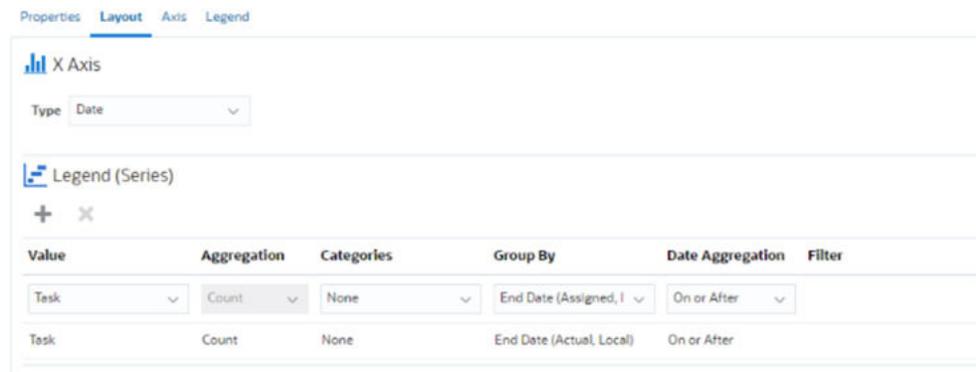
Grid Lines:

Missing Values as Zero:

Dual-Y Axis:

Period:  Selection  Latest in Selection  Prior from Selection

- 「**タイプ**」で、「**組合せ**」を選択します。
  - 「**背景**」で、「**塗りつぶしなし**」を選択します。
  - 「**ラベルの位置**」で、「**ラベルなし**」を選択します。
  - 「**棒のラベルの位置**」で、「**ラベルなし**」を選択します。
  - 「**線の太さ**」には **5** を選択します。
  - 「**グリッド線**」を選択します。
  - 「**二重 Y 軸**」の選択を解除します。
  - 「**期間**」で、「**選択**」を選択します。
5. 「**レイアウト**」タブで、次の情報を入力します:

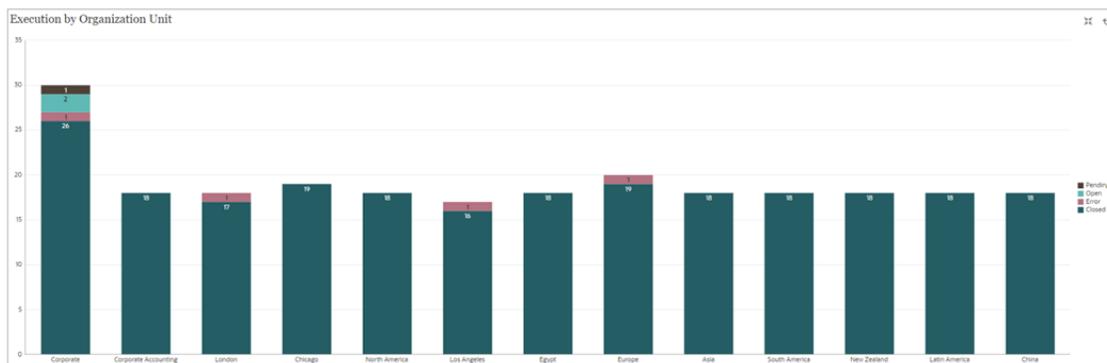


- 「X 軸」セクションで、「タイプ」に「日付」を選択します。
- 「凡例(系列)」セクションで、2つの値を入力します:  
最初の入力:
  - 「値」で、「タスク」を選択します。
  - 「カテゴリ」で、「なし」を選択します。
  - 「グループ化基準」で「終了日(割当済)」を選択します
  - 「日付集約」で、「次以後」を選択します。
 2番目の入力:
  - 「値」で、「タスク」を選択します。
  - 「カテゴリ」で、「なし」を選択します。
  - 「グループ化基準」で「終了日(実際、ローカル)」を選択します
  - 「日付集約」で、「次以後」を選択します。
- 6. 「軸」タブでは、デフォルトの設定をそのままにしておきます。
- 7. 「凡例」タブで、次の情報を入力します:
  - 「凡例の位置」で、「右」を選択します。
  - 「パレット」で、「レッドウッド」を選択します。
- 8. 「OK」をクリックします。

## 例: タスク実行を組織単位別に表示するチャートの作成

この例では、組織単位別にタスクの完了を示すチャートを作成して、各組織がタスクの完了状況をモニターできるようにします。

生成されたチャートは、次のように表示されます。チャート内の任意の領域をクリックして、集約されたその領域を構成する個々のレコードにドリルダウンして表示します。



このチャートを作成するには:

1. ホームページで「**タスク**」をクリックします。「**スケジュール・タスク**」をクリックして、タスク・リストを表示します。
2. ページの右上にある**ビュー・セレクタ**から、「**チャート・ビュー**」を選択します。  
デフォルトのチャートが表示されているチャート・ビューが表示されます。
3. 右上の「**編集**」をクリックして「**チャートの編集**」ダイアログを表示します。
4. 「**プロパティ**」タブで、次の情報を入力します:
  - 「**タイプ**」で、「**縦棒**」を選択します。
  - 「**グリッド線**」の選択を解除します。
  - 「**期間**」で、「**選択**」を選択します。
5. 「**レイアウト**」タブで、次の情報を入力します:

Edit Chart [Execution by Organization Unit] OK Cancel

Properties **Layout** Axis Legend

**X Axis**

Type: Attribute  Attribute 1: Organizational Unit  Attribute 2:

**Legend (Series)**

+ ×

Value	Aggregation	Categories	Group By	Filter
Task <input type="text" value="Task"/>	Count <input type="text" value="Count"/>	Status <input type="text" value="Status"/>		

- 「**X 軸**」セクションで、次のようにします:
    - 「**タイプ**」で、「**属性**」を選択します。
    - 「**属性 1**」で、「**組織単位**」を選択します。
  - 「**凡例(系列)**」セクションで、次のようにします:
    - 「**値**」で、「**タスク**」を選択します。
    - 「**カテゴリ**」で、「**ステータス**」を選択します。
6. 「**軸**」タブでは、デフォルトの設定をそのままにしておきます。
  7. 「**凡例**」タブで、次の情報を入力します:

- 「凡例の位置」で、「右」を選択します。
  - 「パレット」で、「レッドウッド」を選択します。
8. 「OK」をクリックします。

## 例: フォームとそのステータスを表示するチャートの作成

この例では、特定の補足データ・フォームのステータスを表示するチャートを作成します。

### Note:

これはアプリケーション固有のデータに基づいた一般的な例で、データに同様のチャートを設定する方法を説明しています。この例は再現できません。

生成されたチャートは、次のように表示されます。チャート内の任意の領域をクリックして、集約されたその領域を構成する個々のレコードにドリルダウンして表示します。



このチャートを作成するには:

1. ホームページで「**タスク**」をクリックします。「**補足データ・タスク**」をクリックして、補足データ・タスク・リストを表示します。
2. ページの右上にある**ビュー・セレクタ**から、「**チャート・ビュー**」を選択します。  
デフォルトのチャートが表示されているチャート・ビューが表示されます。
3. 右上の「**編集**」をクリックして「チャートの編集」ダイアログを表示します。
4. 「**プロパティ**」タブで、次の情報を入力します:

Properties Layout Axis Legend

Type Bar

Background  No Fill  Solid  Gradient

Label Position  No Label  Center  Inside Edge  Outside Edge

Orientation  Vertical  Horizontal

Grid Lines

Missing Values as Zero

Dual-Y Axis

Period  Selection  Latest in Selection  Prior from Selection

- 「タイプ」で、「棒」を選択します。
- 「背景」で、「単色」を選択します。ドロップダウンから好みの色を選択します。
- 「グラデーション」チェック・ボックスを選択します。好みの色を選択します。
- 「ラベルの位置」で、「エッジの外側」を選択します。
- 「向き」で、「垂直」を選択します。
- 「グリッド線」を選択します。
- 「ゼロとしての欠落値」の選択を解除します。
- 「二重 Y 軸」の選択を解除します。
- 「期間」で、「選択」を選択します。

5. 「レイアウト」タブで、次の情報を入力します:

Properties Layout Axis Legend

X Axis

Type Attribute Attribute 1 Template Attribute 2 Status (Detailed)

Sort Template Descending

Legend (Series)

Value	Aggregation	Categories	Group By	Filter
Form	Count	None		

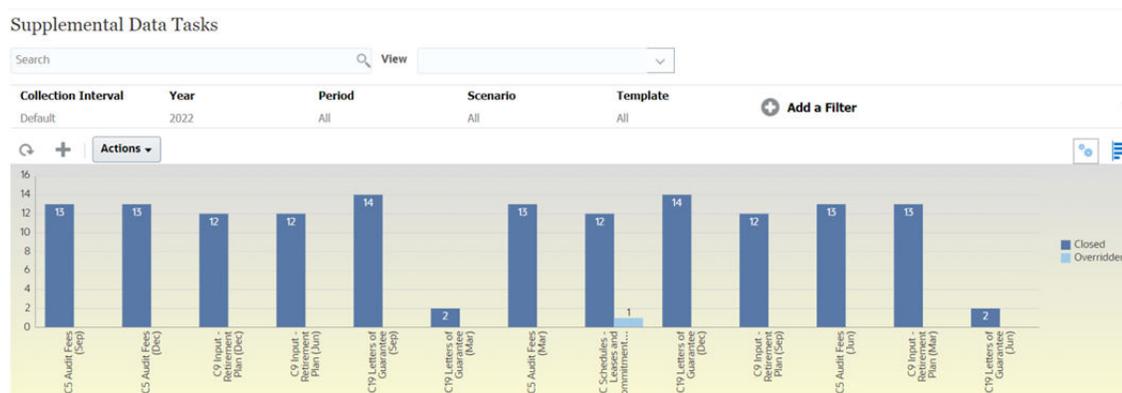
- 「X 軸」セクションで、「タイプ」に「日付」を選択します。
  - 「凡例(系列)」セクションで、2つの値を入力します:
    - 「値」で、「フォーム」を選択します。
    - 「カテゴリ」で、「なし」を選択します。
6. 「軸」タブでは、デフォルトの設定をそのままにしておきます。

7. 「凡例」タブで、次の情報を入力します:
  - 「凡例の位置」で、「右」を選択します。
  - 「パレット」で、「レッドウッド」を選択します。
8. 「OK」をクリックします。

## 例: フォーム・テンプレートの期間とステータス(および説明)を表示するチャートの作成

この例では、特定の補足データ・フォームの期間および詳細ステータスを表示するチャートを作成します。

生成されたチャートは、次のように表示されます。チャート内の任意の領域をクリックして、集約されたその領域を構成する個々のレコードにドリルダウンして表示します。



このチャートを作成するには:

1. ホームページで「タスク」をクリックします。「補足データ・タスク」をクリックして、補足データ・タスク・リストを表示します。
2. ページの右上にあるビュー・セレクタから、「チャート・ビュー」を選択します。デフォルトのチャートが表示されているチャート・ビューが表示されます。
3. 右上の「編集」をクリックして「チャートの編集」ダイアログを表示します。
4. 「プロパティ」タブで、次の情報を入力します:

**Edit Chart** [OK] [Cancel]

**Properties** | Layout | Axis | Legend

Type: Bar

Background:  No Fill  Solid  Gradient

Label Position:  No Label  Center  Inside Edge  Outside Edge

Orientation:  Vertical  Horizontal

Grid Lines:

Missing Values as Zero:

Dual-Y Axis:

Period:  Selection  Latest in Selection  Prior from Selection

- 「タイプ」で、「棒」を選択します。
- 「背景」で、「単色」を選択します。ドロップダウンから好みの色を選択します。

- 「グラデーション」を選択します。ドロップダウン・メニューから好みの色を選択します。
  - 「ラベルの位置」で、「エッジの内側」を選択します。
  - 「向き」で、「垂直」を選択します。
  - 「グリッド線」を選択します。
  - 「ゼロとしての欠落値」の選択を解除します。
  - 「二重 Y 軸」の選択を解除します。
  - 「期間」で、「選択」を選択します。
5. 「レイアウト」タブで、次の情報を入力します:

Edit Chart OK Cancel

Properties **Layout** Axis Legend

**X Axis**

Type: Attribute (dropdown) Attribute 1: Template (dropdown)  
 Attribute 2: Period (dropdown)

Sort: Template (dropdown) Ascending (dropdown)

---

**Legend (Series)**

+ ×

Value	Aggregation	Categories	Group By	Filter
Form (dropdown)	Count (dropdown)	Status (Detailed) (dropdown)		

- 「X 軸」セクションで、「タイプ」に「属性」を選択します。「属性 1」に対して「テンプレート」を選択します。「属性 2」に対して「期間」を選択します。
  - 「凡例(系列)」セクションで、2つの値を入力します:
    - 「値」で、「フォーム」を選択します。
    - 「カテゴリ」で、「ステータス(詳細)」を選択します。
6. 「軸」タブでは、デフォルトの設定をそのままにしておきます。
7. 「凡例」タブで、次の情報を入力します:
- 「凡例の位置」で、「右」を選択します。
  - 「パレット」で、「レッドウッド」を選択します。
8. 「OK」をクリックします。

## ガント・チャート・ビューの操作

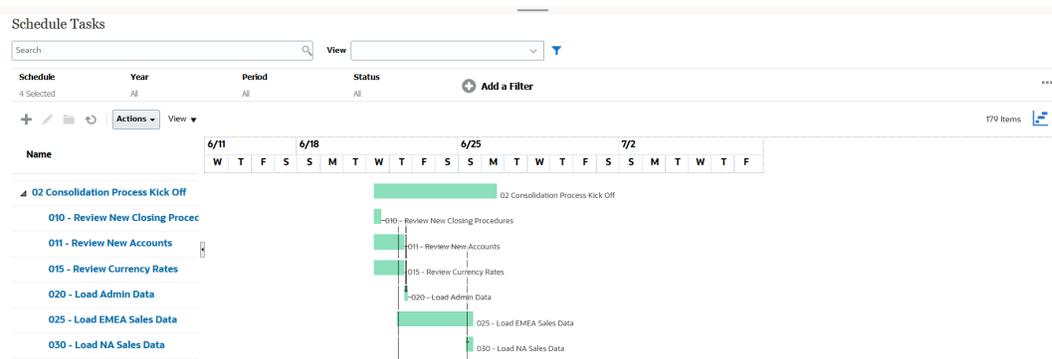
ガント・チャートには、タスクの期間とそれらの依存関係をグラフィカルに表す、スケジュールの時系列が表示されます。タスク間の先行関係を表示できます。棒は期間を表し、矢印は依存関係を表します。また、階層の親子タスク関係も表示できます。

テンプレートを作成する際にガント・チャート・ビューを使用することを選択し、タスク間の先行関係を表示したり、スケジュールにタスクを追加した後で優先順序を確認したりできます。

ガント・チャート・ビューは、**スケジュール済タスク**で使用できます。

ガント・チャートにデータを表示するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」、「**スケジュール・タスク**」の順にクリックします。
2. **ビュー・セレクタ**・アイコンをクリックして、「**ガント・チャート**」を選択します。次に示すように、ガント・チャート・ビューにスケジュール・タスクのデータが表示されます。



## カレンダー・ビューの操作

カレンダー・ビューには、月、週または日に基づいて、従来のカレンダーのフォーマットですべてのスケジュール済タスクが表示されます。

「月」ビューには、標準的なカレンダー・フォーマットの日が表示されます。

「週」ビューには、指定された週のタスクが表示されます。1番上のセクションには、複数の日にまたがるタスクが表示されます。2番目のセクションには、1日に含まれるタスクが表示されます。タスクは1日の各時間にまたがって縦方向に表示されます。

「日」ビューは、24時間に焦点を当てています。

カレンダー・ビューにスケジュール済タスクを表示するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」、「**スケジュール・タスク**」の順にクリックします。
2. **ビュー・セレクタ**・アイコンをクリックして、「**カレンダー・ビュー**」を選択します。カレンダー・ビューにスケジュール・タスクのデータが表示されます。カレンダー・アイコンを使用して、「月」、「週」または「日」を選択します。「カレンダー・ビュー」では、「日」ヘッダーに「日ラベル」も表示されます。

次のイメージは、カレンダー・ビューに表示された1か月のスケジュール済タスクを示しています。

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	
28	29	30	31	1	-5 Day -5 Day -5	2	
4	-4 Day -4 Day -4 Day -4	5	-3 Day -3 Day -3 Day -3	6	-2 Day -2 Day -2 Day -2	7	-1 Day -1 Day -1 Day -1
11	Day 1 Day 1 Day 1 Day 1	12	Day 2 Day 2 Day 2 Day 2	13	Day 3 Day 3 Day 3 Day 3	14	Day 4 Day 4 Day 4 Day 4
18	Day 6 Day 6 Day 6 Day 6	19	Day 7 Day 7 Day 7 Day 7	20	Day 8 Day 8 Day 8 Day 8	21	Day 9 Day 9 Day 9 Day 9
25	+16 more	+12 more	+18 more	+27 more	+12 more	+12 more	
+20 more	+36 more	+38 more	+20 more	+12 more		1	

## ビューの保存

ビューを保存すると、ビューの定義と設定を保存できます。このビューで設定したフォーマットにデータを表示する必要があるとき、必要なビュー・プロパティを再度設定するのではなく、保存済ビューを使用できます。

保存済ビューの範囲は、そのビューの基となるオブジェクトに制限されます。たとえば、タスクに関する保存済ビューを作成すると、そのビューは仕訳では使用できません。特定の補足データ・セットに関する保存済ビューは、異なるデータ・セットでは使用できません。したがって、特定のフォームまたは収集内でのみ使用できます。

ビューを保存するには:

1. リストでフィルタ、列またはソートを調整し、目的のデータが表示されるようビューを調整します。[フィルタ・バーを使用した表示の調整](#)を参照してください。
2. 「アクション」から「ビューの保存」をクリックします。
3. 「ビューの保存」ダイアログに、名前(最大 80 文字入力できます)およびオプションの説明(最大 255 文字入力できます)を入力します。
4. 「OK」をクリックします。

「ビュー」ドロップダウン・セレクタをクリックして、すべての保存済リストを表示できます。

## 保存済ビューの編集

保存済リスト・ビュー、ピボット・ビューまたはチャート・ビューの名前および定義を変更するには、その保存済ビューを編集します。

ビューを編集するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」、「ビュー」の順にクリックします。  
使用可能なビューのリストが表示されます。
2. 特定のビューを選択し、「編集」アイコンをクリックします。ビューの「...」アイコンをクリックして「編集」を選択することもできます。
3. 必要な情報を更新し、「OK」をクリックします。

ビューを編集するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「補足データ」、「ビュー」の順にクリックします。  
使用可能なビューのリストが表示されます。
2. 特定のビューを選択し、「編集」アイコンをクリックします。ビューの「...」アイコンをクリックして「編集」を選択することもできます。
3. 必要な情報を更新し、「OK」をクリックします。

## デフォルト・ビューの設定

サービス管理者またはパワー・ユーザーは、発行された保存済ビューをデフォルト・ビューとして設定できます。

ユーザーが初めてビューを開くと、デフォルト・ビューが表示されます。使用されたビュー設定はシステムに記憶されます。したがって、以降にビューを開くと、ビューは最近使用された設定で表示されます。

デフォルト・ビューを設定するには:

1. ホーム・ページから、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 「**ビュー**」タブをクリックして、「ビュー」ページを表示します。
3. デフォルトとして設定するビューを選択し、「**デフォルトの設定**」アイコンをクリックします。  
または、デフォルトとして設定するビューの「**アクション**」メニューをクリックし、「**デフォルトの設定**」を選択します。

デフォルト・ビューを設定するには:

1. ホーム・ページから、「**アプリケーション**」、「**補足データ**」の順にクリックします。
2. 「**ビュー**」タブをクリックして、「ビュー」ページを表示します。
3. デフォルトとして設定するビューを選択し、「**デフォルトの設定**」アイコンをクリックします。  
または、デフォルトとして設定するビューの「**アクション**」メニューをクリックし、「**デフォルトの設定**」を選択します。

 **Note:**

「**デフォルトの設定**」アクションは、公開されたリスト・ビューに対して使用できません。管理者またはパワー・ユーザーがビューをデフォルトに設定すると、保存済リスト・ビューがそのビュー・タイプのすべてのユーザーに使用可能になるだけでなく、ユーザーがそのビュー・タイプを開いたときにデフォルトで選択されます。

# ダッシュボードの操作

## 関連トピック

- [ダッシュボードの概要](#)
- [「タスクの概要」ダッシュボード](#)
- [「コンプライアンス」ダッシュボード](#)
- [財務ダッシュボード](#)
- [操作ダッシュボードの操作](#)

## ダッシュボードの概要

次のダッシュボードを使用して、タスク・マネージャおよび補足データ管理の情報をモニターできます:

- **タスクの概要**
- **コンプライアンスの概要**
- **財務ダッシュボード**

これらのダッシュボードの少なくとも1つにアクセスできる場合、ダッシュボード機能が有効になります。

ダッシュボードの概要は、次のビデオを参照してください。



[ダッシュボードの概要](#)

## 「タスクの概要」ダッシュボード

「タスクの概要」ダッシュボードには、全体のステータス、タスク・マネージャ および補足データのステータス用のステータス・ダッシュボードが含まれます。

### 全体概要

全体概要ステータスを表示するには:

1. ホーム・ページで、「**ダッシュボード**」から「**タスクの概要**」をクリックします。
2. 左側の「**全体概要**」をクリックします。
3. POV から年と期間を選択します。

**オープン・タスク、遅延および予定どおりのタスクの数**が表示されます。

 **ノート:**

ダッシュボードには、オープンまたはクローズ済ステータスのスケジュールのタスク詳細、オープンまたはクローズ済収集期間内の補足データ・フォーム、およびオープンまたはクローズ済仕訳期間内のエンタープライズ仕訳が表示されません。

4. ステータスをクリックすると、そのステータスを持つタスクのリストにドリルダウンできます。

タスクに対するアクセス権がある場合は、タスクのリストでタスク名をクリックし、そのタスクを直接開いて操作できます。

5. **オプション:** 次のいずれかの方法を使用してタスクのリストをソートします。

- **件数(昇順)**
- **件数(降順)**
- **アルファベット(昇順)**
- **アルファベット(降順)**

#### タスク・マネージャの概要

タスク・マネージャの概要ステータスを表示するには:

1. ホーム・ページで、「**ダッシュボード**」から「**タスクの概要**」をクリックします。
2. POV から**年**と**期間**を選択します。
3. 「**タスク**」ドロップダウン・リストからタスクを選択するか、「**すべて**」を選択してすべてのタスクを表示します。

**オープン・タスク**、**遅延**および**予定どおり**のタスクの数が表示されます。

 **ノート:**

ダッシュボードには、オープンまたはクローズ済ステータスのスケジュールのタスク詳細が表示されます。

4. ステータスをクリックすると、そのステータスを持つタスクのリストにドリルダウンできます。

タスクに対するアクセス権がある場合は、タスクのリストでタスク名をクリックし、そのタスクを直接開いて操作できます。

5. 「**表示基準**」を選択してタスクをフィルタし、オプションを選択します:

- **優先度**
- **スケジュール**
- **タスク・タイプ**
- **組織単位**

6. **オプション:** 次のいずれかの方法を使用してタスクのリストをソートします。

- **件数(昇順)**
- **件数(降順)**

- アルファベット(昇順)
- アルファベット(降順)
- 属性順序(昇順)
- 属性順序(降順)

### 補足データの概要

補足データのステータスの概要ダッシュボードを表示するには:

1. ホーム・ページで、「**ダッシュボード**」から「**タスクの概要**」をクリックします。
2. 左側の「**補足データの概要**」をクリックします。
3. 「**収集間隔**」ドロップダウン・リストから、収集間隔を選択します。
4. POV のメンバーを選択します。  
POV ディメンションは、選択した**収集間隔**の頻度ディメンションの選択に基づきます。
5. 「**フォーム**」ドロップダウン・リストからフォームを選択するか、「**すべて**」を選択してすべてのフォームを表示します。

**オープン・フォーム、遅延および予定どおりのフォーム**の数が表示されます。

#### ノート:

ダッシュボードには、オープンまたはクローズ済収集期間内の補足データ・フォームが表示されます。

6. ステータスをクリックすると、そのステータスのフォームのリストが表示されます。  
フォームに対するアクセス権がある場合は、フォームのリストでフォーム名をクリックし、そのフォームを直接開いて操作できます。
7. 「**表示基準**」を選択してタスクをフィルタし、オプションを選択します:
  - **ワークフロー・ディメンション**
  - **フォーム**
  - **収集**
  - **頻度**
8. **オプション**: 次のいずれかの方法を使用してタスクのリストをソートします。
  - **件数(昇順)**
  - **件数(降順)**
  - **アルファベット(昇順)**
  - **アルファベット(降順)**

## 「コンプライアンス」ダッシュボード

「コンプライアンス」ダッシュボードでは、会社がコンプライアンスの目標をどの程度達成しているかに関するメトリックが提供されます(予定どおり完了したタスクと遅延しているタスクが区別され、承認または却下されたタスクの数が表示されます)。ユーザー・パフォーマンス・メトリックは、ユーザーと組織単位に基づいて表示できます。

## 「タスク・マネージャ・コンプライアンス」ダッシュボード

「タスク・マネージャのコンプライアンス」ダッシュボードを表示するには:

1. ホーム・ページで、「**ダッシュボード**」から「**コンプライアンス**」をクリックします。
2. 左側の「**タスク・マネージャのコンプライアンス**」をクリックします。
3. 視点で、**年**および**期間**を選択します。
4. 「**タスク**」ドロップダウン・リストからタスクを選択するか、「**すべて**」を選択してすべてのタスクを表示します。  
  
円グラフに、タスクのステータスとして、完了したタスクの数、予定どおり準備済のタスクのパーセンテージ、予定どおり承認済のタスクのパーセンテージ、却下されたタスクの数、およびアラートの数が表示されます。
5. ステータス・チャートのいずれかをクリックすると、そのステータスのタスクのリストが表示されます。  
  
タスクに対するアクセス権がある場合は、タスクのリストでタスク名をクリックし、そのタスクを直接開いて操作できます。
6. 「**表示基準**」を選択してタスクをフィルタし、オプションを選択します:
  - **ユーザー**: ユーザー名をクリックすると、ユーザーの詳細を表示できます。
  - **組織単位**
7. 「**パフォーマンス**」から、タスクのパフォーマンス・メトリックを選択します。
  - **準備**
  - **承認**
8. **オプション**: リストされているタスクの順序を変更するには、「**順序**」で次の基準を選択します。
  - **ユーザー**
  - **予定どおり**
  - **遅延**
  - **却下**

## 「補足データのコンプライアンス」ダッシュボード

「Supplemental Data のコンプライアンス」ダッシュボードを表示するには:

1. ホーム・ページで、「**ダッシュボード**」をクリックし、「**コンプライアンスの概要**」をクリックします。
2. 左側の「**補足データのコンプライアンス**」をクリックします。
3. 「**収集間隔**」ドロップダウン・リストから、収集間隔を選択します。
4. POV のメンバーを選択します。  
  
POV ディメンションは、選択した**収集間隔**の頻度ディメンションの選択に基づきます。
5. 「**フォーム**」ドロップダウン・リストからフォームを選択するか、「**すべて**」を選択してすべてのフォームを表示します。

円グラフに、フォームのステータスとして、完了したフォームの数、予定どおり準備済のフォームのパーセンテージ、予定どおりレビュー済のフォームのパーセンテージ、予定どおり転記済のフォームのパーセンテージ、および却下済のフォームの数が表示されます。

6. ステータス・チャートのいずれかをクリックすると、そのステータスを持つフォームのリストにドリルダウンできます。  
フォームに対するアクセス権を持っている場合、フォームのリストでフォーム名をクリックしてそのフォームを直接開き、操作することができます。
7. 「パフォーマンス」から、フォームのパフォーマンス・メトリックを選択します。
  - 準備
  - レビュー
  - 転記中
8. **オプション:** リストされているフォームの順序を変更するには、「順序」で次の基準を選択します。
  - ユーザー
  - 予定どおり
  - 遅延
  - 却下

## 財務ダッシュボード

「財務」ダッシュボードでは、会社の実績がグラフィカルに提示されます。たとえば、「貸借対照表」ダッシュボード、「キャッシュ・フロー」ダッシュボードまたは「利益」ダッシュボードを表示できます。どのダッシュボードからでも詳細を表示できます。

Financial Consolidation and Close には、次のデータを含む **FCCS\_Income Statement Dashboard** という事前定義されたダッシュボードがあります:

- 主要収益勘定科目(FCCS\_Income Statement Tile Chart フォームからのデータを表示)
- エンティティごとの四半期売上(FCCS\_Quarterly Sales by Entity フォームからのデータを表示)
- エンティティごとの月次売上(FCCS\_Monthly Sales by Entity フォームからのデータを表示)
- エンティティごとの四半期純利益(FCCS\_Quarterly Net Income by Entity フォームからのデータを表示)
- エンティティごとの月次純利益(FCCS\_Monthly Net Income by Entity フォームからのデータを表示)

管理者は、データ・フォームと外部アーティファクトを選択してチャート・タイプを指定することにより、ダッシュボードを作成できます。*Financial Consolidation and Close の管理*の「ダッシュボードの設計」を参照してください。

「財務」ダッシュボードを表示するには:

1. ホーム・ページで、「ダッシュボード」から「財務ダッシュボード」をクリックします。
2. 既存のダッシュボードを検索するには、検索ボックスにテキストを入力し、「検索」をクリックします。

# 操作ダッシュボードの操作

## 関連トピック

- [操作ダッシュボードの概要](#)
- [操作ダッシュボードの表示および開く手順](#)

## 操作ダッシュボードの概要

ダッシュボードには拡張レポート機能が用意されています。ユーザーは、重要なビジネス・データをチャートに表現し、評価して(場合によっては)変更できます。

### 操作ダッシュボードについて

操作ダッシュボードを使用すると、ビジネス・プロセスの可視性が向上します。

各ダッシュボードには最大 4 つのビューを表示できます。これには、リスト・ビュー、ピボット・ビューまたはチャート・ビューが含まれます。一度に最大 10 個のダッシュボードを開くことができます。サービス管理者、または操作ダッシュボード - 管理の役割またはダッシュボード - 管理の役割を付与されているユーザーは、ダッシュボードを作成および編集できます。また、ダッシュボード作成者は、1 人以上のユーザー、グループまたはチームに権限を付与することで、ダッシュボードへのアクセスを制御できます。ダッシュボードへのアクセス権を付与されたユーザーは、ダッシュボードを実行してそのデータを表示できます。アクセス権でユーザーに許可されるのは、ダッシュボードの表示のみです。基礎となるデータにまでアクセスが拡張されるわけではありません。したがって、ユーザーには、サービス内での自身のアクセス権に基づいてレコードの表示のみが可能で

### 操作ダッシュボードの機能

ダッシュボードでは次の機能が提供されます:

- 多様なチャート・タイプを使用してデータを対話形式で視覚化します
- ビジネス・プロセスのパフォーマンスについて概要と詳細の両方の洞察を取得します
- ダッシュボード・レベルおよび個々のビュー・レベルでフィルタを作成します  
ダッシュボード・レベルで作成されたフィルタは、ダッシュボード内のすべてのビューに適用されます。その後、ビュー・レベルで定義されたフィルタ(ある場合)が適用されます。
- ダッシュボードの表示に対するアクセスを制御します

#### Note:

補足データについては、デプロイメント後に属性の計算式の定義を変更すると、操作ダッシュボードおよびグループ化された他のビュー(ピボット・ビュー、チャート・ビューおよびレポート)の結果に影響します。ダッシュボードでは常に、属性について定義された最新の計算式の定義が使用されます。

# 操作ダッシュボードの表示および開く手順

## 既存のダッシュボードの表示

ダッシュボードを表示するには、**ホーム**から「ライブラリ」、「操作ダッシュボード」の順にクリックします。

「操作ダッシュボード」ページには、既存のダッシュボードのリストが表示されます。

## ダッシュボードを開く手順

ダッシュボードを開くには:

1. 「操作ダッシュボード」ページにアクセスします。このページには、既存の操作ダッシュボードのリストが表示されます
2. (オプション)「**検索**」ボックスを使用して、特定のダッシュボードを検索します。
3. 開くダッシュボードの名前をクリックします。

「操作ダッシュボード」タブの横にある新しい動的タブ内にダッシュボードが開きます。

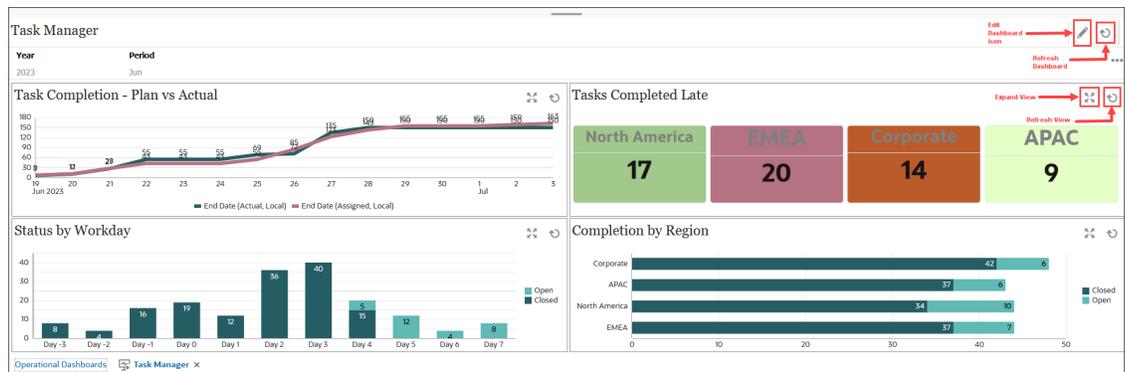
ダッシュボードで次のアクションを実行できます:

- 任意のビューで任意の領域または合計をクリックし、その領域または合計を構成する個々のレコードにドリルダウンします。
-  アイコンを使用して、ダッシュボードの設定を編集します。
-  アイコンを(ダッシュボード・レベルで)使用して、ダッシュボード内のすべてのビューをリフレッシュします。

ダッシュボード内の各ビューで、次の操作ができます:

-  アイコンを(ダッシュボード・レベルで)使用して、ダッシュボード内のビューをリフレッシュします。
-  アイコンを使用して、ダッシュボード内のビューを展開または縮小します。

次のイメージは、ダッシュボードを開いたときに使用可能なオプションを示しています。



# A

## IPM インサイトのメトリック

### Related Topics

- [IQR \(四分位範囲\)](#)
- [MAD \(平均絶対偏差\)](#)
- [MAPE \(平均絶対パーセンテージ誤差\)](#)  
MAPE は平均絶対パーセンテージ誤差であり、これは、基本的に MAD を変数の単位ではなくパーセンテージ単位にスケールする相対測度です。
- [ME \(平均誤差\)](#)
- [変更された Z スコア](#)
- [MPE \(平均パーセンテージ誤差\)](#)
- [RMSE \(2 乗平均平方根誤差\)](#)
- [RPD \(相対パーセンテージ差異\)](#)
- [TOTD \(合計偏差\)](#)
- [TOTPD \(合計パーセンテージ差異\)](#)
- [Z スコア](#)
- [影響の重大さのしきい値](#)

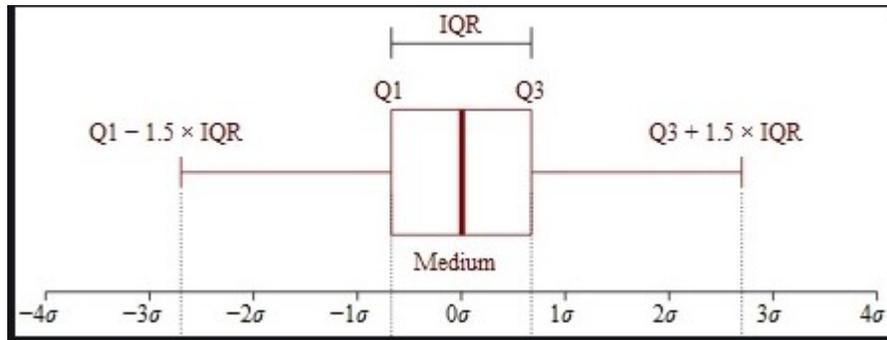
## IQR (四分位範囲)

IQR は、外れ値にラベルを付けるための別の堅牢な手法です。外れ値検出の IQR (四分位範囲) 手法は、探索的データ分析の先駆者である **John Tukey** によって開発されました。当時は手作業で計算およびプロットを行っていたため、通常、含まれるデータセットは小規模で、データが示す実像を理解することに重点が置かれていました。

箱ひげ図では、四分位数(データを等サイズの 4 つのグループに分割する点)を使用してデータの全体像がプロットされます。箱は第 1 四分位数と第 3 四分位数を表し、これらは 25 パーセンタイルと 75 パーセンタイルに相当します。箱の中の線は第 2 四分位数を表し、これは中央値です。

外れ値検出のこの手法の名前となっている四分位範囲は、第 1 四分位数と第 3 四分位数(箱の両端)の間の範囲です。Tukey は、第 1 四分位数から IQR の 1.5 倍より大きく下に外れたデータ・ポイント、または第 3 四分位数から IQR の 1.5 倍より大きく上に外れたデータ・ポイントを範囲外とみなしました。従来の箱ひげ図では、ひげは、範囲外でない最後のデータ・ポイントまで延びます。

四分位範囲(IQR)は、データセットを四分位数に分割することに基づくばらつきの測度です。四分位数は、ランク順に並べられたデータセットを 4 つの均等な部分に分割します。Q1、Q2 および Q3。IQR は  $Q3 - Q1$  として定義され、 $Q3 + 1.5 * IQR$  または  $Q1 - 1.5 * IQR$  の外側にあるデータが外れ値とみなされます。



## MAD (平均絶対偏差)

### 説明

平均絶対偏差は、絶対差異の単純な拡張です。絶対差異を合計し、結果をレコード数で除算します。平均絶対偏差は、実際のデータ・ポイントと適合データ・ポイントの各ペア間の平均距離の誤差統計です。

### 式

$$MAD = \frac{\sum |x_i - \bar{x}|}{n}$$

### 例

Month	Year	A Actual	F Forecast	A-F Diff	% A-F % Diff	A-F  Abs Diff
April	2016	49458	44000	5458	11%	5458.3
May	2016	39905	46689	-6784	-17%	6784.3
June	2016	41088	50127	-9040	-22%	9039.8
July	2016	49708	52000	-2292	-5%	2292.1
August	2016	40103	48124	-8020	-20%	8020.5
September	2016	37886	44000	-6114	-16%	6113.7

**Mean Absolute Deviation (MAD)** 6284.8

## MAPE (平均絶対パーセンテージ誤差)

MAPE は平均絶対パーセンテージ誤差であり、これは、基本的に MAD を変数の単位ではなくパーセンテージ単位にスケールする相対測度です。

### 説明

平均絶対パーセンテージ誤差はプラスとマイナスの誤差を相互に相殺しないように絶対値を使用する相対誤差測度であり、相対誤差を使用すると、時系列モデル間の予測精度を比較できます。

### 式

$$M = \frac{1}{n} \sum_{t=1}^n \left| \frac{A_t - F_t}{A_t} \right|$$

MAPE = Average of (abs ((Actual – Forecast)/(Actual)))

### 例

		A	F	A-F	% A-F	A-F	A-F ^2	(A-F)/A
Month	Year	Actual	Forecast	Diff	% Diff	Abs Diff	Sq of Diff	Abs of Error by Actual
April	2016	49458	44000	5458	11%	5458.3	29792888.7	0.1104
May	2016	39905	46689	-6784	-17%	6784.3	46026936.2	0.1700
June	2016	41088	50127	-9040	-22%	9039.8	81718244.7	0.2200
July	2016	49708	52000	-2292	-5%	2292.1	5253888.9	0.0461
August	2016	40103	48124	-8020	-20%	8020.5	64328075.2	0.2000
September	2016	37886	44000	-6114	-16%	6113.7	37376907.1	0.1614
<b>MAPE</b>								15.1%

## ME (平均誤差)

### 説明

平均誤差(ME)では差異を合計し、結果を n で除算します。このコンテキストにおける誤差とは、測定値の不確実性、つまり、測定された値と真の/正しい値の間の差異です。

### 式

平均誤差 = すべての誤差値の合計/レコード数

### 例

Month	Year	A	F	A-F
		Actual	Forecast	Diff
April	2016	49458	44000	5458
May	2016	39905	46689	-6784
June	2016	41088	50127	-9040
July	2016	49708	52000	-2292
August	2016	40103	48124	-8020
September	2016	37886	44000	-6114
<b>Mean Error</b>				<b>-4465</b>

## 変更された Z スコア

Z スコア手法では、データのグループの平均と標準偏差を利用して中心傾向と分散を測定します。これが問題となるのは、平均と標準偏差は外れ値の影響を大きく受け、堅牢ではないためです。実際、外れ値によってもたらされる誤差は、外れ値を見つけてデータセットから除去する最大の理由の 1 つとなっています。Z スコア手法のもう 1 つの短所は、小規模なデータセットでは異常な動作を示す点です。実際、データセットに含まれる項目が 12 個未満の場合、Z スコア手法で外れ値が検出されることはありません。

このことがきっかけとなって、同じ制限を受けない、変更された Z スコア手法が開発されました。この手法は、偏りがあるデータや正規分布ではないデータ、および観測数が少ない場合に適しています。MAD は平均絶対偏差です。変更された Z スコア手法には、さらに、平均と標準偏差ではなく、中央値と MAD を使用するという利点があります。中央値と MAD は、それぞれ中心傾向と分散の堅牢な測度です。

$$Z = \frac{x - \mu}{\sigma}$$

Score (x), Mean (μ), SD (σ)

$$M_i = \frac{0.6745(x_i - \tilde{x}_i)}{MAD}$$

## MPE (平均パーセンテージ誤差)

### 説明

MPE は平均パーセンテージ誤差(偏差)です。これは、基本的に ME を変数の単位ではなくパーセンテージ単位にスケールする相対測度です。MPE の主な利点は、異なるスケールのデータ間で差異を比較できることです。

式

$$\text{MPE} = \frac{100\%}{n} \sum_{t=1}^n \frac{a_t - f_t}{a_t}$$

$a_t$  は予測される数量の実際の値、 $f_t$  は予測、 $n$  は変数が予測される回数です。

例

		A	F	A-F	% A-F
Month	Year	Actual	Forecast	Diff	% Diff
April	2016	49458	44000	5458	11%
May	2016	39905	46689	-6784	-17%
June	2016	41088	50127	-9040	-22%
July	2016	49708	52000	-2292	-5%
August	2016	40103	48124	-8020	-20%
September	2016	37886	44000	-6114	-16%
				<b>MPE</b>	<b>-11.5%</b>

## RMSE (2 乗平均平方根誤差)

説明

2 乗平均平方根誤差(RMSE)は、残差(プレディクション誤差)の標準偏差です。残差は、回帰線のデータ・ポイントからどの程度離れているかを示す測度です。RMSE は、これらの残差がどのように分散しているかを示す測度です。つまり、データが最良適合線の周囲にどの程度集中しているかがわかります。

式

$$RMSE = \sqrt{\sum_{i=1}^n \frac{(\hat{y}_i - y_i)^2}{n}}$$

$\hat{y}_1, \hat{y}_2, \dots, \hat{y}_n$  are predicted values

$y_1, y_2, \dots, y_n$  are observed values

$n$  is the number of observations

f は予測(期待値または不明な結果)であり、o は観測値(既知の結果)です。

例

Month	Year	Actual	Forecast	Abs Diff	Sq of Diff
April	2016	49458	44000	5458	29789764
May	2016	39905	46689	6784	46022656
June	2016	41088	50127	9039	81703521
July	2016	49708	52000	2292	5253264
August	2016	40103	48124	8021	64336441
September	2016	37886	44000	6114	37380996
				Sum of Sq of Diff	264486642
				RMSE (SQRT(Sum of Sq of Diff)/No of rows))	6639.360436

## RPD (相対パーセンテージ差異)

説明

2つのポイント間の相対パーセンテージ差異を計算するには、まず、様々な測定値またはサンプルにわたって2つの数量間の相対差異を検出します。一方の測定値を他方から減算し、この差異の絶対値を取得します。

式

$$RPD = \frac{|R1 - R2|}{\left(\frac{R1 + R2}{2}\right)} \times 100,$$

where

R1 is sample 1, and

R2 is sample 2.

## 例

Month	Year	A	F	(A+F)/2	(A-F)/AVG	% RPD
		Actual	Forecast	Average	RPD	
April	2016	49458	44000	46729	0.11681	12%
May	2016	39905	46689	43297	-0.1567	-16%
June	2016	41088	50127	45607	-0.1982	-20%
July	2016	49708	52000	50854	-0.0451	-5%
August	2016	40103	48124	44113	-0.1818	-18%
September	2016	37886	44000	40943	-0.1493	-15%

## TOTD (合計偏差)

## 説明

これは、すべての期間にわたる合計偏差です。1つ目の系列の合計から2つ目の系列の合計を差し引いたものです。

## 式

$$\text{差異} = A - F$$

Fは予測(期待値または不明な結果)であり、Aは観測値(既知の結果)です。

## 例

Month	Year	Actual	Forecast	Diff
Jan	FY19	174,957	216,947	-41990
Feb	FY19	141,884	153,234	-11351
Mar	FY19	147,111	126,515	20596
Apr	FY19	97,549	89,745	7804
May	FY19	123,094	91,090	32004
Jun	FY19	137,830	124,047	13783
<b>Total Deviation</b>				<b>20846</b>

## TOTPD (合計パーセンテージ差異)

## 説明

これは、すべての期間にわたる合計偏差です。これは、1つ目の系列と2つ目の系列の間の合計パーセンテージ差異です。

**式**

$$\% \text{差異} = (\text{SUM}(A) - \text{SUM}(F)) / \text{SUM}(A)$$

F は予測(期待値または不明な結果)であり、A は観測値(既知の結果)です。

**例**

Month	Year	Actual	Forecast	Diff
Jan	FY19	174,957	216,947	-41990
Feb	FY19	141,884	153,234	-11351
Mar	FY19	147,111	126,515	20596
Apr	FY19	97,549	89,745	7804
May	FY19	123,094	91,090	32004
Jun	FY19	137,830	124,047	13783
		<b>822,425</b>	<b>801,579</b>	<b>2.6%</b>

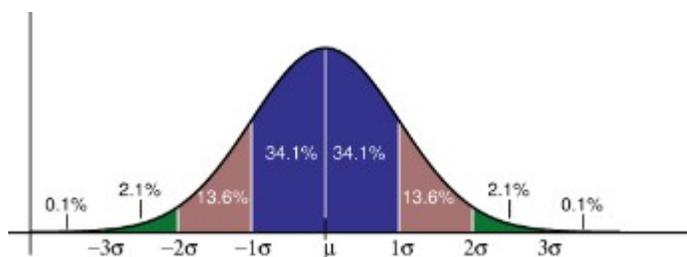
## Z スコア

**説明**

Z スコア(または標準スコア)は、ポイントのグループの平均および標準偏差との関係に関してデータ・ポイントを説明する手法です。Z スコアを取得するには、単に、平均が 0 として定義され、標準偏差が 1 として定義された分布にデータをマップします。

Z スコアを取得する目的は、データの場所とスケールの影響を取り除いて、様々なデータセットを直接比較できるようにすることです。外れ値検出の Z スコア手法の背後にある直感的な考え方は、データを中央に配置し、再スケールした後、ゼロから離れすぎているもの(しきい値は通常、Z スコア 3 または -3)を外れ値とみなすというものです。

データが正規分布(ベル型曲線)であると仮定すると、平均 + 3\*SD (標準偏差)によって観測値の 99.7%が取得されます。統計的には、この範囲外にある値は異常とみなされます。



## 影響の重大さのしきい値

### 説明

インサイトがインサイト・ダッシュボードに表示される場合は、「影響の重大さのしきい値」設定により、インサイトごとに計算された影響のパーセンテージまたは絶対値に基づいて、インサイトが「高」、「中」、「低」のグループに分類されます。これにより、プランナはより極端な差異を持つインサイトに注目できます。

- 低い値未満のものは「低」カテゴリに入ります。
- 高い値を超えるものは「高」カテゴリに入ります。
- 低い値から高い値までの間にあるものは「中」カテゴリに入ります。

たとえば、30%を「低」しきい値、60%を「高」しきい値として指定した場合、影響のパーセンテージが30%未満のインサイトは「低」カテゴリ、影響のパーセンテージが60%を超えるインサイトは「高」カテゴリに入ります。影響のパーセンテージが30%から60%までのインサイトは「中」カテゴリに入ります。